埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第440集

加　須　市

長 竹 遺 跡 Ⅱ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
（第１分冊）

２０１８

国土交通省　関東地方整備局
公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

1　南盛土出土土器（1）

2　南盛土出土土器（2）

1　南盛土出土土器（3）

2　南盛土出土土器（4）

序

埼玉県の北東部の県境を流れる利根川は、坂東太郎の異名を持つ日本最大級の河川です。その広大な流域には肥沃な農地が広がり、約1,300万人もの人々が暮らしています。

「刀祢河泊（とねかは）」として万葉集にも登場することからもわかるように、川と人との関わりは古く、交通路として、また、農業・生活・工業用水の供給源として、かぎりない恵みをもたらしてきました。

その一方、利根川は過去たびたび恐ろしい水害を引き起こしてきました。国土交通省ではこうした災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った加須市の長竹遺跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

長竹遺跡からは、縄文時代後晩期の人々が直径約190ｍのドーナツ状に土地を造成した環状盛土遺構が発見されました。そして、その盛土の中からは住居跡などの遺構とともに、膨大な遺物が発見されました。

特に、真っ赤な焼土が床面を覆った一辺10ｍを超える大型の住居跡や、多彩な副葬品を伴った集団墓地など、他に類を見ない貴重な成果を挙げることができました。

本書は、盛土の南側で発見された遺構の発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及･啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整にご尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、加須市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成３０年３月

公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　塩野谷孝志

例　言

1．本書は、加須市大字大越に所在する長竹遺跡（第１・３・４次調査）の発掘調査報告書である。

長竹遺跡の調査成果については以下のように巻を分け、順次報告する予定である。

・Ａ～Ｃ区古墳時代以降、Ｂ区南半～Ｃ区縄文時代（事業団報告書第413集長竹遺跡Ⅰとして刊行済み）
・Ａ区南半～Ｂ区北半縄文時代の遺構（長竹遺跡Ⅱ）（南盛土遺構編）
・Ａ区北半～Ｄ区縄文時代の遺構（長竹遺跡Ⅲ）（北盛土遺構編）
・Ｄ区古墳時代以降（以下続刊）
・Ａ区南半～Ｂ区北半縄文時代の遺物包含層（南盛土盛土編）
・Ａ区北半～Ｄ区縄文時代の遺物包含層（北盛土盛土編）

2．遺跡の代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は以下のとおりである。

第１次調査

埼玉県加須市大字大越字樋ノ口702－１他

平成22年４月23日付け　教生文第２－８号

第３次調査

埼玉県加須市大字大越字樋ノ口702－１他

平成24年４月20日付け　教生文第２－９号

第４次調査

埼玉県加須市大字大越字樋ノ口620－１他

平成25年５月24日付け　教生文第２－８号

3．発掘調査及び整理報告書作成事業については、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

委託事業の名称は下記のとおりである。

発掘調査事業

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須市）における平成22年度埋蔵文化財発掘調査」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須地区･羽生･久喜地区）における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」

「利根川上流河川改修事業における平成25年度埋蔵文化財発掘調査」

整理報告書作成事業

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生・久喜地区）における平成25年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成27年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成28年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成29年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

4．発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ－３に示した組織により実施した。

発掘調査は、第１次調査を平成22年５月１日から平成23年３月31日まで昼間孝志、富田和夫、岩瀬譲、黒坂禎二、吉田稔、大屋道則、大和田瞳が、第３次調査を平成24年４月６日から平成25年３月31日まで黒坂、山本靖、青木弘、大和田、高橋岳、髙屋敷飛鳥が、第４次調査を平成25年４月１日から平成25年10月31日まで吉田、山本、青木、村山卓、宗像義輝、西田真由子、魚水環が担当した。

整理報告書作成事業は、平成25年度から平成29年度まで実施した。平成25年度は６月１日から平成26年３月31日まで細田勝、黒坂が、平成

26年度は４月１日から平成27年３月31日まで、黒坂、松浦誠、中川莉沙が、平成27年度は４月９日から平成28年３月31日まで、黒坂、小茂田幹が、平成28年度は４月１日から平成29年３月31日まで吉田、渡辺清志、鈴木佑太郎が、平成29年度は４月1日から平成30年３月31日まで吉田、渡辺がそれぞれ担当した。

報告書は、平成30年３月22日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第440集として印刷・刊行した。

５．発掘調査における基準点測量は、第１次調査を有限会社ジオプランニング、第３次・第４次調査を中央航業株式会社に委託した。

６．空中写真撮影は中央航業株式会社に委託した。

７．遺物の巻頭写真は合資会社池澤に、縄文土器の展開写真は小川忠博氏に委託した。

８．発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は吉田、渡辺が行った。

９．出土品の整理･図版作成は、細田、黒坂、吉田、渡辺、矢部、松浦、中川、小茂田、鈴木が行った。

10. 本書の執筆は、Ⅰ－１を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、Ⅱ－１・２、Ⅲ、Ⅳを吉田、Ⅰ－２・３、Ⅱ－３、Ⅴ－１～３を渡辺、Ⅴ－４を尾田識好、Ⅵ－１・２を吉田、３～５を渡辺が行った。

11. 本書の編集は吉田、渡辺が行った。

12. 本書にかかる諸資料は、平成30年４月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。

13. 第277号土壙出土人骨の所見は国立科学博物館の梶ケ山真理氏、奈良文化財研究所の重原信生氏にいただいた。

14. 発掘調査、報告書刊行にあたり、加須市教育委員会をはじめ、阿部芳郎、江原英、猪瀬美奈子、小倉和重、上條信彦、笹森健一、設楽博己、鈴木徳雄、鈴木正博、高橋龍三郎、関係機関の皆様からご教示・ご協力を賜った。（敬称略）

凡　例

1．本書におけるＸ・Ｙの数値は、世界測地系、国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点：北緯　36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に示した方位は全て座標北を指す。

　調査区のＩ－７グリッド北西杭の座標は、Ｘ＝20790.000、Ｙ＝－19720.000。北緯36°11′13″8535、東経139°36′50″6844である。

2．本書使用の地形図は、以下を編集した。

　国土地理院発行地形図　1/50000

　加須市都市計画図　　1/2500

3．調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（１グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。

4．グリッドの名称は北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（Ａ・Ｂ・Ｃ…）、西から東方向に数字（１・２・３…）を付し、例えばＡ－１グリッド等と呼称した。

5．調査区は着手年次の関係上、北西より南東方向にＤ、Ａ、Ｂ、Ｃと地区割りしている。本書が扱う地区では縄文時代と古墳時代以降の文化層に間隙があり、それぞれ確認面が二面識別できた。その中で、縄文時代の環状盛土に関連する遺構と遺構出土遺物を取り扱う。

6．本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は以下のとおりである。

　ＳＪ…住居跡　　ＳＢ…掘立柱建物跡

　ＳＫ…土壙(墓)　　ＳＥ…井戸跡(中・近世)

　集中…遺物集中　　Ｐ……ピット・柱穴

7．本書に掲載した遺構番号は、原則として調査時のものを採用した。ただし変更したものは次頁に示した。また、グリッドピットについては改めて番号を付した。

8．本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。ただし、一部例外もあり、各図毎に縮尺を記した。

　全体図１：700　１：400

　遺構図１：60　　遺構拡大図１：30

　縄文土器１：４　土器拓影図１：３

　石器２：３　１：３　１：４　１：６

　土製品１：２　１：３　骨製品２：３

9．遺構断面図に表記した水準数値は、海抜標高（単位m）を表す。

10．遺構一覧表と遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・器高・口径・底径はcm単位である。

・（　）内の数値は推定値を示す。

・[　] 内の数値は残存値を示す。

11．遺物出土状況図における遺物の種別ごとの表記方法は以下のように使い分けている。

（例：123）

　土器復元資料：123

　土器破片資料：(123)

　土製品　　：土123

　石器　　：石123

　骨製品　　：骨123

12．第23・24表の項目のうち、

　径１は耳飾り側縁の装着部の最大径、

　径２は耳飾り側縁の装着部の最小径を指す。

遺構名等変更一覧表

新	旧	備考
SJ40	SJ36	
SJ41	SJ41、遺物集中14	
SJ46	SJ46の一部	
	SJ52	欠番
	SJ53	欠番
	SJ54	欠番
SJ55の炉跡	SJ61の炉跡1	
SJ56	SJ46の一部	
SJ57	SJ46の一部	
SJ59	SJ54・59	
SJ64	SK322	
	SK274	欠番
	SK275	欠番
	SK276	欠番
	SK278	欠番
	SK279	欠番
	SK284	欠番
	SK286	欠番
SK287	SK287、遺物集中8	
	SK302	欠番
SK318	SJ53炉跡	
	SK322	欠番
SK327	SJ43炉跡11	
SK331	遺物集中17	
SB2	SK282の一部、SK286、G-6P86・91	
SB3	SK284、G-6P65・83・96	
SB4	G-6P1・88・92	

新	旧	備考
第1号埋甕	J-6№50	
第2号埋甕	J-6№46	
第3号埋甕	SJ55P21	
第3号柱穴列	J-8P5～15、K-7P2～7、K-8P1～4・27・31	
第4号柱穴列	G-5P64～66・79～81・88・91・92・95・98・103・105・107・108・110・120・122～124・133、H-5P1～3・8・13・37・48・50・66・69・71・82・98	
第5号柱穴列	G-5P9・19・50・73、G-6P43・44・48、H-5P3・14・37・38・40・73	
	遺物集中8	欠番
	遺物集中11	欠番
遺物集中12	遺物集中11・12	
	遺物集中13	欠番
	遺物集中14	欠番
	遺物集中15	欠番
遺物集中16	SK331	
	遺物集中17	欠番
遺物集中18	SK275	
遺物集中19	SK279	
	焼土跡4	欠番
	焼土跡6	欠番
焼土跡18	焼土跡18・21	
焼土跡21	SJ57焼土	
焼土跡22	焼土跡30	
粘土塊3	焼土跡4	

目　次

（第１分冊）

巻頭図版
序
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1．発掘調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過…… 2
　　（1）発掘調査 …… 2
　　（2）整理・報告書の作成 …… 3
　3．発掘調査・報告書作成の組織…… 5
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 7
　1．地理的環境…… 7
　2．歴史的環境…… 9
　3．環状盛土・環状貝塚を伴う
　　縄文後期～晩期の遺跡分布 …… 15
Ⅲ　遺跡の概要…… 21
Ⅳ　南盛土の遺構…… 37
　1．住居跡…… 37
　2．土壙墓・土壙 …… 193
　3．遺物集中…… 216
　4．埋甕 …… 222
　5．掘立柱建物跡 …… 224
　6．柱穴列…… 228
　7．焼土跡・粘土塊 …… 233
　8．グリッドピット …… 243

（第２分冊）

Ⅴ　南盛土の遺物…… 267
　1．土器 …… 267
　　（1）住居跡出土土器 …… 267
　　（2）土壙出土土器 …… 419
　　（3）遺物集中出土土器 …… 438
　　（4）埋甕出土土器 …… 446
　　（5）掘立柱建物跡出土土器…… 448
　　（6）柱穴列出土土器 …… 450
　　（7）焼土跡出土土器 …… 452
　　（8）粘土塊出土土器 …… 462
　　（9）グリッドピット出土土器…… 463
　2．土製品 …… 480
　　（1）住居跡出土土製品 …… 480
　　（2）土壙出土土製品 …… 522
　　（3）遺物集中出土土製品 …… 524
　　（4）掘立柱建物跡出土土製品…… 525
　　（5）柱穴列出土土製品 …… 525
　　（6）焼土跡出土土製品 …… 526
　　（7）グリッドピット出土土製品…… 527
　3．石器 …… 531
　4．骨製品 …… 580
Ⅵ　調査のまとめ…… 584

（第３分冊）

写真図版

付図

挿図目次

（第１分冊）

第１図　埼玉県の地形図 …… 7
第２図　周辺の遺跡…… 10
第３図　環状盛土・
　　環状貝塚関連遺跡分布図…… 16
第４図　遺跡位置図…… 23
第５図　長竹遺跡盛土等高線図 …… 24
第６図　長竹遺跡南盛土等高線図 …… 25
第７図　長竹遺跡盛土全体図 …… 26
第８図　長竹遺跡南盛土全体図 …… 27
第９図　長竹遺跡南盛土分割図 …… 28
第10図　長竹遺跡南盛土分割図（１）…… 29
第11図　長竹遺跡南盛土分割図（２）…… 30
第12図　長竹遺跡南盛土分割図（３）…… 31
第13図　長竹遺跡南盛土分割図（４）…… 32
第14図　長竹遺跡南盛土分割図（５）…… 33
第15図　南盛土基本土層（１）…… 34
第16図　南盛土基本土層（２）…… 35
第17図　南盛土基本土層（３）…… 36
第18図　第14号住居跡…… 60
第19図　第37号住居跡（１）…… 61
第20図　第37号住居跡（２）…… 62
第21図　第37号住居跡（３）…… 63
第22図　第37号住居跡（４）…… 64
第23図　第37号住居跡（５）・
　　遺物出土状況 …… 65
第24図　第38号住居跡…… 66
第25図　第38号住居跡遺物出土状況 …… 67
第26図　第39号住居跡…… 68
第27図　第40号住居跡（１）…… 69
第28図　第40号住居跡（２）…… 70
第29図　第40号住居跡（３）…… 71
第30図　第40号住居跡（４）…… 72
第31図　第40号住居跡（５）…… 73
第32図　第40号住居跡（６）…… 74
第33図　第40号住居跡（７）…… 75
第34図　第40号住居跡（８）…… 76
第35図　第40号住居跡（９）・
　　遺物出土状況（１）…… 77
第36図　第40号住居跡
　　遺物出土状況（２）…… 78
第37図　第40号住居跡
　　遺物出土状況（３）…… 79
第38図　第40号住居跡
　　遺物出土状況（４）…… 80
第39図　第41号住居跡（１）…… 81
第40図　第41号住居跡（２）…… 82
第41図　第42号住居跡…… 82
第42図　第43号住居跡（１）……83・84
第43図　第43号住居跡（２）……85・86
第44図　第43号住居跡（３）……87・88
第45図　第43号住居跡（４）……89・90
第46図　第43号住居跡（５）…… 91
第47図　第43号住居跡（６）…… 92
第48図　第43号住居跡（７）…… 93
第49図　第43号住居跡（８）…… 94
第50図　第43号住居跡（９）…… 95
第51図　第43号住居跡（10）…… 96
第52図　第43号住居跡（11）…… 97
第53図　第43号住居跡（12）…… 98
第54図　第43a号住居跡（１）……99・100
第55図　第43a号住居跡（２）……101
第56図　第43a号住居跡（３）……102
第57図　第43a号住居跡（４）……103
第58図　第43a号住居跡（５）……104
第59図　第43b号住居跡（１）……105・106
第60図　第43b号住居跡（２）……107・108
第61図　第43b号住居跡（３）……109
第62図　第43b号住居跡（４）……110

第63図　第43b号住居跡（5）……111
第64図　第43b号住居跡（6）……112
第65図　第43b号住居跡（7）……113
第66図　第43b号住居跡（8）……114
第67図　第43c号住居跡（1）……115・116
第68図　第43c号住居跡（2）……117・118
第69図　第43c号住居跡（3）……119
第70図　第43c号住居跡（4）……120
第71図　第43c号住居跡（5）……121
第72図　第43c号住居跡（6）……122
第73図　第43c号住居跡（7）……123
第74図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（1）－1 ……124
第75図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（1）－2 ……125
第76図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（2）－1 ……126
第77図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（2）－2 ……127
第78図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（3）……128
第79図　第43号住居跡
　　遺物出土状況（4）……129
第80図　第44a号住居跡（1）……130
第81図　第44a号住居跡（2）……131
第82図　第44a号住居跡（3）……132
第83図　第44a号住居跡（4）……133
第84図　第44a号住居跡（5）……134
第85図　第44a号住居跡遺物出土状況……135
第86図　第44b号住居跡（1）……136
第87図　第44b号住居跡（2）……137
第88図　第44b号住居跡（3）……138
第89図　第44b号住居跡（4）……139
第90図　第44b号住居跡（5）……140
第91図　第44b号住居跡（6）……141
第92図　第44b号住居跡（7）……142
第93図　第44c号住居跡……143
第94図　第45号住居跡（1）……144
第95図　第45号住居跡（2）……145
第96図　第45号住居跡（3）……146
第97図　第45号住居跡遺物出土状況……147
第98図　第46号住居跡・遺物出土状況……148
第99図　第47a号住居跡（1）……149
第100図　第47a号住居跡（2）……150
第101図　第47b号住居跡（1）……151
第102図　第47b号住居跡（2）……152
第103図　第47b号住居跡（3）……153
第104図　第47b号住居跡（4）・
　　遺物出土状況 ……154
第105図　第48号住居跡（1）……155
第106図　第48号住居跡（2）……156
第107図　第48号住居跡（3）……157
第108図　第49号住居跡（1）……158
第109図　第49号住居跡（2）……159
第110図　第49号住居跡（3）……160
第111図　第48・49号住居跡遺物出土状況……160
第112図　第50号住居跡（1）……161
第113図　第50号住居跡（2）……162
第114図　第50号住居跡（3）……163
第115図　第50号住居跡（4）……164
第116図　第50号住居跡（5）……165
第117図　第51号住居跡……166
第118図　第55号住居跡（1）……167
第119図　第55号住居跡（2）……168
第120図　第55号住居跡（3）……169
第121図　第55号住居跡（4）……170
第122図　第61号住居跡（1）……170
第123図　第61号住居跡（2）……171
第124図　第61号住居跡（3）・
　　遺物出土状況 ……172
第125図　第56号住居跡……173
第126図　第56号住居跡遺物出土状況……174
第127図　第57号住居跡……174
第128図　第58号住居跡（1）……175

第129図　第58号住居跡（２）……176
第130図　第59a号住居跡（１）……176
第131図　第59a号住居跡（２）……177
第132図　第59a号住居跡（３）……178
第133図　第59b号住居跡（１）……179
第134図　第59b号住居跡（２）……180
第135図　第60号住居跡（１）……181
第136図　第60号住居跡（２）……182
第137図　第62号住居跡（１）……183
第138図　第62号住居跡（２）……184
第139図　第63号住居跡（１）……185
第140図　第63号住居跡（２）・
　　遺物出土状況 ……186
第141図　第64号住居跡・遺物出土状況……187
第142図　第65号住居跡……188
第143図　第66号住居跡（１）……189
第144図　第66号住居跡（２）……190
第145図　第67号住居跡（１）……191
第146図　第67号住居跡（２）……192
第147図　土壙（１）……204
第148図　土壙（２）……205
第149図　土壙（３）……206
第150図　土壙（４）……207
第151図　土壙（５）……208
第152図　土壙（６）……209
第153図　土壙（７）……210
第154図　土壙（８）……211
第155図　土壙（９）……212
第156図　土壙（10）……213
第157図　遺物集中・焼土跡 ……217
第158図　遺物集中（１）……218
第159図　遺物集中（２）……219
第160図　遺物集中（３）……220
第161図　遺物集中（４）……221
第162図　第１・２・３号埋甕 ……223
第163図　第２号掘立柱建物跡 ……225
第164図　第３号掘立柱建物跡 ……226
第165図　第４号掘立柱建物跡 ……227
第166図　第３号柱穴列 ……228
第167図　第４号柱穴列（１）……229
第168図　第４号柱穴列（２）……230
第169図　第５号柱穴列 ……231
第170図　焼土跡（１）……238
第171図　焼土跡（２）……239
第172図　焼土跡（３）……240
第173図　焼土跡（４）……241
第174図　焼土跡（５）……242
第175図　粘土塊……243
第176図　南盛土西壁基本土層 ……245
第177図　南盛土グリッドピット全体図……246
第178図　南盛土グリッドピット分割図……247
第179図　グリッドピット分布図（１）－１…248
第180図　グリッドピット分布図（１）－２…249
第181図　グリッドピット分布図（２）－１…250
第182図　グリッドピット分布図（２）－２…251
第183図　グリッドピット分布図（３）－１…252
第184図　グリッドピット分布図（３）－２…253
第185図　グリッドピット分布図（４）－１…254
第186図　グリッドピット分布図（４）－２…255
第187図　グリッドピット（１）……256
第188図　グリッドピット（２）……257
第189図　グリッドピット（３）……258
第190図　グリッドピット（４）……259

表目次

（第１分冊）

第１表　周辺の遺跡一覧 …… 11
第２表　環状盛土・環状貝塚関連遺跡一覧 … 17
第３表　土壙墓一覧表 …… 214
第４表　土壙一覧表（１）…… 214
第５表　土壙一覧表（２）…… 215
第６表　掘立柱建物跡柱穴計測表 …… 227
第７表　柱穴列柱穴計測表 …… 232
第８表　グリッドピット一覧表(１）…… 260
第９表　グリッドピット一覧表(２）…… 261
第10表　グリッドピット一覧表(３）…… 262
第11表　グリッドピット一覧表(４）…… 263
第12表　グリッドピット一覧表(５）…… 264
第13表　グリッドピット一覧表(６）…… 265
第14表　グリッドピット一覧表(７）…… 266

写真図版目次

（第１分冊）

巻頭図版１　１　南盛土出土土器（１）
　　２　南盛土出土土器（２）
巻頭図版２　１　南盛土出土土器（３）
　　２　南盛土出土土器（４）

Ⅰ　発掘調査の概要

１．発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取り扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年１月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて照会がなされた。

事業予定区域内には埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年３月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所はこの回答の時点では周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、平成18年秋に事業予定地すべての現地踏査を行い、さらには明治時代の地形図等と照合し、確認調査の必要箇所の絞り込みを行った。

当該箇所については平成21年５月後半から６月にかけて確認調査を実施した。その結果、縄文時代・平安時代を中心とした遺構・遺物が確認され、この箇所は長竹遺跡（№69-038）として平成21年６月16日に遺跡台帳に登載された。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成21年６月24日付け教生文第623-1号で工事計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査の実施が必要な旨を回答し、取り扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

本遺跡は、膨大な遺構・遺物が検出されたことから、計５か年の調査を実施したが、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（平成23年度までは財団法人）と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

なお、平成24年６月、従来の遺跡範囲外について確認調査が可能となったため、これを実施し、遺跡が北西に延伸していることが確認され、平成24年６月13日付けで長竹遺跡の範囲拡大の変更増補を行った。この箇所は平成25・26年度（第５・６次）に発掘調査を実施した。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から提出されそれに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は下記のとおりである。

平成22年１月９日付け教生文第4－1001号
平成23年３月18日付け教生文第4－1404号
平成24年２月16日付け教生文第4－1336号

また同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

１次調査 平成22年4月23日付け教生文第2－8号
３次調査 平成24年4月20日付け教生文第2－9号
４次調査 平成25年5月24日付け教生文第2－8号
（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

２．発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

本書に係る長竹遺跡の発掘調査は、平成22年度（第１次）・平成24年度（第３次）・平成25年度（第４次）に実施した。調査対象面積は13,457.82㎡である。

平成22年度（第１次調査）

長竹遺跡第１次の発掘調査は、平成22年5月1日から平成23年３月31日まで実施した。調査対象はＡ区第一面の南半・Ｂ区第一、二面で、調査面積は3,289㎡であった。

5月中旬に調査区の保護と安全確保のため、囲柵工事を行い、発掘事務所を設置した。

６月上旬から重機による表土除去をＢ区で開始した。その後､人力による遺構確認作業に着手し、遺構精査を実施した。

6月中旬に基準点測量を業者に委託し、基準杭を打設した。これを基に断面図・平面図等を作成し、写真撮影を行った。

８月中旬に重機により第一面をさらに掘削し、遺構確認・精査を行った。

９月中旬にＢ区第一面の遺構精査・記録類の作成を終了し、空中写真撮影を行った。

10月中旬には重機による表土除去をＡ区で開始し、人力による遺構確認・精査を実施した。下旬に基準杭を打設した。

11月上旬にはＢ区第二面の調査のため、重機による上層土の除去を行った。盛土調査の対象面積は50㎡であった。

12月上旬に基準杭を打設した。Ｂ区全面に広がる遺物包含層を全面的に掘り下げたことから、２月上旬に再度基準点を打設した。その後、遺構確認・精査を行った。

２月下旬に調査をほぼ終了し、空中写真撮影を行った。

3月上旬までに遺構精査・記録作業を終了し、Ｂ区の埋戻しを行った。３月31日にすべての作業を終了した。

平成24年度（第3次調査）

長竹遺跡第３次の発掘調査は、平成24年４月６日から平成25年３月31日まで実施した。調査対象はA区第二面、調査面積は3,161㎡であった。

調査は、４月から９月まで北盛土を、10月から翌年３月までは南盛土を中心に行った。

４月中旬に重機で表層土の除去を行い、第二面の遺構検出面を露出した。その後、人力による遺物包含層の掘削を行い、適宜遺構確認作業を実施し、遺構精査を行った。

５月の上旬には北盛土の基準点測量を実施した。これを基に遺構実測と遺物の取り上げを行い、写真撮影を行った。

遺物包含層の掘削に伴い、一部の基準杭を抜去したため、７月下旬に補足的な基準点測量を行った。

９月の上旬には空中写真撮影を行い、下旬には北盛土の調査を終了した。

10月上旬に南盛土の基準点測量を実施し、その後遺物包含層の掘削と遺構調査に着手した。

１月の中旬には、それまでC区の南に置いていた調査事務所をD区の北側に移設した。下旬には旧事務所および調査終了部分の囲柵を撤去した。

調査の進捗に伴い、補足的な基準点測量を１月中旬に行った。

３月下旬には発掘器材および図面・遺物を引き上げ、発掘調査事務所を閉鎖して年度内の作業を終了した。

平成25年度（第４次調査）

長竹遺跡第４次の発掘調査は、当初平成25年４月１日から９月30日まで行う予定であったが、遺構・遺物が膨大に出土したため、10月31日まで延長して実施した。調査対象は、Ａ区にＤ区北盛土を含め、調査面積7,007.82㎡であった。このうちＡ区南盛土の調査面積は2,011㎡であった。

４月上旬に発掘調査事務所を再開し、器材と図面の搬入を行った。また、調査規模の拡大に伴って、４月の中旬には調査事務所を増設した。

４月上旬から人力による遺物包含層の掘削と遺構精査を再開した。検出した遺構は順次断面図・平面図を作成し、遺物を取り上げて、写真撮影を行った。

なお、これらの作業に並行して、11月から予定しているＤ区第一面（第５次）の発掘調査の準備作業を行った。

遺物包含層の掘削に伴い一部の基準杭を抜去したため、５月の下旬に補足的な基準点測量を実施した。

遺構調査の進捗に伴って、８月の上旬には空中写真撮影を行った。

９月末には増設分の調査事務所を撤去した。

その後、10月末までにすべての遺構・遺物の記録作業を終了し、Ａ区の発掘調査を終了した。

（２）整理・報告書の作成

本書に係る長竹遺跡の整理･報告書作成作業は、平成25～29年度に実施した。

平成25年度

平成25年６月１日から平成26年３月31日まで実施した。

長竹遺跡南盛土からは27リットル入りコンテナ1616箱分の遺物が出土した。６月上旬からこれらの遺物の水洗・注記作業を行い、３月末までに650箱分を終了した。

10月上旬から遺構原図の修正と照合を行い、第二原図を作成した。

完成した第二原図は11月下旬からスキャナーでパソコンに取り込み、描画ソフトを使用してトレースし、キャプションや土層注記をレイアウトして、印刷用の版下を作成した。

遺物の接合・復元は翌年度から開始する予定であったが、接合の必要のない遺物については２月上旬から実測作業を行った。この際、３スペース、オルソイメージャー等の遺物実測支援システムを活用して効率化をはかった。

平成26年度

平成26年４月１日から平成27年３月31日まで実施した。

４月上旬から遺物の水洗注記作業を再開した。３月末までに966箱分を終了し、南盛土から出土した全ての遺物の水洗・注記が完了した。

10月から遺物の接合復元作業に着手した。これと並行して、報告書に掲載する遺物の抽出作業を行った。

12月からは抽出した遺物の実測を開始した。

10月から平面図と断面図を照合して第二原図を作成した。

完成した第二原図は12月からスキャナーでパソコンに取り込んだ。

その後、描画ソフトを用いて遺構ごとにトレースし、キャプションや土層注記をレイアウトして、印刷用の版下を完成させた。

平成27年度

平成27年４月９日から平成28年３月31日まで実施した。

４月上旬から遺物の接合作業を再開し、10月末までに接合作業を終了した。接合した遺物は順次石膏復元を行い、３月末までに８割程度を終了した。

復元した遺物は３スペース、オルソイメー

ジャー等の遺物実測支援システムを使用して素図を作成し、これをもとに遺物の実測図を作成した。

完成した実測図はトレースして、スキャナーでパソコンに取り込み、遺物版下図の作成に備えた。

また、これと並行して抽出した土器片の拓本を採取し、断面実測を行った。断面実測図は順次トレースを行った。完成した拓本・断面トレースはやはりスキャナーでパソコンに取り込んだ。

遺構図については昨年度に引き続き第二原図の作成と電子トレースを行い、印刷用の遺構版下図を作成していった。

平成28年度

平成28年４月１日から平成29年３月31日まで実施した。

４月上旬から前年度に引き続き各種の作業を再開した。

遺物の復元作業は７月までに終了した。

復元した遺物は３スペース、オルソイメージャー等の遺物実測支援システムを使用して素図を作成し、これをもとに遺物の実測図を作成した。遺物の実測は12月までに終了した。

完成した実測図はトレースして、スキャナーでパソコンに取り込んだ。

また、これと並行して抽出した土器片の拓本を採取し、断面実測を行った。

断面実測図は順次トレースを行った。完成した拓本・断面トレースはやはりスキャナーでパソコンに取り込んだ。

その後、画像処理ソフトでごみ取りを行い、遺物図版の作成に備えた。

遺構図については昨年度に引き続き第二原図の作成と電子トレースを行い、印刷用の遺構版下図を作成していった。

遺物・遺構ともに計測して観察表を作成し、原稿執筆に備えた。

12月には巻頭写真および縄文土器展開写真の委託撮影を実施した。

３月末には年度内に予定していた作業を終了した。

平成29年度

平成29年４月１日から平成30年３月31日まで実施した。

４月上旬から前年度に引き続き各種の作業を再開した。

４月中旬から文字原稿の執筆を開始した。

５月末には遺物のトレースおよび拓本の採取、それらのスキャニングをすべて終了した。６月の上旬からはそれらの画像を描画ソフト上でレイアウトしてキャプションやスケールを貼り込み、遺物版下図を作成していった。

６月上旬から遺物の写真撮影を開始した。遺物の量が膨大であったため、数度に分けて実施した。

８月下旬、遺物図版および遺構図版の印刷用の版下がほぼ完成した。その後、10月下旬まで修正作業を行った。

９月下旬には写真図版が完成した。

11月中旬にすべての文字原稿と版下が完成し、印刷業者に入稿した。その後３回の校正を経て、平成30年３月22日に報告書を刊行した。図面や写真等の記録類や遺物は３月末に整理･分類のうえ、埼玉県文化財収納施設の収蔵庫に仮収納した。

３．発掘調査・報告書作成の組織

平成 22 年度（発掘調査）

理事長	藤野龍宏	調査部副部長	昼間孝志
常務理事兼総務部長	萩元信隆	主幹兼調査第一課長	富田和夫
総務部		主査	岩瀬譲
総務部副部長	金子直行	主査	黒坂禎二
総務課長	田中雅人	主査	吉田稔
調査部		主査	大屋道則
調査部長	小野美代子	主事	大和田瞳

平成 24 年度（発掘調査）

理事長	中村英樹	調査部副部長	劒持和夫
常務理事兼総務部長	根本勝	調査第二課長	黒坂禎二
総務部		主査	山本靖
総務部副部長	富田和夫	主事	青木弘
総務課長	矢島将和	主事	大和田瞳
調査部		主事	高橋岳
調査部長	昼間孝志	主事	髙屋敷飛鳥

平成 25 年度（発掘調査）

理事長	中村英樹	調査監兼調査第一課長	細田勝
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	主査	吉田稔
総務部		主査	山本靖
総務部副部長	富田和夫	主事	青木弘
総務課長	藤倉英明	主事	村山卓
調査部		主事	宗像義輝
調査部長	昼間孝志	主事	西田真由子
調査部副部長	劒持和夫	主事	魚水環

平成 25 年度（報告書作成）

理事長	中村英樹	**調査部**	
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	調査部長	昼間孝志
総務部		調査部副部長	劒持和夫
総務部副部長	富田和夫	調査監兼調査第一課長	細田勝
総務課長	藤倉英明	主幹兼整理第一課長	黒坂禎二

平成 26 年度（報告書作成）

理事長	樋田明男
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎
総務部	
総務部副部長	瀧瀬芳之
総務課長	藤倉英明

調査部	
調査部長	昼間孝志
調査部副部長	富田和夫
調査監	細田勝
調査監兼整理第一課長	黒坂禎二
主事	松浦誠
主事	中川莉沙

平成 27 年度（報告書作成）

理事長	樋田明男
常務理事兼総務部長	木村博昭
総務部	
総務部副部長	瀧瀬芳之
総務課長	安田孝之

調査部	
調査部長	金子直行
調査部副部長	細田勝
調査監兼整理第一課長	黒坂禎二
主事	小茂田幹

平成 28 年度（報告書作成）

理事長	塩野谷孝志
常務理事兼総務部長	木村博昭
総務部	
総務部副部長	黒坂禎二
総務課長	曽川浩二

調査部	
調査部長	金子直行
調査部副部長	細田勝
主幹兼整理第一課長	吉田稔
主査	渡辺清志
主事	鈴木佑太郎

平成 29 年度（報告書作成）

理事長	塩野谷孝志
常務理事兼総務部長	川目晴久
総務部	
総務部副部長	黒坂禎二
総務課長	曽川浩二

調査部	
調査部長	赤熊浩一
調査部副部長兼調査第二課長	吉田稔
主査	渡辺清志

Ⅱ　遺跡の立地と環境

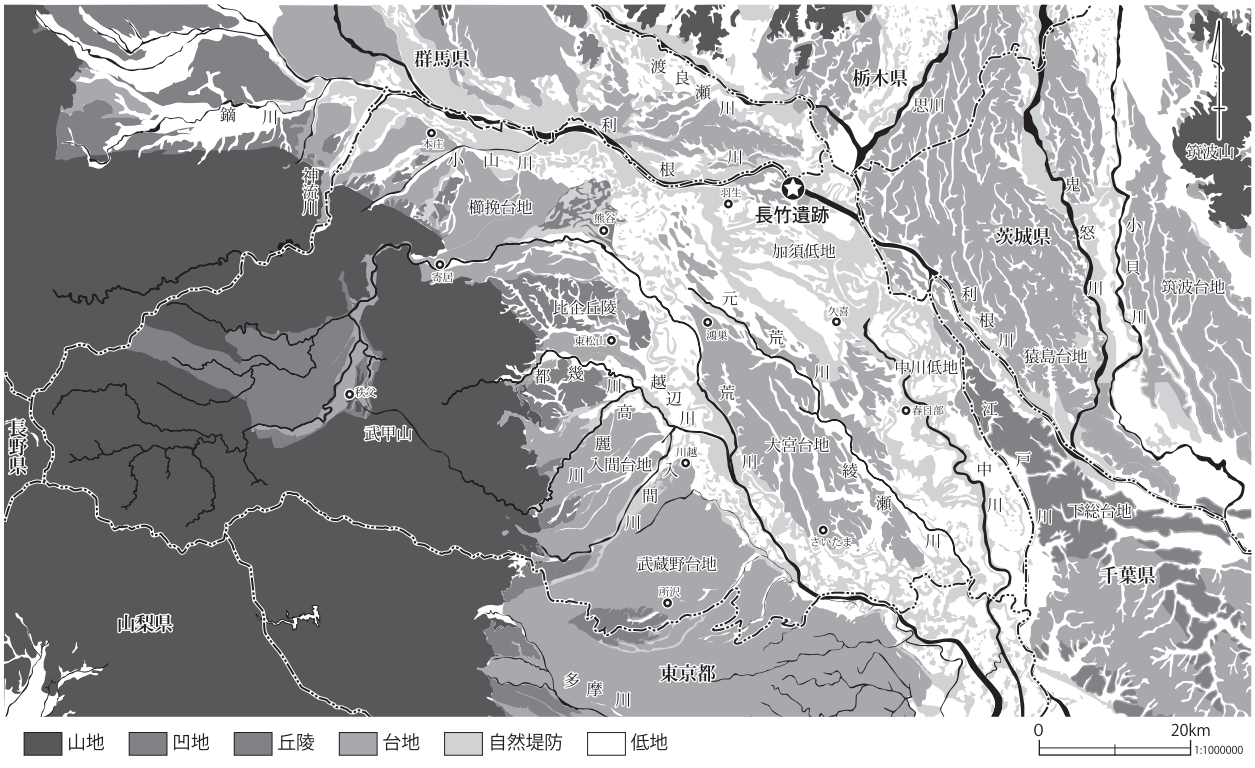
1．地理的環境

長竹遺跡は埼玉県の北東部に位置し、東武伊勢崎線加須駅から７㎞北方の加須市大越に所在する。遺跡の脇には利根川が東流し、二階屋をも遙かに見下ろす堤防に立てば、大河の川面とともに関東を縁取る八国の山並みや、屋敷林が点在する右岸の田園風景を見渡すことができる。

現在、遺跡周辺の地形分類は加須低地とされている。県土中の河川面積が日本一である埼玉県では、他にも東部に妻沼・荒川・中川の三低地が広がっている。この三低地は更新世の渡良瀬･利根･荒川などによる開析谷が埋積した低地である。これに対し加須低地は基盤の台地を氾濫土が覆った、いわば見かけの低地といえる。

そもそも加須市を含む旧北埼玉郡域の大半は、川口市北部から群馬県東毛地域へと連なる大宮・館林台地の一部であった。しかし、現在の東京湾岸から中川低地に沿うようにして「関東造盆地運動」が進行し利根川が流れを東に変えた結果、この一帯に氾濫土が被覆し、河畔砂丘や自然堤防が点在する現況へと変化したとされる。羽生・加須の市境付近では、埋没台地が地表下４ｍで見つかることもあり、羽生市内に所在する小松１号墳は地下３ｍのローム面に構築された埋没古墳として有名である。

この利根川の移動時期と具体的な流路については未だ定見を見ないが、旧利根川流路変遷に伴う活発な氾濫・堆積作用を繰り返した痕跡が、加須市志多見・道目や羽生市砂山など行田・加須・羽生地域で河畔砂丘として現在でも起伏のある地形を残している。これらの河畔砂丘の連なりから、今は羽生市川俣で利根川と分かれ加須市街地を東西に横切る会の川が古代までの本流筋とするのが



第１図　埼玉県の地形図

大勢である。降って徳川幕府による利根川の東遷事業直前（17世紀初頭）には遺跡の下流約２kmから南に逸れる浅間川が本流筋であった。ただし、両川の締め切り年代（会の川1594年、浅間川1621年）からすれば、この段階の両川は一定の川幅で並流していたと解せる。

周辺の水系を詳しく見ると、現在の利根大堰を要に沈降幅の大きい東南東へと流下する多くの分流が小さなデルタを形成していることがわかる。これらの周辺には大小の自然堤防が形成され、さらに氾濫で刻まれた新たな流れがそれを浸食・分断し、地形を一層複雑に見せている。

利根川に沿う長竹遺跡の調査区で最も下流側にあたるＣ区は、その南東端で急激に台地が落ちる。今回の調査は利根川右岸の堤防拡幅によるが、これに先立ち羽生市村君から久喜市栗橋までの約13kmにわたって埋蔵文化財の所在確認調査が行われている。その結果によると、村君地区より断続的に確認できたローム台地は長竹遺跡を最後に途切れ、より下流側では確認されていない。

一方、長竹遺跡の対岸となる加須市北川辺地区の北を縁取る合の川は、中川低地を開析した渡良瀬川の蛇行跡を利根川が逆流したとされる。このことから、埋没台地の東端にあたる長竹遺跡は、開析谷由来の中川低地と埋没台地を覆う加須低地の境に立地するということになる。

1947年のカスリーン台風では遺跡より下流約６kmの右岸堤防が決壊し、その濁流に行く手を阻まれた水流が行田市北部にまであふれる中、小高い大越地区は冠水を免れた。この惨禍を経験した方の話によると、豪雨の中、堤防下を伝う漏水が決壊を招かぬよう地区の住民が補強に力を注いだのは、遺跡から100mほど下流の堤防だったという。この地に根ざした長い営みは、すでに加須・中川低地の不整合を見抜いていたのである。

現利根川左岸の群馬県館林地域では、赤城山南麓に展開する大間々扇状地を回り込み東流する利根川支流の谷田側に沿い、館林-邑楽台地が広がっている。これらの台地は、関東造盆地運動や利根川による氾濫堆積の影響を大きく受けず旧地形をよくとどめている。

一方、長竹遺跡の下流側は、渡良瀬川の広大な氾濫原となり、多くの輪中やデルタが形成されている。埼玉県側にある加須市北川辺地区は、渡良瀬川と現利根川に挟まれた大きな輪中地帯となり、その北隣には、足尾鉱毒事件で有名な渡良瀬遊水池が広がる。渡良瀬遊水池西側には栃木県となり藤岡台地が帯状に繋がる。また、遊水池東側に沿い南流する思川左岸の栃木県野木町や茨城県古河市には、猿島台地が広がる。

このように今日の長竹遺跡の地形は、足尾山系に端を発し渡良瀬川を始めとする南流した河川によって開析された台地を起点とする。これに、東京湾岸から中川低地帯に沿うように進行した関東造盆地運動による地盤沈降と、新規荒川扇状地の東方への拡大作用に伴い利根川の流路を東側へ変遷させ、沈降部への流入を加速させるようにして氾濫堆積を繰り返した結果、現在の複雑な地形を形成したものと考えられる。

２．歴史的環境

旧石器時代

長竹遺跡を中心とする加須・羽生地域では、遺跡確認の深度が深く複雑な地形環境にあるため、古代以前の周知遺跡は極めて少ない。旧石器の遺跡は埋没台地が表層近くで検出されている久喜市（旧騎西町）萩原遺跡（78）や中郷遺跡（76）などで細石刃石器群や北方系の削片が発見され、道上遺跡(117)では荒屋型彫刻器が発見されている。

また、羽生市街にある大道遺跡でもローム台地が残り、当該期の剥片類が発見されている。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、加須市内でも埋没度が少ない樋遣川地区の下樋遣川遺跡（110)、加須市街周辺の大桑本田遺跡（112)、南篠崎南遺跡（113)、宮前遺跡（114)、久下遺跡（115)、六十軒東遺跡(116）などがある。いずれも縄文時代中期を主体とする遺跡であるが、六十軒東遺跡のように前期から晩期までの長期間に及ぶ遺物が発見された遺跡もある。

長竹遺跡の西側に隣接する樋ノ口遺跡（３）では早期炉穴が検出された。

周辺部では、加須市南部に隣接する久喜市騎西地区に多くの遺跡が分布し、早期では、修理山遺跡(77)で炉穴が検出され､道上遺跡､前遺跡(119)、小沼耕地遺跡では撚糸文系土器が出土している。前期では小沼耕地遺跡で数少ない花積下層式期の竪穴状遺構が検出された他、萩原遺跡で諸磯式土器が発見されている。中期以降は、遺跡数が増加し、修理山遺跡や萩原遺跡、道上遺跡、前遺跡などで集落跡として検出されるとともに、中宿遺跡では柄鏡形住居跡が検出されている。また、これらの遺跡は後・晩期に至るまで営まれている。

加須市の西に隣接し、長竹遺跡の約２㎞上流の羽生市屋敷裏遺跡（２）では、同じ堤防関連の調査で中・後期の小集落跡が発見されている。さらに、３㎞ほど上流側の発戸遺跡（52）では、土取工事で出土した完形の土面をはじめ多量の後・晩期遺物が発見された。遺跡の西限を画す現道は、中心と目される神社を囲み半円を描く。かつて地表にあった環状盛土遺構を避けて道筋が定まったのだろう。この他、大道遺跡では後・晩期遺物が発見され、南西約６㎞に所在する羽生市町屋本村遺跡（71）でも、調整池掘削の際に多量の後・晩期遺物が発見されている。

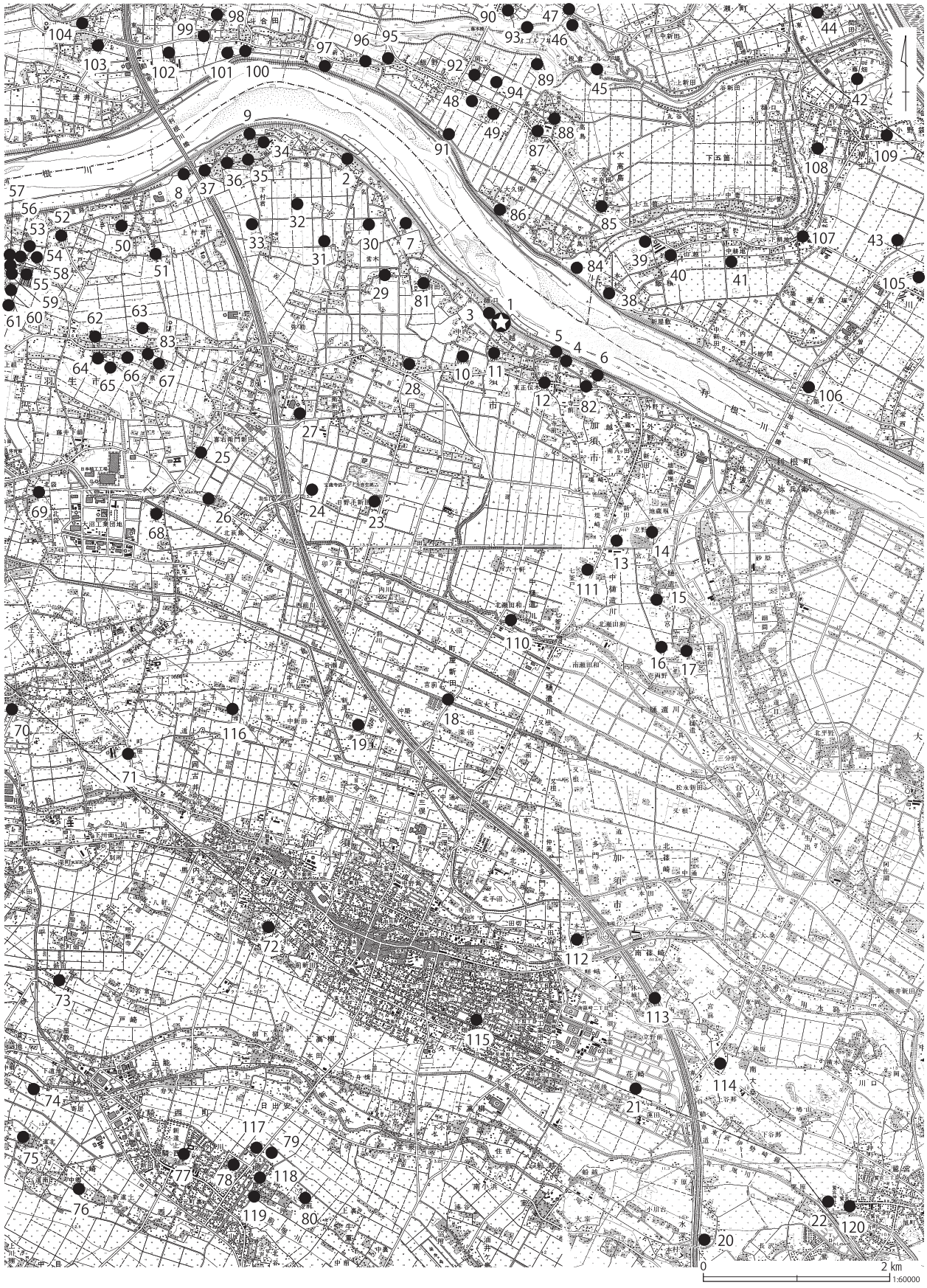
利根川対岸では、板倉町内に遺跡が数多く分布している。特に早期の小保呂第１貝塚（45)、小保呂第２貝塚（46）では、早期の条痕文系土器を伴う炉穴と地点貝層が発見された。貝層はヤマトシジミを主体とし、ハイガイ・マガキを含んでいる。これらの貝塚は縄文海進に伴い、奥東京湾が茨城県古河市付近まで及んだ際に形成された最奥部の貝塚の一つとして有名である。なお、寺西貝塚では、貝製の腕輪が発見されており、長竹遺跡で出土した腕輪製作用の砥石との関連を想起させる興味深い資料である。

この他､辻遺跡(48)では中期から後期にかけて、板倉遺跡（47）では中期から晩期の遺物が発見されている。特に板倉遺跡は、長竹遺跡の北４㎞に位置し、土器の文様や土偶・土製品・石製品などに類似点が多く認められる。また、北約８㎞には栃木市藤岡神社遺跡があり、焼土敷きの住居跡や多彩な後・晩期遺物群が発見され、同様の類似点が認められる。

このように、加須埋没台地の縄文時代は、前半は詳細に乏しいものの、後・晩期に至り館林台地を含めた既知の遺跡を見渡すことで４～６㎞ごとに集落が点在する様相を推察することができる。

弥生時代

縄文時代に対し、弥生時代の遺跡は周知の遺跡が極端に少ない。数少ない遺跡の中でも、屋敷裏



第２図　周辺の遺跡

遺跡では中期後半の住居跡1軒と、方形周溝墓1基、土壙が検出されている。方形周溝墓は四隅が切れるタイプのもので、関東でも最北地域に位置する。また、土器は、在地の北島式土器とともに、南東北を中心とする川原町口式の変容系土器、信州を中心とする栗林式土器が出土し、多地域との土器文化圏の接点を成していたことが推測される。

利根川対岸では、板倉町辻遺跡、登戸遺跡（49）、雲間遺跡、斗合田遺跡（102）などで中期前半の壺形土器、甕形土器が発見されている。これらの遺物は、耕地整理や畠の耕作の際に発見されたもので、その性格を特定することはできないが、完形の壺形土器が多いことから再葬墓との関連性も推測される。

この他、久喜市上種足三番遺跡では磨製石鏃、道上遺跡で後期の壺や器台が発見され、羽生市天王遺跡（32）、発戸漆畑遺跡（53）では後期の土器が発見されている。

弥生時代中期後半から後期前半にかけては、一時的な気候の寒冷化が生じたとの説もあり、河川の氾濫が多発し、作物の不良などが影響して、生活域として放棄せざるを得ない状況に追い込まれていたのかもしれない。

古墳時代

古墳時代に入ると徐々に遺跡が増加してくる。前期では、加須市内の米の宮遺跡（８）で唯一1軒の住居跡が検出されている。屋敷裏遺跡では多数の住居跡が検出され、在地の土器と共に、北陸系や、近江系、山陰系の土器、「Ｓ」字口縁台付甕などが出土し、遠方各地との盛んな交流関係が窺える。同市大道遺跡でも「Ｓ」字口縁台付甕を伴う集落跡が調査され、群馬県西毛地域を介して西日本との交流ルートに沿って形成された集落跡との解釈も可能である。

利根川対岸では、板倉町周辺の遺跡は明らかとなってはいない。上流の館林市大袋城遺跡、大袋４遺跡では、在地の土器を主体とする小形住居跡の調査が行われている。東北自動車道舘林インターチェンジにあたる堂満遺跡では、「Ｓ」字口縁台付甕が出土した住居跡と同期の方形周溝墓が調査されている。

なお、邑楽台地上の赤城塚古墳は、数少ない前期の円墳であるが、三角縁仏獣鏡等が出土したことで知られている。

一方、加須市南部に隣接する久喜市騎西地区では、修理山遺跡、小沼耕地遺跡で方形周溝墓が発見されている。なお、小沼耕地遺跡の方形周溝墓は、

第２表　周辺の遺跡一覧

1 長竹遺跡	25 内野遺跡	49 登戸遺跡	73 戸崎城跡	97 新村下遺跡
2 屋敷裏遺跡	26 高橋遺跡	50 風張遺跡	74 道智代館跡	98 薬王寺古墳
3 樋ノ口遺跡	27 内谷遺跡	51 上村君沖遺跡	75 下崎古墳時代遺跡	99 愛宕様古墳
4 宮西遺跡	28 三田ヶ谷本村遺跡	52 発戸遺跡	76 中郷遺跡	100 富士嶽古墳
5 利根川旧堤防跡	29 堀口遺跡	53 発戸漆畑遺跡	77 修理山遺跡	101 稲荷塚古墳
6 宮東遺跡	30 本宮遺跡	54 尾崎古墳群９号墳	78 萩原遺跡	102 斗合田遺跡
7 茂手木遺跡	31 鍋田遺跡	55 尾崎古墳群３号墳	79 騎西城跡	103 江黒古墳
8 米の宮遺跡	32 天王遺跡	56 尾崎古墳群８号墳	80 騎西城武家屋敷	104 上江黒遺跡
9 東畑遺跡	33 砂田遺跡	57 尾崎古墳群５号墳	81 浅間塚古墳	105 柳生新田遺跡
10 別所遺跡	34 永明寺古墳	58 尾崎古墳群４号墳	82 八幡塚古墳	106 土部遺跡
11 大越古墳群	35 谷田遺跡	59 尾崎古墳群６号墳	83 観音塚古墳	107 倚井陣屋跡
12 稲荷塚古墳	36 稲荷塚古墳	60 尾崎古墳群２号墳	84 島悪途遺跡	108 久保山遺跡
13 石子塚古墳	37 御廟塚古墳	61 遍照院古墳	85 宇那根中世墓	109 小野袋遺跡
14 穴咋塚古墳	38 飯積遺跡	62 熊野塚古墳	86 大久保中世墓	110 下樋遣川遺跡
15 諸塚古墳	39 須賀遺跡	63 大口遺跡	87 大塚山古墳	111 七釜戸遺跡
16 浅間塚古墳	40 山越遺跡	64 天神山古墳跡	88 稲荷神社古墳	112 大桑本田遺跡
17 稲荷塚古墳	41 麦倉遺跡	65 西原遺跡	89 伊勢ノ木遺跡	113 南篠崎南遺跡
18 鶴ヶ塚古墳	42 藤畑遺跡	66 稲荷山古墳跡	90 藤ノ木古墳	114 宮前遺跡
19 下谷遺跡	43 太田遺跡	67 外之内遺跡	91 城遺跡	115 久下遺跡
20 水深遺跡	44 一峯貝塚	68 天神塚古墳	92 岡村遺跡	116 六十軒東遺跡
21 花崎遺跡	45 小保呂第１貝塚	69 北谷遺跡	93 花和田遺跡	117 道上遺跡
22 鷲宮神社境内遺跡	46 小保呂第２貝塚	70 葛瀬氏館	94 岡西遺跡	118 中結遺跡
23 惣達遺跡	47 板倉遺跡	71 町屋本村遺跡	95 松ノ木古墳	119 前遺跡
24 弥勒人馬遺跡	48 辻遺跡	72 礼波遺跡	96 中古墳	120 堀之内遺跡

周溝内部に４本の柱穴を伴うことから、東海系の周溝持ち建物跡であるとの説もある。

古墳時代中・後期に入ると自然堤防上に集落跡や古墳、古墳群などが増加してくる。屋敷裏遺跡では、多くの住居跡が検出され、住居跡内からは脚付の須恵器長頸壺や短頸壺が出土しており、近接する村君古墳群造営にかかわる集落跡であったことが推測できる。一方、天王遺跡では、東毛地域の関係が窺われる須恵器が出土している。

なお、埋没台地上にある村君古墳群内には、永明寺古墳（34）、御廟塚古墳（37）の２基の前方後円墳が所在し、この地域の名主墳と考えられている。特に永明寺古墳は全長78mの前方後円墳で６世紀中頃の築造と推定されている。石室内部の調査が行われ衝角付冑・桂甲小札・鉄鋸・馬具等が出土している。竪穴石室の石材に荒川系の緑泥片岩や礫を用いていることから、埼玉古墳群との関係が推測される。

加須市宮東遺跡（６）は５世紀代から集落が始まり、奈良･平安時代まで継続している。周辺には、埴輪を出土した稲荷塚古墳（12）を始めとする大越古墳群（11）が所在している。対岸の旧北川辺町にある飯積遺跡（38）は飯積河畔砂丘上に形成された集落であるが、同様の集落構成を成し、大越古墳群造営にかかわる集落であったことが推測できる。西側に所在する太田遺跡（43）は、遺構こそ検出されていないが、後期の遺物が纏まっ樋発見されている。大越古墳群の南側に位置するあ遣川地区には、前方後円墳の可能性がある諸塚古墳（15）を主墳として、石子塚古墳（13）、穴咋塚古墳（14）、浅間塚古墳（16）など樋遣川古墳群が展開する。周辺に同期の集落跡は見当たらないが、自然堤防上に存在していたことが考えられる。その西側の東北自動車道周辺にも靭状埴輪を出土した鶴ヶ塚古墳（18）、下谷遺跡（19）などが所在している。

加須市鷲宮地区は関東最古といわれる鷲宮神社が所在しているが、隣接する堀之内遺跡（120）の調査が行われ、古墳時代前期の土器、後期の住居跡が発見され古くから集落域として営まれていたことが明らかとなっている。

羽生地区は、先の村君古墳群の西側に尾崎古墳群（54～60）が所在しいずれも地下１ｍ下に埋没している。その南東側に近接して遍照院古墳（61）、熊野塚古墳（62）、天神山古墳跡（64）が所在する。

先に述べた小松１号墳は、さらに西側に所在し、主体部は角閃石安山岩を用いた胴張の複室横穴石室で、大刀や多数の玉類が出土している。築造年代は７世紀前半にあてられている。これらの周辺には、発戸漆原遺跡や、風張遺跡（50）、大口遺跡（63）、西原遺跡（65）など古墳時代後期の集落跡が分布している。

利根川対岸の板倉町及び舘林市東部地区の谷田川に沿う邑楽台地上では、６世紀から７世紀にかけて渕ノ上古墳、道明山古墳、筑波山古墳、船山古墳などの前方後円墳が継続して築かれている。

なかでも、筑波山古墳では、石室内部から銀象嵌円頭大刀・金銅製耳環・水晶製切子玉・メノウ製勾玉・馬具・鉄鏃など優品が発見されている。これらの古墳は、いずれも石室石材に角閃石安山岩を用いているのが特徴で、利根川流域の渋川市付近から杉戸町目沼６号墳まで用いられている。また、渡良瀬川遊水池に面する藤岡台地上には、頼母子横穴墓群が７世紀後半に造営された。群馬県内でも数少ない横穴墓の一つである。

この他、明和町地区にかけて、前方後円墳である薬王寺古墳（98）をはじめ、松ノ木古墳（95）、中古墳（96）、愛宕様古墳（99）、富士嶽古墳（100）、稲荷塚古墳（101）などの円墳が造営されている。周辺の当該期の集落跡には、伊勢ノ木遺跡（89）、城遺跡（91）、花和田遺跡（93）、岡西遺跡（94）、上江黒遺跡（104）などが所在している。中でも伊勢ノ木遺跡は５世紀後半から営まれ、この地域の先駆けを成す集落跡として位置付けられるとも

に、漁網用の錘が多量に発見され、内水面漁労にかかわりの深い集落跡であったことが窺える。

古代

古代に入ると、長竹遺跡周辺の地形も、利根川を主とする氾濫・堆積が進行し、自然堤防を残し地形の平坦化が進行する。長竹遺跡でも、当該期の住居跡と畠跡が検出されている。東側に隣接する宮西遺跡（４）、宮東遺跡でも同様の集落跡が検出されている。上流側の羽生市茂手木遺跡（７）、屋敷裏遺跡でも当該期の集落跡が発見されている。いずれの集落跡も10数軒から30軒前後で、細長い自然堤防上の最も高い位置に集住していた。これらのうち、長竹遺跡、屋敷裏遺跡、茂手木遺跡からは、緑釉陶器が出土し、東山道を介する流通ルートとの関係が推察される。

屋敷裏遺跡の南部及び西部には、風張遺跡や天王遺跡、大口遺跡などが前代から引き続き集落を営んでいる。また､市街地に所在する大道遺跡でも、住居跡、井戸跡、土壙が検出されている。加須市南部の東北自動車道建設工事に伴って調査された水深遺跡（20）では、当該期の竪穴住居跡とともに県内でも先駆的な調査事例となった土師器焼成遺構が纏まって検出されている。

加須市南部に接して位置する久喜市騎西地区には、新川用水南側の自然堤防上に沿って遺跡が分布している。住居跡が確認されているものは道上遺跡、上種足３番遺跡で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂遺跡では小金銅仏が発見されている。本屋敷遺跡では墨書土器や瓦が発見されている。

利根川対岸の北川辺地区飯積遺跡では、前代から引き続いて集落を営んでいたが、住居規模の縮小化や集落内の立地などに変化がみられる。

この他、藤岡台地上の寺西遺跡や、邑楽台地上の伊勢ノ木遺跡、中島遺跡、岡遺跡、花和田遺跡、新村下遺跡（97）などが分布している。

なお、長竹遺跡周辺は旧国境地域にあたっており、長竹遺跡から北側10㎞ほどにある三毳窯跡群が７世紀末から操業を開始し、下総国三和窯跡群、常陸国新治窯跡群など県外各地の窯跡群で生産された須恵器が長竹遺跡で発見されている。さらに末野窯跡群、東金子窯跡群、南比企窯跡群など県南西部及び、北部地域の窯跡群で生産された須恵器も発見されており、流通ルートの多様化と国境地域の複雑化に拍車をかけている。

中世

中世の大越地区は武蔵国太田荘の東端に属し、旧利根川の別称である浅間川を境として下総国下河辺荘と接していた。おおよそ大落古利根川の流域一帯に広がる広大な荘園で、北は羽生市から南は岩槻市にまで及ぶ。また、下野国小山を本拠とする小山氏の縁故地ともなり、宮西遺跡の南側には貞和元（1345）年の銘文がある鎌倉武士の「小山朝正の墓」と伝承されている宝篋印塔が残されている。近接する徳正寺は小山朝正の祈願所で、小山義政（？～1382年）の再興と言われている。現利根川に沿い朝正墓所を通過する道は、小山・宇都宮方面へ通じる「鎌倉街道」支道、羽倉道の候補になっている。

街道沿いに所在する長竹遺跡では、14世紀代の板碑が溝跡から出土している。また、利根川旧堤防跡（５）からは、土壙墓群が発見されその多くには人骨が残っていた。別の区域からは、井戸跡から15世紀から16世紀代の板碑や宝篋印塔が纏まって出土している。東に隣接する宮西遺跡でも井戸跡内から、14世紀から15世紀代の板碑が出土している。

西側上流部に所在する羽生市東畑遺跡（９）では、戦国時代から江戸時代にかけての掘立柱建物跡、道路跡、井戸跡などが検出され、井戸跡から、14世紀から15世紀代の板碑９枚が出土している。さらに上流の米の宮遺跡では、室町時代の大規模な区画溝、東西16m、南北７ｍの大形掘立柱建物跡、竪穴状遺構、井戸跡が検出されている。

このように、街道沿いに形成された遺跡から、それぞれ時期は異なるものの居住施設などの遺構や板碑などの遺物が発見され、大越地区を中心とした往時の繁栄の様子を窺うことができる。

羽生市内全域には、多数の板碑が発見されている。特に南部埋没台地地帯には、墳墓群が検出された念仏堂遺跡、常滑焼蔵骨器を出土した砂山新田遺跡、瀬戸焼蔵骨器出土の八幡遺跡があり、市内最古（1254年）の板碑も発見されており、古利根川の流路や鎌倉時代の歌集「夫木集」に記載されている古江の浦（岩瀬の渡）の比定地を考える上での重要な遺跡群といえよう。

一方、加須市南部と接する久喜市騎西地区は、平安時代末から鎌倉時代にかけて武蔵七党のうち野与党の道智氏、多賀谷氏が館を構えたといわれている。多賀谷氏館跡は内田ヶ谷の大福寺周辺にあったとされ、調査により館東端の溝跡から12世紀から14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗、常滑産広口壺が出土している。道智代館跡（74）は道智の成就院周辺に所在し、調査の結果、館のほぼ中央で13世紀から14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12世紀から13世紀の龍泉窯系青磁が出土している。種足には、種足城跡が所在し、騎西城主小田顕家の隠居所として使われたと伝えられている。騎西城跡（79）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が残っている。遺構としては、現在土塁がわずかに残るだけであるが、これまで80次を超える調査が行われ、城郭部や武家屋敷跡などの様子が明らかとなってきた。また、堀跡には障子堀が５箇所発見された。遺物は合戦場及び、生活の場としての武器・武具、生活、生業、信仰、流通に関する多様なものが出土している。 これらのうち年代を比定できる陶磁器は、12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16世紀から17世紀前半である。

この他に、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬砂允の居跡なりと記されている戸崎城跡（73）があり、調査で13世紀代の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

この地域一帯は、室町時代には、鎌倉公方方と古河公方方との勢力争いの地となり、戦国時代には、後北条氏と上杉氏との間で争奪戦が繰り広げられた地でもある。

近世

近世に至り、治水・新田・舟運の利便を図り徳川幕府松平忠吉による文禄３（1594）年の川俣の堰における会の川締め切りを皮切りに、合計３回の大規模な利根川東遷事業が着手された。最終的には天保９（1838）年に合の川と浅間川が完全に締め切られ現在の流路が確定した。このうち浅間川を締め切った堰堤跡が加須市外野地区に残り、利根川旧堤防跡や長竹遺跡の調査で堤防の建設や改修、増設工事の状況が明らかとなっている。

利根川東遷と江戸川の開削工事により両毛・常総、そして武蔵の舟運が発達したのは周知である。羽生領となった大越村では黒田・鈴木からなる大越河岸が宮東遺跡の直近に設けられ、旅籠や飯屋が並ぶ河岸場は加須・羽生・行田に及ぶ物資の集散地となり、武蔵北東部有数の物流拠点として栄えた。その程は、明治半ばの貯蓄残高が旧加須町をしのいでいたという逸話で察することができる。

だが、1902年の東武鉄道延伸や陸上交通の発達により、河岸場は次第に衰え、1910年の関東大水害を境に大越に舫う船は激減した。河岸を起点とし、明治初期には荷船十六艘、渡船二艘、水害予備船三十艘を擁した大越（大久保）の渡しも衰退を免れず、最後に残った渡船も1972年の利根大橋開通とともに廃され、大越の繁栄は幕を閉じた。

現在は、のどかな田園風景を臨むことができるが、近年まで営業を続けていた鉱泉旅館や立派な社稷を持つ徳正寺など往時の賑わいをしのぶ風情も漂わせている。

３．環状盛土・環状貝塚を伴う縄文後期～晩期の遺跡分布

長竹遺跡を特徴づける環状盛土遺構は、大宮台地を中心とする関東地方内陸北東部に分布しており、一方で東京湾東岸の環状貝塚群との類似性も指摘されている。

以下、長竹遺跡にみられる遺構・遺物等のさまざまな属性を軸に、縄文時代後期～晩期の集落遺跡の広域的な分布を俯瞰していきたい（以下、第３図）。

加須低地～栃木県南部

長竹遺跡（１）の３km上流には土面の出土で知られる羽生市発戸遺跡（２）が存在する。未調査ながら土取りの際に大量の縄文時代後期～晩期の遺物が出土し、同時期の集落跡の存在が推定されている。

利根川対岸の館林台地には晩期安行式の基準資料が採集された板倉町板倉遺跡（３）が位置している。

渡良瀬川をはさんだ藤岡台地には谷を取り巻いて環状の遺物包含層を形成する栃木市藤岡神社遺跡（４）が位置している。ローム質土の堆積はみられないものの、後期後半では床面に焼土を貼った平地式住居が主体となっており、複数の動物型土製品、とりわけ犬型のものが出土する等、長竹遺跡との共通点は多い。

ここからさらに北、足尾山地南縁の後藤遺跡には、かつて窪地を巡る直径160mの環状の高まりが存在したという。

思川低地をはさんだ東岸の河岸段丘上に位置する乙女不動原北浦遺跡（６）では、谷に面して４箇所の遺物包含層が存在する。住居跡群とは占地を別にした晩期の土壙墓群は、覆土中や上面に小型精製の土器が出土する等、長竹遺跡の土壙墓群との共通性が見受けられる。

さらに北東、鬼怒川と田川に挟まれた結城台地の付け根には、寺野東遺跡（７）が存在する。外径約165mの環状盛土遺構を伴う集落跡と、水場遺構等周辺の土地利用が一括して把握され、環状盛土研究の嚆矢となった。また、盛土の構築に伴う中央窪地の掘り下げが確認され、それらが自然地形でなく人為的な構築物であることが証明されたことの意義は大きい。

大宮台地

元荒川およびその支流によって開析された台地東半部と、見沼の谷に開析された台地南部を中心に、多くの遺跡が知られている。

桶川市後谷遺跡（８）は元荒川筋の右岸谷奥に位置する。台地平坦面上に環状盛土を伴う集落跡が存在し、これを取り巻く低地部からは遺物包含層とともに後期の水場遺構が検出された。中空みみずく土偶を含む各種の土製品類と、低地から出土した漆製品の豊富さで知られている。

これより10kmあまり北西、加須低地西端の埋没台地上には、やはり環状盛土を伴う赤城遺跡が存在する。盛土の一角からは後期の水場遺構が、中央窪地からは完形土器集中地点と、土偶・石棒等を集積した祭祀遺物集中地点が検出された。

綾瀬川右岸の伊奈町本上遺跡（14）でも環状盛土の存在が指摘されている。平成27年度に伊奈町教育委員会により盛土外縁部の発掘調査が行われている。調査の結果３軒の住居跡が検出され、土偶多数を含む大量の遺物が出土した。中央窪地および盛土部分の大半が未発掘であり、今後の調査が期待される。

元荒川左岸の蓮田支台では、本流に面した台地縁辺部に蓮田市久台遺跡（19）、現在久台遺跡の一部として登録されている同ささら遺跡（20）が存在する。

久台遺跡は後期前葉の集落跡と、晩期を主体とする遺物包含層を伴う集落跡の二地点からなっており、このうち晩期集落跡はこの集落に伴う谷部

第３図　環状盛土・環状貝塚関連遺跡分布図

遺物包含層と目されるささら遺跡に接している。

蓮田支台北端部から加須低地へと移行する地域には島状の微高地群が点在しているが、その中のひとつに久喜市小林八束１遺跡（17）・同地獄田遺跡（16）が位置している。

小林八束１遺跡は当事業団が縄文時代後期～晩期の包含層の調査を継続中である。祭祀遺物集中地点から複数個体の中空みみずく土偶を含む大量の遺物が出土しており、現在整理作業を行っている。

蓮田支台の南に接続する岩槻支台には、さいたま市真福寺貝塚（21）、同黒谷田端前遺跡（22）が存在する。

真福寺貝塚は西の綾瀬川から入り込む開析谷の谷奥に位置している。大正時代から発掘調査が繰り返され、台地上には主淡貝塚を伴う後期～晩期の集落跡、隣接した低地部には同時期の遺物を含む泥炭層が存在していることが知られている。平成５・６年度に実施された地下レーダー探査では、直径約150mの環状に地点貝塚が分布し、貝層の下面には竪穴住居跡や土壙が存在することが確認された。

黒谷田端前遺跡は地点貝塚（黒谷南貝塚）を伴う中期～晩期の集落跡で、元荒川から入り込む開析谷の谷奥に位置している。昭和49年の調査で検出された住居跡はすべて中期のものだが、「谷」と認識された平坦な窪地部分ではローム直上を晩期前半～中葉の遺物包含層が覆っており、安行３ｂ式期の完形土器集中地点が検出された。

蓮田支台と元荒川をはさんで対峙する白岡支台では、南端部の元荒川と日川の合流点から入り込む谷奥に雅楽谷遺跡（25）が位置している。後期～晩期の環状盛土遺構を伴う集落跡とされ、窪地を取り囲む環状の高まりは現地表面でも明瞭に観察できる。

また、盛土の東部分を横断する形で行われた第１次調査では後期前葉～晩期に至る住居跡が密集して検出されたのに対し、盛土南縁を広く対象とした第２次調査では加曾利Ｂ１式期と安行２式期のもの各１軒にとどまっており、地点ごとの空間利用に違いがあったものとみられる。

現在まで中央窪地部分の調査は行われていない。ただし、第２次調査で盛土上層がローム粒子を多く含む土層であり、この部分から主に安行３ｃ式期の土器が出土することから、この時期に中央窪地部分への働きかけが強まったものと考えられた。

なお、台地下の水田面では用水路掘削の際に晩期中葉を主体とする土器片が採集されている。

雅楽谷遺跡から約0.7㎞北の日川沿いの埋没台地上には白岡市前田遺跡（24）が広がっている。面積約80,000㎡の広大な遺跡だが、詳細は明らかになっていない。白岡町（当時）教育委員会の発掘調査では土壙群と盛土の可能性のある遺物包含層が検出され、晩期中葉の土器群が出土した。

前田遺跡の西、元荒川沿いの台地縁辺には白岡市入耕地遺跡（23）・同正福院貝塚が存在する。両者は本来単一の遺跡とみられ、双方にまたがる環状盛土遺構の存在が想定されている。

前田遺跡から日川をはさんで対岸の慈恩寺支

第２表　環状盛土・環状貝塚関連遺跡一覧

1　長竹遺跡	2　発戸遺跡	3　板倉遺跡	4　藤岡神社遺跡	5　後藤遺跡
6　乙女不動原北浦遺跡	7　寺野東遺跡	8　後谷遺跡	9　高井東遺跡	10　氷川神社遺跡
11　寿能遺跡	12　前窪遺跡	13　馬場小室山遺跡	14　本上遺跡	15　石神貝塚
16　地獄田遺跡	17　小林八束１遺跡	18　井沼遺跡	19　久台遺跡	20　ささら遺跡
21　真福寺貝塚	22　黒谷田端前遺跡	23　入耕地遺跡	24　前田遺跡	25　雅楽谷遺跡
26　清左衛門遺跡	27　裏慈恩寺遺跡	28　三輪野山貝塚	29　貝の花貝塚	30　権現原貝塚
31　堀之内貝塚	32　道免き谷津遺跡	33　曽谷貝塚	34　姥山貝塚	35　中沢貝塚
36　井野長割遺跡	37　吉見台遺跡	38　曲輪ノ内貝塚	39　加曾利貝塚	40　祇園原貝塚
41　西広貝塚	42　西ヶ原貝塚	43　伊皿子貝塚	44　大森貝塚	45　上高津貝塚
46　平三坊貝塚	47　陸平貝塚			

台には白岡市清左衛門遺跡が存在する。遺跡は台地に深く入り込んだ低湿地に面しており、後期～晩期の集落跡は台地縁辺部の居住域と低地部の包含層および水場遺構から構成されている。

盛土の存在は確認されていないが、白岡町教育委員会（当時）による発掘調査では遺跡に入り込む谷をローム質土が埋めている様子が観察されている。

主台南端の見沼低地では、さいたま市馬場小室山遺跡（13）と、同前窪遺跡（12）がきわめて近接して存在する。

馬場小室山遺跡は見沼低地から入り込む開析谷の谷奥に位置する。縄文時代早期～晩期に至る幅広い時期の遺構・遺物が出土しているが、後期安行～晩期安行式期の遺構は直径50m、高低差３ｍほどの窪地を中心に100ｍほどの範囲に集中しており、盛土中に重層的に残されている。

第32次調査で検出された第13・14号土壙は長径4.28m×短径3.94m、深さ3.20mの大型の土壙で、数度の「掘り返し」が観察され、完形土器を含む後期後葉～晩期後葉にかけての遺物が層位的に出土しており、鈴木正博はこれを数世代にわたり同一地点に追葬行為を繰り返した「積層墓」と定義している。

前窪遺跡は馬場小室山遺跡と隣り合う開析谷の奥に位置している。集落跡は谷状の窪地を巡って占地しており、住居跡の時期は大洞A式期まで継続する。

上流右岸のさいたま市氷川神社遺跡（10）では近年になって環状盛土遺構の存在が明らかになった。発掘調査では、盛土中に後期～晩期の住居跡が重層的に存在することが明らかになっている。その東の低地部分には丸木舟や櫂などが出土して当時の低地利用のありかたが明らかになったさいたま市寿能泥炭層遺跡（11）が存在する。

見沼低地が荒川低地に向けて開口する左岸側、安行支台の付け根部分には、川口市石神貝塚（15）が存在する。多方向から樹枝状に開析された平坦面状に占地する集落景観は、後出する下総台地周辺の遺跡に近い。

主に加曾利B２式期に形成された盛土の上面に後・晩期安行式期の生活面が存在する。第12次調査第１号住居跡は新旧２面の生活面を持つが、このうち新段階の住居跡は大量の焼土によって貼り床されている。時期は安行３ｃ式期とされる。

また、第９次調査第３号住居跡は加曾利B２式の竪穴住居跡だが、床面直上に大量の焼土が堆積していた。これに隣接して「焼土遺構」が存在しており、両者は検出面や出土遺物の時期、出土する動物遺存体の種などが一致しており、同時に存在したものと考えられた。焼土遺構から出土する骨片はすべて亀裂が入るまで焼かれており、焼土上面からは翡翠製の垂飾が出土したという。

類似の焼土遺構は寺野東遺跡でも検出されており、長竹遺跡の焼土住居跡の由来や、焼土の供給源を考えるうえで重要な事例となるだろう。

遺跡の東に入り込む谷は後期中葉の遺物包含層で埋まっており、晩期中葉にはほぼ平坦になっていたと考えられるという。また、隣接する低地部からは木組みの水場遺構が検出されている。

図中にはないが、石神貝塚の北約１kmの地点には川口市宮合貝塚が存在する。第12次調査B地点では中央窪地にあたる部分が調査された。窪地の斜面下方では関東ローム層第一黒色帯が露出し、この上を晩期中葉の包含層である再堆積ローム層が覆っていたという。

窪地には安行３ｃ式期の完形遺物集中地点が存在する。また、同時期の楕円形の土壙群が窪地の縁を巡っており、その覆土からは完形の土器が出土している。

大宮台地西側の荒川低地沿いでは、後期～晩期の大規模な集落跡自体があまり知られていない。

桶川市高井東遺跡（９）は台地内河川である江川の谷奥に位置し、そのほぼ全体が発掘調査され

た。円形の窪地をはさんで対向するように住居跡が配置され、この窪地が谷に向かって開口する部分に墓域と目される土壙群が位置している。

ここから北西約５kmの荒川本流に面した台地上には、北本市宮岡氷川神社遺跡が存在する。本流から入り込む小支谷の最深部に後期～晩期の包含層が形成されて高まりをなしており、発掘調査では晩期前半の一辺11mの大型住居跡が検出されている。

霞ヶ浦周辺

この地域の貝塚は、樹枝状に開析された谷津地形の、谷頭が集まる台地平坦面を取り巻くようにして斜面貝層が形成される斜面貝塚が主で、土器製塩の大型炉が検出された土浦市上高津貝塚(45)、日本人の手による初の学術発掘調査が行われた美浦村陸平貝塚（47）は、ともに数箇所の斜面貝層からなる環状貝塚である。

中央窪地を持つ北岸のかすみがうら市平三坊貝塚（46）も、筑波大学による発掘調査の結果、盛土の存在は否定されている。

下総台地～東京湾沿岸

中川低地に面した下総台地西縁辺には、流山市三輪野山貝塚（28）が位置している。貝塚と環状盛土・中央窪地がセットで検出されたほか、二群からなる晩期の土壙墓や、道路状遺構、水場遺構などが調査された。

また、やや下流寄りの松戸市貝の花貝塚（29）も中央窪地を取り巻く対弧状の貝塚集落である。窪地のローム面直上に晩期の遺物包含層が存在することから、人為的な掘削の可能性が指摘された。

さらに南、東京低地に面した台地縁辺には市川市堀之内貝塚（31)、同権現原貝塚（30)、同道免き谷津遺跡（32)、同曽谷貝塚（33)、同姥山貝塚(34）などが存在する。

道免き谷津遺跡は堀之内貝塚の台地直下に位置する低湿地遺跡で、縄文時代後期を中心とする大量の遺物とともに複数の木組み遺構が検出された。曽谷・姥山貝塚はいずれも窪地を囲んで貝層が形成される集落跡で、曽谷貝塚ではロームの再堆積が観察されている。

現東京湾に面した房総半島西半の養老川河口付近には、いずれも中央窪地を持つ市原市祇園原貝塚（40）と同西広貝塚（41）が存在する。

西広貝塚では中央窪地のローム面直上に晩期の遺物包含層が存在した。

祇園原貝塚の第50号住居跡は加曾利Ｂ３式期に属する長軸18.2m×短軸17.6mの大型住居跡で、長軸2.72mの大型の炉跡の他に、床面上に炉状の施設が多数分布し、壁際に焼土が20cmの厚さで堆積していたという。

炉跡および壁際焼土中からは二次焼成により発泡し変形した土器が複数出土している。胎土分析の結果1,200度を超える火熱を長時間受けたものとされ、一部は還元炎によるものとされた。

同様の現象は長竹遺跡でも第111号住居跡出土土器（第441集 第256図143）をはじめ多数認められ、祇園原例はこれに先行するものとして注目される。

図中にはないが、さらに南の小櫃川河口部には、現存する房総半島最南部の大型貝塚である袖ヶ浦市山野貝塚が存在する。やはり中央窪地を巡って大きく３箇所からなる貝層を持ち、集落の中心は堀之内式期から加曾利Ｂ式期だが、中央窪地付近では後～晩期安行式が卓越するという。

貝塚の外縁部北東方向から入り込む谷を埋めるようにしてローム質土が堆積しているのが確認されており（報文中では「盛土」と呼ばれている)、この部分からは晩期前葉の遺物が出土した。また、中央窪地のトレンチ調査ではローム層が0.2～0.3mほど失われ、上面がソフト化していたという。

下総台地中央部では印旛沼南岸に佐倉市井野長割遺跡（36)、同吉見台遺跡（37)、同曲輪ノ内貝塚（38）が分布している。いずれも中央窪地と環状盛土遺構を伴っており、阿部芳郎によって「谷

奥型環状遺丘集落」として定義された。

井野長割遺跡では中央窪地を巡る環状盛土のほか、斜面盛土や谷の埋め立ても確認されている。また、盛土中や集落跡外側の斜面に大量の再堆積ロームが存在し、報文ではその起源として中央窪地の掘削を想定している。

また、後期前葉～晩期にかけて使用された２条の「道状遺構」が調査されている。うち１条は盛土を横切って中央窪地にアクセスしており、もう１条は集落の外側にあって支谷の谷頭へと降りる緩斜面に等高線と直交する方向で残されている。

この「道状遺構」をはさんで各時期の墓域や居住域、貯蔵穴群等の空間が画然と配置されていることから、盛土と窪地を伴う集落跡という以外に、「道」を中心とした空間設計を持つ集落跡と結論づけられている。

吉見台遺跡では1972～1973年のトレンチ調査で中央窪地と、これを囲む高まりにおける遺物包含層の存在が判明し、その後の面的調査で縄文時代後期～晩期の集落跡のほぼ全体が明らかになったものである（中央窪地は現状保存）。

窪地部分に向かって入り込む支谷の斜面部で検出された第84号住居跡は長軸18.2m×短軸17.5mの大型建物跡で、安行３ｂ～前浦式を主体とする遺物が出土している。床面からは中央の炉跡以外に６箇所の焼土が検出された。

また、これに隣接して長径10.9m×短径10.6mの第240号住居跡が存在し、やはり複数の焼土跡を伴っている。こちらは安行２～３ａ式を伴っており、第84号住居跡に先行する建物であったと考えられる。

このほか、下総台地内部では学史的に重要な加曾利南貝塚も後期前葉～中葉を主体とする中央窪地型の集落であり、長径19m×短径16mの大型建物跡が発見され、加曾利Ｂ２式期のものとされている。

以上、長竹遺跡と同時期の集落遺跡について、盛土や窪地をはじめとする、遺構・遺物などにみられる共通性を念頭に列挙してきた。

第Ⅵ章ではさらに周辺地域の事例にまで視野を広げて、その時系列と地域性について論じてみたい。

Ⅲ　遺跡の概要

長竹遺跡の調査範囲は、利根川の堤防に沿って細長いため、調査区を上流から下流に向かってD・A・B・C区と区分した。縄文時代後・晩期の環状盛土遺構は、B区北側一部とそれに続くA区、さらに西側に接続するD区にまたがっている。

本遺跡における縄文時代以降の堆積土は、地盤の沈降と利根川の氾濫の影響で、最大で厚さ３～４ｍにも及んでいる。その堆積過程に営まれた縄文時代、古墳時代から古代、中・近世などの文化層は、間層を挟んで重なり合っている。そこで、古墳時代から近世にかけての文化層を第一面として調査し、さらに約１ｍ掘り下げた縄文時代の文化層を第二面として調査した。

長竹遺跡の調査面積（表面積）は11,914㎡で、このうち環状盛土遺構の調査面積（表面積）は約8,318㎡である。

環状盛土遺構は、小さな窪地状の地形の一部を含み調査区を横断する形で検出された。周辺の地形及び遺物の分布から、推定外径約190m、幅20m以上で、盛土の厚さは平均1.5m、最大1.8mで、周辺地を含めて環状に廻るものと想定される。

環状盛土遺構のうちA区の窪地と窪地の東側に開口する谷を挟んだ南半部及びB区の北側一部を便宜上南盛土と呼称し、A区の北半部とD区南側の低地を除く盛土部分を北盛土と呼称した。なお、A区とD区の境には一部浅い窪地が貫入しており、北盛土の土壙群の一部は分割されていた。

盛土は縄文時代後期後葉から晩期中葉に形成され、帯状の高まりが環状に廻っていた。

南盛土上層（古代、中・近世の文化層）は調査の結果、地盤の沈降とその後の氾濫堆積によって奈良・平安時代にはほぼ埋没したことが判明している。そのため、後世の開発等による破壊から免れ、きわめて良好な遺存状態で検出された。

南盛土の等高線の分布は調査区の中央が最も高く標高14.30mで、ここを頂点とし調査区北側（盛土内縁）と南側（盛土外縁）に向かって傾斜していた。北側は北西寄りの傾斜方向と、西寄りの傾斜方向に分かれていた。北西側の窪地に向かっては当初は緩傾斜であったが次第に傾斜角度が急になっていた。

調査区を縦断するA区南北ベルト土層断面を南盛土の基本土層とし、全体の状況を把握した。

盛土等高線と同様に中央が最も高く、最上層には第Ⅰ層のローム質土と縄文時代以降の混土、第Ⅱ層のローム質土が厚く形成されていた。

中層には第Ⅲ層として縄文時代晩期中葉を主体とする遺物包含層、第Ⅳ層として、縄文時代晩期前葉を主体とする遺物包含層が形成されていた。これらの層中及び層位を切って、晩期前葉から中葉の遺構が構築されていた。

下層には第Ⅴ層として縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺物を主体とする包含層、第Ⅵ層として縄文時代後期前葉以前の遺物を主体とし、一部ソフトロームとの混土を伴う包含層が形成されていた。さらに下層には、基盤土壌である第Ⅶ層のハードローム層、第Ⅷ層のブラックバンド層、第Ⅸ層の下位ハードローム層が堆積していた。

南盛土で検出された遺構は、住居跡29軒、掘立柱建物跡３棟、土壙68基（土壙墓含む）、柱穴列３基、埋甕３基、焼土跡25基、粘土塊３箇所、グリッドピット1293基、遺物集中６箇所であった。

南盛土の遺構と比較して、A区北盛土では後期前葉から晩期中葉にかけての土壙が多く検出された。また、D区北盛土は環状盛土遺構の最も標高の高い部分から住居跡が多数検出された。その内側及び外側傾斜面からは、土壙が多数検出された。

南盛土では後期前葉から晩期中葉にかけて「大形竪穴建物址」、住居跡、掘立柱建物跡を主体とする居住域の周囲に、少数の土壙墓、貯蔵穴を含

む土壙、多数のグリッドピット等の遺構が検出された。

最終的な盛土の形成は、晩期中葉安行３ｄ式期に盛土の一部の範囲をローム質土で覆うように厚く盛り上げられていた。

北側の窪地では、盛土から続く縄文時代後・晩期の厚い遺物包含層が途切れていた。また、窪地に向かう傾斜面は部分的にハードローム層が露出し、遺構は一部削平された状態で検出された。

盛土の土層断面調査では、盛土形成は環の最も標高の高い場所から外側の谷地形の斜面に向かって徐々に埋め立てられている状況が観察できた。

また、盛土の層位には後期前葉から晩期中葉までの各時期の遺物を含む土壌で形成された箇所がある。これらの層には土器の他にローム質土や焼土、炭化物が互層となって形成されており、一部では多量の骨片を含む層もあった。また、盛土中には住居跡や土壙などの遺構が重複して構築されたことや、硬化面の広がりや焼土面も確認できた。

「大形竪穴建物址」とした第43号住居跡付近の盛土は、小丘状になるなど、不連続に堆積しているが、それ以外の場所では概ね均一な堆積状況であった。

住居跡は縄文時代後期前半から晩期前半にかけて、盛土中央の最も標高の高い限られた帯状の範囲に重層的に構築されていた。

最も古い第59号住居跡の時期は、盛土形成以前の後期前葉にあたる。略円形プランの小形住居跡で、「ハ」の字状に開く入り口部を伴っていた。

後期中葉の住居跡は、円形または「D」字型プランで、掘り込みは浅く炉跡がほぼ中央にあり、南側または西側に入り口部が設けられていた。

以降、後期後葉安行式期までは、ほぼ同一の場所に住居跡が構築されていた。後期後葉曽谷式併行期の住居跡は隅円方形が主体となり、直後の安行式期には方形が定着する。方形は晩期前葉安行３ｂ式期まで残る。

安行式期以降の住居跡の立地は、通有の住居跡の他に、特定の場所に重複して建てられた、いわゆる「大形竪穴建物址」、その周辺部に単独で建てられた小形住居跡とで構成される状況も推察される。

後期後葉安行式期から晩期前葉安行式期にかけての第43号住居跡は、一辺約12mの方形「大形竪穴建物址」で、床全面に貼られた焼土が特徴であった。この建物址は、最終段階に設けられた壁際の炭化杭列と焼土貼床下から検出された三重にめぐる壁柱穴列を併せ、上屋を支える４本の主柱穴、南側に張り出した「コ」の字形の入り口部などから、２ないし３回の建て替えが行われたことが判明した。遺物は他の住居跡に比べ、祭祀的用具などの非日常的な用具の出土が際立って多かった。

第43号住居跡の上層で重複し、北側によって検出された第40号住居跡は、一辺約９ｍと「大形竪穴建物址」とした第43号住居跡に比べてやや小形であるが、同じく焼土で貼床された「方形建物址」であった。第40号住居跡も建て替えが行われ、祭祀的用具が多く出土した。

掘立柱建物跡は、南盛土と北盛土を挟む浅い窪地に面する緩傾斜面から第２～４号掘立柱建物跡の合計３棟が重複して検出された。このうち２棟は１間×１間（４本柱）の方形配置で、残りの１棟は推定１間×２間（６本柱）の亀甲型配置であった。同じ緩傾斜面からは、円形の第４・５号柱穴列２基が検出され、配置の特定されない大・小の柱穴（杭穴）も纏まって検出された。

土壙は調査区全体にわたって検出され、いくつかのブロックに分けられた。合計68基検出されたが、明らかに土壙墓と考えられる遺構は３基であった。うち２基は盛土内縁側緩傾斜面上で、北盛土の土壙墓群と同一線上に結ばれる配置となっていた。

第277号土壙からは、仰臥伸展葬の人骨が出土し、被葬者の頭位左上からやや浮いた状態で完形

の注口土器が出土している。一方、第310号土壙は長軸壙底の両端に小穴が設けられ、人骨は発見されなかったが、やはり完形の注口土器が出土し、出土状況から土壙墓と判断した。

このような土壙の形態と遺物出土状況は、北盛土の土壙墓群と共通していた。

盛土中央から内縁側にかけては円形の土壙が纏まって検出された。第306・326号土壙は断面形が袋状で、貯蔵穴と考えられる。

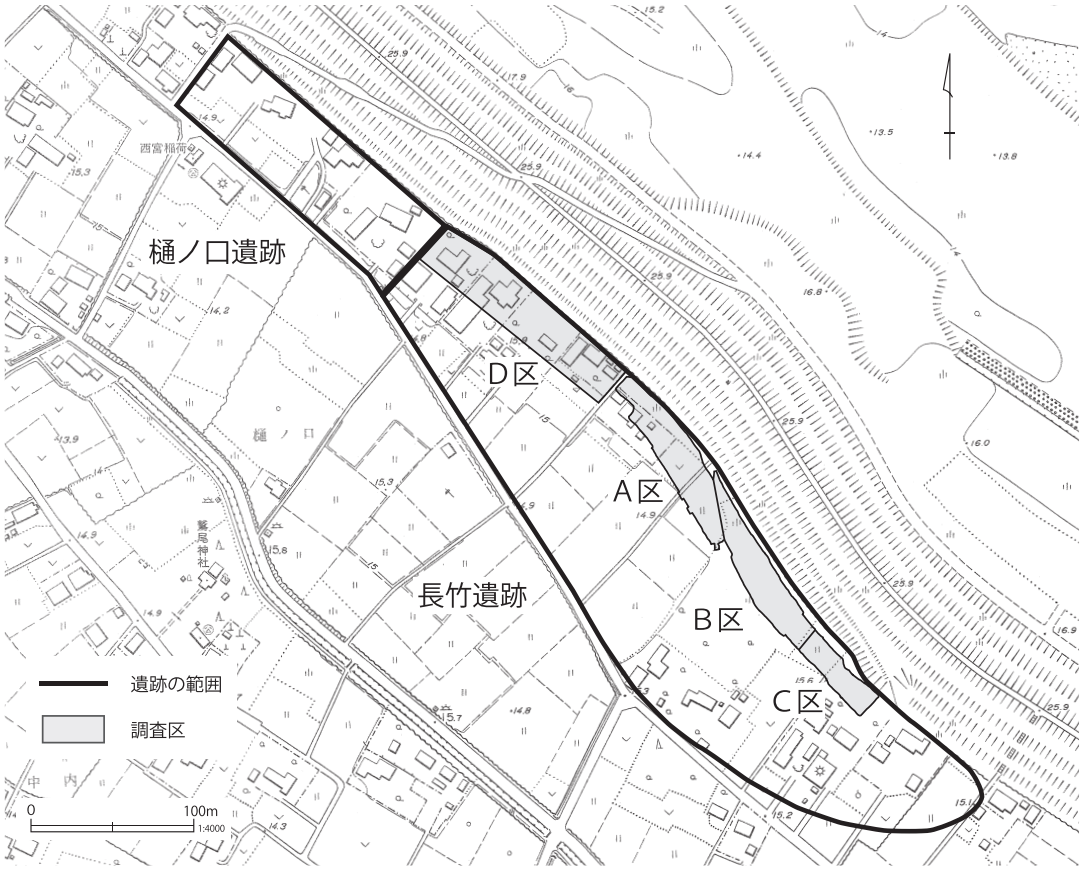
埋甕は盛土中央の第40号住居跡の西側に隣接して３基纏まって検出され、１基は晩期前葉で、２基は後期後葉であった。

焼土跡、粘土塊は盛土内縁側から外縁側にかけて検出され、いくつかのグループに分けられた。盛土内縁側に位置するグループの多くは、住居跡が検出されていない領域に位置し、周囲に多くのグリッドピットが検出された。盛土中央に位置するグループは、円形配列で検出されたグリッドピット群の内部に位置するなど、本来住居跡の炉跡であったと推察される。盛土外縁部に位置するグループは、ほぼ緩傾斜面に沿い、中には焼土跡の周囲に硬化面を伴うものもあった。

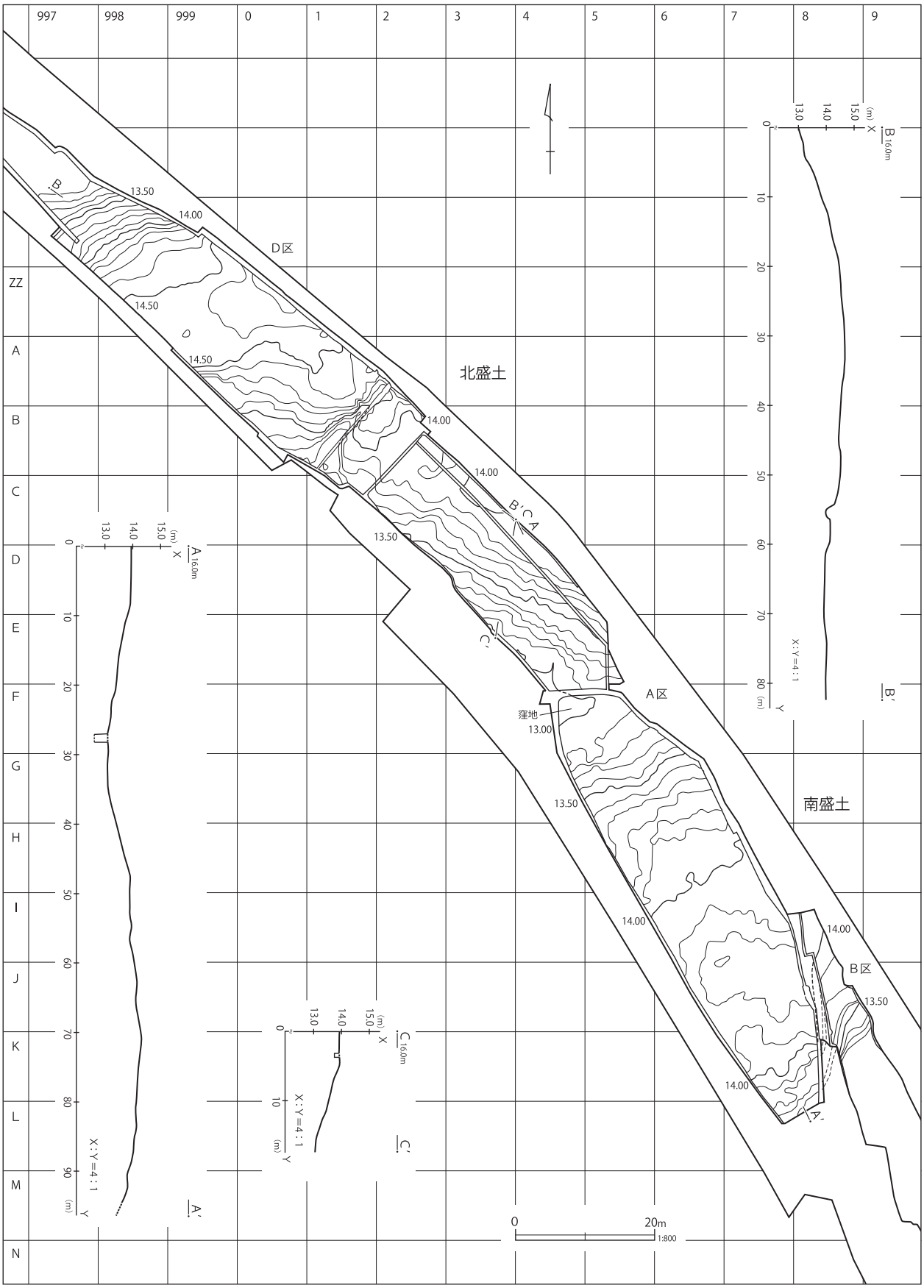
遺物集中は盛土内縁側から中央にかけて検出された。遺物集中10は第277号土壙に隣接して検出された。

グリッドピットは、盛土内縁側から多く検出された。多くが小形ピット（杭穴）であるが、中には、大形で掘り込みの深いものも検出された。

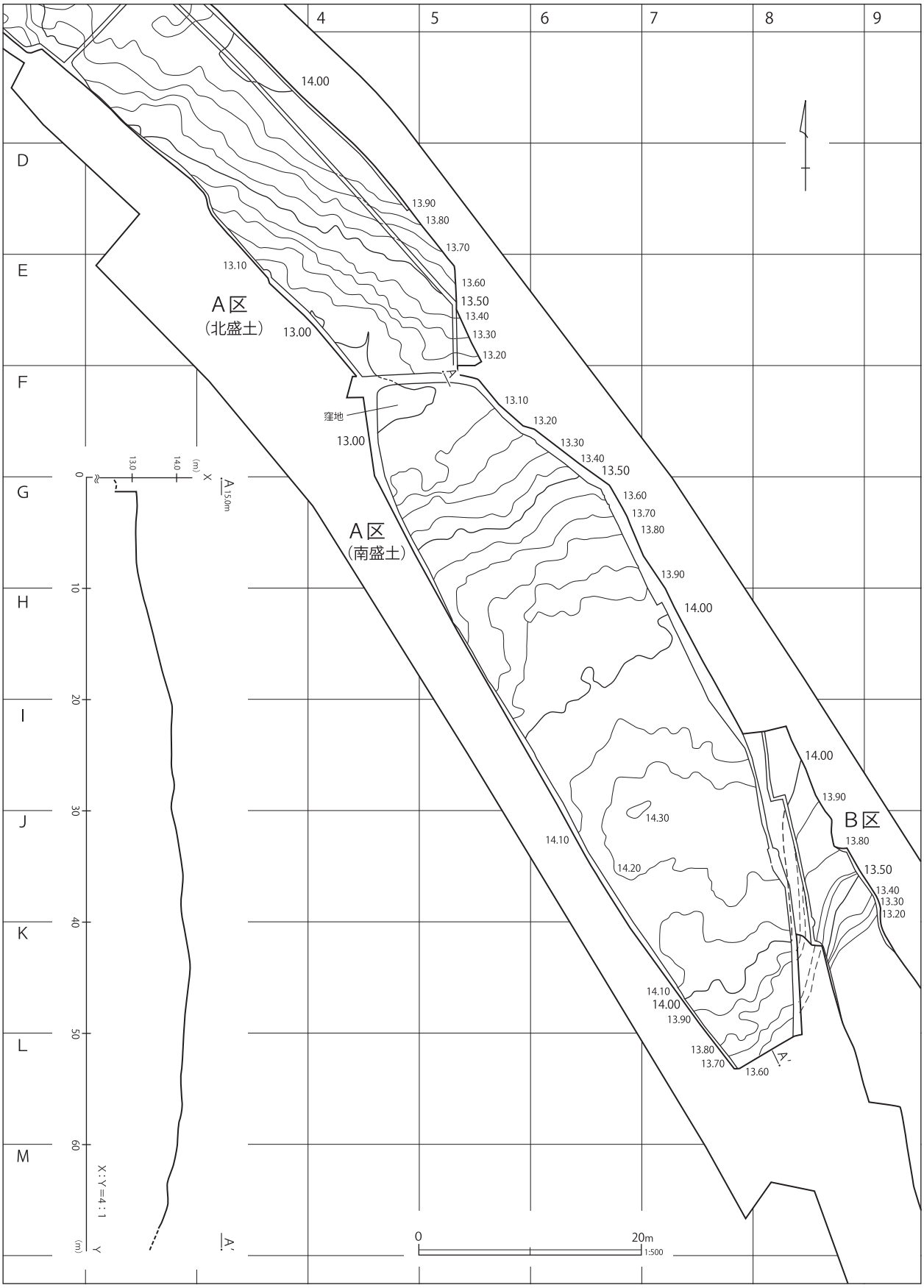
また、盛土中央の住居跡が所在しない領域でも集中して小形ピット（杭穴）が検出された。外縁部では、第43号住居跡の下層から纏まって検出され、外縁部緩傾斜面では、傾斜面の等高線に沿って小形ピット（杭穴）が帯状に検出された。



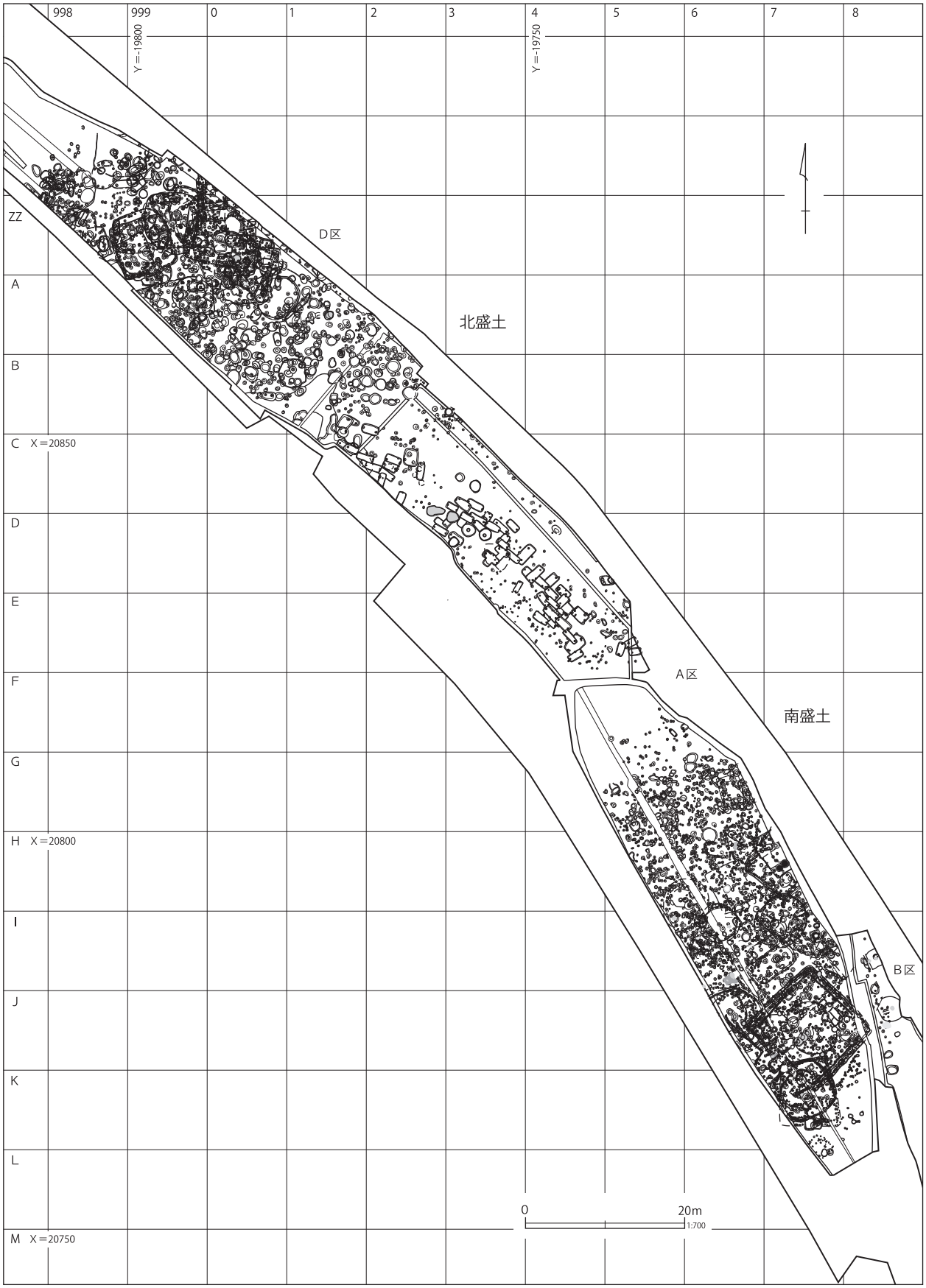
第４図　遺跡位置図



第５図　長竹遺跡盛土等高線図



第６図　長竹遺跡南盛土等高線図

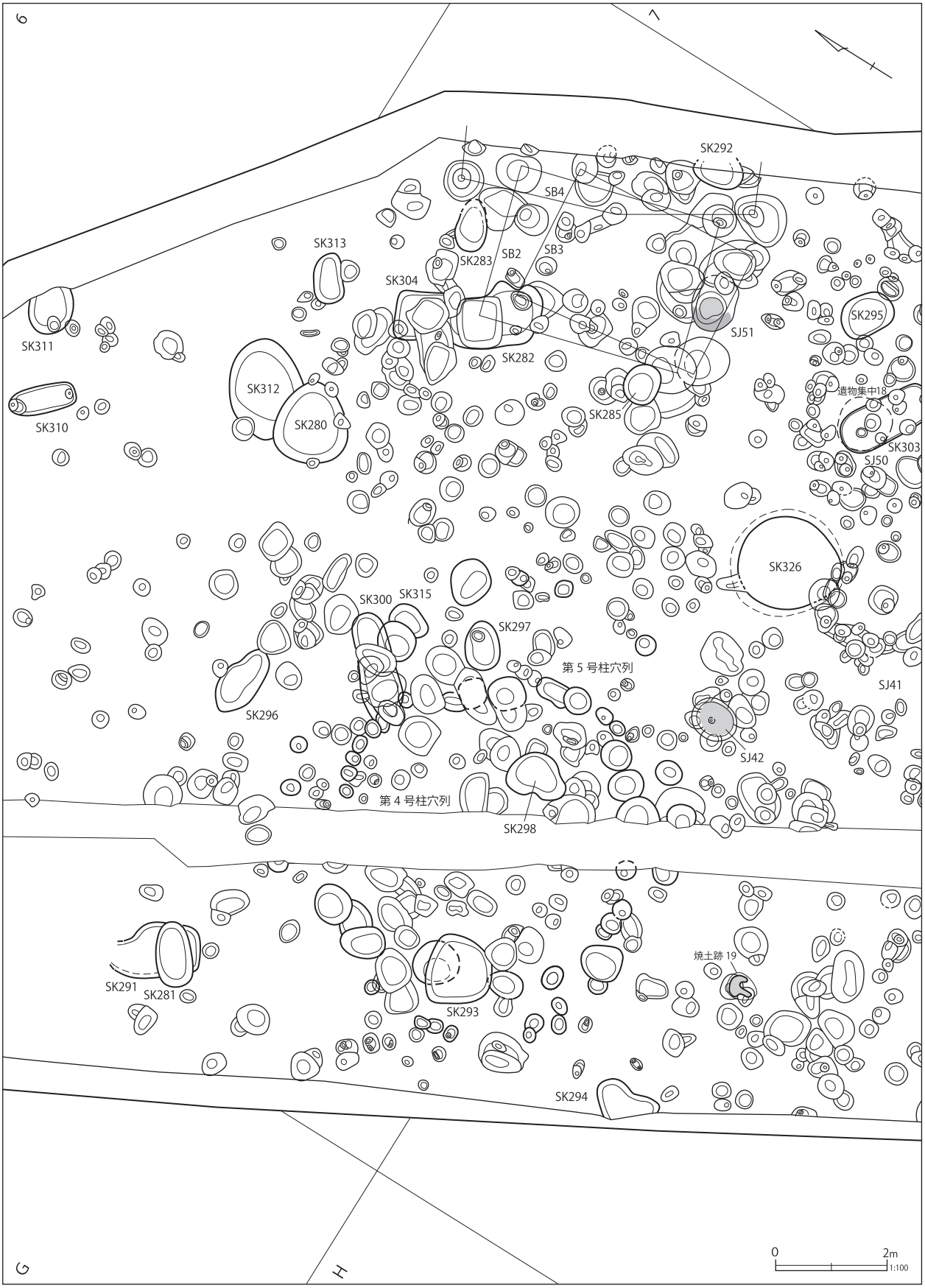


第７図　長竹遺跡盛土全体図

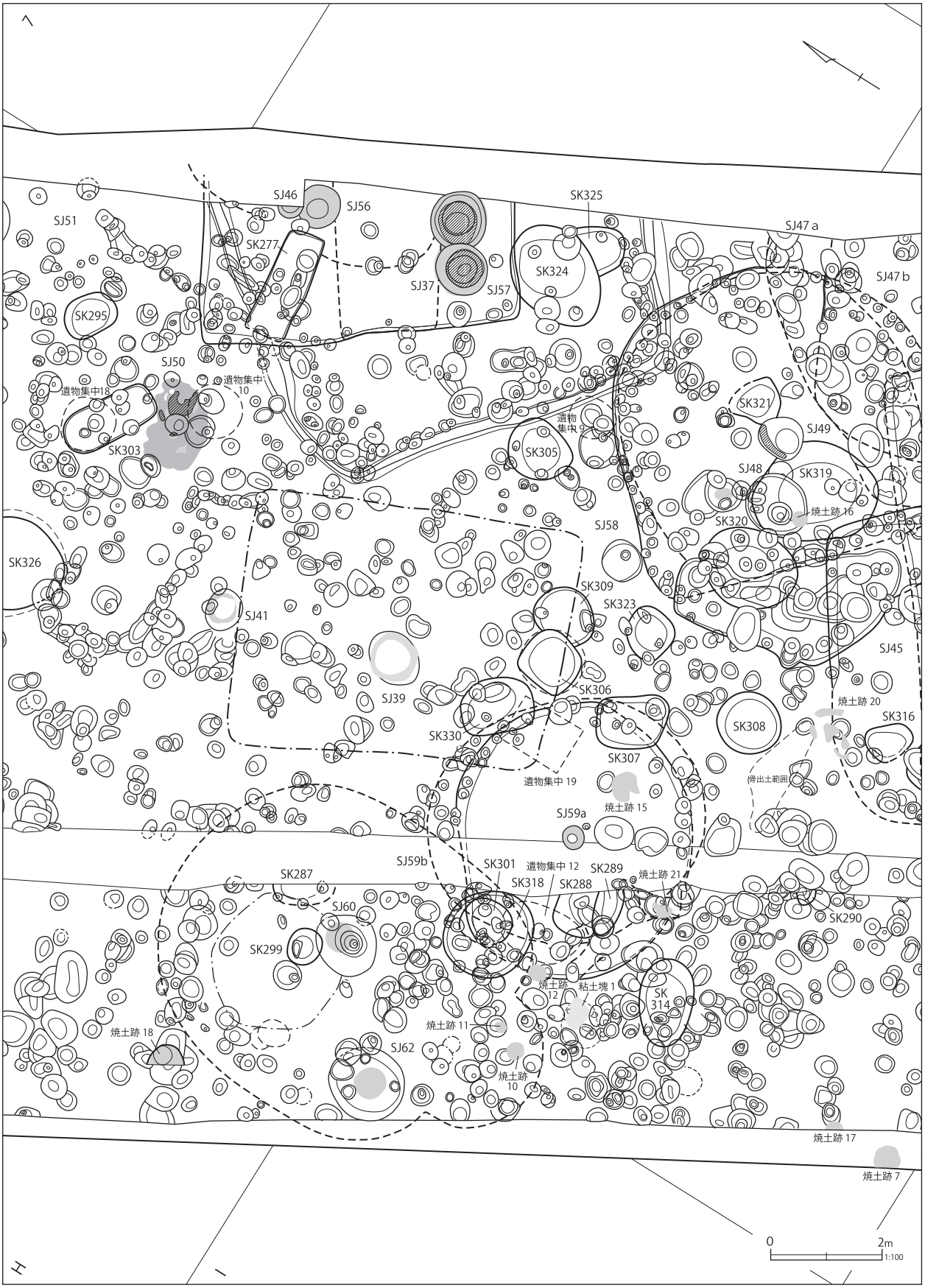
第８図　長竹遺跡南盛土全体図

第９図　長竹遺跡南盛土分割図

第10図　長竹遺跡南盛土分割図（1）

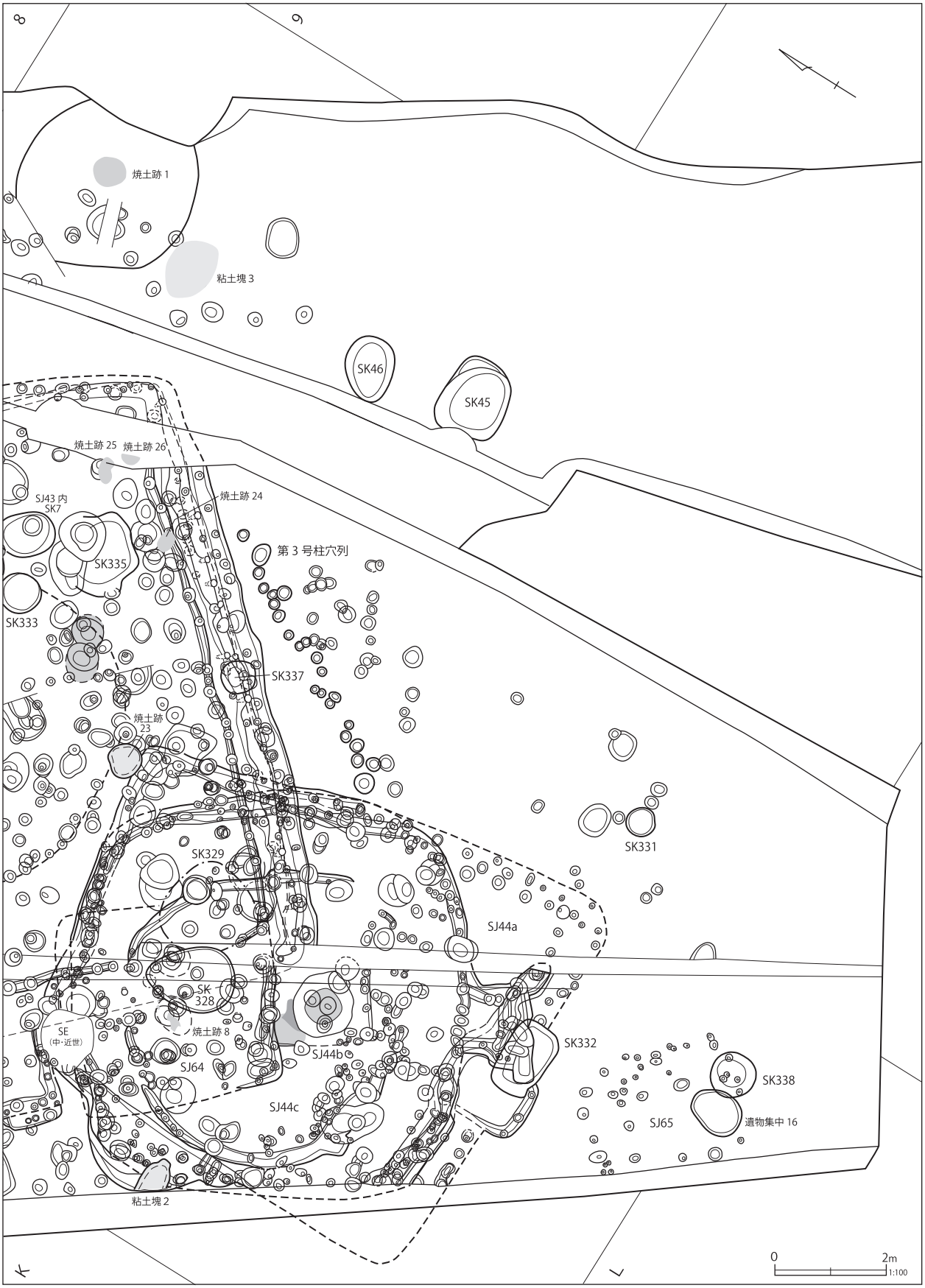


第11図　長竹遺跡南盛土分割図（2）

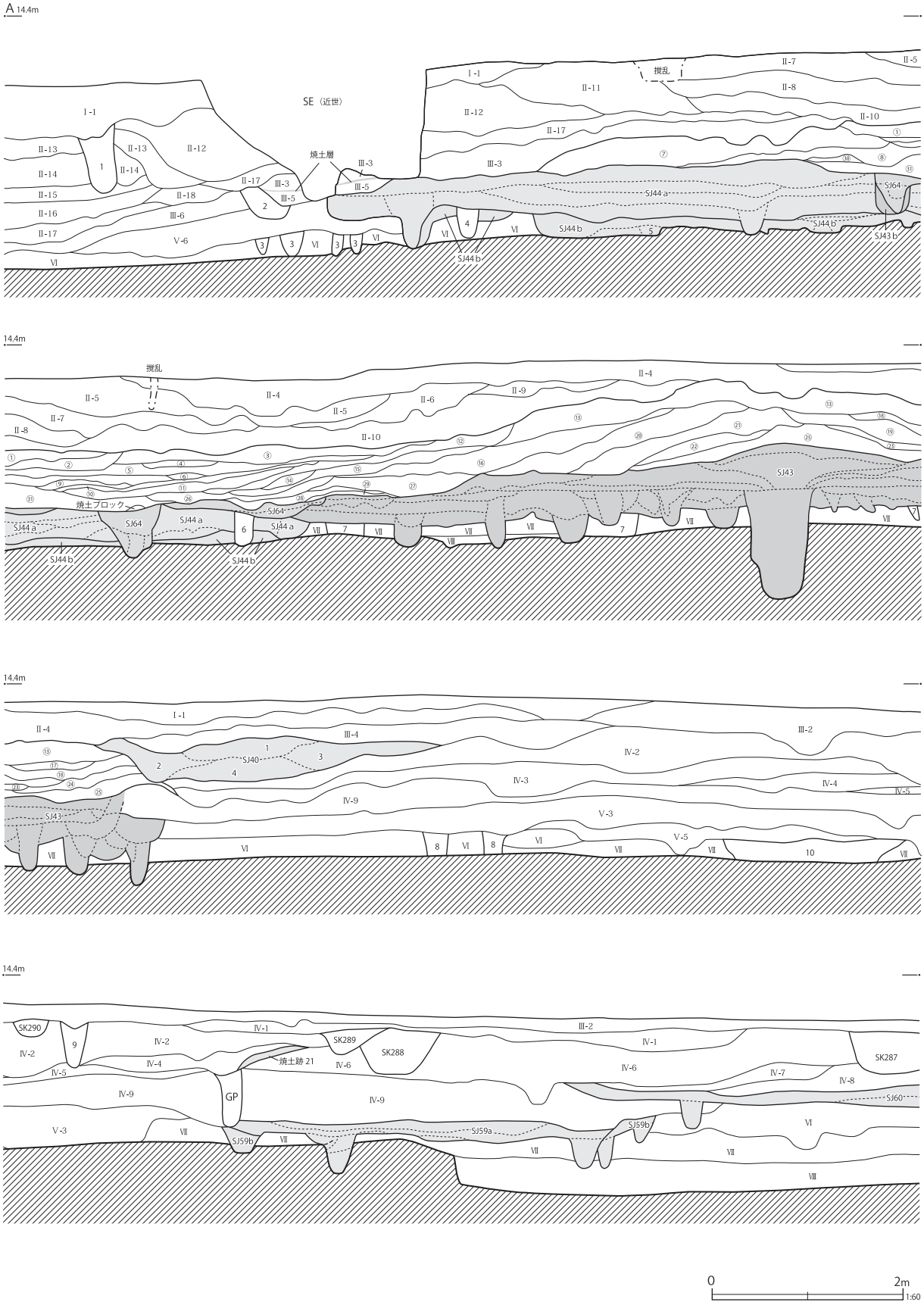


第12図　長竹遺跡南盛土分割図（３）

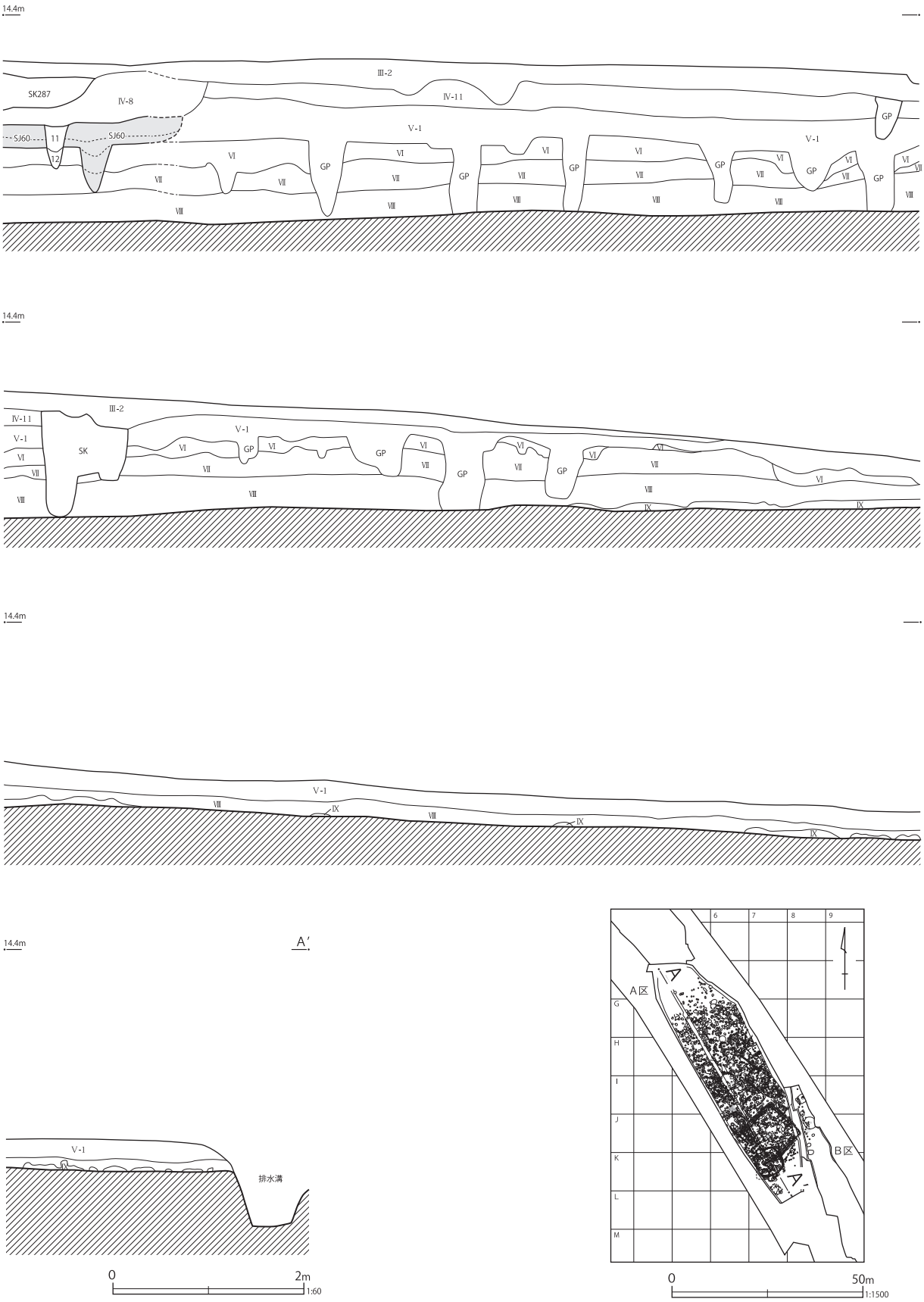
第13図　長竹遺跡南盛土分割図（4）



第14図　長竹遺跡南盛土分割図（５）



第15図　南盛土基本土層（1）



第16図　南盛土基本土層（2）

南盛土　基本土層

Ⅰ-1　灰褐色土　粘質　褐色土小ブロック（少）　ローム質土ブロック混入　遺物（少）　しまり（良）
Ⅰ-2　暗褐色土　シルト質　灰黄色粘土を間層状に含む　遺物（中）　しまり（良）
Ⅰ-3　暗灰褐色土　粘質　遺物（少）　しまり（中）
Ⅰ-4　暗灰褐色土　粘質　遺物（微）　しまり（良）
Ⅰ-5　灰黄色土　シルト質　黄灰色粘質土小ブロック帯状層　しまり（中）
Ⅰ-6　黒褐色土　粘質　褐色土小ブロック斑状に含む　灰色粘土小ブロック帯状層　炭化物含む　しまり（欠）
Ⅱ-1　茶褐色土　粘質　ローム質土ブロック主体　明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-2　茶褐色土　粘質　ローム質土ブロック主体　灰褐色土ブロック（少）　遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-3　灰褐色土　粘質　ローム小ブロック（少）　遺物（微）　しまり（中）
Ⅱ-4　褐色土　シルト質　ローム質土ブロック主体　焼土粒子・炭化物粒子含む　遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-5　灰黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック・暗褐色土との混土　暗褐色土ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子（少）　炭化物帯状層含む　しまり（良）
Ⅱ-6　黄褐色土　粘質　ローム質土主体　炭化物粒子・遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-7　暗黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック（多）　暗褐色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
Ⅱ-8　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
Ⅱ-9　褐色土　粘質　暗褐色土・ローム質土との混土　しまり（良）
Ⅱ-10　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック（微）　焼土粒子・炭化物粒子（少）　骨片含む　しまり（中）
Ⅱ-11　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック（少）　炭化物粒子を斑状に含む　遺物（微）　しまり（中）
Ⅱ-12　褐色土　粘質　ローム質土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物粒子含む　遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-13　暗褐色土　シルト質　灰褐色土ブロック（少）　鉄分沈着　しまり（良）
Ⅱ-14　灰褐色土　粘質　灰褐色粘土主体　暗褐色土（少）　しまり（良）
Ⅱ-15　灰褐色土　粘質　灰褐色粘土（多）焼土粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
Ⅱ-16　暗褐色土　粘質　焼土粒子・炭化物粒子（径５㎜）（少）　鉄分沈着　しまり（良）
Ⅱ-17　褐色土　粘質　ローム質土・暗褐色土との混土　しまり（良）
Ⅱ-18　灰褐色土　粘質　灰褐色粘土主体　しまり（中）
Ⅲ-1　暗灰褐色土　粘質　遺物（少）　しまり（中）
Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）　焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅲ-3　褐灰色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　骨片含む　遺物（多）　しまり（欠）
Ⅲ-4　黒褐色土　粘質　焼土粒子（径１～７㎜）・炭化物粒子（径１～２㎜）・白色粒子（骨片）含む　遺物（多）　粘性（強）　しまり（良）
Ⅲ-5　黒色土　粘質　炭化物（多）　灰色粘土含む　遺物（少）　しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり
Ⅲ-6　黒色土　粘質　炭化物（多）　暗褐色土との混土　遺物（少）　しまり（中）
Ⅳ-1　暗褐色土　粘質　暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土　遺物（微）　しまり（良）
Ⅳ-2　暗褐色土　粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物粒子含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）
Ⅳ-3　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　遺物（中）　しまり（中）
Ⅳ-4　褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム粒子・焼土粒子含む　骨片（少）　しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-5　黒褐色土　シルト質　炭化物（多）　ローム粒子・焼土粒子含む　遺物（中）　しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-6　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径10㎜）（多）　焼土粒子（少）　骨片（少）　遺物（多）　しまり（中）
Ⅳ-7　黒褐色土　粘質　焼土粒子含む　骨片（微）　粘性（中）　しまり（中）　遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-8　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子・骨片含む　ロームブロック（径５～20㎜）（多）　しまり（良）　遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-9　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土　炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（中）　しまり（良）
Ⅳ-10　黒褐色土　シルト質　黒褐色土主体　明褐色土ブロック含む　炭化物粒子（多）　遺物（中）　粘性（弱）　しまり（欠）
Ⅳ-11　褐色土　粘質　暗褐色土・褐色土ブロックとの混土　粘性（強）　しまり（良）
Ⅳ-12　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-13　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（良）
Ⅴ-1　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・遺物（少）　ローム小ブロック（微）　しまり（中）
Ⅴ-2　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム小ブロック・遺物（微）　しまり（良）
Ⅴ-3　灰黄褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（微）　しまり（良）
Ⅴ-4　にぶい黄褐色土　ロームブロック（少）　焼土粒子（微）　粘性（弱）　しまり（欠）
Ⅴ-5　褐色土　粘質　炭化物粒子（微）　ロームブロック（少）　底面炭化物帯状層　しまり（中）　遺構覆土の可能性あり
Ⅴ-6　灰黄褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（微）　しまり（良）
Ⅵ　にぶい黄褐色土　ソフトローム対応
Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）
Ⅷ　暗黄褐色土　ブラックバンド
Ⅸ　灰黄褐色土　ハードローム
Ⅹ　灰黄褐色土　武蔵野ローム

南盛土　盛土土層

①　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（少）　しまり（欠）
②　暗褐色土　粘質　炭化物（径10㎜）（中）　しまり（中）
③　黒色土　シルト質　炭化物　骨粉（少）　しまり（欠）
④　褐色土　シルト質　焼土・ローム粒子（多）　しまり（中）
⑤　黒褐色土　粘質　炭化物（多）　骨粉（微）　遺物（少）　しまり（中）
⑥　暗褐色土　シルト質　焼土（多）　ローム粒子含む　しまり（中）
⑦　暗褐色土　粘質　炭化物（中）　焼土・骨片含む　遺物（少）　しまり（中）
⑧　黒褐色土　シルト質　焼土・炭化物との混土　しまり（欠）
⑨　暗褐色土　粘質　炭化物（多）　遺物（少）　しまり（中）
⑩　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（微）　しまり（欠）
⑪　褐色土　粘質　炭化物（多）　焼土（微）　遺物（少）　しまり（中）
⑫　黒褐色土　シルト質　炭化物層　骨粉（微）　しまり（中）
⑬　暗褐色土　粘質　炭化物（中）　焼土・骨粉・遺物（少）　しまり（良）
⑭　暗褐色土　粘質　炭化物（多）　しまり（欠）
⑮　黒褐色土　粘質　炭化物（多）
⑯　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（中）　焼土粒子（多）　骨粉（微）　遺物（少）　しまり（中）
⑰　灰褐色土　粘質　炭化物・灰色粘質土（多）　遺物（少）　しまり（欠）
⑱　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（少）　しまり（中）
⑲　暗褐色土　粘質　炭化物（中）　焼土（少）　骨粉（微）　しまり（中）
⑳　暗褐色土　粘質　炭化物（多）　骨粉（中）　遺物（多）　しまり（中）
㉑　褐色土　粘質　炭化物（中）　焼土（少）　ローム粒子（多）　骨粉（少）　しまり（良）
㉒　暗褐色土　粘質　炭化物（中）　ローム粒子（少）　骨粉（微）　しまり（中）
㉓　黒褐色土　シルト質　炭化物層　焼土（微）　遺物（微）　しまり（欠）
㉔　暗褐色土　粘質　炭化物・焼土（中）　遺物（少）　しまり（中）
㉕　黒褐色土　粘質　炭化物（径５～20㎜）（中）　ローム粒子・骨粉（少）　しまり（中）
㉖　暗褐色土　シルト質　炭化物帯状層　骨粉（少）　しまり（欠）
㉗　黒褐色土　粘質　炭化物（径20～30㎜）・焼土・ローム粒子（多）　遺物（少）　しまり（中）
㉘　黒褐色土　粘質　炭化物（径20～40㎜）・焼土・ローム粒子（多）　しまり（中）
㉙　黒色土　シルト質　炭化物（径20～50㎜）・焼土・ローム粒子（多）　しまり（欠）
㉚　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（良）
㉛　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（中）　遺物（多）　しまり（欠）

第40号住居跡

1　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
2　黒色土　粘質　炭化物（径20㎜）（多）　焼土粒子（少）　しまり（中）
3　褐色土　粘質　炭化物（径１～５㎜）・焼土粒子（径１～３㎜）（多）　しまり（中）
4　黒色土　粘質　炭化物・焼土粒子・遺物（多）　骨片含む　しまり（欠）

南盛土　グリッドピット土層

1　黒褐色土　粘質　炭化物（微）　明灰褐色土小ブロック（少）　粘性（中）しまり（欠）
2　暗褐色土　粘質　炭化物・遺物（少）　粘性（中）　しまり（中）
3　暗灰褐色土　ローム粒子（少）　粘性（強）　しまり（中）
4　黒褐色土　焼土粒子・ローム粒子含む　ＳＪ44の柱穴の可能性あり
5　暗褐色土　粘質　ローム粒子含む
6　黒褐色土　粘質　焼土粒子含む　ロームブロック・炭化物（多）　粘性（強）　しまり（中）
7　暗褐色土　粘質　ロームブロック含む　焼土（微）　粘性（中）　しまり（中）
8　暗黄褐色土　粘質　ローム粒子（中）　粘性（中）　しまり（中）
9　黒褐色土　粘質　炭化物（少）　骨粉・焼土含む　遺物（少）　粘性（中）　しまり（中）
10　黒褐色土　粘質　炭化物（少）　暗褐色土小ブロック（中）　粘性（中）　しまり（欠）
11　暗黄褐色土　焼土粒子（少）　ローム小ブロック含む　粘性（中）　しまり（良）
12　暗黄褐色土　炭化物粒子含む　粘性（中）　しまり（欠）

＊以下の土層注記は、盛土編報告書　土層断面図に記載

Ⅰ-2～6　Ⅱ-1～3　Ⅲ-1　Ⅳ-10～13　Ⅴ-2～4　Ⅹ

第17図　南盛土基本土層（３）

Ⅳ　南盛土の遺構

１．住居跡

住居跡の分布は盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。開始期にあたる後期前葉段階の第59号住居跡は、盛土のやや内側（窪地側）で検出された。後期中葉の住居跡は前葉の住居跡より外側に広がるが、盛土最高地点よりはやや内側に位置していた。多くの住居跡に建て替えが行われていた。後期後葉の住居跡は盛土外縁側にまで広がり各住居跡の間隔が開くものの大形化し、重複･建て替えの回数も増加している。特に、「大形竪穴建物址」である第43号住居跡は最も標高の高い一画を占め、最低２回の建て替えが行われ晩期初頭まで長期間使用されていた。晩期の住居跡は、盛土の外側と内側に分かれるようであるが、第２の規模を誇る第40号住居跡を除き、ほとんどが規模を縮小している。さらに、中葉に入ると住居跡は検出されず、焼土跡が同期の包含層と共に検出されている。また、盛土内側の傾斜面沿いに、土壙や円形柱穴列、多数の小形ピット等が検出されるようになる。

一方、プランの上では、後期前葉が円形プランであるのに対し、中葉では、円形から「D」字型に移行し、後葉前半には隅円方形となり、後半では方形プランが定着した。晩期前葉までは方形プランは踏襲されるが、小形住居跡はプランが不明瞭となっていた。

第14号住居跡（Ⅰ－第18図）遺物（Ⅱ－第191・228図）

Ｂ区Ⅰ－８グリッドに所在した。上層に焼土跡２・３が重複していた。また、西側で第38号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の東側外縁部傾斜面上に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び周囲に貼床が検出されたため、住居跡と認定した。調査区が狭小のため、壁面の検出には至らなかった。なお、Ｂ区基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

規模及び主軸方位は不明であった。貼床の範囲は長径約3.30m、短径約2.10mの不整形で、厚さは0.05mであった。貼床はほぼ平坦であった。貼床のほぼ中央に炉跡が検出された。炉跡は長径1.15m、短径0.75m、深さ0.12mで、不整形の地床炉であった。

柱穴は南側に３本、北側に１本の合計４本が検出された。0.15m前後で浅い掘り込みであった。他の柱穴は調査区外に想定された。

覆土は後・晩期包含層を切り込んで２層あり、レンズ状の堆積であったが、壁の立ち上がりは不明瞭であった。

遺物は遺構検出面付近で出土した。後期後葉の深鉢形土器をはじめ、晩期前葉にかけての土器破片が出土しており、所属時期は層位的状況を踏まえ、晩期前葉と考えられる。

第37号住居跡（Ⅰ－第19～23図）遺物（Ⅱ－第191・228～230・350・360・382・383・392・405図）

Ａ区Ｈ－６・７グリッドに所在した。第46・48・50・56～58号住居跡と重複し、いずれの住居跡も切っていた。また、住居跡北西辺壁際で、伸展葬の人骨が出土した第277号土壙に切られていた。第324・325号土壙の上層で検出された。遺構の一部は調査区外であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡２基及び床面（焼土分布範囲）が検出されたため、住居跡と認定した。なお、調査区東壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

住居跡は炉跡が２基重複し、壁柱穴も２列検出されたことから、建て替え住居跡である。長軸7.50

m、調査区内短軸5.45mの方形で、壁高は最も深い部分で0.25mであった。主軸方位はＮ－50°－Ｅを指す。

床面は平坦で、炉跡周囲に貼床があった。壁際に沿って厚さ0.1mほどの焼土の盛り上がりが認められた。

炉跡は新旧２基が重複して検出された。新炉(炉跡１）は長径0.93m、短径0.75m、深さ0.31mで、円形の地床炉であった。旧炉(炉跡２)は径1.00m、深さ0.42mで、円形の地床炉であった。いずれの火床面もよく焼けており、層中に多量の灰が堆積していた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ４・６の２本で調査区外に想定される２本を含めて４本柱が想定された。

入り口部は南西辺壁際中央の住居跡内に炉跡と軸線を合わせて「コ」の字状に配置され、Ｐ36～51までの16本であった。

壁柱穴は壁際の焼土の盛り上がり内側に沿っていた。南西辺壁側と南東辺壁側は一部２列に配置され、径0.2m前後の杭状の掘り込みで合計66本であった。覆土は後期包含層を切り込んで２層あり、第46・50・56・57号住居跡を埋め立てて貼床を構築していた。

遺物は遺構検出面付近で出土した。後期後葉の台付鉢形土器、土製品、石皿･砥石等が出土した。このほか覆土中から、後期前葉から晩期前葉にかけての鉢・台付鉢・深鉢形土器、弭形製品と推測される骨製品等が出土した。所属時期は床面出土土器から、後期後葉と考えられる。

第38号住居跡（Ⅰ－第24・25図）遺物（Ⅱ－第191・192・231・232・337・342・350・360・373・376・396・401図）

Ａ区Ⅰ－７・８グリッドに所在した。第40・47号住居跡と重複し、第47号住居跡を切っていた。第40号住居跡に切られていた。また、西側で第43号住居跡と、東側でＢ区第14号住居跡と隣接していた。

遺構の一部は調査区外であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び床面（焼土分布範囲）が検出されたため、住居跡と認定した。

住居跡は炉跡が検出されたほか、南側に1列の壁柱穴列が検出された。壁の立ち上がりは検出されなかった。検出範囲は推定長軸5.50m、推定短軸5.35m、深さ0.10mで、主軸方位は不明であった。壁柱穴列の配置から方形プランが想定される。

床面は平坦で、炉跡周囲に0.1mほどの焼土の盛り上がりと炭化材が分布していた。

炉跡は長径1.15m、短径1.00m、深さ0.18mで、円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、層中に少量の灰と炭化物が堆積していた。

柱穴は南側で壁柱穴が１列検出されたが、主柱穴及び、入り口部にかかわる柱穴は検出されなかった。壁柱穴はＰ１～10までの10本が検出され、径0.3m前後、深さ0.8m前後の深い掘り込みであったと考えられる。

住居跡の覆土と上層の晩期包含層との判別は明瞭ではなかった。

遺物は炉跡周囲の遺構検出面付近で出土した。炉跡北側で籃目土器・深鉢形土器が出土した。炉跡の東西では、耳飾り・土偶等の土製品が出土した。炉跡の南側では石棒・石鏃等の石器が出土しており、製品別の配置が窺われる。このほか覆土中から、前期中葉から晩期中葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は第40・47号住居跡の重複関係と床面出土土器から、晩期前葉と考えられる。

第39号住居跡（Ⅰ－第26図）遺物（Ⅱ－第232・233・350・360・381・385・399図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６グリッドに所在した。第41・50・58・59号住居跡と第306・309・330号土壙と重複していた。いずれの住居跡と第330号土壙を切っていた。遺物集中19が下層から検出された。

第306・309号土壙との重複関係は不明であった。また、住居跡東辺際で、第37号住居跡と隣接していた。

環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び床面（壁際焼土分布範囲）が検出されたため、住居跡と認定した。柱穴等は検出されなかった。

壁際焼土堆積層の形状から推定し、長軸5.90m、短軸4.50mの方形が想定される。主軸方位は不明であった。壁の立ち上がりは検出されなかった。

床面は平坦で、一部貼床が検出された。壁際に沿って厚さ0.1mほどの焼土の盛り上がりが南辺側と北辺側で検出された。また、炉跡の南側の広範囲と、北側一部で多量の骨片が散布して出土した。

炉跡は長径1.10m、短径0.85m、深さ0.40mで、円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、覆土上層に灰白色粘土を含む灰と炭化物が堆積していた。住居跡覆土と盛土包含層覆土との区別は明瞭ではなかった。

遺物は遺構検出面付近で少量出土した。北西際で軽石製の舟形石器が、西側で十字形の切り目土錘が出土した。このほか覆土中から、後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は重複住居跡より上層に位置していることから、後期後葉以降と考えられる。

第40号住居跡（Ⅰ－第27～38図）遺物（Ⅱ－第192～198・233～246・337・338・342・343・350・351・361・375～393・395・398～403・405図）

Ａ区Ⅰ・Ｊ－６・７グリッドに所在した。第38・43・45・47・48・55号住居跡と第317・327号土壙・第43号住居跡内２・３号土壙と重複していた。第38・43・45・47・48号住居跡、第317・327号土壙・第43号住居跡内２号土壙を切っていた。第55号住居跡が下層から検出された。焼土跡14が上層から検出された。第43号住居跡内３号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡２基及び床面（焼土分布範囲）、杭列（壁柱穴）、横木（地覆材）が検出されたため、住居跡と認定した。南盛土では２番目に大きい住居跡である。

住居跡は炉跡が２基重複していた。また、入り口部が南東辺中央と南西辺中央の２箇所検出されたことから、建て替え住居跡であった。

規模は長軸9.20m、短軸9.12mの方形で、壁高は最も深い部分で0.15mであった。主軸方位は建て替え前でＮ－40°－Ｗ、建て替え後でＮ－49°－Ｅを指す。

床面は西側では比較的平坦であるが、東側ではやや凹凸があった。住居跡の東側と北側に焼土の空白区域があるが、それ以外の範囲は、厚さ0.05m前後の焼土を含む貼床が検出された。

炉跡は新旧２基が重複して検出された。新炉（炉跡１）は旧炉（炉跡２）よりやや高く構築されていた。新炉（炉跡１）は長径1.39m、短径1.26m、深さ0.30mで、円形の地床炉であった。旧炉（炉跡２）は長径1.62m、短径0.98m、深さ0.34mで、円形の地床炉であった。いずれの火床面もよく焼けており、層中に骨片を含む多量の灰が堆積していた。また、炉跡1は、最上面中央が灰混じりの灰白色粘土で覆われていた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～５の５本で、Ｐ２とＰ３が重複して検出された。炉跡を中心としてコーナー側対角線上に４本が配置されていた。

入り口部は南東辺中央と南西辺中央の２箇所で検出された。旧入り口部は、Ｐ13・15のやや大形で掘り込みの深い対ピットが該当する。この対ピット間からは、炭化した横木（地覆材）が出土した。横木の南壁際からは赤色顔料が出土した。新入り口部は、Ｐ19・21・22・29～31・33～35・89・90の11本で台形状に張り出して検出された。この張り出しに伴う土層が南北ベルト基本土層断面上で確認された。

壁柱穴は床面検出に伴い、炭化した杭列が周回して検出された。径0.05mほどの割材が主体であった。炭化杭の掘り込みは明確ではなく、多くが打ち込まれた状況であった。

なお、炭化杭８点、横木１点の樹種同定分析を行った結果、全てがクリ材であることが判明した。

これとは別に、柱穴検出のため床面下掘り下げによって、径0.2m前後の杭状の掘り込みを持つ壁柱穴が検出された。これらの壁柱穴は、建て替え前の住居跡に伴うものと推測される。このほか、炉跡東側で小形の柱穴５本が列状に検出された。住居跡の覆土と盛土包含層との区別は明瞭ではなかった。また、下層の第43・45号住居跡を埋め立て新旧炉跡にレベル差があったことから、建て替えに伴い床面の構築、貼り替えが行われていた。

遺物は遺構検出面付近で出土した。住居跡壁寄り、コーナー、入り口部等から纏まって出土した。南東辺入り口部壁際からは、炭化した横木に沿って完形の大形石棒とその脇から欠損した石剣が出土した。南西辺入り口部左脇からは、完形の石剣２本が約半分をずらし、それぞれ磨石１点ずつ伴って配置された状況で出土した。周囲からは、耳飾り・土版等の土製品、欠損した石剣・石皿・砥石等の石器が出土した。北側コーナーからは、注口土器・浅鉢・深鉢形土器の破片と伴に、耳飾り・土偶・ミニチュア土器等の土製品、独鈷石・石棒・石剣・石皿・磨石等の石器が出土した。東側コーナーでは、鉢形土器と磨石２点が出土した。南側コーナーでは、注口土器と浅鉢形土器が各１個体ずつ出土した。西側コーナーでは、２次焼成された小形深鉢形土器１個体のほか、２個体の深鉢形土器と独鈷石１点が重なって出土した。隣接した壁際からは、瓢形土器と共に耳飾り・動物形土製品（舟形土製品）、打製石斧・台石・磨石等が出土した。炉跡北側２箇所では、深鉢形土器、手燭形土器が纏まって出土した。南西辺から南東辺壁際及び、炉跡周囲からは合計５点の耳飾りが出土した。このほか覆土中から、早期から晩期中葉にかけての注口土器・鉢・深鉢形土器等が出土した。なお、竪櫛と推測される木質で漆膜が残る断片も出土した。所属時期は床面出土土器から、晩期前葉と考えられる。

第41号住居跡（Ⅰ－第39・40図）遺物（Ⅱ－第198・246・387図）

Ａ区Ｈ－６グリッドに所在した。第39・50号住居跡と重複し、第39号住居跡に切られていた。第50号住居跡との重複関係は不明であった。また、東側で第37号住居跡と西側で第60号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び硬化面（床面）が検出されたため、住居跡と認定した。硬化面（床面）は炉跡周囲に限られ、壁の立ち上がりは検出されなかった。検出された柱穴は、炉跡精査後硬化面（床面）を掘り下げて検出したため本来の柱穴の深さは失われている。また、住居跡の大きさは、柱穴の範囲から推定した。

推定長径は7.20m、推定短径5.40mの楕円形であった。主軸方位は不明であった。炉跡の周囲からは焼土の堆積は検出されなかった。

炉跡は住居跡の中央に位置し、長径0.75m、短径0.62m、深さ0.19mで、円形の地床炉であった。炉跡の火床面はよく焼けており、下層中に粘土化した灰と炭化物が堆積していた。

柱穴は、炉跡から約３～４ｍの範囲で周回する壁柱穴が検出された。主柱穴は検出されなかった。壁柱穴は径0.2～0.3mで、深さ0.1～0.8mの掘り込みの浅いものと深いものが合計36本検出された。入り口部に関連する柱穴を特定することはできなかった。

遺物は炉跡東側に近接して、深鉢形土器１個体と磨石１点が出土した。このほか覆土中から、後期初頭から後葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は床面出土土器から、後期中葉と考えられる。

第42号住居跡（Ⅰ－第41図）遺物（Ⅱ－第247・343・382・396・401図）

A区H－6グリッドに所在した。北側で第4・5号柱穴列と南東側で第41・50号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩斜面に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び硬化面（床面）が検出されたため、住居跡と認定した。壁の立ち上がりは検出されなかった。炉跡精査後、硬化面(床面)を掘り下げ柱穴の精査を実施したが、住居跡に伴う柱穴を特定することはできなかった。

規模及び形状と主軸方位については不明であった。炉跡周囲から硬化面（床面）が検出されたが狭い範囲であった。

炉跡は長径0.96m、短径0.72m、深さ0.24mで、楕円形の地床炉であった。炉跡の火床面はよく焼けており、掘り方に粘土が充填され焼土化していた。住居跡覆土と盛土包含層覆土との区別は明瞭ではなかった。

遺物は遺構検出面付近で出土した。前期初頭から晩期前葉にかけての深鉢形土器、砥石・石皿・石棒等が出土した。所属時期は後期後葉から晩期前葉と考えられる。

第43号住居跡（Ⅰ－第42～79図）

A区Ⅰ－7、J－6～8、K－7グリッドに所在した。第40・44・55・61・64・67号住居跡と第328・329・333～335・337号土壙・第43号住居跡内2～8号土壙と重複していた。第44・55・61・67号住居跡と第333～335・337号土壙・第43号住居跡内2・3号土壙を切っていた。第1号埋甕、焼土跡5・14・23～26が上層から検出された。第40・64号住居跡と第328・329号土壙・第43号住居跡内4～8号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央からやや外縁部緩傾斜面に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡10基及び床面（焼土分布範囲）、杭列（壁柱穴）、横木（地覆材）が検出されたため、住居跡と認定した。南盛土では最大の住居跡「大形竪穴建物址」である。

炉跡は住居跡の中央で主炉が3基重複していた。また、補助炉が主炉の西・北東・北西側で合計7基検出された。入り口部は南西辺側で重複部も含めて3箇所検出された。主柱穴は9本のうち最大3本が重複して検出された。壁柱穴は壁周溝を伴うものを含めて3列検出され、最終段階では、炭化した杭の列と横木（地覆材）が検出された。住居跡内施設の重複状況から、2回ないし3回の建て替えを伴う住居跡であった。建て替えの順序は第43c号住居跡→第43b号住居跡→第43a号住居跡で、c→b間は拡張建て替えとなり、b→a間はわずかに縮小して建て替えていた。また、各建て替えとも主柱穴P1を軸に、炉跡の位置をわずかにずらして建て替えていた。

なお、住居跡の覆土は、南北ベルト基本土層断面上で検出された。また、住居跡が最終的には焼失によって廃絶していたことが判明した。

第43a号住居跡（Ⅰ－第44～58・74～79図）

遺物（Ⅱ－第199～210・247～272・338～340・343～348・351～356・362・363・373～397・399～406図）

最終段階の住居跡「大形竪穴建物址」であった。長軸11.48m、短軸11.10mの方形で、壁高は最も深い部分で0.24mであった。壁高は南北ベルト基本土層断面上で確認された。主軸方位はN－45°－Eを指す。

床面は主炉（炉跡1）の周囲が最も高く、西側では比較的平坦であるが、南東側は、第64号住居跡、土壙等の影響を受け傾斜していた。炉跡の北側には、5基の土壙が重複して検出された。さらに北西辺壁寄りには重複して2基、西側コーナー寄りに1基の土壙が検出された。第43号住居跡内2・3号土壙を切っていた。他の土壙は住居跡構築前に構築されていた。また、炉跡1西側には、貼床下に第327号土壙が検出された。第43b号住居跡よりも新しく第43a号住居跡より古かった。

このほか、住居跡内の各所に浅い窪地があった。

これらの浅い窪地を除いてほぼ一面に厚さ0.05～0.1mの焼土を含む貼床が検出された。貼床は固くしまっていた。主炉（炉跡１）の北側から西側にかけては、炭化した敷物が検出された。敷物は植物繊維が十字に組まれた状態で検出された。北側コーナー及び、西側コーナー付近では、屋根材の一部が落下したと考えられる細長い帯状の窪みと灰層の堆積が検出された。

なお､南西辺側を除く壁際では､炭化杭と横木(地覆材）を覆って、灰と焼土の互層が0.1mほどの厚さで盛り上がっていた。

炉跡は主炉３基が一列に重複して検出されたが、当該期のものは、最も南側に位置する炉跡１であった。長径1.23m、短径1.21m、深さ0.30mで、円形の地床炉であった。火床面は非常によく焼けており、最上層は灰白色粘土・骨片を含む灰層で固く踏みしめられた状態で検出された。また、層中には骨片を含む多量の灰の互層が堆積していた。

補助炉は主炉の北東側に１基（炉跡４）と北西側に１基（炉跡６）が検出された。主炉と合わせて逆三角形の配置となっていた。炉跡４は長径0.56m、短径0.45m、深さ0.20mで、炉跡６は長径0.87m、短径0.68m、深さ0.24mで、円形の地床炉であった。いずれも火床面はよく焼けており、層中に灰が堆積していた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～５の５本で、Ｐ５はＰ４の補助柱穴と考えられる。炉跡を中心としてコーナー側対角線上に配置されていた。径約0.8m、深さ1.2mの略円形の掘り込みで、柱痕の径は0.3mであった。なお、Ｐ１は、住居跡構築当初から一貫して据え替えがなされておらず、南北ベルト基本土層断面上で住居跡廃絶後も残存していたことを示す堆積状況であった。

入り口部は南西辺中央やや西寄りで検出され、３基連接した主炉との中央軸線よりずれていた。炉跡１の南側0.6mから壁側に向かい「コ」の字状に柱穴が周回していた。入り口部は、南西壁面をわずかに張り出す程度でとどまって検出された。柱穴は径0.2m前後で深さ0.8m前後の杭状の掘り込みで、列状に並び西側一部は周溝を伴っていた。

壁柱穴は床面検出に伴い、炭化した杭列が周回して検出された。径0.05mほどの割材が主体であった。炭化杭上面は材として残存していたが、掘り込み土中以下は消滅していた。炭化杭は最終的に住居の廃絶に伴う焼失によって炭化した部分のみが残存したものであった。炭化杭の掘り込みは杭径より広いが底面は尖塔状で打ち込まれた状況であった。また打ち込み角度が垂直の杭と、壁面側に向かって斜めに打ち込まれた杭があった。

なお、炭化杭８点、横木１点の樹種同定分析を行った結果、全てがクリ材であることが判明した。

これとは別に、土層断面上で壁際に床面構築に伴う幅広い周溝状の掘り込みが検出され、住居跡北側コーナー付近及び、南東辺壁面で連続して、炭化杭の前面に横木(地覆材)の一部が検出された。横木の底面に沿っては、住居跡床面上または貼床面から壁際に向かってやや落ち込むように、0.01m前後の炭化物の薄い帯状層が堆積していた。

遺物は遺構検出面（床面）付近で出土した。混入等が認められるが、いずれも最終段階の住居跡に伴っていて土器、土製品、石器、骨製品と多種にわたって出土した。５本の主柱穴を結んだ炉跡を囲む方形区画より外側から壁際にかけて多く出土した。

炉跡４と炉跡８の間で深鉢形土器２個体がつぶれた状態で出土した。また、入り口部周囲でも纏まって出土した。耳飾りは北側コーナーから北西辺壁寄りにかけてと、東側コーナーから南東辺壁寄りにかけて出土した。土偶・動物形土製品は、炉跡９の北側と北側コーナー寄り、南側コーナーから南東辺壁寄りにかけて出土した。

石棒・石剣は北側コーナーから１本、南側コー

ナー寄りから１本、北東・南東辺壁際寄り、Ｐ４脇から欠損してそれぞれ１本ずつ出土した。石鏃は炉跡１の奥側で２点が出土した。垂飾は北東辺壁際、南東辺壁際からそれぞれ１点が出土した。北西辺北側壁際からは、灰と焼土の盛り上がり層中から、２次焼成を受けた異形台付土器１点、磨石３点、石皿１点が纏まって出土した。最終段階の住居跡の焼失に伴う焼土・灰層で覆われていたことから、最終段階の住居跡に確実に伴う資料であった。骨製品についても焼失に伴う灰層から出土した。骨製刺突具は、北東辺壁際中央から３点が並んで出土した。また、南東辺壁際から１点、南西辺入り口部脇から２点出土した。

このほか覆土中から、早期から晩期中葉にかけての注口土器・台付鉢・鉢・深鉢形土器、土偶・異形土製品・耳飾り・土製円盤・手燭形土器・ミニチュア土器等の土製品、石鏃・二次加工剥片・打製石斧・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・石皿・軽石類・石錐・独鈷石等の石器が出土した。また、焼土を含む床面及び直上からは、後期後葉から晩期前葉にかけての鉢・深鉢形土器等が出土した。所属時期は床面出土土器から、後期後葉から晩期初頭と考えられる。

なお、焼土を含む床面（貼床）内から出土した土器（Ⅱ－第272図686～729）は、前期から後期後葉までの土器で、ほとんどが径３㎝以下の小破片であった。またこれらの土器は破砕されたもの、２次焼成を受けているものと受けていないものがあった。

第43ｂ号住居跡（Ⅰ－第59～66図）

第43号住居跡中最大規模の拡張建て替え住居跡「大形竪穴建物址」であった。長軸12.90m、短軸12.37mの方形であった。壁高については第43ａ号住居跡の床面掘り下げ後に柱穴・壁溝のみを検出したので、不明であった。主軸方位はＮ－45°－Ｅを指す。

床面は第43ａ号住居跡床面とほぼ同一レベルであったと推測される。炉跡２の西側は、第327号土壙に切られていた。

主炉は３基連接のうち中央の炉跡２が該当した。長径1.14m、短径0.83m、深さ0.41ｍで、円形の地床炉であった。火床面は非常によく焼けており、最上層は炭化物・灰白色粘土・骨片を含む灰層で､固く踏みしめられた状態で検出された｡また、層中には骨片を含む多量の灰と焼土の互層が堆積していた。

補助炉は主炉の北東側で炉跡４に切られて１基（炉跡５）と北西側で炉跡６に切られて１基（炉跡10）が検出された。主炉と合わせて逆三角形の配置となっていた。炉跡５は長径0.58m、短径0.52ｍ、深さ0.22mで、炉跡10は長径0.68m、短径0.46m、深さ0.21ｍで、円形の地床炉であった。いずれも火床面はよく焼けており、炉跡５には灰層が堆積していた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～４の４本であった。炉跡２を中心としてコーナー側対角線上に配置されていた。径約0.7m、深さ0.6m～1.2mの略円形の掘り込みであった。柱痕の径は第43ａ号住居跡に壊されていて不明であった。なお、Ｐ1は、第43ａ号住居跡と共用であった。

入り口部は南西辺中央で３基連接した主炉と軸線を同一にしていた。炉跡２の南側3.2mで幅0.8mの間隔をあけ、壁際に並行する長径約1.5m、短径約0.6m、深さ約0.5mの対ピットは、Ｐ12～23までの12本が検出された。対ピットからは「コ」の字状に周溝を伴う小柱穴が周回していた。入り口部は南西辺壁面から外側に1.2m張り出して検出された。柱穴は径0.1m前後で深さ0.2m前後の杭状の掘り込みで、間隔をあけて17本が列状に周回していた。

壁柱穴は上層の遺構の影響を受けた南西辺壁面の一部を除いて、幅広い周溝状の掘り込み内から間隔をあけ、列状に検出された。径0.1～0.2m前後、

深さ0.2～0.7m前後の円形の小柱穴であった。断面形状は、杭状で底面が尖塔状となるものと平坦なものの２種類が検出された。

これとは別にe列として壁周溝の内側にも小柱穴が周回して検出された。これらｂ・ｅの壁柱穴を合わせて173本であった。

第43ｃ号住居跡（Ⅰ－第67～73図）

第43号住居跡で最初に建てられた住居跡「大形竪穴建物址」であった。長軸12.29m、短軸10.70mの方形であった。壁高については第43ａ号住居跡の床面掘り下げ後に第43ｂ号住居跡と共に柱穴・壁溝のみを検出したので、不明であった。主軸方位はＮ－45°－Ｅを指す。床面は第43ａ号住居跡床面とほぼ同一レベルであったと推測される。

主炉は３基連接のうち北側の炉跡３が該当した。長径0.90m、短径0.75m、深さ0.44mで、円形の地床炉であった。火床面上部は貼床によって覆われていた。火床面下部は非常によく焼けており、最上層は炭化物・灰白色粘土・骨片を含む灰層で、固く踏みしめられた状態で検出された。また、層中は骨片を含む灰と炭化物の互層が堆積していた。

補助炉は主炉の北東側で１基（炉跡８）と北西側で１基（炉跡９）が検出された。主炉（炉跡３）と合わせて変形の逆三角形の配置となっていた。これとは別に炉跡３の西側で小形の炉跡７が検出された。炉跡８は長径0.42m、短径0.40m、深さ0.14mで、炉跡９は長径0.58m、短径0.48m、深さ0.24m、炉跡７は長径0.35m、短径0.28m、深さ0.08mで、円形の地床炉であった。炉跡８・９の火床面はよく焼けており、炉跡９には灰層が堆積していた。炉跡７の火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～４の４本であった。炉跡３を中心としてコーナー側対角線上に配置されていた。径約0.7m、深さ約0.8m前後の略円形の掘り込みであった。柱痕は引き抜き後の埋戻しにより不明であった。なお、Ｐ１は、第43ａ号住居跡と共用であった。

入り口部は南西辺中央で３基連接した主炉と軸線を同一にしていた。炉跡３の南側３ｍで幅1.65ｍの間隔をあけ、壁より離れて径約0.4m、深さ約0.5ｍの対ピットはＰ154～157までの４本が検出された。入り口部の張り出しは大部分を第43ｂ号住居跡によって壊されていた。対ピットからやや離れた壁周溝から「コ」の字状に一部周溝を伴う小柱穴が周回していた。入り口部は南西辺から外側に2.45m張り出して検出された。柱穴は径0.1ｍ前後で杭状の掘り込みであった。

壁柱穴は上層の遺構の影響を受けた南西壁面の一部を除いて、幅の狭い周溝状の掘り込み内から間隔をあけ、列状に検出された。径0.1ｍ前後、深さ0.2～0.9m前後の円形の小柱穴であった。断面形状は、杭状で底面が尖塔状となるものが多く、平坦状なものも検出された。

これとは別にd列として壁周溝の内側にも小柱穴が周回して検出された。内側の柱穴は壁周溝側の柱穴と比べ、径がやや大きく掘り込みは深かった。これらｃ・ｄの壁柱穴を合わせて142本であった。なお、主炉と補助炉の配置から見て、第43ａ・ｂ号住居跡と同様の逆三角形の形態をとる配置は、炉跡７・８・９の３基で構成されていた。よって、第43ｃ号住居跡の前にもう１軒の住居跡が存在していたことも推察できる。

第44号住居跡（Ⅰ－第80～93図）

Ａ区Ｊ・Ｋ－７グリッドに所在した。焼土跡８、粘土塊２が上層から検出された。第43･64号住居跡、第328・329・332号土壙と重複していた。いずれの住居跡、土壙にも切られていた。南側で第65号住居跡と、北側で第67号住居跡と近接していた。また、東側で第３号柱穴列と接していた。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。住居跡と考えられる落ち込みを確認し、炉跡、柱穴、壁周溝、入り口部を検出したため、住居跡と認定した。

住居跡は上下に３軒重複して検出された。もっとも古い第44ｃ号住居跡は、第44ｂ号住居跡と炉跡の一部が重なり、ほぼ同一軸線上で円形であった。第44ｂ号住居跡は第44ｃ号住居跡床面にわずかに貼床を施して床面とし、中央に長方形区画内の円形の炉跡、南東側に「八」の字状に張り出す入り口部のある隅円方形の住居跡であった。もっとも新しい第44ａ号住居跡は第44b号住居跡と軸線が異なり、炉跡が北東側に片寄り、南側と西側の２箇所に張り出した入り口部のある不整方形のプランであった。

なお、第44ｂ号住居跡は第44ｃ号住居跡の拡張建て替えであるが、第44ａ号住居跡は覆土が厚く軸線を異にすることから建て替えであったかどうかは不明であった。

第44ａ号住居跡（Ⅰ－第80～85図）遺物（Ⅱ－第210 ～ 220・272 ～ 289・340・348・349・356・358・364・365・373・375 ～ 380・382 ～ 387・389 ～ 391・393・396・399～401・403・404図）

上下重複のなか最上層で検出された住居跡であった。西辺壁の一部は調査区外であった。長軸9.20m、短軸8.16mの不整方形で、壁高は最も深い部分で0.24mであった。入り口部が南辺と西辺で検出されたため、主軸方位はＮ－７°－Ｅ（新）とＮ－89°－Ｗ（旧）の２方向を指す。また、東辺及び、南辺壁柱穴が２重に廻っており、入り口部の変更と共に建て替えが行われていた。

床面の北西側は第43・64号住居跡の影響を受け、さらに第328・329号土壙に壊されていたため、凹凸があった。そのほかの床面は平坦であった。中央付近の床面には炭化物の薄層があった。北西コーナーから西辺壁際にかけて、焼土の盛り上がりが検出された。

炉跡は北東側に偏り、主柱穴Ｐ１とＰ２の間で合計２基連接して検出された。長径0.75m、短径0.70m、深さ0.05mと長径0.65m、短径0.55m、深さ0.05mの円形であった。いずれの炉跡も第329号土壙による撹乱を受けており、焼土と灰白色粘土を含む灰層が、ブロック状に堆積していた。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～４の４本で、住居跡の形状に沿って配置されていた。径約0.5～１m、深さ0.4～0.75mの略円形であるがＰ３のみ楕円形であった。

入り口部は南辺中央と西辺北寄りの２箇所で検出された。南辺側が新しかった。南辺入り口部は長軸1.80m、短軸1.20mで浅い周溝の中に小柱穴が間隔を置いて配置されていた。周溝の東側一部は第332号土壙によって壊されていた。入り口部対ピットは検出されなかった。なお、南辺側の拡張により入り口部の張り出しは1.2mほど住居跡内側に入った状態となった。

西辺入り口部は幅2.5mで1.2m張り出す半円形であった。西辺壁周溝から外側に径0.01mほどの杭状の小柱穴が列状に検出された。Ｐ26・31・40はやや大きめであった。

壁柱穴は、東辺及び、南辺側で２重となって検出された。内側の壁柱穴は壁周溝を伴っていた。やや幅広で浅い壁周溝中に、径0.1m前後の杭状の柱穴がやや密に検出された。外側の壁柱穴も同様であった。検出された柱穴の本数は合計130本であった。なお、住居跡中央付近にＰ126～129までの４本の掘り込みの浅い柱穴が検出された。

遺物は遺構検出面（床面）付近で出土した。北側は、第43・64号住居跡等の撹乱を受けていたため当該期の遺物は出土しなかった。住居跡南西側で深鉢形土器２個体がつぶれた状態で出土した。周囲から後期後葉の波状口縁深鉢形土器破片が出土した。南辺入り口部周辺で磨製石斧1点と敲石１点が出土した。東辺壁寄りでは、異形台付土器１個体、耳飾り３点、筒状の異形土製品１点、凹石１点、手燭形土器１点、深鉢形土器等が出土した。炉跡北側から西側にかけて浅鉢形土器１点、台付

鉢形土器２点、深鉢形土器破片３点、耳飾り１点が出土した。このほか覆土中から、早期から晩期前葉の浅鉢・台付鉢・深鉢形土器等の土器類、耳飾り・土製円盤・吊手土器・ミニチュア土器・土錘等の土製品、打製石斧・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・石皿・軽石類・独鈷石・石冠・垂飾等の石器が出土した。なお、早期条痕文系土器から中期後葉までの土器が混入して出土した。所属時期は床面出土土器から、後期後葉と考えられる。

第44ｂ号住居跡（Ⅰ－第86～92図）

第44ｃ号住居跡を拡張建て替えした住居跡であった。西壁の一部は調査区外であった。長軸8.31ｍ、短軸7.12ｍの隅円方形で、壁高は最も深い部分で0.10ｍであった。主軸方位はＮ－28°－Ｗを指す。

床面は平坦であった。炉跡を中心として第44ｃ号住居跡の範囲内に貼床が検出された。

炉跡は主柱穴間のほぼ中央に検出された。長軸2.00ｍ、短軸1.30ｍ、深さ0.10ｍの長方形区画内部に、径1.10ｍ、深さ0.32ｍの円形の地床炉が検出された。円形の地床炉内は、骨片を含む灰・炭化物・焼土の互層が堆積し、側縁壁面は、灰白色粘土で覆われ、火床面はよく焼けていた。外側の長方形区画の縁辺部は、礫石の抜去痕が検出された。

なお、方形区画内に分布していた焼土は、第44ｃ号住居跡の炉跡の残骸であったと推察される。

柱穴は主柱穴、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～８の８本で、炉跡を中心として対角線上に配置されていた。Ｐ３・４、Ｐ７・８は重複していた。Ｐ５・６はＰ３・７に対する補助柱穴と推察できる。径約0.4～0.7ｍ、深さ0.35～1.05ｍの略円形であった。柱痕は、Ｐ１が径0.27ｍ、Ｐ６が径0.18ｍであった。

入り口部は南辺中央で検出された。Ｐ11～28までの柱穴が「八」の字状と「コ」の字状を掛け合わせた形状で廻っていた。長軸1.35ｍ、短軸1.25ｍの張り出しが浅い周溝で廻り、周溝内に小柱穴が間隔を置いて配置されていた。入り口部対ピットは、Ｐ９・10が検出された。両柱穴から炉跡方向に小柱穴が列状に検出された。

壁柱穴は、西辺の一部及び、南西コーナーを除いて壁周溝を伴って検出された。また、東西の一部は２列で検出された。径0.1ｍ前後の杭状の柱穴がやや密に検出された。外側の壁柱穴も同様であった。このほかにも、住居跡内各所から柱穴が検出され、その合計は230本であった。

遺物は、床面上からはほとんど出土せず、時期を特定できないが、住居跡の形状から所属時期は後期後葉以前と推察される。

第44ｃ号住居跡（Ⅰ－第93図）

第44号住居跡で最初に構築された住居跡であった。第44ｂ号住居跡と軸線がほぼ同一であった。長径5.35ｍ、短径5.01ｍの「Ｄ」字型に近い不整円形で、壁周溝は検出されたが、壁の立ち上がりは検出されなかった。主軸方位はＮ－27°－Ｗを指す。

床面は平坦で固くしまっていた。

炉跡は主柱穴間のほぼ中央に第44ｂ号住居跡に壊された残骸として検出された。長径0.65ｍ、短径0.56ｍ、深さ0.02ｍの不整形で掘り込みの浅い地床炉が検出された。地床炉内は、比較的よく焼けていた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴にかかわって検出された。主柱穴はＰ１～５の５本で、Ｐ１を頂点として炉跡を五角形に囲む形で検出された。径約0.１～0.45ｍ、深さ0.3ｍ前後の略円形のやや浅い掘り込みであった。

入り口部にかかわる柱穴は不明であるが南側に設けられていたと推察される。

壁柱穴は、南側の一部及び、北側の一部を除いて壁周溝を伴って検出された。幅0.2ｍ前後の浅い掘り込みの周溝内に径0.1ｍ前後の杭状の柱穴がほぼ散漫に検出された。また、南西側では、密集して検出された。合計は37本であった。

遺物は、床面上からはほとんど出土せず、時期を特定できないが、住居跡の形状から所属時期は後期中葉以前と推察される。

第45号住居跡（Ⅰ－第94～97図）遺物（Ⅱ－第220・221・289 ～ 291・341・349・358・365・373・380・381・383・388・389・405図）

Ａ区Ⅰ－６・７グリッドに所在した。第40・48・49号住居跡と第316・319号土壙と重複していた。第48・49号住居跡と両方の土壙を切っていた。焼土跡20が上層から検出された。第40号住居跡に切られていた。また、東側で第47号住居跡と北側で第58号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び硬化面（焼土分布範囲）、炭化杭が検出されたため、住居跡と認定した。硬化面は炉跡周囲及び東側に広く分布し、西側の壁の立ち上がりは検出されなかった。検出された柱穴は、炉跡精査後硬化面を掘り下げて検出したため、本来の柱穴の深さは失われている。

推定長軸5.89m、短軸4.71m、壁高は最も深いところで0.26mの隅円長方形であった。長軸方位はＮ－12° －Ｗを指す。焼土分布範囲はほぼ平坦であったが、東側は、凹凸があった。

炉跡は住居跡の南東側にやや偏って位置し、長径1.20m、短径1.10m、深さ0.38mで、不整楕円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、骨片を含む灰層、炭化物、焼土の互層が堆積していた。

炭化杭は北辺壁際及び東辺壁際、南辺壁際で合計12本が検出された。径0.05m前後の割材を主体とした炭化杭が盛土中に打ち込まれた状態で検出された。

柱穴は、主柱穴及び壁柱穴が検出された。主柱穴はＰ１・２・３の３本で炉跡に近接して三角形で囲むように検出された。約0.6～0.8m、深さ0.4～1.4mの大形の柱穴であった。壁柱穴は北西コーナーから西辺をへて南東コーナーまで検出された。径0.2～0.3m、深さは推定0.6～1.1mの掘り込みの深いものが合計23本検出された。入り口部に関連する柱穴を特定することはできなかった。

遺物は遺構検出面付近から出土した。炉跡西側で大形深鉢形土器１個体と波状口縁深鉢形土器の破片がつぶれた状態で出土した。東辺壁際中央からは、後期後葉の小形深鉢形土器が正位に埋設された状態で出土し、土器内部から、黒曜石の石核（転石）が５点出土した。北辺側では大形の中空土偶脚部１点、耳飾り１点、磨石２点、東辺側及び南辺側では鉢形土器・突起１点、砥石１点が出土した。このほか覆土中から、前期から後期後葉にかけての瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器、石錐・磨石が出土した。所属時期は床面出土土器から、後期後葉と考えられる。

第46号住居跡（Ⅰ－第98図）遺物（Ⅱ－第221・222・291～293・358・366・373・374・383図）

Ａ区Ｈ－６・７グリッドに所在した。第37・50・56・57号住居跡、第277号土壙と重複していた。第50・57号住居跡を切っていた。第37・56号住居跡、第277号土壙に切られていた。また、南側で第324・325号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。第37号住居跡の掘り下げに伴い、住居跡覆土と考えられる落ち込みを確認した。掘り下げ後、炉跡、床面、柱穴、壁の立ち上がり等が検出されたため、住居跡と認定した。住居跡の東側は調査区外であった。南側の壁の立ち上がりは検出されなかった。なお、住居跡覆土が調査区東壁基本土層断面上で、第37・56・57号住居跡と共に検出された。

推定長軸4.30m、調査区内残存短軸3.00m、壁高は最も深いところで0.16mの方形であった。主軸方位は不明であった。床面は平坦であった。第57号住居跡を埋め立てて貼床を構築していた。

炉跡は住居跡やや北寄りの調査区東壁際から検出された。一部が調査区外であった。調査区内長径0.45m、深さ0.16mで、円形の地床炉と推察される。火床面はよく焼けており、上層はロームブロッ

クによる人為的な埋戻しが行われていた。

柱穴は、壁柱穴のみ検出された。壁柱穴は西壁際から西側コーナーにかけＰ１～９までの９本が検出された。径0.1～0.3m、深さ0.2～0.3mで掘り込みは浅かった。入り口部に関連する柱穴を特定することはできなかった。

遺物は床面付近から出土した。北側から砥石2点が出土した。南西コーナー寄りから完形の小形吊手土器が出土した。このほか覆土中から、後期前葉から晩期前葉にかけての浅鉢形土器・注口土器・深鉢形土器、土製円盤、砥石が出土した。所属時期は床面出土土器から、後期中葉から後葉と考えられる。

第47号住居跡（Ⅰ－第99～104図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－７グリッドに所在した。第38・40・48・49号住居跡と重複していた。第48・49号住居跡を切っていた。第38・40号住居跡に切られていた。また、西側で第43・45号住居跡と、北側で第37・58号住居跡と隣接していた。遺構の東側は調査区外であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡２基及び床面（壁際焼土分布範囲）が検出されたため、住居跡と認定した。なお、Ａ区東壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

炉跡がレベルをわずかに上下させて２基重複し、壁柱穴が２列、入り口部が南東側と南西側の２箇所で検出されたことから、軸換えの建て替え住居跡である。

第47ａ号住居跡（Ⅰ－第99・100図）

第47ｂ号住居跡の主軸を南西方向から南東方向に換えて建て替えした住居跡であった。壁の立ち上がりは、東壁基本土層断面上で緩やかな落ち込みが検出されたが、平面上では明瞭な壁の立ち上がりとして検出されなかった。

規模は、壁柱穴列の範囲から推定した。推定長軸7.00m、推定短軸4.95mの円形であった。主軸方位はＮ－65°－Ｅを指す。

床面は炉跡の周囲のみ貼床として検出された。そのほかの部分は不明瞭であった。

炉跡はほぼ中央でＡ区東壁際から検出された。長径0.78m、短径0.57m、深さ0.10mで、略円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、炉跡の周囲に沿って炭化物と中央で灰層の分布が検出された。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は南東壁際で炉跡と軸線を合わせ、蒲鉾形の張り出しが検出された。壁柱穴ラインに沿ってＰ10～20までの11本が検出された。径0.4～0.75m、深さ0.35～0.75mの大形で掘り込みの深い柱穴であった。Ｐ11・15・19・20は入り口部対ピットに対応するものと考えられる。

壁柱穴は西側から東側までやや密に周回して検出された。径0.2～0.7m、深さ0.1～0.9mで、小形で掘り込みの浅い柱穴と大形で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。合計19本であった。

遺物は、建て替え前の第47ｂ号住居跡床面まで掘り下げた状態で出土した。そのため、第47a号住居跡に伴う遺物を明確に判別することはできなかった。所属時期は第47ｂ号住居跡の建て替えであること、第38・40号住居跡より古いことから、後期後葉と考えられる。

第47ｂ号住居跡（Ⅰ－第101～104図）遺物（Ⅱ－第222・223・293～295・358・366・374・376・380・386・390・392・394・405図）

先に構築された住居跡であった。壁の立ち上がりは、東壁基本土層断面上で緩やかな落ち込みが検出され、焼土の盛り上がりが検出された。平面上では明瞭な壁の立ち上がりは検出されなかった。

規模は、壁柱穴列の範囲から推定した。推定長軸5.25m、推定短軸4.70mの隅円方形であった。主軸方位はＮ－15°－Ｗを指す。

床面は炉跡の周囲でよく踏み固められた状態で

検出された。壁柱穴周囲は貼床構築土と共に、厚さ0.15mの焼土と灰の盛り上がりと炭化材が検出された。

炉跡は中央でやや南側入り口部寄りから検出された。長軸1.60m、短軸1.34m、深さ0.06mの長方形の区画が検出された。長方形区画内の中央から径1.00m、深さ0.28mの略円形の地床炉が検出された。方形区画内は平坦で焼土ブロックと灰白色粘土が斑状に堆積していた。火床面はよく焼けており、炉跡縁辺部は灰白色粘土による土手状の高まりが検出された。層中には灰・炭化物・焼土・被熱した細砂礫（粒径５㎜）の互層が堆積していた。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は南東壁際で炉跡と軸線を合わせ、「コ」の字状で一部張り出しが検出された。炉跡南側に接してＰ10～23までの14本が検出された。Ｐ10－20間の幅1.1m・入り口部先端までの長さ約1.9mで、壁際から約0.8m外側に張り出して検出された。柱穴は径0.2～0.4m、深さ0.25～0.9mであった。炉跡から延びるＰ10－11とＰ19－23は溝状に連結されていた。

壁柱穴は北側から南側入り口部に連接し、周回して検出された。西側一部で２重に検出された。径0.1～0.35m、深さ0.15～0.7mで、小形で掘り込みの浅い柱穴と大形で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。住居跡内の柱穴の合計は40本であった。

遺物は南西寄り床面付近に偏って出土した。炉跡内から後期後葉の波状口縁深鉢形土器口縁部が出土した。南西側では磨石２点、スタンプ形石器１点、石皿１点、管状垂飾等の骨製品５点が出土した。西側に離れて瓢形土器１個体、壁柱穴に並んで小形磨製石斧が出土した。このほか覆土中から、前期初頭から晩期前葉にかけての浅鉢・深鉢形土器、土製円盤、二次加工剥片・打製石斧等が出土した。所属時期は炉跡及び、床面出土土器から後期後葉と考えられる。

第48号住居跡（Ⅰ－第105～107・111図）遺物（Ⅱ－第223・295・341・349・373・381・383図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６・７グリッドに所在した。第37・40・45・47・49・58号住居跡と第321号土壙と重複していた。第49・58号住居跡と第321号土壙を切っていた。第319・320号土壙が下層から検出された。焼土跡16が上層から検出された。第37・40・45・47号住居跡に切られていた。また、西側で第59号住居跡と北西側で第39号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡２基及び床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

住居跡は第49号住居跡の炉跡（炉跡１と共有）とその周囲を厚さ0.1mの貼床で被覆していたこと、床面レベルがほぼ同一であったこと、軸線がほぼ同一であったことなどから、第49号住居跡を拡張建て替えしたものと推察される。

推定長軸7.10m、推定短軸5.95mの円形であった。主軸方位はＮ－58°－Ｅを指す。壁の立ち上がりは検出されなかった。

床面は炉跡１及び、その周囲のみ貼床として検出された。そのほかの部分は不明瞭であった。

炉跡はほぼ中央及び、南側入り口部寄りの２基が検出された。炉跡１は貼床で被覆されていた。第49号住居跡に伴っていたが、本住居跡でも炉跡２に付け替えられるまで使用されていたものと推察される。長径0.81m、短径0.75m、深さ0.21mで、楕円形の地床炉であった。炉跡の西側大部分を掘り込みの深い柱穴によって壊されていた。火床面はよく焼けていた。

炉跡２は長径1.16m、短径1.03m、深さ0.10mの円形の地床炉であった。火床面は平坦であまり焼けておらず、焼土ブロックが中心部分のみ小範囲に分布して検出された。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は南西壁際で炉跡と軸線を合わせ、幅1.90m、長さ4.10m、深さ0.25mで、三角形状のやや深い掘り込み中に柱穴が列状に検出された。壁柱穴ラインに沿った部分と張り出し部に沿った部分の２列が検出されＰ１～27までの27本が検出された。径0.2～0.8m、深さ0.15～0.75mの小形で掘り込みの浅い柱穴と大形で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。Ｐ２・13・14・16は入り口部対ピットに対応するものと考えられる。入り口部は壁柱穴より約0.8m外側へ張り出していた。

壁柱穴は炉跡を中心とし、入り口部と連接して周回して検出された。径0.15～0.45m、深さ0.15～0.55mで、小形で掘り込みの浅い柱穴と大形で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。合計40本であった。

遺物は、北西壁際から、後期前葉の深鉢形土器破片、後期後葉の台付鉢・深鉢形土器破片、土偶等が出土した。そのほかに、覆土中から、後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器、小形の耳飾り、砥石が出土した。所属時期は床面及び覆土出土土器から後期中葉と考えられる。

第49号住居跡（Ⅰ－第108～111図）遺物（Ⅱ－第223・295・296図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６・７グリッドに所在した。第45・47・48・58号住居跡と第321号土壙と重複していた。第58号住居跡、第321号土壙を切っていた。第319・320号土壙が下層から検出された。焼土跡16が上層から検出された。第45・47・48号住居跡に切られていた。壁の立ち上がりは、北西辺側から南西辺側の一部にかけて検出された。

規模は、残存壁面と壁柱穴列の範囲から推定した。推定長軸5.45m、推定短軸5.41m、壁高0.07mの「Ｄ」字型であった。主軸方位はＮ－41°－Ｅを指す。

床面は炉跡の周囲でよく踏み固められた状態で検出された。周囲はややしまりに欠けていた。

炉跡は中央から検出された。第48号住居跡炉跡１と共有していた。

柱穴は主柱穴、壁柱穴が検出された。主柱穴は、Ｐ５・12・42・56・62の５本が検出された。Ｐ62を頂点とし、炉跡を囲むように配置されていた。径0.25～0.45m、深さ0.35～0.85mのやや深い掘り込みであった。

入り口部は南西辺側に想定された。Ｐ18・26・32が対応する柱穴と推定されるが明確に特定することはできなかった。

壁柱穴は炉跡を中心として北西辺壁際から「Ｄ」字状に周回していた。径0.1～0.5m、深さ0.15～0.65mで、小形で掘り込みの浅い柱穴と大形で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。入り口部柱穴を含めて合計58本であった。

遺物は北西辺壁際より出土した。後期中葉の鉢・深鉢形土器が出土した。所属時期は後期中葉から後葉にかけてと考えられる。

第50号住居跡（Ⅰ－第112～116図）遺物（Ⅱ－第296・349図）

Ａ区Ｇ・Ｈ－６・７グリッドに所在した。第37・39・41・46・51・56号住居跡、第277・295・303・326号土壙と重複していた。第326号土壙を切っていた。遺物集中10・18が上層から検出された。第37・39・46・56号住居跡、第277・303号土壙に切られていた。第41・51号住居跡と第295号土壙との重複関係は不明であった。また、南側で第57号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡３基及び床面、柱穴、入り口部が検出されたため、住居跡と認定した。壁の立ち上がりは、検出されなかった。

規模は、壁柱穴列と入り口部の範囲から推定した。推定長軸8.00m、推定短軸6.45mの柄鏡形であった。主軸方位はＮ－82°－Ｅを指す。

床面は炉跡の周囲でよく踏み固められ周辺一部に貼床が検出された。周囲はややしまりに欠けていた。

炉跡は中央から入り口部に偏って３基重複して検出された。炉跡１→炉跡２→炉跡３の順で付け替えが行われて、不整形となっていた。炉跡１が最も古く、長径0.86m、短径0.74m、深さ0.15mの地床炉であった。炉跡１は貼床で被覆されていた。火床面はあまり焼けておらず、灰と炭化物を含む灰白色粘土が堆積していた。炉跡２は炉跡１を付け替えた炉跡であった。長径0.78m、推定短径0.50m、深さ0.14mの地床炉であった。炉跡２の一部は貼床で被覆されていた。炉跡の大部分を炉跡３と新しい小穴によって壊されていた。火床面は比較的よく焼けていた。覆土に灰が堆積していた。炉跡３は炉跡２を付け替えて構築していた。長径0.65m、短径0.55m、深さ0.25mの地床炉であった。炉跡３の一部は貼床で被覆されていたため、住居廃絶時に炉跡を埋め戻したことが推察される。火床面はよく焼けており灰と炭化物、焼土との互層が堆積していた。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。炉跡周辺部から壁柱穴にかけて小柱穴が多数検出されたが主柱穴として特定できる柱穴は検出されなかった。

入り口部は西側で検出された。P53～81までの柱穴が幅2.35m、長さ2.85mで楕円形に張り出して検出された。P42・85が入り口部連結ピットに対応し、P63・73が張り出し部対ピットに対応する柱穴と推定される。径は0.2～0.45m、深さ0.15～0.65mで掘り込みの浅い柱穴と深い柱穴の２種類が検出された。

壁柱穴は炉跡を中心として半径約３mの範囲で小柱穴が密に周回して検出された。炉跡が重複して検出されたことから、建て替えが行われたことが推定される。径0.1～0.3m、深さ0.1～0.65mで、掘り込みが浅く底面が平坦な柱穴と先端が杭状で掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。合計131本であった。

遺物は後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器、小形の耳飾りが少量出土した。所属時期は後期中葉以前と考えられる。

第51号住居跡（Ⅰ－第117図）遺物（Ⅱ－第224・296図）

Ａ区Ｇ・Ｈ－６に所在した。北西側一部は調査区域外であった。第50号住居跡、第２～４号掘立柱建物跡、第282・285・292・295号土壙と重複していた。第３号掘立柱建物跡柱穴に炉跡が切られていた。第282号土壙に切られていた。第50号住居跡、第２・４号掘立柱建物跡、第285・292・295号土壙との重複関係は不明であった。また、北側で第283・304号土壙と、西側で第５号柱穴列と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは検出されなかった。

規模は、柱穴の配置から推定した。推定長径7.06m、推定短径6.02mの円形であった。主軸方位は不明であった。

床面は炉跡の周囲ではよく踏み固められていたが、それ以外は掘立柱建物跡等に伴う多数の柱穴によって壊され、傾斜面側は一部削平を受けていた。

炉跡は柱穴のほぼ中央で検出された。長径0.98m、短径0.78m、深さ0.15mの楕円形の地床炉であった。炉跡の上面は削平を受け、火床面に近い部分のみ残存していた。北側は新しい小形ピット及び、第３号掘立柱建物跡によって壊されていた。火床面はよく焼けており、灰層を含む灰白色粘土が堆積していた。

柱穴は炉跡を中心として半径３～４mの範囲で周回し、合計11本が検出された。径0.35～0.6m、深さ0.45～0.8mの略円形で深い掘り込みであった。北側一部を除きほぼ等間隔に配置されて検出された。入り口部の柱穴として特定することはできなかった。

遺物は遺構範囲内の覆土（盛土包含層を含む）

から、後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器破片が少量出土した。所属時期は不明であった。

第55号住居跡（Ⅰ－第118～121図）遺物（Ⅱ-第224・296・297・358・373図）

Ａ区Ⅰ－６、Ｊ－６・７グリッドに所在した。南西側は調査区外であった。第43・61・63・66号住居跡、第336号土壙、第２・３号埋甕、焼土跡13と重複していた。第61号住居跡､第３号埋甕を切っていた。第63・66号住居跡は本住居跡の下層から検出された。第40号住居跡が上層から検出された。第43号住居跡、第２号埋甕、焼土跡13に切られていた。第336号土壙との重複関係は不明であった。また、北側で焼土跡７･17･27と、南側で焼土跡５・９と隣接していた。なお、第61号住居跡の炉跡と入り口部の軸線がほぼ一致することから、第61号住居跡を拡張建て替えた住居跡であった。調査区西壁基本土層断面上で本住居跡を含め、第61・63・66号住居跡の覆土が検出された。環状盛土遺構の中央に位置していた。調査区西壁基本土層断面上で住居跡状の落ち込みを検出し、遺構覆土を掘り下げ炉跡及び床面、壁柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは、調査区西壁基本土層断面上で緩やかな落ち込みが検出されたが、平面上では明瞭な壁の立ち上がりとして検出されなかった。規模は、壁柱穴列の範囲から推定した。推定長軸8.75m、推定短軸5.10mで入り口部の張り出しが弱い柄鏡形であった。主軸方位はＮ－36°－Ｗを指す。

床面は炉跡の周囲ではよく踏み固められ、しまっていた。そのほかの部分は不明瞭であった。壁柱穴際には薄い焼土の盛り上がりが検出された。

炉跡はほぼ中央で検出された。長径1.00m、短径0.76m、深さ0.26mで、楕円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、覆土上層には炭化物と灰を含む焼土層、中層に灰を含む灰白色粘土の帯状堆積が検出された。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。柱穴の検出を下層の第63号住居跡の床面と同一レベルで行ったことから、柱穴の本来の深さは失われている。

入り口部は南東壁際で炉跡と軸線を合わせ、隅円方形の張り出しが検出された。壁柱穴ラインに沿ってＰ35～49までの15本の柱穴が検出された。径0.2～0.45m、深さ0.35～0.75mのやや大形で掘り込みの深い柱穴であった。張り出しは幅約2.5m、長さ約1.5mであった。これとは別に炉跡南東側でＰ54～61までの入り口部連結ピットが検出された。長径0.8～1.1m、深さ0.6mのやや深い掘り込みであった。

壁柱穴は炉跡を中心として半径3.5mの範囲でやや密に周回して検出された。また、北側から東側にかけて幅が狭く浅い壁周溝が廻っていた。柱穴は径0.1～0.2m、深さ0.2～0.6mで、小形で杭状の掘り込みが検出された。合計41本であった。

遺物は、前期中葉から晩期前葉の浅鉢・深鉢形土器、土製円盤、石錐等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第61号住居跡（Ⅰ－第122～124図）遺物（Ⅱ－第225・226・298・299・359・373・383・384・387・388図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。第43・55・63・66号住居跡、第３号埋甕と重複していた。第63・66号住居跡を切っていた。第２号埋甕が上層から検出された。第43・55号住居跡に切られていた。第３号埋甕との重複関係は不明であった。第55号住居跡の直下で検出された。第55号住居跡と軸線がほぼ同一であった。炉跡は、第55号住居跡の北側に接し、レベルをわずかに下げて検出された。入り口部連結ピットは、一部第55号住居跡と共有していた。第55号住居跡の建て替え前の住居跡であった。第55号住居跡床面精査中に新たな炉跡が検出されたため、床面下の覆土を掘り下げた。新たに、床面、壁柱穴が検出されたため、住居跡

と認定した。

壁の立ち上がりは、調査区西壁基本土層断面上で緩やかな落ち込みが検出されたが、平面上では明瞭な壁の立ち上がりとして検出されなかった。

規模は、壁柱穴列の範囲から推定した。推定長軸5.65m、推定短軸4.20mで入り口部の張り出しが弱い柄鏡形であった。主軸方位はＮ－36°－Ｗを指す。

床面は炉跡の周囲及び北側で貼床が検出された。床面直上には、炭化物と灰の薄層が検出された。北壁際からは多量の焼土の流れ込みが検出された。

炉跡はほぼ中央で検出された。長径0.96m、短径0.85m、深さ0.16mで、楕円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、覆土中には炭化物と灰を含む灰白色粘土の帯状堆積が検出された。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。柱穴の検出を下層の第63号住居跡の床面と同一レベルで行ったことから、柱穴の本来の深さは失われている。

入り口部は南東壁際で炉跡と軸線を合わせ、隅円方形の張り出しが検出された。壁柱穴ラインに沿ってＰ23～36までの14本の柱穴が検出された。炉跡南側約1.2mから入り口部に向かって柱穴間幅0.5m、長さ1.6～1.9mで、２列に検出された。径0.2～0.5m、深さ0.2～0.75mで、掘り込みはまちまちであった。

壁柱穴は炉跡を中心として半径２～３ｍの範囲で間隔をあけ、周回して検出された。柱穴は径0.1～0.3m、深さ0.3～0.5mで、小形で杭状の掘り込みが検出された。合計26本であった。

遺物は、第55号住居跡床面とレベル差がわずかであったので、本住居跡に混在して出土した遺物もあった。炉跡周辺及び南東壁際から纏まって出土した。炉跡西側からは、後期後葉の深鉢形土器１個体、台付鉢形土器、底部が出土した。炉跡東側からは後期前葉から後葉にかけての深鉢形土器が出土した。南東壁際からは、後期後葉の波状口縁浅鉢・深鉢形土器それぞれ１個体、壺形土器１点、石鏃１点、磨石１点が出土した。北壁際からは、敲石１点が出土した。この他に覆土から、後期前葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器、土製円盤、砥石・磨石が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第56号住居跡（Ⅰ－第125・126図）遺物（Ⅱ－第224図）

Ａ区Ｈ－７グリッドに所在した。第37・46・50・57号住居跡、第277号土壙と重複していた。第46・50・57号住居跡を切っていた。第37号住居跡、第277号土壙に切られていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。第37号住居跡の掘り下げに伴い、住居跡覆土と考えられる落ち込みを確認した。掘り下げ後、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。東側は調査区外であった。壁の立ち上がりは、調査区東壁基本土層断面上で緩やかな落ち込みが検出されたが、平面上では壁の立ち上がりは検出されなかった。なお、住居跡覆土が調査区東壁基本土層断面上で、第37・46・57号住居跡と共に検出された。

調査区内残存長軸2.50m、残存短軸2.50mの柄鏡形であった。主軸方位はＮ－100°－Ｅを指す。

床面は北側から南側にかけてやや傾斜していた。

炉跡は住居跡中央やや南側入り口部寄りで、調査区東壁際から検出された。長径0.79m、短径0.73m、深さ0.13mの円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、上層は炭化物を含む焼土層で、下層は灰が堆積していた。

柱穴は、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。入り口部は炉跡から西側へ約0.5mで、台形状に開き柱穴はＰ５～17までの合計13本検出された。径0.2～0.6m、深さ0.2～0.6mであった。Ｐ６・17は対ピットに対応する。

壁柱穴は炉跡南側周囲から合計４本検出された。径0.2～0.3m、深さ0.2～0.3mで掘り込みは浅かった。

遺物は床面付近から出土した。炉跡南側と西側で深鉢形土器底部それぞれ１個体、西壁側で瓢形土器１個体が出土した。このほか、後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は、後期中葉から後葉と考えられる。

第57号住居跡（Ⅰ－第127図）

Ａ区Ｈ－７グリッドに所在した。第37・46・56号住居跡、第324・325号土壙と重複していた。第324・325号土壙を切っていた。第37・46・56号住居跡に切られていた。また、北西側で第50号住居跡と近接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。第37号住居跡の掘り下げに伴い、住居跡覆土と考えられる落ち込みを確認した。掘り下げ後、床面、入り口部、壁の立ち上がりが検出されたため、住居跡と認定した。東側は調査区外であった。

調査区内推定長軸3.10m、残存短軸2.83m、深さ0.25mの方形であった。長軸方位はＮ－22°－Ｅを指す。

床面は平坦であったが、南側は第37号住居跡炉跡に壊されていた。

炉跡は検出されなかった。東側調査区外であったと考えられる。

柱穴は、壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。入り口部は西壁側で蒲鉾形に張り出し、Ｐ５～11までの合計７本の柱穴が検出された。径0.2～0.45m、深さ0.2～0.45mであった。対ピットに対応する柱穴を特定することはできなかった。

壁柱穴は南西コーナーで４本検出された。径0.2～0.45m、深さ0.2～0.5mで掘り込みが浅い柱穴と深い柱穴があった。

図示できる遺物の出土はなかった。所属時期は、住居跡の重複関係から後期後葉以前と考えられる。

第58号住居跡（Ⅰ－第128・129図）遺物（Ⅱ－第297図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６・７グリッドに所在した。第37・39・48・49号住居跡、第305・309・319・320・323号土壙と重複していた。第305・309・319号土壙を切っていた。焼土跡16が上層から検出された。いずれの住居跡と第320号土壙に切られていた。第323号土壙との重複関係は不明であった。また、北西側で第57号住居跡・第324・325号土壙と、西側で第59号住居跡・第306号土壙と、南側で第45号住居跡と、東側で第47号住居跡と隣接していた。遺構同士の重複が最も激しい区域であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。盛土包含層の掘り下げに伴い、住居跡覆土と考えられるごく浅い落ち込みを確認した。掘り下げ後、炉跡、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。壁の立ち上がりは検出されなかった。推定長径5.58m、推定短径4.91mの略円形であった。主軸方位は不明であった。

床面は上層の遺構によって大きく削平を受けていた。

炉跡は住居跡中央より南東側に偏って検出された。長径0.69m、短径0.60m、深さ0.06mの円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けておらず、炉床中央部付近に焼土が薄く堆積していた。なお、北側に付設して、長径0.71m、短径0.49m、深さ0.05mの浅い土壙状の掘り込みが検出された。

柱穴は、壁柱穴と内側からやや掘り込みの深い柱穴が検出された。明確に主柱穴と特定できる柱穴は検出されなかった。Ｐ17・21・34・38・43・46・54・64・65の９本は掘り込みが深く炉跡北側を囲む形で配置されていた。壁柱穴は炉跡中央から半径1～４mの範囲で、複数列が検出された。径0.2～0.5m、深さ0.2～0.4mで、浅い掘り込みの柱穴とやや深い掘り込みの柱穴の２種類が検出された。合計58本であった。

遺物はわずかに出土し、前期中葉の深鉢形土器破片１点と、後期中葉の深鉢形土器破片１点を図示した。所属時期は、不明であった。

第59号住居跡（Ⅰ－第130～134図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６グリッドに所在した。第39・60・62号住居跡、第288・289・301・307・318・330号土壙、焼土跡12・15・21と重複していた。第330号土壙を切っていた。遺物集中12・19が上層から検出された。いずれの住居跡にも切られていた。第288・289・301・307・318号土壙、焼土跡12・15･21に切られていた。また、北側で第58号住居跡･第306・309号土壙と、東側で第308・323号土壙と、西側で第314号土壙・焼土跡11・12・粘土塊１と隣接していた。

環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。盛土包含層掘り下げに伴い、住居跡と考えられる落ち込みが検出され、掘り下げに伴い炉跡及び床面、入り口部、壁柱穴、壁の立ち上がりが検出されたため、住居跡と認定した。なお、南北ベルト基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

住居跡は炉跡を中心とした壁柱穴列が２列検出され、入り口部が同一軸線上で重複して検出されたことから、同軸建て替え住居跡である。

第59ａ号住居跡（Ⅰ－第130～132図）遺物（Ⅱ－-第225・297・298・366図）

第59ｂ号住居跡の形状をわずかに変えて建て替えした住居跡であった。長径4.75m、短径4.30m、壁高0.07mの不整円形であった。主軸方位はＮ－26°－Ｅを指す。

床面は平坦で、壁際を除きほぼ全面から貼床が検出された。炉跡の周囲はよく踏み固められていた。

炉跡はほぼ中央から検出された。長径0.44m、短径0.36m､深さ0.19mで､略円形の地床炉であった。火床面はよく焼けており、上層は炭化物が、下層には灰が堆積していた。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は南西壁際で炉跡と軸線を合わせ､「ハ」の字状の張り出しが検出された。壁柱穴ラインのやや内側Ｐ13～23までの11本が検出された。径0.1～0.5m、深さ0.2～0.4mの掘り込みであった。Ｐ17・22は入り口部対ピットに対応するものと考えられる。入り口部は、壁柱穴ラインから約0.3m外側に張り出していた。

壁柱穴は、炉跡を中心として半径2.0～2.5mの範囲でやや密に検出された。径0.15～0.45m、深さ0.1～0.55mで、杭状の小形で掘り込みの浅い柱穴と掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。合計26本であった。なお、Ｐ１は奥壁センターピットに対応する柱穴と考えられる。

遺物は、炉跡南側床面付近から後期前葉のミニチュア深鉢形土器１点、深鉢形土器破片１点が出土した。このほかに､後期前葉から中葉の注口土器･深鉢形土器が出土した。所属時期は後期前葉と考えられる。

第59ｂ号住居跡（Ⅰ－第133～134図）

最初に構築された住居跡であった。推定長径5.00m、推定短径4.35mの円形であった。主軸方位はＮ－32°－Ｅを指す。壁の立ち上がりは検出されなかった。

床面は平坦であった。炉跡の周囲はよく踏み固められていた。

炉跡は第59ａ号住居跡の炉跡と共有していた。

柱穴は壁柱穴、入り口部にかかわって検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は南西壁際で炉跡と軸線を合わせ、開きの強い「ハ」の字状の張り出しが検出された。壁柱穴ラインのやや内側Ｐ10～20までの11本が検出された。径0.15～0.4m、深さ0.2～0.45mの掘り込みであった。Ｐ13・18は入り口部対ピットに対応するものと考えられる。入り口部は、壁柱穴ラインから約0.3m外側に張り出していた。

壁柱穴は、炉跡を中心として半径２～2.5mの範

囲で間隔をあけ、南東側のみ連接して検出された。径0.15～0.4m、深さ0.2～0.4mで、小形で掘り込みの浅い柱穴と掘り込みの深い柱穴の２種類が検出された。合計26本であった。なお、Ｐ33は奥壁センターピットに対応する柱穴と考えられる。

遺物は、出土しなかった。所属時期は、後期前葉と考えられる。

第60号住居跡（Ⅰ－第135～136図）遺物（Ⅱ－第225・298図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－５・６グリッドに所在した。第59・62号住居跡、第287・299・301・318号土壙、焼土跡10･11と重複していた。第59･62号住居跡を切っていた。第287・301・318号土壙、焼土跡10・11に切られていた。第299号土壙との重複関係は不明であった。また、西側で焼土跡18と、北側で第41号住居跡と、東側で第39号住居跡と、南側で焼土跡12・粘土塊１と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。盛土包含層の掘り下げに伴い、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。南西側一部は調査区外であった。壁の立ち上がりは検出されなかった。なお、南北ベルト基本土層断面上で当該期の遺構覆土が検出された。住居跡の範囲は、壁柱穴及び入り口部から推定した。推定長径7.45m、推定短径5.65mの楕円形であった。主軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。

床面は上層の遺構によって大きく削平を受けていた。

炉跡は住居跡中央よりわずかに東側に偏って検出された。長径1.16m、短径1.07m、深さ0.36mの不整円形の地床炉であった。炉跡の上層には火床面があるがあまり焼けておらず、下層に炭化物・焼土ブロック・骨片を含む堆積層が検出され、底面がわずかに被熱していることから炉跡を造り替えていたと推察される。

柱穴は、壁柱穴と入り口部にかかわる柱穴が検出された。主柱穴は検出されなかった。

入り口部は、炉跡から約２m南側で、Ｐ11～30までの20本の柱穴が密集して検出された。径0.3～0.4m、深さ0.25～0.5mの掘り込みであった。入り口部は幅約2.5m、長さ約1.8mで壁柱穴ラインから1.3m外側に張り出していた。

壁柱穴は炉跡中央から半径2.5～2.8mの範囲で、東側はやや密に、西側は間隔をあけて検出された。径0.2～0.4m、深さ0.2～0.8mで、浅い掘り込みの柱穴とやや深い掘り込みの柱穴の２種類が検出された。合計25本であった。

遺物はわずかに出土し、図示したのは後期中葉の破片３点である。所属時期は、後期前葉から中葉にかけてと考えられる。

第62号住居跡（Ⅰ－第137・138図）遺物（Ⅱ－第299図）

Ａ区Ｈ－５、Ⅰ－５・６グリッドに所在した。第59・60号住居跡、第299・301・318号土壙、焼土跡10～12、粘土塊１と重複していた。第59号住居跡を切っていた。第60号住居跡、第301･318号土壙、焼土跡10～12、粘土塊１に切られていた。第299号土壙との重複関係は不明であった。また、西側で焼土跡18と、北側で第41号住居跡･第287号土壙と、東側で第288・289号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。盛土包含層の掘り下げに伴い、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。南西側一部は調査区外であった。壁の立ち上がりは検出されなかった。なお、調査区西壁基本土層断面上で当該期の柱穴覆土が検出された。住居跡の範囲は、壁柱穴から推定した。残存長径6.92m、残存短径4.10mの略円形であった。主軸方位は不明であった。

床面は上層の遺構によって大きく削平を受けていた。

炉跡は住居跡中央より、わずかに北側に偏って検出された。長径1.35m、短径1.30m、深さ0.26mの整円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けておらず、覆土に炭化物・焼土ブロック・骨片を含む堆積層が検出された。

柱穴は、壁柱穴が検出された。但し、南東側調査区壁際で柱穴が外側へ張り出していることから、入り口部にかかわる張り出しを想定することも可能である。主柱穴は検出されなかった。

壁柱穴は炉跡中央から半径2.5～4.5mの範囲で、南東側はやや密に、北側は間隔をあけて検出された。径0.2～0.5m、深さ0.15～0.55mで、浅い掘り込みの柱穴とやや深い掘り込みの柱穴の２種類が検出された。合計28本であった。

遺物は、後期前葉から中葉にかけての深鉢形土器がわずかに出土した。所属時期は後期前葉から中葉にかけてと考えられる。

第63号住居跡（Ⅰ－第139・140図）遺物（Ⅱ－第226・300・390・404図）

Ａ区Ⅰ・Ｊ－６グリッドに所在した。第61号住居跡の直下で検出された。遺構の南西側は調査区外であった。第66号住居跡、第２号埋甕、焼土跡13と重複していた。第66号住居跡を切っていた。第55号住居跡が上層から検出された。第２号埋甕、焼土跡13に切られていた。また、北側で焼土跡７・17・27と、南東側で第43号住居跡・第336号土壙と隣接していた。調査区西壁基本土層断面上で本住居跡を含め、第61･66号住居跡の覆土が検出された。環状盛土遺構の中央に位置していた。

調査区西壁基本土層断面上で住居跡状の落ち込みと炉跡を検出し、第61号住居跡覆土を掘り下げたところ、壁の立ち上がり、床面、壁柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは、東側一部でわずかに検出されたが、ほかでは検出されなかった。規模は調査区内長径6.00m、残存短径3.43m、壁高0.22mの「Ｄ」字型と推定される。主軸方位は不明であった。

床面は炉跡の周囲で厚さ約0.03mの貼床が検出された。床面直上には、炭化物と灰の薄層が検出された。

炉跡は調査区西壁基本土層断面上で検出された。推定径0.68m、深さ0.24mで、円形の地床炉と推定される。火床面はよく焼けており、覆土中には炭化物と多量の焼土の堆積が検出された。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。主柱穴は検出されなかった。入り口部は南東側に想定され、壁柱穴が切れている部分が該当する可能性がある。

壁柱穴は炉跡を中心として半径３～3.5mの範囲で東側はやや密に、そのほかは間隔を開け周回して検出された。柱穴は径0.1～0.35m、深さ0.15～0.6mで、小形で杭状の掘り込みが検出された。合計32本であった。

遺物は東壁寄りから、石製の垂飾３点が並ぶようにして出土した。この他に、覆土中から、後期前葉から後葉にかけての壺・瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器が出土した。所属時期は後期中葉以降と考えられる。

第64号住居跡（Ⅰ－第141図）遺物（Ⅱ－第226・227・300～302・349・359・377・378・388・399・400図）

Ａ区Ｊ・Ｋ－７グリッドに所在した。第43・44号住居跡、第328・329号土壙、焼土跡８と重複していた。いずれの住居跡も切っていた。第328・329号土壙、焼土跡８に切られていた。また、北西側で第66号住居跡と、北東側で第67号住居跡・焼土跡23と、西側で粘土塊２と隣接していた。南北ベルト基本土層断面上で本住居跡を含め、第43・44号住居跡の覆土が検出された。環状盛土遺構のやや外縁部に位置していた。

南北ベルト基本土層断面上で住居跡状の落ち込みを検出し、盛土包含層を掘り下げたところ、壁の立ち上がり、床面、壁柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。南盛土で２番目に小形な住居跡であった。

壁の立ち上がりは、東辺から南東コーナーの一部と、北西辺の一部で検出されたが、ほかは検出されなかった。規模は長軸3.68m、推定短軸3.62m、壁高0.25mの方形であった。主軸方位は不明であった。

床面は第43号住居跡覆土中に形成されていたが、

貼床は検出されず踏み固められた状況でもなかった。壁際には焼土の盛り上がりが検出された。床面直上には、炭化物の薄層が検出された。

炉跡は検出されなかった。第328・329号土壙によって壊されたと推測される。

柱穴は主に西側で纏まって検出された。入り口部に特定される柱穴は検出されなかった。主柱穴に特定される柱穴は検出されなかった。

壁柱穴は検出されなかった。南東辺壁際に沿って幅0.2mの浅い壁周溝が検出された。ほかの柱穴は、壁のやや内側から中心部分にかけて検出された。径0.1～0.5m、深さ0.2～0.5mで、小形で杭状の掘り込みと底面が平坦になる柱穴の２種類が検出された。合計35本であった。

遺物は中央床面付近から、深鉢形土器底部３点、打製石斧１点と、南西辺壁際から耳飾り１点が出土した。この他に覆土中から、後期前葉から晩期前葉にかけての壺・瓢形土器・鉢・深鉢形土器、土製円盤、磨石が出土した。所属時期は晩期前葉以降と考えられる。

第65号住居跡（Ⅰ－第142図）遺物（Ⅱ－第227・302・341・359・384・385図）

Ａ区Ｋ・Ｌ－７グリッドに所在した。南西側は調査区外であった。第338号土壙、遺物集中16と重複していたが重複関係は不明であった。調査区西壁基本土層断面上で本住居跡の覆土が検出された。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

調査区西壁基本土層断面上で住居跡状の落ち込み、床面、柱穴を検出し、盛土包含層を掘り下げたところ、壁柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。南盛土調査区で最も小形な住居跡であった。

壁の立ち上がりは、調査区西壁基本土層断面上で検出されたが、平面上は検出されなかった。規模は推定長軸3.10m、調査区内短軸2.20m、壁高0.34mの略方形であった。長軸方位はＮ－87°－Ｅを指す。

床面は一部検出されたが、そのほかは上層遺構の撹乱・削平により失われていた。

柱穴は2.5～３mの範囲に纏まって検出された。柱穴の検出面は床面をさらに掘り下げた段階であったので、本来の深さは失われていた。入り口部に特定される柱穴は検出されなかった。主柱穴に特定される柱穴は検出されなかった。

壁柱穴及び内部柱穴は、径0.1～0.3m、深さ0.1～0.5mで、小形で杭状の掘り込みで深さの浅い柱穴と深い柱穴の２種類が検出された。合計42本であった。

遺物は中央床面付近から、中期後葉から晩期中葉にかけての深鉢形土器、土偶・土製円盤、敲石等が出土した。所属時期は晩期前葉以降と考えられる。

第66号住居跡（Ⅰ－第143・144図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。南西側は調査区外であった。第55号住居跡が上層から検出された。第61・63号住居跡、焼土跡９と重複していて、切られていた。また、北側で焼土跡13と、東側で第43号住居跡・第336号土壙・焼土跡５と近接していた。調査区西壁基本土層断面第Ⅵ層下で本住居跡の床面が検出された。環状盛土遺構のほぼ中央に位置していた。

盛土包含層及び第55号住居跡掘り下げに伴い床面の一部と壁柱穴、壁周溝を検出し、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは、検出されなかった。規模は調査区内長軸6.70m、調査区内短軸2.00mの方形であった。主軸方位は不明であった。

床面は土層断面上一部でしまりのある土層として検出されたが、調査区内平面上では上層遺構の撹乱・削平により検出されなかった。

炉跡は検出されなかった。調査区外であったと推定される。

柱穴は南東コーナーから北西へ約6.5m、南西

へ約２ｍまでの直線状の壁周溝に沿って検出された。入り口部に特定される柱穴は検出されなかったが、調査区西壁際で壁周溝が２重となり、外側へ張り出して検出されたことから、入り口の一部として想定される。主柱穴に特定される柱穴は検出されなかった。

壁柱穴は、径0.1～0.45m、深さ0.1～0.5mで、小形で杭状の掘り込みで深さの浅い柱穴と深い柱穴の２種類が検出された。他の柱穴との合計は43本であった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明である。

第67号住居跡（Ⅰ－第145・146図）遺物（Ⅱ－第302図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡、第327・333・334号土壙、第43号住居跡内1・４・６号土壙、焼土跡23と重複していた。第43号住居跡の下部中央に位置していた。第43号住居跡、第327号土壙・第43号住居跡内1・４・６号土壙、焼土跡23に切られていた。第333・334号土壙との重複関係は不明であった。また、北側で第43号住居跡内２・３号土壙と、東側で第43号住居跡内５・７号土壙・第335号土壙と、南側で第44号住居跡と西側で第43号住居跡内８号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや外縁部に位置していた。

第43号住居跡床面下掘り下げに伴い、炉跡、床面の一部、入り口部、柱穴を検出し、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは、検出されなかった。規模は壁柱穴の範囲から推定した。推定長径6.80m、推定短径6.45mの不整楕円形であった。主軸方位は不明であった。

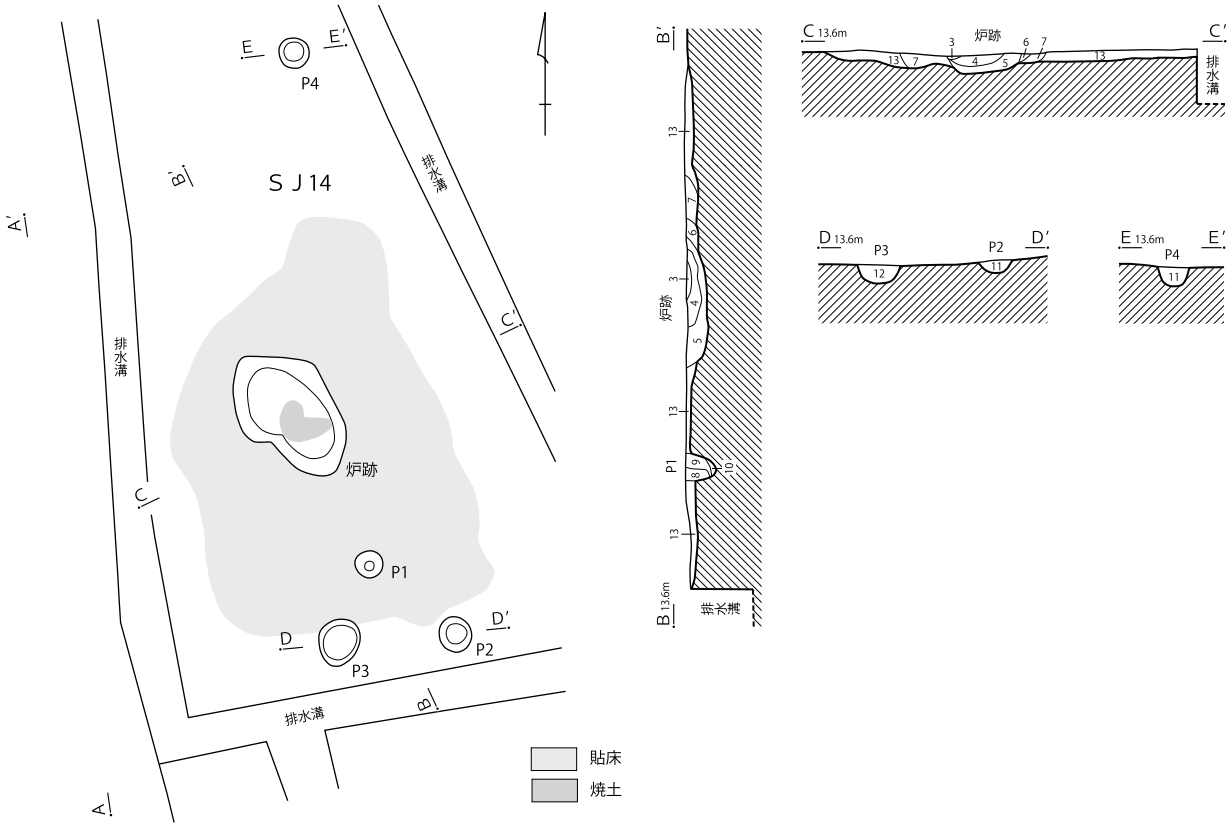
床面は土層断面上一部でしまりのある土層として検出されたが、平面上では上層遺構の撹乱・削平により検出されなかった。

炉跡は住居跡中央やや北側に偏って検出された。大部分を第43号住居跡の柱穴によって壊されていた。残存径0.55m、深さ0.15mの円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けておらず、覆土に焼土ブロックと炭化物が堆積していた。

入り口部は、炉跡から約３m西側で、Ｐ17～25までの９本の柱穴が間隔を置いて検出された。径0.1～0.3m、深さ0.25m前後の掘り込みであった。入り口部の幅は、約2.3mで壁柱穴ラインから0.9m外側に張り出していた。

柱穴は炉跡を中心として半径約２～４mの範囲で壁柱穴が検出された。これとは別に、炉跡西側でＰ48～54までの7本の柱穴が列状に検出された。主柱穴に特定される柱穴は検出されなかった。壁柱穴は、径0.1～0.35m、深さ0.2～0.55mで、小形で杭状の掘り込みで、深さの浅い柱穴と、深い柱穴の２種類が検出された。合計38本であった。

遺物はわずかに早期末葉から前期中葉の深鉢形土器ほか１点、合計２点のみ出土した。所属時期は不明である。



SJ14
1　褐色土　粘質　暗褐色土主体
ローム質土ブロック（多）　炭化物粒子（少）
2　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（多）　骨片（少）
しまり（欠）

炉跡
3　暗褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（多）
4　赤褐色土　焼土層　暗褐色土粒子（多）
褐色土粒子（少）
5　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
6　明赤褐色土　焼土粒子（多）　被熱硬化
7　明黄褐色土　黄褐色土ブロック主体　暗褐色土（少）
しまり（良）　床面構築土

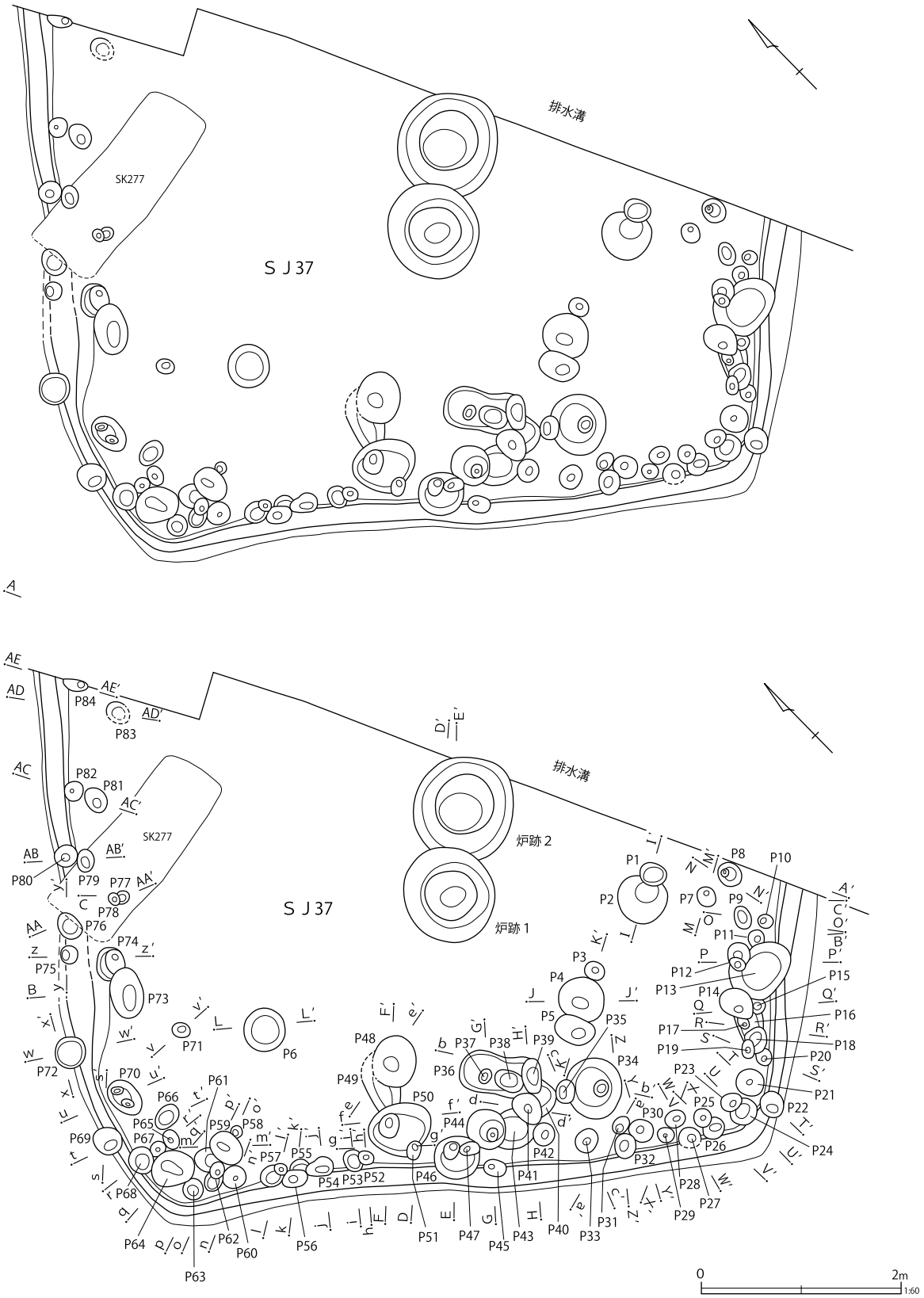
柱穴
8　にぶい黄褐色土　焼土粒子（少）　しまり（欠）　柱痕
9　褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
10　にぶい黄褐色土　ブロック状
11　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
12　黒褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）
13　にぶい黄褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土
しまり（良）　床面構築土

Ⅰ　暗灰黄色土　粘質　表土
Ⅱ　暗オリーブ色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）　鉄分斑（多）
古代～中世文化層
Ⅲ　暗オリーブ色土　炭化物粒子・灰白色粘土粒子・鉄分（少）　古墳～古代文化層
Ⅳ　暗灰黄色土　粘質　古墳時代以前文化層
Ⅴ　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（多）　焼土粒子・骨片（少）
晩期遺物包含層
Ⅵ　暗褐色土　シルト質　ローム質土ブロック・炭化物粒子・遺物（少）
Ⅶ　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・焼土粒子・骨片・遺物（多）
後・晩期遺物包含層
Ⅷ　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・遺物（少）　遺物包含層
Ⅸ　灰黄褐色土　炭化物粒子・ローム粒子（少）　ローム漸移層
Ⅹ　黄褐色土　ローム層

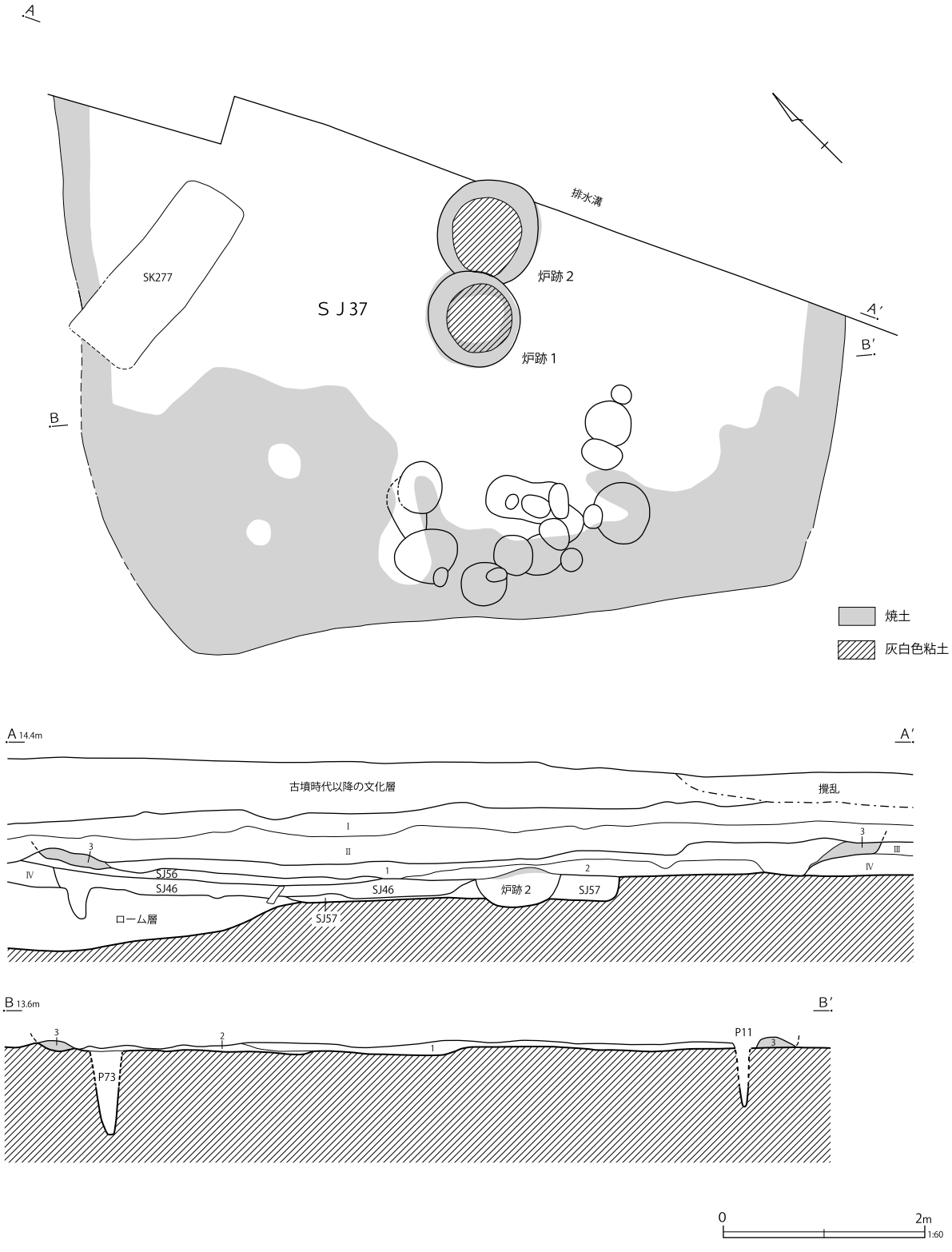
a　灰黄褐色土　粘質　近世溝覆土
b　褐灰色土　粘質　近世溝覆土
c　にぶい黄褐色土　シルト質　焼土粒子（少）
炭化物粒子・暗褐色土ブロック・遺物（多）
d　暗褐色土　炭化物粒子（極多）　焼土粒子・遺物（多）
骨片（少）　底面炭化物帯状堆積
e　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）　小穴覆土

0　2m
1:60

第18図　第14号住居跡



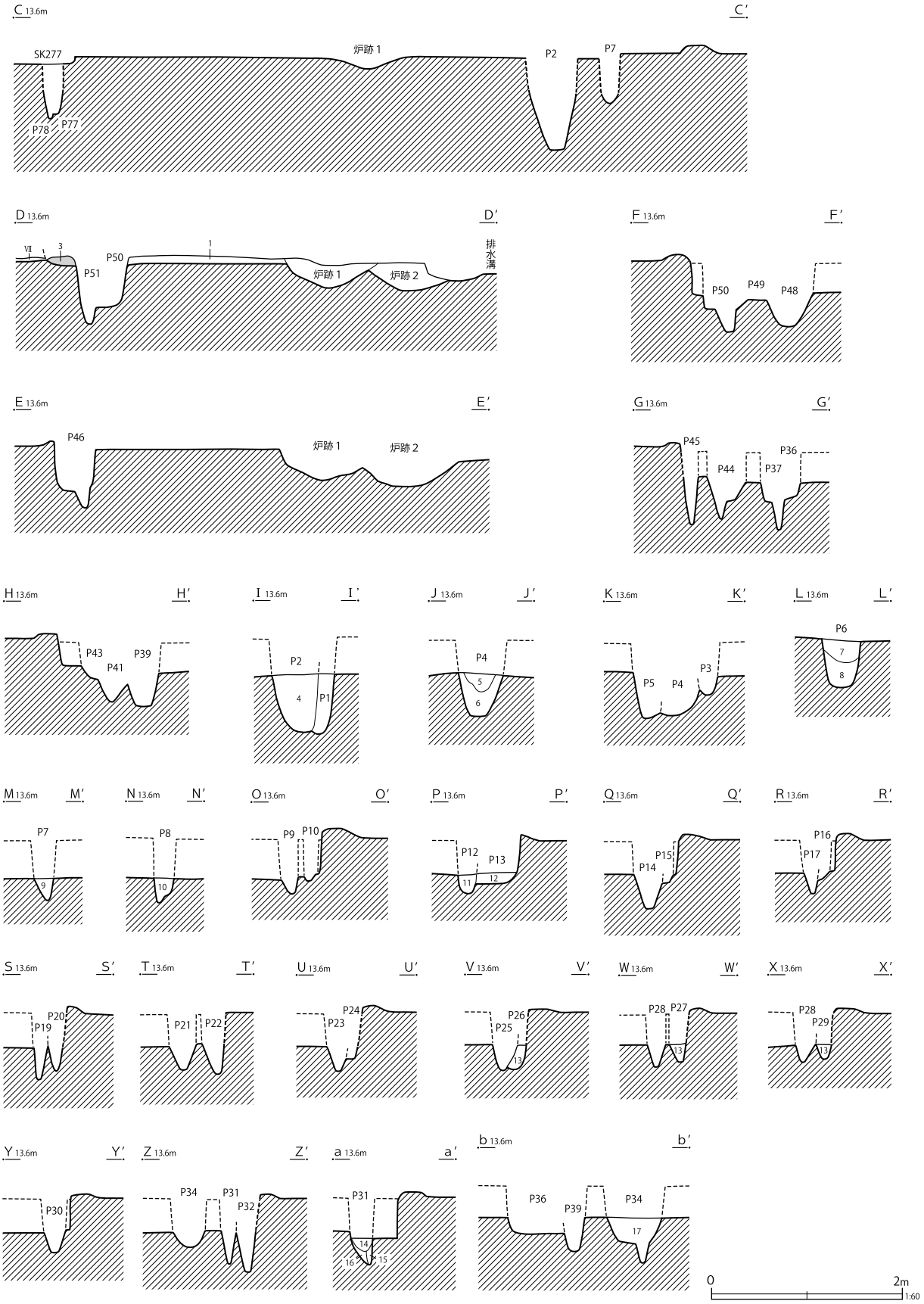
第19図　第37号住居跡（１）



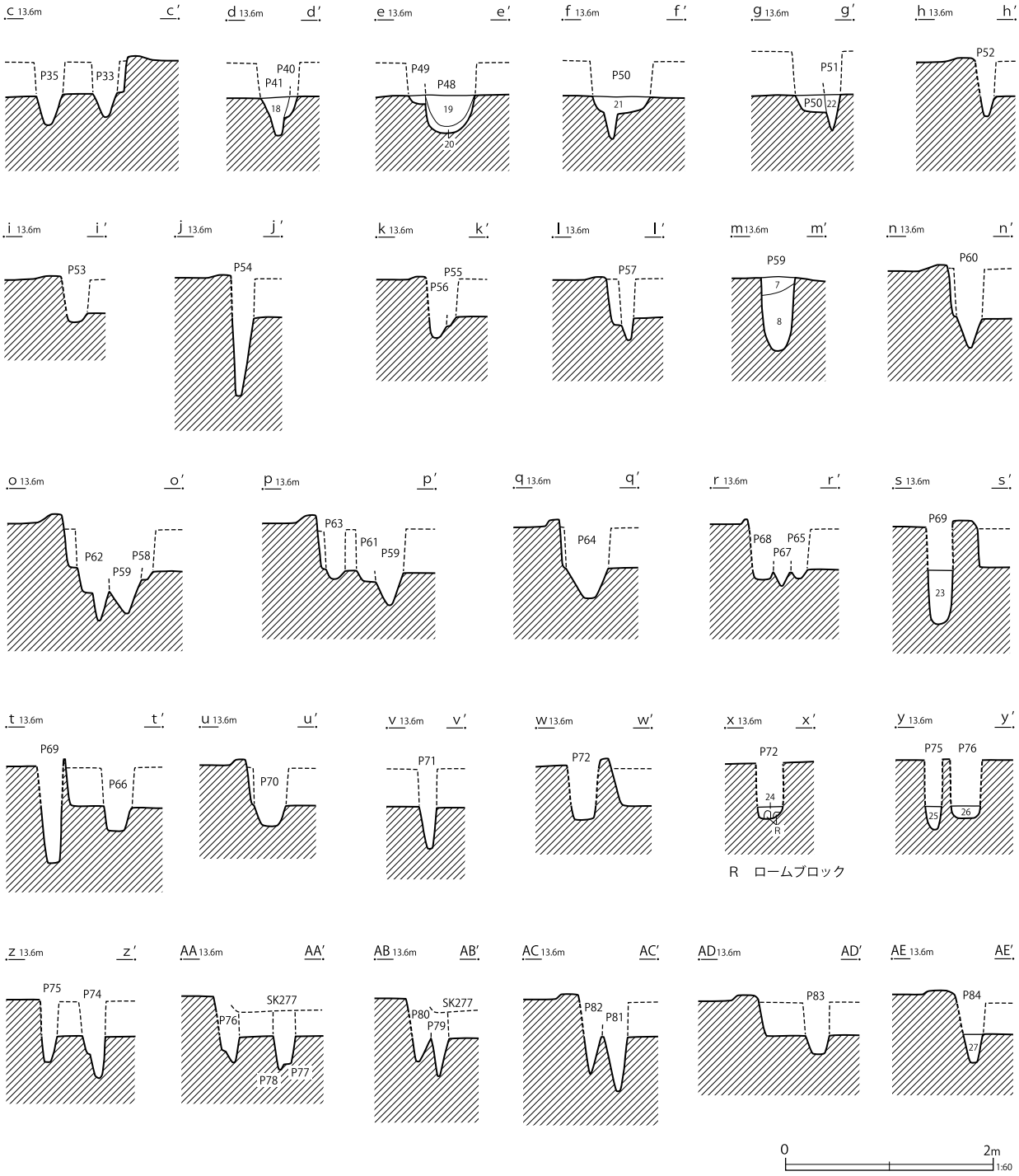
Ⅰ　黒褐色土　　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（多）
Ⅱ　褐色土　　褐色土主体　炭化物粒子・焼土粒子（微）　遺物（少）
Ⅲ　暗褐色土　　シルト質　炭化物粒子（少）　Ⅱ層より粘性（強）　遺物（少）
Ⅳ　にぶい黄褐色土　ハードロームブロック（中）　ローム漸位層

S J 37
1　黒褐色土　覆土　人為的な埋土　炉跡 1（新）に対応する床面構築土
2　黒褐色土　炉跡 2（旧）から炉跡 1（新）へ造り替え時の整地土
3　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　焼土粒子（多）　壁際焼土

第20図　第37号住居跡（２）



第21図　第37号住居跡（３）

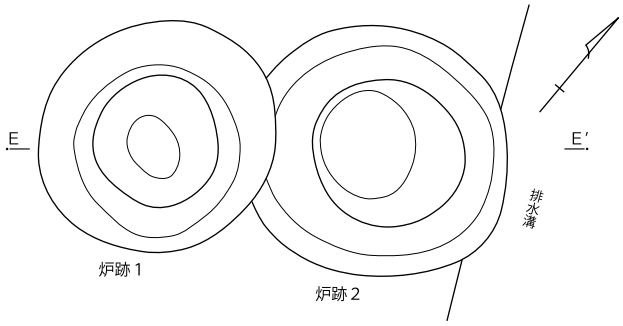


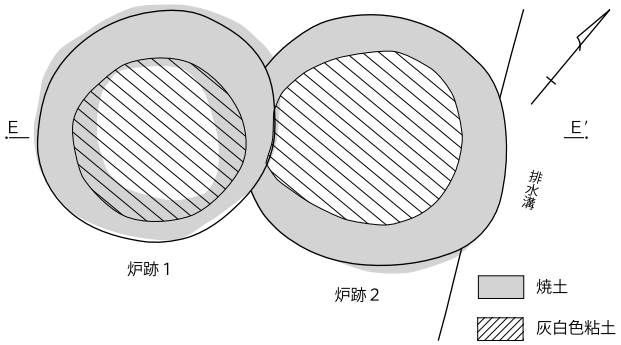
R　ロームブロック

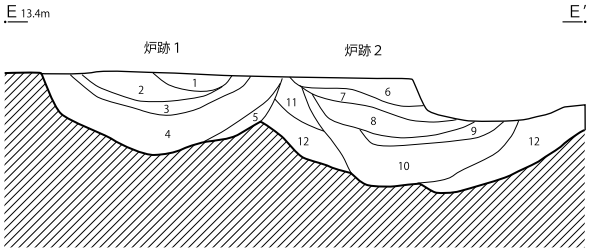
ＳＪ37　柱穴

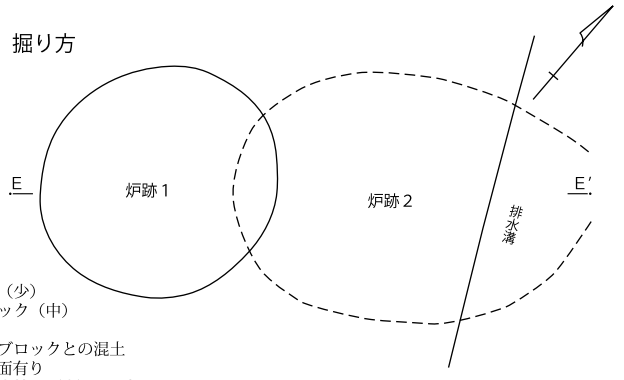
4　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）
5　暗褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）
6　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）
7　暗褐色土　焼土粒子（微）
8　暗褐色土　炭化物粒子（微）　粘性（強）　均質
9　暗褐色土
10　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子・焼土粒子（少）
11　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）
12　黒褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）・炭化物粒子（少）
13　暗褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子・焼土粒子（極少）　粘性（強）
14　暗褐色土　炭化物粒子・暗褐色土ブロック（少）　しまり（良）
15　暗褐色土　砂質　ロームブロック（少）　しまり（欠）　柱抜去痕
16　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
17　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
18　暗褐色土　ローム粒子（少）
19　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　柱抜去痕
20　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（多）　掘り方
21　暗褐色土　炭化物・ロームブロック（少）
22　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）
23　灰褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
24　茶褐色土　ロームブロック（極多）　しまり（良）
25　灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック混入　しまり（良）
26　灰褐色土　ロームブロックを下層にやや多く混入　しまり（良）
27　暗黄褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）

第22図　第37号住居跡（４）



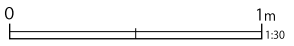


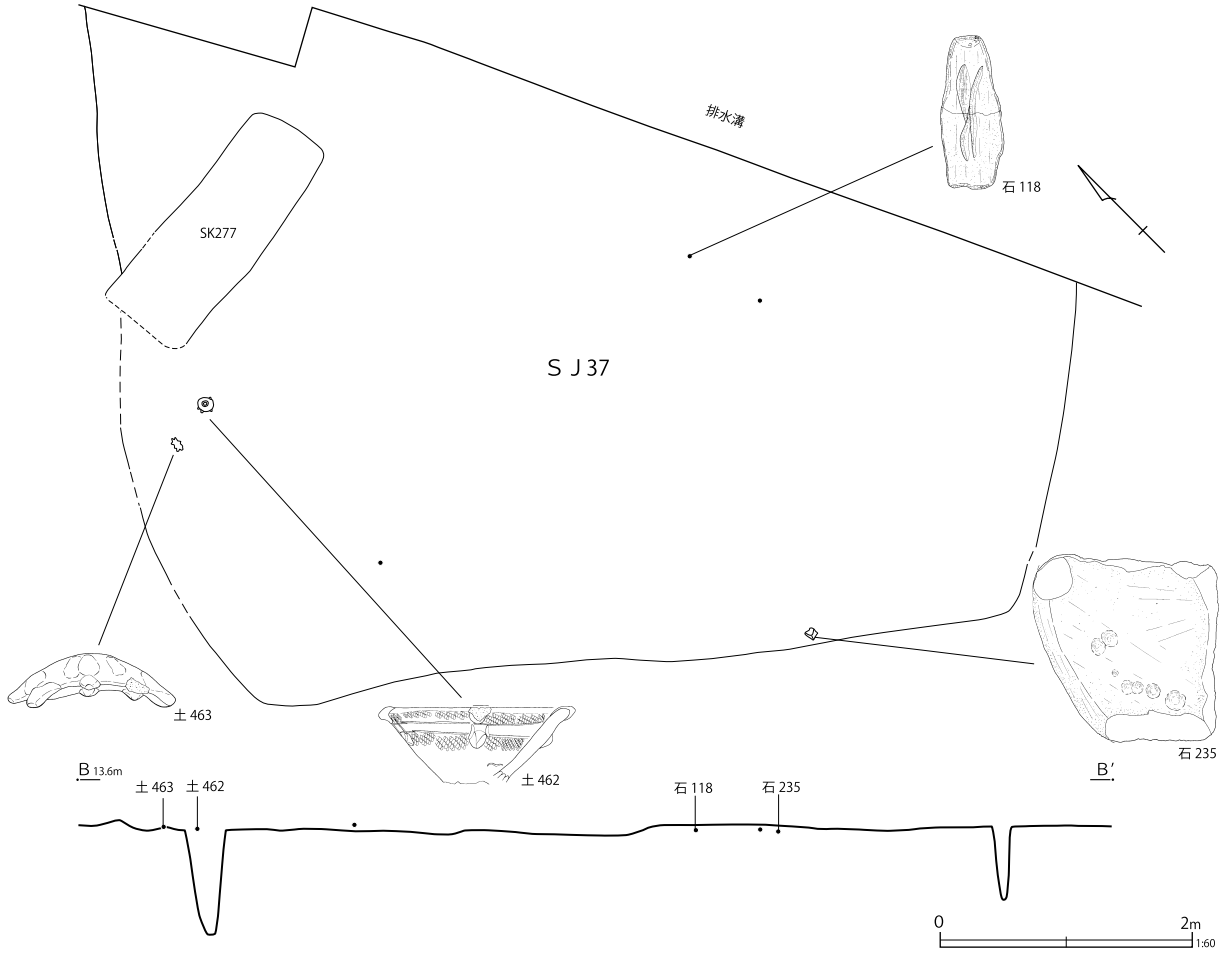




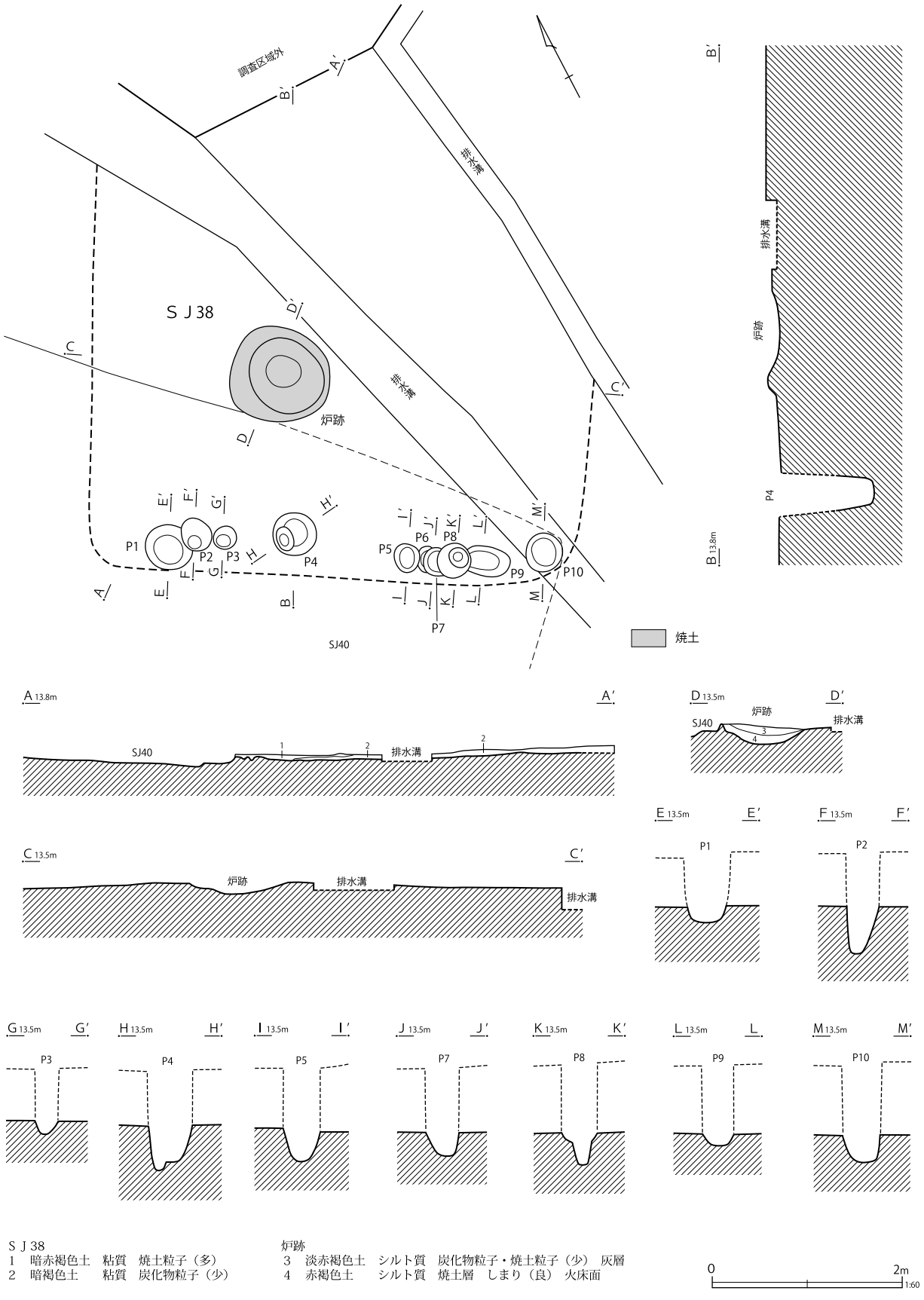
ＳＪ37　炉跡１
1　暗褐色土　粘質　焼土粒子（少）
2　黄褐色土　粘質　焼土・灰白色粘土（少）
3　黄褐色土　シルト質　灰層
4　赤褐色土　焼土ブロック主体　しまり（良）
　　火床面１
5　赤褐色土　焼土ブロック主体　グライ化
　　火床面２

炉跡２
6　褐色土　粘質　粘土粒子（少）
7　暗黄褐色土　粘質　粘土ブロック（中）
8　黄褐色土　シルト質　灰層
9　暗赤褐色土　シルト質　焼土ブロックとの混土
10　暗黄褐色土　シルト質　被熱面有り
　　炭化物粒子・焼土粒子（少）　火床面１
11　暗赤褐色土　焼土ブロック（少）
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（微）　火床面２





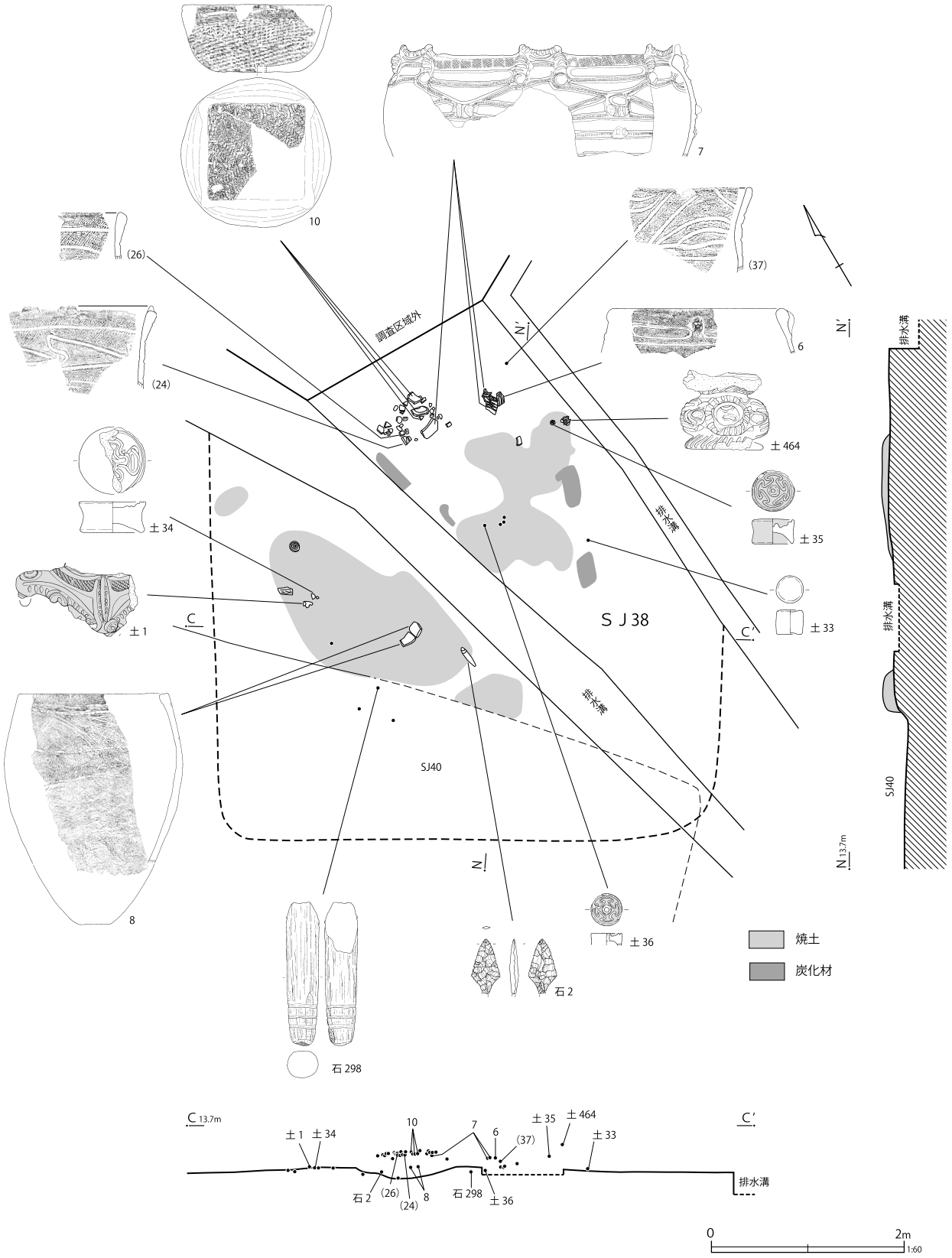
第23図　第37号住居跡（５）・遺物出土状況



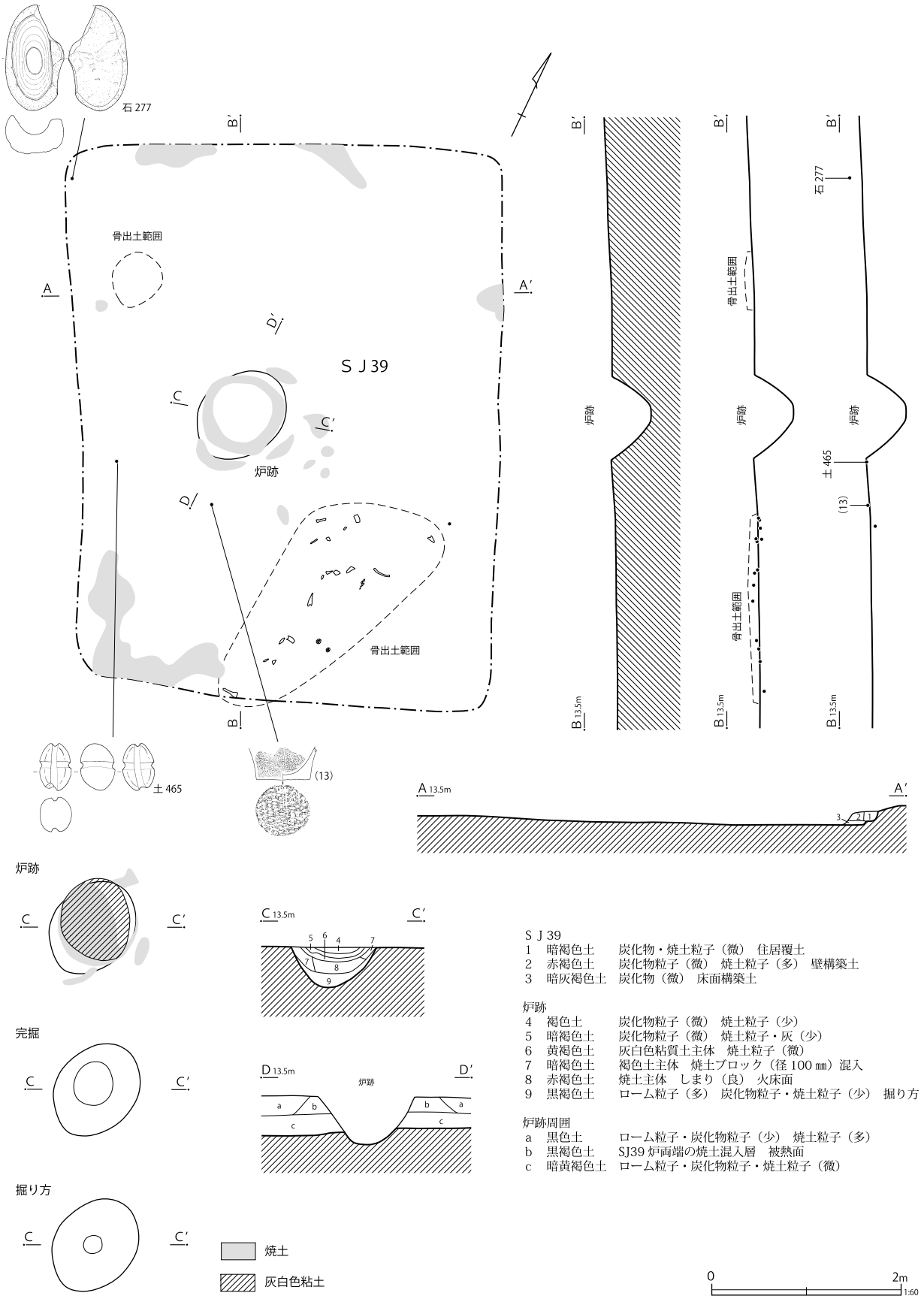
SJ38
1　暗赤褐色土　粘質　焼土粒子（多）
2　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子（少）

炉跡
3　淡赤褐色土　シルト質　炭化物粒子・焼土粒子（少）　灰層
4　赤褐色土　　シルト質　焼土層　しまり（良）　火床面

第24図　第38号住居跡



第25図　第38号住居跡遺物出土状況

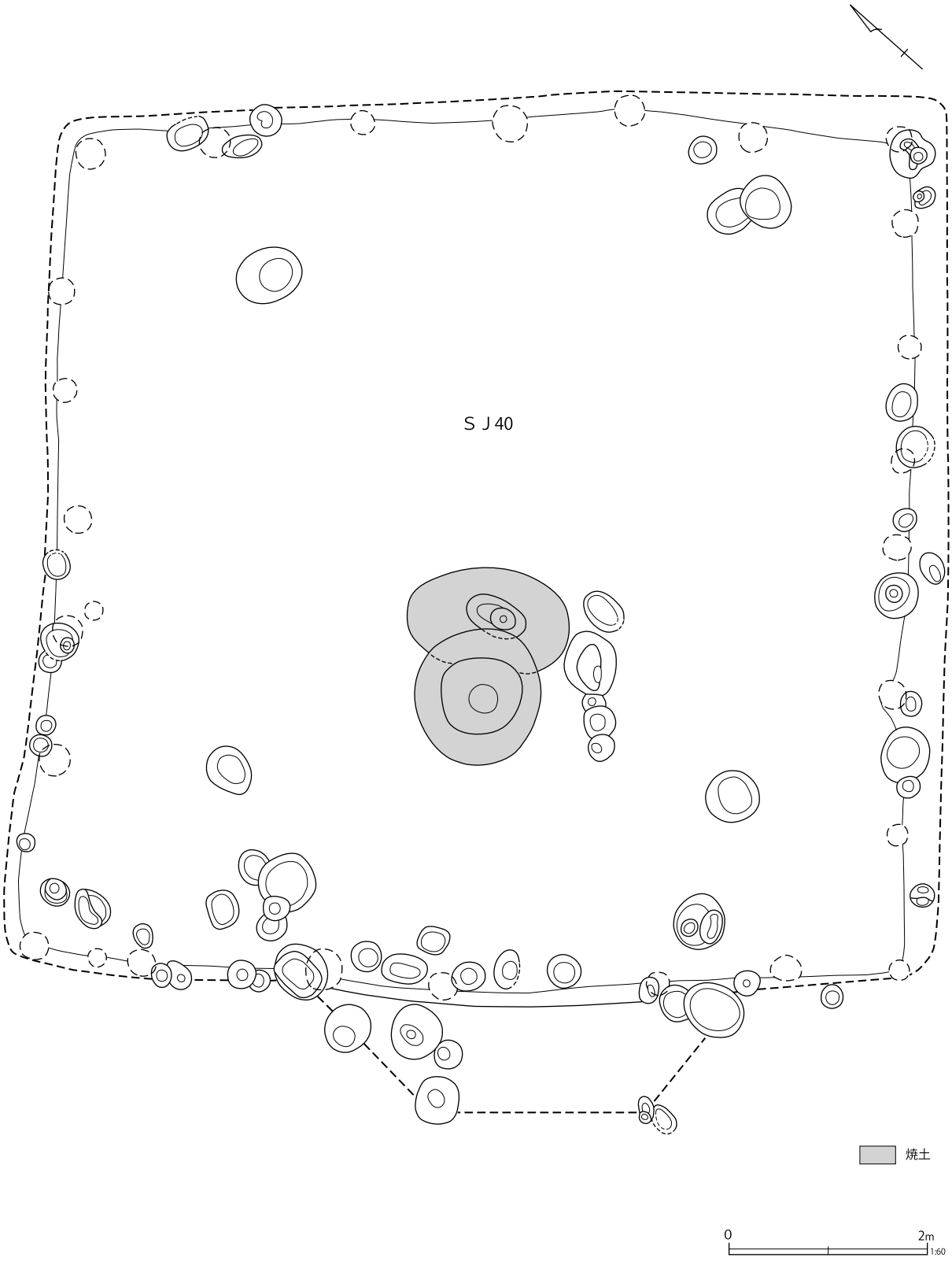


SJ39
1　暗褐色土　炭化物・焼土粒子（微）　住居覆土
2　赤褐色土　炭化物粒子（微）　焼土粒子（多）　壁構築土
3　暗灰褐色土　炭化物（微）　床面構築土

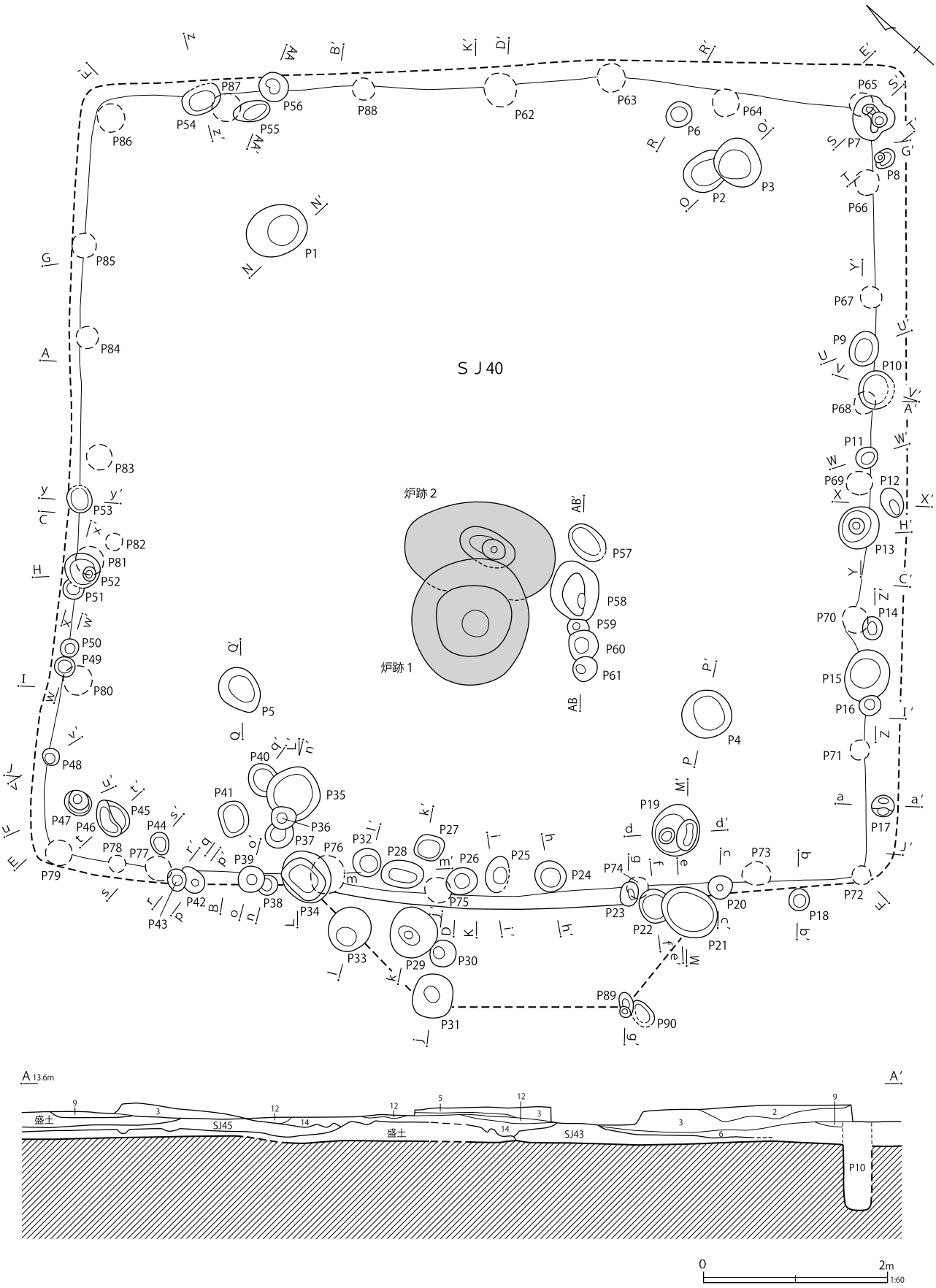
炉跡
4　褐色土　炭化物粒子（微）　焼土粒子（少）
5　暗褐色土　炭化物粒子（微）　焼土粒子・灰（少）
6　黄褐色土　灰白色粘質土主体　焼土粒子（微）
7　暗褐色土　褐色土主体　焼土ブロック（径 100 ㎜）混入
8　赤褐色土　焼土主体　しまり（良）　火床面
9　黒褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子・焼土粒子（少）　掘り方

炉跡周囲
a　黒色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　焼土粒子（多）
b　黒褐色土　SJ39 炉両端の焼土混入層　被熱面
c　暗黄褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（微）

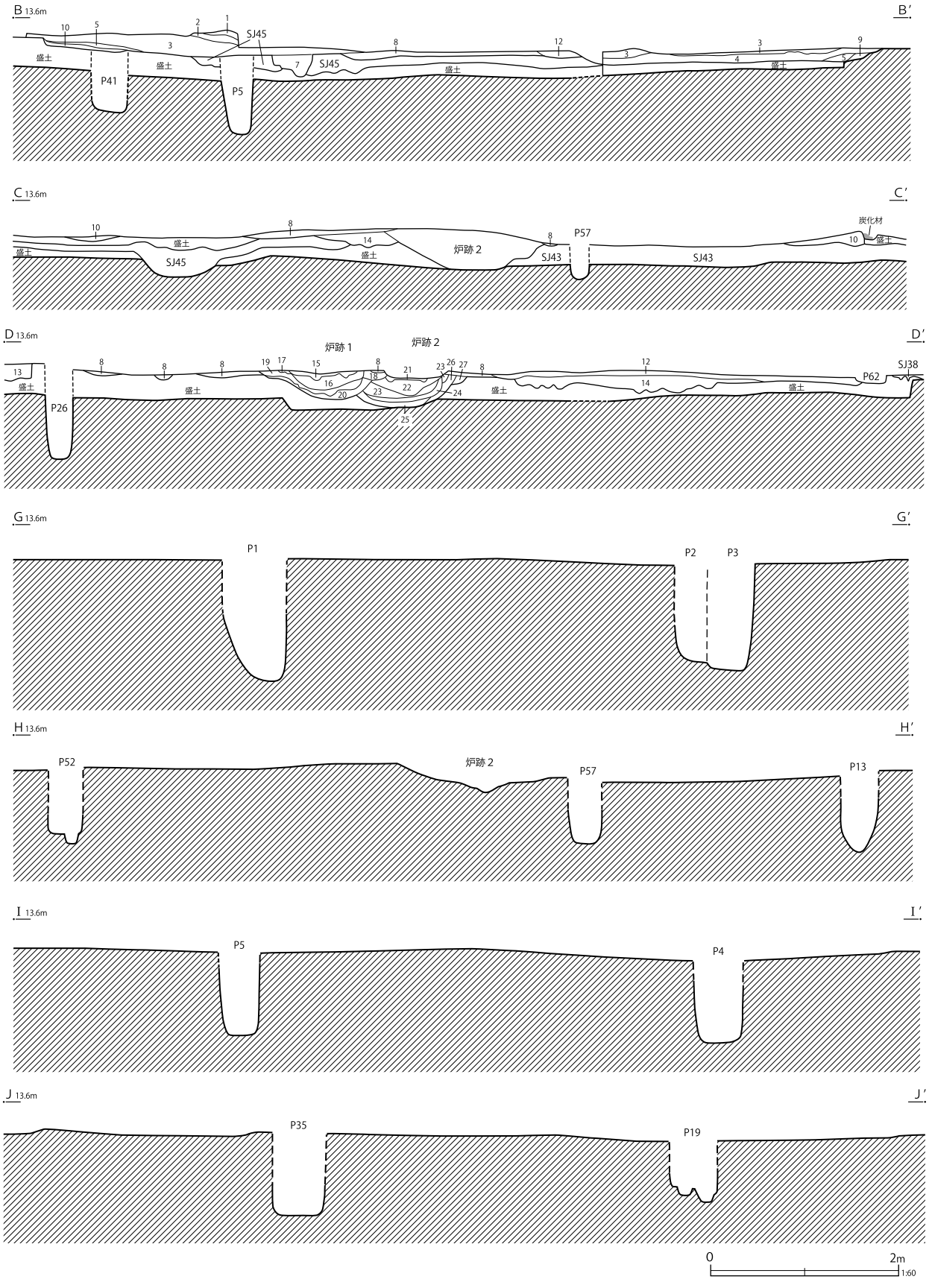
第26図　第39号住居跡



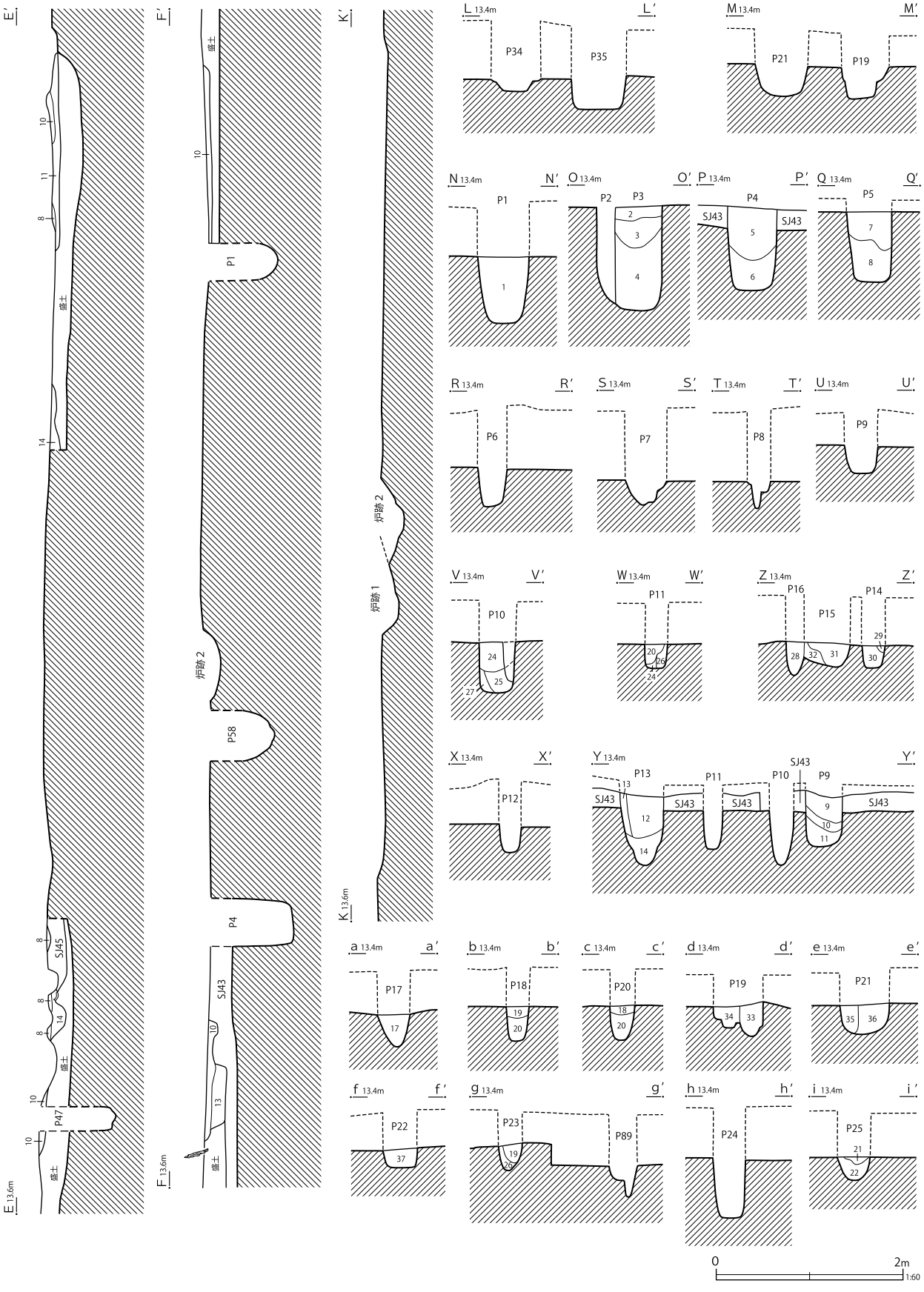
第27図　第40号住居跡（１）



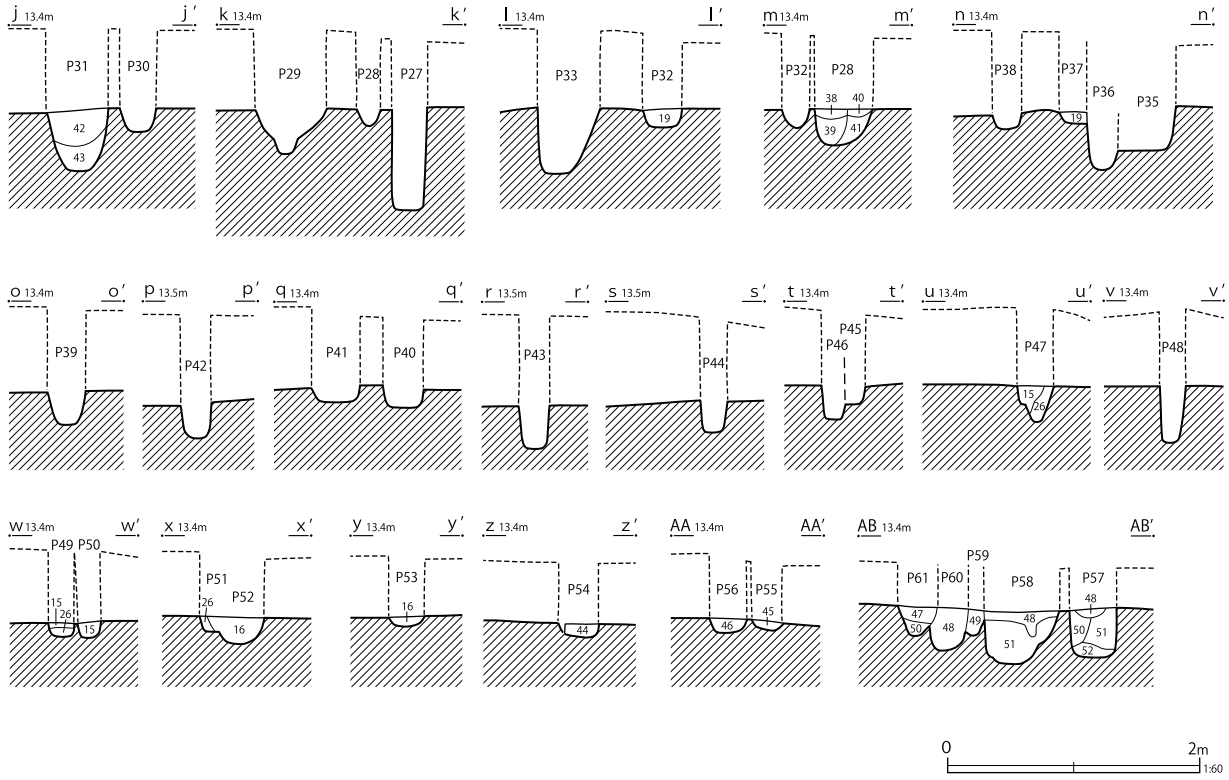
第28図　第40号住居跡（２）



第29図　第40号住居跡（３）



第30図　第40号住居跡（4）



ＳＪ40

1　暗褐色土
2　暗黄褐色土　黄色土主体
3　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）
4　灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）
5　赤褐色土　焼土主体　灰・灰白色粘土（少）
6　暗褐色土　炭化物粒子・焼土（多）　SJ40 床下の土
7　赤褐色土　焼土
8　暗赤褐色土　焼土粒子（多）　床面構築土
9　赤褐色土　焼土粒子・灰（多）
10　暗褐色土　焼土粒子（多）
11　暗褐色土　炭化物粒子（径１～10㎜）（少）
12　赤褐色土　焼土粒子・暗褐色土との混土　床面構築土
13　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）
14　赤褐色土　焼土粒子（多）

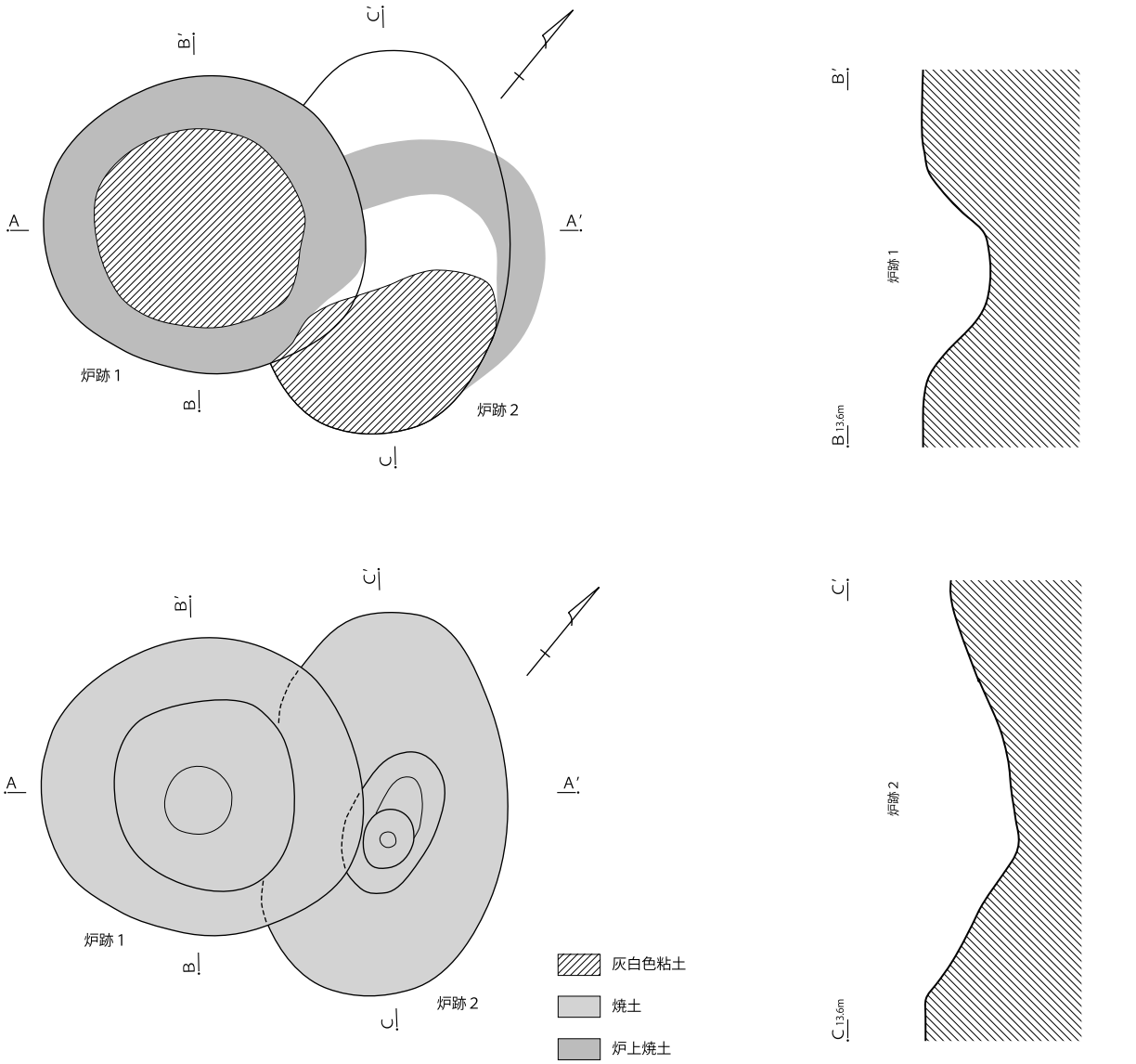
炉跡

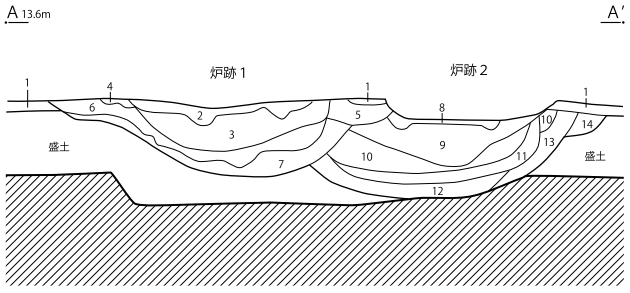
15　灰茶褐色土　粘質　灰・住居覆土との混土
16　灰褐色土　粘質　灰層　土器片・骨片含む
17　赤褐色土　被熱赤化　炭化物（少）　粘質（無）　しまり（良）
18　暗褐色土　焼土粒子含む
19　赤褐色土　被熱赤化　焼土ブロック（多）　粘性（弱）　火床面
20　赤褐色土　焼土　掘り方
21　灰茶褐色土　粘質　灰層・住居覆土との混土
22　灰褐色土　粘質　灰層　土器片・骨片含む
23　赤褐色土　砂質　被熱赤化　炭化物粒子（少）
　　粘性（無）　しまり（良）　火床面
24　赤褐色土　被熱部分赤化　粘性（弱）　しまり（良）　火床面
25　赤褐色土　砂質　粘性（無）　しまり（良）　被熱硬化　掘り方
26　赤褐色土　焼土ブロック（多）　被熱硬化　掘り方
27　灰褐色土　焼土（少）　しまり（良）　掘り方

柱穴

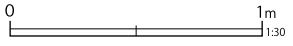
1　暗褐色土　ロームブロック（中）　しまり（欠）
2　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）　埋土
3　暗褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子・焼土粒子（少）　埋土
4　暗褐色土　しまり（良）　掘り方
5　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）　埋土
6　暗褐色土　しまり（良）　掘り方
7　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　埋土
8　暗褐色土　焼土粒子（少）　しまり（欠）　埋土
9　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）　埋土
10　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）　しまり（良）
11　暗褐色土　しまり（良）　掘り方
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（中）　埋土
13　暗褐色土　焼土粒子（多）　埋土
14　暗褐色土　しまり（良）　掘り方
15　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　しまり（良）　埋土
16　茶褐色土　ソフトローム主体　しまり（欠）　埋土
17　黒褐色土　ローム土主体　炭化物粒子（径２～８㎜）（多）
　　焼土粒子（少）　骨片（微）　しまり（中）　埋土
18　茶褐色土　ローム土主体　炭化物粒子（径２～８㎜）・ローム粒子（少）
　　しまり（良）　埋土
19　灰褐色土　ローム粒子・暗褐色土との混土　焼土粒子（微）
　　しまり（良）　埋土
20　茶褐色土　ローム土主体　ローム粒子（径５～８㎜）（少）　しまり（良）　埋土
21　黄褐色土　ブラックバンド主体　ロームブロック（少）　しまり（良）　埋土
22　褐色土　粘質　ローム土主体　炭化物粒子（径２～８㎜）（少）　埋土
23　茶褐色土　ローム土・黒色土との混土　しまり（良）　埋土
24　黒褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　しまり（良）　埋土
25　黒褐色土　しまり（欠）
26　茶褐色土　ローム土主体　しまり（良）　掘り方
27　茶褐色土　粘質　灰色土含む
28　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　貼床焼土由来
29　暗褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（多）
30　暗黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（弱）
31　灰褐色土　ローム土主体混合土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
32　灰褐色土　ローム土主体混合土　ロームブロック（多）　焼土粒子（少）
33　黒褐色土　炭化物粒子（径10～20㎜）（多）　柱痕
34　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子含む　柱痕
35　暗褐色土　炭化物粒子・ローム粒子（少）　埋土
36　暗褐色土　ローム粒子（少）　掘り方
37　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子（少）　炭化物粒子含む　しまり（欠）
38　灰褐色土　ソフトローム・黒色土との混土　ローム小ブロック（微）
　　しまり（良）　埋土
39　黄褐色土　ソフトローム主体　ローム小ブロック（微）　しまり（中）　埋土
40　灰褐色土　ソフトローム・黒色土との混土　しまり（良）
41　黄褐色土　ローム土主体　しまり（良）　埋土
42　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　埋土
43　暗黄褐色土　ロームブロック多量　掘り方
44　黄褐色土
45　暗褐色土　ローム粒子（中）
46　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む
47　灰褐色土　ローム粒子・炭化物（微）　しまり（良）　埋土
48　灰褐色土　ローム粒子（径３～８㎜）・炭化物（中）
　　しまり（良）　埋土
49　灰褐色土　ローム粒子・炭化物（微）　しまり（良）　埋土
50　灰褐色土　ブラックバンド主体　しまり（中）　埋土
51　灰褐色土　ブラックバンド主体　ローム粒子（中）　しまり（中）　埋土
52　灰褐色土　ブラックバンド主体　炭化物（中）　しまり（欠）　埋土

第31図　第40号住居跡（５）

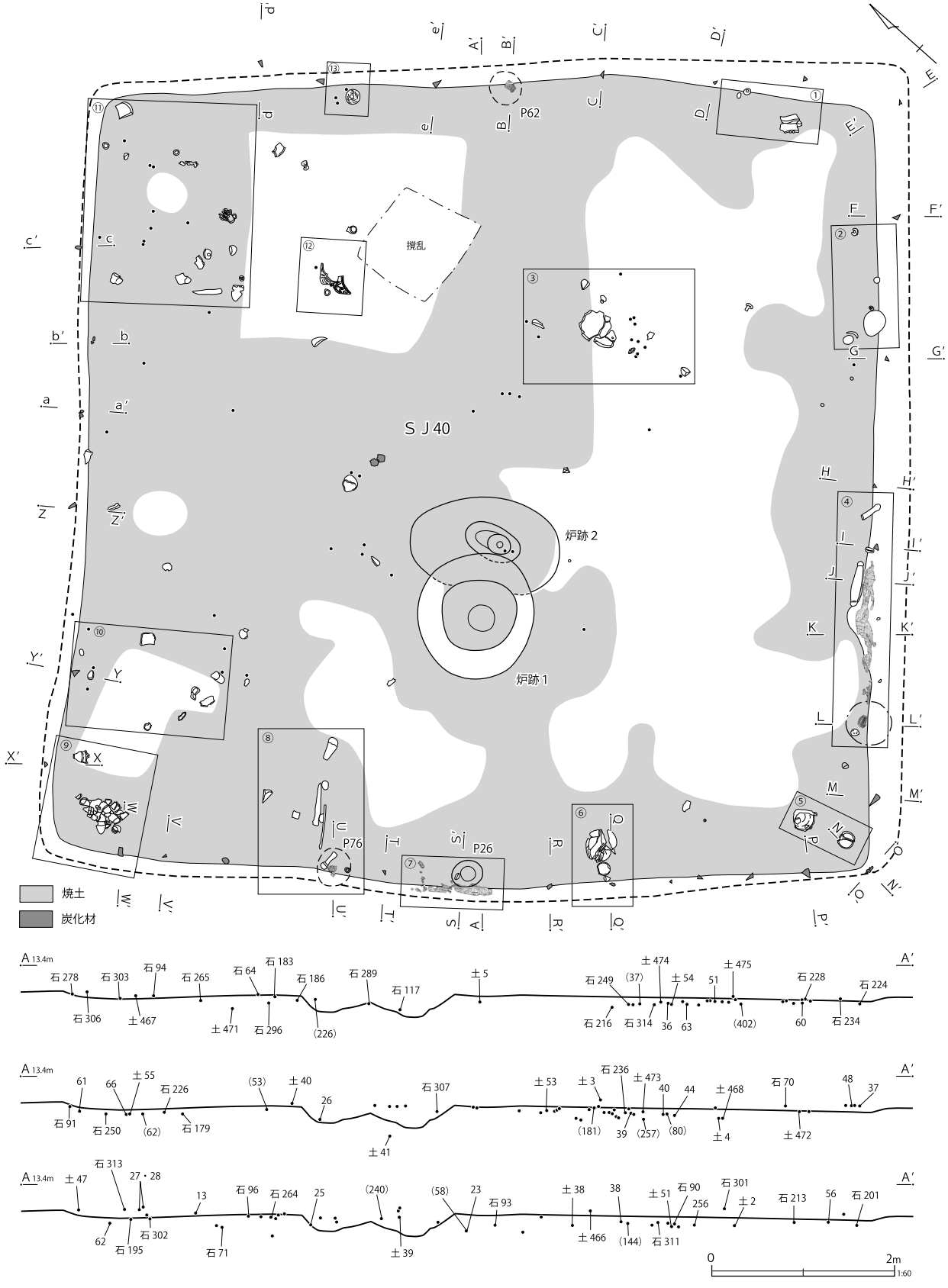




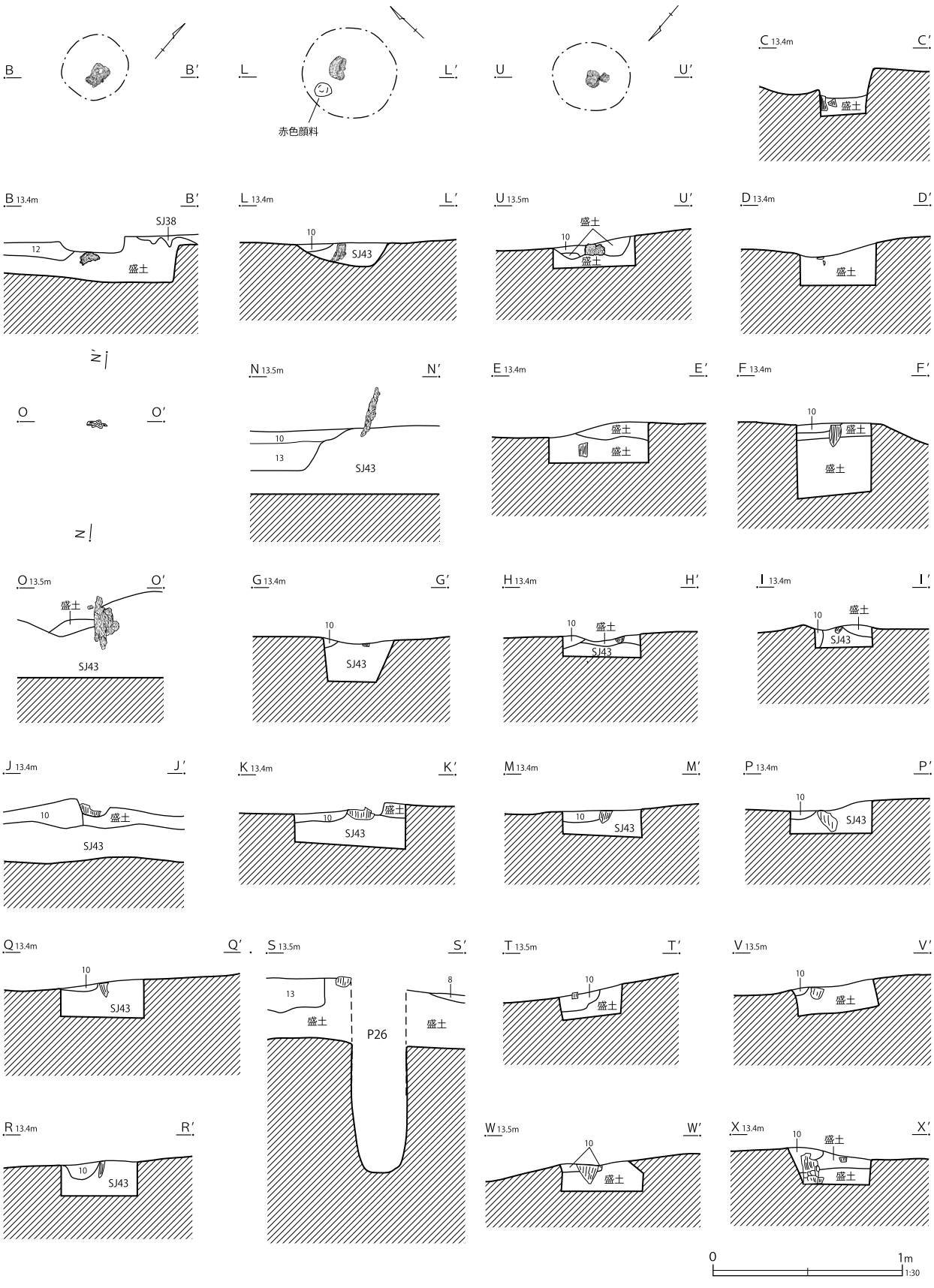
ＳＪ40　炉跡
1　暗赤褐色土　焼土粒子・暗褐色土との混土　床面構築土
2　灰茶褐色土　粘質　灰・住居覆土との混土
3　灰褐色土　粘質　灰層　土器片・骨片含む
4　赤褐色土　被熱赤化　炭化物（少）　粘性（無）　しまり（良）
5　暗褐色土　焼土粒子含む
6　赤褐色土　被熱赤化　焼土ブロック（多）　粘性（弱）　火床面
7　赤褐色土　焼土　掘り方
8　灰茶褐色土　粘質　灰層・住居覆土との混土
9　灰褐色土　粘質　灰層　土器片・骨片含む
10　赤褐色土　砂質　被熱赤化　炭化物粒子（少）
粘性（無）　しまり（良）　火床面
11　赤褐色土　被熱部分赤化　粘性（弱）　しまり（良）　火床面
12　赤褐色土　砂質　粘性（無）　しまり（良）　被熱硬化　掘り方
13　赤褐色土　焼土ブロック（多）　被熱硬化　掘り方
14　灰褐色土　焼土（少）　しまり（良）　掘り方



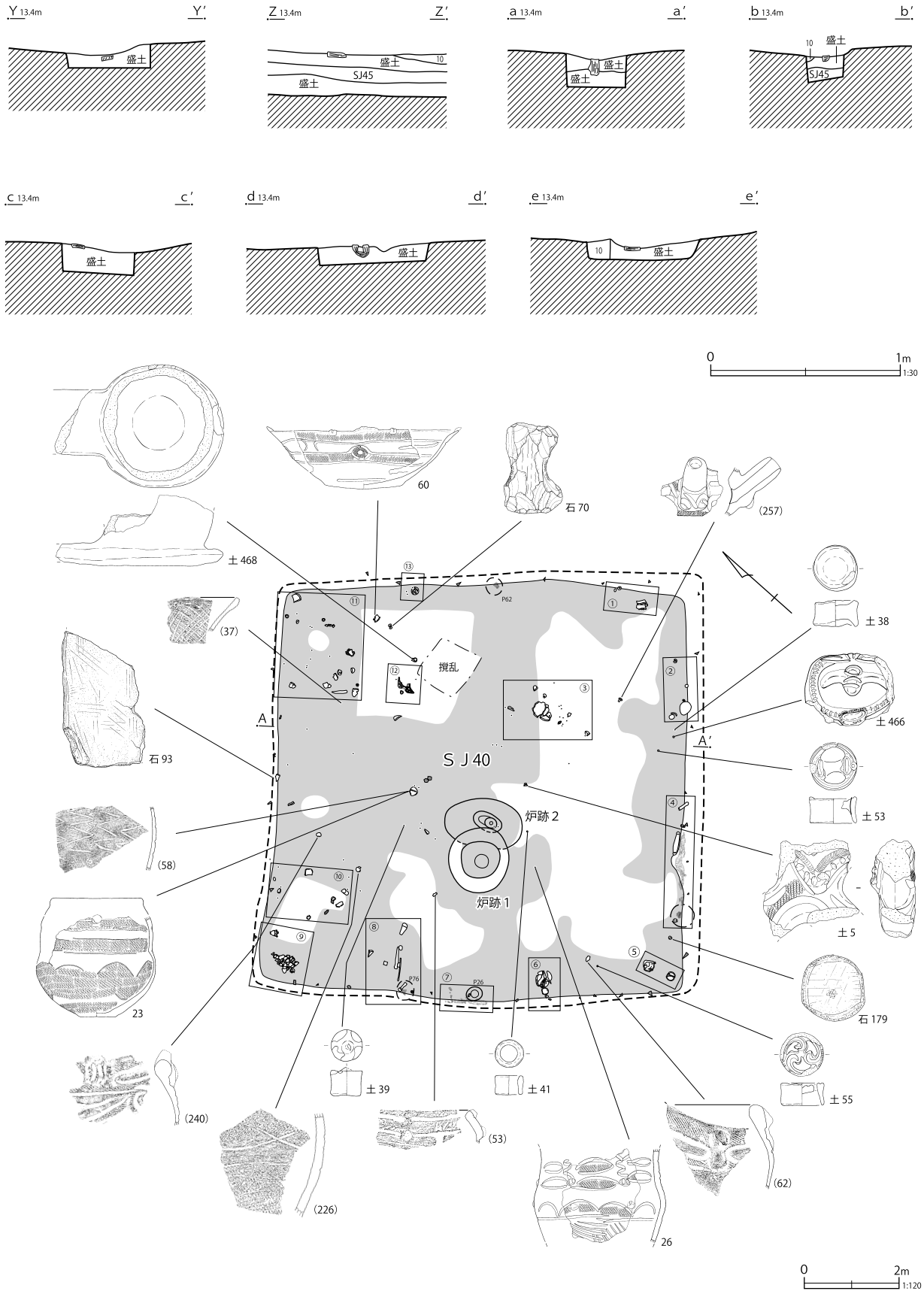
第32図　第40号住居跡（６）



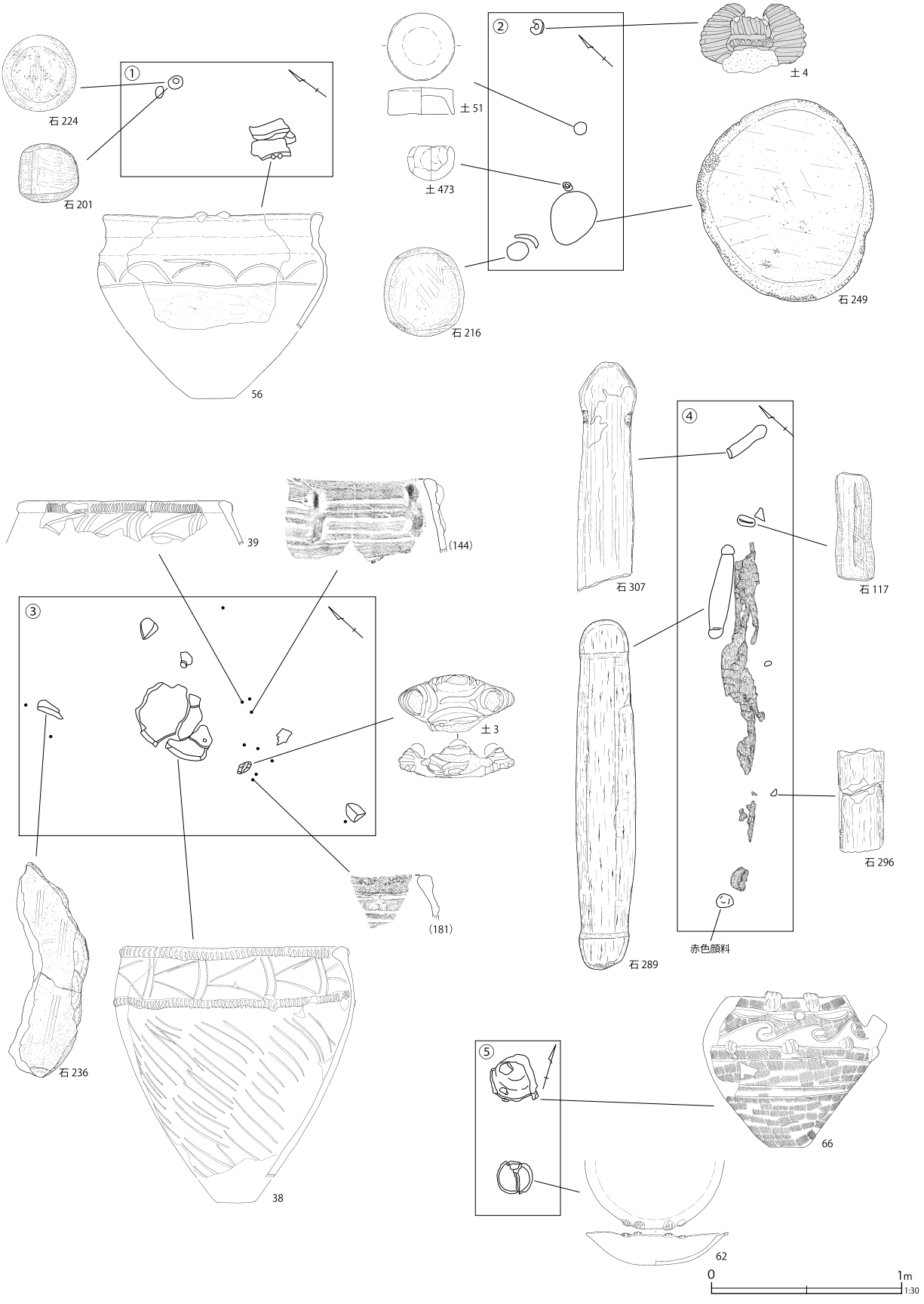
第33図　第40号住居跡（７）



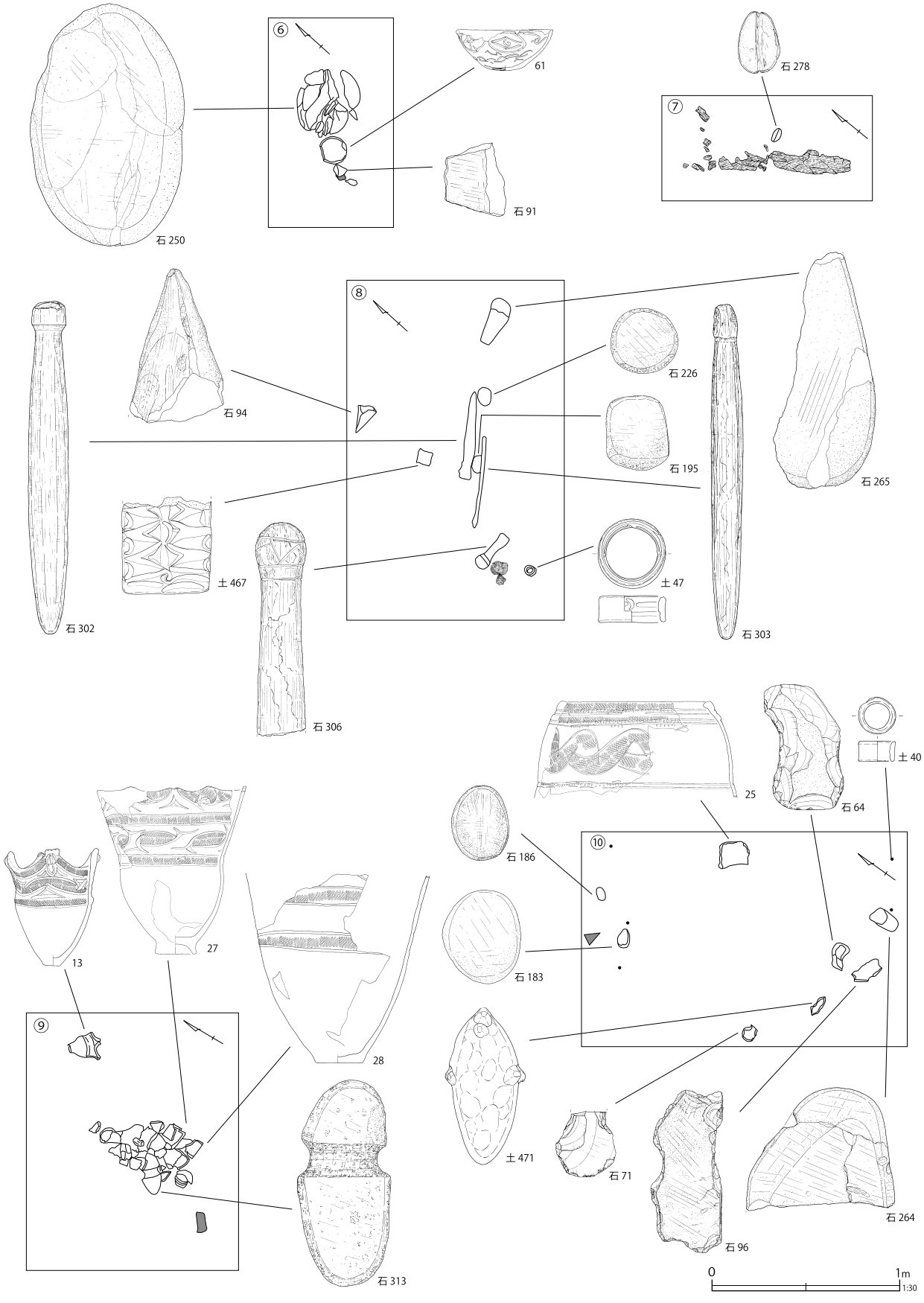
第34図　第40号住居跡（８）



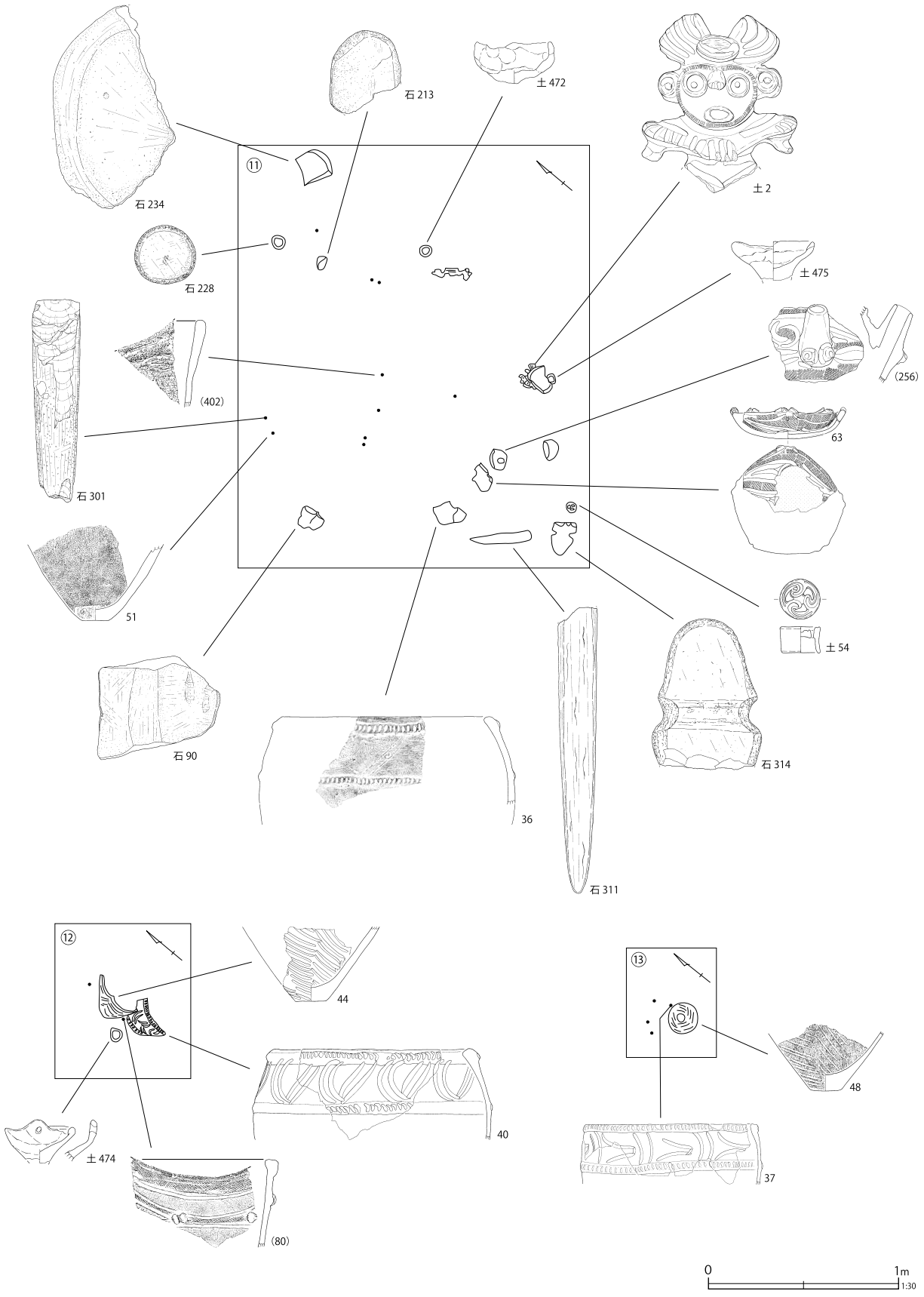
第35図　第40号住居跡（９）・遺物出土状況（１）



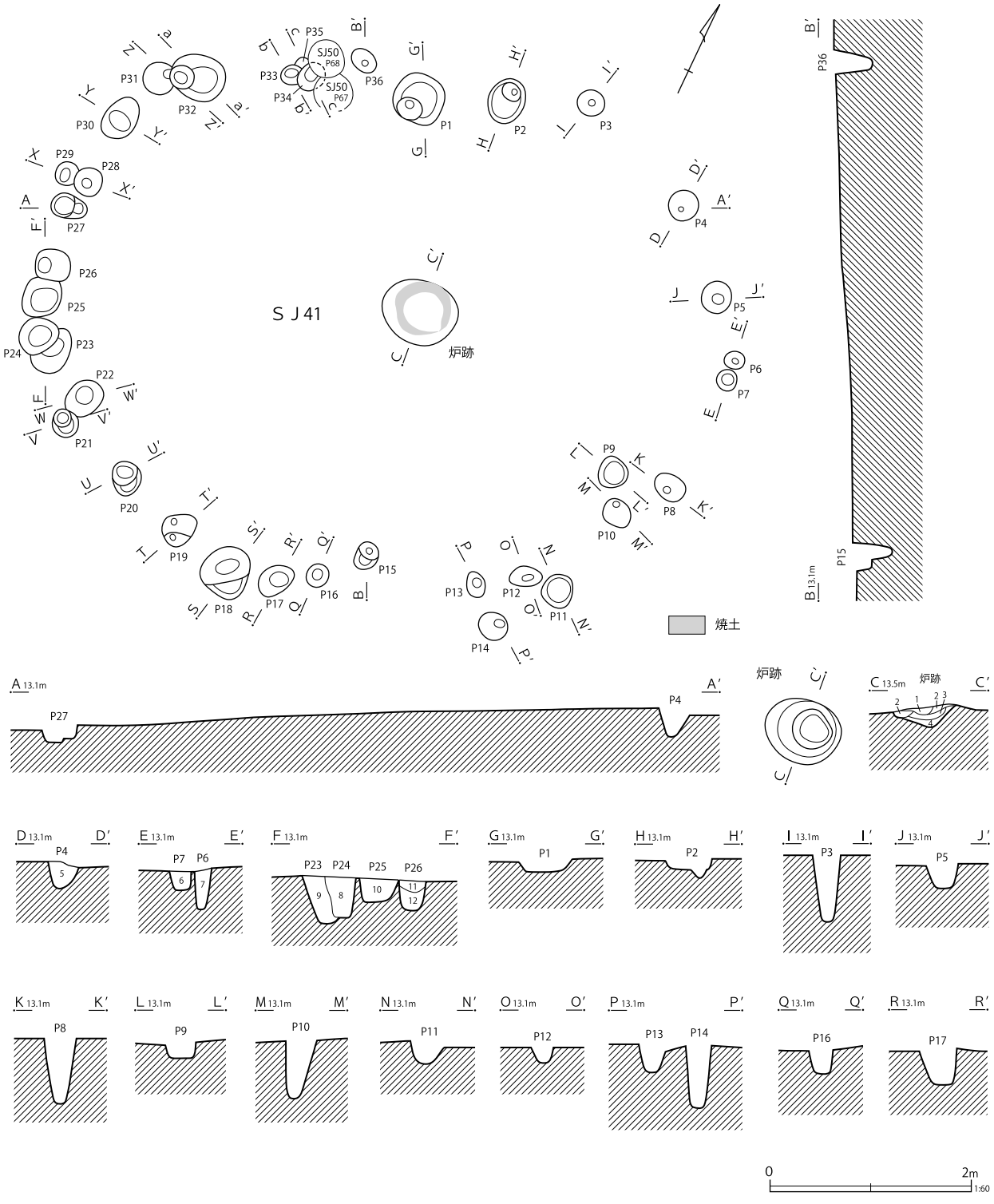
第36図　第40号住居跡遺物出土状況（２）



第37図　第40号住居跡遺物出土状況（３）



第38図　第40号住居跡遺物出土状況（４）



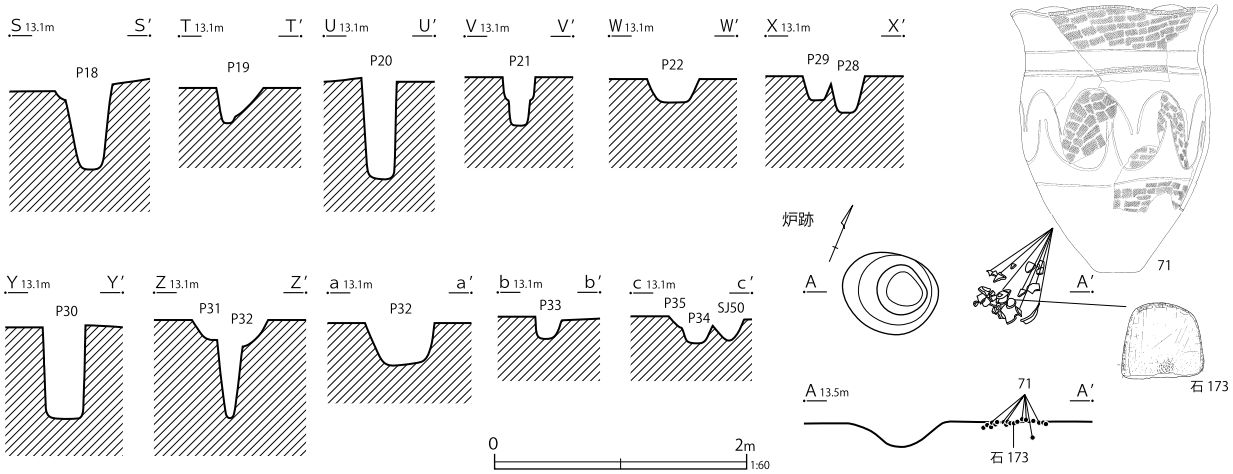
SJ41　炉跡

1	褐色土	焼土粒子（少） 粘性（弱）
2	赤褐色土	焼土主体　粘土（少）
3	赤褐色土	被熱により焼土化が顕著
4	赤褐色＋黒褐色土	灰白色粘質土粒子・炭化物粒子（少） しまり（欠） 中央部が被熱焼土化

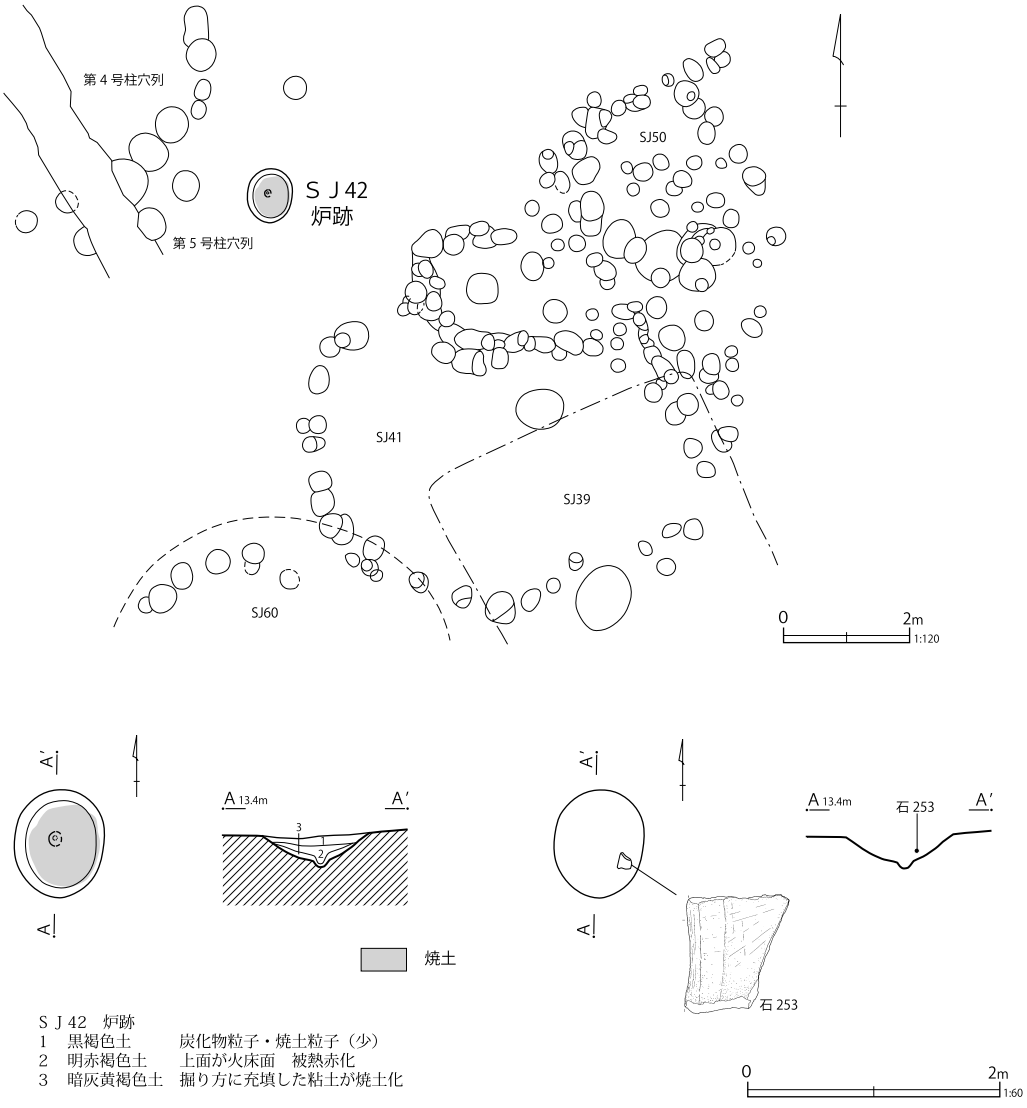
柱穴

5	黒褐色土	ローム粒子（微） 炭化物粒子（多） しまり（良） 埋土
6	暗褐色土	ローム粒子・骨片（少） 炭化物粒子（中） しまり（欠）
7	灰褐色土	ローム粒子（中） 炭化物粒子（少） しまり（良）
8	褐色土	ロームとの混土　埋土　しまり（良）
9	明褐色土	ロームとの混土　ロームブロック（少） しまり（良）
10	褐色土	ロームとの混土　ローム粒子（中） しまり（良） 埋土
11	褐色土	ロームとの混土で斑状　しまり（良）
12	褐色土	ロームとの混土　しまり（良） 粘性（強） 埋土

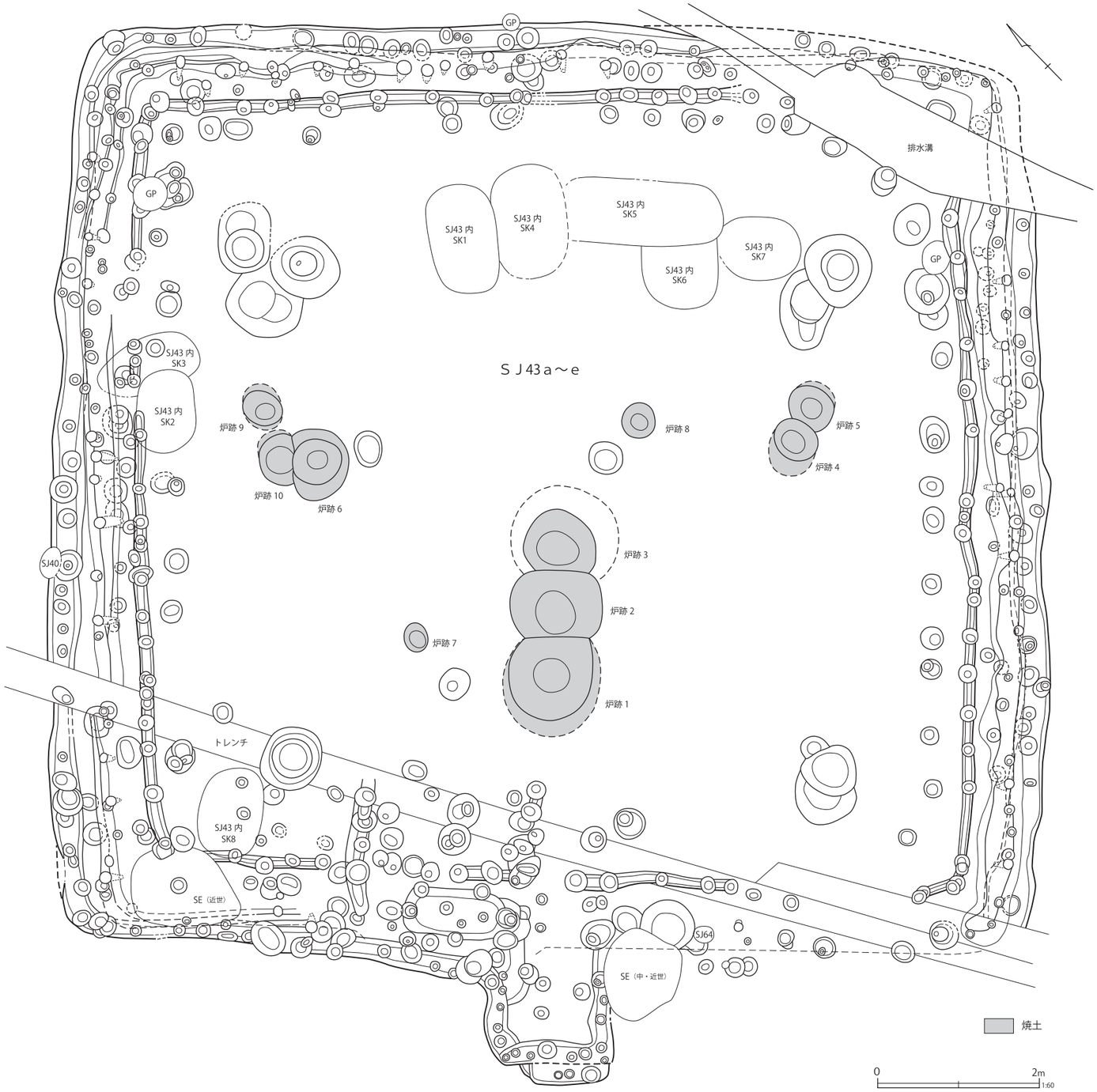
第39図　第41号住居跡（１）

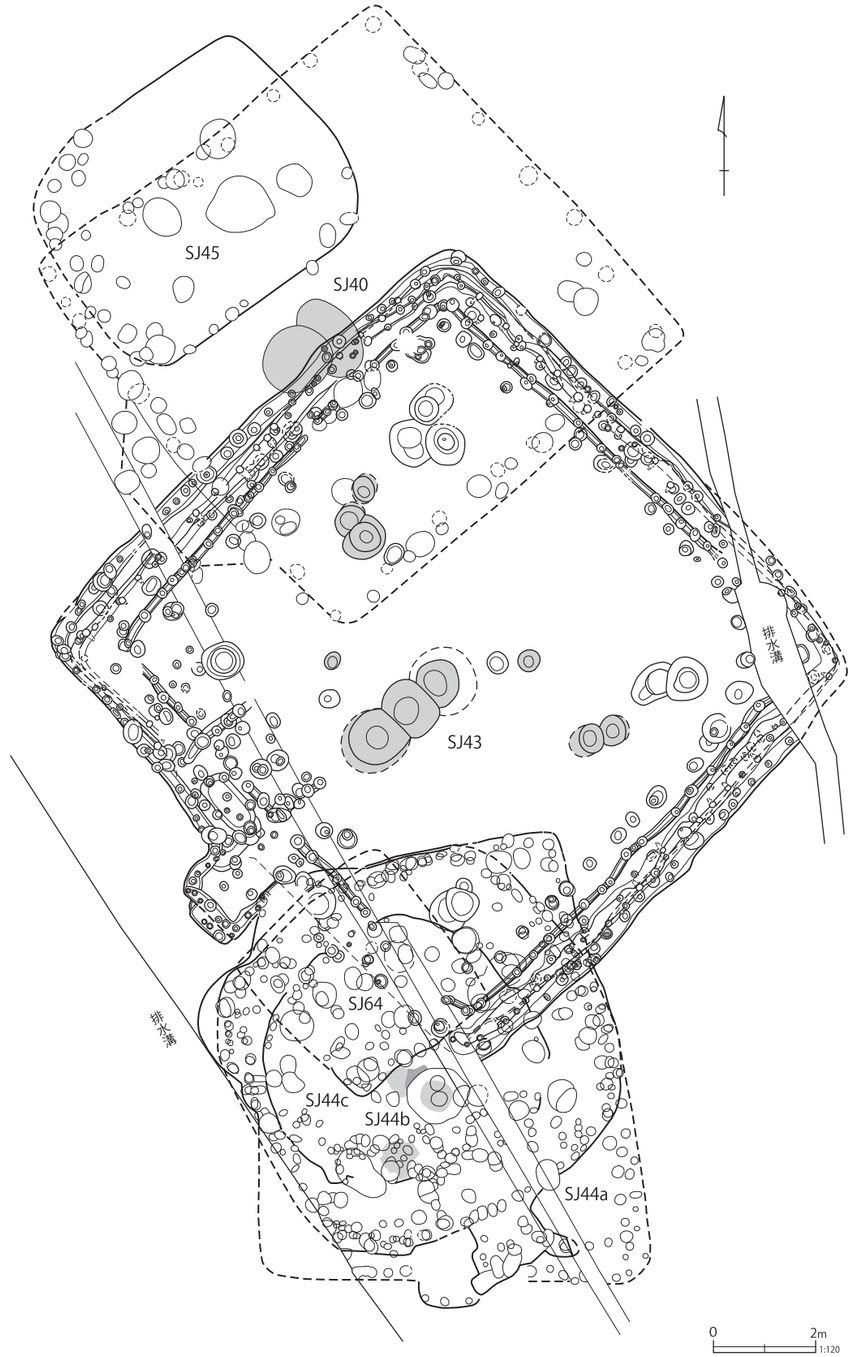


第40図　第41号住居跡（２）

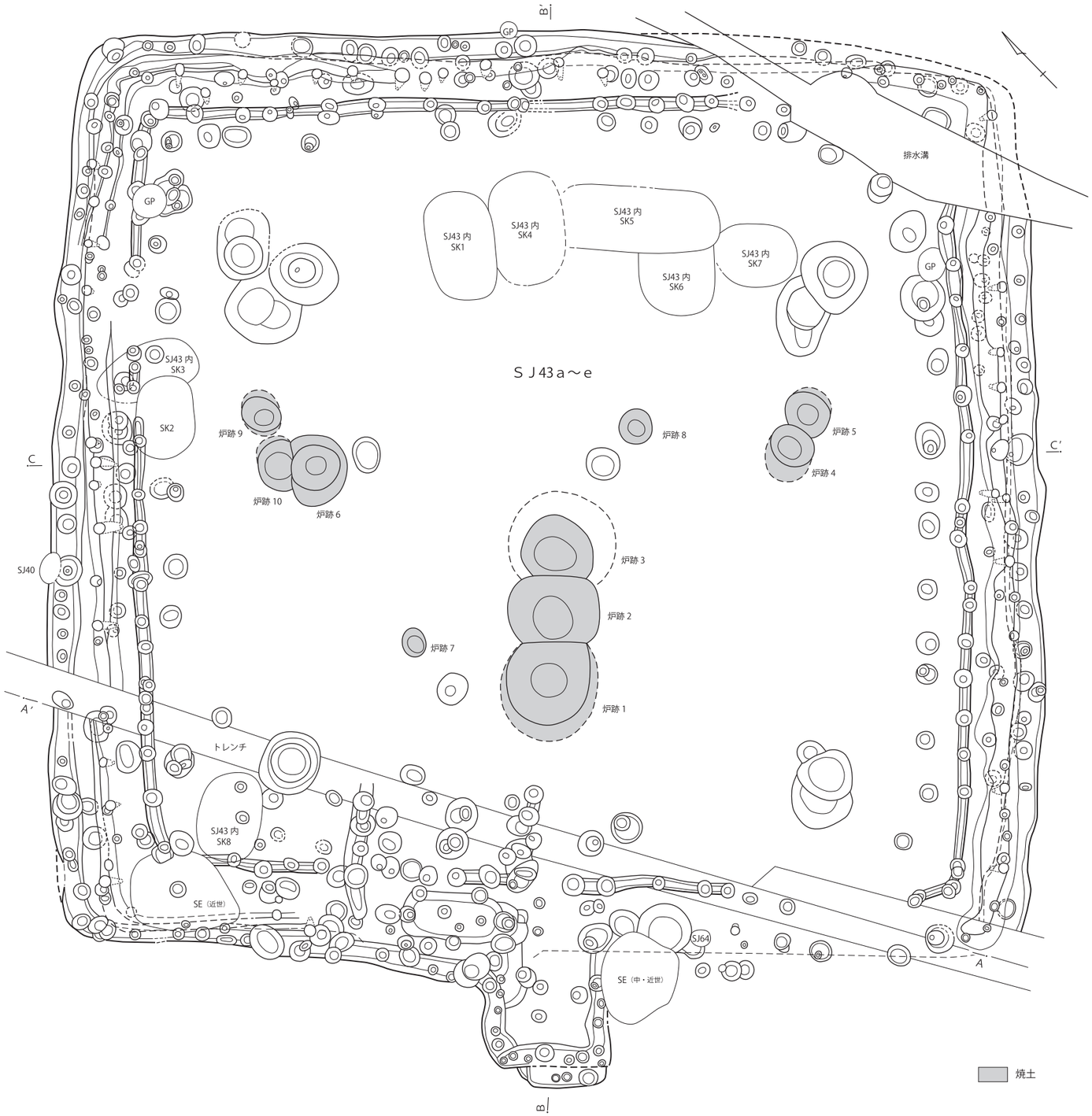


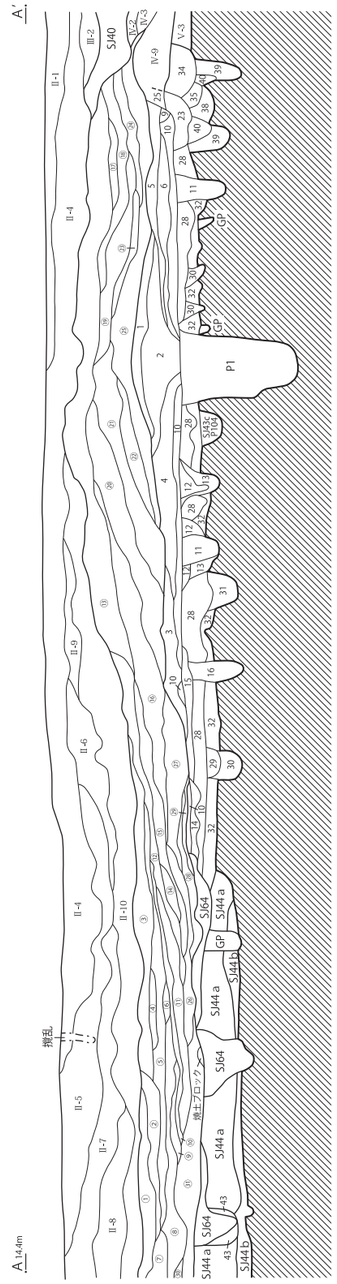
第41図　第42号住居跡

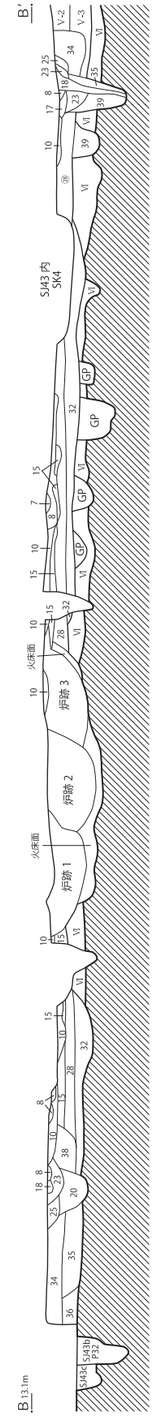


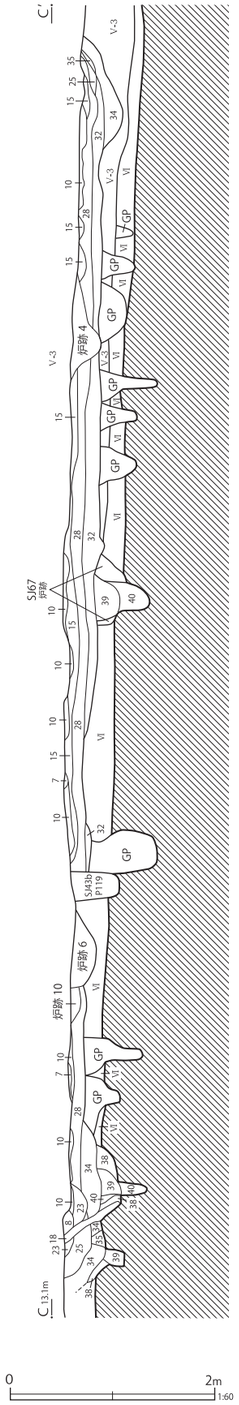


第42図　第43号住居跡（１）

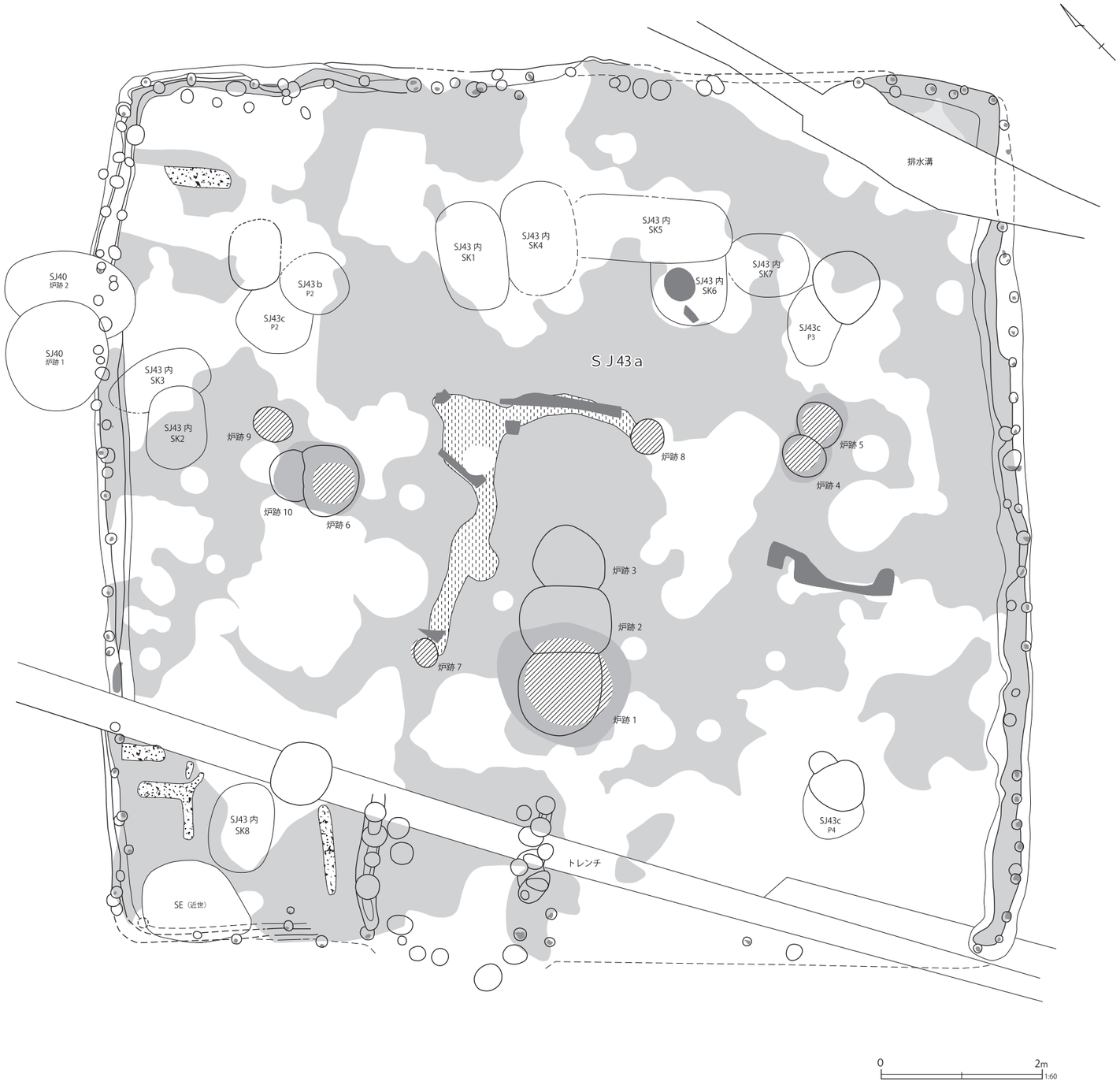








第43図　第43号住居跡（２）



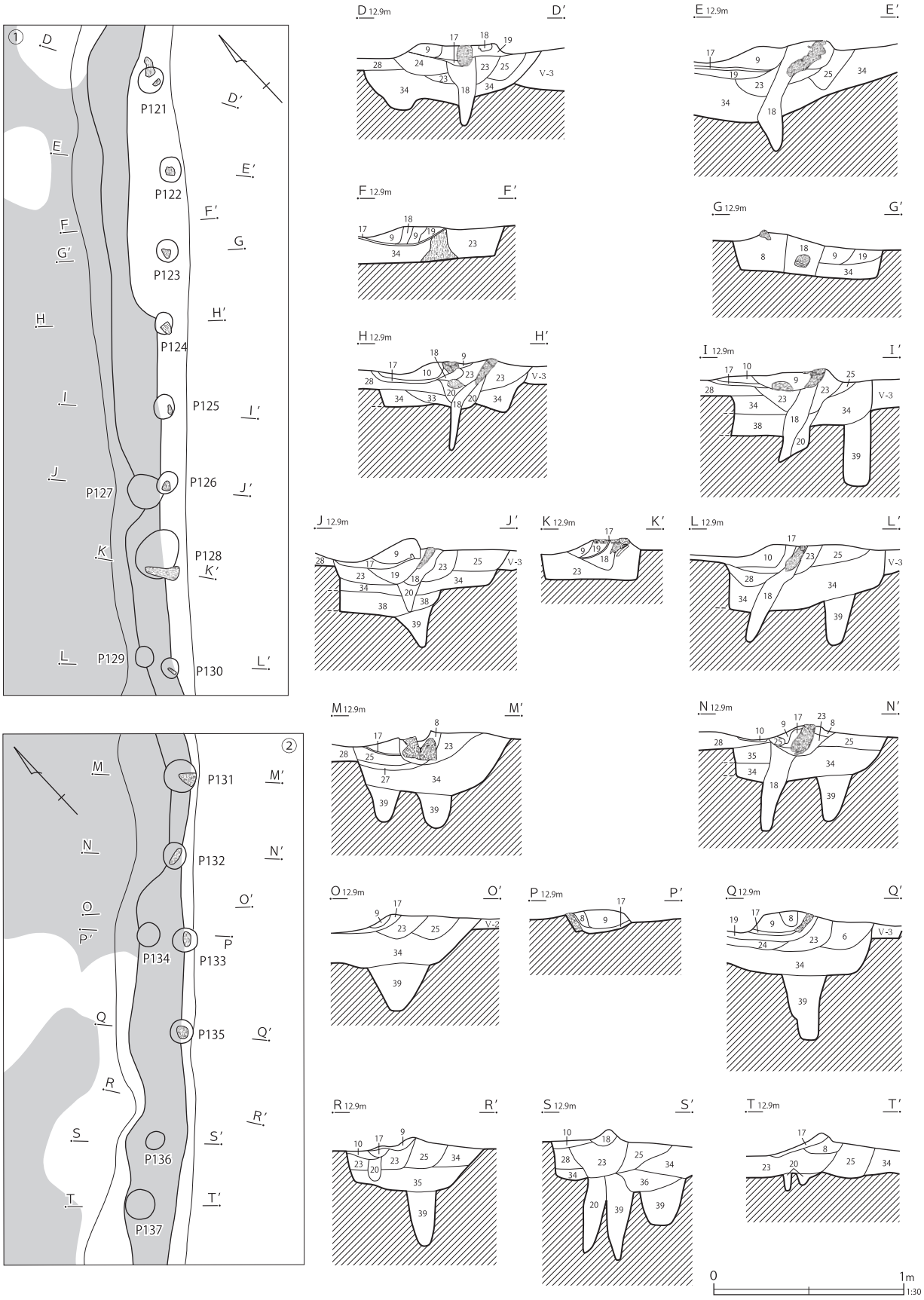
第44図　第43号住居跡（３）

炉上焼土
貼床焼土
灰白色粘土
屋根材跡
敷物
敷物
焼土上面灰
炭化杭

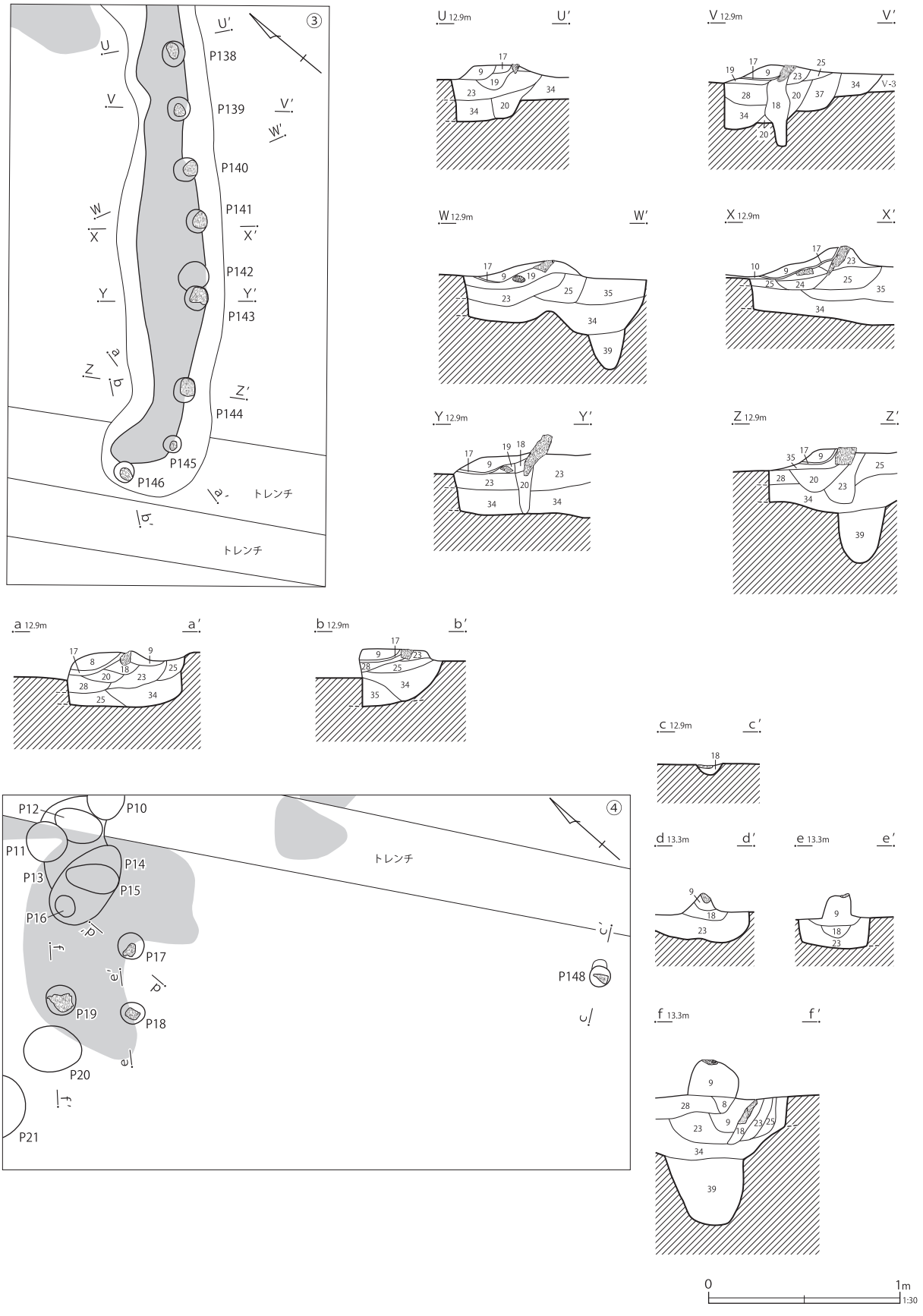
Ⅱ-1　茶褐色土　粘質　ローム質土ブロック主体
明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物（微）しまり（良）
Ⅱ-4　褐色土　シルト質　ローム質土ブロック主体
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（微）しまり（良）
Ⅱ-5　灰黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック・暗褐色土との混土
暗褐色土ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
炭化物帯状層含む　しまり（良）
Ⅱ-6　黄褐色土　粘質　ローム質土主体　炭化物粒子・遺物（微）しまり（良）
Ⅱ-7　暗黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック（多）暗褐色土ブロック
・炭化物粒子・焼土粒子（少）しまり（良）
Ⅱ-8　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック・炭化物粒子
・焼土粒子（少）しまり（良）
Ⅱ-9　褐色土　粘質　暗褐色土・ローム質土との混土　しまり（良）
Ⅱ-10　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック（微）
炭化物粒子・焼土粒子（少）骨片含む　しまり（中）
Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）
焼土粒子（少）遺物（極多）粘性（中）しまり（中）
Ⅳ-2　暗褐色土　粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物粒子含む
骨片（少）遺物（中）しまり（中）
Ⅳ-3　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）焼土粒子（微）遺物（中）しまり（中）
Ⅳ-9　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（中）しまり（良）
Ⅴ-2　暗褐色土　粘質　ローム小ブロック・炭化物粒子・遺物（微）しまり（良）
Ⅴ-3　灰黄褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）遺物（微）しまり（良）
Ⅵ　にぶい黄褐色土

南盛土　盛土土層
①　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（少）しまり（欠）
②　暗褐色土　粘質　炭化物（径 10 ㎜）（中）しまり（中）
③　黒色土　シルト質　炭化物　骨粉（少）しまり（欠）
④　褐色土　シルト質　ローム粒子・焼土（多）しまり（中）
⑤　黒褐色土　粘質　炭化物（多）骨粉（微）遺物（少）しまり（中）
⑥　暗褐色土　シルト質　ローム粒子含む　焼土（多）しまり（中）
⑦　暗褐色土　粘質　炭化物（中）焼土・骨片含む　遺物（少）しまり（中）
⑧　黒褐色土　シルト質　焼土・炭化物との混土　しまり（欠）
⑨　暗褐色土　粘質　炭化物（多）遺物（少）しまり（中）
⑩　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（微）しまり（欠）
⑪　褐色土　粘質　炭化物（多）焼土（微）遺物（少）しまり（中）
⑫　黒褐色土　シルト質　炭化物層　骨粉（微）しまり（中）
⑬　暗褐色土　粘質　炭化物（中）焼土・骨粉・遺物（少）しまり（良）
⑭　暗褐色土　粘質　炭化物（多）しまり（欠）
⑮　黒褐色土　粘質　炭化物（多）
⑯　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（中）焼土粒子（多）骨粉（微）
遺物（少）しまり（中）
⑰　灰褐色土　粘質　炭化物・灰色粘質土（多）遺物（少）しまり（欠）
⑱　黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（少）しまり（中）
⑲　暗褐色土　粘質　炭化物（中）焼土（少）骨粉（微）しまり（中）
⑳　暗褐色土　粘質　炭化物（多）骨粉（中）遺物（多）しまり（中）
㉑　褐色土　粘質　炭化物（中）焼土（少）ローム粒子（多）
骨粉（少）しまり（良）
㉒　暗褐色土　粘質　ローム粒子（少）炭化物（中）骨粉（微）しまり（中）
㉓　黒褐色土　シルト質　炭化物層　焼土（微）遺物（微）しまり（欠）
㉔　暗褐色土　粘質　炭化物・焼土（中）遺物（少）しまり（中）
㉕　黒褐色土　粘質　炭化物（径５～20 ㎜）（中）ローム粒子・骨粉（少）
しまり（中）
㉖　暗褐色土　シルト質　炭化物帯状層　骨粉（少）しまり（欠）
㉗　黒褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物（径 20 ～ 30 ㎜）・焼土（多）
遺物（少）しまり（中）
㉘　黒褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物（径 20 ～ 40 ㎜）・焼土（多）しまり（中）
㉙　黒色土　シルト質　ローム粒子・炭化物（径 20 ～ 50 ㎜）・焼土（多）しまり（欠）
㉚　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（良）
㉛　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）焼土粒子（中）遺物（多）しまり（欠）

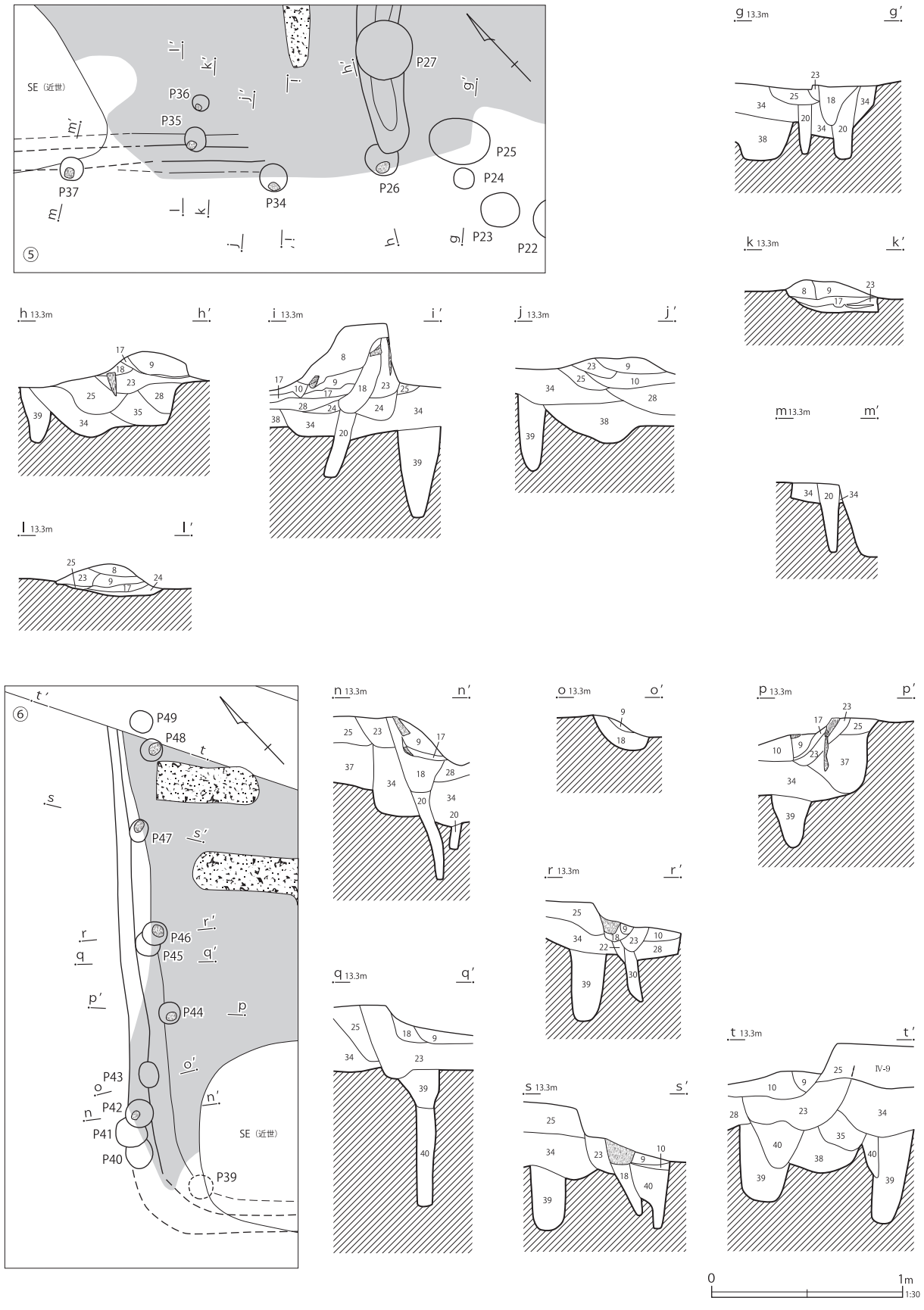
第45図　第43号住居跡（４）



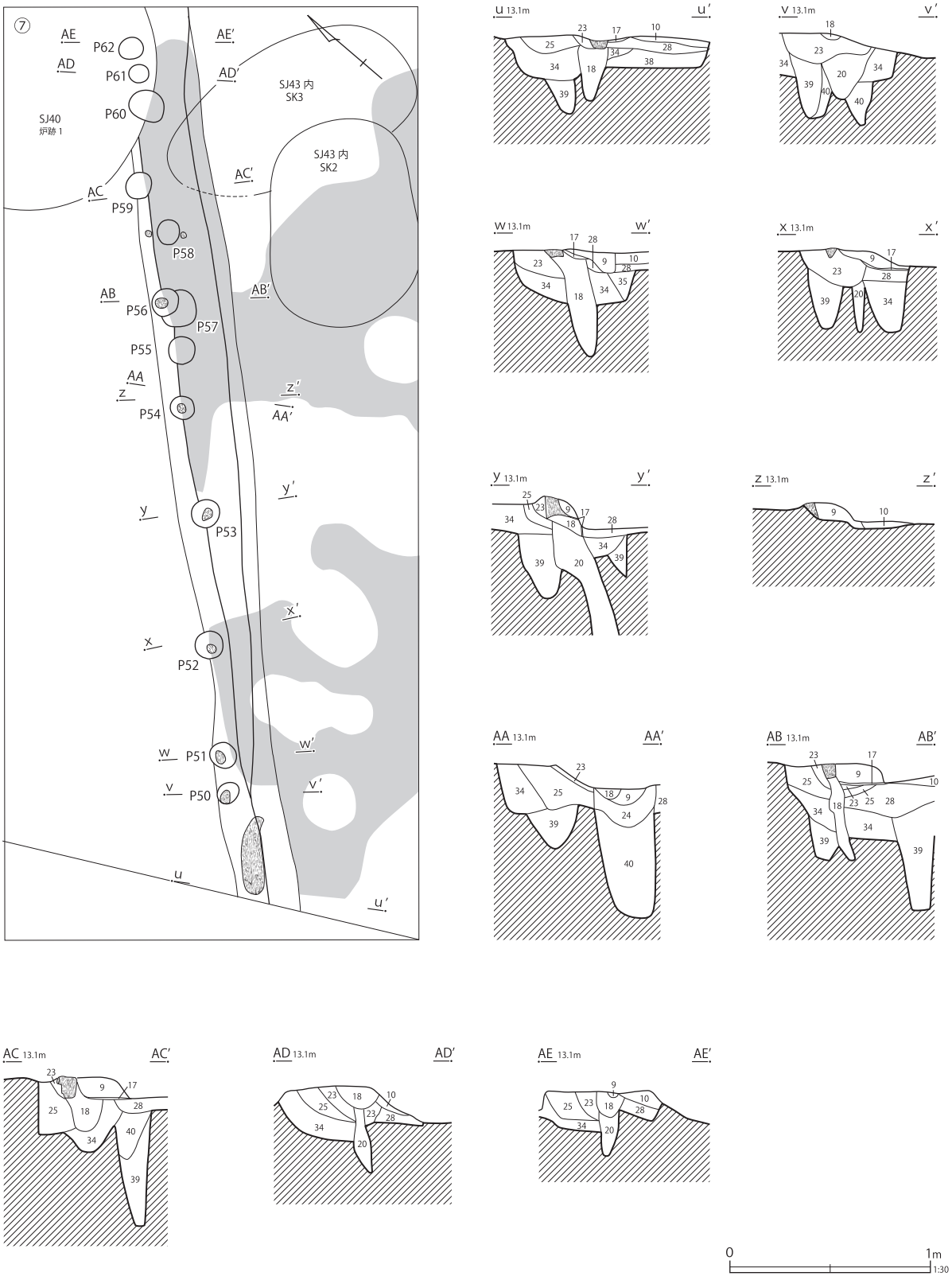
第46図　第43号住居跡（５）



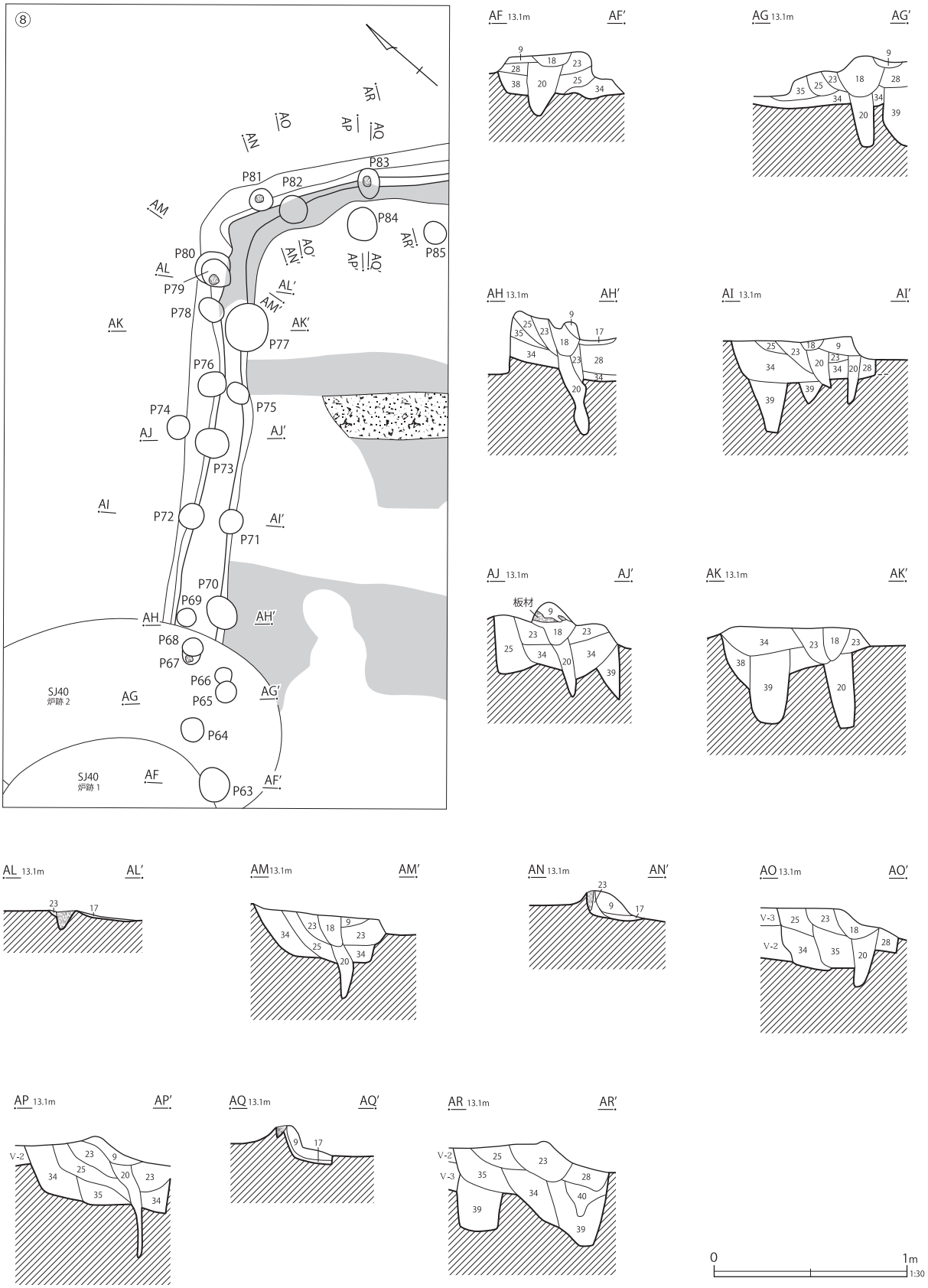
第47図　第43号住居跡（6）



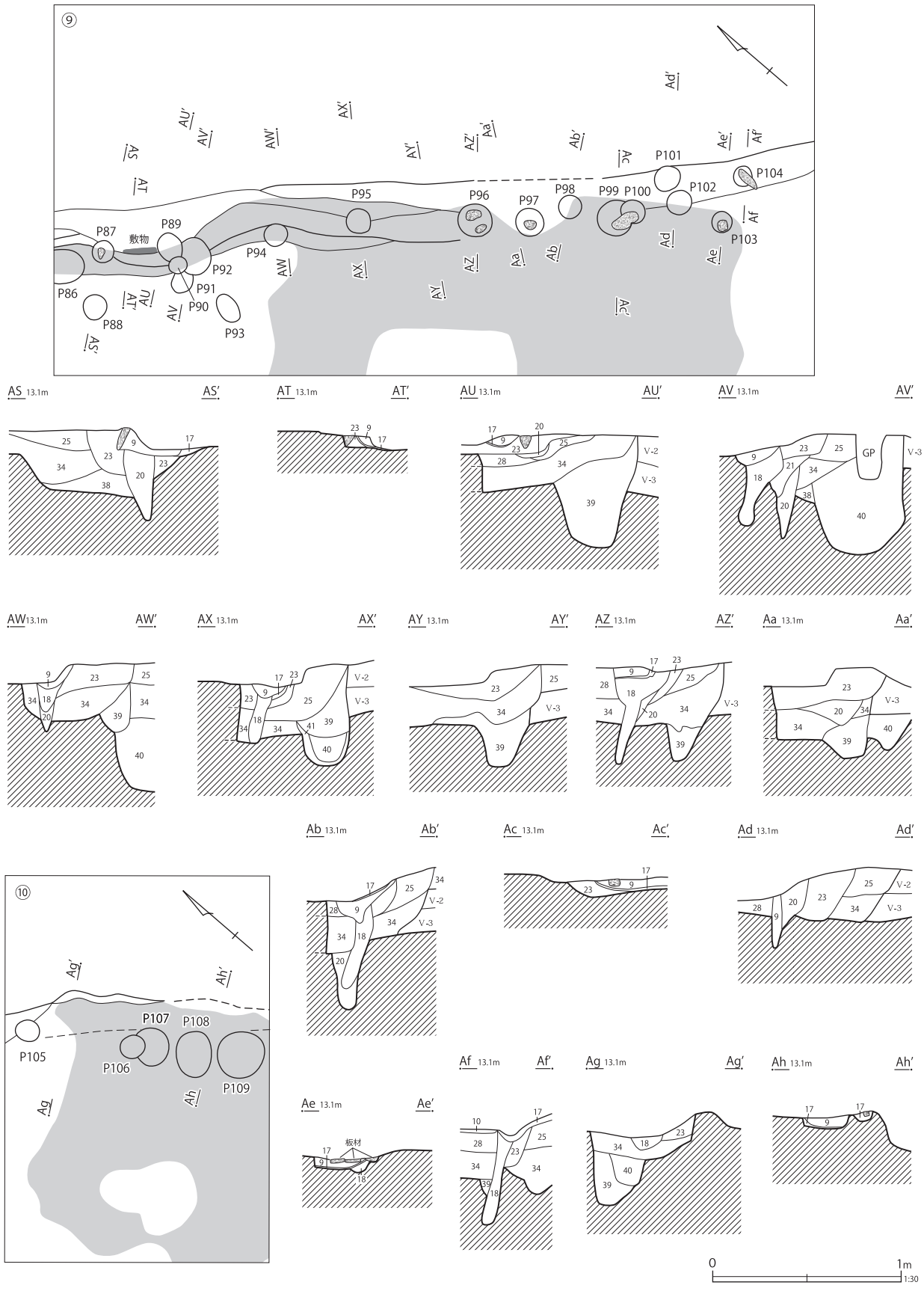
第48図　第43号住居跡（７）



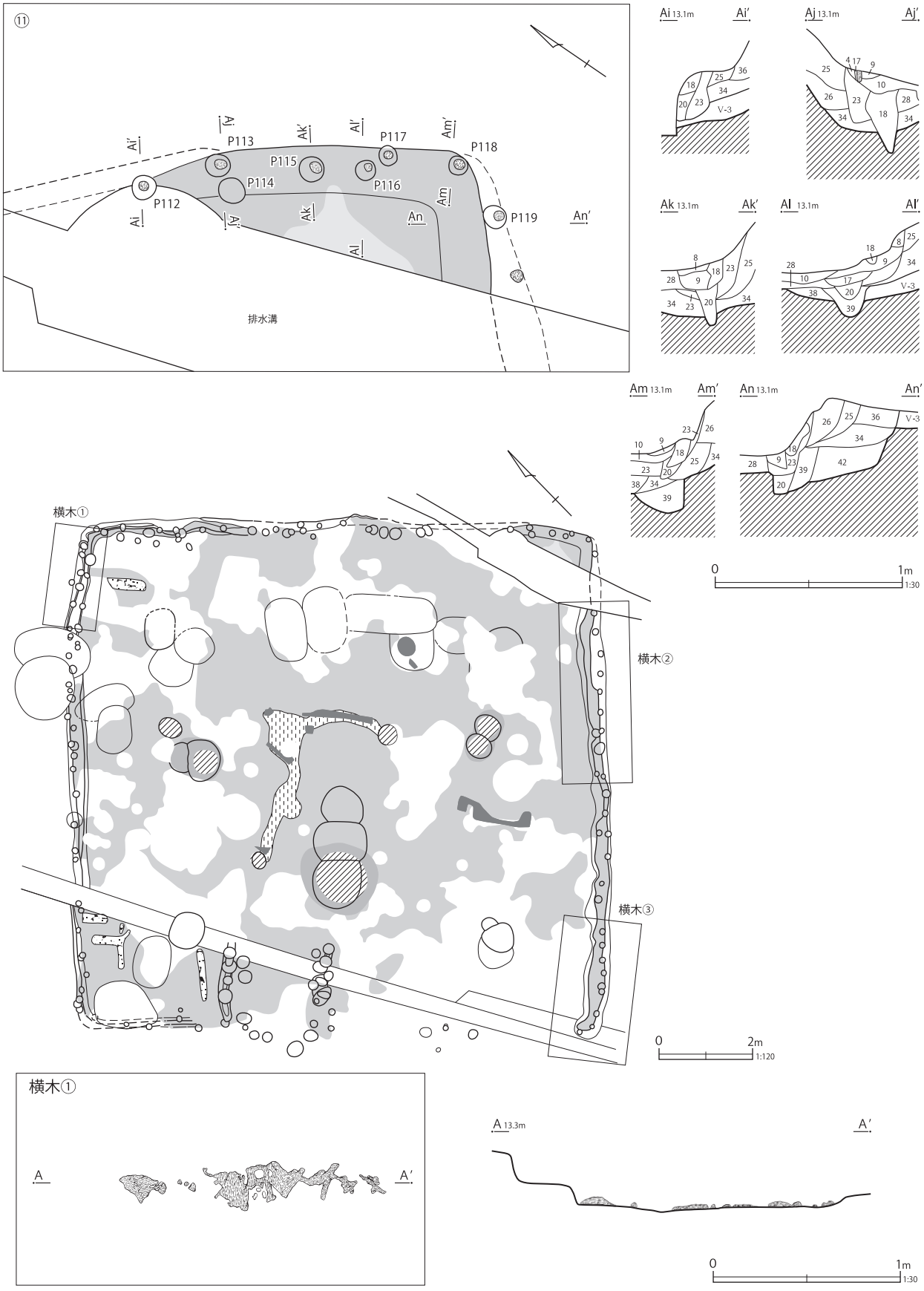
第49図　第43号住居跡（８）



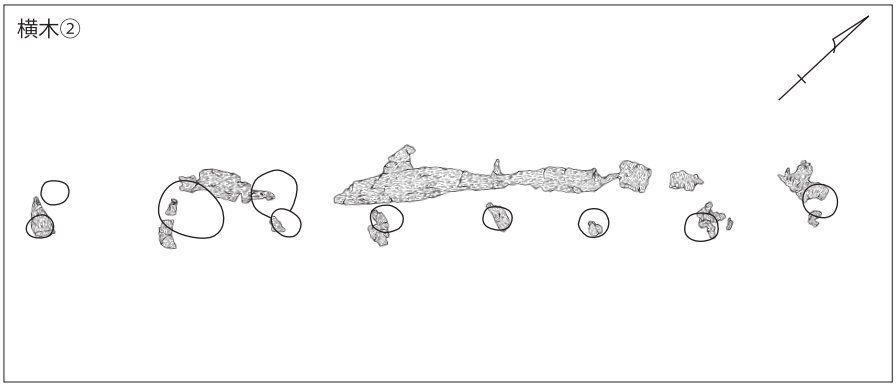
第50図　第43号住居跡（９）

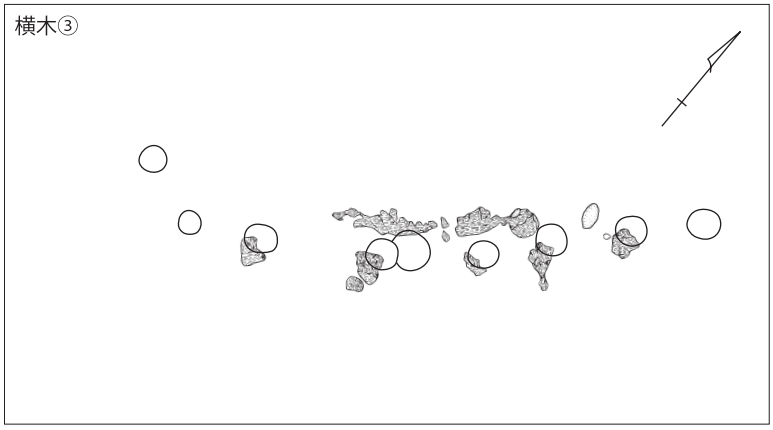


第51図　第43号住居跡（10）



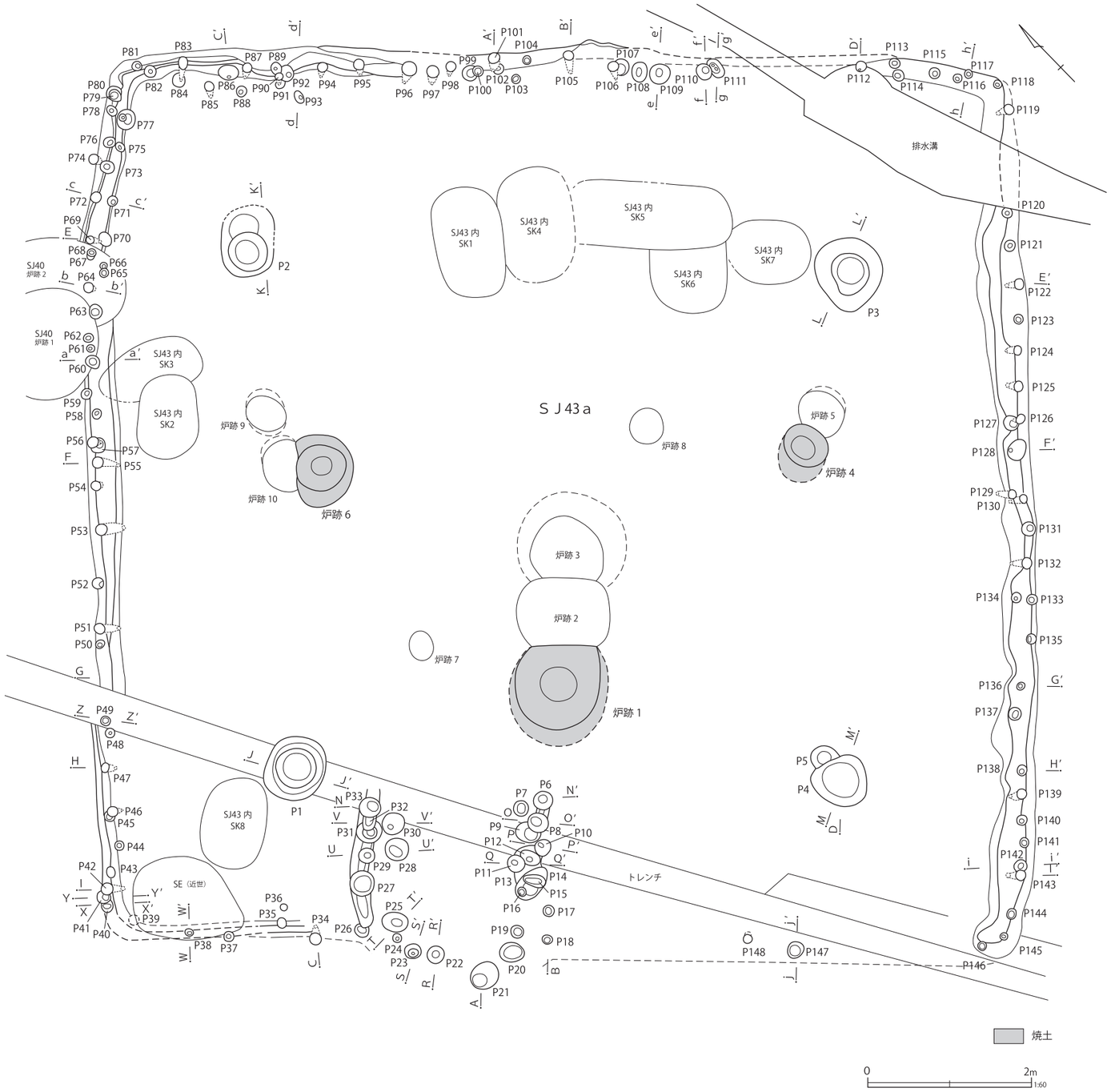
第52図　第43号住居跡（11）

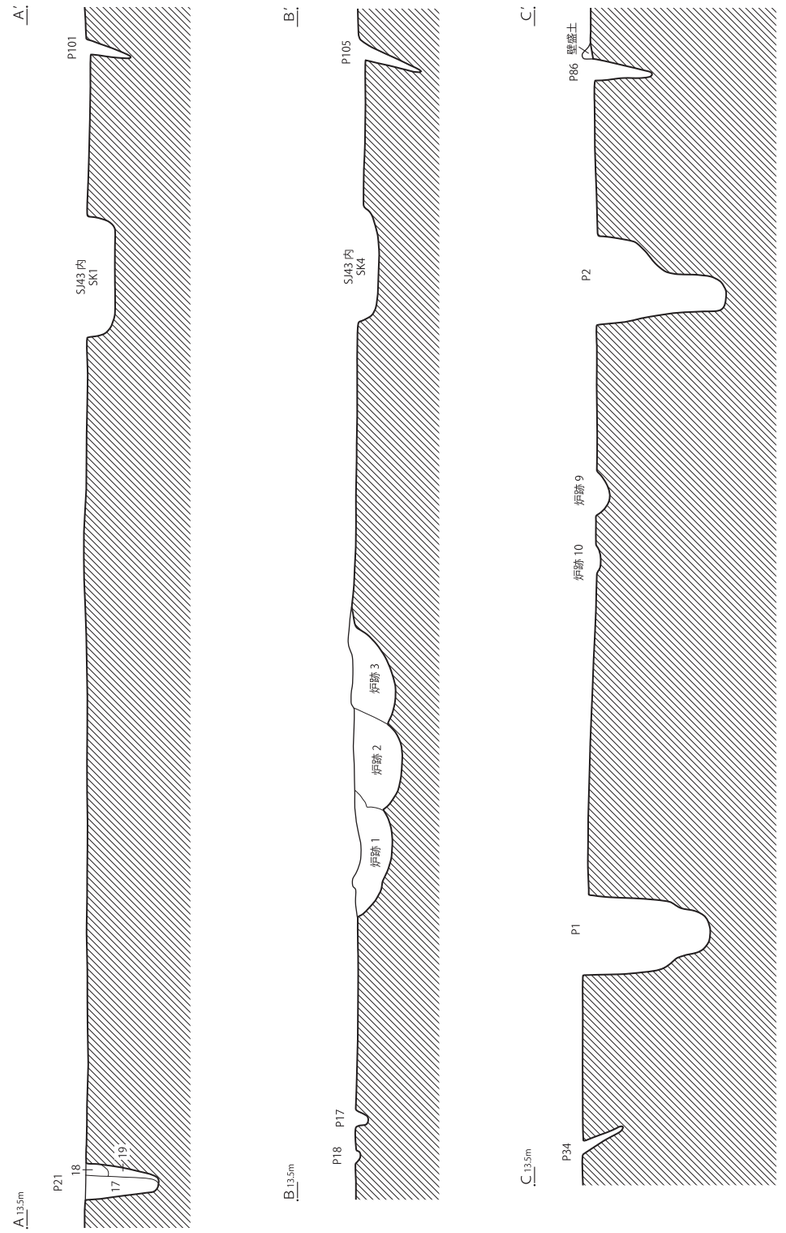




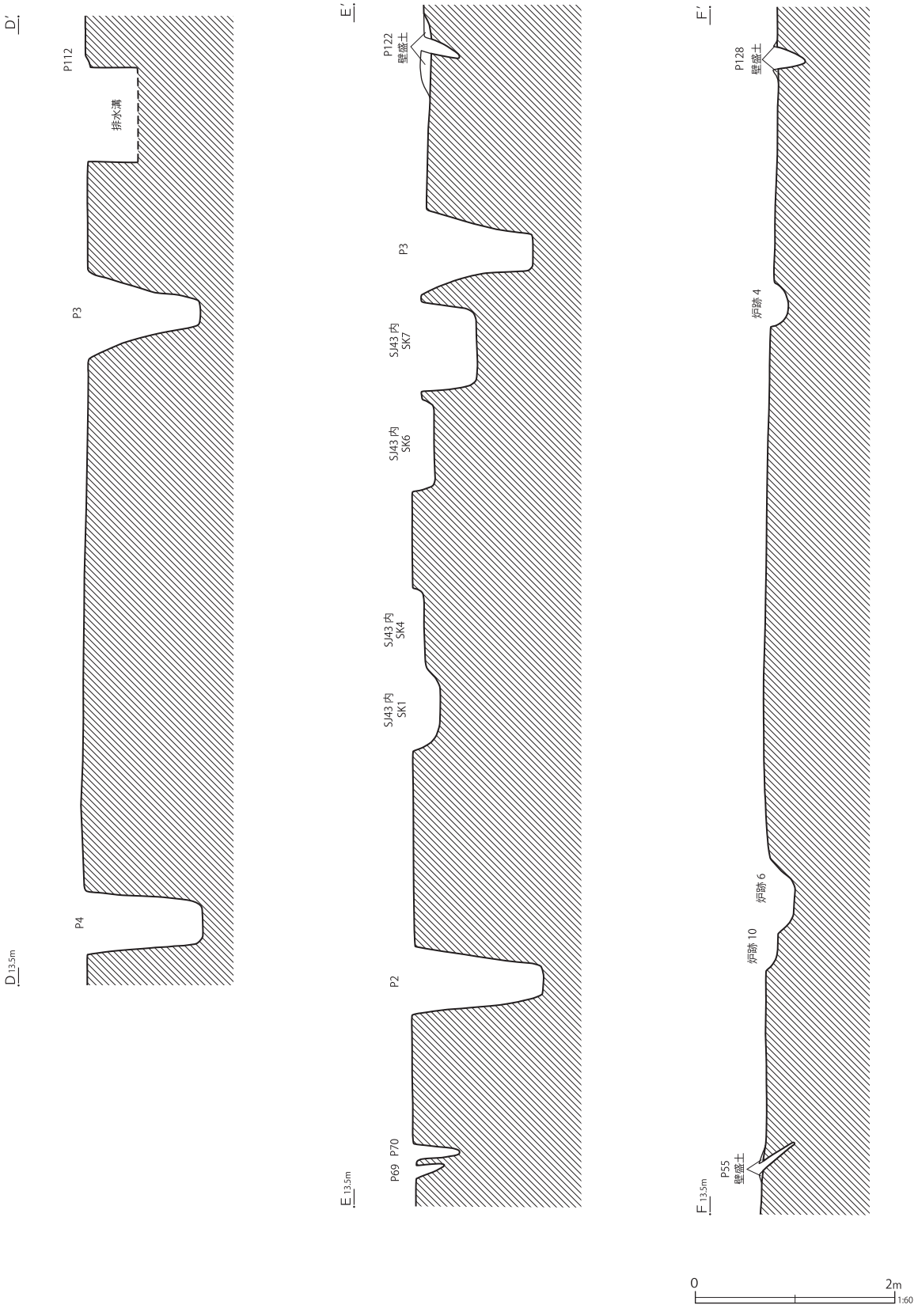
ＳＪ43
1　暗褐色土　焼土（多）
2　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・骨片（多）　柱穴埋没土
3　黒褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物（径 20 ～ 30 ㎜）・焼土粒子（多）
4　黒褐色土　粘質　焼土粒子・遺物（多）
5　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　遺物（多）
6　褐色土　炭化物（径 10 ㎜）・焼土粒子含む　遺物（多）
7　黒色土　繊維状炭化物（アンペラ状の敷物）
8　暗赤褐色土　シルト質　炭化物粒子（中）
9　赤褐色土　シルト質　炭化物粒子・焼土粒子・灰（多）　しまり（欠）　壁崩落土
10　明赤褐色土　粘質　焼成粘土　土器片含む　上面灰の薄層　しまり（良）　貼床構築土
11　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）　柱痕
12　暗褐色土　暗褐色土・焼土との混土　炭化物粒子含む　柱痕
13　暗褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（微）　柱痕掘り方
14　灰褐色土　ローム粒子・炭化物（径 5 ～ 10 ㎜）（多）　焼土（少）
15　暗赤褐色土　シルト質　暗褐色土が被熱赤化したもの　床面調整土
16　暗褐色土　ローム粒子・焼土含む　柱痕
17　黒色土　シルト質　繊維状炭化物（多）　敷物痕跡
18　黒褐色土　砂質　炭化杭含む　柱痕　しまり（欠）　尖端尖る
19　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（欠）
20　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）　暗褐色土小ブロック（多）　しまり（欠）　杭抜去痕
21　黒褐色土　シルト質　ローム小ブロック（少）　炭化物含む　しまり（欠）
22　黒褐色土　シルト質　焼土粒子（多）
23　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（多）　焼土粒子・土器等含む　しまり（中）　杭裏込土か掘り方
24　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック（多）　しまり（欠）
25　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・暗褐色土小ブロック（多）　焼土粒子（少）　しまり（良）　貼床前壁崩落土
26　暗褐色土　シルト質　炭化物・焼土粒子・ローム小ブロック（少）
27　黒褐色土　シルト質　炭化物（多）　しまり（欠）
28　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体にローム小ブロック・炭化物粒子・土器片含む　しまり（中）　床面調整土
29　黒褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）含む
30　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（多）
31　暗褐色土　ローム粒子（多）
32　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム小ブロック（少）　しまり（欠）　床面調整土
33　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・焼土粒子（中）
34　暗褐色土　粘質　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）　建て替え前住居覆土
35　暗褐色土　粘質　ロームブロック（中）　しまり（良）
36　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）
37　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）
38　黒褐色土　粘質　炭化物粒子主体　ロームブロック・炭化物粒子含む　しまりやや良好　SJ43 建て替え前掘り方
39　暗褐色土　シルト質　炭化物（少）　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土　しまり（欠）　建て替え前住居柱穴
40　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子（多）
41　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）　しまり（良）
42　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（欠）
43　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土含む　粘性（強）

第53図　第43号住居跡（12）

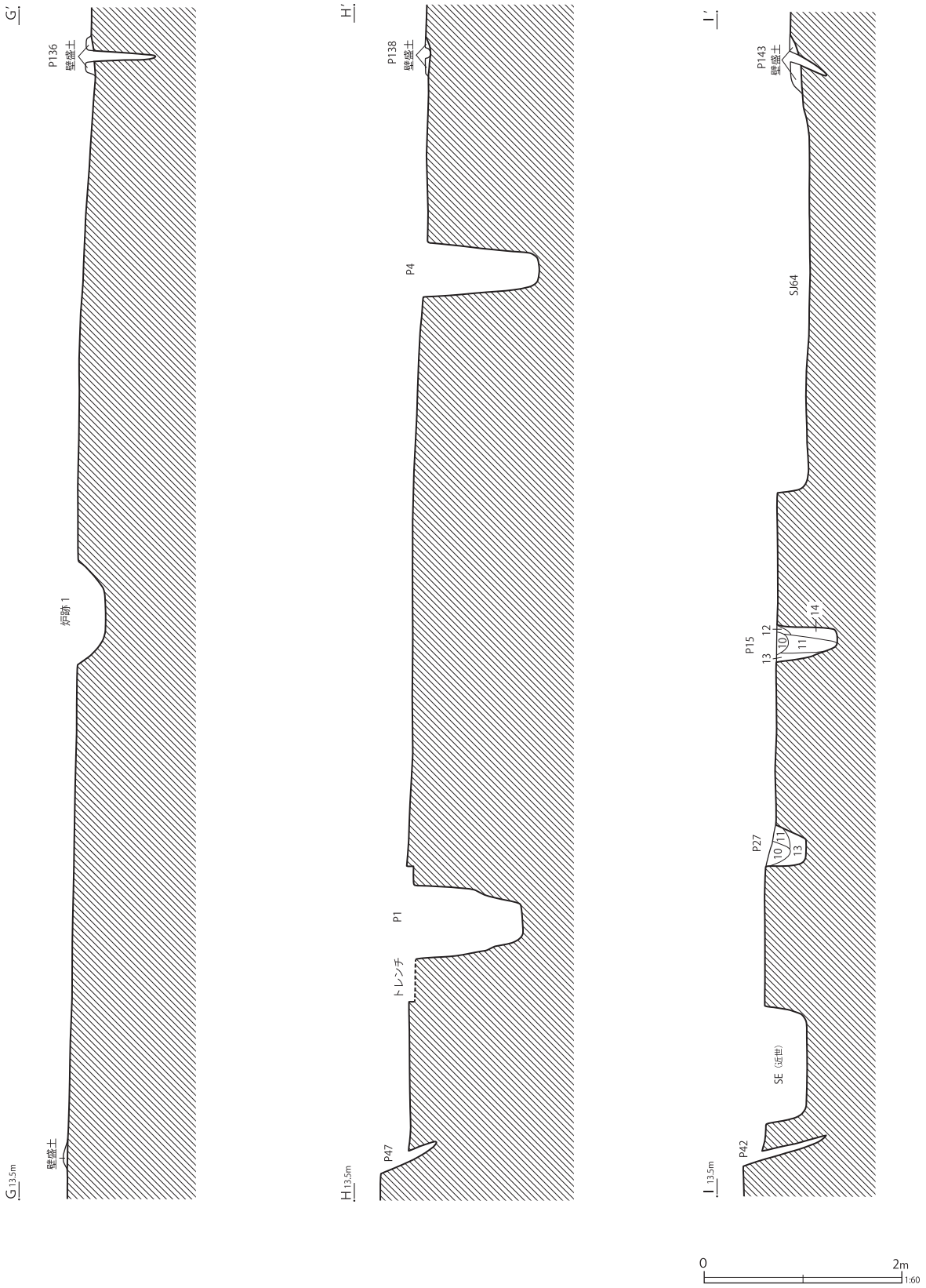




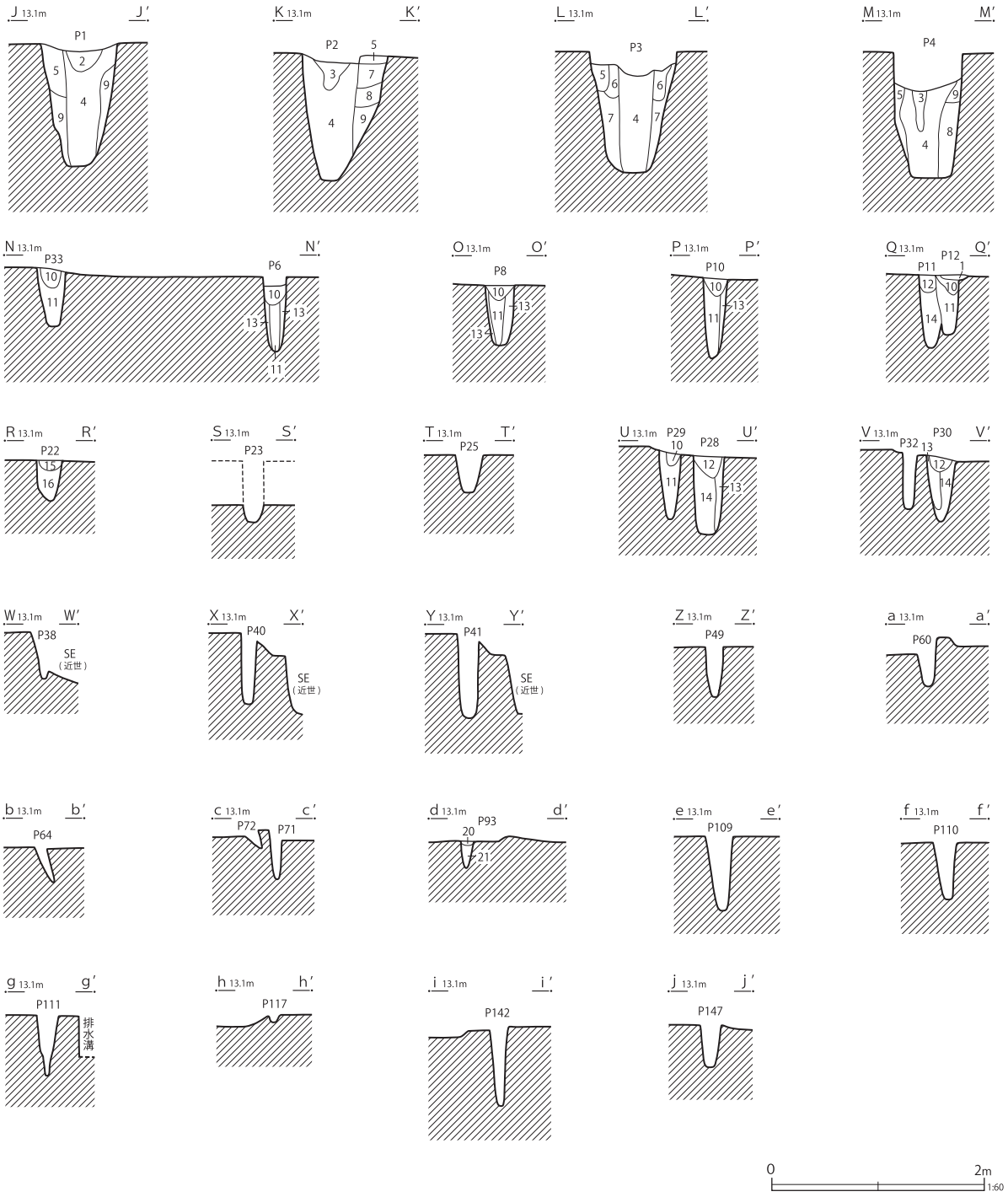
第54図　第43a号住居跡（１）



第55図　第43a号住居跡（２）



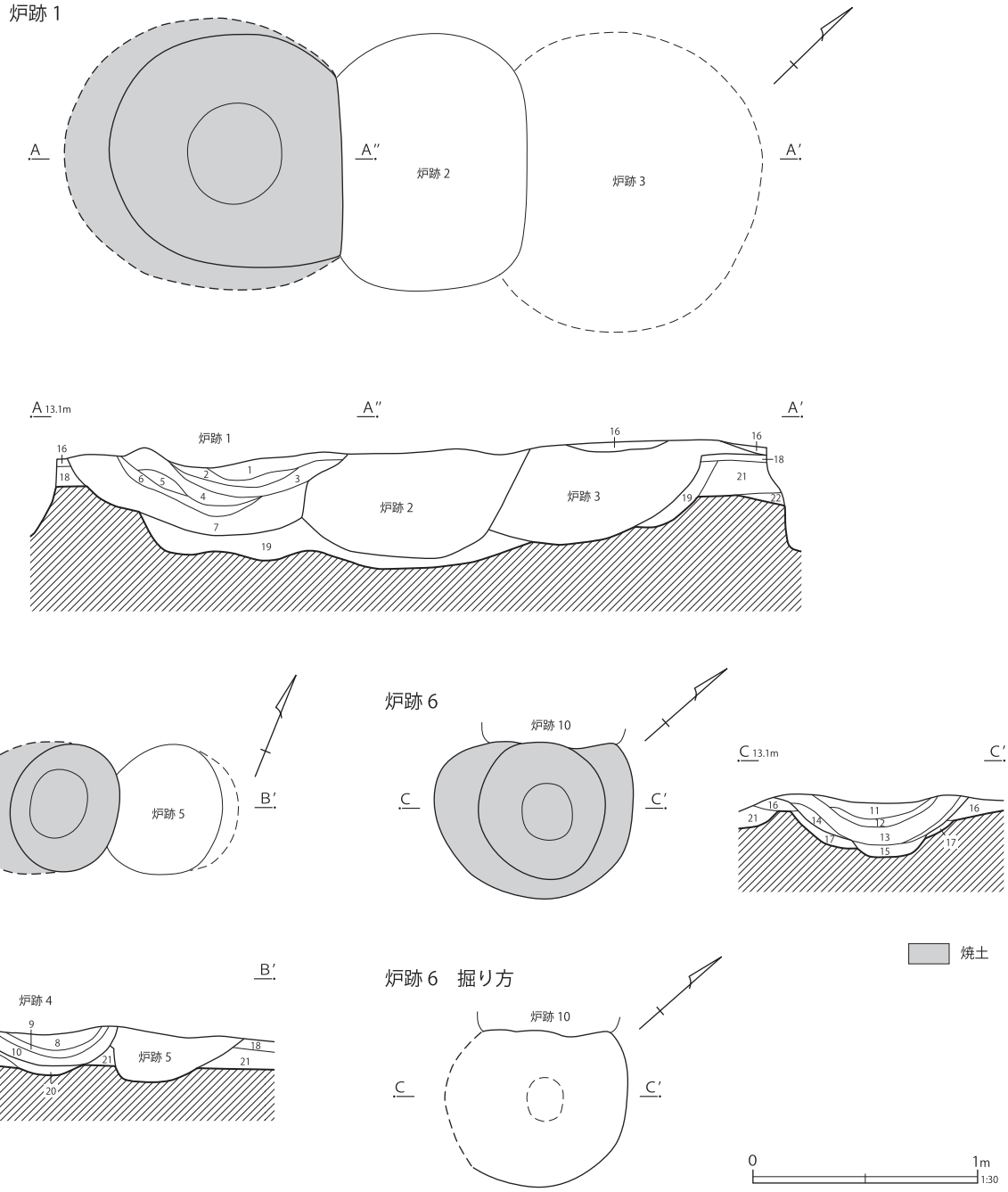
第56図　第43a号住居跡（３）



ＳＪ43ａ
1　赤褐色土　シルト質　貼床構築土

柱穴
2　暗褐色土　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
3　暗褐色土　焼土粒子（多）　しまり（欠）
4　黒褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）　埋土
5　暗褐色土　ローム粒子（中）
6　黒褐色土　焼土粒子（中）
7　黒褐色土　ローム粒子（少）
8　暗黄褐色土　ロームブロック主体　掘り方
9　黒褐色土　炭化物粒子・ローム粒子（少）
10　黒褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（欠）
11　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　しまり（欠）　柱痕
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
13　暗黄褐色土　ロームブロック（多）　掘り方
14　暗黄褐色土　ロームブロック・暗褐色土との混土　埋土
15　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
16　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）　しまり（欠）
17　黒褐色土　炭化物（径５～30㎜）（多）
骨片・焼土粒子（少）　柱痕
18　暗褐色土
19　黄褐色土　ロームブロック（多）
20　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　しまり（良）
21　暗褐色土　粘質　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土

第57図　第43a号住居跡（４）



ＳＪ43ａ

炉跡１

1	明赤褐色土	粘質	灰層　焼土粒子（多）
2	灰黄褐色土	粘質	褐灰色ブロック・灰との混土
3	灰白色土	粘質	灰層
4	暗灰黄褐色土	粘質	褐灰色ブロック（多）
5	灰白色土	粘質	灰層
6	黒色土	粘質	灰層　炭化物（多）
7	赤褐色土	砂質	灰層　焼土粒子含む

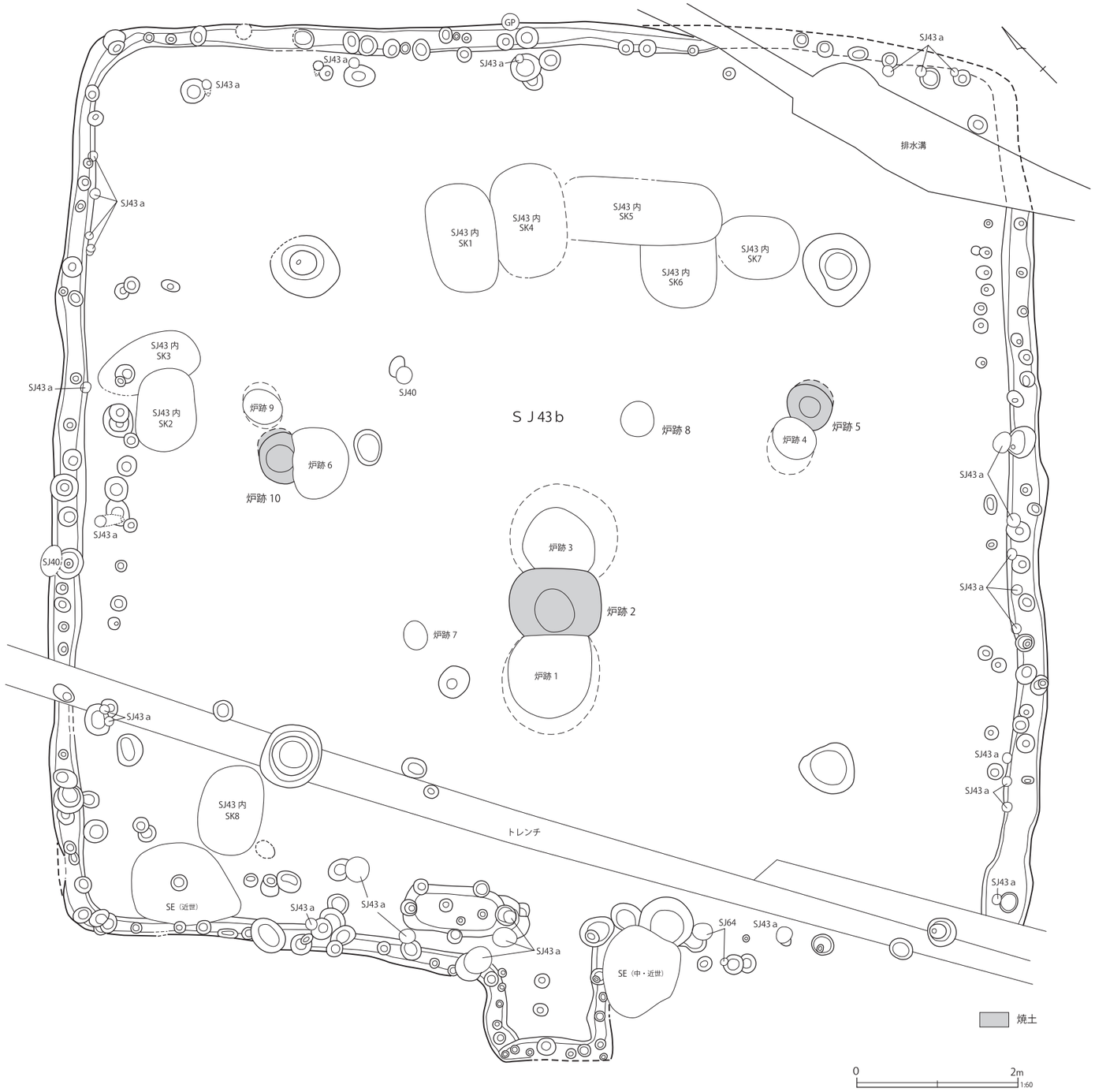
炉跡４

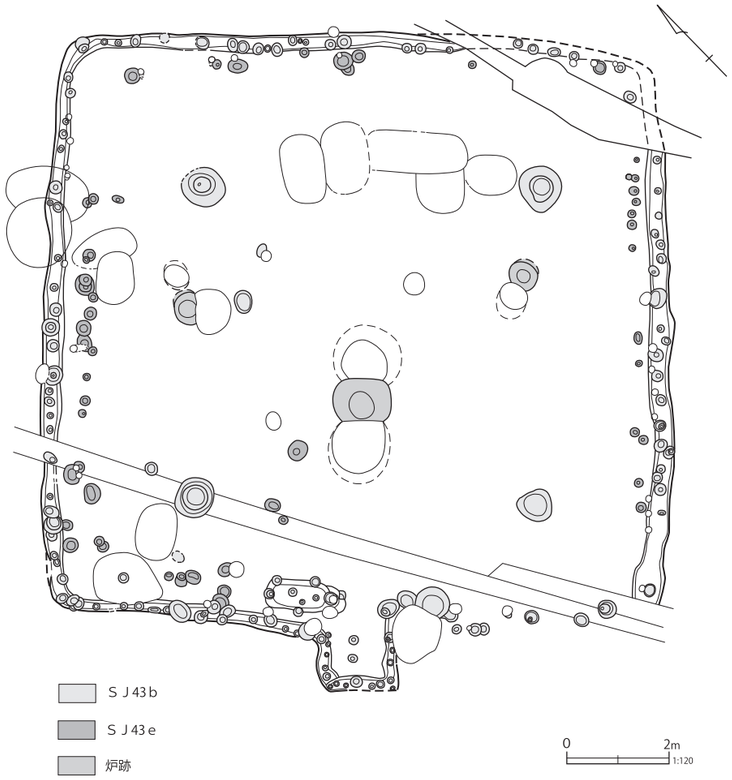
8	灰褐色土	粘質	灰層　炭化物粒子・焼土粒子（多）
9	赤褐色土	砂質	目の粗い焼土
10	赤褐色土	シルト質	目の細かい焼土

炉跡６

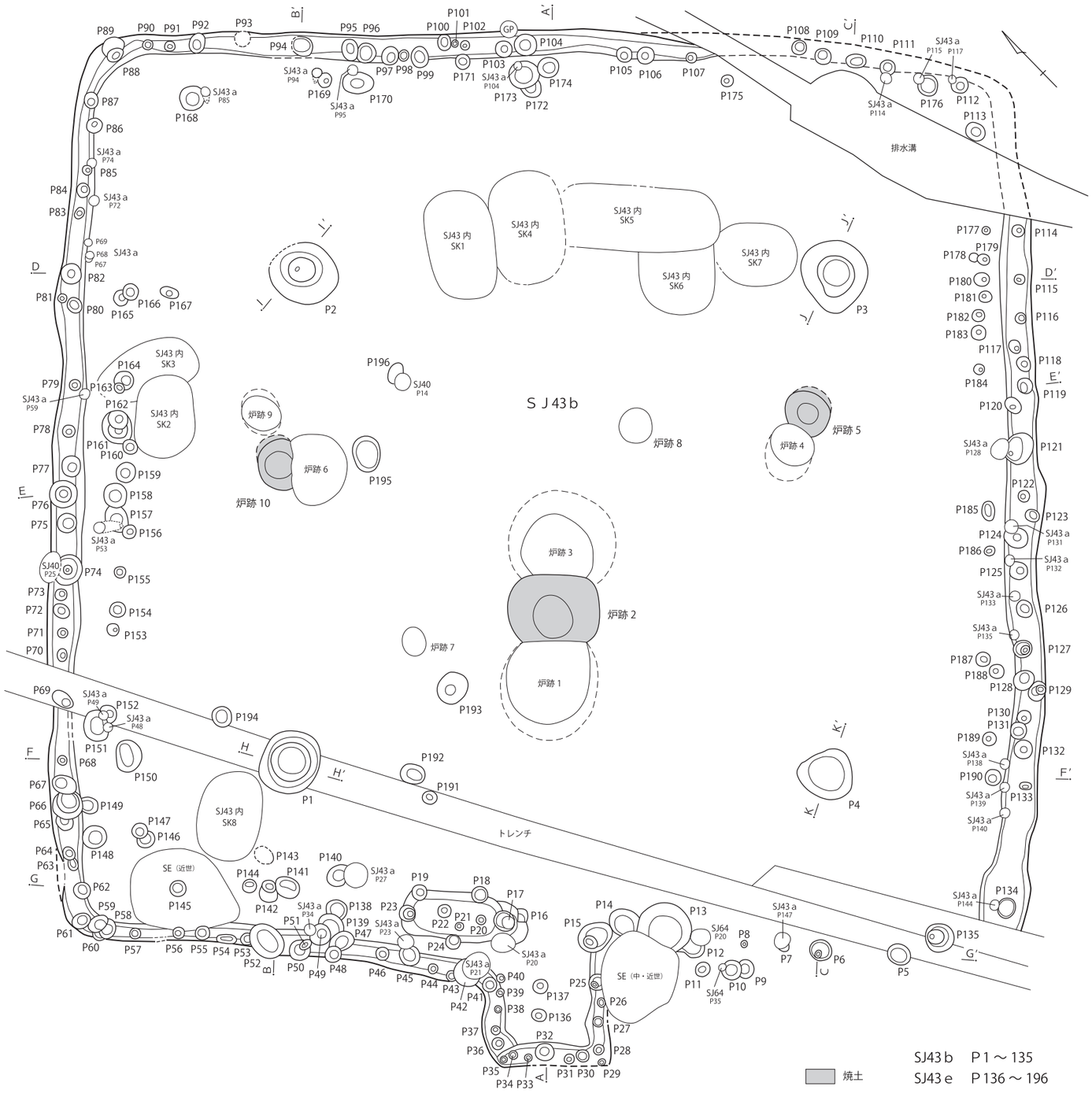
11	灰褐色土	粘質	灰層　炭化物粒子・焼土粒子（多）
12	赤褐色土	砂質	目の粗い焼土
13	赤褐色土	シルト質	目の細かい焼土
14	暗赤褐色土	被熱硬化面（赤化）	
15	暗褐色土	粘質	炭化物粒子（少）　しまり（欠）
16	明赤褐色土	粘質	焼成粘土　土器片含む　上面灰の薄層　しまり（良） 貼床構築土
17	暗褐色土	シルト質	炭化物粒子・焼土粒子（少）　旧火床面
18	暗赤褐色土	シルト質	暗褐色土が被熱赤化したもの　床面調整土
19	暗赤褐色土	炭化物粒子（少）　焼土ブロック（多）　しまり（良）	
20	暗赤褐色土	炭化物粒子・焼土粒子（少）　被熱硬化面	
21	暗褐色土	粘質　暗褐色土主体にローム小ブロック・炭化物粒子・土器片含む しまり（中）　床面調整土	
22	暗褐色土	粘質　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）　床面調整土	

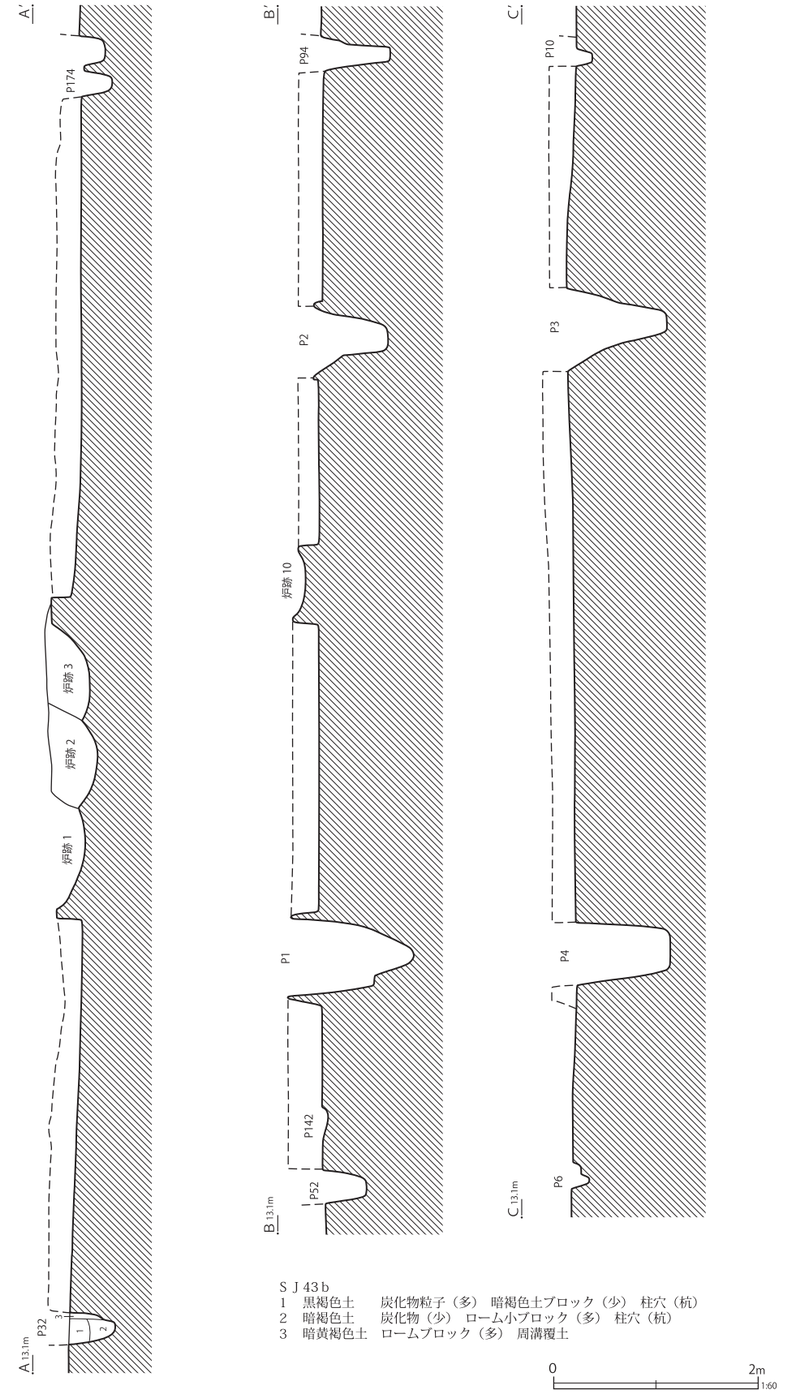
第58図　第43a号住居跡（５）



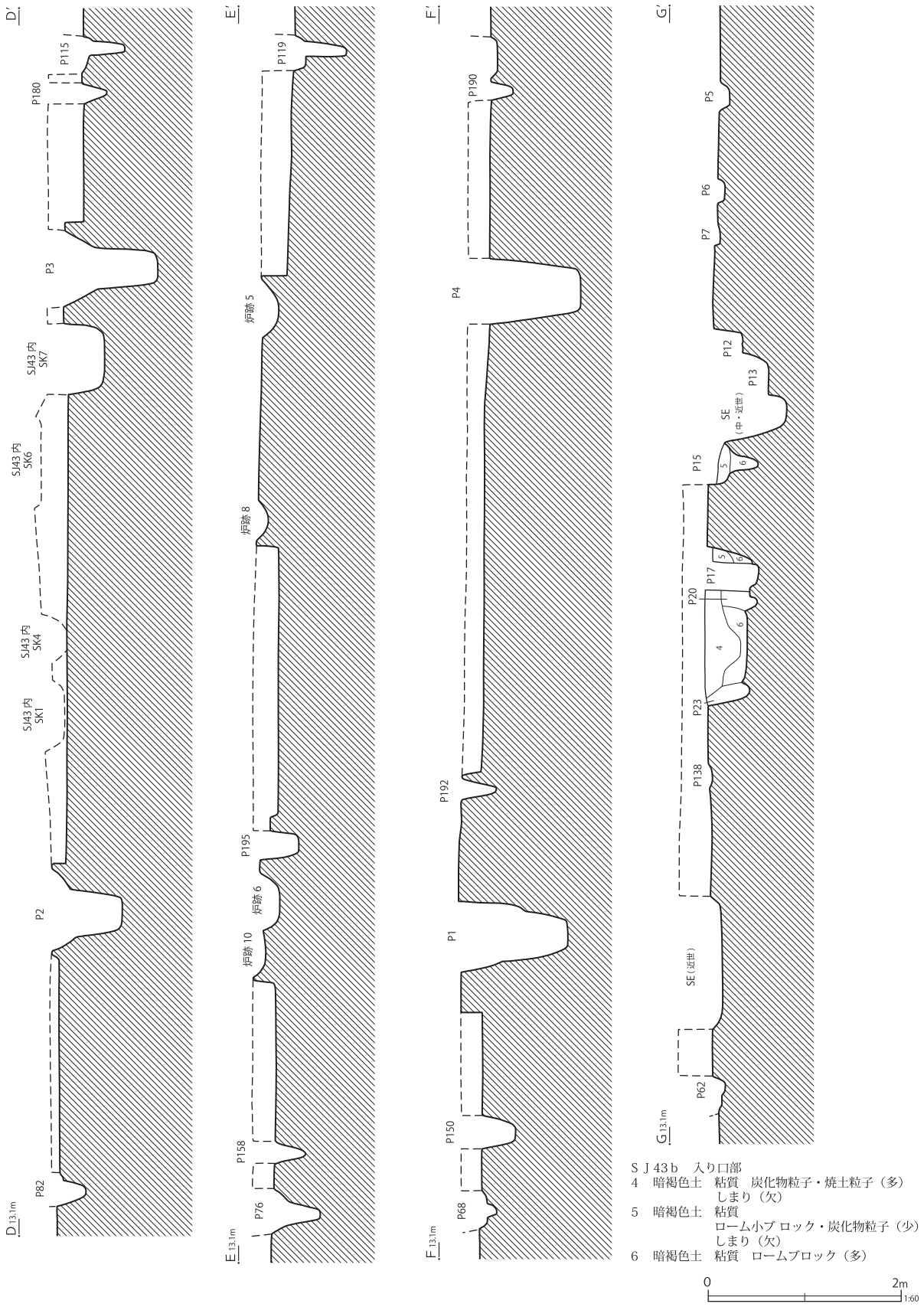


第59図　第43b号住居跡（１）

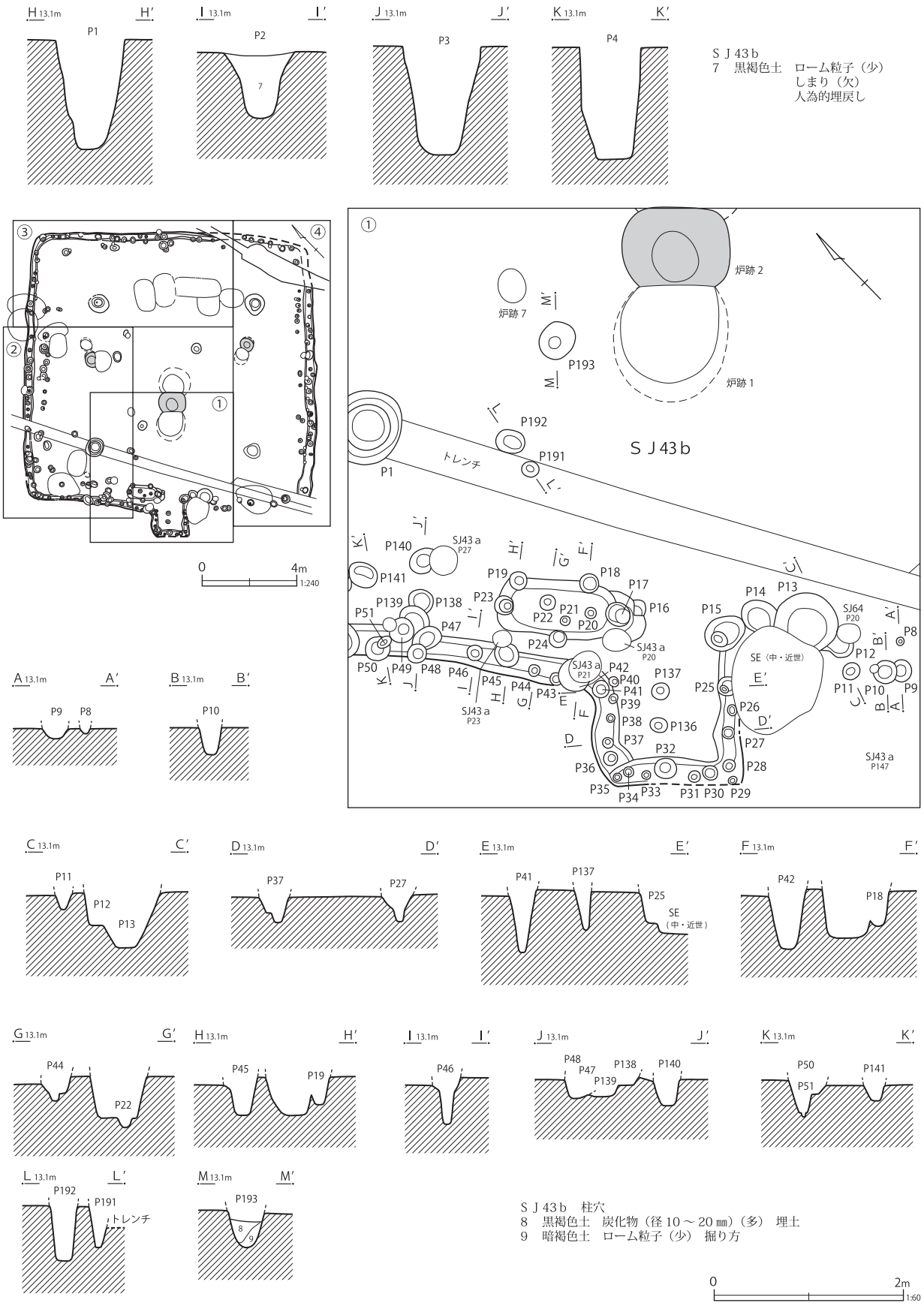




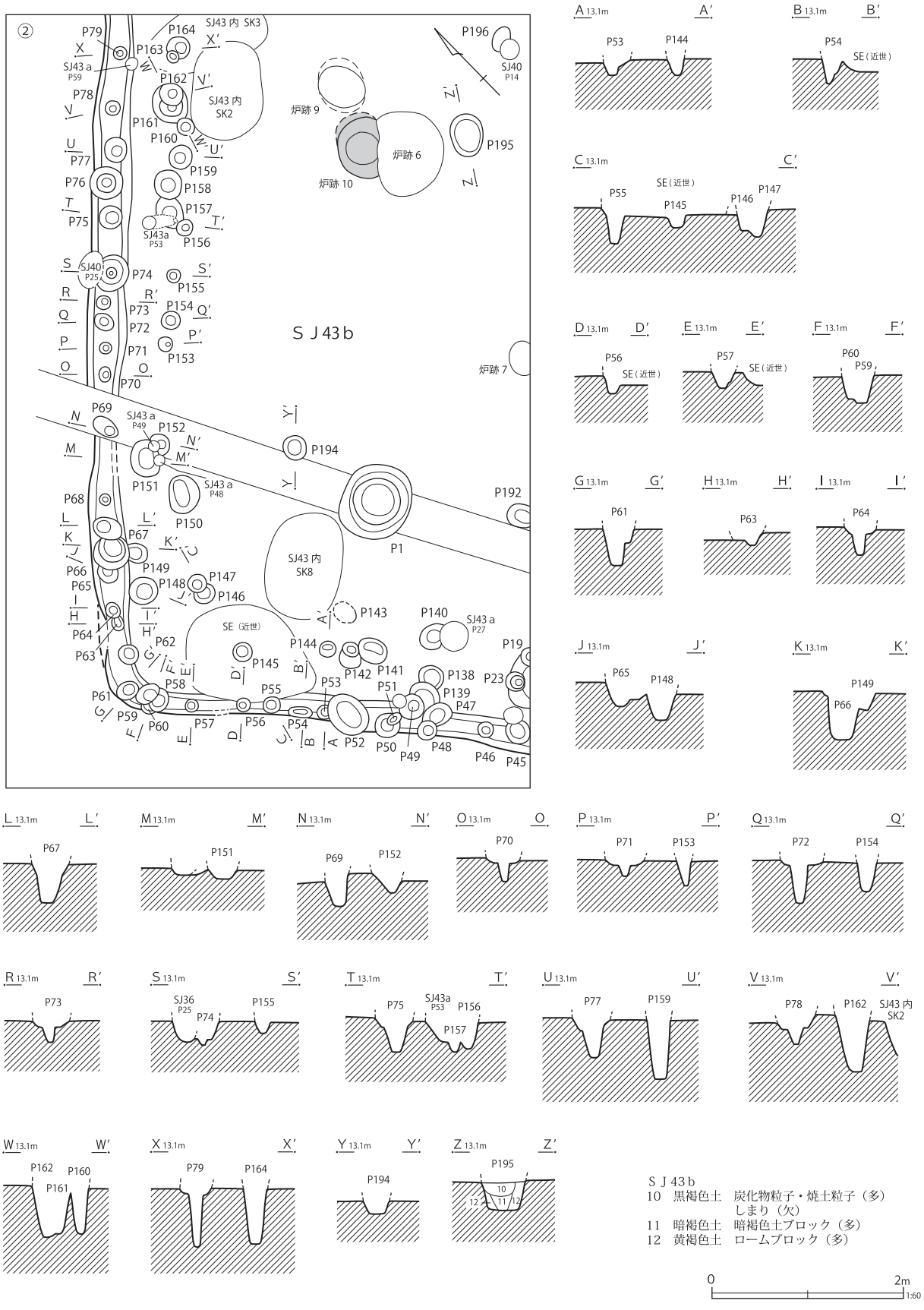
第60図　第43b号住居跡（２）



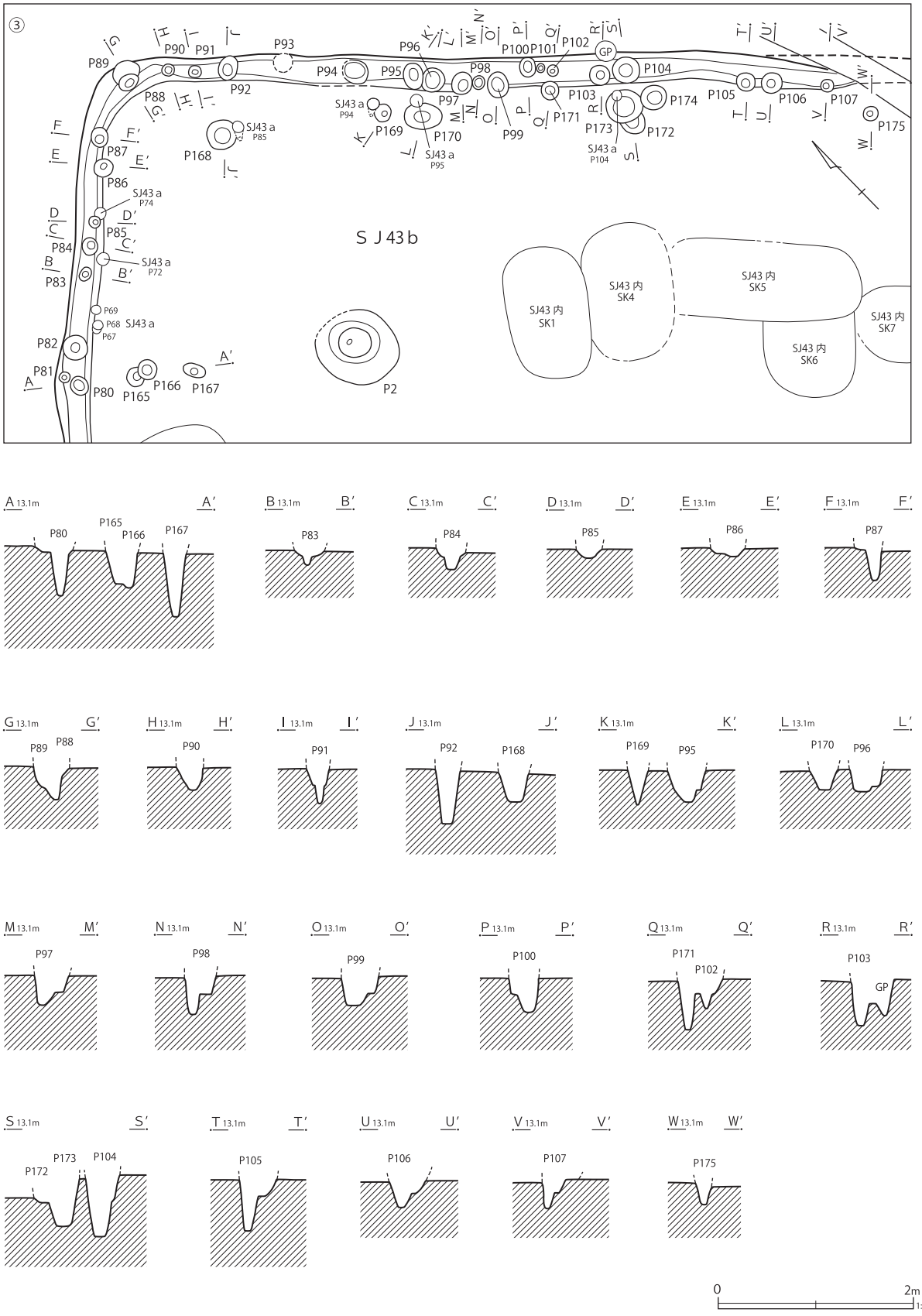
第61図　第43b号住居跡（３）



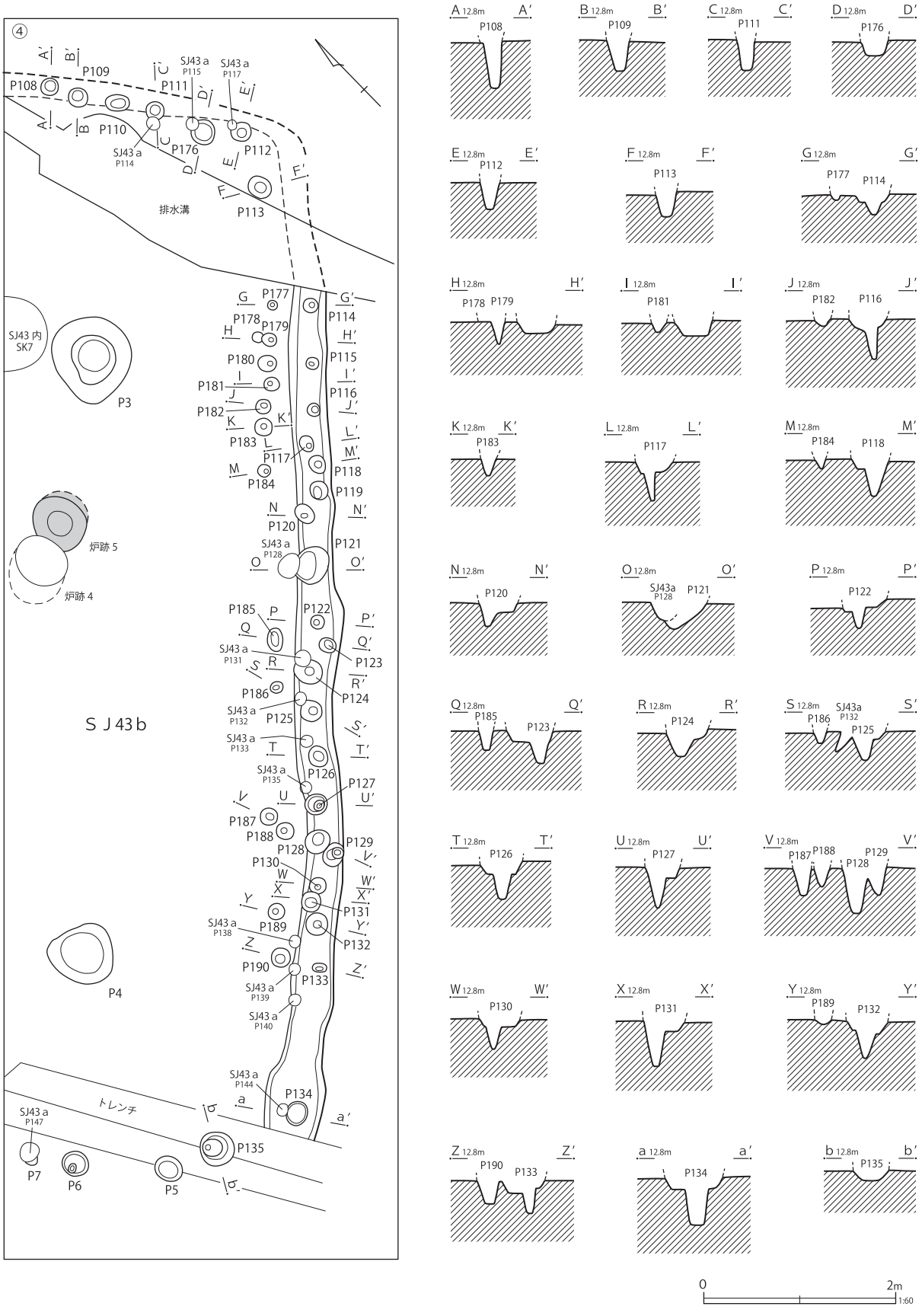
第62図　第43b号住居跡（４）



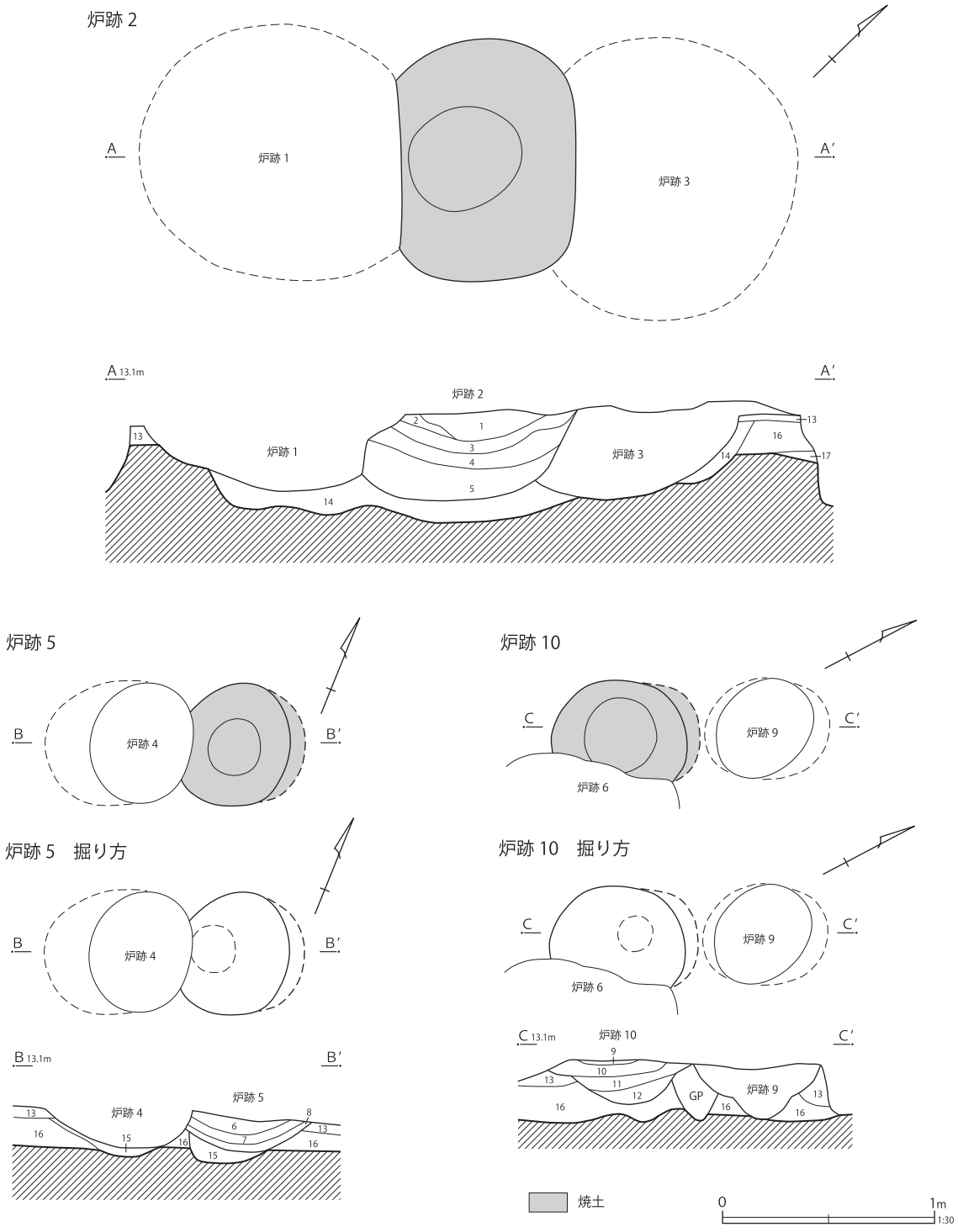
第63図　第43b号住居跡（５）



第64図　第43b号住居跡（６）



第65図　第43b号住居跡（７）

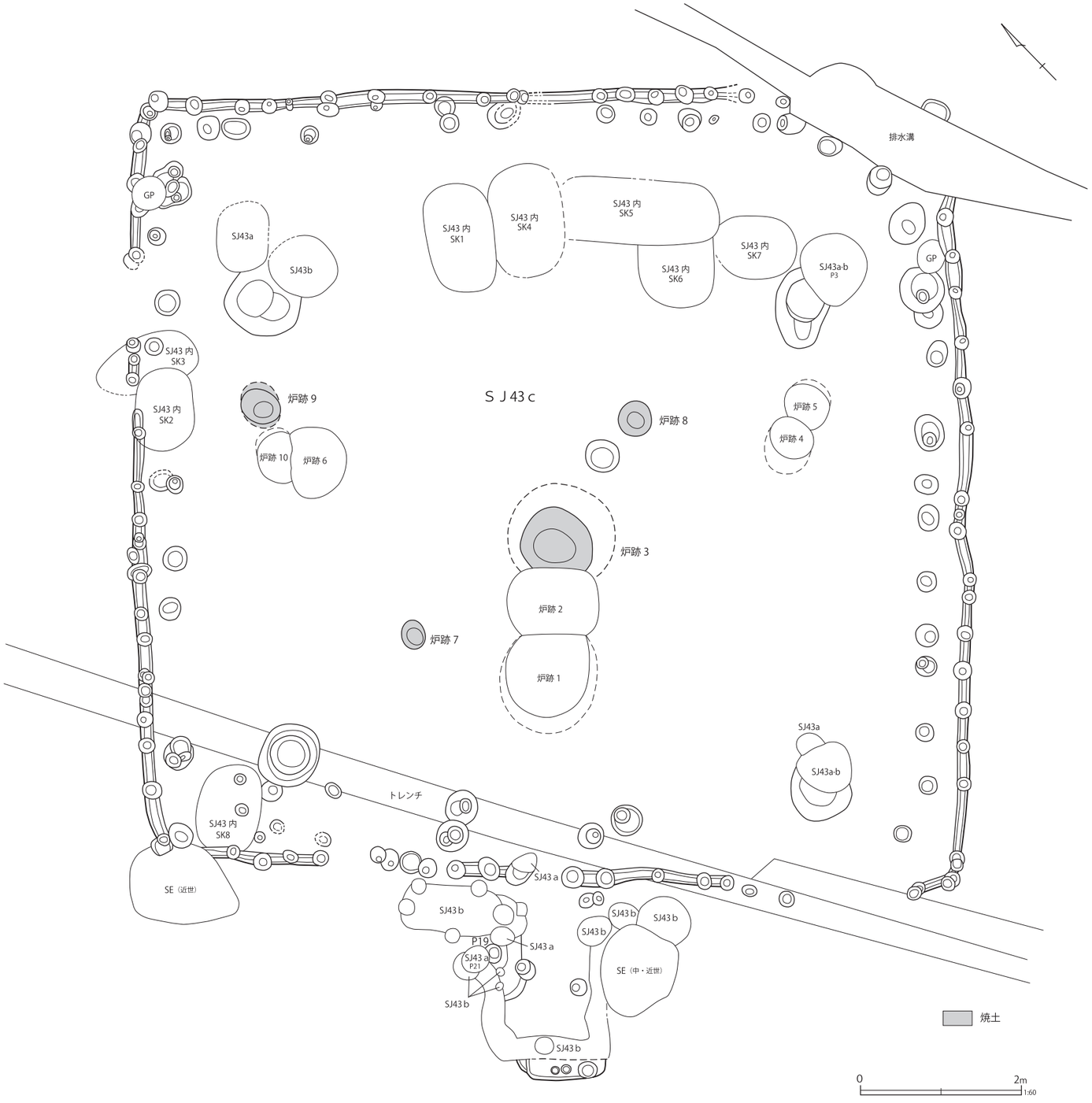


ＳＪ43ｂ　炉跡２
1　黒褐色土　　粘質　炭化物粒子・焼土ブロック上半堆積
2　明赤褐色土　白色灰・焼土粒子との混土
3　灰白色土　　粘質　灰層　炭化物粒子含む
4　灰黄色土　　粘質　灰層
5　赤褐色土　　砂質　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）

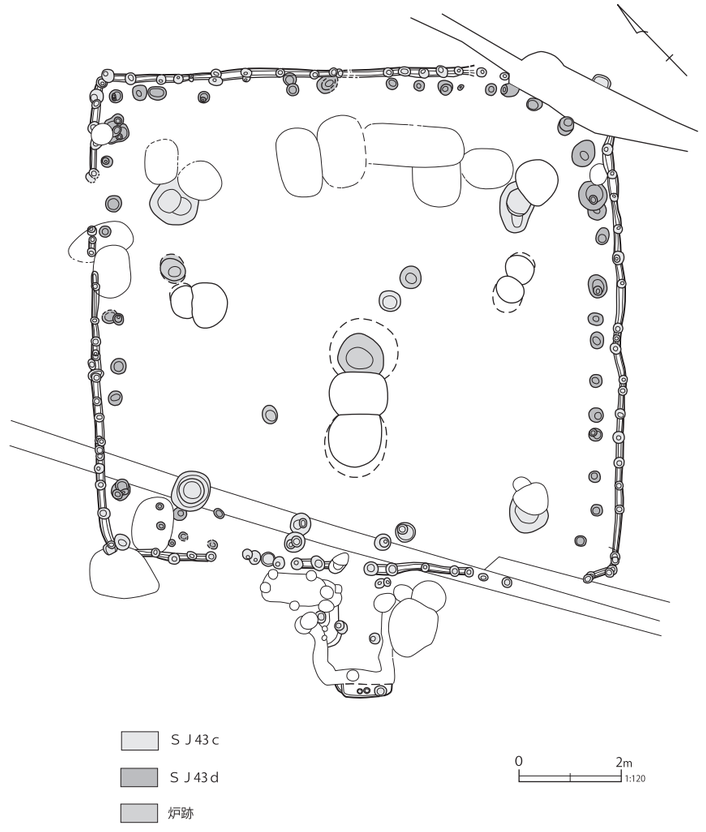
炉跡５
6　灰褐色土　　粘質　灰層　炭化物粒子・焼土粒子（多）
7　赤褐色土　　砂質　目の粗い焼土層　しまり（良）
8　赤褐色土　　シルト質　目の細かい焼土層　しまり（良）

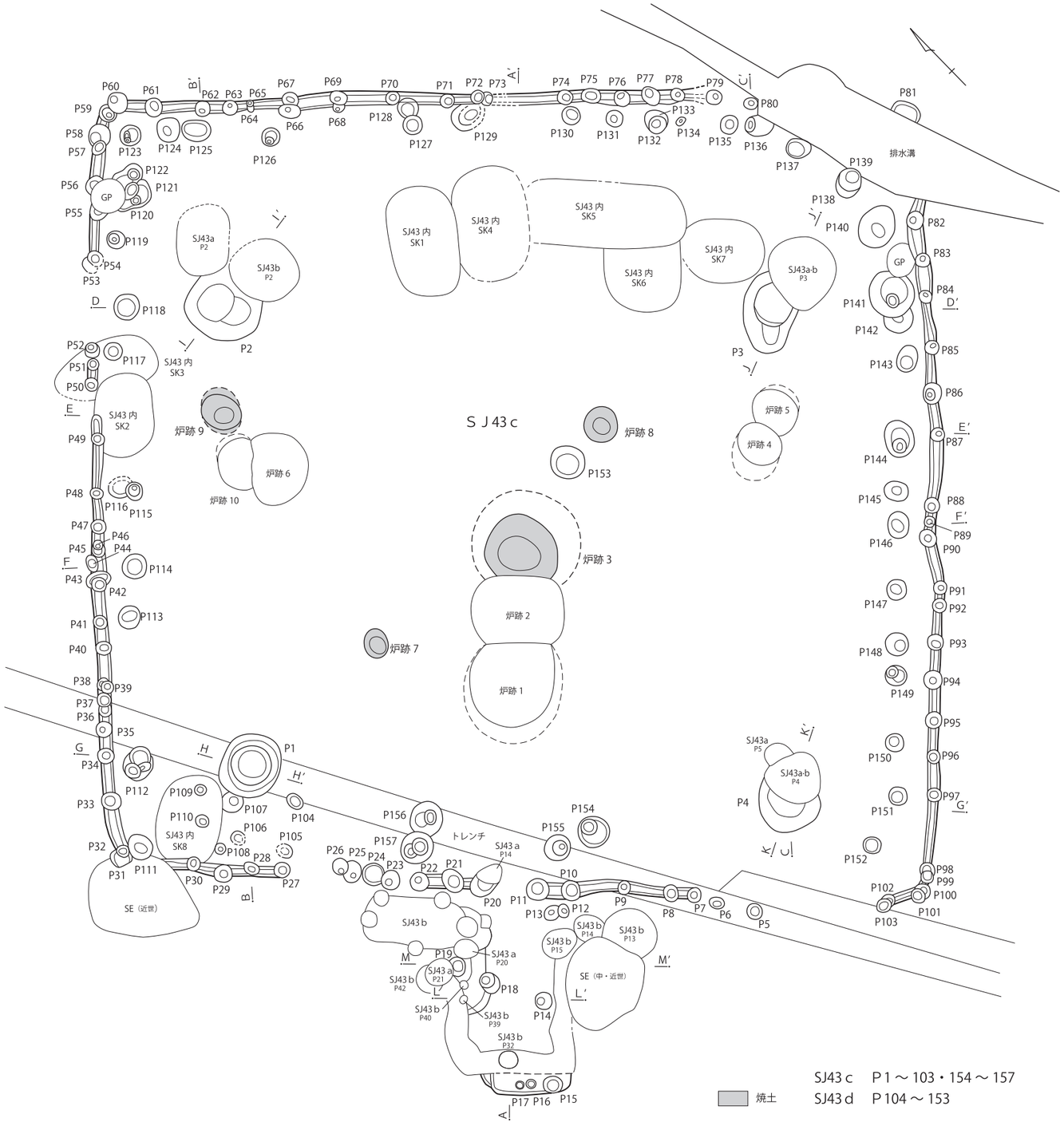
炉跡 10
9　赤褐色土　　砂質　目の粗い焼土層
10　赤褐色土　　シルト質　目の細かい焼土層　被熱赤化
11　暗赤褐色土　焼土層　被熱硬化
12　暗黄褐色土　炭化物粒子（少）　粘性（弱）
13　暗赤褐色土　シルト質　暗褐色土が被熱赤化したもの　床面調整土
14　暗赤褐色土　炭化物粒子（少）　焼土ブロック（多）　しまり（良）
15　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　被熱硬化面
16　暗褐色土　　粘質　暗褐色土主体にローム小ブロック・炭化物粒子・土器片含む
　　しまり（中）　床面調整土
17　暗褐色土　　粘質　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）　床面調整土

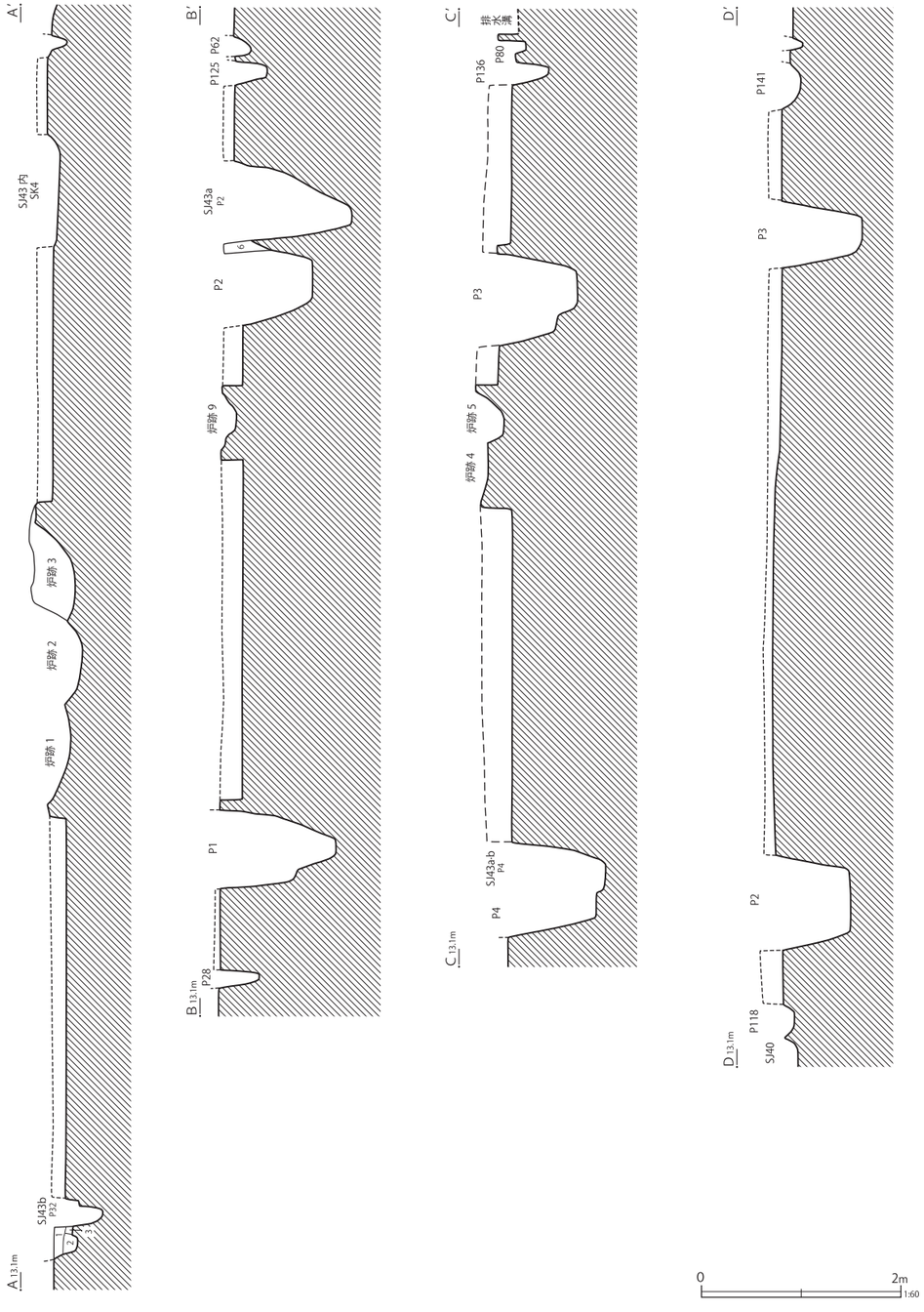
第66図　第43b号住居跡（８）



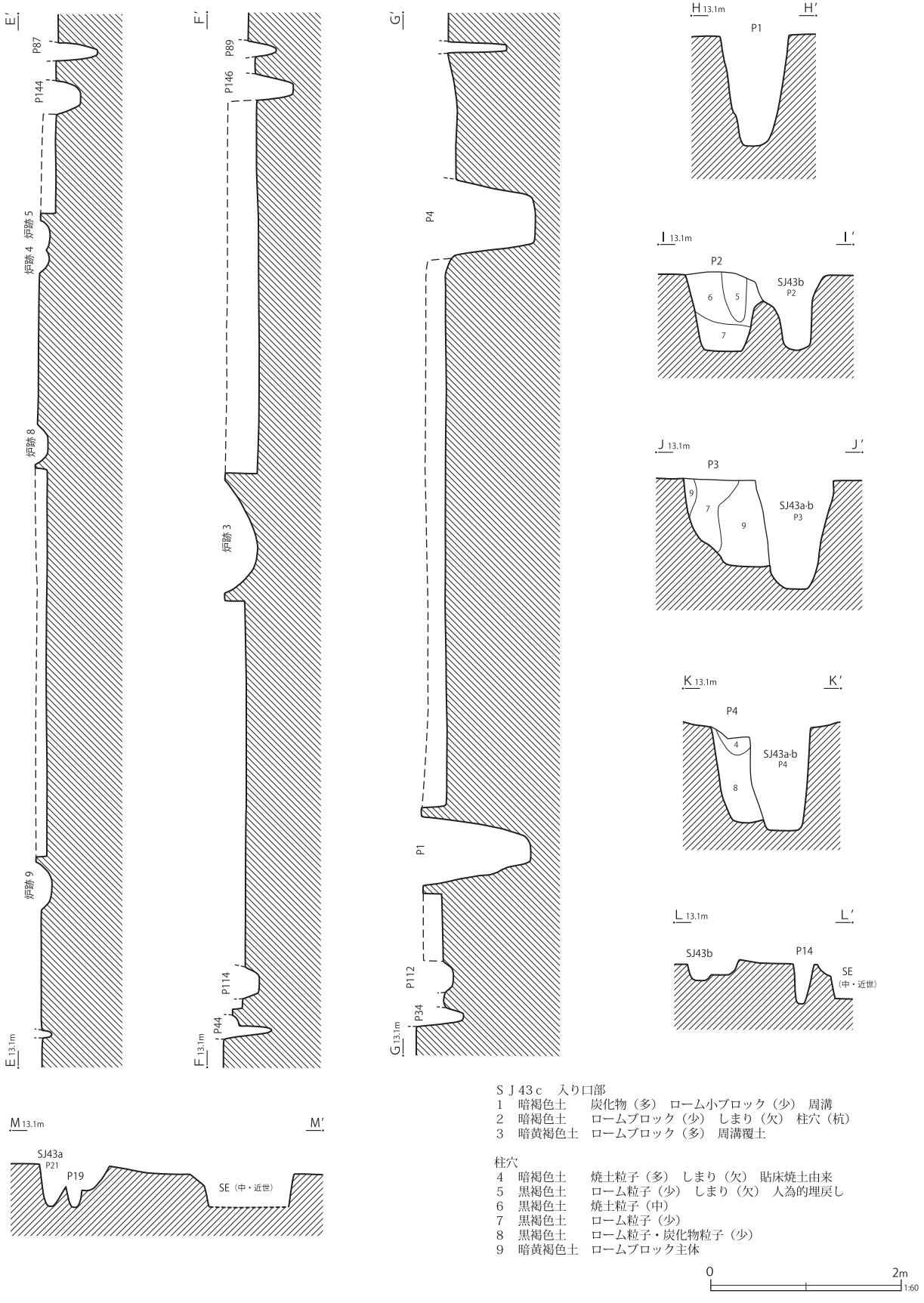
第67図　第43c号住居跡（１）







第68図　第43c号住居跡（２）

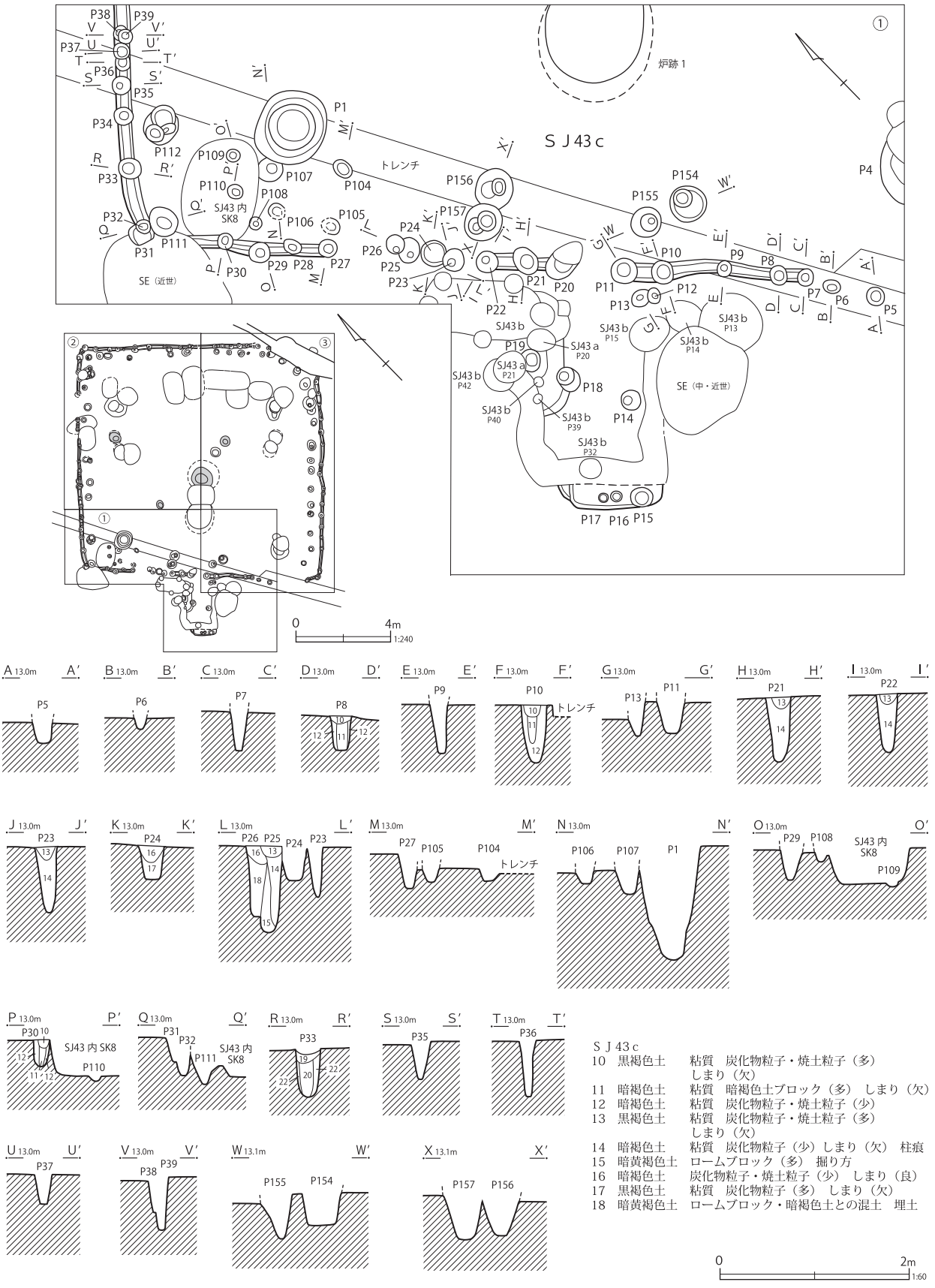


ＳＪ43ｃ　入り口部
1　暗褐色土　　炭化物（多）　ローム小ブロック（少）　周溝
2　暗褐色土　　ロームブロック（少）　しまり（欠）　柱穴（杭）
3　暗黄褐色土　ロームブロック（多）　周溝覆土

柱穴
4　暗褐色土　　焼土粒子（多）　しまり（欠）　貼床焼土由来
5　黒褐色土　　ローム粒子（少）　しまり（欠）　人為的埋戻し
6　黒褐色土　　焼土粒子（中）
7　黒褐色土　　ローム粒子（少）
8　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
9　暗黄褐色土　ロームブロック主体

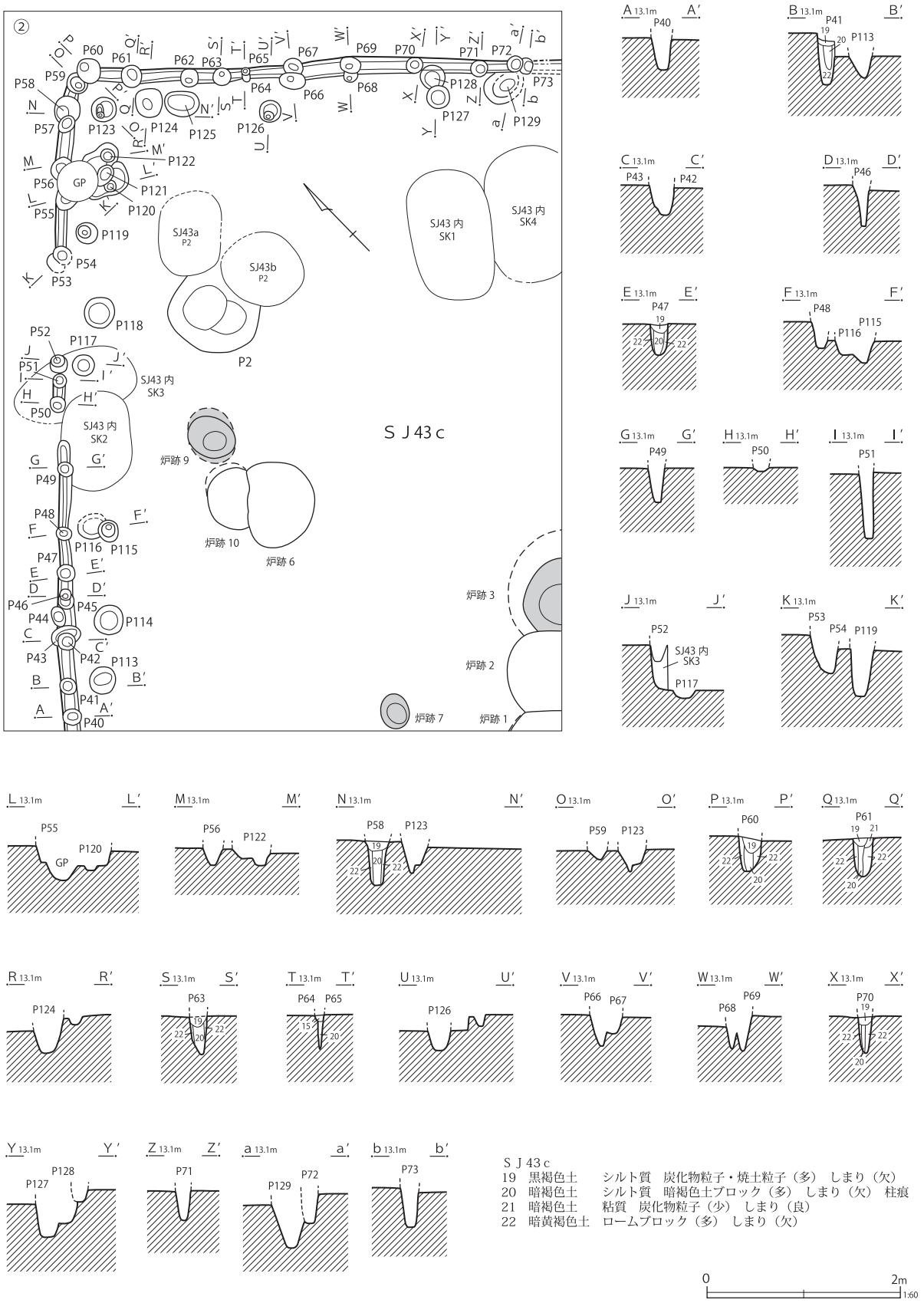
0　2m
1:60

第69図　第43c号住居跡（３）



ＳＪ43ｃ
10　黒褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）しまり（欠）
11　暗褐色土　粘質　暗褐色土ブロック（多）しまり（欠）
12　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）
13　黒褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）しまり（欠）
14　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）しまり（欠）柱痕
15　暗黄褐色土　ロームブロック（多）掘り方
16　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）しまり（良）
17　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）しまり（欠）
18　暗黄褐色土　ロームブロック・暗褐色土との混土　埋土

第70図　第43c号住居跡（４）

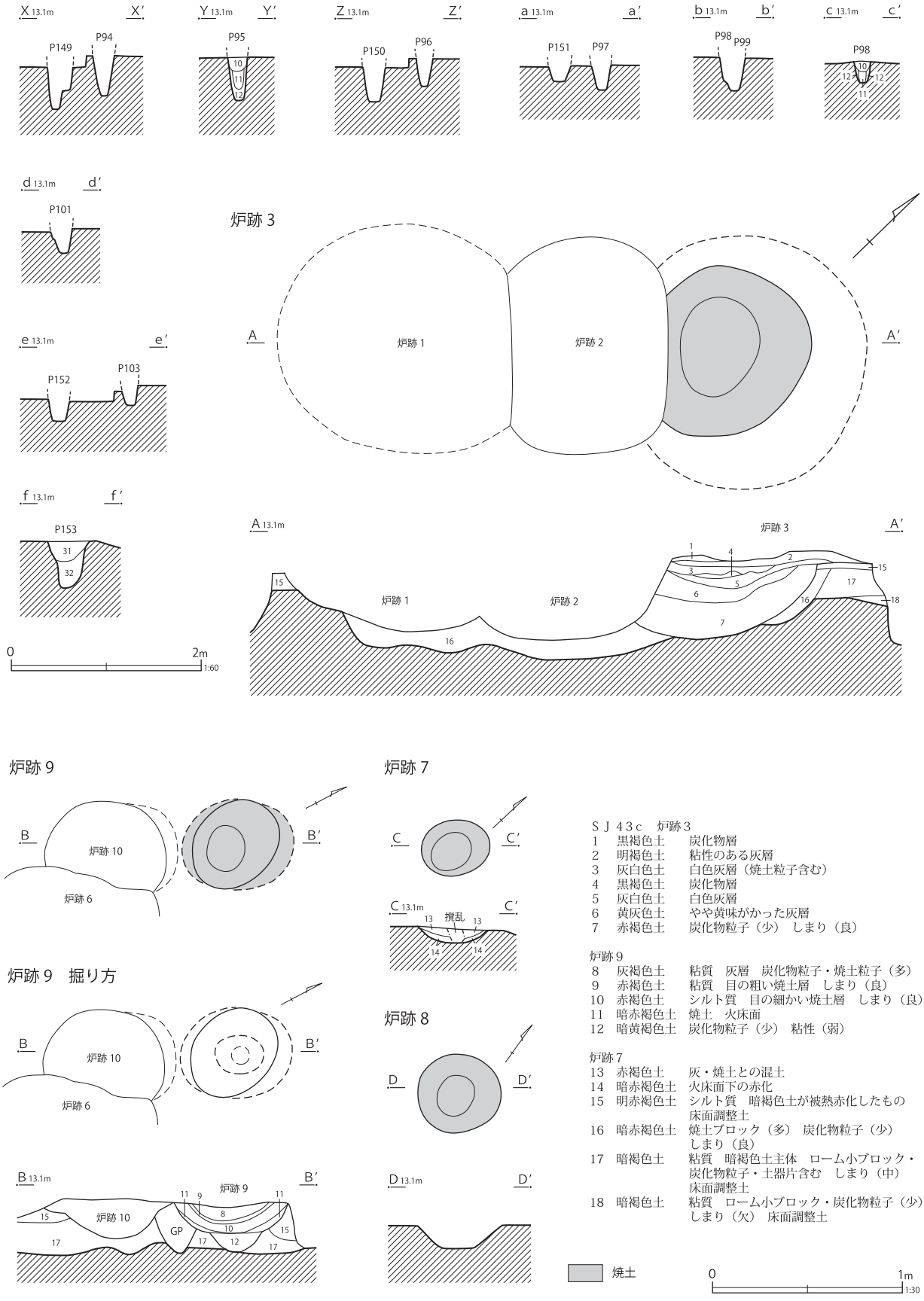


第71図　第43c号住居跡（５）

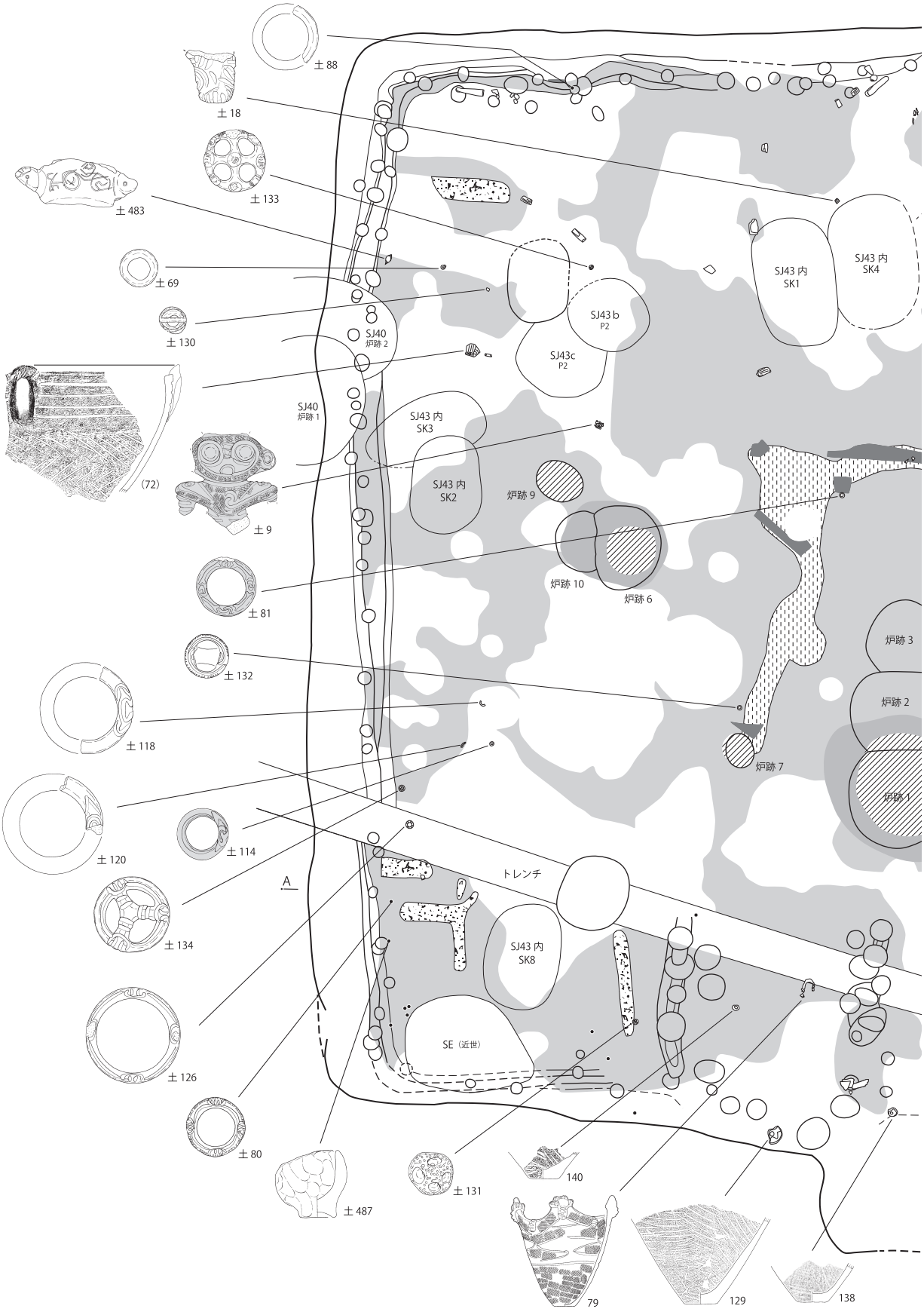
SJ43c

23　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）
24　暗褐色土　粘質　ロームブロック（少）
25　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
26　暗褐色土　暗褐色土ブロック（少）
27　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
28　黒褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（欠）
29　暗褐色土　粘質　暗褐色土ブロック（多）　しまり（欠）
30　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）
31　暗褐色土　ローム粒子（多）
32　暗褐色土　粘質　ローム 小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）　床面調整土

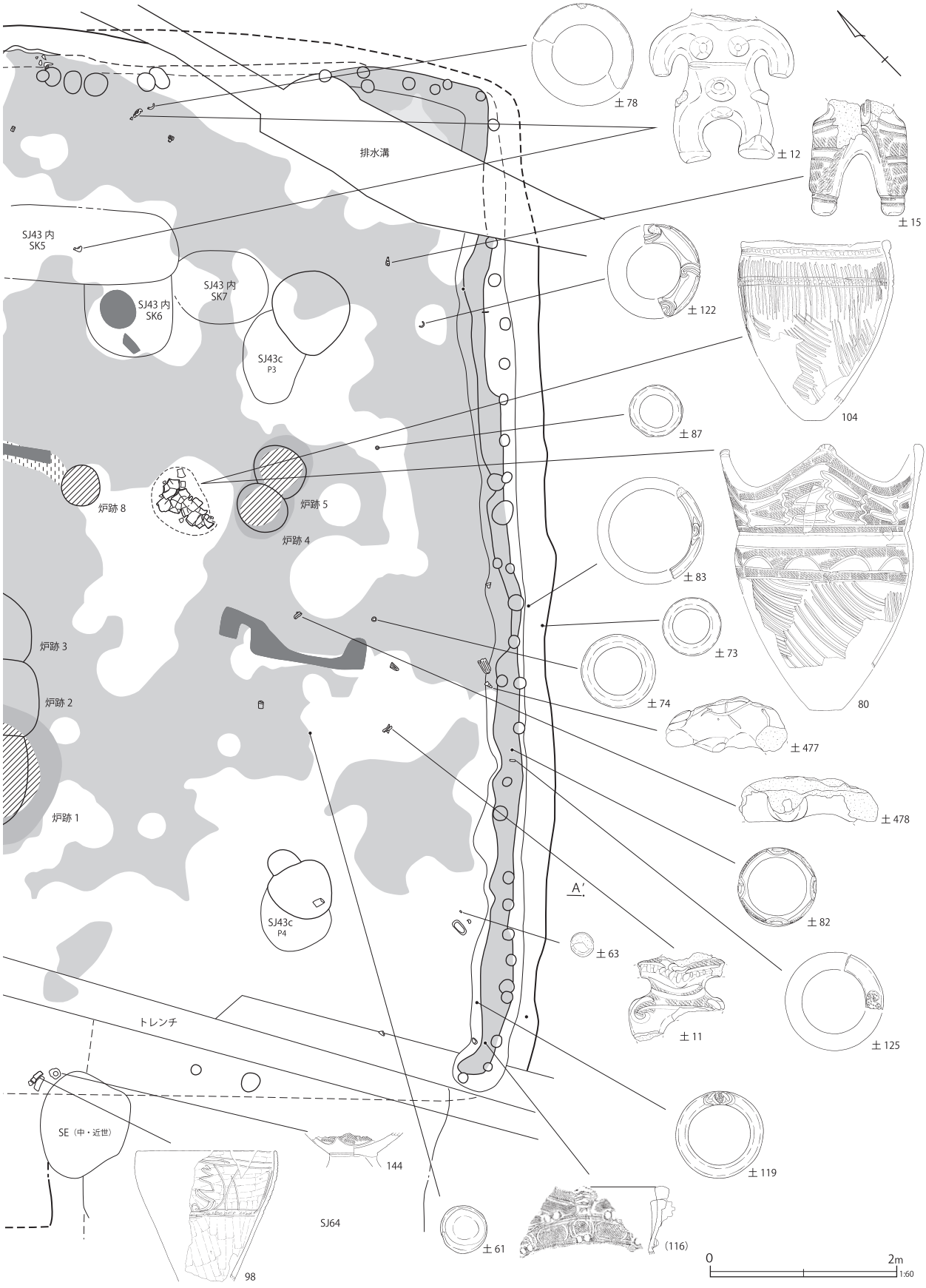
第72図　第43c号住居跡（6）



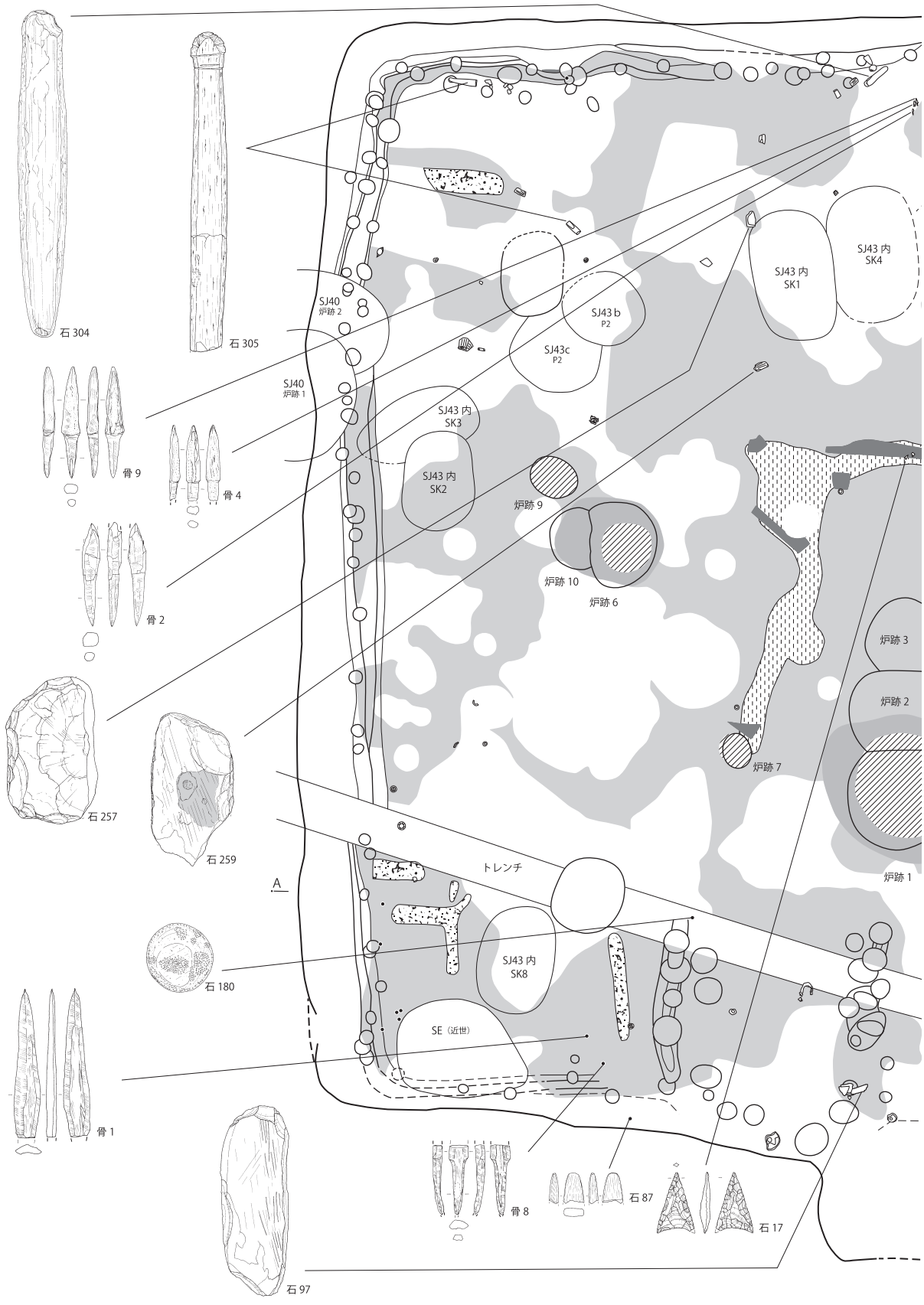
第73図　第43c号住居跡（７）



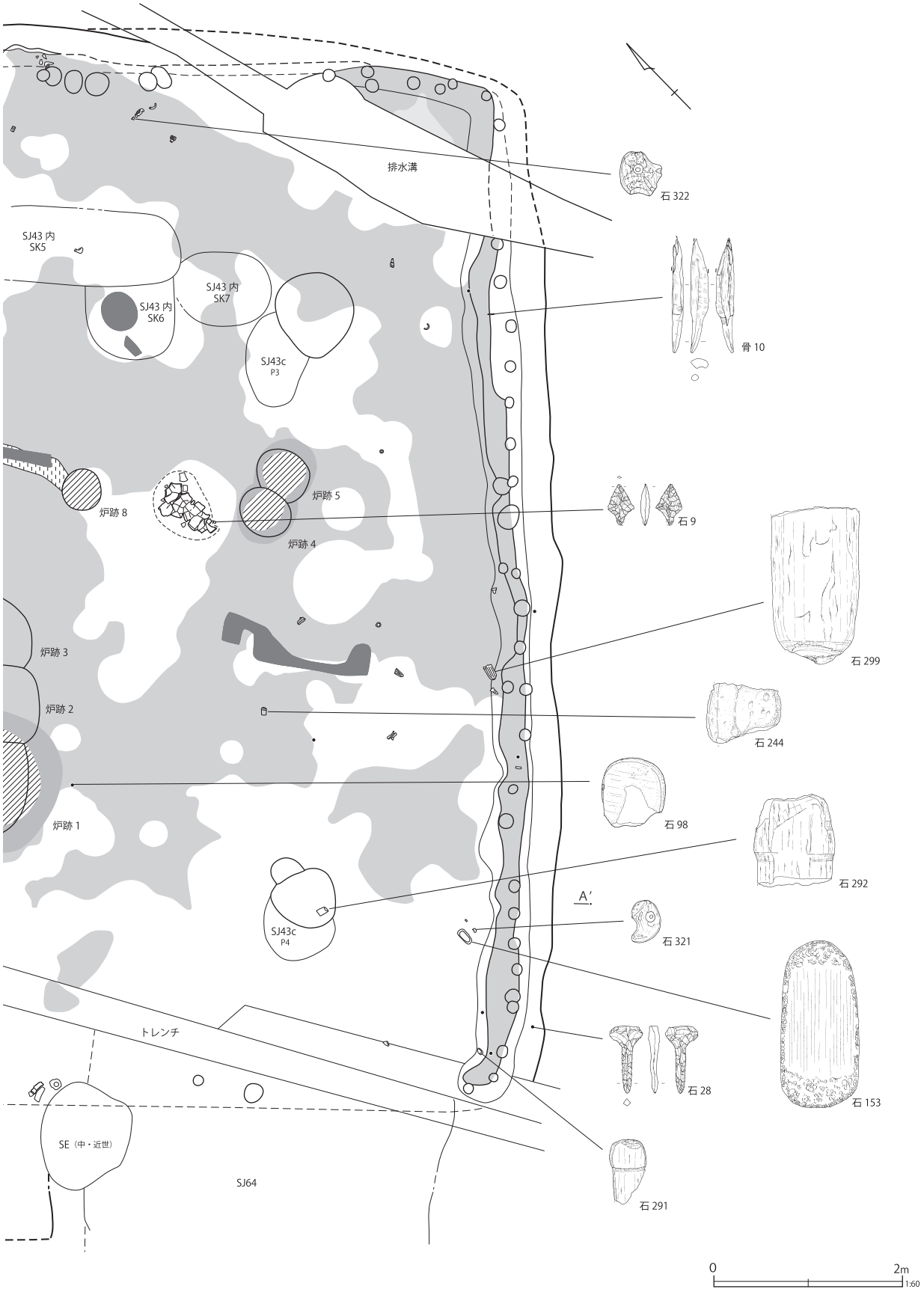
第74図　第43号住居跡遺物出土状況（1）－1



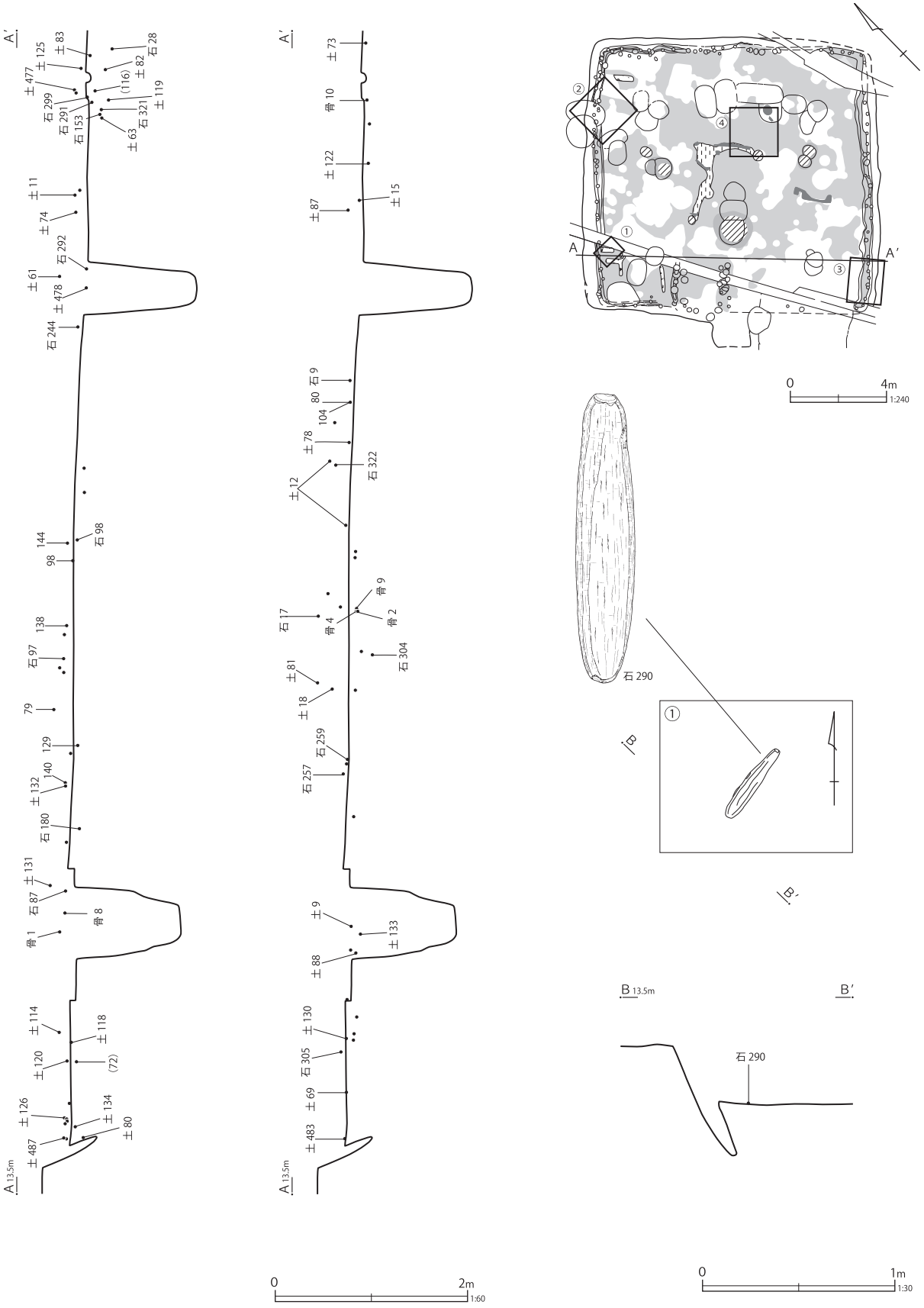
第75図　第43号住居跡遺物出土状況（1）－2



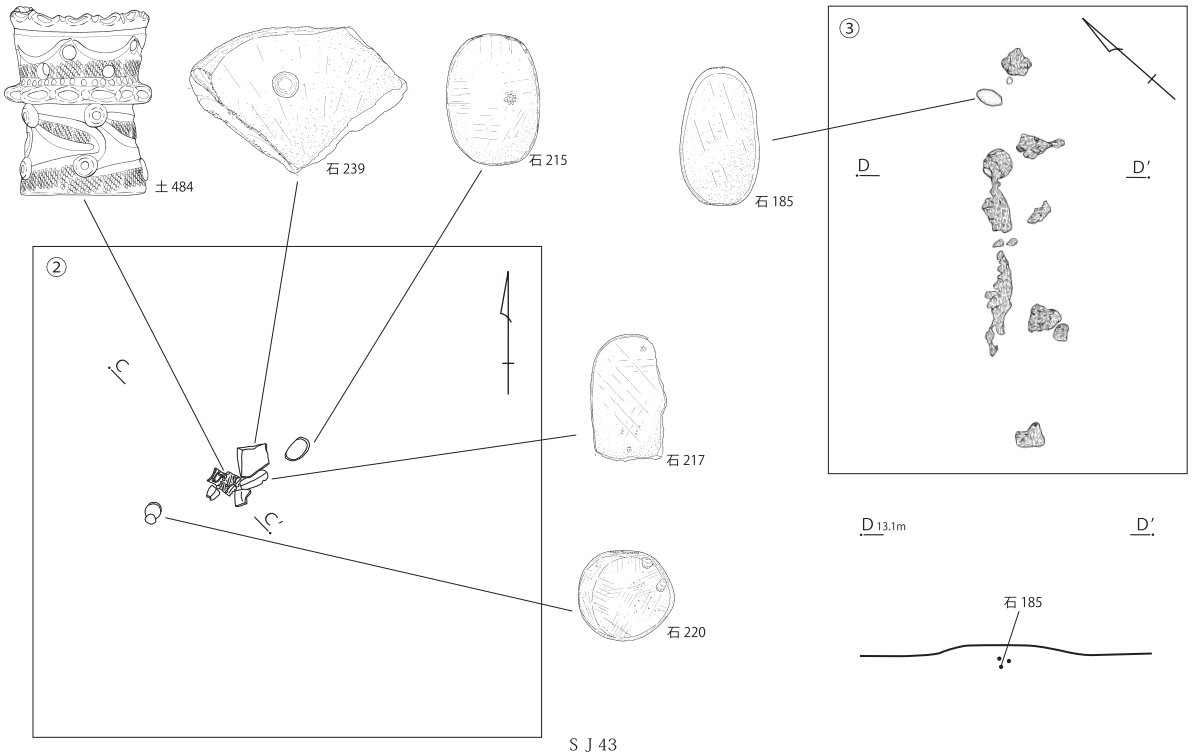
第76図　第43号住居跡遺物出土状況（２）－１



第77図　第43号住居跡遺物出土状況（２）－２



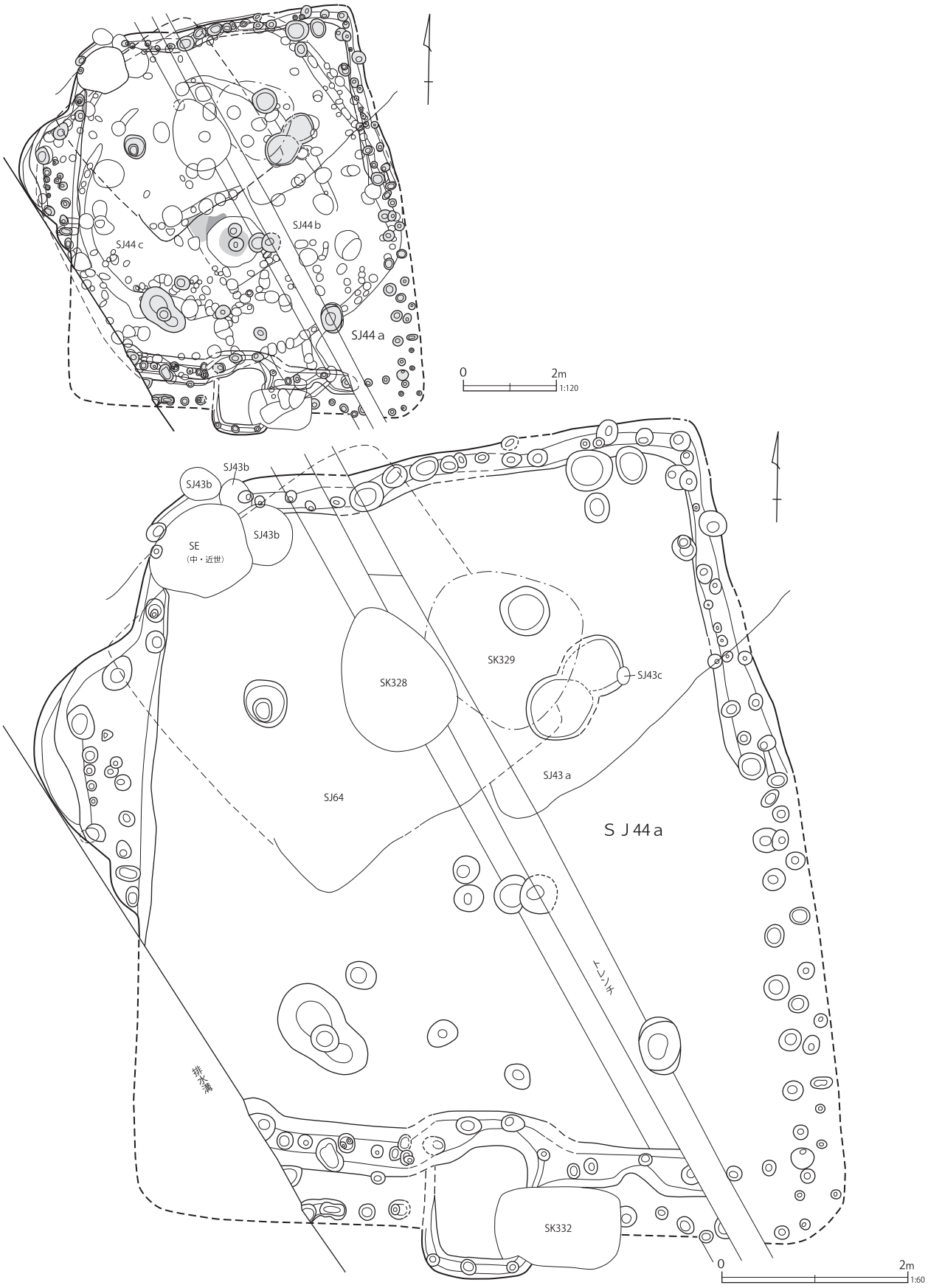
第78図　第43号住居跡遺物出土状況（３）



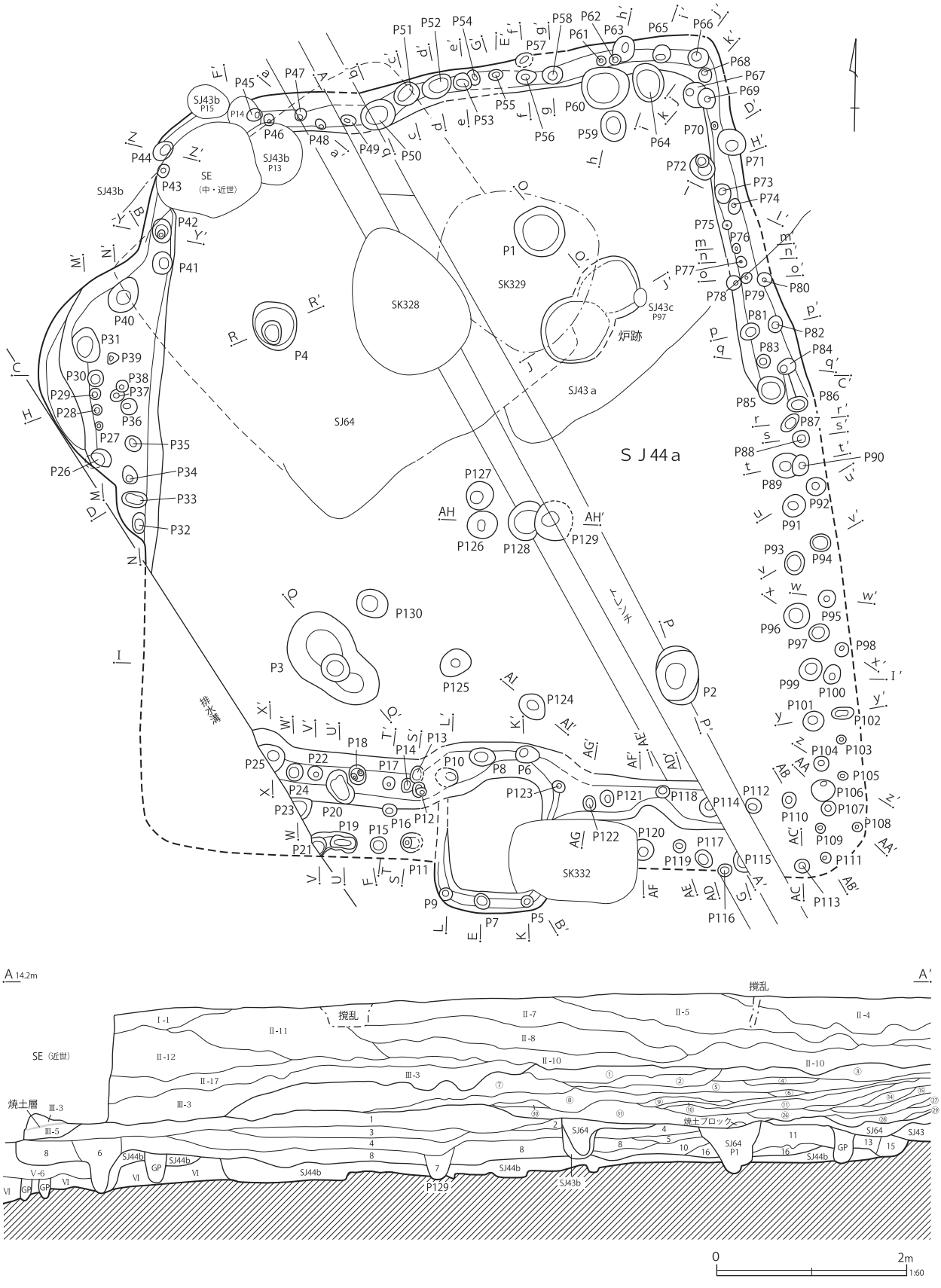
SJ43

1	赤褐色土	シルト質　焼土粒子・炭化物粒子・灰（多）　しまり（欠）　壁崩落土
2	明赤褐色土	粘質　焼成粘土　土器片含む　上面灰の薄層　しまり（良） 貼床構築土
3	黒色土	シルト質　繊維状炭化物（多）　敷物痕跡
4	黒褐色土	砂質　炭化杭含む　柱痕　しまり（欠）　尖端尖る
5	黒褐色土	シルト質　炭化物粒子（多）　焼土粒子・土器等含む しまり（中）　杭裏込土か掘り方
6	暗褐色土	シルト質　炭化物粒子・暗褐色土小ブロック（多） 焼土粒子（少）　しまり（良）　貼床前壁崩落土
7	暗褐色土	シルト質　炭化物粒子（少）　暗褐色土小ブロック（多） しまり（欠）　杭抜去痕
8	暗褐色土	粘質　暗褐色土主体にローム小ブロック・炭化物粒子・土器片含む しまり（中）　床面調整土
9	暗褐色土	粘質　炭化物粒子・焼土粒子・ローム小ブロック（少） しまり（良）　建て替え前住居覆土
10	暗褐色土	シルト質　炭化物（少）　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土 しまり（欠）　建て替え前住居柱穴

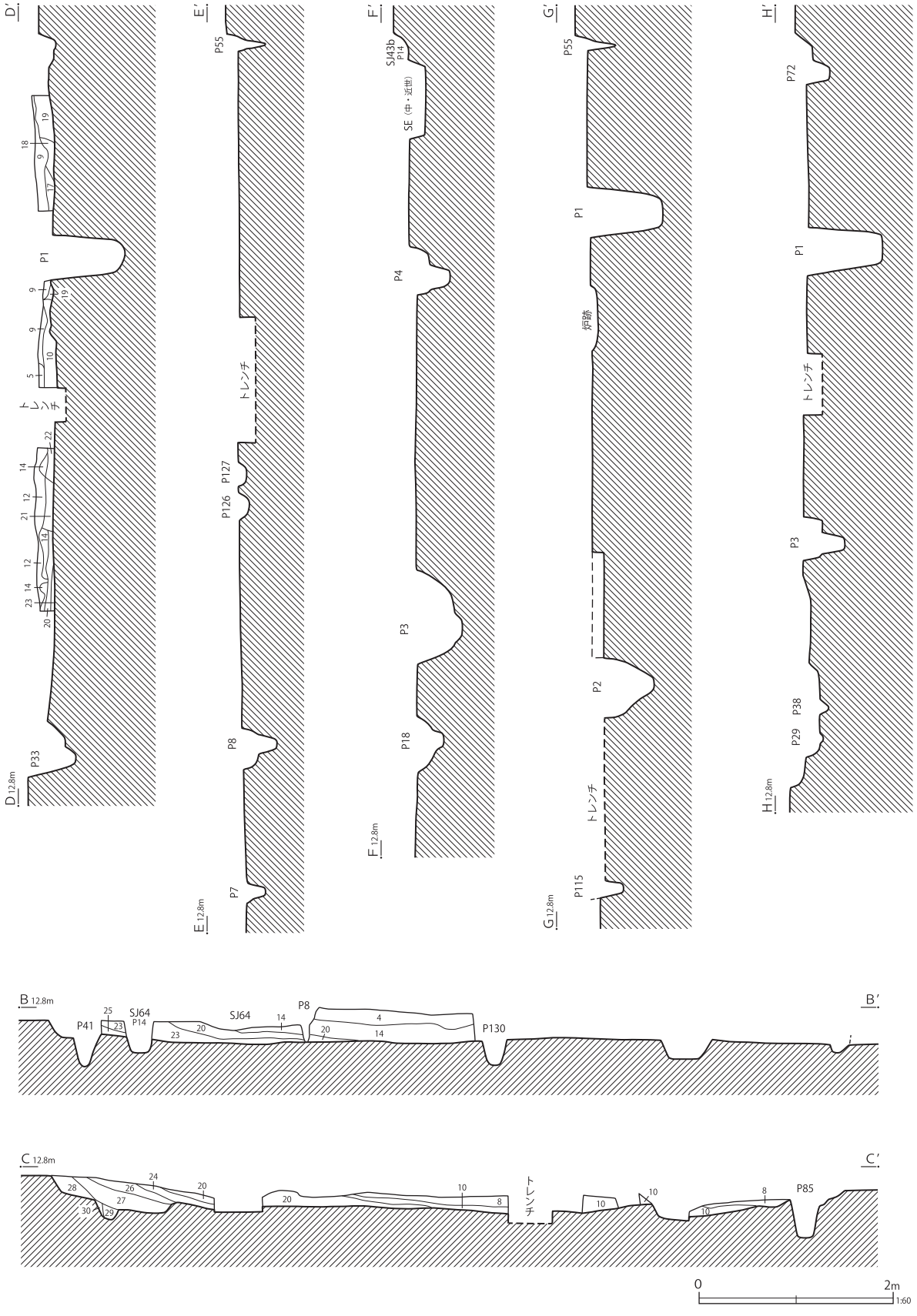
第79図　第43号住居跡遺物出土状況（４）



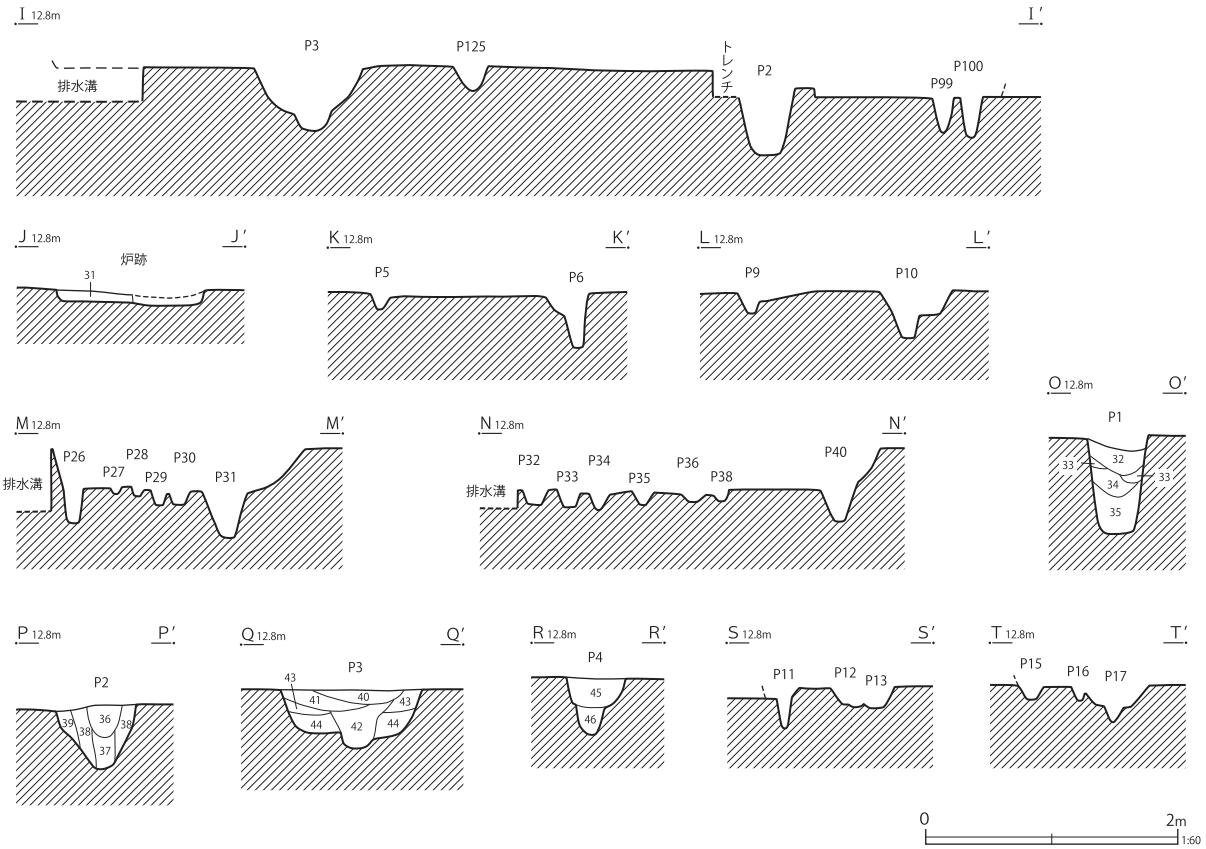
第80図　第44a号住居跡（１）



第81図　第44a号住居跡（２）



第82図　第44a号住居跡（３）

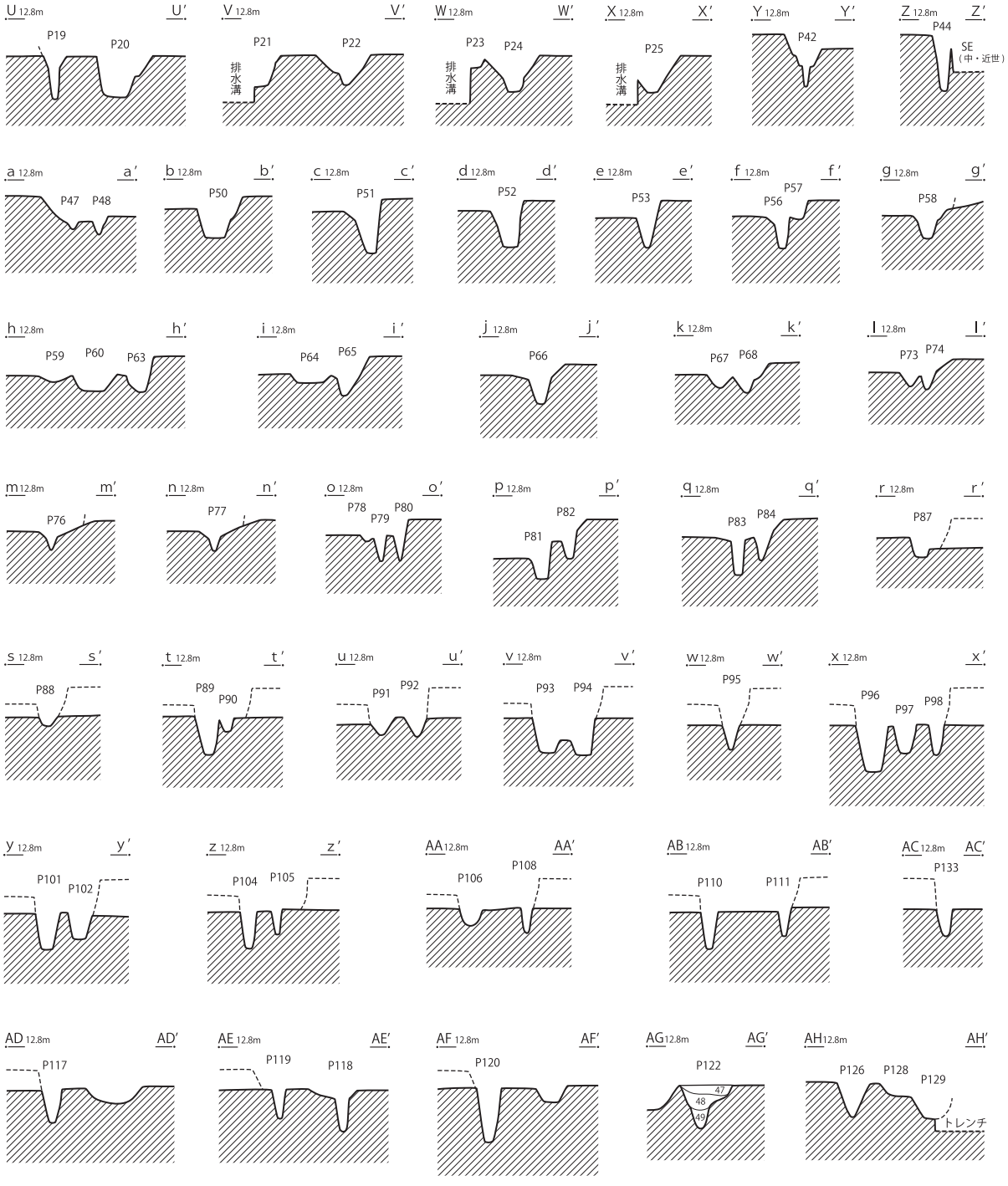


Ⅰ-1　灰褐色土　粘質　褐色土小ブロック（少）　ローム質土ブロック混入
遺物（少）　しまり（良）
Ⅱ-4　褐色土　シルト質　ローム質土ブロック主体
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-5　灰黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック・暗褐色土との混土
暗褐色土ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
炭化物帯状層含む　しまり（良）
Ⅱ-7　暗黄褐色土　粘質　ローム質土ブロック（多）　暗褐色土ブロック
・炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
Ⅱ-8　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック・炭化物粒子
・焼土粒子（少）　しまり（良）
Ⅱ-10　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック（微）
炭化物粒子・焼土粒子（少）　骨片含む　しまり（中）
Ⅱ-11　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ローム質土小ブロック（少）
炭化物粒子を斑状に含む　遺物（微）　しまり（中）
Ⅱ-12　褐色土　粘質　ローム質土・暗褐色土との混土
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（微）　しまり（良）
Ⅱ-17　褐色土　粘質　ローム質土・暗褐色土との混土　しまり（良）
Ⅲ-3　褐灰色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　骨片含む
遺物（多）　しまり（欠）
Ⅲ-5　黒色土　粘質　炭化物（多）　灰色粘土含む　遺物（少）
しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり
Ⅵ　にぶい黄褐色土

盛土
① 黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（少）　しまり（欠）
② 暗褐色土　粘質　炭化物（径10㎜）（中）　しまり（中）
③ 黒色土　シルト質　炭化物　骨粉（少）　しまり（欠）
④ 褐色土　シルト質　ローム粒子・焼土（多）　しまり（中）
⑤ 黒褐色土　粘質　炭化物（多）　骨粉（微）　遺物（少）　しまり（中）
⑥ 暗褐色土　シルト質　ローム粒子含む　焼土（多）　しまり（中）
⑦ 暗褐色土　粘質　炭化物（中）　焼土・骨片含む　遺物（少）　しまり（中）
⑧ 黒褐色土　シルト質　焼土・炭化物との混土　しまり（欠）
⑨ 暗褐色土　粘質　炭化物（多）　遺物（少）　しまり（中）
⑩ 黒色土　シルト質　炭化物層　遺物（微）　しまり（欠）
⑪ 褐色土　粘質　炭化物（多）　焼土（微）　遺物（少）　しまり（中）
⑭ 暗褐色土　粘質　炭化物（多）　しまり（欠）
⑮ 黒褐色土　粘質　炭化物（多）
㉖ 暗褐色土　シルト質　炭化物帯状層　骨粉（少）　しまり（欠）
㉗ 黒褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物（径20～30㎜）・焼土（多）
遺物（少）　しまり（中）
㉘ 黒褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物（径20～40㎜）・焼土（多）
しまり（中）
㉙ 黒色土　シルト質　ローム粒子・炭化物（径20～50㎜）・焼土（多）
しまり（欠）
㉚ 暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（良）
㉛ 黒褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（中）　遺物（多）
しまり（欠）

ＳＪ44
1 黒褐色土　炭化物粒子（多）　ローム粒子・焼土粒子（少）
2 黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（多）
3 暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
ロームブロック（径10㎜）（多）
4 暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・骨片（多）　焼土粒子（少）
5 黒色土　灰白色粘性土　ローム粒子・焼土粒子含む　粘性（強）
6 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含む
7 黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
8 褐色土　ローム粒子・焼土粒子・骨片（少）
9 黒色土　炭化物（多）　褐色土ブロック混入
10 黒色土　焼土粒子含む　灰白色粘性土（多）　粘性（強）
11 褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む
12 暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子含む　炭化物粒子（多）　粘性（強）
13 黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子含む　炭化物粒子（多）　粘性（強）
14 暗黄褐色土　炭化物粒子（径5～10㎜）含む　骨片・焼土（微）
粘性（強）　しまり（欠）
15 暗褐色土　ローム粒子含む
16 黄褐色土　ローム土・暗褐色土との混土
17 灰褐色土
18 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（径30～50㎜）・炭化物含む
19 暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
20 黒色土　炭化物粒子・焼土・焼土ブロック（多）
焼土粒子・黄白色粘土塊含む
21 黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む　粘性（強）
22 黒色土　炭化物粒子多量　焼土粒子・黄白色粘土塊含む
23 暗褐色土　ローム粒子（径10㎜）・炭化物粒子・焼土粒子・骨粉含む
24 黒色土　炭化物と黒色化した灰層との混土
25 黒褐色土　炭化物層
26 暗褐色土　粘質　炭化物（少）
27 暗褐色土　焼土・焼土ブロック（少）
28 黄褐色土　ハードロームブロック（多）
29 暗褐色土　ロームブロック（少）
30 暗黄褐色土　ロームブロック（多）
31 黒色土　炭化物粒子・焼土ブロック（少）　灰白色粘土ブロック（多）
しまり（欠）　炉跡

第83図　第44a号住居跡（４）

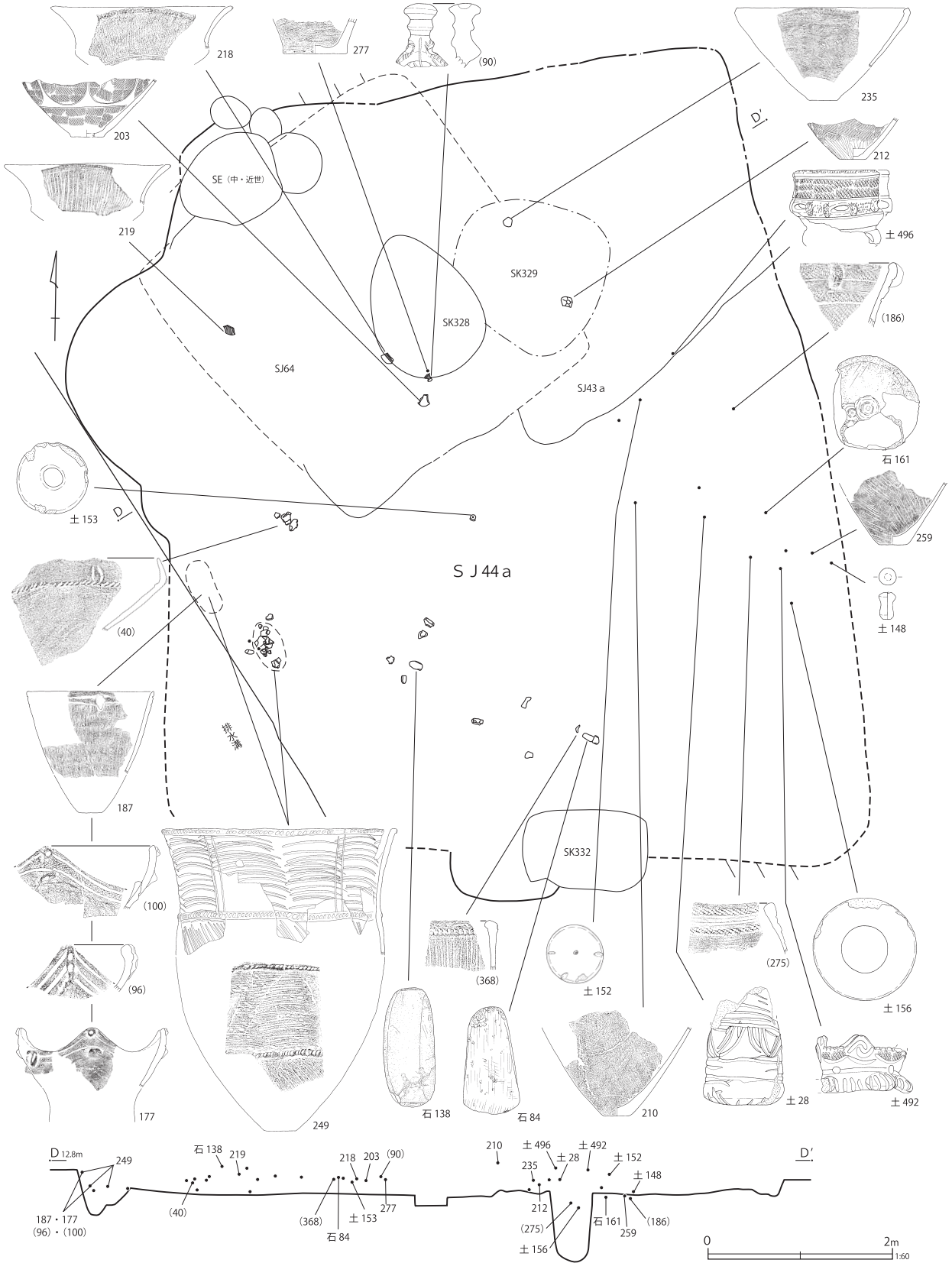


ＳＪ44ａ　柱穴

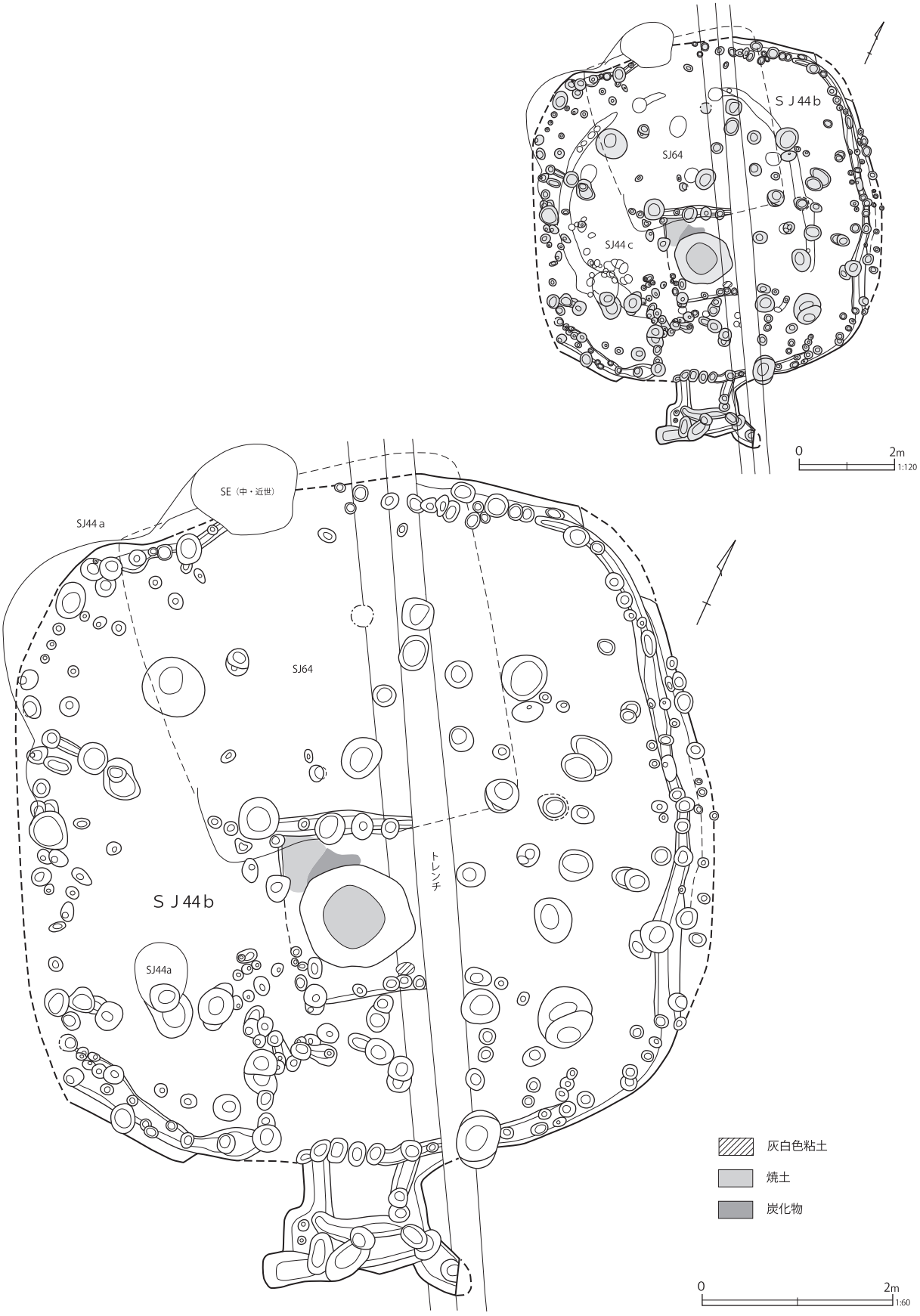
32　黒褐色土　炭化物粒子（多）
33　黄褐色土　ロームブロック（多）
34　黒褐色土　炭化物粒子（多）
35　暗褐色土
36　黒褐色土　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
37　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
38　暗褐色土　暗褐色土ブロック（少）
39　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
40　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（欠）
41　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）
42　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
43　暗褐色土　炭化物粒子帯状層
44　暗黄褐色土　ローム粒子（多）
45　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（欠）
46　暗褐色土　ロームブロック（多）　しまり（欠）
47　暗褐色土　粘質　ロームブロック・炭化物粒子（少）
48　暗褐色土　粘質　ロームブロック（多）
49　暗黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）

0　2m
1:60

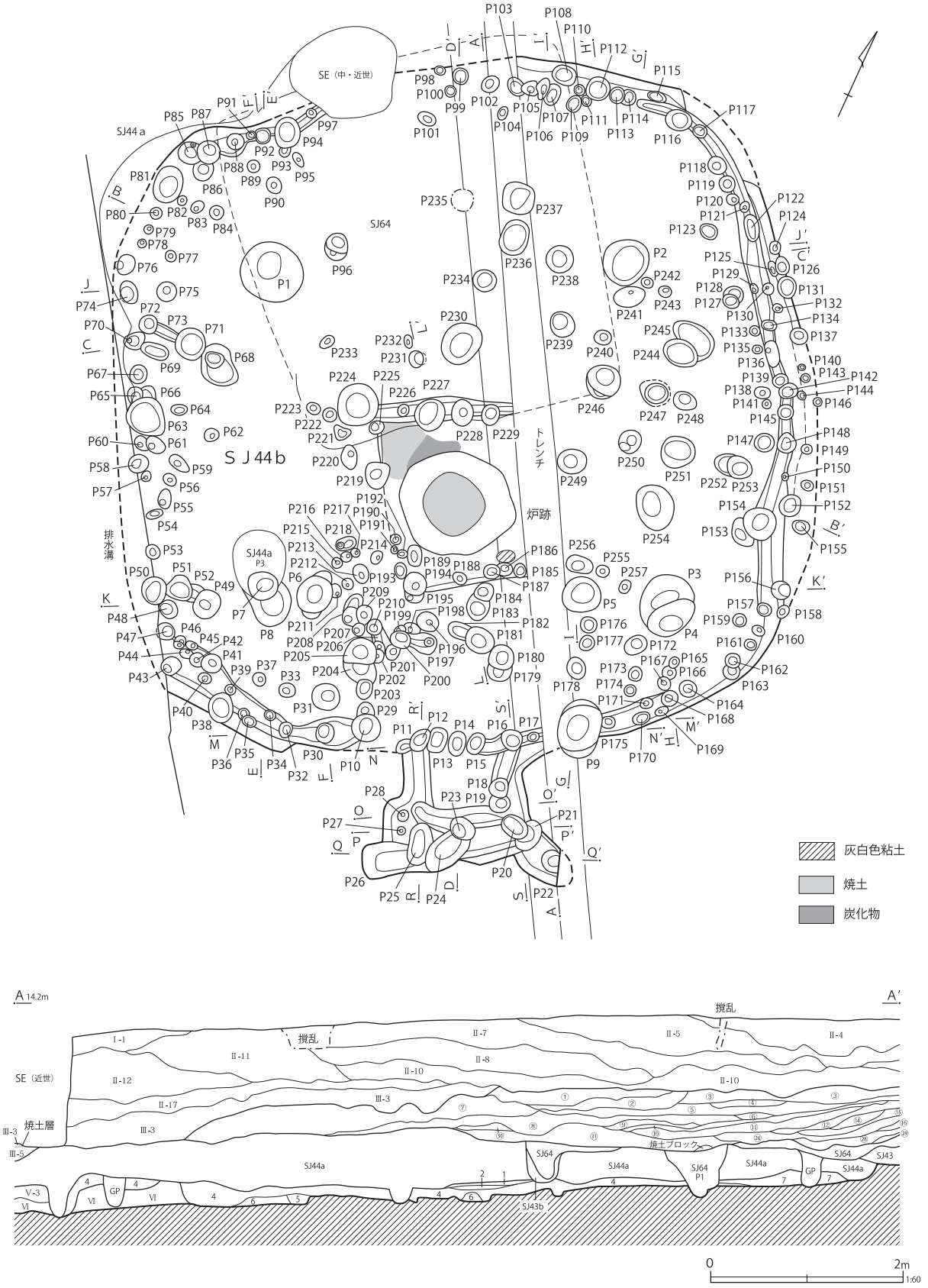
第84図　第44a号住居跡（５）



第85図　第44a号住居跡遺物出土状況

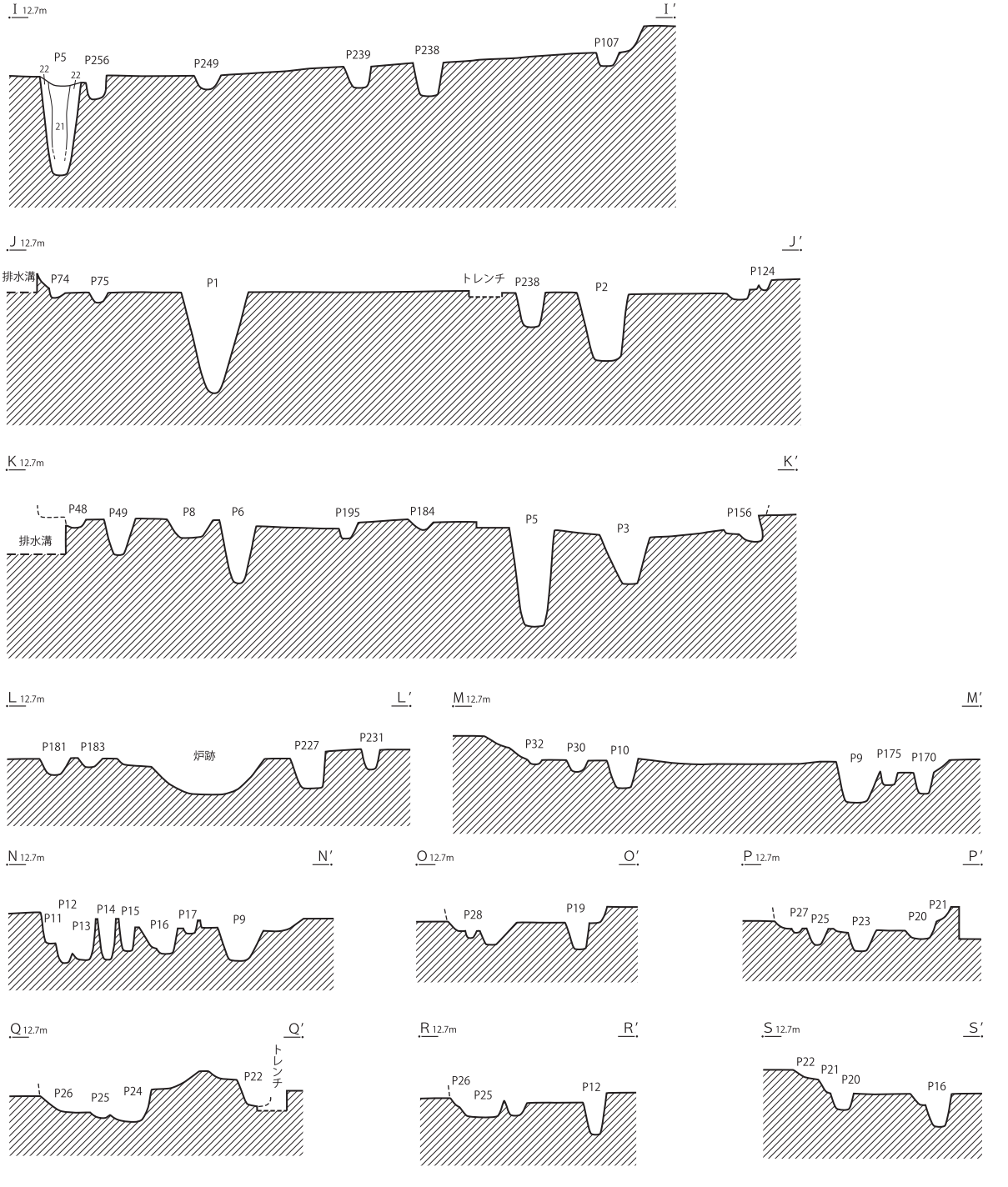


第86図　第44b号住居跡（１）



第87図　第44b号住居跡（２）

第88図　第44b号住居跡（３）



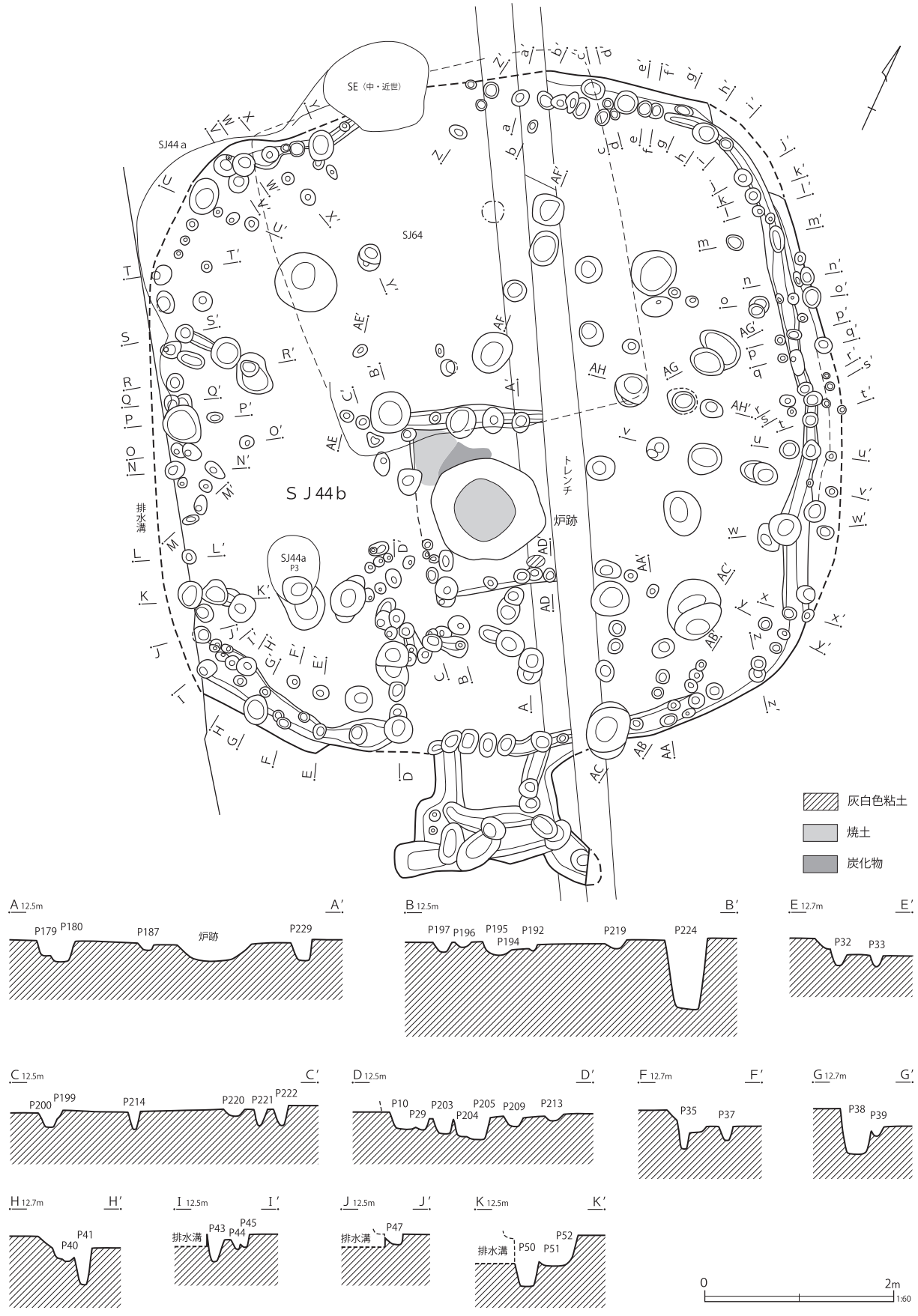
ＳＪ44ｂ

1　黒色土
2　黄褐色土　ロームとの混土　床面調整土
3　暗黄褐色土　炭化物粒子（径５～10㎜）含む　骨片・焼土（微）
4　褐色土　ロームブロック含む
5　暗褐色土　ローム粒子含む
6　暗褐色土　ローム粒子含む　しまり（良）
7　暗褐色土　ロームブロック（径10㎜）・炭化物粒子・焼土粒子（少）
8　黒色土　炭化物粒子・炭・粘土含む

柱穴

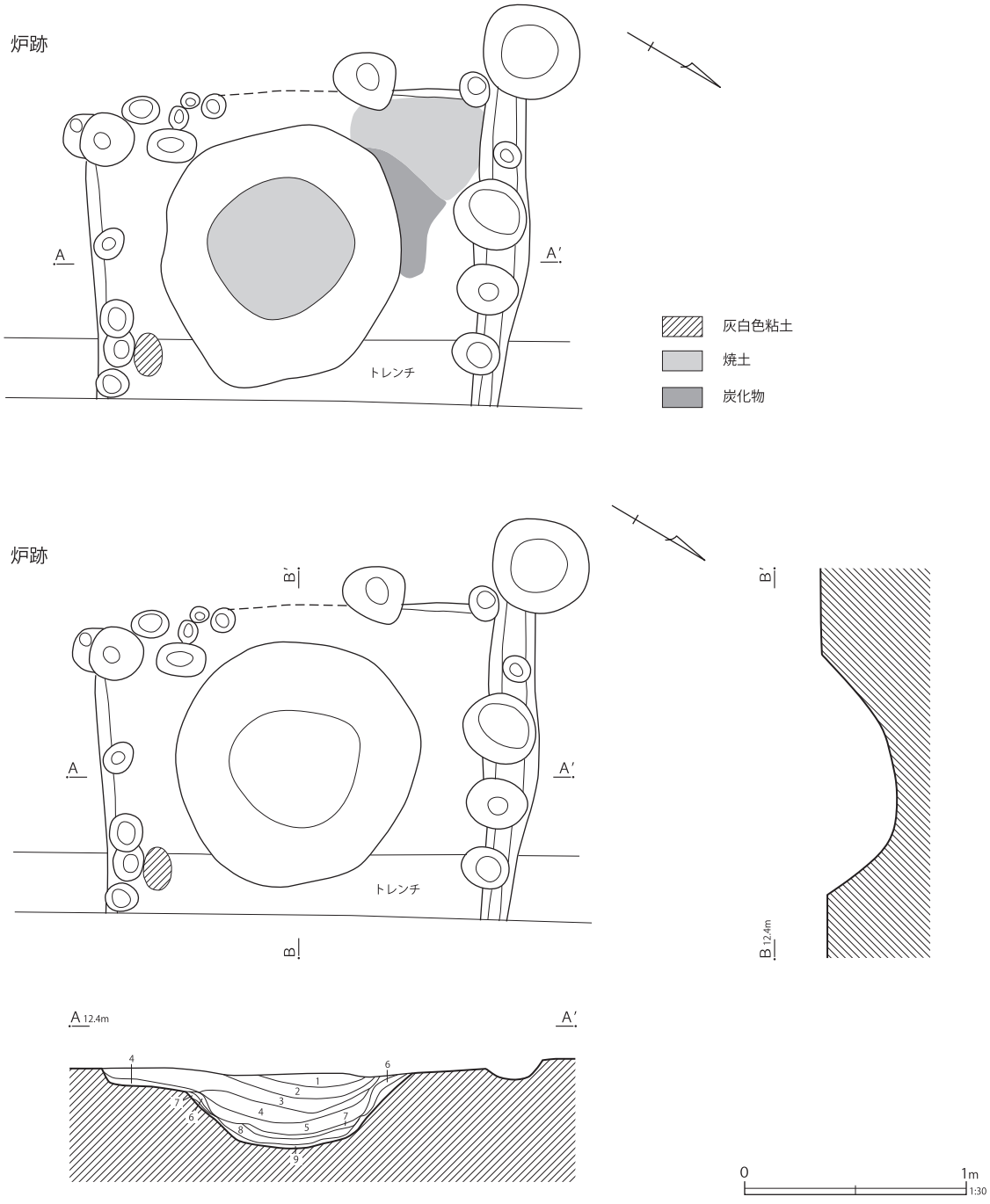
9　黒色土　炭化物層（繊維質）　炭化物粒子（多）
10　暗褐色土　炭化物粒子（多）　柱抜去痕
11　褐色土　ロームブロック（多）　掘り方
12　黒褐色土　炭化物（多）　しまり（欠）
13　暗褐色土　炭化物（少）　しまり（欠）
14　暗黄褐色土　ローム粒子（多）
15　暗黄褐色土　ロームブロック（多）　しまり（良）
16　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
17　暗褐色土　炭化物粒子含む
18　褐色土　炭・焼土粒子含む
19　暗褐色土　炭化物粒子含む　焼土粒子（少）
20　褐色土～黄褐色土　ロームブロック・褐色土との混土
21　褐色土　ロームブロック含む　しまり（欠）
22　暗黄褐色土　ローム粒子・褐色土との混土

第89図　第44b号住居跡（４）



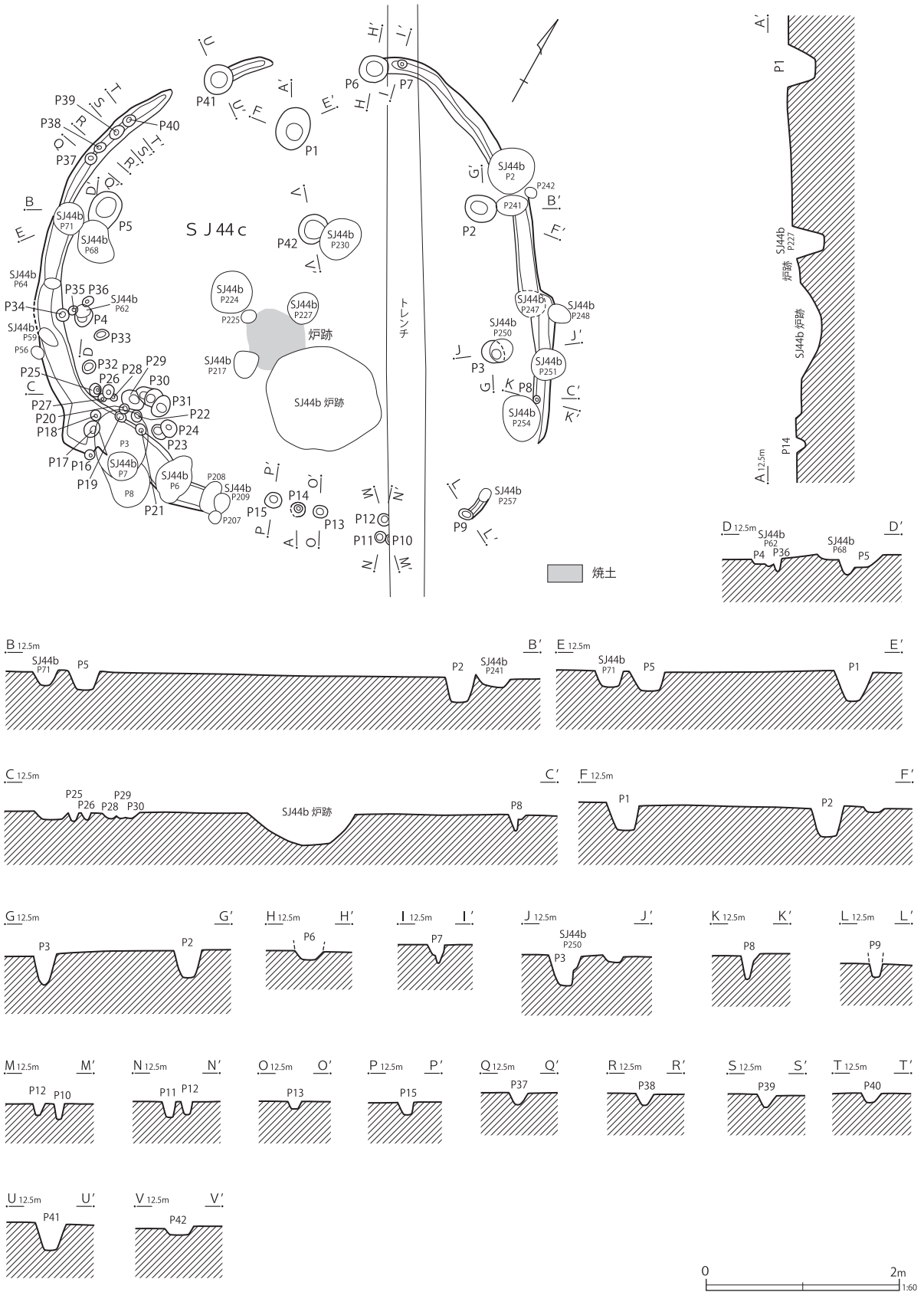
第90図　第44b号住居跡（５）

第91図　第44b号住居跡（６）

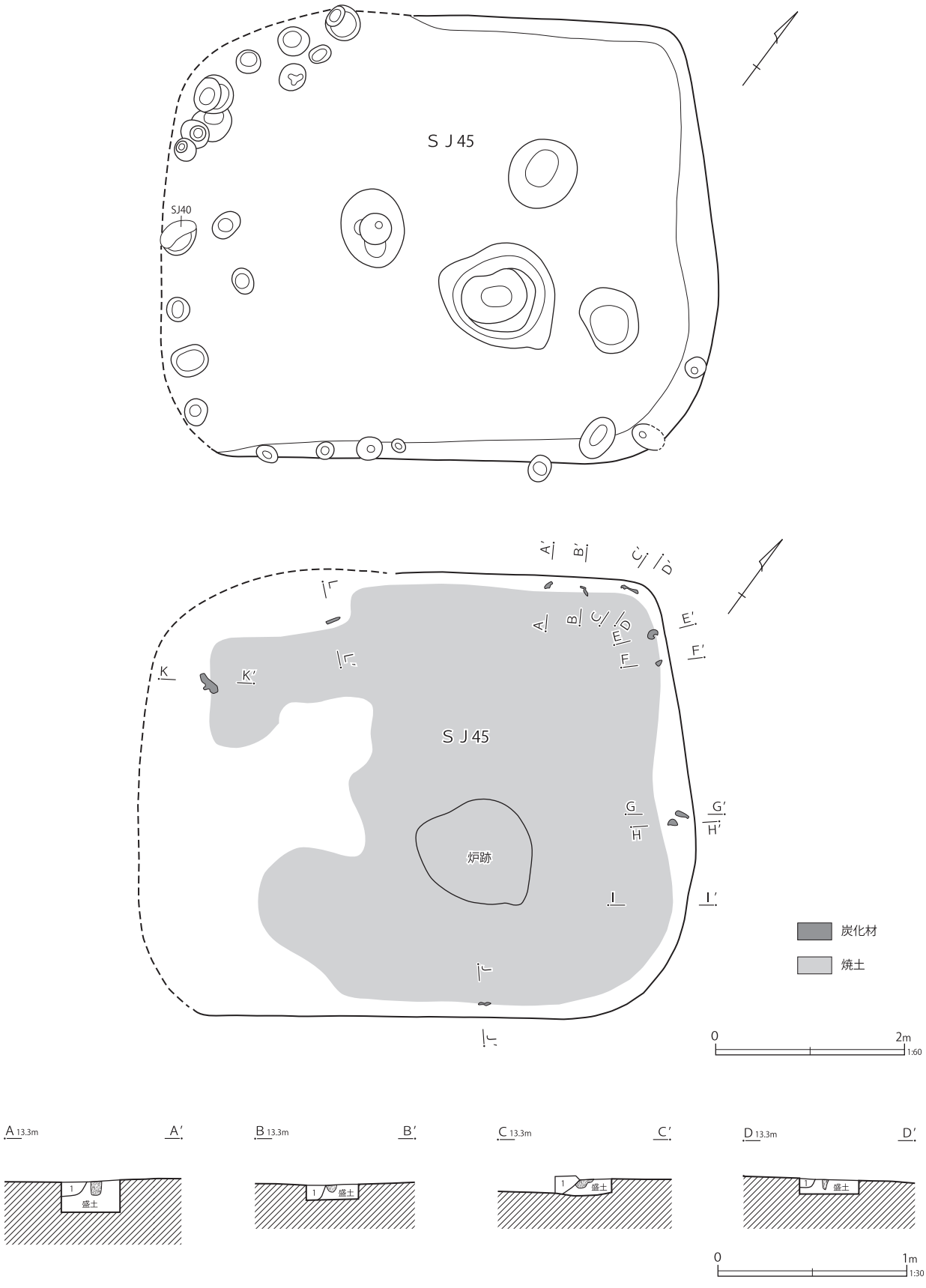


ＳＪ44ｂ　炉跡
1　褐色土　　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
2　黒褐色土　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
3　褐色土　　粘質　炭化物粒子・灰含む
4　黒色土　　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）　灰・骨片含む　しまり（欠）　粘性（強）
5　灰白色土　粘質　炭化物粒子（少）　骨片（多）　灰層
6　灰白色土　灰層含む粘土　被熱赤化
7　黒色土　　炭化物層　繊維質の炭化物粒子（多）　骨片（微）
8　灰白色土　灰白色粘土　（赤化せず）
9　赤褐色土　しまり（良）　火床面
＊炉底は火を受け赤化した粘土が貼られているが壁には灰白色粘土が貼られている

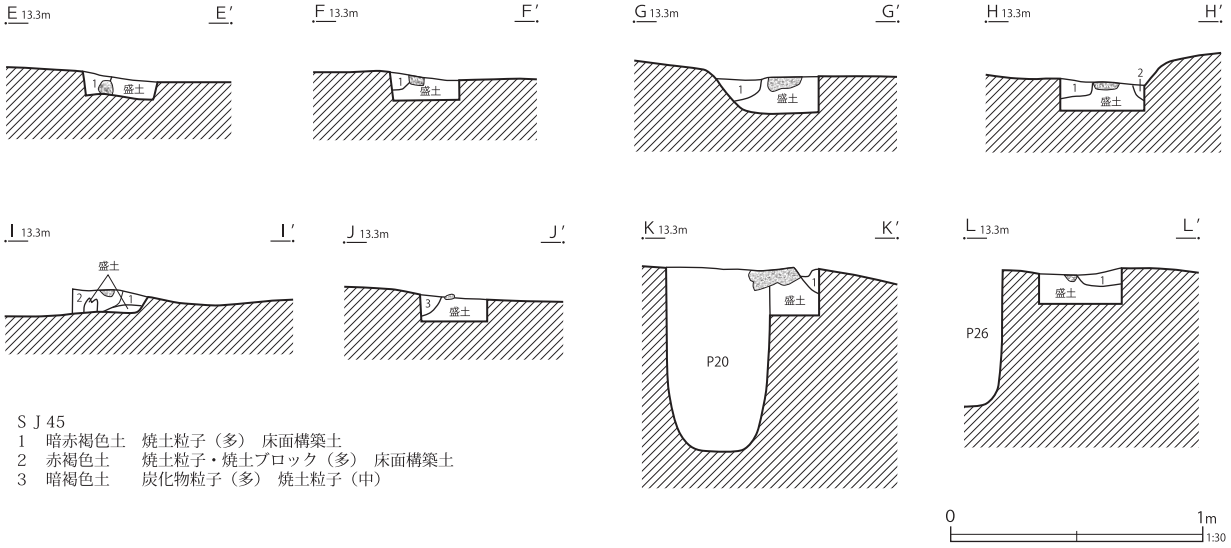
第92図　第44b号住居跡（７）

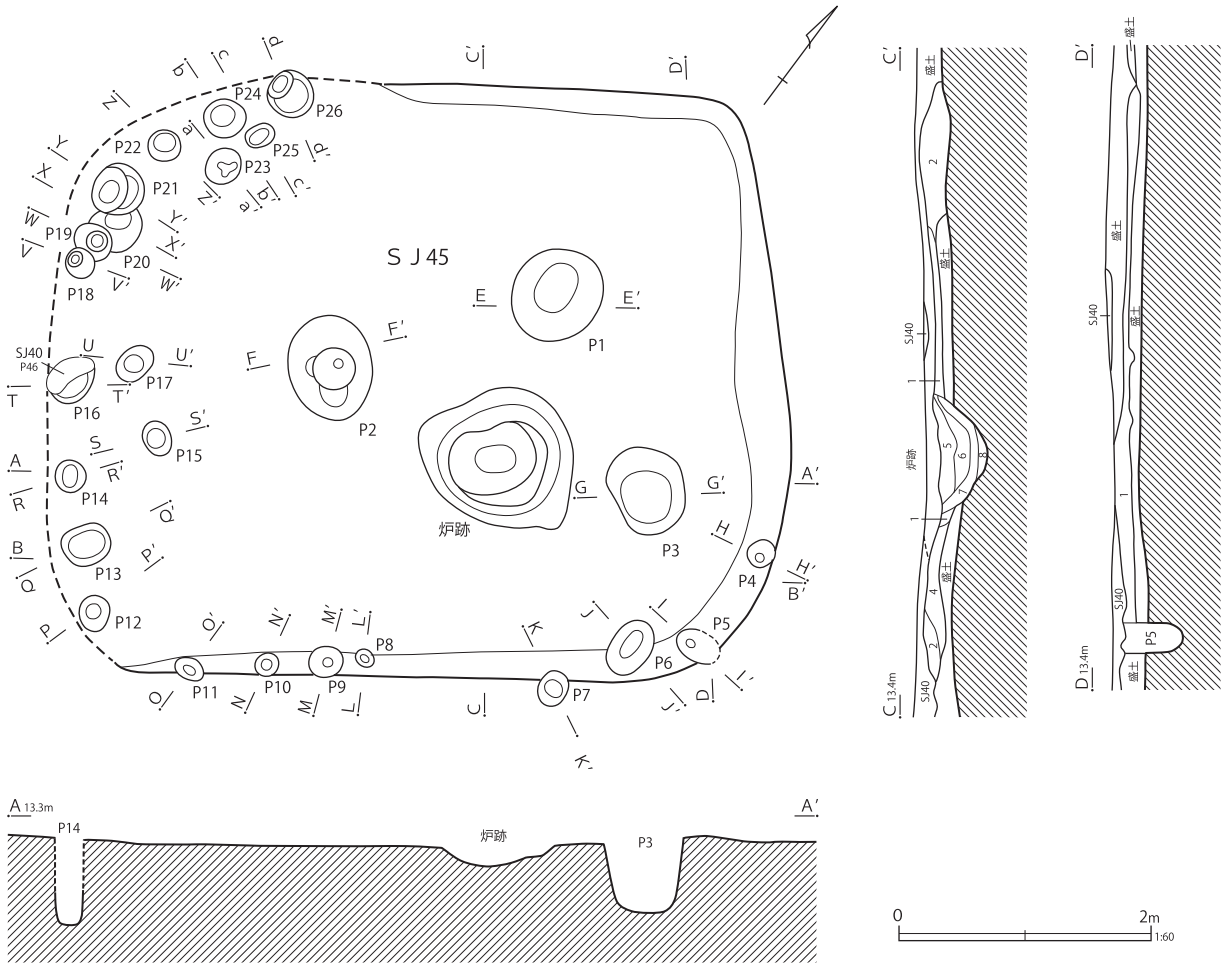


第93図　第44c号住居跡

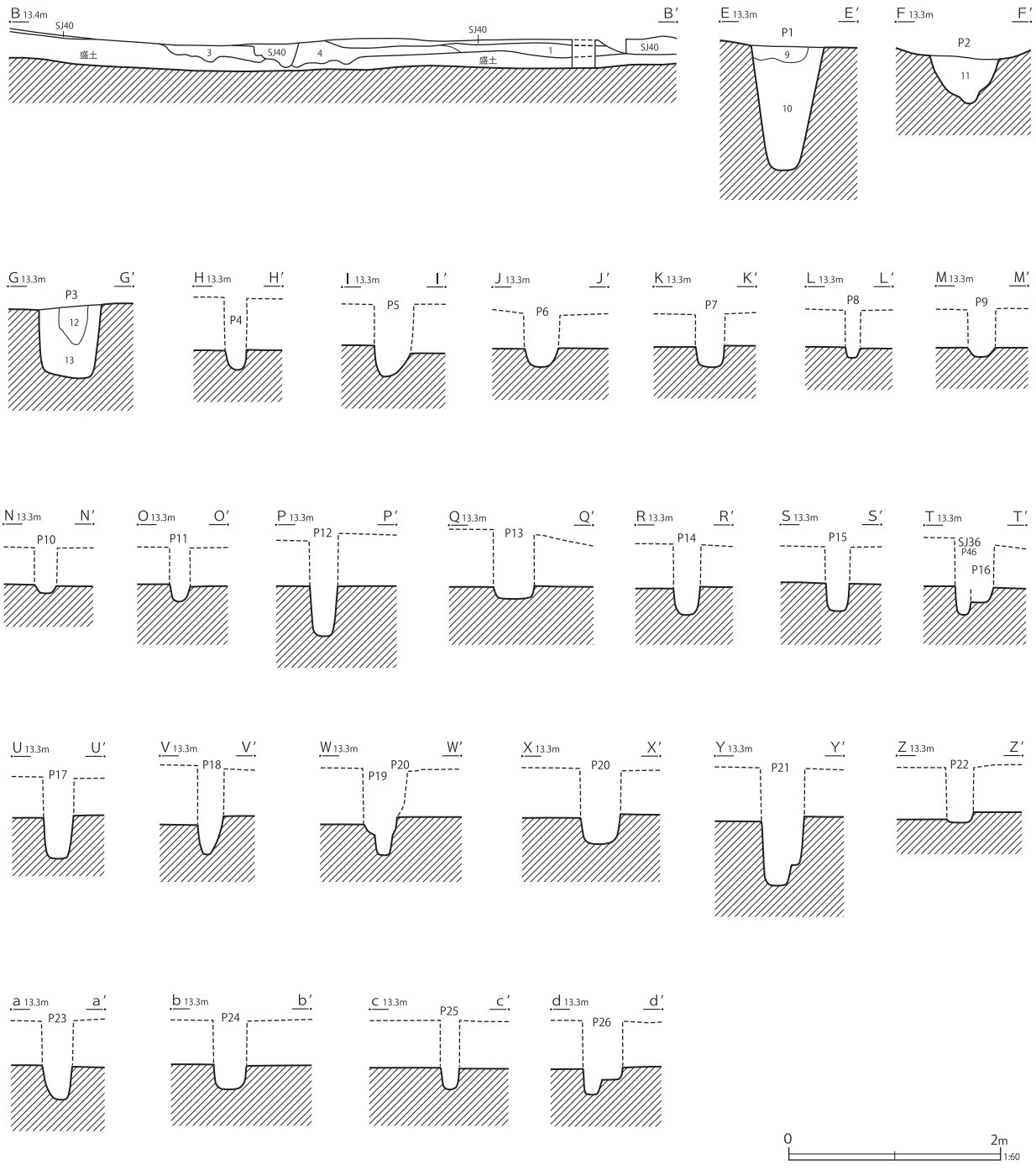


第94図　第45号住居跡（1）





第95図　第45号住居跡（２）

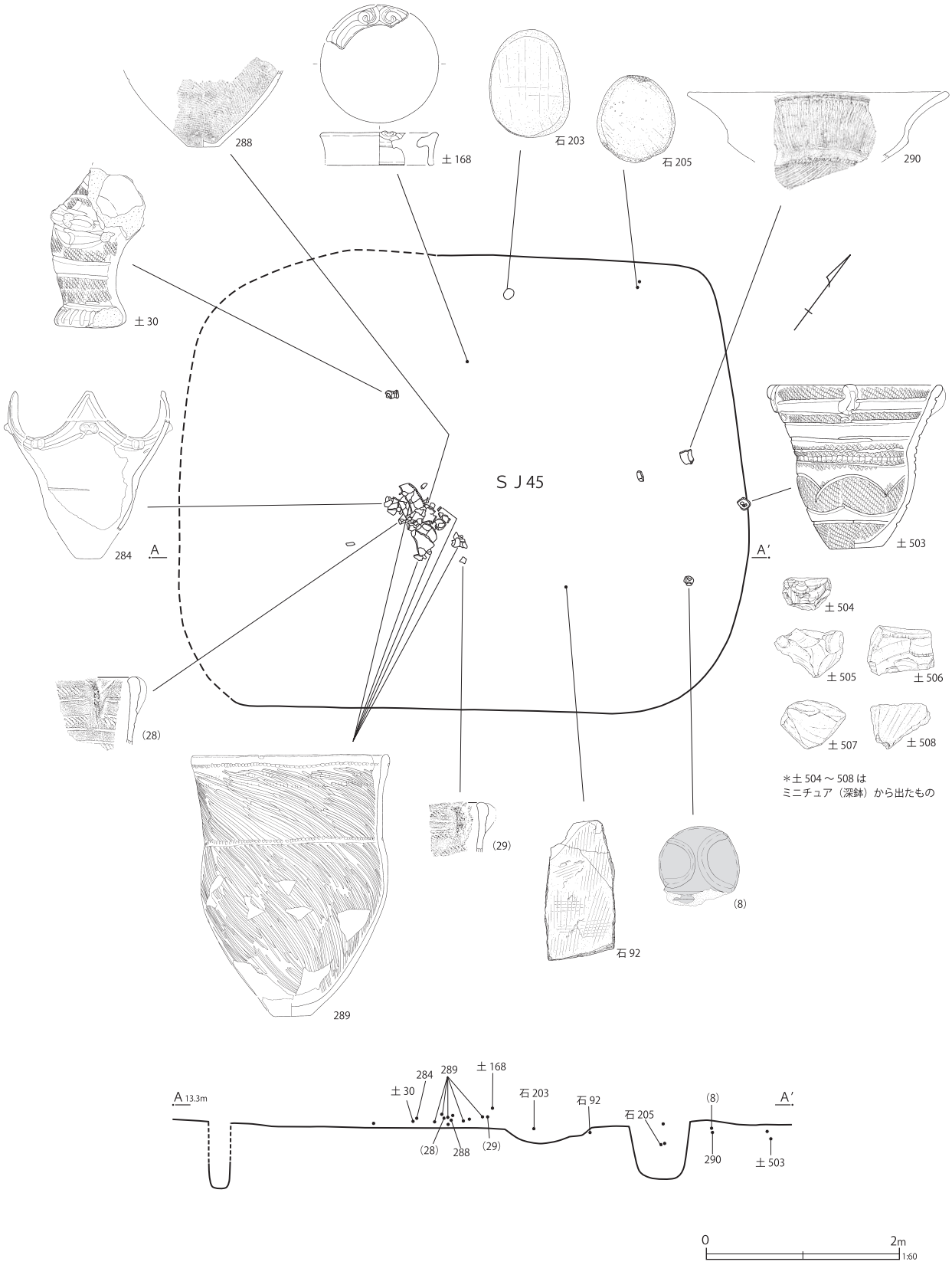


ＳＪ45
1　暗赤褐色土　焼土粒子（多）　床面構築土
2　赤褐色土　　焼土粒子・焼土ブロック（多）　床面構築土
3　暗褐色土　　焼土粒子（多）
4　暗褐色土　　炭化物粒子（多）　焼土粒子（中）

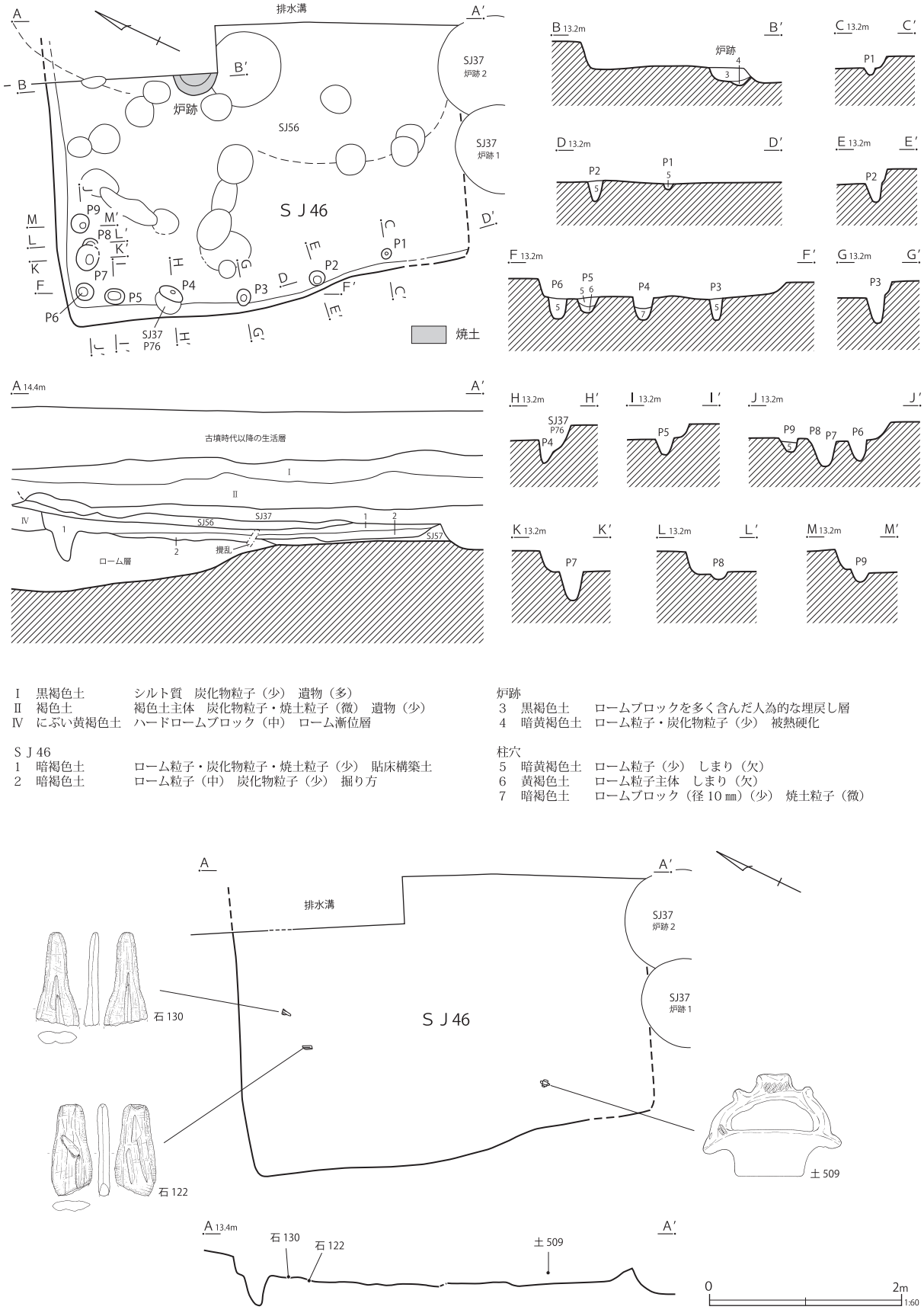
炉跡
5　赤褐色土　　シルト質　焼土層
6　灰白色土　　粘質　灰　骨片・炭化物粒子含む
7　赤褐色土　　焼土層　被熱赤化　火床面
8　暗黄褐色土　被熱硬化　炉の掘り方

柱穴
9　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　埋土
10　暗褐色土　焼土粒子（少）　しまり（欠）　埋土
11　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　埋土
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　埋土
13　暗褐色土　しまり（欠）　埋土

第96図　第45号住居跡（３）



第97図　第45号住居跡遺物出土状況



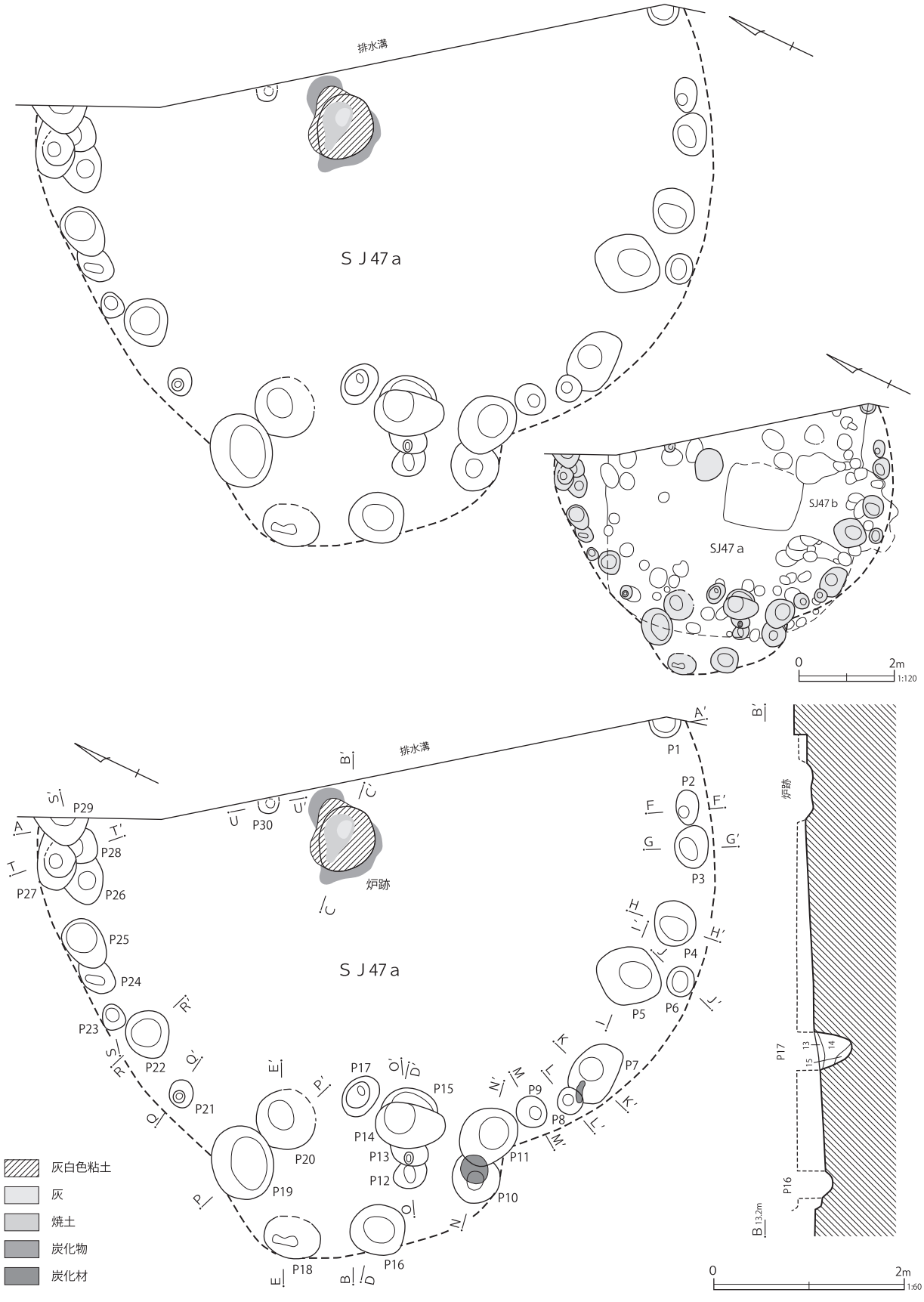
Ⅰ　黒褐色土　　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（多）
Ⅱ　褐色土　　褐色土主体　炭化物粒子・焼土粒子（微）　遺物（少）
Ⅳ　にぶい黄褐色土　ハードロームブロック（中）　ローム漸位層

S J 46
1　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）　貼床構築土
2　暗褐色土　　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　掘り方

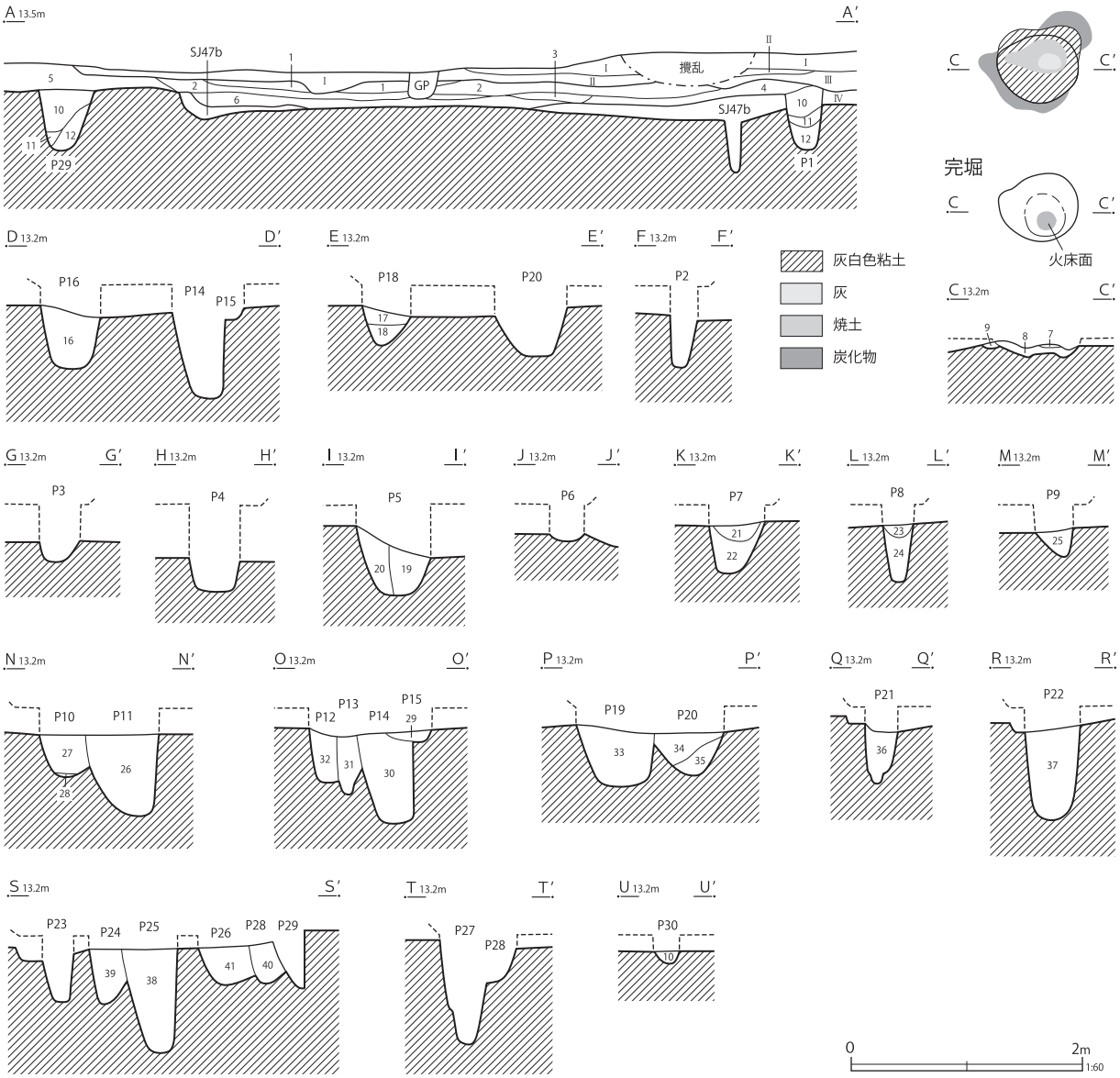
炉跡
3　黒褐色土　　ロームブロックを多く含んだ人為的な埋戻し層
4　暗黄褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　被熱硬化

柱穴
5　暗黄褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
6　黄褐色土　　ローム粒子主体　しまり（欠）
7　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　焼土粒子（微）

第98図　第46号住居跡・遺物出土状況



第99図　第47a号住居跡（1）



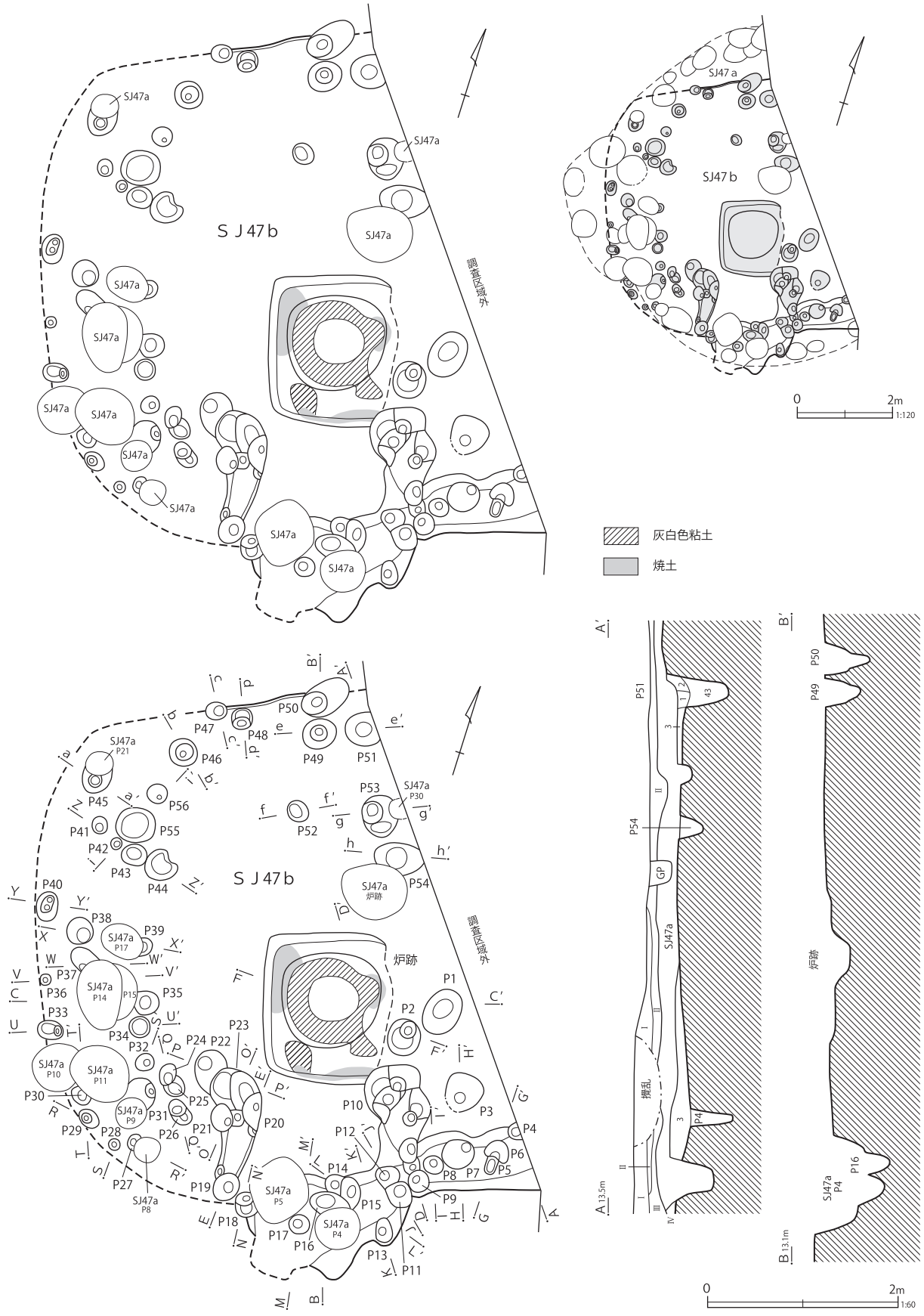
Ⅰ　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・骨片・ローム小ブロック含む
Ⅱ　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む
Ⅲ　暗褐色土　焼土粒子（多）　遺物含む
Ⅳ　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）

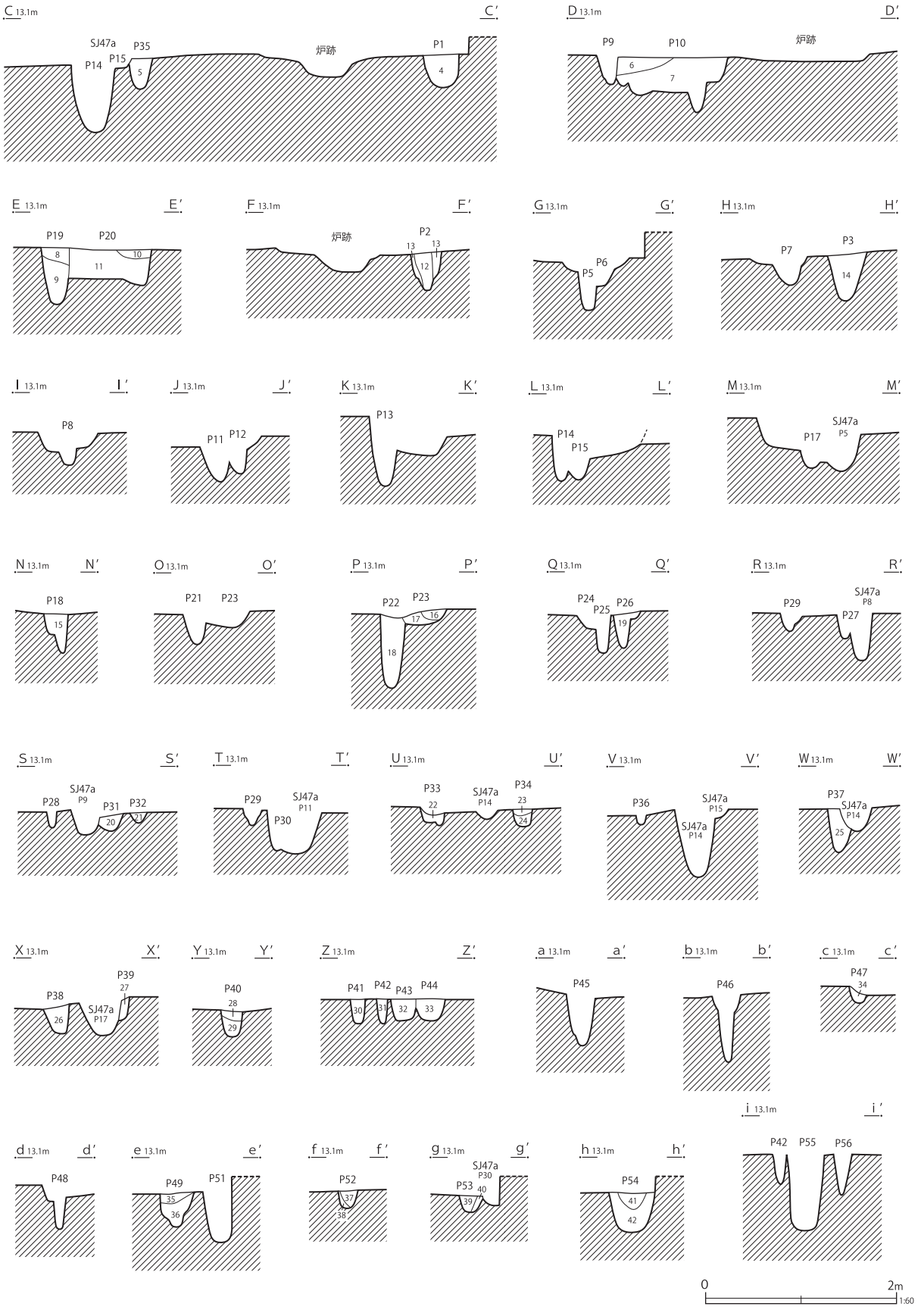
ＳＪ47ａ
1　暗褐色土　ロームブロック・骨片（少）　炭化物粒子（多）
2　黒褐色土　炭化物粒子帯状堆積　骨片（少）　遺物含む
3　黒褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（良）
4　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（良）　貼床構築土
5　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
6　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　床面調整土

炉跡
7　灰黄褐色土　灰層
8　赤褐色土　焼土　炭化物粒子含む　焼成面
9　暗褐色土　炭化物粒子含む

柱穴
10　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
11　暗褐色土　ローム小ブロック（多）　しまり（欠）
12　暗黄褐色土　ロームブロック（多）　しまり（欠）
13　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
14　暗褐色土　ローム粒子（中）　ロームブロック（少）
15　黄褐色土　ローム粒子（少）
16　暗褐色土　均質　しまり（欠）　埋土
17　暗褐色土　粘性（強）
18　暗褐色土　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）
19　黒褐色土　炭化物・焼土含む　柱痕
20　暗褐色土　炭化物粒子（少）
21　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子（径 10 ㎜）（少）
22　暗褐色土　粘性（強）　しまり（欠）
23　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　焼土粒子（極少）
24　暗褐色土　粘性（強）　しまり（欠）
25　暗褐色土　ローム粒子（少）
26　暗褐色土　ロームブロック（中）　しまり（欠）
27　暗褐色土　焼土粒子（極少）　均質
28　暗褐色土　焼土粒子（少）　しまり（堅致）
29　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）
30　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
31　暗褐色土　ロームブロック（少）
32　暗褐色土　ロームブロック（少）
33　暗褐色土　しまり（欠）　埋土
34　暗褐色土
35　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）含む
36　黄褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　均質
37　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）
38　暗褐色土　ローム粒子（中）　しまり（欠）　埋土
39　暗褐色土　ロームブロック（少）斑状　埋土
40　暗褐色土　均質　しまり（良）　埋土
41　暗黄褐色土　ロームブロック（中）　埋土

第100図　第47a号住居跡（２）


SJ47a
SJ47b
SJ47a
SJ47a
SJ47a

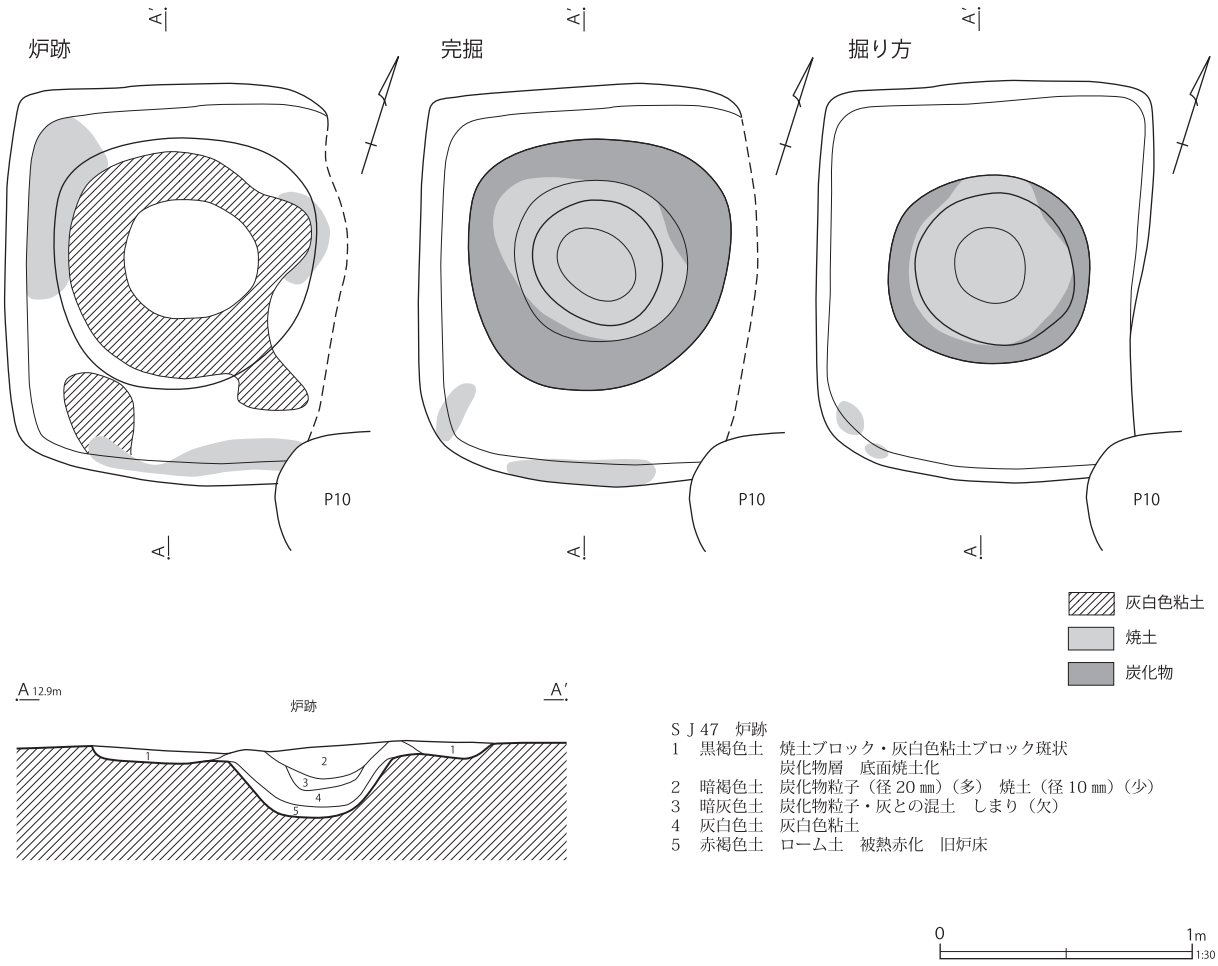


第102図　第47b号住居跡（２）

Ⅰ　暗褐色土　　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・骨片含む
Ⅱ　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子含む
Ⅲ　暗褐色土　　焼土粒子（多）　遺物含む
Ⅳ　暗褐色土　　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）

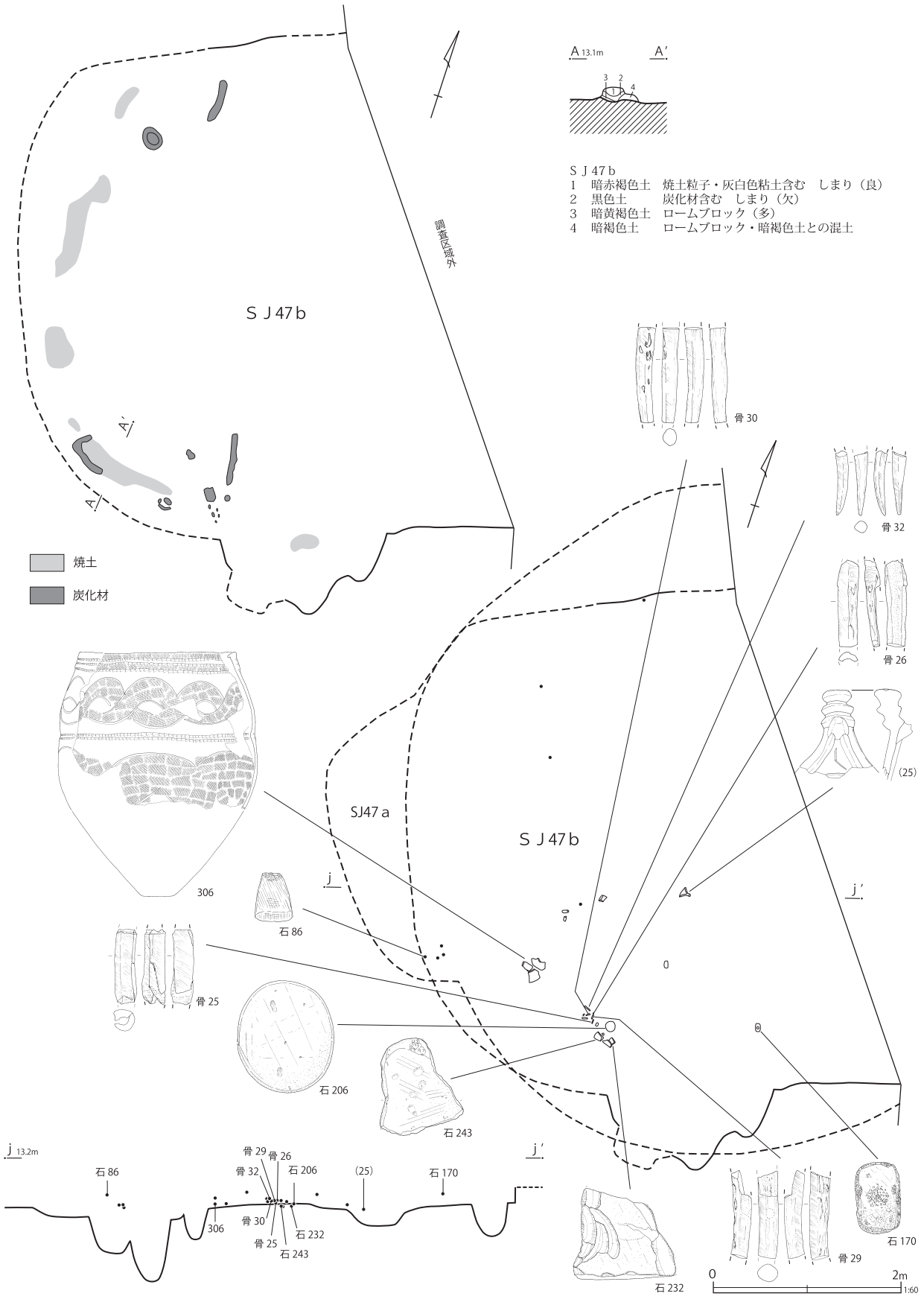
ＳＪ47ｂ
1　暗褐色土　　暗褐色土ブロック含む
2　暗赤褐色土　焼土粒子・炭化物粒子との混土　しまり（欠）　壁際崩落土
3　暗褐色土　　暗褐色土主体　ロームブロック含む
　　しまり（良）　貼床構築土

柱穴
4　暗褐色土　　ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む
5　暗褐色土　　ローム粒子（中）
6　黒褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子含む
7　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子含む
8　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子（中）
9　黄褐色土　　しまり（欠）
10　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子（中）
11　黄褐色土　　ロームブロック主体　しまり（欠）　埋土
12　暗褐色土　　炭化物粒子（少）
13　暗黄褐色土　炭化物粒子（少）
14　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
15　暗褐色土　　ローム粒子（中）
16　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土ブロック（中）
17　黄褐色土　　ロームブロック主体　しまり（欠）　埋土
18　暗褐色土　　ローム粒子（中）　しまり（欠）
19　暗褐色土　　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）　一括埋土
20　暗褐色土　　ローム粒子（少）
21　黄褐色土　　ローム粒子（中）
22　暗褐色土　　炭化物粒子（少）　しまり（欠）　一括埋土
22　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
24　黄褐色土　　均質
25　暗褐色土　　粘性（強）　しまり（欠）
26　暗褐色土
27　暗褐色土　　ローム粒子（中）　ロームブロック（少）
28　暗褐色土　　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）含む
29　黄褐色土　　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）　しまり（良）　埋土
30　暗褐色土　　ローム粒子（少）
31　黄褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子（少）
32　黄褐色土　　ローム粒子（少）
33　暗褐色土　　ロームブロック含む　炭化物粒子・焼土粒子（少）
34　暗褐色土　　ローム粒子（少）
35　暗褐色土　　炭化物粒子（多）
36　黄褐色土　　焼土粒子・炭化物粒子（少）
37　暗褐色土
38　黄褐色土
39　暗褐色土　　ローム粒子（少）　しまり（欠）　埋土
40　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
41　暗褐色土　　焼土粒子・炭化物粒子（中）
42　暗褐色土　　掘り方
43　暗褐色土　　暗褐色土主体　ロームブロック含む　しまり（欠）

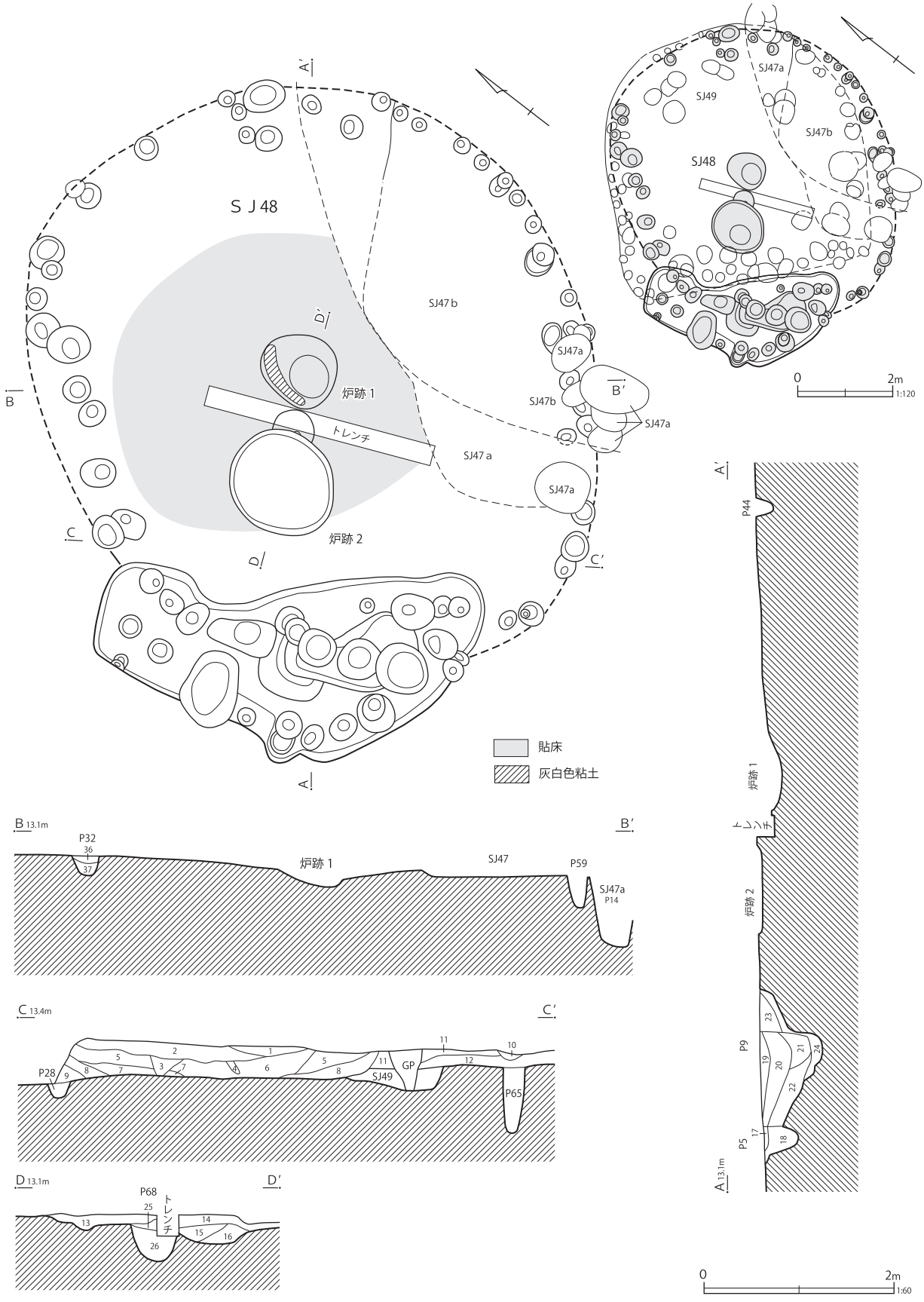


ＳＪ47　炉跡
1　黒褐色土　焼土ブロック・灰白色粘土ブロック斑状
　　炭化物層　底面焼土化
2　暗褐色土　炭化物粒子（径 20 ㎜）（多）　焼土（径 10 ㎜）（少）
3　暗灰色土　炭化物粒子・灰との混土　しまり（欠）
4　灰白色土　灰白色粘土
5　赤褐色土　ローム土　被熱赤化　旧炉床

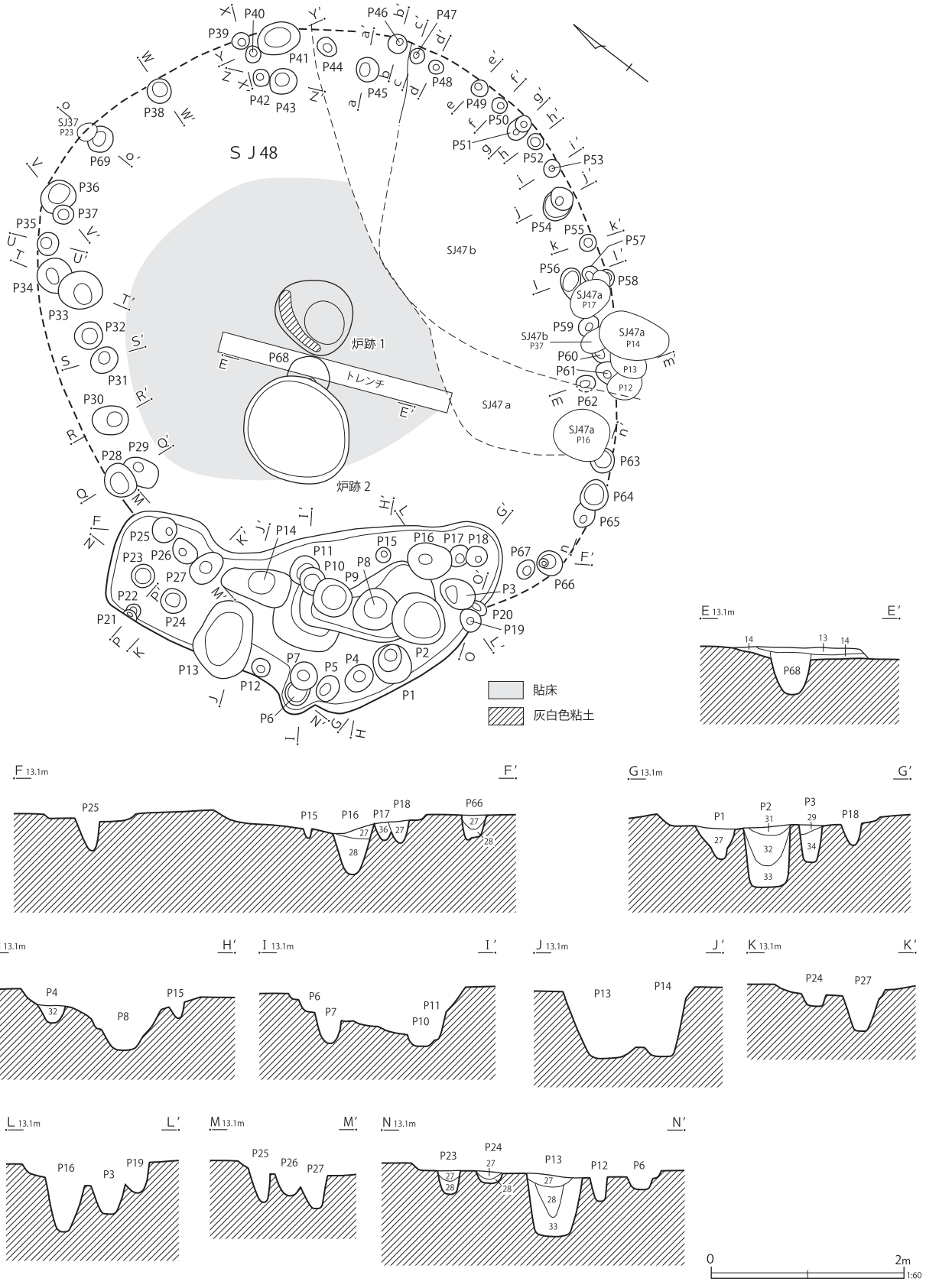
第103図　第47b号住居跡（３）



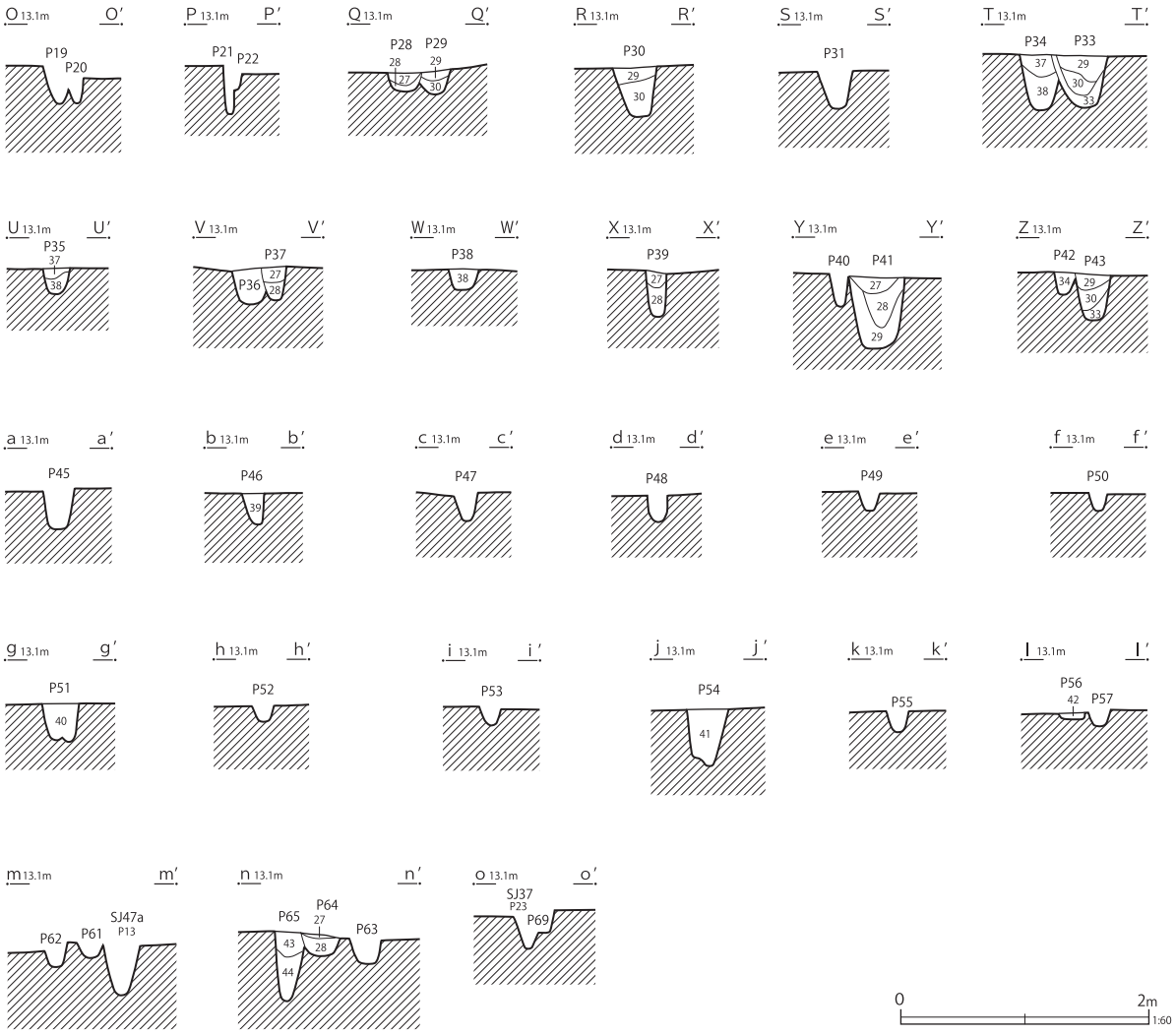
第104図　第47b号住居跡（４）・遺物出土状況



第105図　第48号住居跡（1）



第106図　第48号住居跡（2）



ＳＪ48

1　黒色土　炭化物粒子・暗褐色ブロック・焼土粒子との混土
2　黒色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）　遺物包含層
3　黒褐色土　焼土粒子（中）
4　暗褐色土　炭化物層
5　暗褐色土　焼土粒子（中）
6　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（欠）
7　暗赤褐色土　焼土ブロックと炭化物灰を含む　しまり（欠）
8　暗赤褐色土　ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土
9　暗赤褐色土　ロームブロック（多）
10　赤褐色土　焼土粒子含む　しまり（良）
11　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）
12　暗黄褐色土　ロームブロック（多）

炉跡

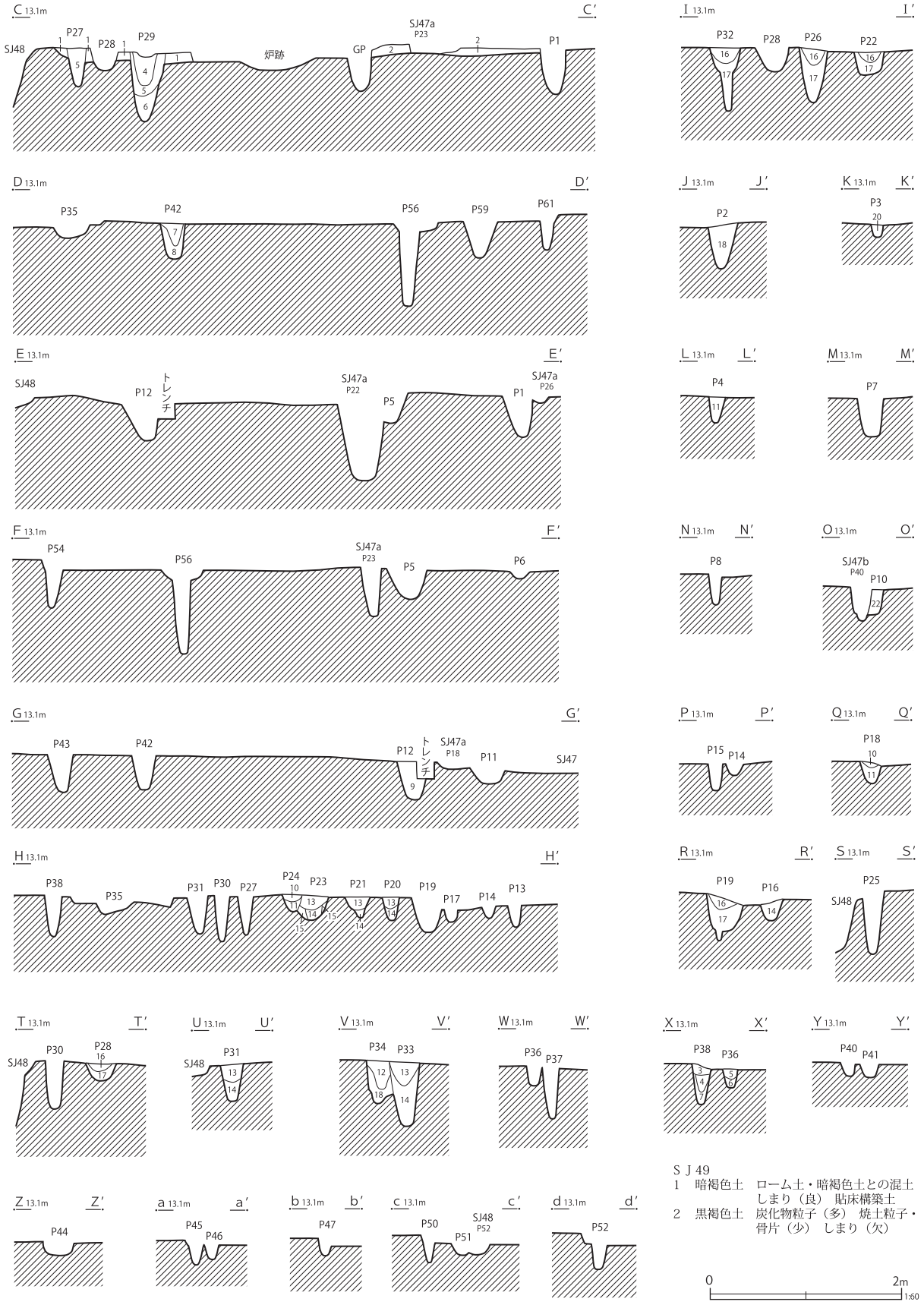
13　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（良）　炉跡埋土
14　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　ロームブロック（多）　しまり（良）　炉跡埋土
15　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
16　暗褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（欠）

柱穴

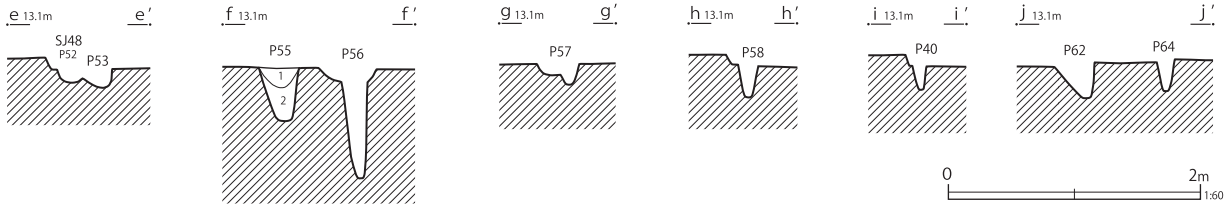
17　黒褐色土　炭化物粒子（多）　しまり（良）
18　黒褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
19　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・骨片含む　しまり（良）
20　黒褐色土　暗褐色粘質土主体　炭化物粒子（少）
21　暗褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
22　暗褐色土　ロームブロック・暗褐色土ブロック（少）
23　暗褐色土　ロームブロック含む　炭化物粒子（少）
24　暗褐色土　ロームブロック（多）
25　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（多）　しまり（欠）
26　暗褐色土　炭化物粒子（少）　焼土ブロック（多）　炉跡か
27　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）
28　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
29　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
30　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
31　黄褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　骨片含む
32　黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
33　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
34　黄褐色土　ロームブロック含む　しまり（良）
35　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
36　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
37　黒褐色土　炭化物粒子・暗褐色粘土（多）
38　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
39　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
40　黄褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
41　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
42　暗褐色土
43　暗褐色土　炭化物（少）　しまり（欠）
44　暗褐色土　褐色土ブロック（多）　しまり（欠）

第107図　第48号住居跡（３）

第108図　第49号住居跡（1）

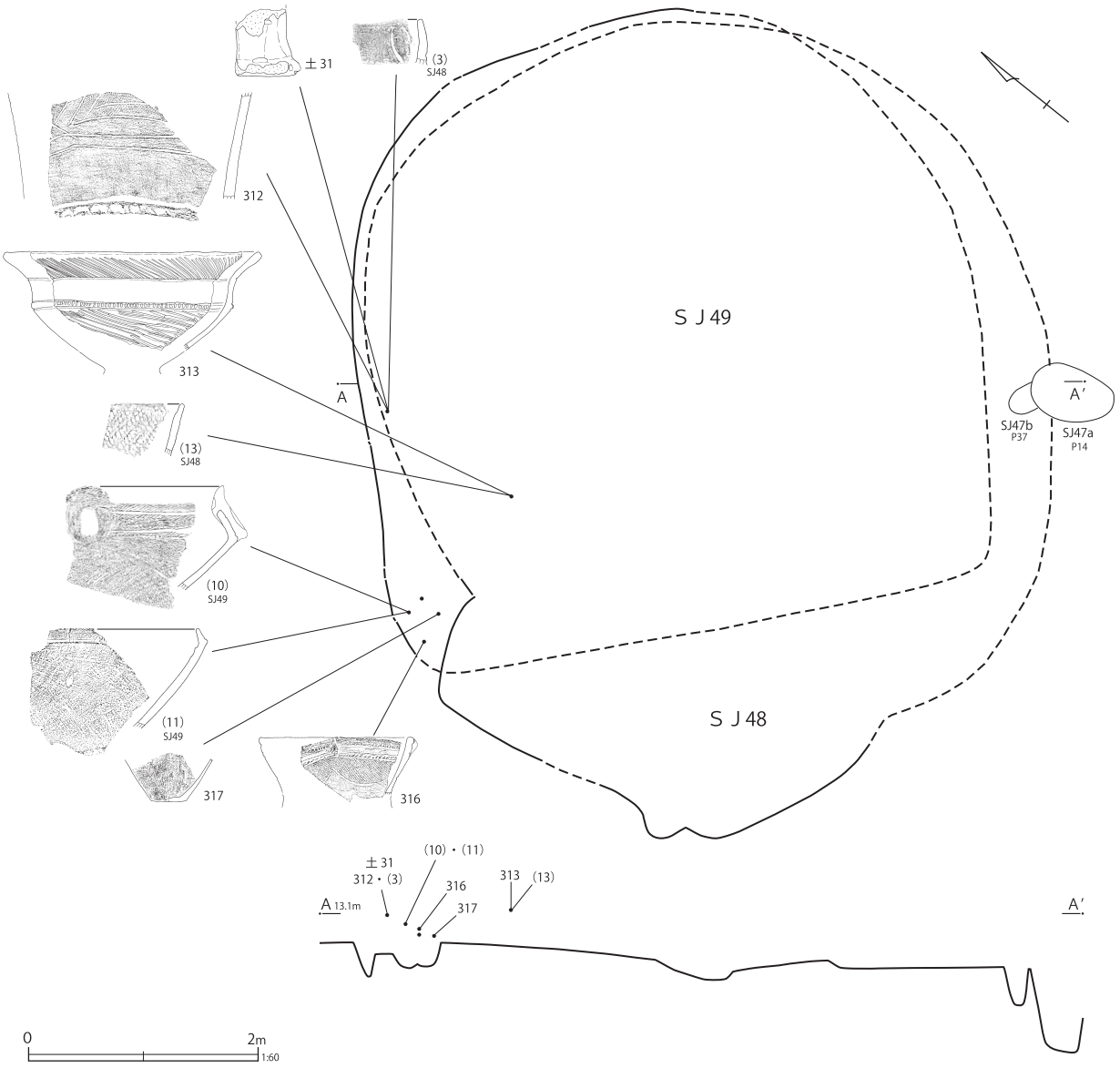


第109図　第49号住居跡（２）

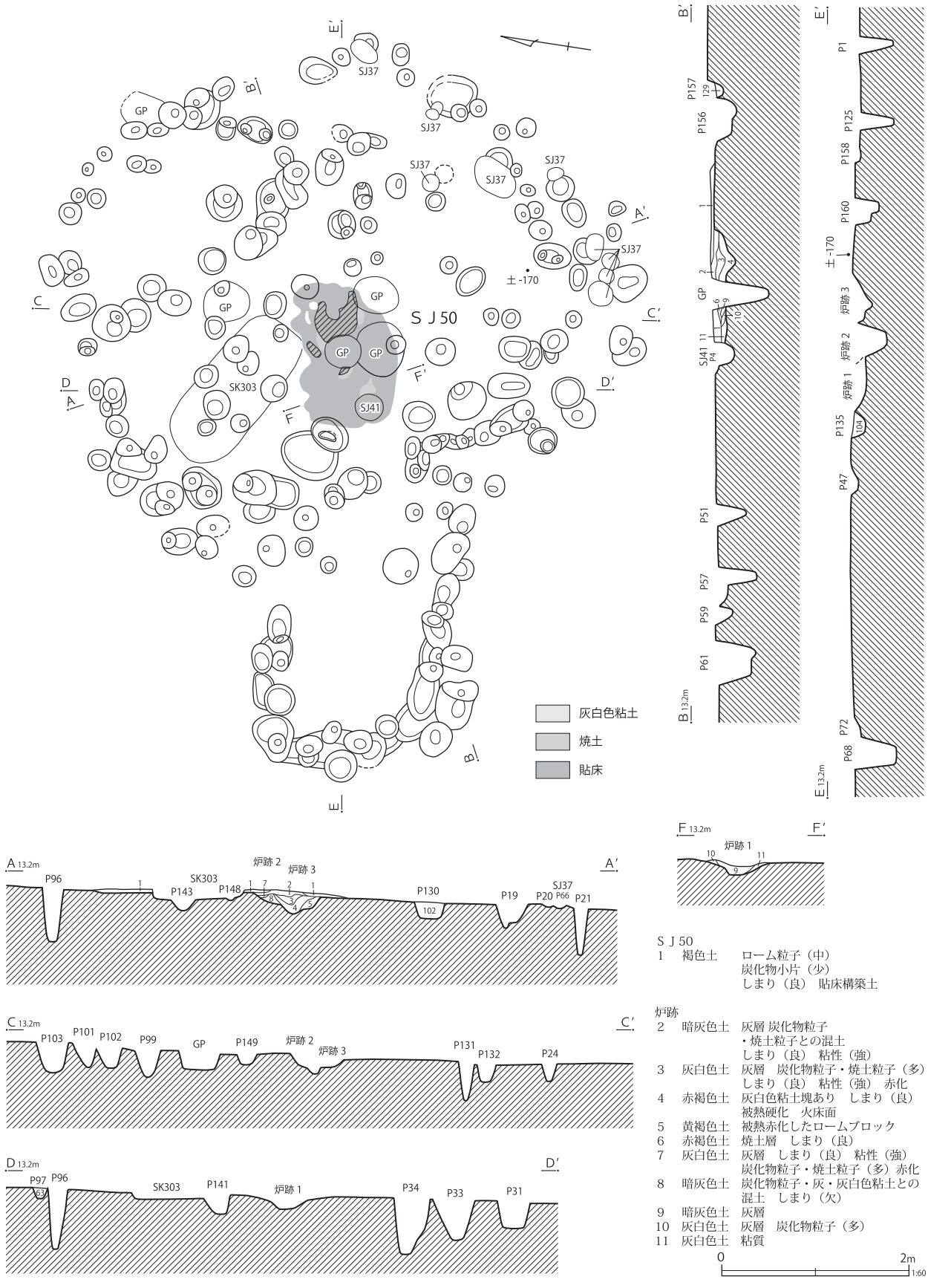


ＳＪ49　柱穴
3　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
4　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
5　暗褐色土　ロームブロック（少）
6　暗黄褐色土　ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土
7　暗褐色土　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
8　暗褐色土　褐色土ブロック（多）　しまり（欠）
9　黒褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
10　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
11　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
12　黄褐色土　ロームブロック含む　しまり（良）
13　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）
14　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
15　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
16　黄褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　骨片含む
17　黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
18　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
19　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む
20　黄褐色土　均質
21　暗褐色土　ローム粒子（中）
22　黄褐色土　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）　しまり（良）　埋土

第110図　第49号住居跡（３）



第111図　第48・49号住居跡遺物出土状況

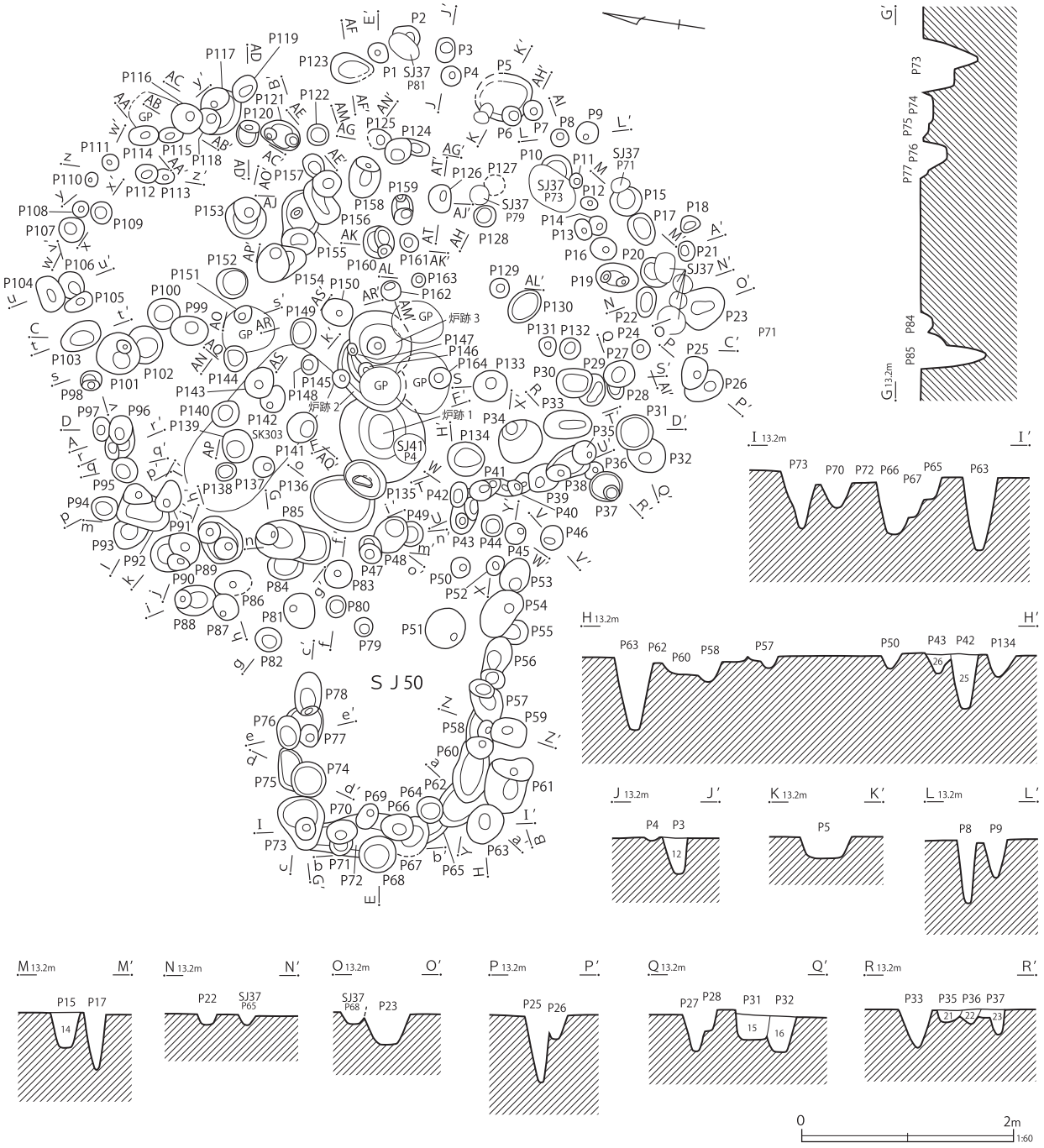


SＪ50
1　褐色土　ローム粒子（中）
　　炭化物小片（少）
　　しまり（良）　貼床構築土

炉跡
2　暗灰色土　灰層 炭化物粒子
　　・焼土粒子との混土
　　しまり（良）　粘性（強）
3　灰白色土　灰層　炭化物粒子・焼土粒子（多）
　　しまり（良）　粘性（強）　赤化
4　赤褐色土　灰白色粘土塊あり　しまり（良）
　　被熱硬化　火床面
5　黄褐色土　被熱赤化したロームブロック
6　赤褐色土　焼土層　しまり（良）
7　灰白色土　灰層　しまり（良）　粘性（強）
　　炭化物粒子・焼土粒子（多）赤化
8　暗灰色土　炭化物粒子・灰・灰白色粘土との
　　混土　しまり（欠）
9　暗灰色土　灰層
10　灰白色土　灰層　炭化物粒子（多）
11　灰白色土　粘質

0　2m
1:60

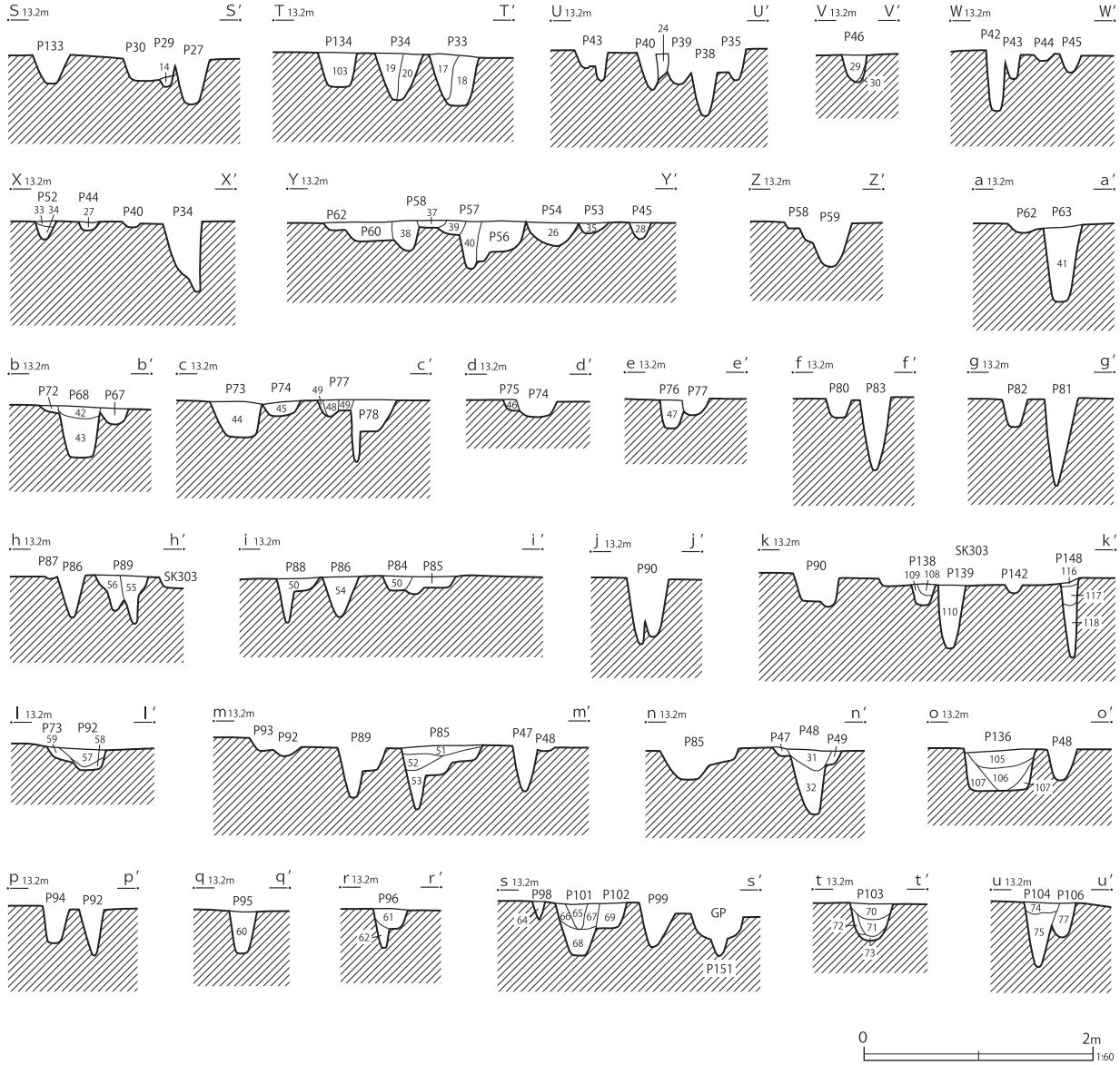
第112図　第50号住居跡（１）



ＳＪ50　柱穴

12　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）
13　暗褐色土　ロームブロック（中）
14　暗褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子・焼土粒子（極少）　粘性（中）
15　灰褐色土　ロームブロック（多）　しまり（欠）
16　灰褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）
17　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）　埋土
18　暗褐色土　ロームブロック（大）含む　しまり（良）
19　暗褐色土　炭化物粒子（径５㎜程度）（微）　焼土粒子（少）
　　しまり（良）　柱痕
20　茶褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（径５㎜）（微）
　　しまり（良）　柱抜去痕
21　暗褐色土　ローム粒子（中）　しまり（良）
22　暗褐色土　ローム粒子（少）　均質
23　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子含む
24　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
25　灰褐色土　ローム粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
26　灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）
27　褐色土　ローム粒子（多）　しまり（良）　埋土
28　灰褐色土　ローム主体　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
29　灰褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
30　黄褐色土　ローム主体　炭化物粒子（微）　しまり（良）
31　灰褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（良）
32　暗褐色土　炭化物（中）　しまり（欠）
33　褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　埋土
34　暗褐色土　しまり（欠）　埋土
35　茶褐色土　ローム粒子（少）　焼土粒子（微）　しまり（良）
36　灰褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）
39　茶褐色土　ローム粒子（少）　均質なローム主体土　しまり（良）
40　茶褐色土　ローム粒子（少）　ロームブロック（極多）　しまり（良）
41　茶褐色土　ローム粒子（極多）　炭化物（微）　しまり（良）　埋土
42　黄褐色土　ローム小ブロック（少）　埋土
43　黄褐色土　ローム粒子（少）　埋土

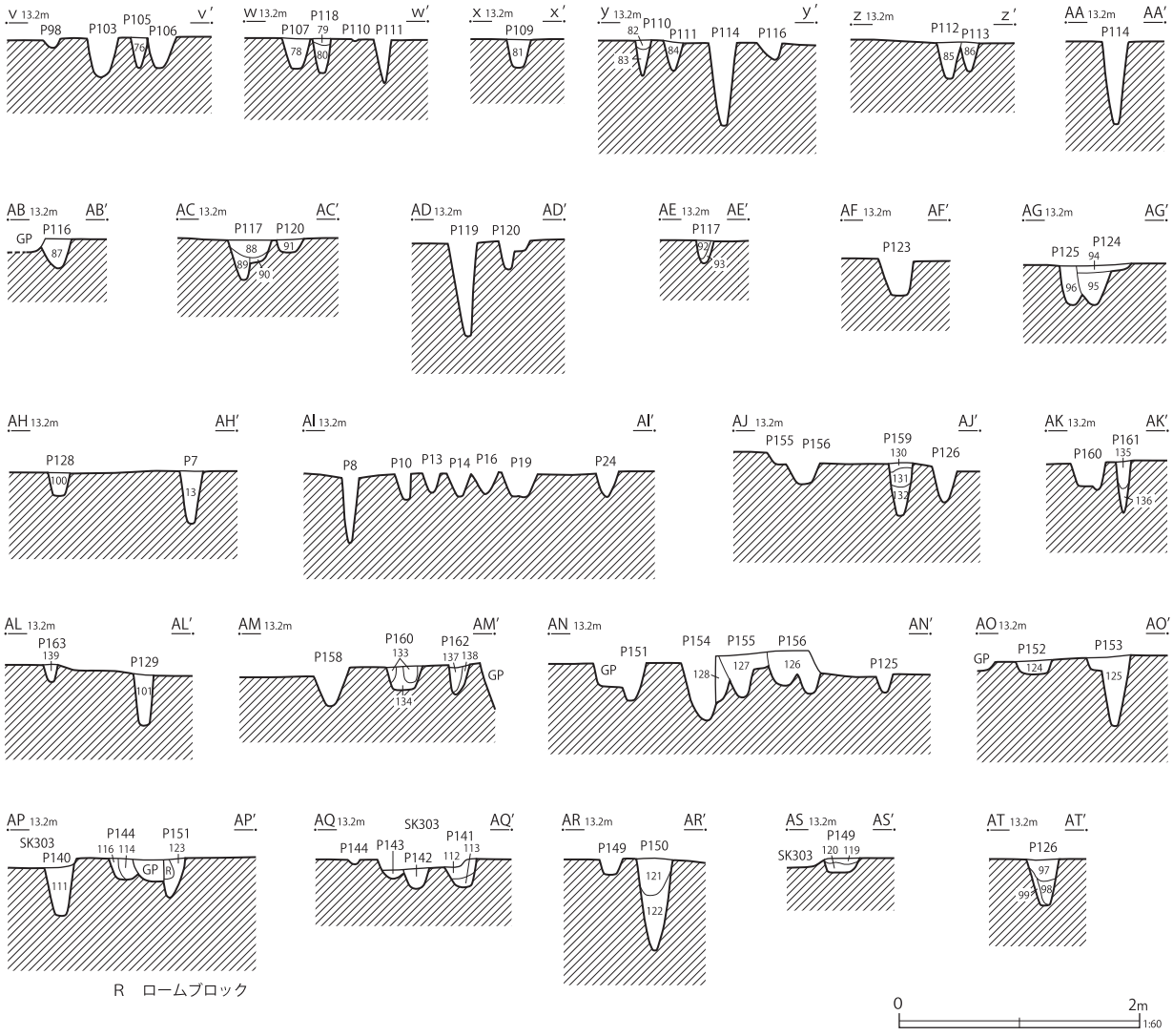
第113図　第50号住居跡（２）



ＳＪ50

44 灰褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（中）
45 黄褐色土　ローム主体　しまり（良）　埋土
46 茶褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）
47 茶褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（多）　しまり（良）
48 黄褐色土　ローム粒子（多）
49 灰褐色土　ローム粒子（多）　埋土
50 黄褐色土　ロームブロック（多）　埋土
51 黒褐色土　ロームブロック含む　炭化物（径10㎜）（少）　しまり（良）
52 茶褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（欠）
53 暗黄褐色土　ローム粒子・炭化物小片（微）　しまり（良）
54 黄褐色土　ロームブロック（多）　埋土
55 暗褐色土　炭化物粒子（少）　しまり（良）
56 暗褐色土　ロームブロック（多）
57 暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）
58 暗褐色土　ローム粒子（多）
59 暗褐色土　ロームブロック・焼土粒子含む
60 暗褐色土　炭化物等含まない均質土　しまり（中）
61 茶褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（良）
62 暗褐色土　炭化物等含まない均質土　しまり（欠）
63 褐色土　ローム粒子（径２～８㎜）（多）　炭化物粒子（径２～８㎜）（中）　骨小片含む　しまり（良）
64 灰褐色土　ロームブロック下層に含む　骨小片・焼土粒子（微）　しまり（良）
65 黄褐色土　ロームブロック主体　炭化物粒子（微）　しまり（良）
66 灰黄褐色土　ロームブロック主体　炭化物粒子（微）　しまり（良）
67 暗褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）しまり（良）
68 黒褐色土　炭化物粒子（微）　しまり（欠）
69 黄褐色土　ローム粒子（少）　ロームブロック（多）　しまり（欠）
70 灰褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子・骨小片（少）　しまり（良）
71 灰褐色土　ローム粒子（多）　しまり（欠）
72 灰褐色土　ローム粒子（多）　しまり（良）
73 黄褐色土　ローム主体
74 灰褐色土　ローム粒子・炭化物粒子との混土
75 黄褐色土　ロームブロック下層に含む
76 灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（良）　粘性（弱）
77 黄褐色土　しまり（良）
78 褐色土　ローム粒子（多）　骨小片（少）　しまり（良）　埋土
79 灰褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
80 褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
81 黄褐色土　ローム主体　しまり（良）
82 灰褐色土　炭化物粒子（少）　しまり（良）
83 暗褐色土　ローム粒子含む　しまり（良）
84 灰褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）　しまり（良）
85 灰褐色土　焼土粒子・炭化物粒子（微）　しまり（良）　埋土
86 灰褐色土　ローム粒子（多）　しまり（良）　埋土
87 茶褐色土　炭化物粒子（中）　ローム粒子（少）
88 灰褐色土　焼土粒子（微）　ローム粒子（中）　しまり（良）　埋土
89 灰褐色土　ロームブロック（多）　しまり（良）　埋土
90 黄褐色土　ロームとの混土　しまり（欠）　埋土
91 灰褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）
92 黄褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）
93 褐色土　ローム主体にロームブロック含む　埋土

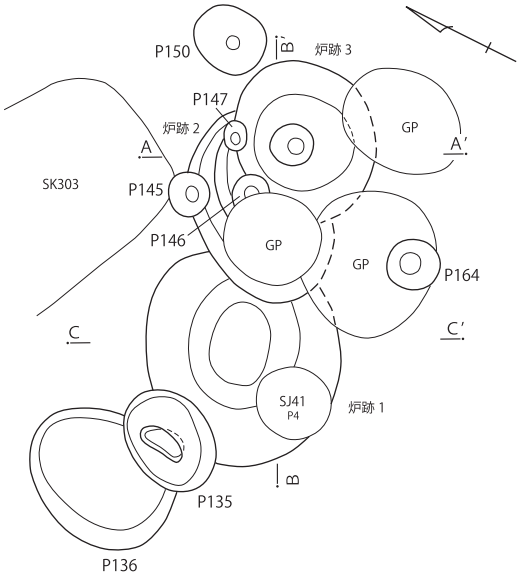
第114図　第50号住居跡（３）

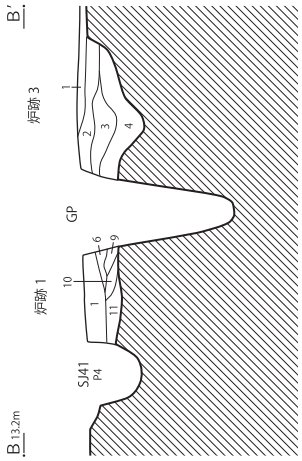


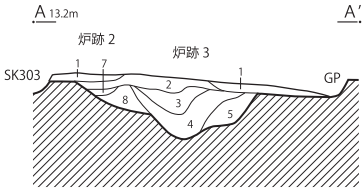
ＳＪ50

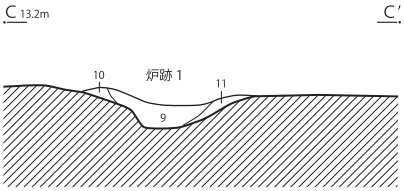
94　暗褐色土　ローム・炭化物粒子（少）　しまり（良）
95　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック斑状に含む　しまり（欠）
96　暗褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
97　灰褐色土　ローム粒子（多）　骨小片（微）　しまり（良）　埋土
98　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物（小）（少）　しまり（欠）
99　灰褐色土　炭化物粒子（少）　ロームとの混土　しまり（良）　埋土
100　灰褐色土　炭化物粒子（微）　しまり（欠）
101　茶褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（良）
102　灰褐色土　ローム粒子含む　下層にロームブロック（大）（多）　しまり（良）
103　灰褐色土　ロームブロック（多）　炭化物（少）　しまり（良）　埋土
104　黒褐色土　焼土粒子（中）　灰白色粘土（少）　しまり（良）　埋土
105　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子（少）　炭化物粒子（径５～８㎜）（多）　骨片（微）　しまり（良）
106　暗褐色土　ロームブロック・焼土粒子（少）　炭化物粒子（径５～８㎜）（多）　しまり（欠）
107　褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　しまり（欠）
108　暗褐色土　ロームとの混土　炭化物粒子（少）　しまり（欠）　埋土
109　灰褐色土　ローム主体　炭化物粒子（微）　しまり（良）　埋土
110　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（多）　しまり（欠）　埋土
111　褐色土　ローム粒子（径 10 ～ 15 ㎜）（少）　しまり（欠）　埋土
112　黒褐色土　ローム粒子（中）　炭化物（小）（少）　しまり（欠）　埋土
113　黄褐色土　ローム（多）　炭化物（小）（少）　しまり（欠）　埋土
114　暗褐色土　炭化物粒子・ローム粒子（少）　しまり（良）
115　暗褐色土　ロームブロック（多）
116　灰褐色土　ローム粒子・焼土粒子（少）　炭化物粒子（小）（微）　しまり（良）
117　暗褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　しまり（欠）　埋土
118　暗褐色土　ローム粒子（少）
119　灰褐色土　炭化物粒子（少）　骨小片（多）　しまり（欠）　埋土
120　黄褐色土　ローム主体　焼土粒子（微）　しまり（良）　埋土
121　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）　骨小片（微）　しまり（良）　埋土
122　暗褐色土　ローム粒子・炭化物小片（少）　しまり（欠）　埋土
123　暗褐色土　ローム粒子（径２～８㎜）（中）　炭化物粒子（少）　骨小片（微）　しまり（良）
124　灰褐色土　ローム粒子（多）　焼土粒子（微）　しまり（良）　埋土
125　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（欠）　埋土
126　灰褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）　下層にロームブロック（大）含む　しまり（欠）　埋土
127　灰褐色土　ローム粒子（少）
128　黄褐色土　ロームブロック（多）
129　灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　しまり（良）　埋土
130　黒褐色土　灰白色粘土粒子（多）　しまり（堅致）　埋土
131　暗褐色土　ローム粒子（径５～ 10 ㎜）（多）　炭化物（小）（中）　焼土粒子（微）　しまり（欠）　埋土
132　灰褐色土　ロームブロック（大）（少）　しまり（欠）
133　灰褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（微）　ローム斑状に含む　しまり（良）　埋土
134　黄褐色土　炭化物小片・焼土粒子（微）　しまり（良）　埋土
135　灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック（多）　炭化物（微）　埋土
136　暗褐色土　炭化物（小）（中）　しまり（欠）　埋土
137　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（欠）　柱抜去痕
138　黄褐色土　ロームとの混土　しまり（欠）　埋土
139　黒褐色土　炭化物粒子・ローム粒子（少）　しまり（良）　埋土

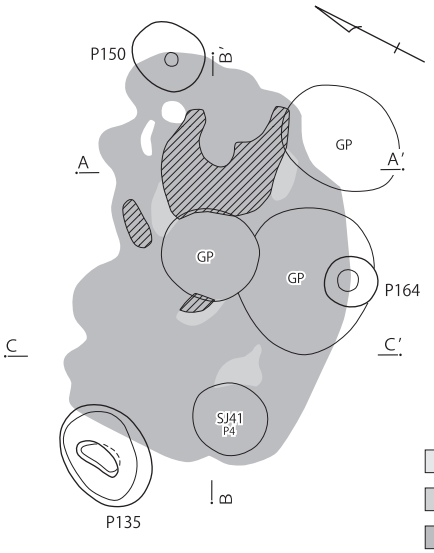
第115図　第50号住居跡（４）







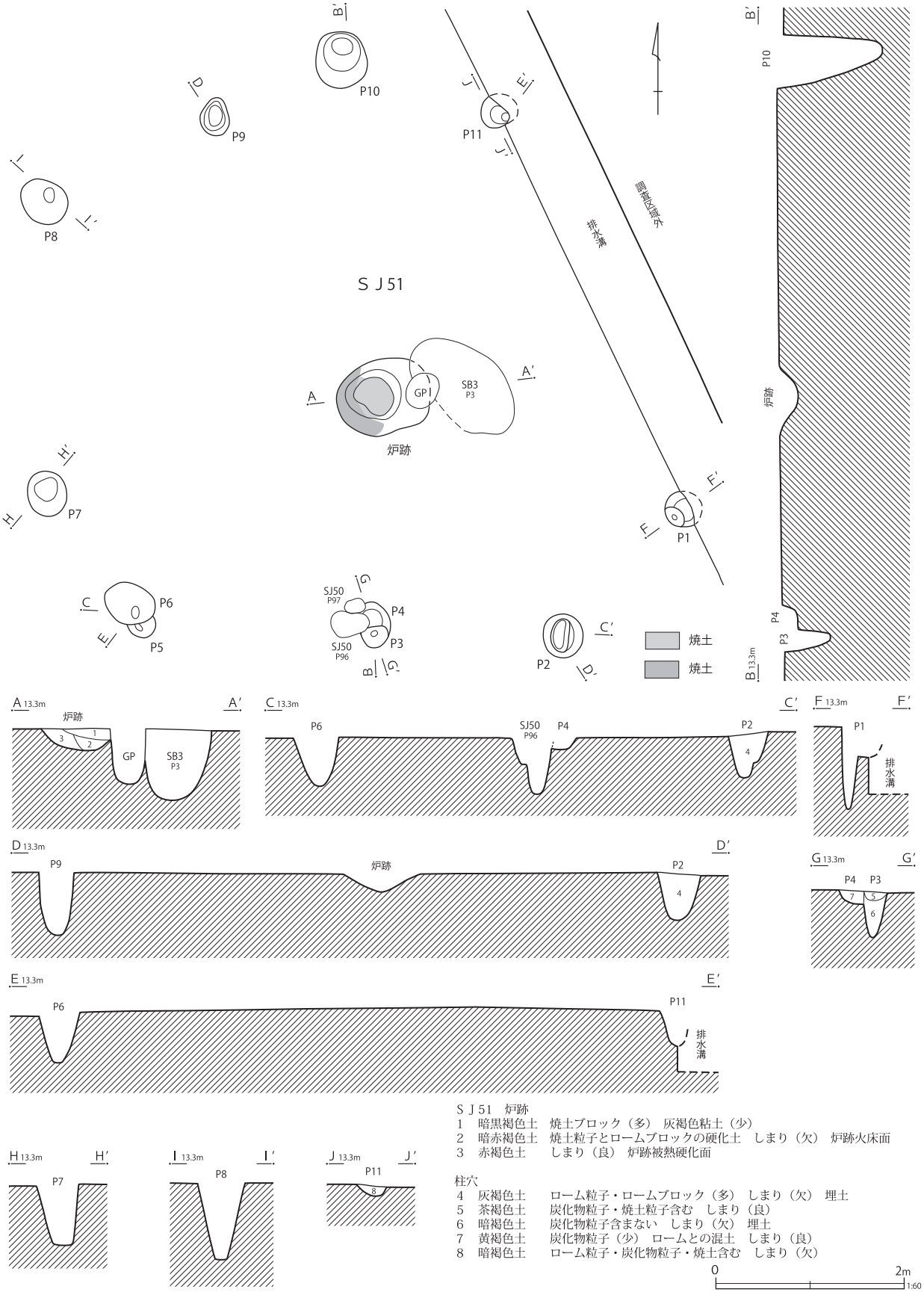




ＳＪ50
1　褐色土　ローム粒子（中）　炭化物小片（少）
　　しまり（良）　貼床構築土

炉跡
2　暗灰色土　灰層　炭化物粒子・焼土粒子との混土
　　しまり（良）　粘性（強）
3　灰白色土　灰層　炭化物粒子・焼土粒子（多）
　　しまり（良）　粘性（強）　赤化
4　赤褐色土　灰白色粘土塊あり　しまり（良）　被熱硬化　火床面
5　黄褐色土　被熱赤化したロームブロック
6　赤褐色土　焼土層　しまり（良）
7　灰白色土　灰層　しまり（良）　粘性（強）
　　炭化物粒子・焼土粒子（多）　赤化
8　暗灰色土　炭化物粒子・灰・灰白色粘土との混土　しまり（欠）
9　暗灰色土　灰層
10　灰白色土　灰層　炭化物粒子（多）
11　灰白色土　粘質

第116図　第50号住居跡（５）

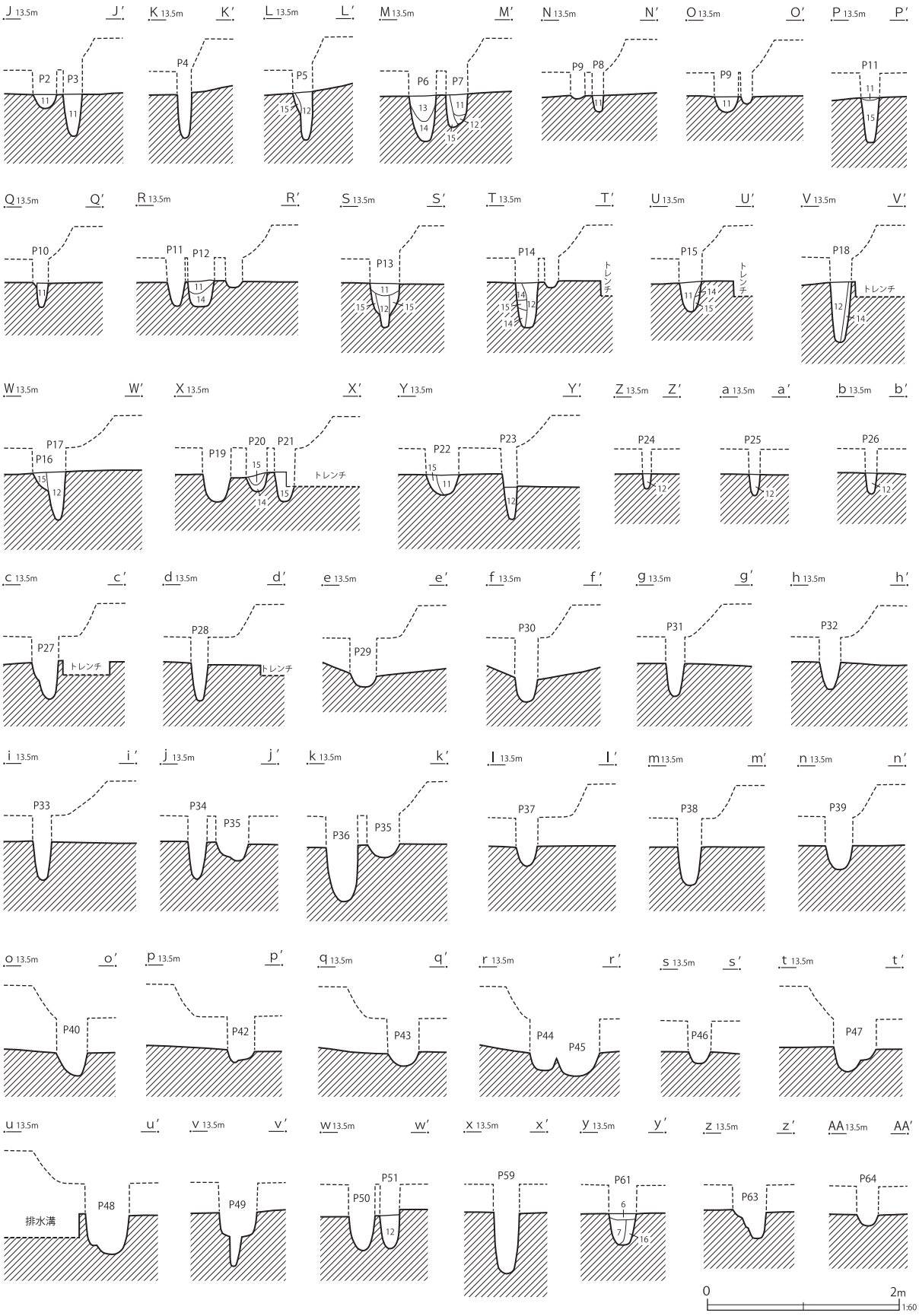


第117図　第51号住居跡

Ⅰ-6	黒褐色土	粘質　褐色土小ブロック斑状に含む 灰色粘土小ブロック帯状層　炭化物含む　しまり（欠）	Ⅳ-12	暗褐色土	粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅱ-1	茶褐色土	粘質　ローム質土ブロック主体	Ⅳ-13	暗褐色土	粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（良）
Ⅲ-2	黒色～黒褐色土	シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多） 焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）	Ⅴ-1	暗褐色土	シルト質　ローム小ブロック（微） 炭化物粒子・遺物（少）　しまり（中）
Ⅳ-2	暗褐色土	粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　炭化物・焼土粒子 含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）	Ⅴ-4	にぶい黄褐色土	ロームブロック（少）　焼土粒子（微）　粘性（弱） しまり（欠）
Ⅳ-10	黒褐色土	シルト質　黒褐色土主体　明褐色土ブロック含む 炭化物粒子（多）　遺物（中）　粘性（弱）　しまり（欠）	Ⅶ	黄褐色土	ハードローム（立川面）
			Ⅷ	暗黄褐色土	ブラックバンド
			Ⅸ	灰黄褐色土	ハードローム

第118図　第55号住居跡（１）

第119図　第55号住居跡（２）

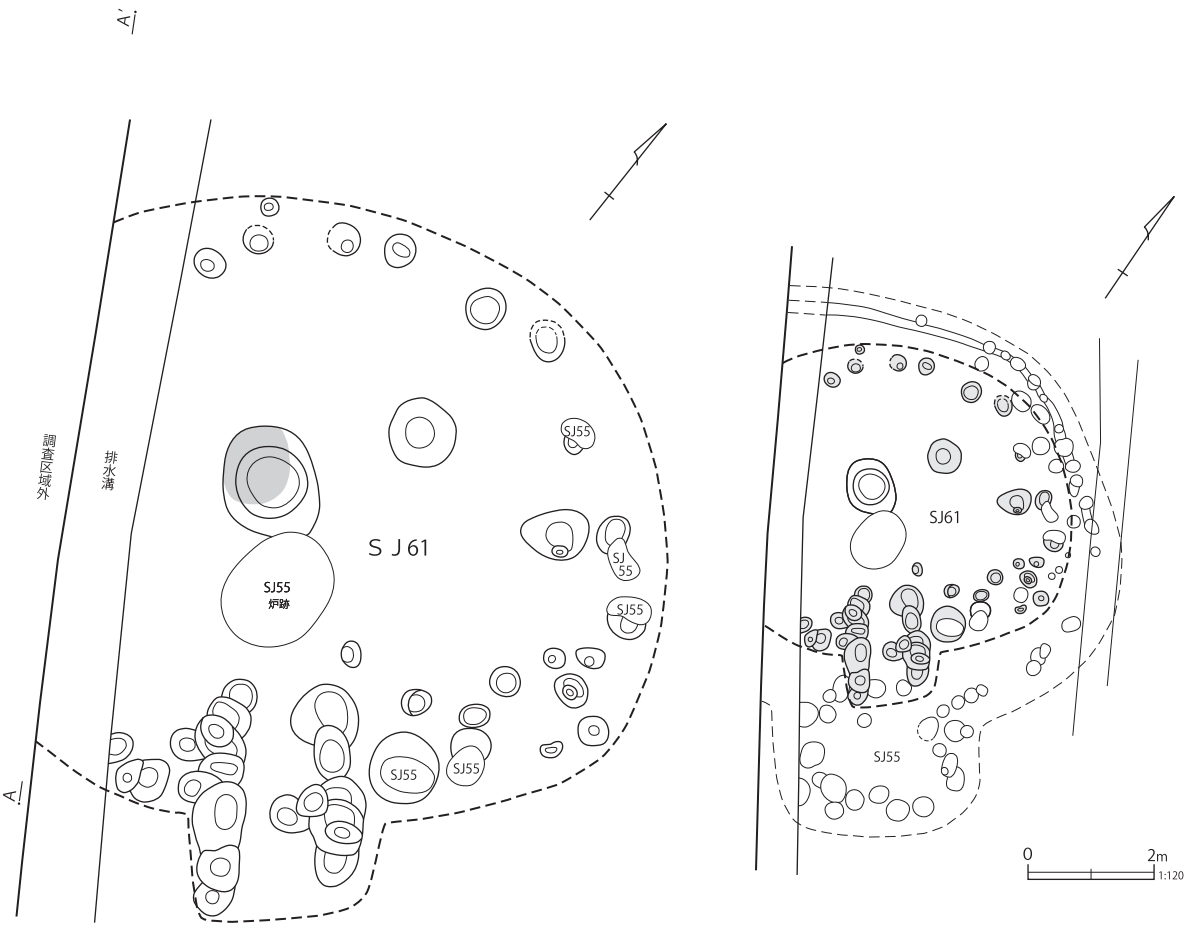


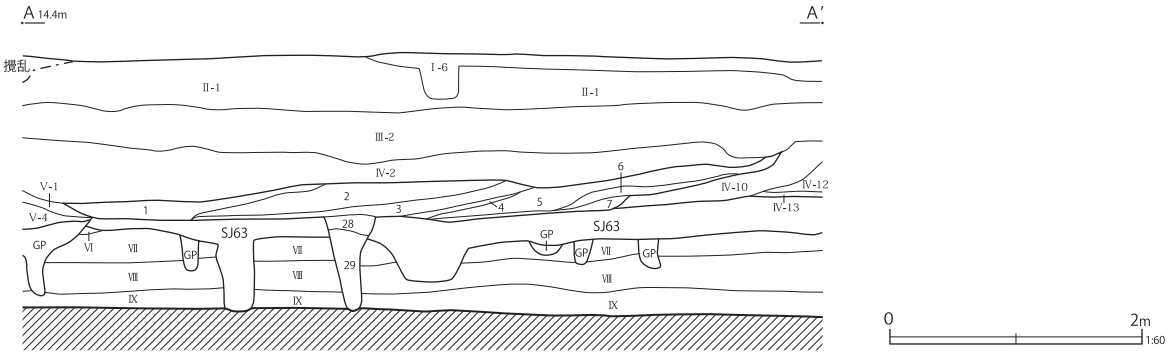
第120図　第55号住居跡（３）

ＳＪ55　炉跡
1　暗褐色土　炭化物粒子（多）　焼土粒子・粒子状の灰（少）
2　灰白色土　灰白色で粘性の強い灰層
3　赤褐色土　焼土層　最上面が火床面　下半部に炭化物粒子含む
4　暗褐色土　硬化面　貼床

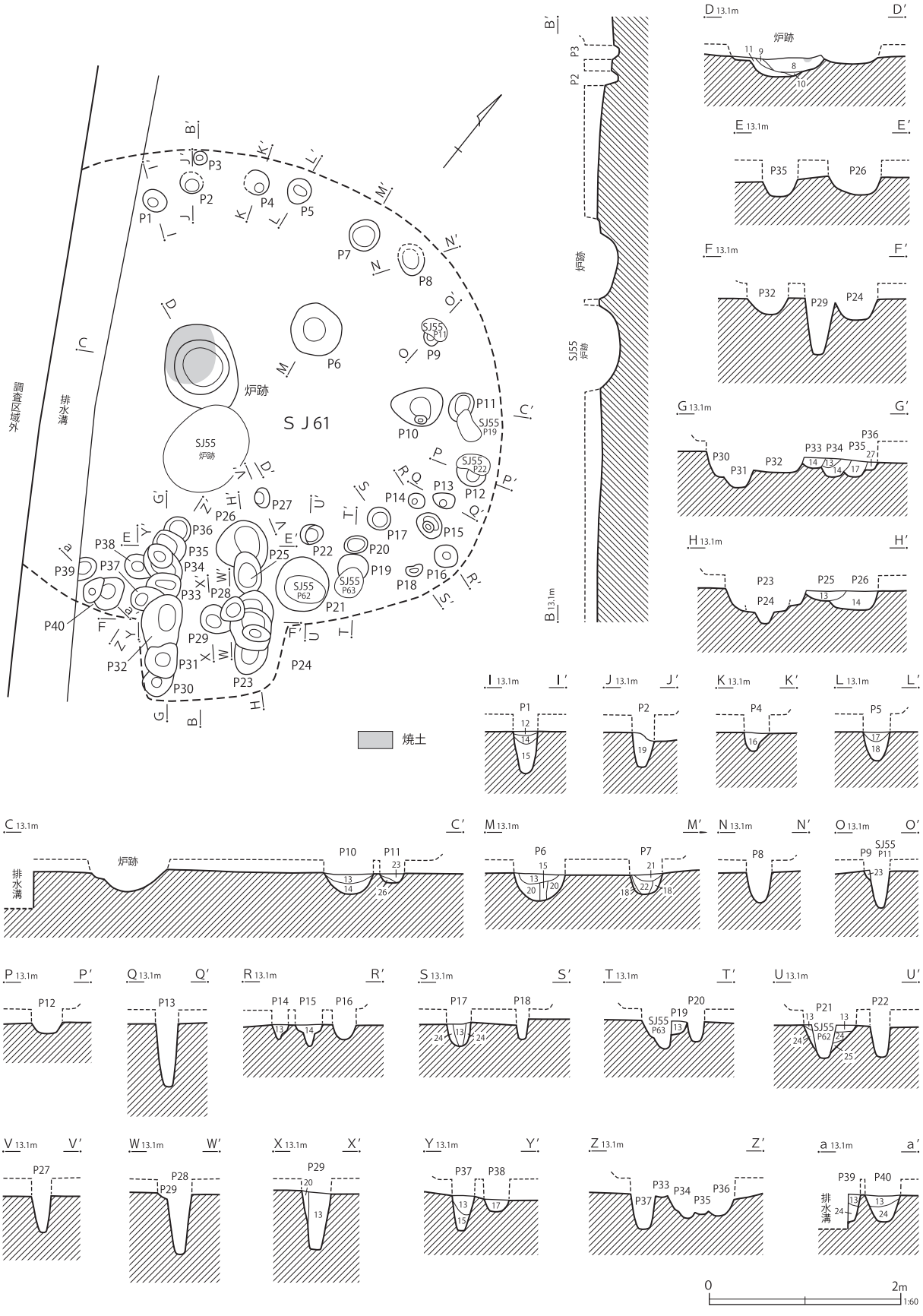
柱穴
5　暗褐色土　ロームブロック（径10㎜）（少）　粘性（強）　しまり（良）　埋土
6　暗褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　柱抜去痕
7　暗褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）　柱痕
8　暗褐色土　ロームブロック（中）　炭化物粒子（少）
9　暗褐色土　ロームブロック（径30㎜）含む　上面に炭化物有り
10　黄褐色土　ローム粒子（多）　粘性（強）　しまり（良）　埋土
11　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　柱抜去痕
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）　柱痕
13　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
14　暗黄褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　埋土
15　暗黄褐色土　ロームブロック（多）　掘り方
16　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）　掘り方

第121図　第55号住居跡（４）





第122図　第61号住居跡（１）

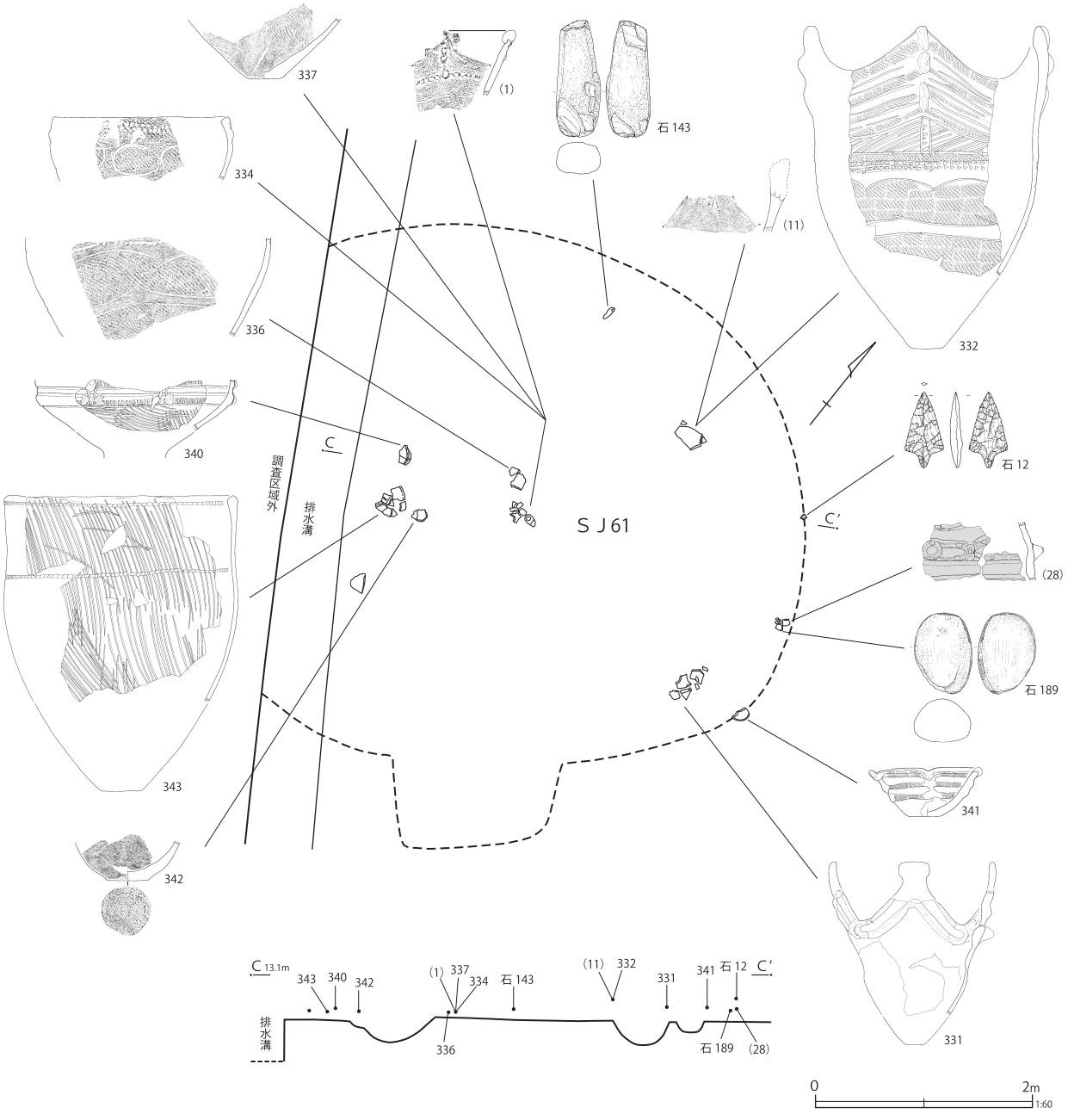


第123図　第61号住居跡（２）

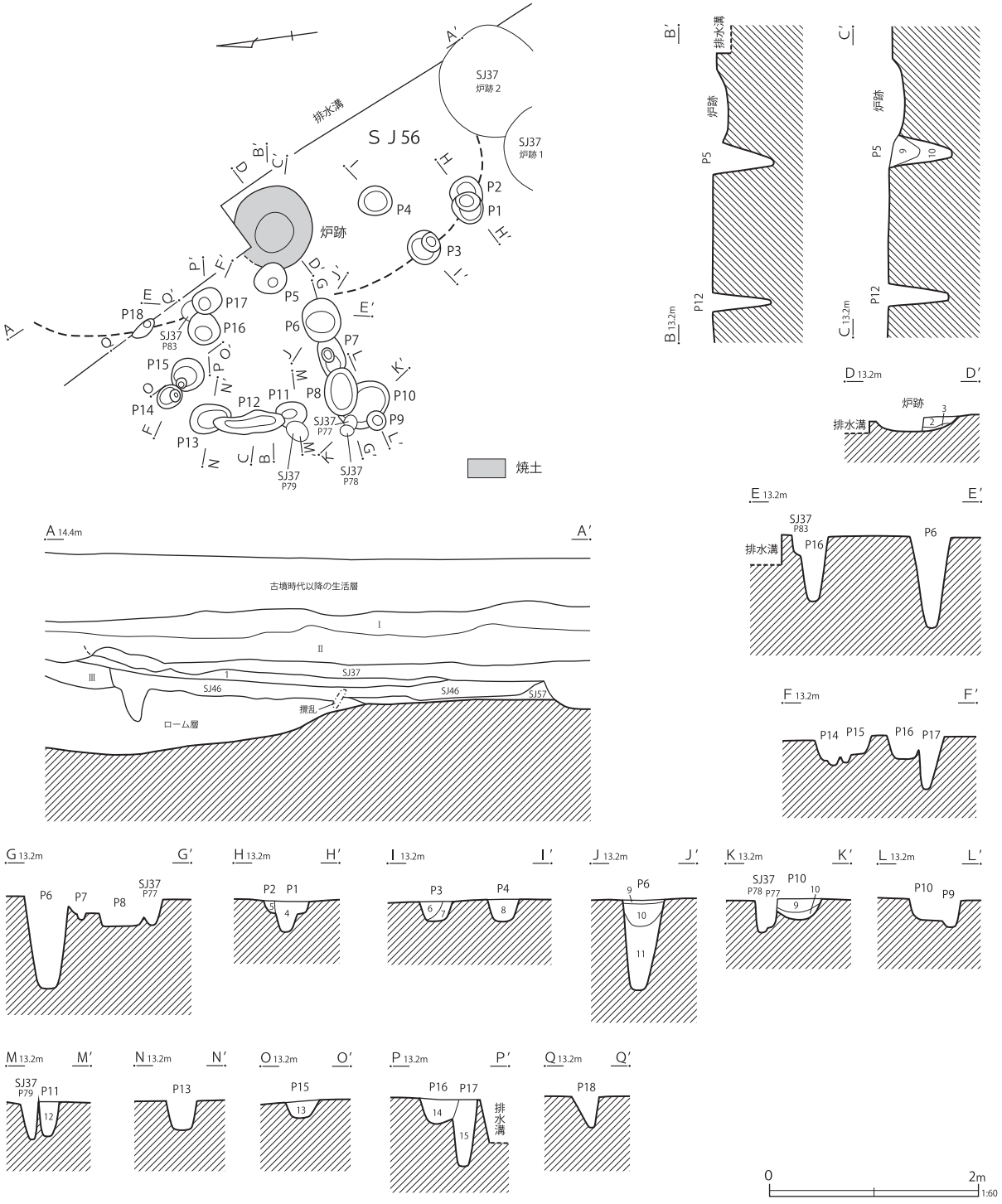
ＳＪ61
1　暗褐色土　暗褐色粘性土主体　炭化物粒子（多）　遺物（中）　しまり（欠）
2　褐色土　　褐色土主体　炭化物粒子・焼土粒子（微）　遺物（少）
3　暗褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　遺物（中）
4　褐色土　　２層類似
5　暗褐色土　１層類似
6　橙色土　　焼土（多）　炭化物粒子（微）　壁際堆積土
7　黒褐色土　粘質　炭化物・灰（多）　しまり（欠）　貼床

炉跡
8　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
9　灰白色土　灰白色で粘性の強い灰層
10　暗灰色土　灰層主体　炭化物粒子含む
11　赤褐色土　焼土層　最上面が火床面

柱穴
12　黒褐色土　粘質　ローム粒子・焼土粒子（中）　しまり（良）
13　暗褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　柱抜去痕
14　暗褐色土　ロームブロック（中）　炭化物粒子（少）
15　暗褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）　柱抜去痕
16　黒褐色土　ローム粒子（径10㎜）・炭化物（径10㎜）（中）
17　黒褐色土　炭化物粒子含む　焼土粒子（径5㎜）（中）
　　粘性（強）　しまり（良）　住居床面炭化物層と同一
18　暗黄褐色土　炭化物粒子（少）　粘性（強）　しまり（良）　埋土
19　黒褐色土　焼土粒子（多）　粘性（強）　しまり（欠）
20　暗黄褐色土　ロームブロック主体　しまり（欠）
21　暗褐色土　炭化物粒子・灰（多）　粘性（強）　しまり（良）
22　暗褐色土　炭化物（径10㎜）・骨片（少）　粘性（強）　しまり（欠）
23　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）
24　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）　掘り方
25　黒褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（多）　掘り方
26　暗黄褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）　掘り方
27　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　掘り方
28　にぶい黄褐色土　ロームブロック（多）　埋土
29　にぶい黄褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（中）



第124図　第61号住居跡（３）・遺物出土状況



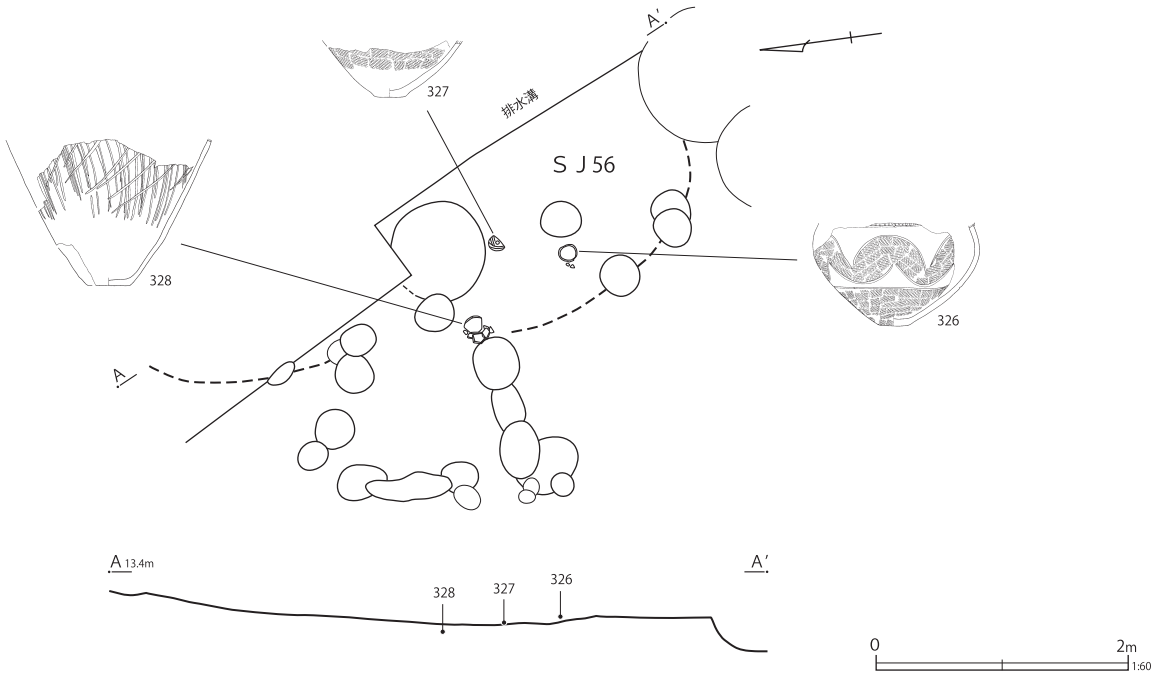
Ⅰ　黒褐色土　　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（多）
Ⅱ　褐色土　　褐色土主体　炭化物粒子・焼土粒子（微）　遺物（少）
Ⅲ　暗褐色土　　シルト質　炭化物粒子（少）　Ⅱ層より粘性（強）　遺物（少）

ＳＪ56
1　黒褐色土　　炭化物層

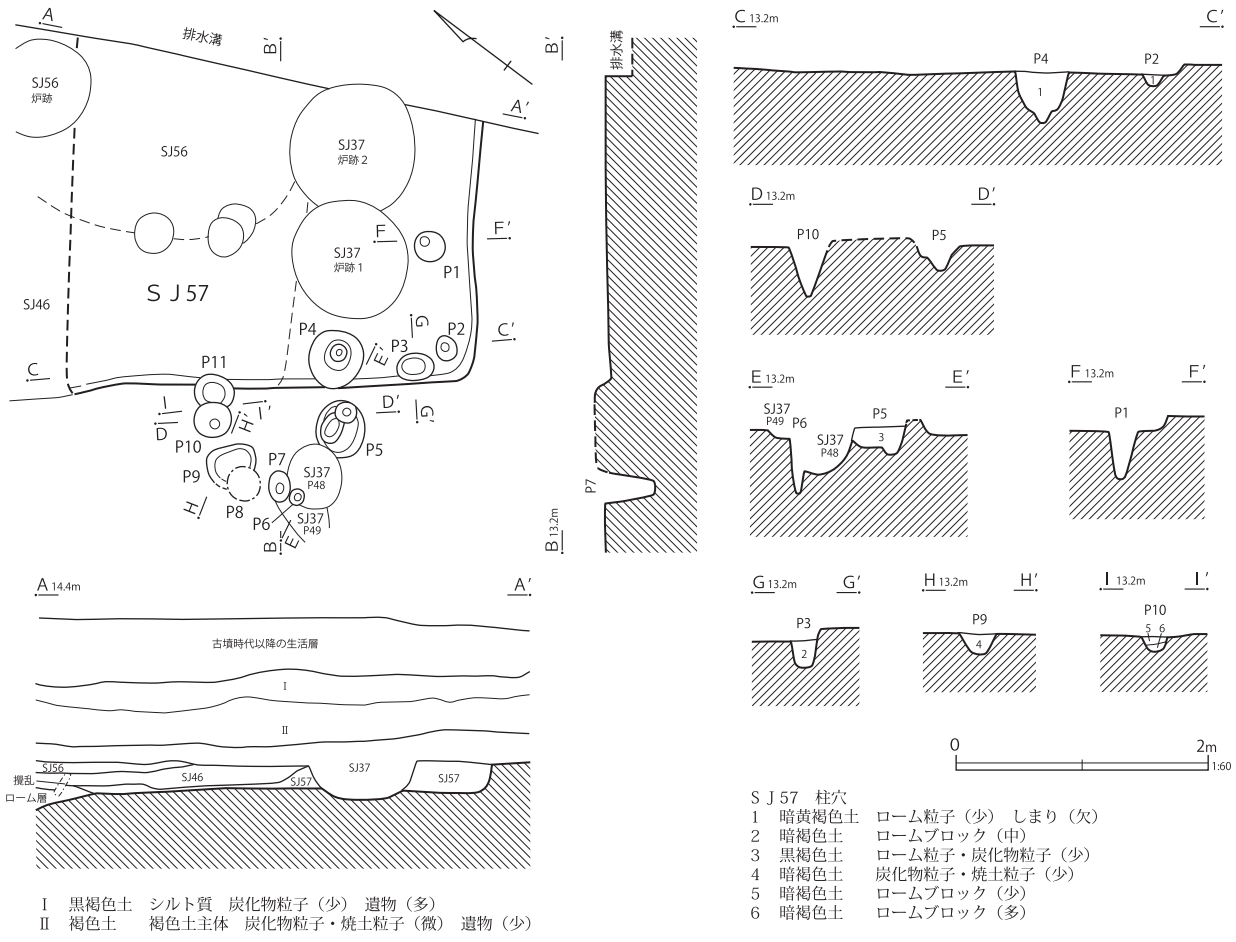
炉跡
2　黒色土　　焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子（微）
3　暗黄褐色土　灰層　灰白色の灰と暗黄褐色土との混土　火床面付近の焼土

柱穴
4　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
5　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
6　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
7　暗褐色土　　ロームブロック（多）
8　暗褐色土　　ロームブロック・炭化物粒子（少）
9　黒褐色土　　ローム粒子（中）　しまり（欠）
10　黄褐色土　　ロームブロック（径 20 ㎜）（少）　しまり（欠）
11　黄褐色土　　ローム粒子（多）　均質
13　暗褐色土　　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　焼土粒子含む
12　暗褐色土　　ロームブロック・炭化物粒子（少）
14　暗黄褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）
15　暗褐色土　　ロームブロック・炭化物粒子（少）

第125図　第56号住居跡



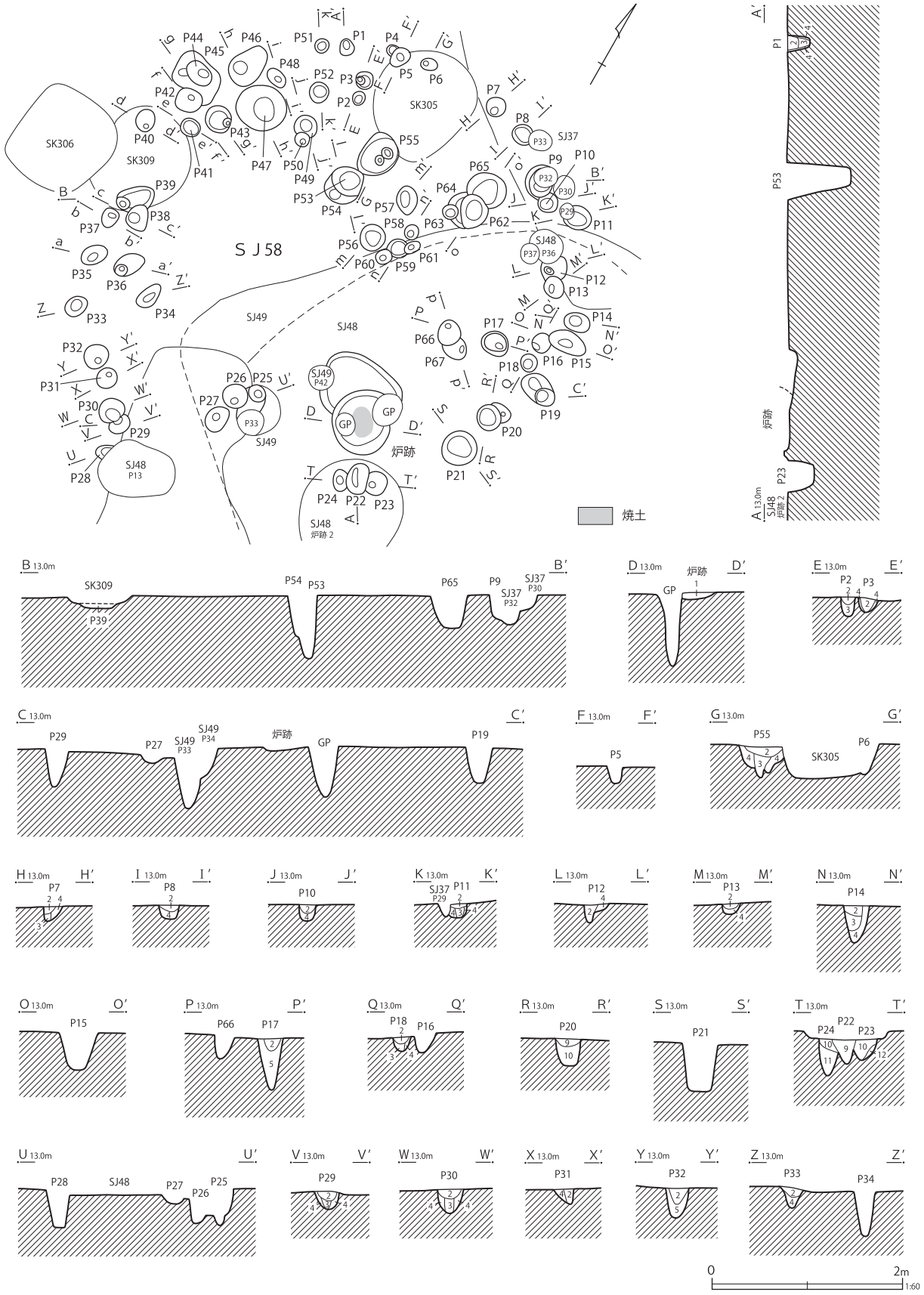
第126図　第56号住居跡遺物出土状況



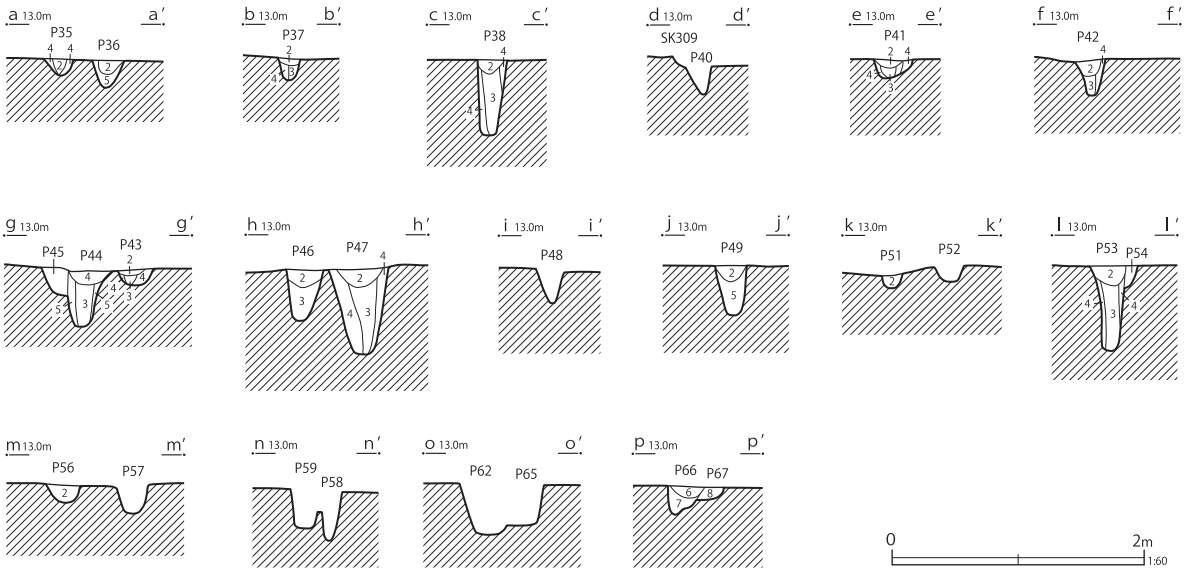
Ⅰ　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）　遺物（多）
Ⅱ　褐色土　　褐色土主体　炭化物粒子・焼土粒子（微）　遺物（少）

S J 57　柱穴
1　暗黄褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
2　暗褐色土　　ロームブロック（中）
3　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）
4　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子（少）
5　暗褐色土　　ロームブロック（少）
6　暗褐色土　　ロームブロック（多）

第127図　第57号住居跡



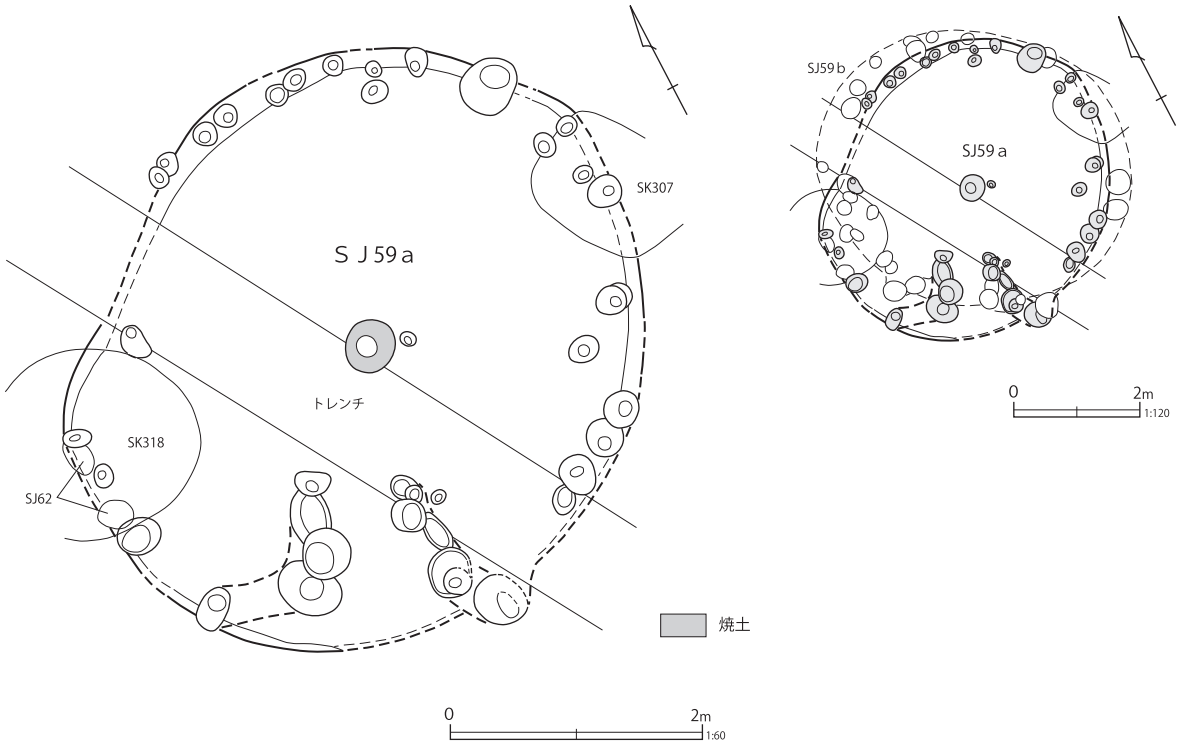
第128図　第58号住居跡（1）



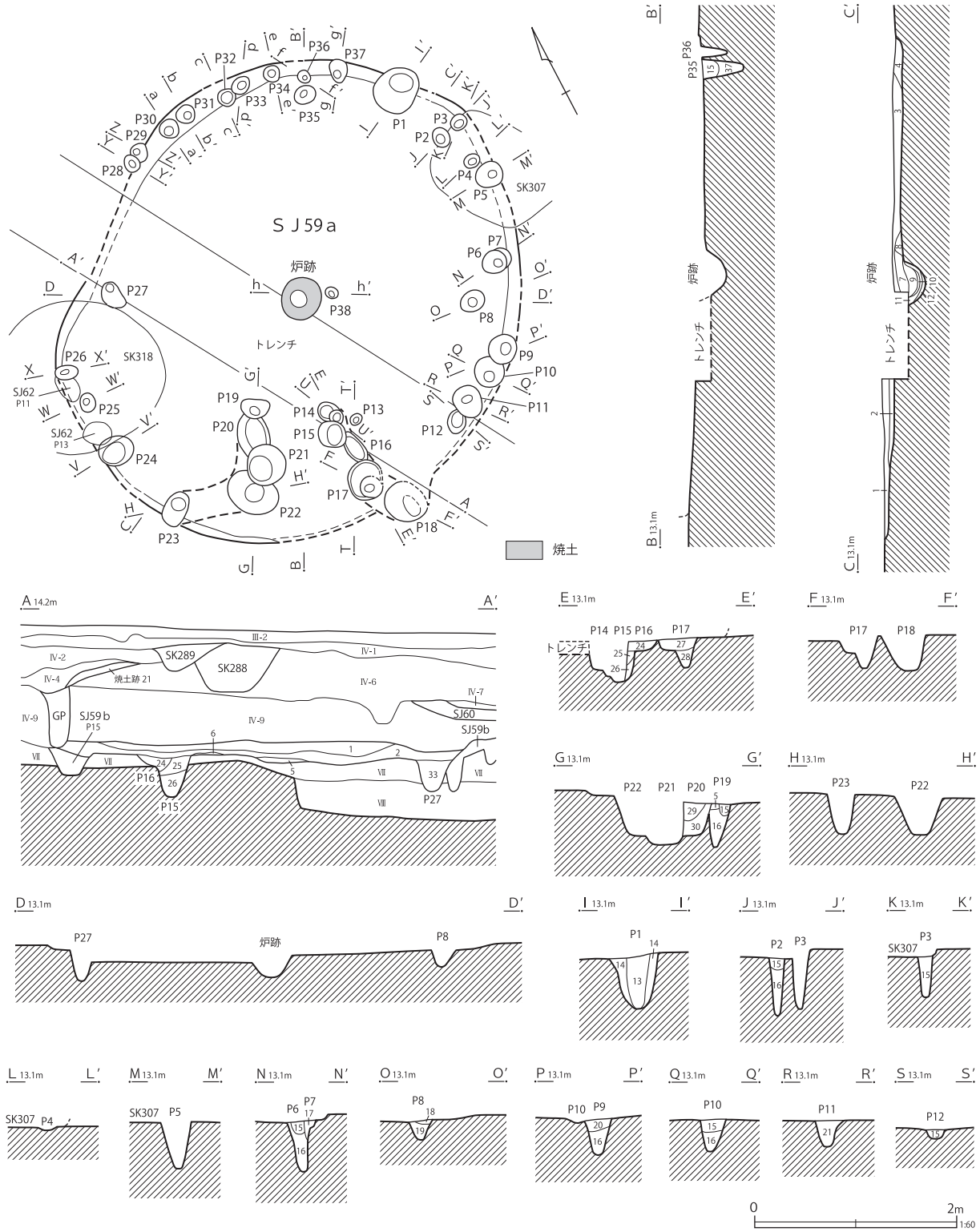
ＳＪ58　炉跡
1　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土ブロック（多）

柱穴
2　暗褐色土　炭化物粒子・暗褐色土ブロック（少）　しまり（良）
3　暗褐色土　砂質　ロームブロック（少）　しまり（欠）　柱抜去痕
4　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
6　暗褐色土　炭化物（少）　しまり（欠）
7　暗褐色土　褐色土ブロック（多）　しまり（欠）
8　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
9　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）
10　黒褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
11　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）　しまり（欠）
12　暗褐色土　ロームブロック（多）

第129図　第58号住居跡（２）



第130図　第59a号住居跡（１）



Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）　焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）

Ⅳ-1　暗褐色土　粘質　暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土　遺物（微）　しまり（良）

Ⅳ-2　暗褐色土　粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物粒子含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）

Ⅳ-4　褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム粒子・焼土粒子含む　骨片（少）　しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり

Ⅳ-6　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径 10 ㎜）（多）　焼土粒子（少）　骨片（少）　遺物（多）　しまり（中）

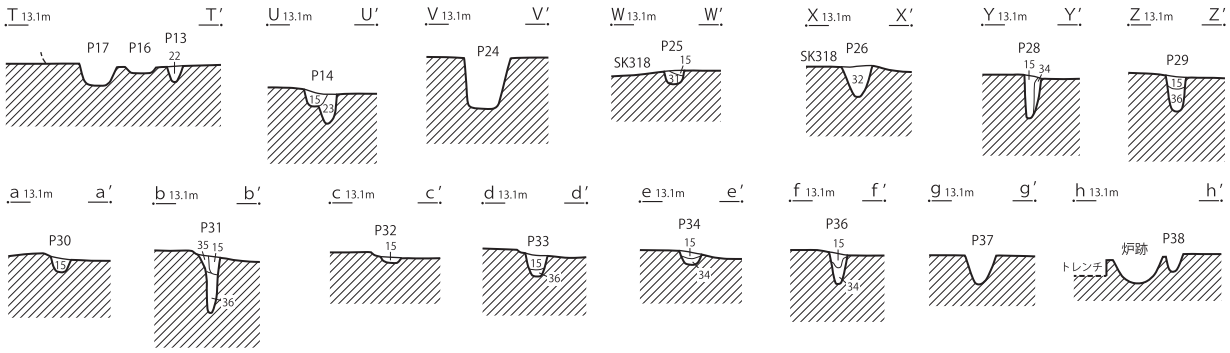
Ⅳ-7　黒褐色土　粘質　焼土粒子含む　骨片（微）　粘性（中）　しまり（中）　遺構覆土の可能性あり

Ⅳ-9　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土　炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（中）　しまり（良）

Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）

Ⅷ　暗黄褐色土　ブラックバンド

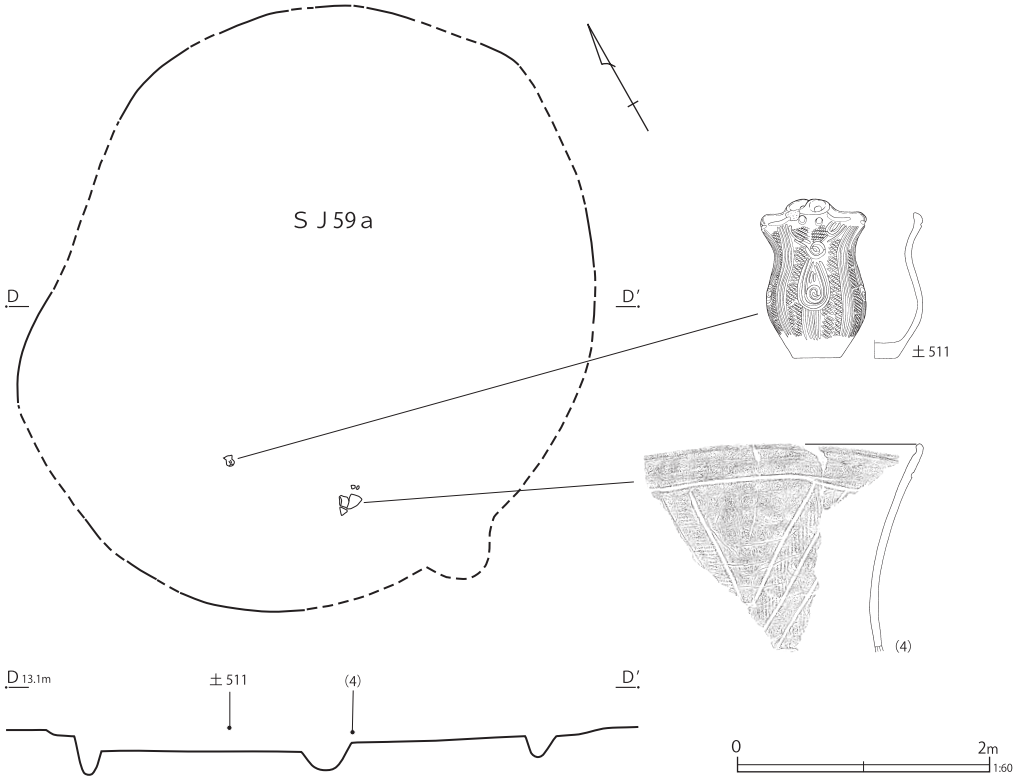
第131図　第59a号住居跡（２）



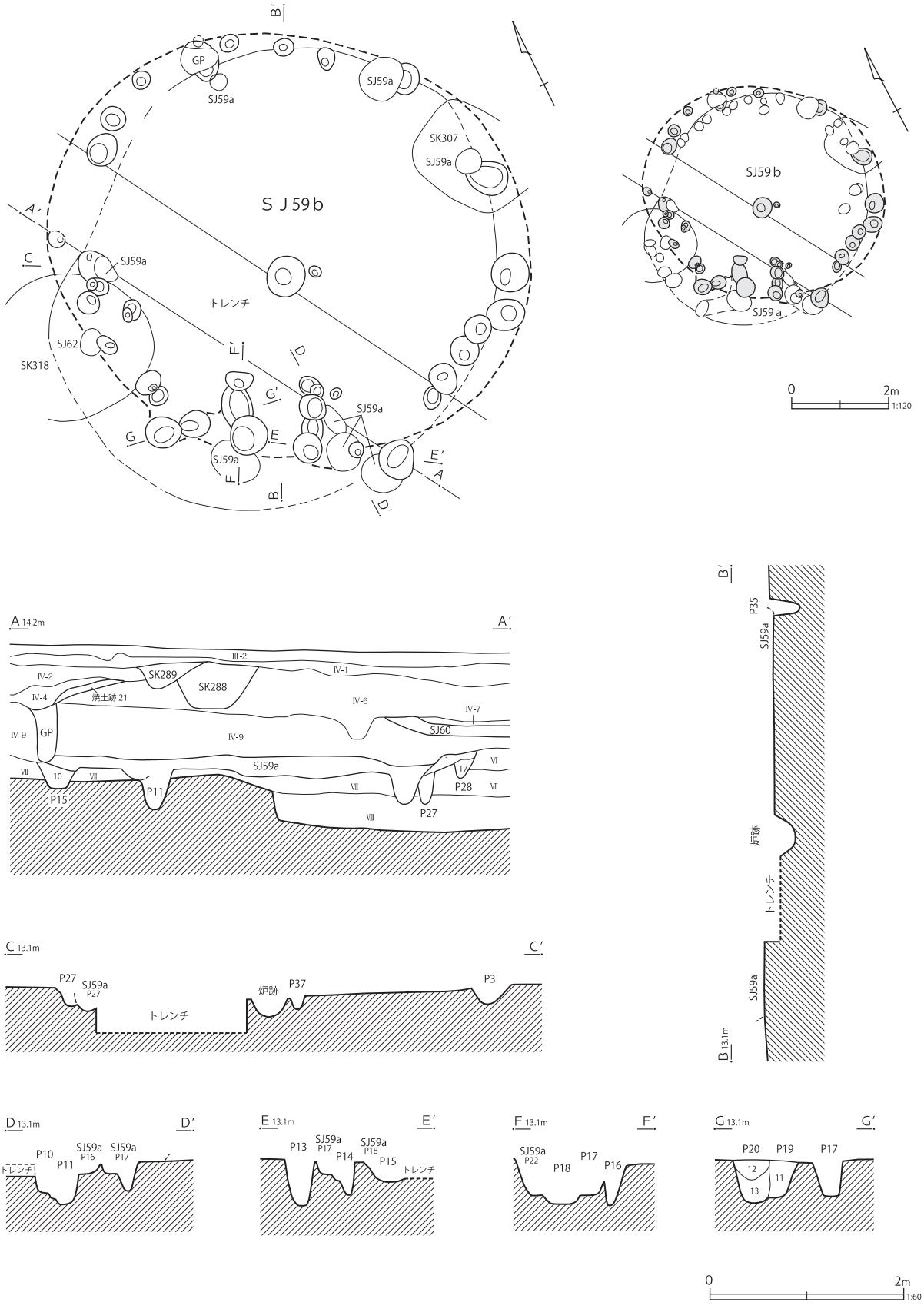
ＳＪ59ａ
1　暗褐色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）（多）
　炭化物粒子（径 10 ㎜）（少）　しまり（良）
2　暗褐色土　ロームブロック（径 5 ～ 20 ㎜）（多）　炭化物粒子
　・焼土粒子（径 5 ㎜）（少）　粘性（強）　しまり（中）
3　暗褐色土　粘質　炭化物 (径 10 ～ 20 ㎜) （多）
　焼土ブロック（径 10 ～ 20 ㎜）（中）　しまり（良）　貼床
4　暗灰黄色土　シルト質　ローム粒子（多）　粘性（強）　しまり（欠）　貼床
5　黄褐色土　粘質　暗褐色土主体　ロームブロック（多）
　炭化物粒子（少）　焼土（極少）　しまり（良）
6　暗褐色土　粘質　暗褐色土・ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）との混土
　しまり（良）　貼床
7　暗褐色土　粘質　炭化物（径 10 ㎜）・焼土粒子（径 10 ㎜）（中）
　しまり（欠）
8　暗灰黄色土　粘質　ローム粒子（中）　しまり（良）

炉跡
9　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（極多）　焼土ブロック（径 20 ㎜）（微）
　しまり（欠）
10　黒褐色土　炭化物を含む灰層
11　赤褐色土　焼土ブロック主体　火床面
12　黒褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（少）　掘り方

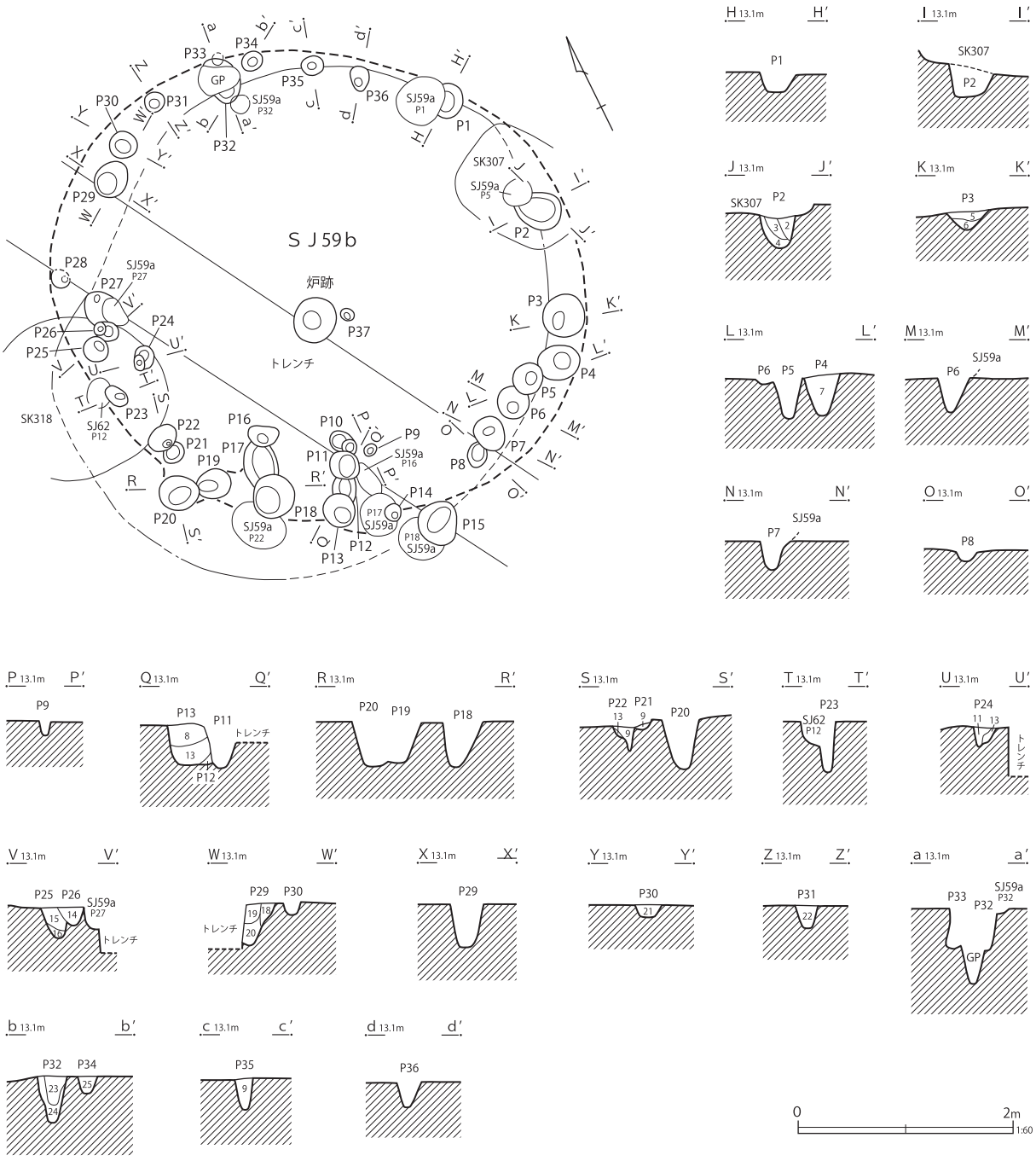
柱穴
13　暗灰黄色土　しまり（欠）　柱痕
14　暗灰黄色土　ローム粒子（多）　しまり（欠）
15　暗褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
16　暗褐色土　しまり（欠）　柱痕
17　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ㎜）（少）
18　黒褐色土　炭化物層
19　暗灰黄色土　粘質　ロームブロック（径 30 ㎜）（微）　しまり（欠）
20　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ㎜）（少）
21　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ㎜）（少）
22　暗褐色土　粘質　ローム粒子（径 10 ㎜）（多）
　炭化物ブロック（径 20 ㎜）（少）　しまり（欠）
23　黄褐色土　粘質　ローム粒子（多）　しまり（欠）
24　黒褐色土　粘質　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）
　炭化物粒子（少）　しまり（良）
25　黒褐色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）・炭化物粒子（少）
　しまり（良）
26　暗灰黄色土　粘質　ローム粒子（少）　しまり（欠）
27　暗褐色土　粘質　ロームブロック（径 10 ～ 20 ㎜）（少）　しまり（欠）
28　暗灰黄色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　しまり（欠）
29　暗褐色土　粘質　ローム粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（良）
30　暗褐色土　29 層類似　ロームブロック（径 10 ～ 20 ㎜）（少）
31　黄褐色土　ローム粒子主体　しまり（欠）
32　暗褐色土　ローム粒子（微）　しまり（欠）
33　暗褐色土　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　しまり（欠）
34　暗灰黄色土　粘質　ローム粒子（少）　しまり（欠）
35　暗褐色土　焼土粒子（中）　しまり（中）
36　暗褐色土　しまり（欠）　埋土
37　暗灰黄色土　埋土



第132図　第59a号住居跡（３）



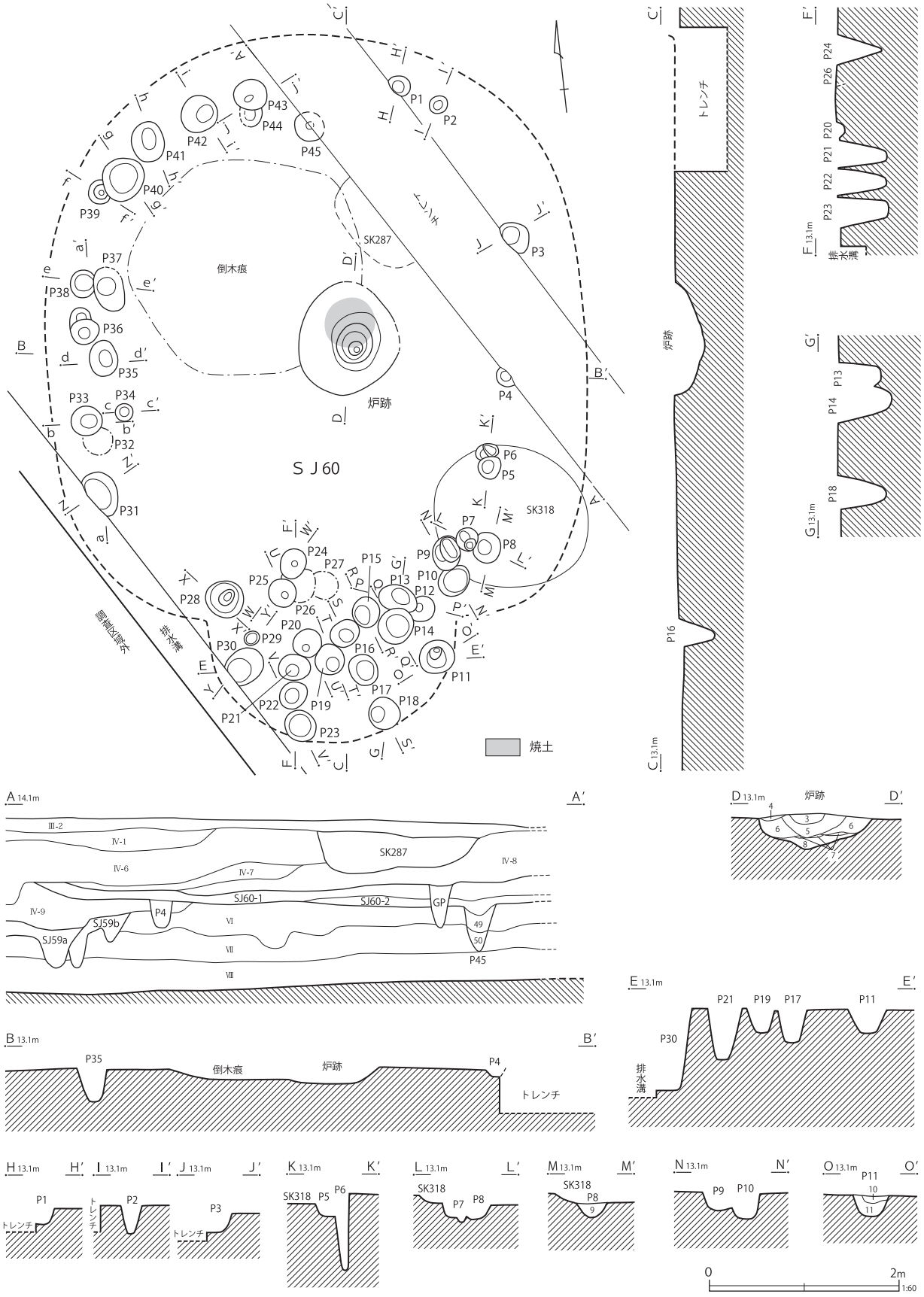
第133図　第59b号住居跡（1）



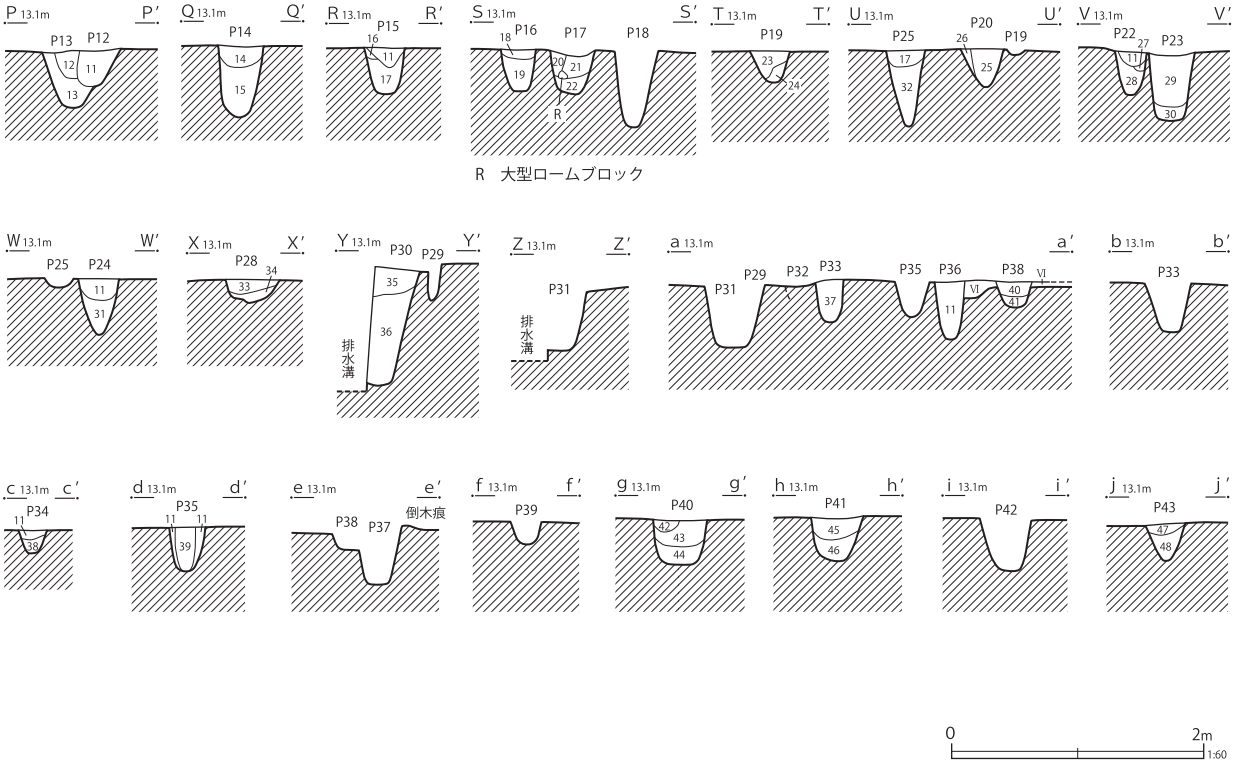
SＪ59ｂ
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む　床面直上覆土

柱穴
2　暗褐色土　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
3　暗褐色土　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
4　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
5　暗褐色土　炭化物粒子（多）
6　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（少）
ローム粒子（極多）　しまり（欠）
7　暗灰黄色土　ロームブロック（径 10 ㎜）（多）　しまり（欠）
8　暗褐色土　粘質　焼土粒子（少）　しまり（欠）
9　暗褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
10　暗褐色土　粘質　ロームブロック（径 40 ～ 50 ㎜）（多）　しまり（欠）
11　暗灰黄色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）・炭化物（径 10 ㎜）
・焼土ブロック（径 10 ㎜）（少）　しまり（欠）
12　暗灰黄色土　13 層類似　ロームブロック（径 20 ㎜）（少）　しまり（中）
13　暗灰黄色土　粘質　ローム粒子（少）　しまり（欠）
14　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（多）　しまり（良）
15　暗褐色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　しまり（良）
16　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（多）　しまり（良）
17　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ㎜）（中）　しまり（良）
18　暗灰黄色土　ローム粒子含む　しまり（良）
19　暗灰黄色土　ロームブロック（径 10 ㎜）含む　粘性（強）　しまり（欠）
埋土
20　暗褐色土　粘性（欠）　しまり（欠）　柱痕
21　暗灰黄色土　粘性（弱）　しまり（良）
22　暗褐色土　粘質　ローム粒子・ロームブロック（中）　しまり（良）
23　暗褐色土　焼土ブロック（径 50 ㎜）（多）
24　暗褐色土　しまり（欠）　埋土
25　暗灰黄色土　粘性（弱）　しまり（良）

第134図　第59b号住居跡（２）



第135図　第60号住居跡（１）



Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径 5 ㎜）・骨片（多）
焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-1　暗褐色土　粘質　暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土
遺物（微）　しまり（良）
Ⅳ-2　暗褐色土　粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物
粒子含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）
Ⅳ-4　褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム粒子・焼土粒子含む
骨片（少）　しまり（欠）　遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-6　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径 10 ㎜）（多）　焼土粒子（少）
骨片（少）　遺物（多）　しまり（中）
Ⅳ-7　黒褐色土　粘質　焼土粒子含む　骨片（微）　粘性（中）　しまり（中）
遺構覆土の可能性あり
Ⅳ-9　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（中）　しまり（良）
Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）
Ⅷ　暗黄褐色土　ブラックバンド

ＳＪ60
1　黒褐色土　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　炭化物粒子・焼土粒子含む
粘性（強）　しまり（良）
2　暗褐色土　焼土粒子・ローム粒子）含む　粘性（強）　しまり（良）

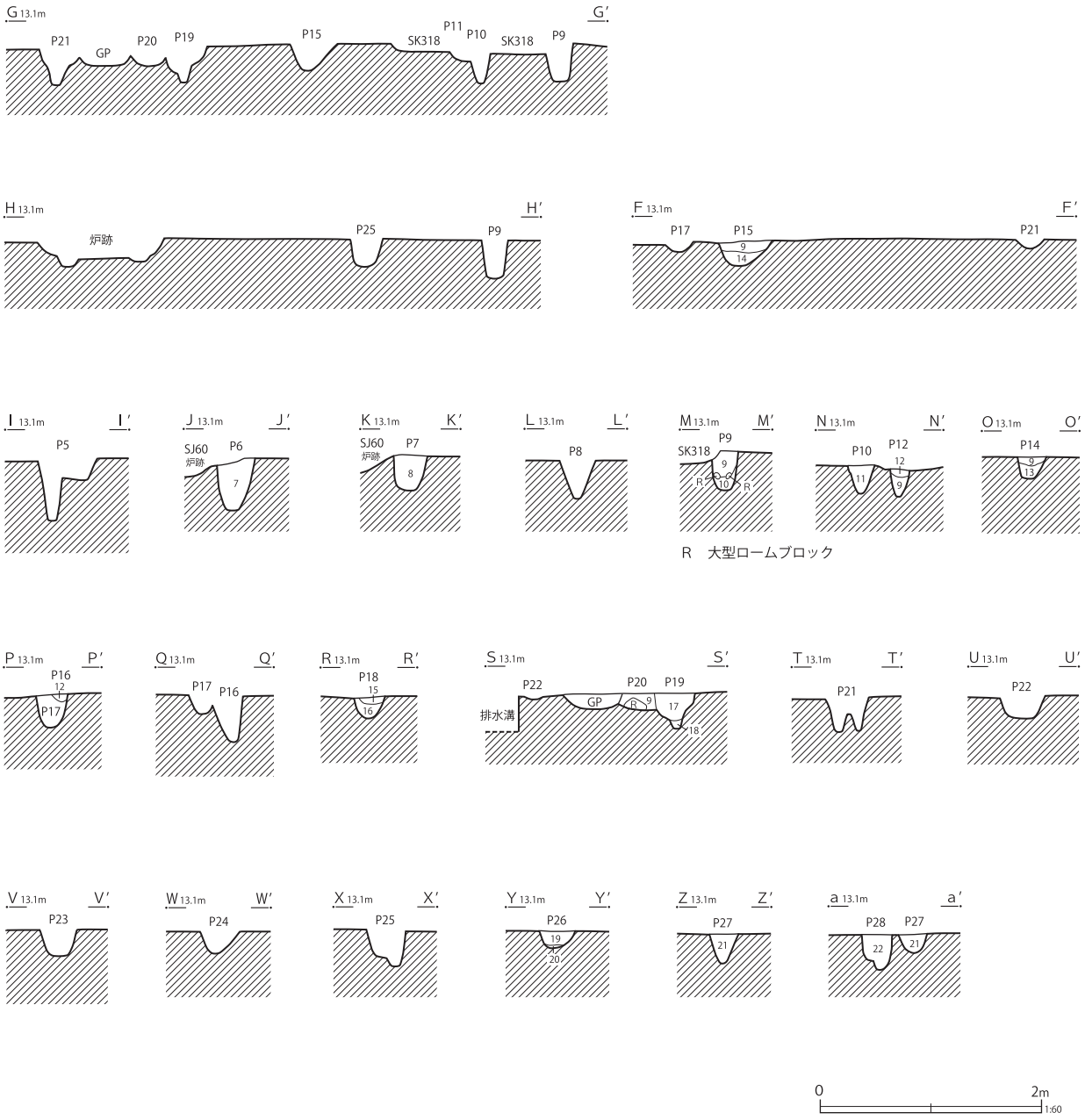
炉跡
3　暗褐色土　焼土ブロック（径 20 ㎜）・炭化物（径 10 ㎜）（多）
粘性（強）　底面弱被熱赤化
4　暗褐色土　焼土微粒子（少）　粘性（強）
5　暗褐色土　焼土ブロック（径 30 ㎜）斑状・炭化物（径 10 ～ 20 ㎜）（多）
骨片（径 10 ㎜）（少）　粘性（強）　しまり（欠）
6　暗灰黄色土　ローム粒子・炭化物粒子・骨細片（少）
粘性（強）　しまり（良）
7　赤褐色土　骨片（径 10 ～ 30 ㎜）（多）　粘性（強）　焼土層
8　暗灰黄色土　炭化物（径 10 ～ 20 ㎜）・焼土小粒子・骨片（少）
黄褐色ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（多）

柱穴
9　暗褐色土　ローム小ブロック（径 20 ㎜）・炭化物（径 10 ㎜）（少）
10　黒褐色土　炭化物・焼土（径 10 ㎜）（多）
11　暗灰黄色土　ローム粒子（少）
12　暗褐色土　しまり（欠）
13　暗褐色土　ローム粒子（多）　埋土
14　暗灰黄色土　ローム粒子（少）　黄褐色ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）含む
15　暗褐色土　しまり（欠）
16　暗褐色土　粘性（強）
17　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ～ 40 ㎜）（少）
18　暗灰黄色土　しまり（堅致）
19　暗灰黄色土　粘性（強）
20　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ㎜）（少）　掘り方
21　暗灰黄色土　ローム粒子（少）　ロームブロック（径 20 ㎜）（中）
22　暗褐色土　暗褐色土ブロック主体層　しまり（良）
23　暗褐色土　ローム粒子（少）
24　暗褐色土　ローム粒子主体層　しまり（堅致）　埋土
25　暗灰黄色土　暗褐色土ローム粒子・ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（少）
しまり（良）
26　暗灰黄色土　しまり（欠）　掘り方
27　暗褐色土　しまり（欠）
28　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（少）
29　黒褐色土　粘性（弱）　しまり（欠）
30　黒褐色土　炭化物粒子（多）
31　黒褐色土　粘性（弱）　しまり（中）
32　黒褐色土　粘性（弱）　しまり（欠）
33　暗灰黄色土　しまり（良）　埋土
34　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（中）
粘性（強）しまり（欠）
35　暗褐色土　黄褐色ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（多）
36　黒褐色土　粘性（弱）　しまり（欠）
37　黒褐色土　炭化物粒子（多）　粘性（弱）
38　黄褐色土　黄褐色ロームブロック主体　埋土
39　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（少）　柱痕
40　暗灰黄色土　ローム粒子（少）
41　暗灰黄色土　しまり（欠）　炭化物粒子（中）
42　暗灰黄色土　ローム粒子（多）　埋土
43　暗褐色土　黄褐色ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（多）　埋土
44　暗褐色土　暗褐色土ブロック（径 30 ～ 50 ㎜）（中）　しまり（良）　埋土
45　暗褐色土　黄褐色ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（中）
炭化物（径 10 ㎜）（少）　しまり（良）
46　暗褐色土　黄褐色ローム（径 10 ㎜）（少）　粘性（弱）　しまり（良）
47　暗褐色土　焼土粒子（少）　粘性（強）
48　暗灰黄色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）含む
49　暗黄褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）含む　焼土粒子（少）
粘性（中）　しまり（欠）
50　暗褐色土　炭化物粒子含む　粘性（中）　しまり（欠）

第136図　第60号住居跡（２）

Ⅰ-6	黒褐色土	粘質　褐色土小ブロック斑状に含む 灰色粘土小ブロック帯状層　炭化物含む　しまり（欠）
Ⅲ-2	黒色～黒褐色土	シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多） 焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-11	褐色土	粘質　暗褐色土・褐色土ブロックとの混土 粘性（強）　しまり（良）
Ⅴ-1	暗褐色土	シルト質　炭化物粒子・遺物（少）　ローム小ブロック（微） しまり（中）
Ⅵ	にぶい黄褐色土	
Ⅶ	黄褐色土	ハードローム（立川面）
Ⅷ	暗黄褐色土	ブラックバンド
Ⅸ	灰黄褐色土	ハードローム
Ⅹ	灰黄褐色土	武蔵野ローム

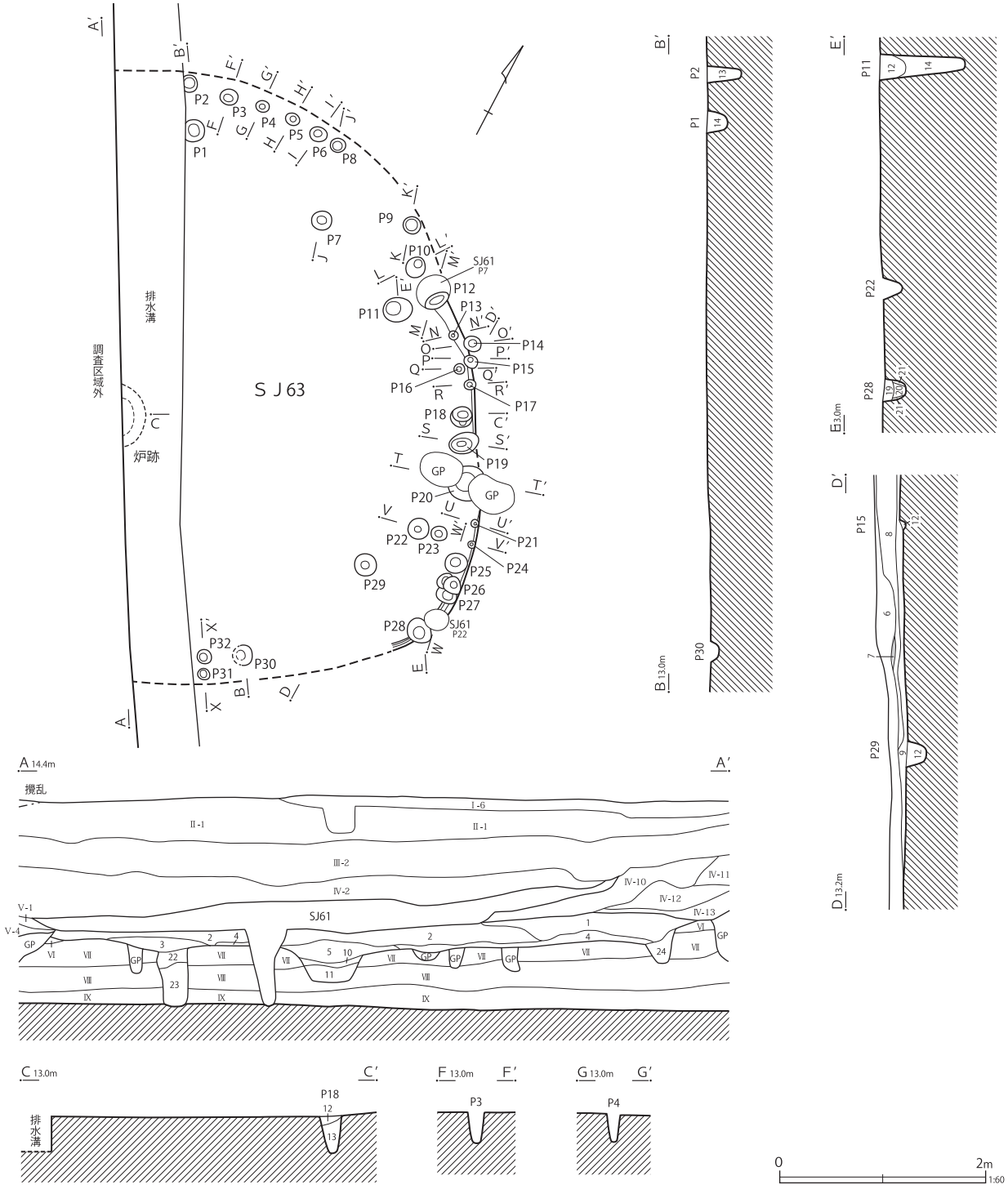
第137図　第62号住居跡（１）



ＳＪ62　炉跡
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　骨片含む
　　下位に焼土粒子集中
2　暗褐色土　炭化物粒子含む　焼土粒子（多）
3　赤褐色土　焼土ブロック主体層　しまり（良）
4　暗褐色土　炭化物粒子・骨片（多）　粘性（強）
5　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ㎜）（少）　掘り方
6　黒褐色土　しまり（欠）

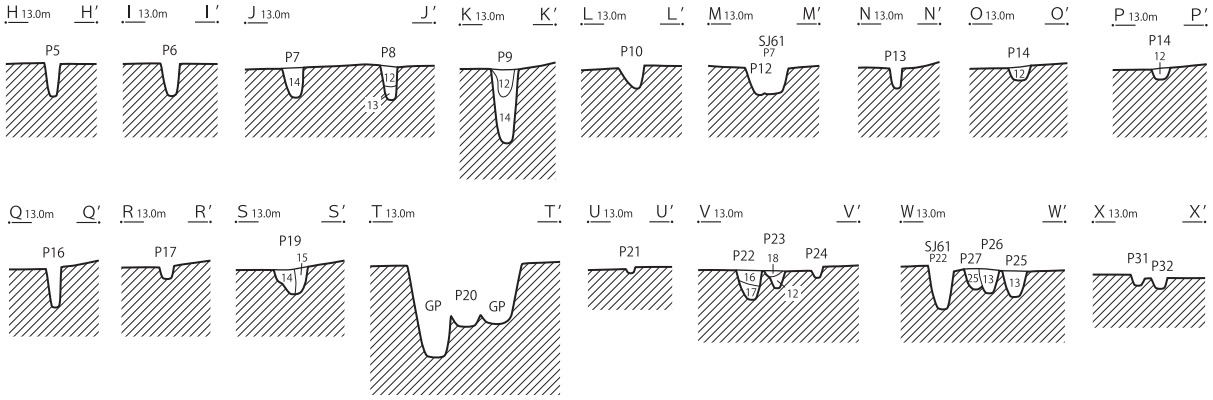
柱穴
7　暗灰黄色土　黄褐色ロームブロック（径 20 ㎜）（少）
　　粘性（強）　しまり（欠）
8　黒褐色土　骨片・遺物（少）
9　暗褐色土　ローム粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（中）
10　黒褐色土　粘性（強）　しまり（中）
11　暗褐色土　ローム粒子（微）　しまり（欠）
12　暗褐色土　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）
13　暗褐色土　ローム粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（中）
14　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ～ 30 ㎜）（少）
　　粘性（強）　しまり（良）
15　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子（少）
16　暗褐色土　黄褐色ロームブロック・ローム粒子（多）
　　焼土粒子（少）　しまり（良）
17　黄褐色土　ローム粒子（多）　しまり（良）
18　黄褐色土　ローム粒子（多）
19　暗褐色土　粘性（強）
20　暗褐色土　焼土粒子（少）　しまり（良）
21　暗褐色土　ロームブロック（径 30 ～ 50 ㎜）主体
22　暗灰黄色土　ローム粒子（少）
23　暗褐色土　暗褐色土・ロームブロックとの混土　しまり（欠）
24　にぶい黄褐色粘性土　しまり（良）
25　暗褐色粘性土　しまり（欠）
26　にぶい黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
27　にぶい黄褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）
28　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）

第138図　第62号住居跡（２）



Ⅰ-6	黒褐色土	粘質　褐色土小ブロック斑状に含む 灰色粘土小ブロック帯状層　炭化物含む　しまり（欠）
Ⅱ-1	茶褐色土	粘質　ローム質土ブロック主体 明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物（微）　しまり（良）
Ⅲ-2	黒色～黒褐色土	シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多） 焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-2	暗褐色土	粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物 粒子含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）
Ⅳ-10	黒褐色土	シルト質　黒褐色土主体　明褐色土ブロック含む 炭化物粒子（多）　遺物（中）　粘性（弱）　しまり（欠）
Ⅳ-11	褐色土	粘質　暗褐色土・褐色土ブロックとの混土 粘性（強）　しまり（良）
Ⅳ-12	暗褐色土	粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-13	暗褐色土	粘質　炭化物粒子（少）　粘性（中）　しまり（良）
V-1	暗褐色土	シルト質　炭化物粒子・遺物（少） ローム小ブロック（微）　しまり（中）
V-4	にぶい黄褐色土	ロームブロック（少）　焼土粒子（微）　粘性（弱） しまり（欠）
Ⅵ	にぶい黄褐色土	
Ⅶ	黄褐色土	ハードローム（立川面）
Ⅷ	暗黄褐色土	ブラックバンド
Ⅸ	灰黄褐色土	ハードローム

第139図　第63号住居跡（１）



ＳＪ63

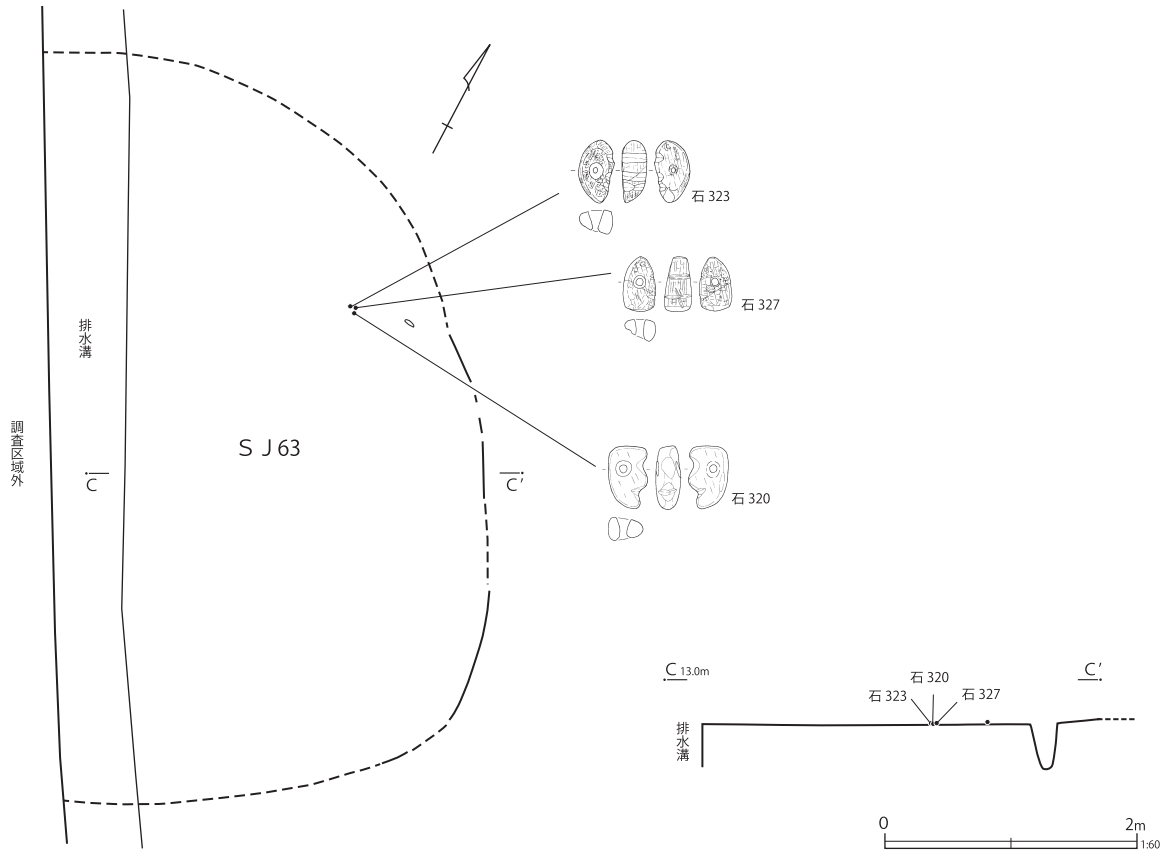
1	褐色シルト質土	ローム粒子（少） 炭化物粒子（微） 骨片（微）
2	にぶい黄褐色土	シルト質 ローム粒子（少） 炭化物粒子・焼土粒子（微） 粘性（強） しまり（欠）
3	暗褐色土	炭化物粒子・焼土粒子（微）
4	暗褐色土	炭化物帯状堆積 ロームブロック（中） 床面及びその直上層にローム土含む
5	にぶい黄褐色土	しまり（良） 貼床構築土
6	暗褐色土	炭化物粒子・焼土粒子（少）
7	赤褐色土	焼土
8	暗褐色土	炭化物粒子（中）
9	暗灰黄色土	シルト質 ロームブロック（径 20 ㎜）（多） 粘性（強） しまり（良）

炉跡

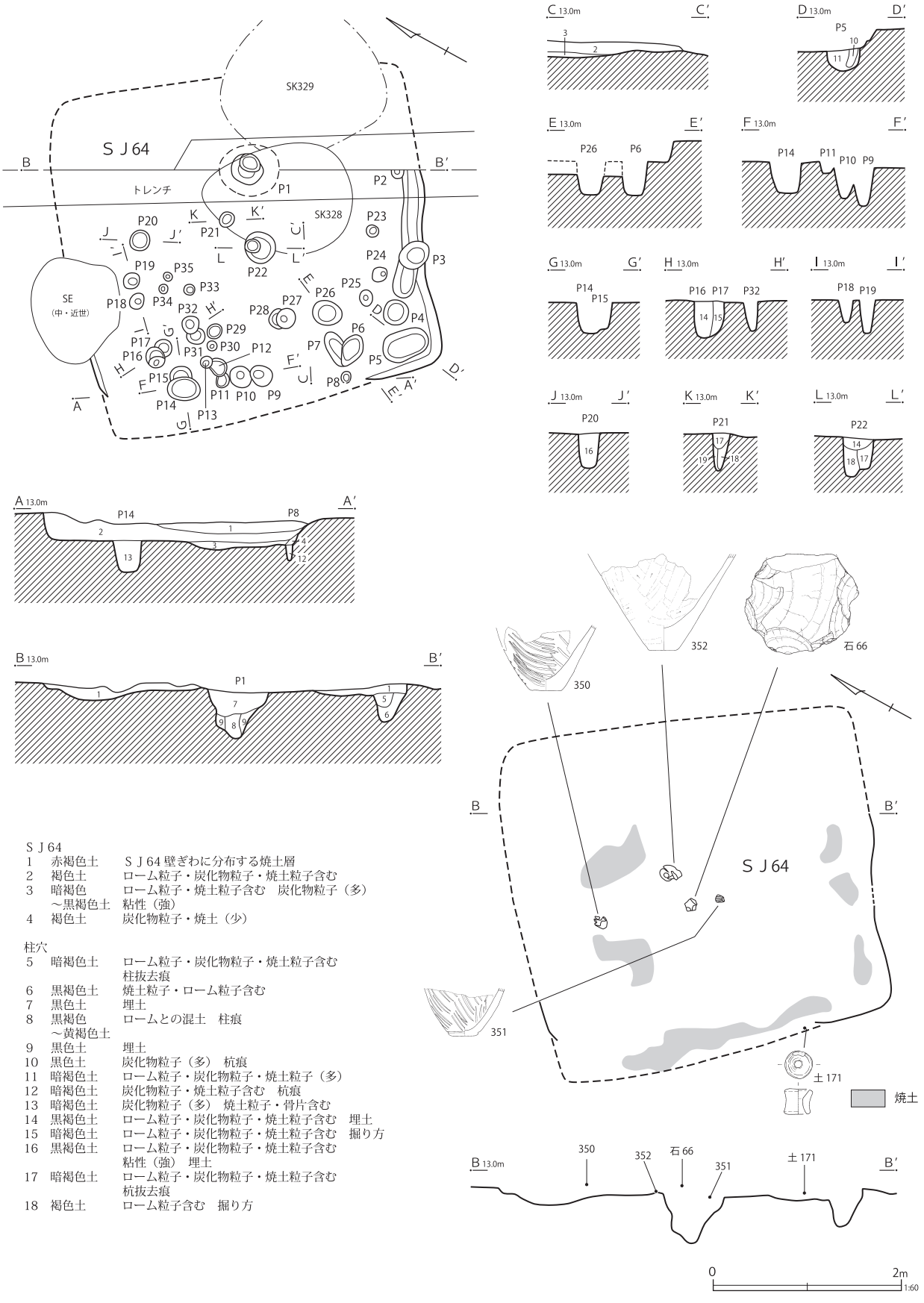
10	灰黄褐色土	シルト質 土粒非常に小さい 焼土粒子・炭化物粒子（少） 灰層
11	褐色土	砂質 土層中央部を中心に焼土が多量に混入 しまり（良）

柱穴

12	黒褐色土	炭化物粒子含む 焼土粒子（中） しまり（良） 粘性（強） 柱抜去痕
13	暗黄褐色土	炭化物粒子（少） 粘性（強） しまり（良） 埋土
14	暗褐色土	炭化物粒子・焼土粒子（少） しまり（欠） 柱痕
15	暗褐色土	ロームブロック（径 50 ㎜）含む しまり（欠）
16	暗褐色土	ロームブロック（径 10 ㎜）（多）
17	暗灰黄色土	粘性（強） しまり（欠）
18	暗灰黄色土	粘性（強） しまり（良）
19	暗褐色土	ロームブロック（少） 炭化物粒子（多） 柱抜去痕
20	暗褐色土	ローム粒子（少） しまり（欠） 柱痕
21	暗褐色土	ロームブロック・炭化物粒子（多） 掘り方
22	暗褐色 ～にぶい黄褐色土	ローム粒子（中） 粘性（弱） しまり（欠）
23	黒褐色土	ローム粒子（中） しまり（欠） 底面しまり（欠） 小亜角礫（微）
24	灰黄褐色土	底面しまり（欠） 亜角細礫（少）
25	暗黄褐色土	炭化物粒子（少） しまり（良） 粘性（強） 埋土



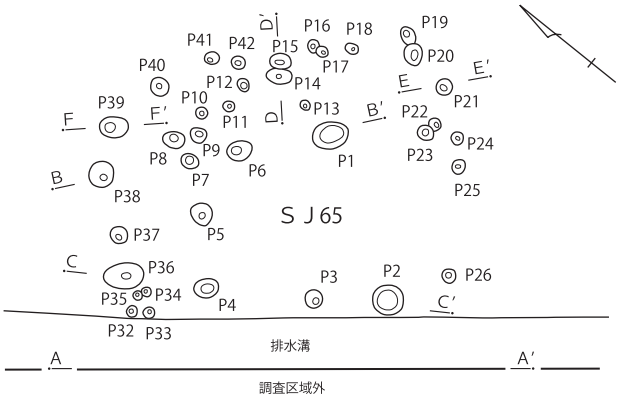
第140図　第63号住居跡（２）・遺物出土状況

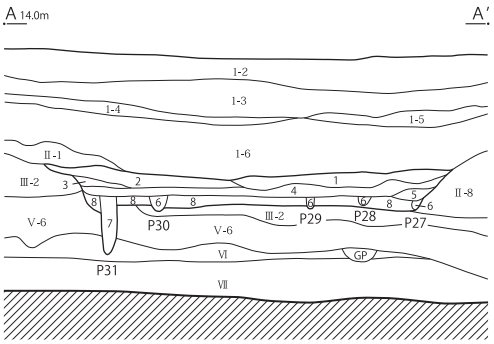


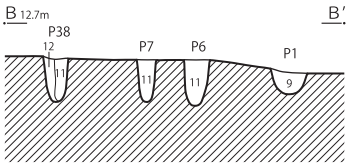
ＳＪ64
1　赤褐色土　　ＳＪ64 壁ぎわに分布する焼土層
2　褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
3　暗褐色　　ローム粒子・焼土粒子含む　炭化物粒子（多）
　～黒褐色土　粘性（強）
4　褐色土　　炭化物粒子・焼土（少）

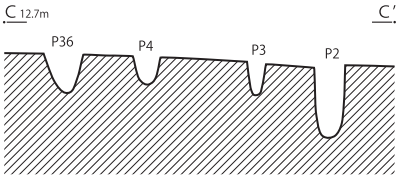
柱穴
5　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
　　柱抜去痕
6　黒褐色土　　焼土粒子・ローム粒子含む
7　黒色土　　埋土
8　黒褐色　　ロームとの混土　柱痕
　～黄褐色土
9　黒色土　　埋土
10　黒色土　　炭化物粒子（多）　杭痕
11　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（多）
12　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子含む　杭痕
13　暗褐色土　　炭化物粒子（多）　焼土粒子・骨片含む
14　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む　埋土
15　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む　掘り方
16　黒褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
　　粘性（強）　埋土
17　暗褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む
　　杭抜去痕
18　褐色土　　ローム粒子含む　掘り方

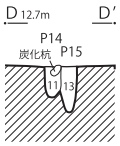
第141図　第64号住居跡・遺物出土状況

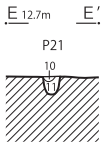


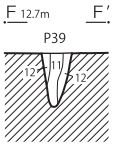










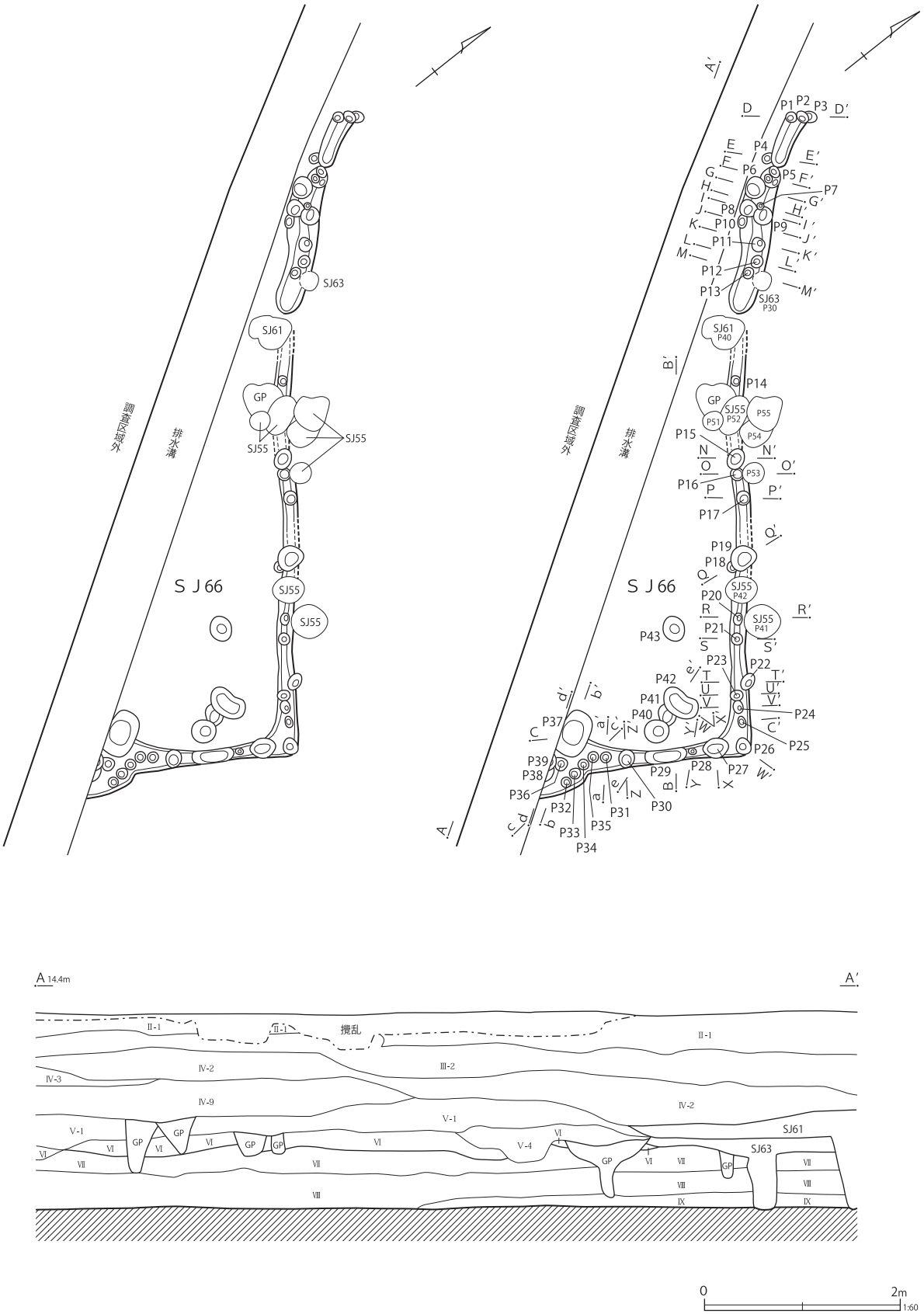


Ⅰ-2　暗褐色土　シルト質　灰黄色粘土を間層状に含む　遺物（中）
しまり（良）
Ⅰ-3　暗灰褐色土　粘質　遺物（少）　しまり（中）
Ⅰ-4　暗灰褐色土　粘質　遺物（微）　しまり（良）
Ⅰ-5　灰黄色土　シルト質　黄灰色粘質土小ブロック帯状層
しまり（中）
Ⅰ-6　黒褐色土　粘質　褐色土小ブロック斑状に含む
灰色粘土小ブロック帯状層　炭化物含む
しまり（欠）
Ⅱ-1　茶褐色土　粘質　ローム質土ブロック主体
明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物（微）
しまり（良）
Ⅱ-8　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体
ローム質土小ブロック・焼土粒子
・炭化物粒子（少）　しまり（良）
Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）
焼土粒子（少）　遺物（極多）
粘性（中）　しまり（中）
V-6　灰黄褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）
遺物（微）　しまり（良）
Ⅵ　にぶい黄褐色土
Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）

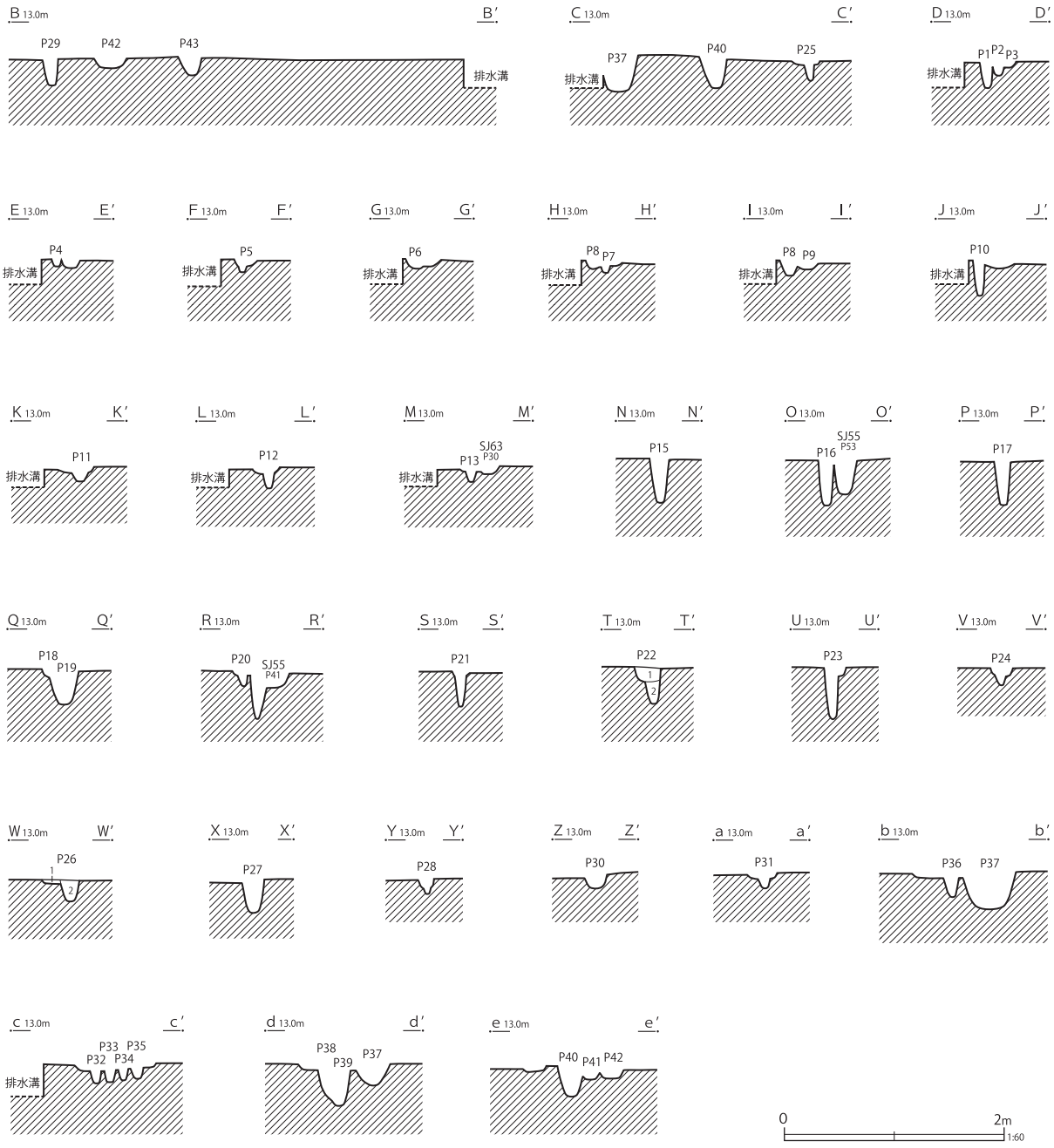
S J 65
1　灰黄褐色土　シルト質　骨片（微）　しまり（欠）　上部覆土
2　暗褐色土　シルト質　骨片（微）　上部覆土
3　灰黄褐色土　シルト質　炭化物・ローム粒子（微）　遺物（少）
4　黒褐色土　シルト質　炭化物・ローム粒子（微）　遺物（少）
5　暗褐色土　粘質　４層類似
6　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子・焼土粒子含む
遺物（微）　しまり（良）
7　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
8　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含む

柱穴
9　黒色土　炭化物・焼土（径 10 ㎜）（少）　粘性（強）
10　黒色土　炭化物粒子（多）　埋土
11　暗褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）
しまり（欠）　柱痕
12　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子を含む　掘り方
13　暗褐色土　炭化物粒子（少）

第142図　第65号住居跡



第143図　第66号住居跡（1）



Ⅱ-1　茶褐色土　粘質　ローム質土ブロック主体
明黄褐色ローム粒子・炭化物粒子・遺物（微）　しまり（良）

Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）
焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）

Ⅳ-2　暗褐色土　粘質　黒褐色土・暗褐色土との混土　焼土粒子・炭化物
粒子含む　骨片（少）　遺物（中）　しまり（中）

Ⅳ-3　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　遺物（中）
しまり（中）

Ⅳ-9　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土
炭化物粒子・焼土粒子含む　遺物（中）　しまり（良）

Ⅴ-1　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・遺物（少）　ローム小ブロック（微）
しまり（中）

Ⅴ-4　にぶい黄褐色土　ロームブロック（少）　焼土粒子（微）　粘性（弱）　しまり（欠）

Ⅵ　にぶい黄褐色土

Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）

Ⅷ　暗黄褐色土　ブラックバンド

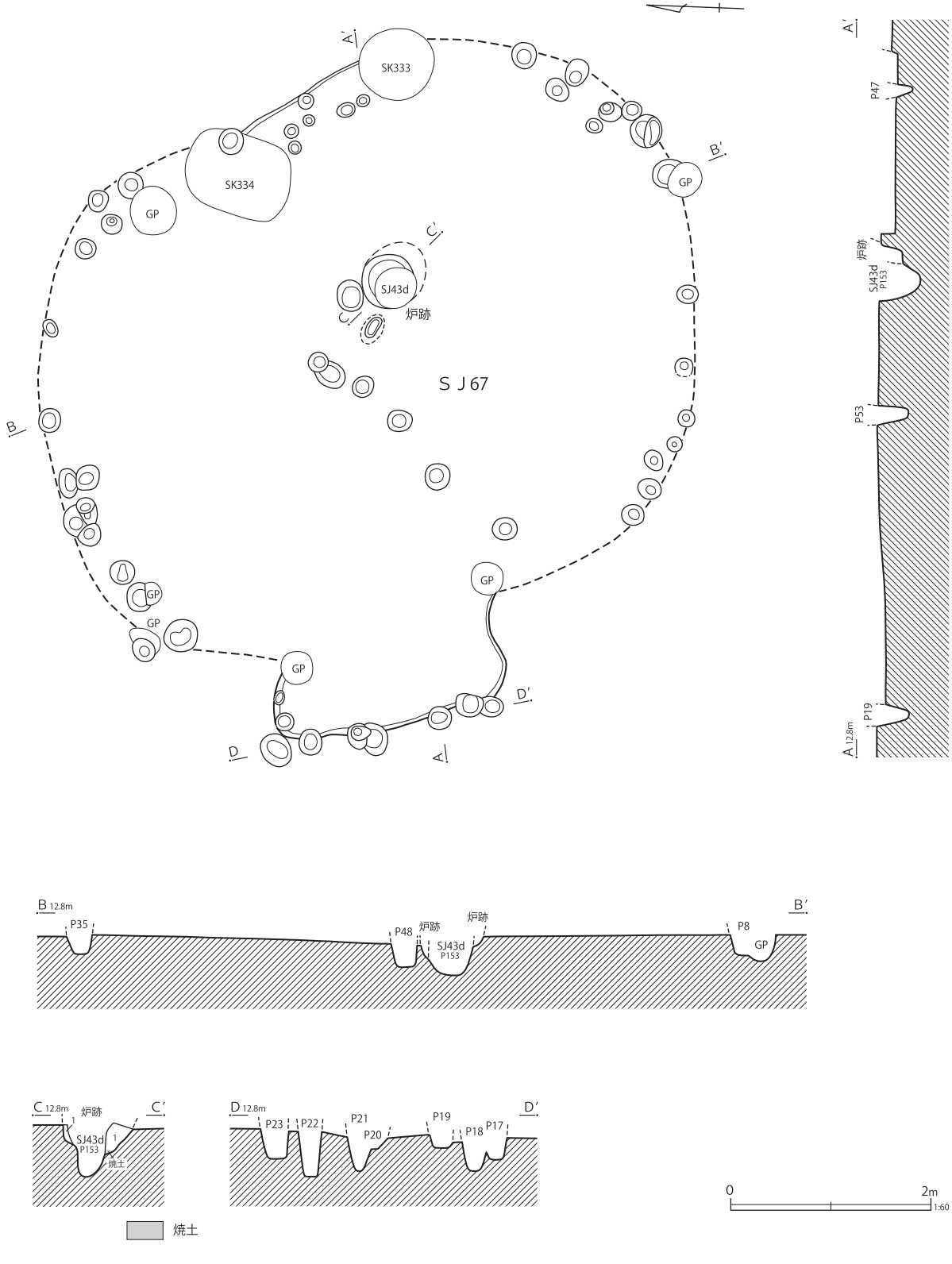
Ⅸ　灰黄褐色土　ハードローム

ＳＪ66　柱穴

1　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・ローム小ブロック（少）

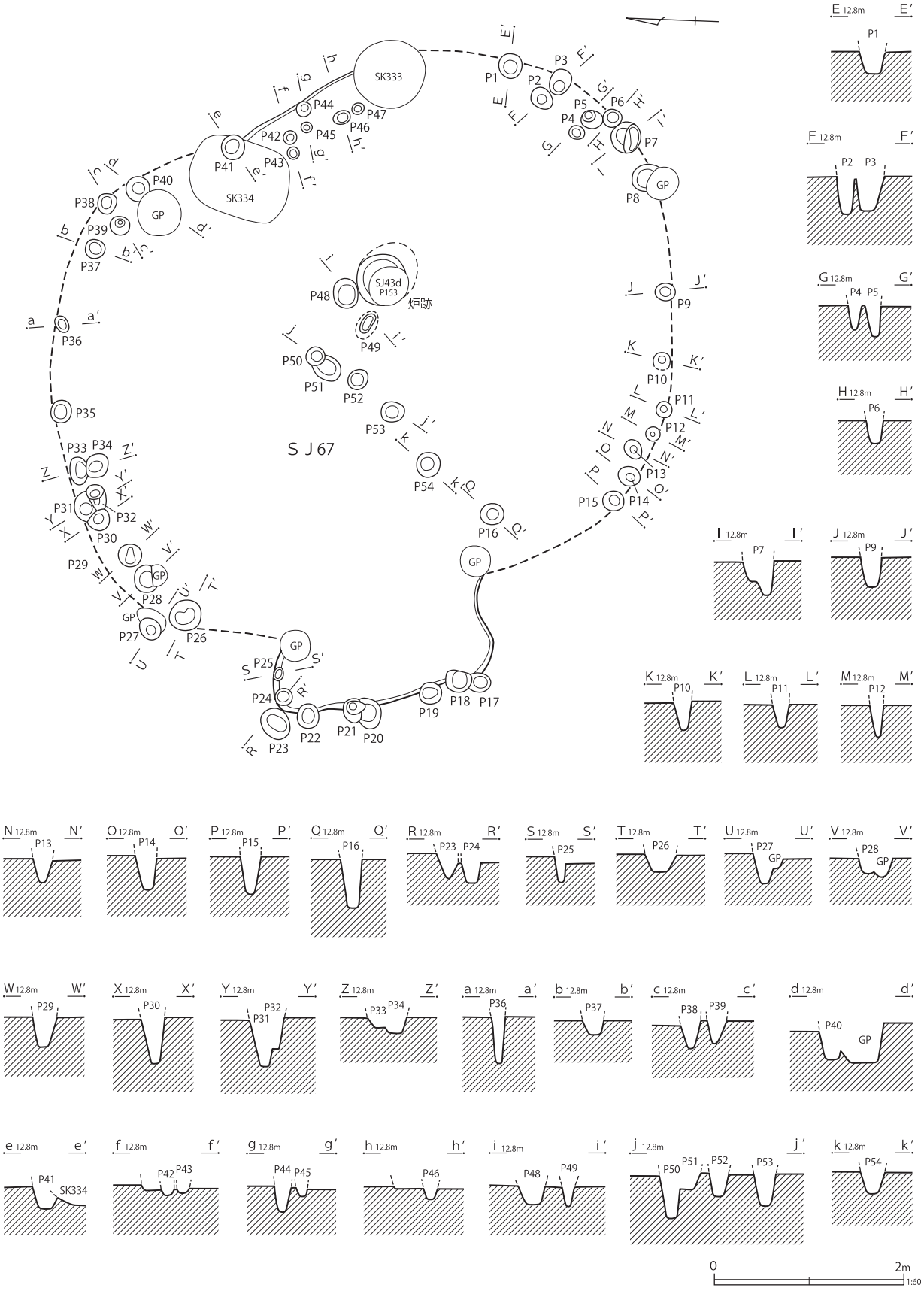
2　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック・暗褐色土との混土
しまり（欠）

第144図　第66号住居跡（２）



ＳＪ67　炉跡
1　暗褐色土　シルト質　炭化物（少）　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土　しまり（欠）

第145図　第67号住居跡（１）



第146図　第67号住居跡（２）

２．土壙墓・土壙

土壙の分布は、標高の高い盛土中央部にはやや少なく、内縁側に偏ってやや密に検出された。特に第306・326号土壙等の袋状土壙は緩傾斜面に位置していた。また、第277・310・311号土壙等人骨の出土と形態的特徴から、土壙墓と判断される土壙は、北盛土で検出された土壙墓群と同じく内縁側傾斜面で検出された。一方、外縁側では第43号住居跡内等､特定の場所に集中して検出された。

土壙の形状は、円形、楕円形が主体で、土壙墓は、長方形または、隅円長方形であった。上層で検出された晩期の土壙には、形状が不明瞭な土壙もあり、遺物集中地点と関連付ける必要もある。

土壙の時期は第305号土壙の前期中葉をはじめとし、晩期中葉までの広範囲にわたる。

第277号土壙（Ⅰ－第147図）遺物（Ⅱ－第303・373・378図）

Ａ区Ｈ－６・７グリッドに所在した。第37号住居跡床面直上を底面とし、西壁の一部を壊していた。第46・50・56号住居跡を切っていた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

長軸2.00m、短軸0.75m、深さ0.05mの長方形であった。掘り込みの深さについては、土壙内から出土した注口土器の出土レベルから最低でも0.3mはあったものと推察できる。土壙の主軸方位はＮ－79°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。土壙内から、東側を頭位とする伸展葬の人骨が出土した。頭顎はほぼ上を向いており左の上肢は失われていたがそれ以外の部分は残っていた。鑑定の結果、推定身長150㎝の経産婦との所見を得ている。

頭蓋骨の左斜め上約0.15mで底面から0.15m浮いた状態で晩期の注口土器が正位の状態で出土した。また、頭蓋骨右脇からは凸基有茎の石鏃が１点出土した。また、右足脇から欠損した打製石斧が１点出土した。

所属時期は、晩期前葉から中葉である。

第310号土壙（Ⅰ－第147図）遺物（Ⅱ－第306図）

Ａ区Ｆ－５グリッドに所在した。東側に隣接して第311号土壙が検出された。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。北盛土土壙墓群、第277号土壙との類似性より土壙墓と考えられる。

長軸1.20m、短軸0.50m、深さ0.20mの隅円長方形であった。長軸方位はＮ－44°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。長軸壙底両端から小穴が1本ずつ、合計２本検出された。径0.10m、深さ0.10mの杭状の掘り込みであった。

底面には平坦化させる調整土を敷き、覆土は炭化物を含む埋土で覆われていた。両端の小穴埋土は覆土上層には達していなかった。

遺物は土壙の南東際底面からわずかに浮いて、小形の注口土器１個体が正位で出土した。これ以外の出土遺物はなかった。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第311号土壙（Ⅰ－第147図）

Ａ区Ｆ－５・６グリッドに所在した。北側は調査区外であった。西側に隣接して第310号土壙が検出された。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。北盛土土壙墓群、第277号土壙との類似性より土壙墓と考えられる。

調査区内長軸0.75m、短軸0.70m、深さ0.30mの隅円長方形であった。長軸方位はＮ－50°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。土壙内南際から小穴が１本検出された。径0.15m、深さ0.10mの杭状の掘り込みであった。底面には平坦化させる調整土を敷き、覆土は炭化物と焼土を含む埋土で覆われていた。小穴埋土は覆土上層には達していなかった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第45号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第308図）

Ｂ区Ｊ・Ｋ－８グリッドに所在した。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.40m、短径1.10m、深さ0.24mの隅円方形に近い楕円形であった。長軸方位はＮ－88°－Ｅを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土は炭化物を含む暗褐色土と黒褐色土の互層であった。

遺物は壺・深鉢形土器が出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第46号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第308図）

Ｂ区Ｊ－８グリッドに所在した。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.18m、短径0.88m、深さ0.23mの楕円形であった。長軸方位はＮ－60°－Ｅを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土は炭化物を多く含んでいた。

遺物は深鉢形土器が出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第47号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第308･367図）

Ｂ区Ⅰ・Ｊ－８グリッドに所在した。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.30m、短径1.06m、深さ0.22mの楕円形であった。長軸方位はＮ－24°－Ｗを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土は炭化物を多く含んでいた。

遺物は晩期の壺形土器口縁部１点、耳飾りが１点出土した。この他に後期前葉から晩期前葉の深鉢形土器・突起等が出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第280・312号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第303・309・312図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

第280号土壙が第312号土壙を切っていた。

第280号土壙は、長径1.42m、短径1.32m、深さ0.26mの不整円形であった。長軸方位はＮ－89°－Ｗを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土はロームブロックを少量含んでいた。

遺物は粗製深鉢形土器が出土した。この他に後期前葉から晩期中葉にかけての鉢・深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期中葉と考えられる。

第312号土壙は、長径1.80m、短径1.30m、深さ0.25mの楕円形であった。長軸方位はＮ－40°－Ｅを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土は炭化物・焼土・微小な土器破片を含む埋土であった。

遺物は晩期中葉の深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期中葉と考えられる。

第281号土壙（Ⅰ－第148図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第291号土壙を切っていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.18m、短径0.66m、深さ0.42mの楕円形であった。長軸方位はＮ－55°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土上層に骨片と炭化物を含んでいた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第282・304号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第309・312・367・405・406図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。第282号土壙が第51号住居跡、第２・３号掘立柱建物跡、第304号土壙を切っていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

第282号土壙は長径1.75m、短径0.94m、深さ0.42mの楕円形であった。長軸方位はＮ－39°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土に骨片と炭化物･土器を多く含みしまりに欠けていた。

遺物は、骨製の笄５点、管状垂飾１点、滑車型の耳飾り１点が出土した。この他に後期中葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第304号土壙は残存長軸0.90m、短軸0.84m、深さ0.22mの方形であった。長軸方位はＮ－32°－Ｗを指す。

土壙底面は浅い皿状であった。覆土に骨片と炭化物を含んでいた。

遺物は後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器、土製円盤が出土した。

所属時期は後期後葉と考えられる。

第283号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第309図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。グリッドピットを切っていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

推定長径0.95m、短径0.50m、深さ0.64mの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－64°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロックと炭化物を含んでいた。

遺物は後期後葉から晩期中葉にかけての鉢・深鉢形土器等が出土した。

所属時期は不明であった。

第291号土壙（Ⅰ－第148図）遺物（Ⅱ－第311図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第281号土壙に切られていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

推定長径1.42m、短径1.00m、深さ0.38mの楕円形であった。長軸方位はＮ－35°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土にロームと炭化物を含んでいた。

遺物はわずかに後期中葉の鉢形土器１点が出土した。

所属時期は不明であった。

第285号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第309図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。第２号掘立柱建物跡を切っていた。また、第51号住居跡と重複していたが、重複関係は不明であった。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

長径0.74m、短径0.64m、深さ0.33mの円形であった。長軸方位はＮ－78°－Ｅを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。覆土にロームブロック・骨片・炭化物を含んでいた。

遺物はわずかに後期後葉の深鉢形土器1点が出土した。

所属時期は不明であった。

第288・289号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第305・306・310・311・367図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。東側一部がトレンチによって失われていた。第289号土壙が第288号土壙を切っていた。また、第59号住居跡の上層で検出された。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

第288号土壙は残存長径0.86m、短径0.78m、深さ0.33mの楕円形であった。長軸方位はＮ－80°－Ｅを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。覆土に焼土・炭化物を含んでいた。

遺物は粗製深鉢形土器、土製円盤が出土した。この他に後期中葉から晩期前葉の深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

第289号土壙は残存長径0.84m、短径0.48m、深さ0.18mの楕円形であった。長軸方位はＮ－70°－Ｅを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。覆土から土器が多く出土した。

遺物は覆土上層より晩期の台付鉢・深鉢形土器が出土した。この他に後期後葉から晩期中葉にかけての鉢・深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期中葉と考えられる。

第290号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第306図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。東側はトレンチによって失われていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径0.34m、残存短径0.22m、深さ0.10mの円形であった。長軸方位はＮ－32°－Ｗを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。覆土に焼土・骨

片・炭化物を含んでいた。

遺物は晩期前葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は不明であった。

第292号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第311図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。東側は調査区外であった。第51号住居跡、第4号掘立柱建物跡と重複していたが、重複関係は不明であった。また、グリッドピットを切っていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径0.50m、残存短径0.40m、深さ0.70mの楕円形であった。長軸方位はＮ－26°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に焼土・炭化物を含んでいた。

遺物は晩期前葉の深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第293号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第311図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第４号柱穴列を切っていた。また、第５号柱穴列と重複しているが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長軸1.20m、短軸1.07m、深さ0.22mの不整方形であった。長軸方位はＮ－70°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物を含んでいた。

遺物は晩期前葉から中葉にかけての鉢・深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期中葉と考えられる。

第294号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第311図）

Ａ区Ｈ－５グリッドに所在した。西側は調査区外であった。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

残存長径0.73m、短径0.64m、深さ0.30mの不整形であった。長軸方位はＮ－34°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に骨片・炭化物を含んでいた。

遺物は後期前葉から中葉にかけての深鉢形土器等が出土した。

所属時期は不明であった。

第295号土壙（Ⅰ－第149図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。第50・51号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径0.96m、短径0.70m、深さ0.12mの楕円形であった。長軸方位はＮ－52°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・炭化物を含んでいた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第296号土壙（Ⅰ－第149図）遺物（Ⅱ－第311・367図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.30m、短径0.68m、深さ0.18mの楕円形であった。長軸方位はＮ－81°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に焼土・炭化物を含んでいた。

遺物は耳飾り１点が出土した。この他に晩期前葉から中葉の深鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期前葉から中葉であった。

第287号土壙（Ⅰ－第150図）遺物（Ⅱ－第303～305・309・310・389図）

Ａ区Ｈ－６グリッドに所在した。東側はトレンチによって失われていた。第60号住居跡を切っていた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

長径1.02m、残存短径0.56m、深さ0.37mの楕円形であった。長軸方位はＮ－33°－Ｗを指す。

土壙底面は浅い２段掘り込みであった。覆土に焼土・骨片・炭化物を含んでいた。

遺物は覆土上層から底面にかけて出土した。上層からは後期中葉から晩期中葉の精製深鉢形土器３個体、粗製深鉢形土器１個体がつぶれた状態で出土した。中層から底面では、粗製深鉢形土器２個体がつぶれた状態で出土した。また磨石１点が出土した。この他に鉢形土器等が出土した。

所属時期は晩期前葉から中葉であった。

第297号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第311図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第５号柱穴列と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径0.89m、短径0.62m、深さ0.65mの楕円形であった。長軸方位はＮ－54°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦で底面北寄りに小穴が検出された。覆土にロームブロック･炭化物を含んでいた。

遺物はわずかに晩期粗製深鉢形土器の破片が１点出土した。

所属時期は不明であった。

第298号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第311・374図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第４・５号柱穴列と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径1.08m、短径0.68m、深さ0.28mの不整円形であった。長軸方位はＮ－０°を指す。

土壙底面は皿状であった。覆土に炭化物を含んでいた。

遺物はわずかに後期中葉から後葉の浅鉢形土器等が出土した。

所属時期は不明であった。

第299号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第312図）

Ａ区Ｈ－５・６グリッドに所在した。第60・62号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径0.67m、短径0.58m、深さ0.36mの円形であった。長軸方位はＮ－87°－Ｅを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土に焼土・炭化物を含んでいた。

遺物はわずかに後期中葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は後期中葉と考えられる。

第300号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第312図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第５号柱穴列を切っていた。第４号柱穴列、グリッドピットに切られていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径2.00m、短径0.67m、深さ0.21mの楕円形であった。長軸方位はＮ－43°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土はロームブロック・骨片・焼土・炭化物を含む埋土であった。

遺物はわずかに後期後葉深鉢形土器１点が出土した。

所属時期は不明であった。

第301号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第312・367・377図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第59・60・62号住居跡を切っていた。また、第318号土壙の上層で検出された。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径0.90m、推定短径0.60m、深さ0.34mの円形であった。長軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土に焼土・炭化物を含んでいた。

遺物は覆土上層より台付鉢形土器１点、打製石斧２点が出土した。この他に縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけての鉢・台付鉢・深鉢形土器、土製円盤等が出土した。

所属時期は晩期中葉と考えられる。

第303号土壙（Ⅰ－第151図）

Ａ区Ｈ－６グリッドに所在した。第50号住居跡を切っていた。遺物集中18が上層から検出された。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径1.76m、短径0.77m、深さ0.07mの楕円形であった。長軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土は骨片・炭化物を含む埋土であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第305号土壙（Ⅰ－第151図）遺物（Ⅱ－第312図）

Ａ区Ｈ－６・７グリッドに所在した。第58号住

居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.18m、短径1.10m、深さ0.38mの円形であった。長軸方位はＮ－15°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土に骨・炭化物が含まれていた。

遺物は早期末葉から前期中葉の深鉢形土器破片が出土した。

所属時期は前期中葉の可能性がある。

第307号土壙（Ⅰ－第151図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第59号住居跡を切っていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長軸1.22m、短軸0.93m、深さ0.14mの方形であった。長軸方位はＮ－29°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第306・309号土壙（Ⅰ－第152図）遺物（Ⅱ－第306・312図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－６グリッドに所在した。第306号土壙が第309号土壙を切っていた。第39号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第306号土壙は長軸1.06m、短軸0.96m、深さ0.64mの方形であった。長軸方位はＮ－９°－Ｅを指す。いわゆる袋状土壙であった。

土壙底面は皿状であった。底面に炭化物の帯状堆積が検出された。中層には粘土塊が検出された。

遺物は覆土中層から後期前葉の深鉢形土器が出土した。この他に中期後半から後期中葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は後期前葉と考えられる。

第309号土壙は長径1.12m、短径0.97m、深さ0.10mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロックと炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第308号土壙（Ⅰ－第152図）遺物（Ⅱ－第312図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.18m、短径1.10m、深さ0.58mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロックと炭化物が含まれていた。

遺物は中期末葉から後期後葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は不明であった。

第313号土壙（Ⅰ－第152図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径0.90m、短径0.50m、深さ0.30mの楕円形であった。長軸方位はＮ－52°－Ｅを指す。

土壙底面は不均一であった。覆土に焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第314号土壙（Ⅰ－第152図）遺物（Ⅱ－第313図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径1.60m、短径0.96m、深さ0.53mの楕円形であった。長軸方位はＮ－65°－Ｅを指す。

土壙底面は中央部がやや隆起していた。覆土にロームブロック・骨片・炭化物が含まれていた。

遺物は後期前葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は後期前葉と考えられる。

第315号土壙（Ⅰ－第152図）遺物（Ⅱ－第313図）

Ａ区Ｇ－５グリッドに所在した。第5号柱穴列に切られていた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

長径0.75m、残存短径0.35m、深さ0.27mの楕円形であった。長軸方位はＮ－０°を指す。

土壙底面はすり鉢状であった。

遺物は後期中葉から後葉の瓢形土器・深鉢形土器等が出土した。

所属時期は後期後葉と考えられる。

第316・317号土壙（Ⅰ－第152図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第316号土壙は第45号住居跡に切られていた。第317号土壙は第40号住居跡、グリッドピットに切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第316号土壙は長径0.79m、推定短径0.60m、深さ0.14mの不整円形であった。長軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第317号土壙は長径1.20m、短径0.88m、深さ0.30mの楕円形であった。長軸方位はＮ－90°－Ｗを指す。

土壙底面は中央が隆起していた。覆土にロームブロックと焼土を含む埋土であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第318号土壙（Ⅰ－第153図）遺物（Ⅱ－第306・313・406図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第301号土壙の下層から検出された。第59・60・62号住居跡を切っていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径1.67m、短径1.54m、深さ0.26mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は皿状であった。覆土上面から火床面が検出され、下層から多量の炭化物と骨片が出土した。土壙自体が炉跡として再利用されていた。

遺物は覆土中層以上から纏まって出土した。後期中葉の鉢・深鉢形土器、用途不明の骨製品等が出土した。

所属時期は後期中葉と考えられる。

第319号土壙（Ⅰ－第153図）遺物（Ⅱ－第313・373図）

Ａ区Ⅰ－７グリッドに所在した。第48・49号住居跡炉跡の下層から検出された。第45・58号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径2.26m、短径1.77m、深さ0.54mの不整円形であった。長軸方位はＮ－36°－Ｗを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。覆土に焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は覆土から後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器等が出土した。

所属時期は後期中葉以前と考えられる。

第320号土壙（Ⅰ－第153図）

Ａ区Ⅰ－６・７グリッドに所在した。第48・49号住居跡の下層から検出された。第58号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.71m、短径1.44m、深さ0.50mの楕円形であった。長軸方位はＮ－18°－Ｗを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第321号土壙（Ⅰ－第153図）

Ａ区Ｈ・Ⅰ－７グリッドに所在した。第48・49号住居跡炉跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

推定長径0.92m、短径0.80m、深さ0.80mの不整円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

第323号土壙（Ⅰ－第153図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第58号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径0.94m、短径0.92m、深さ0.23mの円形であっ

た。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第327号土壙（Ⅰ－第153図）遺物（Ⅱ－第306・314図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43ａ号住居跡床面下から検出され、第43ｂ・ｃ・67号住居跡を切っていた。第40号住居跡に切られていた。環状盛土遺構のやや外縁側に位置していた。第318号土壙と形態・覆土の性状で類似する特徴を備えていた。

長径1.46m、短径1.27m、深さ0.54mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。覆土最上部は第43号住居跡貼床で覆われていた。覆土中層まで、焼土と灰が多量に堆積していた。下層は、焼土･骨片･炭化物を含みしまりに欠けていた。

遺物は後期前葉から後葉までの深鉢形土器が出土した。

所属時期は後期後葉以前と考えられる。

第324・325号土壙（Ⅰ－第154図）

Ａ区Ｈ－７グリッドに所在した。第37号住居跡床面下から検出された。第57号住居跡に切られていた。第324号土壙が第325号土壙を切っていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第324号土壙は長径2.00m、短径1.46m、深さ0.44mの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－23°－Ｅを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土にはロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

第325号土壙は残存長径0.63m、短径0.90m、深さ0.20mの楕円形であった。長軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。

土壙底面はすり鉢状であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第326号土壙（Ⅰ－第154図）遺物（Ⅱ－第313・314図）

Ａ区Ｇ・Ｈ－６グリッドに所在した。第50号住居跡入り口部柱穴に切られていた。グリッドピットを除いた遺構の空白地帯に位置する。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。いわゆる袋状土壙であった。

長径1.84m、短径1.66m、深さ0.70mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。覆土第１層から４層までは、ローム土と炭化物を含む埋土であった。第５層から８層までは上部開口部の残存・崩落に伴う段階で堆積した土壌で、ロームブロック・焼土が含まれていた。なお、開口部径は１ｍ前後であったと推定される。第９層からは炭化物の帯状堆積が検出された。

遺物は早期後半から後期前葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は後期前葉と考えられる。

第328号土壙（Ⅰ－第154図）遺物（Ⅱ－第307・314図）

Ａ区Ｋ－７グリッドに所在した。第43・44・64号住居跡と第329号土壙を切っていた。盛土中層堆積土が傾斜堆積に移行する層中に構築された遺構であった。環状盛土遺構の外縁緩傾斜面に位置していた。

長径1.60m、短径1.16m、深さ0.07mの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－25°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は底面からやや浮いて晩期中葉の深鉢形土器１個体が出土した。この他に前期中葉から後期後葉の深鉢形土器が出土した。

所属時期は晩期中葉と考えられる。

第329号土壙（Ⅰ－第154図）遺物（Ⅱ－第314・367図）

Ａ区Ｋ－７グリッドに所在した。第43・44・64号住居跡の上層で検出された。第328号土壙に切られていた。盛土中層堆積土が傾斜堆積に移行する層中に構築された遺構であった。環状盛土遺構の外縁緩傾斜面に位置していた。検出時にほぼ底面まで削平されていた。

推定長径1.75m、推定短径1.68mの不整円形であった。長軸方位はＮ－17°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土は第328号土壙と同じであった。

遺物は底面付近から、後期後葉から晩期前葉の瓢形土器、耳飾り１点、深鉢形土器のミニチュアが出土した。

所属時期は晩期前葉から中葉と考えられる。

第330号土壙（Ⅰ－第155図）

Ａ区Ｈ－６グリッドに所在した。第39・59号住居跡に切られていた。遺物集中19の下層で検出された。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径1.30m、短径0.98m、深さ0.34mの楕円形であった。長軸方位はＮ－45°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土下層にロームブロックが含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第331号土壙（Ⅰ－第155図）遺物（Ⅱ－第307・314・367図）

Ａ区Ｋ－８グリッドに所在した。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

長径0.55m、短径0.50m、深さ0.10mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は皿状であった。覆土に炭化物が含まれていた。

遺物は底面よりやや浮いて後期末葉から晩期前葉の浅鉢形土器が伏せた状態で出土した。耳飾り、破片等も出土した。

所属時期は後期末葉から晩期前葉と考えられる。

第332号土壙（Ⅰ－第155図）

Ａ区Ｋ－７グリッドに所在した。第44ａ号住居跡入り口部を切っていた。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

長軸1.36m、短軸0.82m、深さ0.21mの隅円長方形であった。長軸方位はＮ－86°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第333号土壙（Ⅰ－第155図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡に切られていた。第67号住居跡と重複しているが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の外縁部に位置していた。いわゆる袋状土壙であった。

長径0.77m、短径0.71m、深さ0.42mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第334号土壙（Ⅰ－第155図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡に切られていた。第67号住居跡と重複しているが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の外縁部に位置していた。

長軸1.06m、短軸0.79m、深さ0.22mの隅円長方形であった。長軸方位はＮ－14°－Ｅを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土にロームブロック・褐色土ブロック・炭化物を含んでいた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第335号土壙（Ⅰ－第155図）

Ａ区Ｊ－７・８グリッドに所在した。第43号住居跡主柱穴に切られていた。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

長径1.52m、推定短径1.20m、深さ0.46mの不整円形であった。長軸方位はＮ－79°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・褐色土ブロック・炭化物を含んでいた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第336号土壙（Ｉ－第155図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。第55号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径0.85m、推定短径0.74m、深さ0.42mの不整円形であった。長軸方位はＮ－58°－Ｗを指す。

土壙底面は皿状であった。覆土にロームブロック・褐色土ブロック・炭化物を含んでいた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第337号土壙（Ｉ－第155図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

長径0.63m、短径0.62m、深さ0.26mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面はすり鉢状であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第338号土壙（Ｉ－第155図）遺物（Ⅱ－第314・367図）

Ａ区Ｋ・Ｌ－７グリッドに所在した。遺物集中16に切られていた。第65号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。環状盛土遺構の外縁部緩傾斜面に位置していた。

長径0.82m、短径0.80m、深さ0.15mの円形であった。長軸方位は不明であった。

土壙底面は皿状であった。

遺物は後期末葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器、耳飾りが出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第43号住居跡内１・４・５・６・７号土壙（Ｉ－第156図）遺物（Ⅱ－第307図）

Ａ区Ｊ－７・８グリッドに所在した。第43号住居跡北東辺寄りで検出された。第43号住居跡床面を切っていた。いずれの土壙も連接して検出された。１・４・６号土壙は第67号住居跡を切っていた。環状盛土遺構のやや外縁部に位置していた。

１号土壙は長径1.35m、短径0.82m、深さ0.16mの楕円形であった。長軸方位はＮ－38°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土に焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

４号土壙は長径1.40m、推定短径0.90m、深さ0.22mの楕円形であった。長軸方位はＮ－41°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

５号土壙は残存長径1.78m、短径0.81m、深さ0.20mの楕円形であった。長軸方位はＮ－43°－Ｗを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は底面よりやや浮いて後期後葉の深鉢形土器１個体が出土した。

所属時期は後期後葉以降と考えられる。

６号土壙は５号土壙に切られていた。残存長径0.77m、短径0.94m、深さ0.08mの楕円形であった。長軸方位はＮ－42°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

７号土壙は長径1.02m、短径0.78m、深さ0.46mの楕円形であった。長軸方位はＮ－46°－Ｗを

指す。

土壙底面は平坦であった。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第43号住居跡内２号土壙（Ｉ－第156図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡北西辺寄りで検出された。第43号住居跡内３号土壙を切っていた。第40・43号住居跡柱穴に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.02m、短径0.72m、深さ0.67mの楕円形であった。長軸方位はＮ－43°－Ｅを指す。

土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第43号住居跡内３号土壙（Ｉ－第156図）

Ａ区Ｉ・Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡北西辺寄りで検出された。第40号住居跡、第43号住居跡床面、第43号住居跡内２号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.30m、推定短径0.66m、深さ0.62mの楕円形であった。長軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。

土壙底面はやや傾斜していた。覆土にロームブロック・暗褐色土ブロック・炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

所属時期は不明であった。

第43号住居跡内８号土壙（Ｉ－第156図）

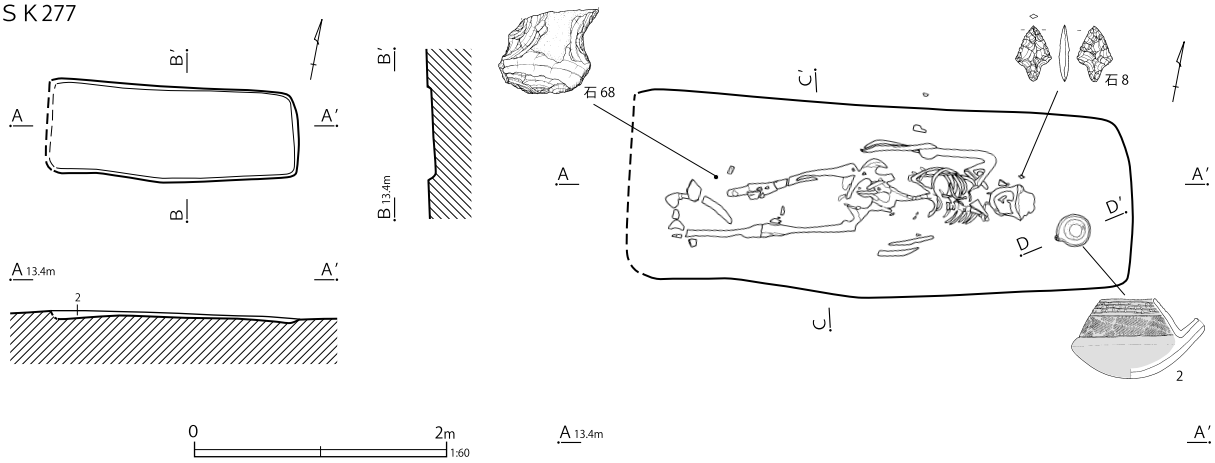
Ａ区Ｊ－６・７グリッドに所在した。第43号住居跡南西コーナー寄りで検出された。第43号住居跡床面を切っていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径1.11m、短径0.80m、深さ0.39mの楕円形であった。長軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

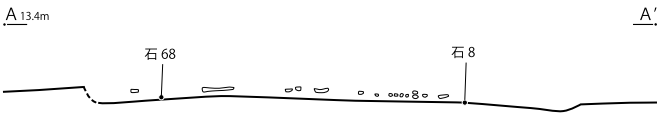
土壙底面は平坦であった。覆土にロームブロック・焼土・炭化物が含まれていた。

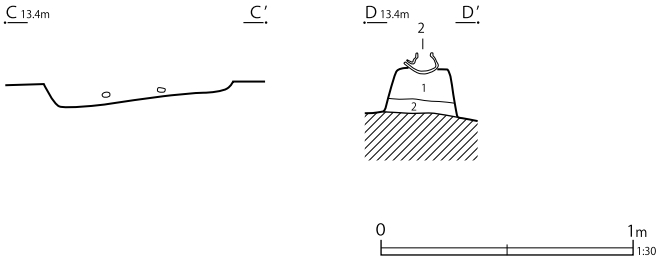
遺物は出土しなかった。

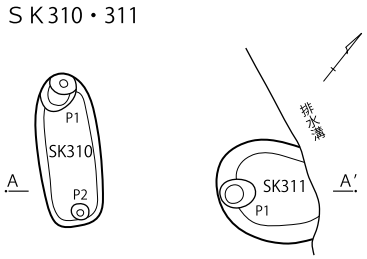
所属時期は不明であった。

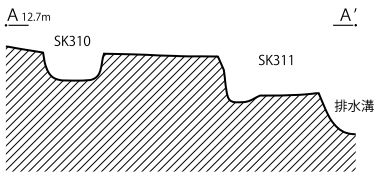


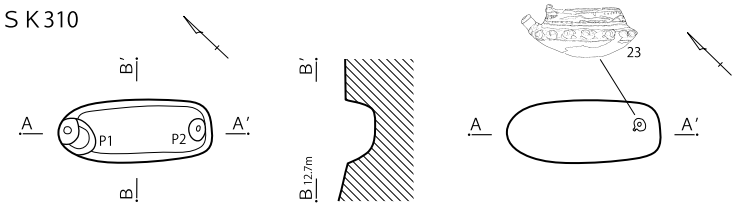
ＳＫ277
1　暗灰褐色土　ローム粒子（少）
2　暗褐色土　　ローム粒子（少）

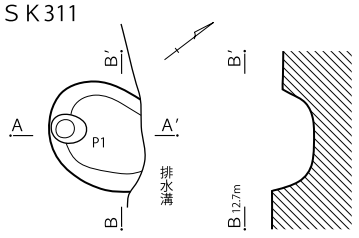


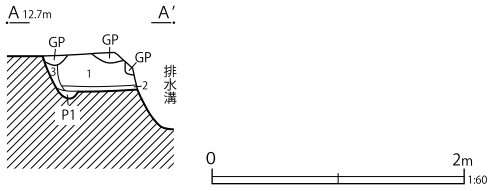








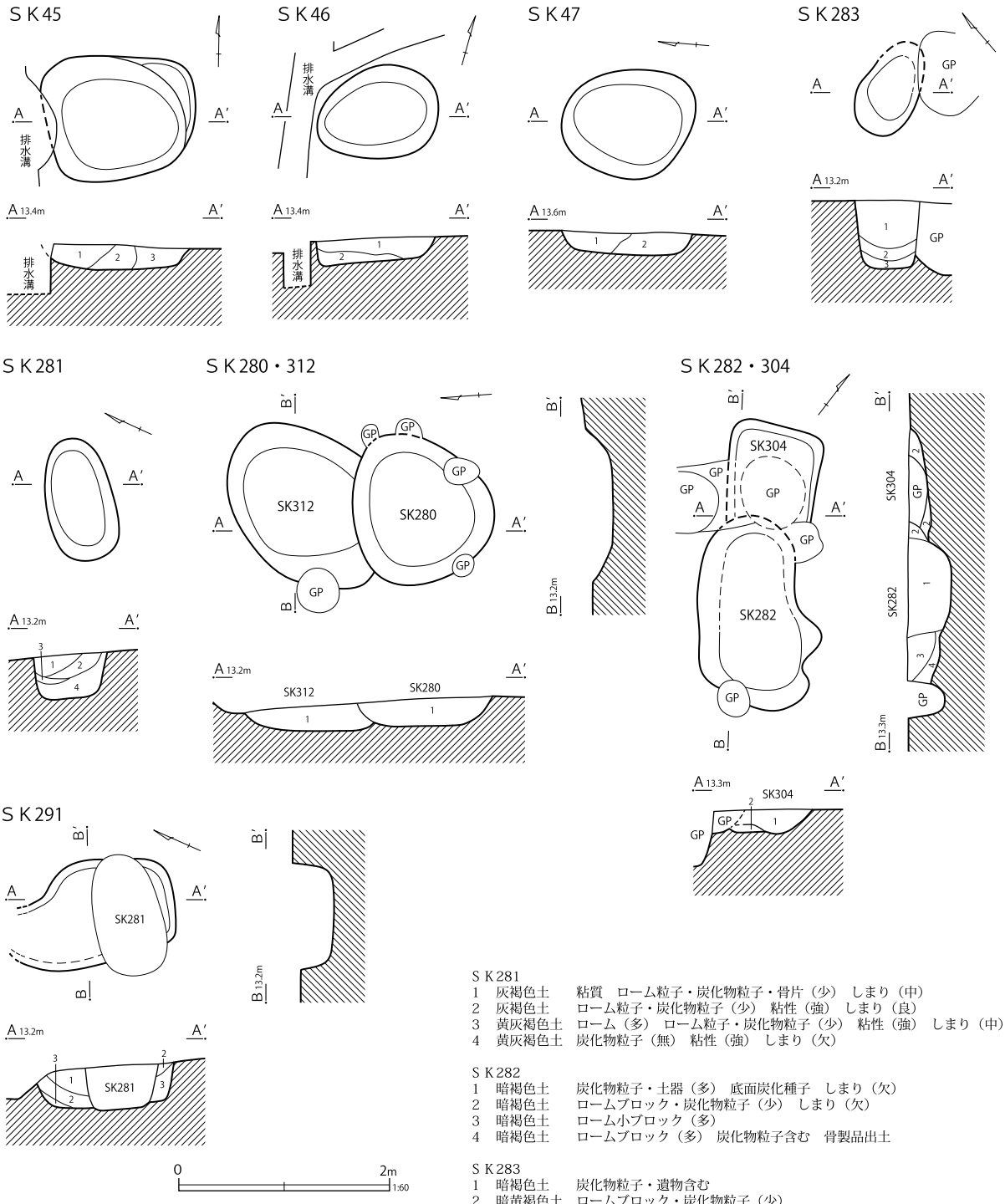




ＳＫ310
1　灰褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（中）　しまり（欠）　壁崩落土
2　灰褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（中）　しまり（良）　埋土
3　灰褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子・焼土粒子（少）
　　しまり（良）　埋土
4　黄褐色土　ローム土主体　焼土粒子（少）　しまり（良）　掘り方
5　褐色土　　ローム土主体　粘性（強）　しまり（欠）　小穴埋土

ＳＫ311
1　灰褐色土　ローム粒子（径２～８㎜）（中）
　　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）　埋土
2　灰褐色土　焼土粒子（少）　しまり（良）　掘り方
3　灰褐色土　焼土粒子（微）　ローム土との混土　しまり（良）　小穴埋土

第147図　土壙（１）



ＳＫ45
1　暗褐色土　炭化物粒子・褐色土粒子（多）
2　黒褐色土　鉄分（多）
3　暗褐色土　炭化物粒子・褐色土粒子（多）

ＳＫ46
1　暗褐色土　炭化物粒子（少）
2　黒褐色土　炭化物粒子（多）

ＳＫ47
1　黒褐色土　炭化物粒子（少）
2　黒褐色土　炭化物粒子（多）　遺物（多）

ＳＫ280
1　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック（少）

ＳＫ281
1　灰褐色土　　粘質　ローム粒子・炭化物粒子・骨片（少）　しまり（中）
2　灰褐色土　　ローム粒子・炭化物粒子（少）　粘性（強）　しまり（良）
3　黄灰褐色土　ローム（多）　ローム粒子・炭化物粒子（少）　粘性（強）　しまり（中）
4　黄灰褐色土　炭化物粒子（無）　粘性（強）　しまり（欠）

ＳＫ282
1　暗褐色土　　炭化物粒子・土器（多）　底面炭化種子　しまり（欠）
2　暗褐色土　　ロームブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
3　暗褐色土　　ローム小ブロック（多）
4　暗褐色土　　ロームブロック（多）　炭化物粒子含む　骨製品出土

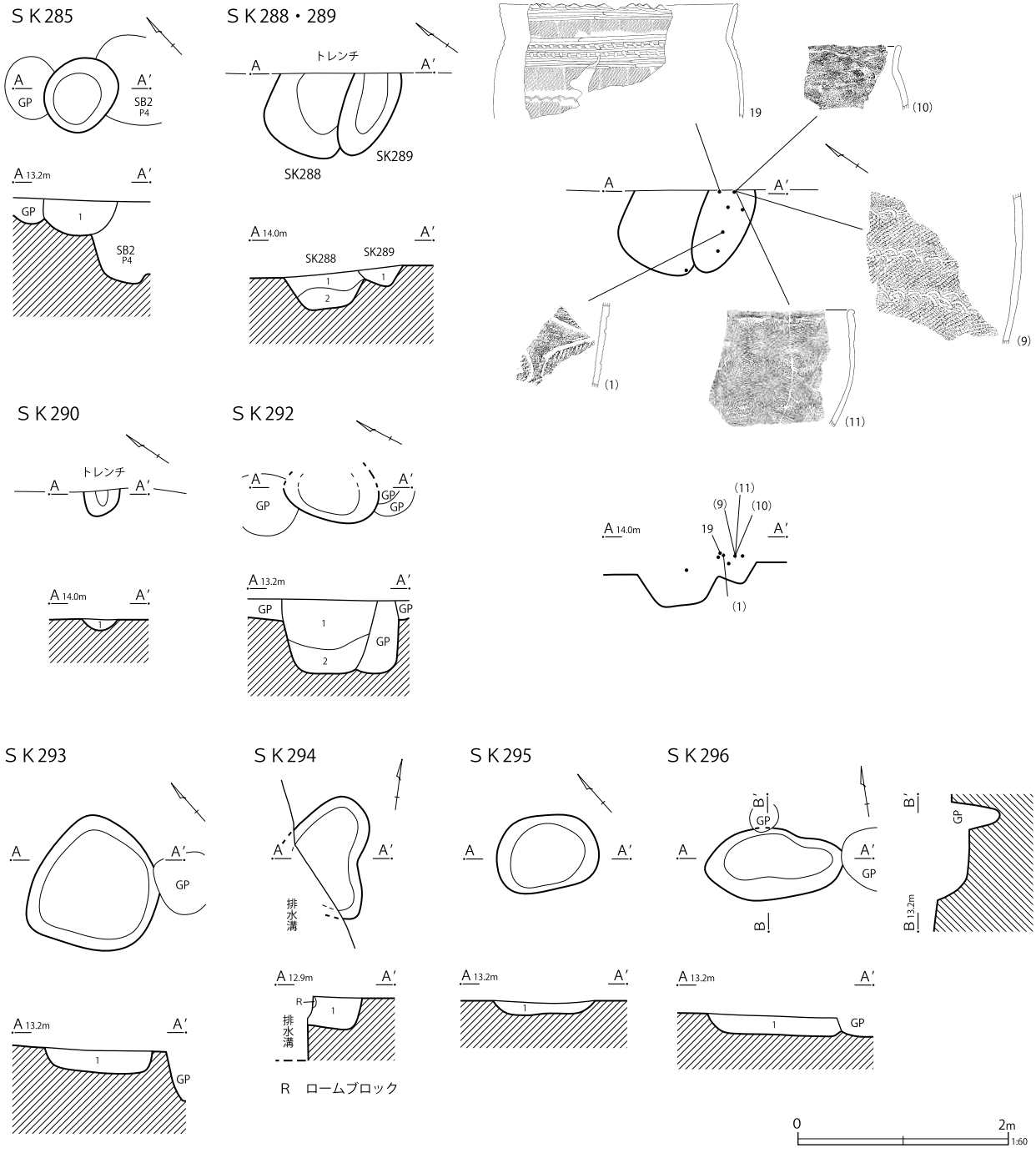
ＳＫ283
1　暗褐色土　　炭化物粒子・遺物含む
2　暗黄褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）
3　暗黄褐色土　ロームブロック（多）

ＳＫ291
1　黄褐色土　　ローム（少）　炭化物粒子（微）　粘性（強）　しまり（良）
2　黄褐色土　　ローム（少）　粘性（強）　しまり（良）
3　黄褐色土　　粘性（強）　しまり（良）

ＳＫ304
1　暗褐色土　　ローム小ブロック・炭化物粒子・骨片含む
2　暗褐色土　　ロームブロック（多）

ＳＫ312
1　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子（多）　炭化物粒子（中）
　　焼土粒子（微）　土器片（多）　しまり（良）　一括埋土

第148図　土壙（２）



S K 285
1　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　骨片含む　一括埋土

S K 288
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）
2　黄褐色土　粘質　ローム粒子（多）　しまり（良）

S K 289
1　暗褐色土　粘質　暗灰褐色土・褐色土ブロックとの混土
　　遺物（多）　しまり（良）

S K 290
1　黒色土　　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　骨片・遺物（多）

S K 292
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　遺物含む
2　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）

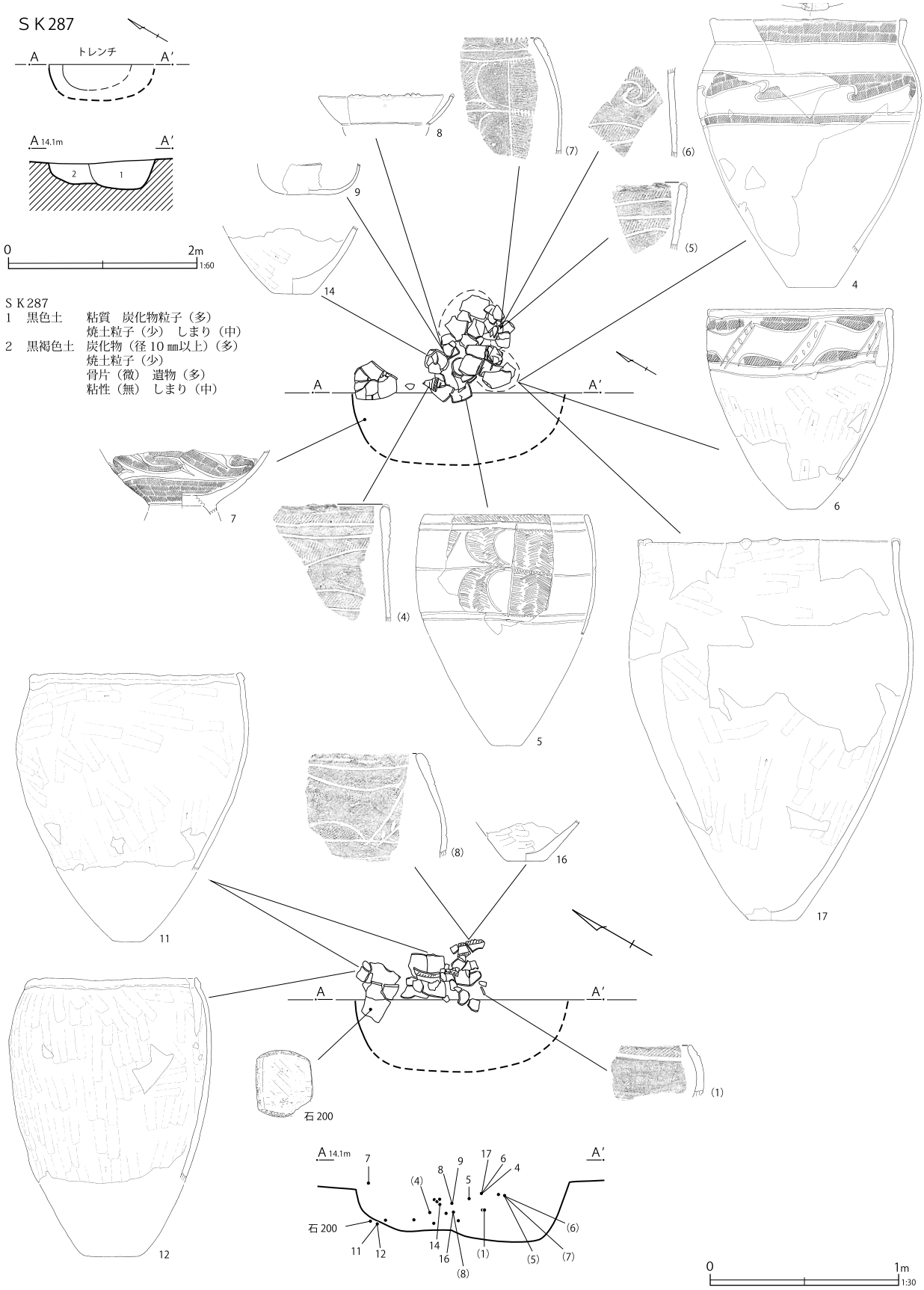
S K 293
1　黒褐色土　ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（欠）

S K 294
1　黒褐色土　炭化物粒子・骨片含む　しまり（欠）

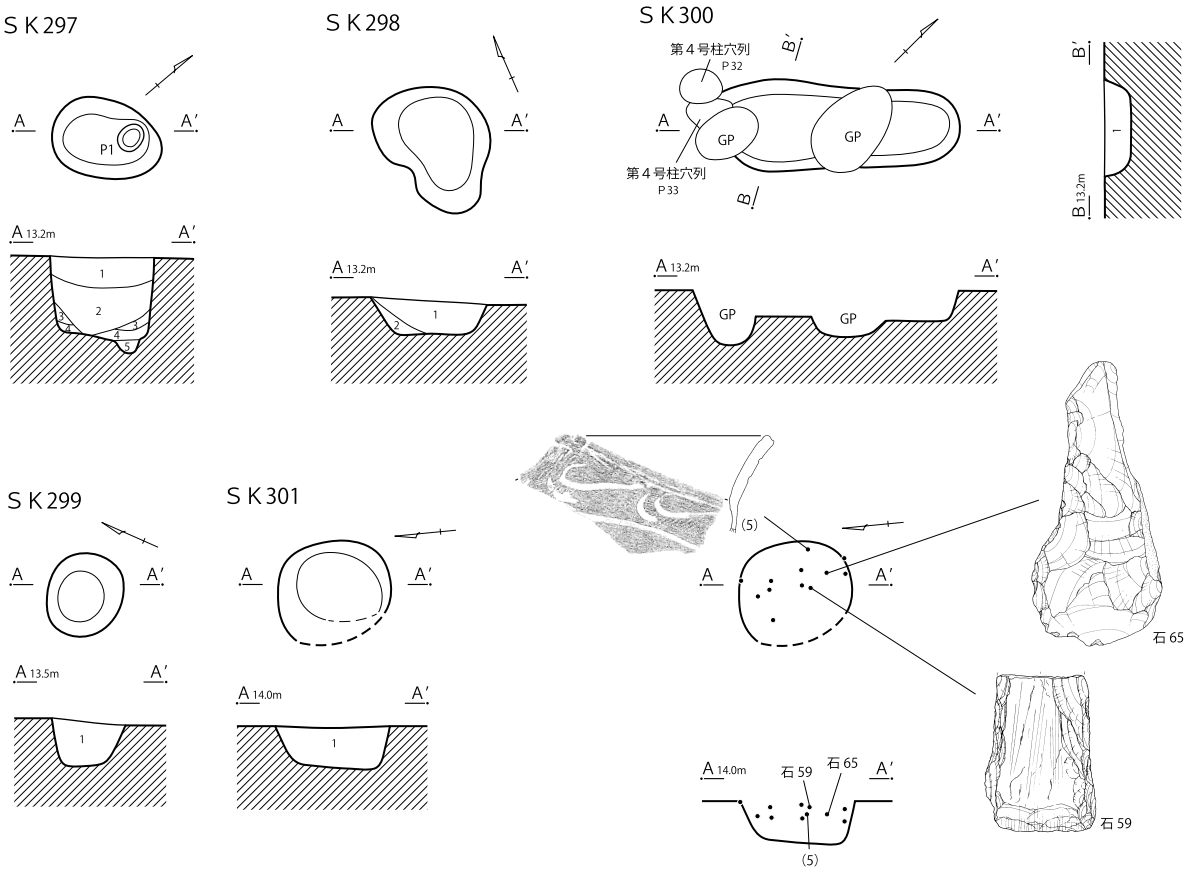
S K 295
1　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（良）

S K 296
1　灰褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（径３～８㎜）（少）
　　焼土粒子（微）　しまり（良）

第149図　土壙（３）


ＳＫ287
トレンチ
A
A′
A 14.1m
2
1
0
2m
1:60
ＳＫ287
1　黒色土　粘質　炭化物粒子（多）
焼土粒子（少）　しまり（中）
2　黒褐色土　炭化物（径 10 ㎜以上）（多）
焼土粒子（少）
骨片（微）　遺物（多）
粘性（無）　しまり（中）
石 200
0
1m
1:30

第150図　土壙（４）



S K 297
1　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒子（少）　炭化物粒子・骨片（多）
2　暗褐色土　大型ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
3　暗褐色土　ブラックバンドブロック（多）
4　暗黄褐色土　ブラックバンドブロック・ロームブロックとの混土
5　灰褐色土　ローム粒子（径８㎜）（多）　炭化物粒子（少）　しまり（良）
ロームとの混土　埋土

S K 298
1　暗褐色土　ローム粒子（径２～10㎜）（中）
炭化物粒子（径２～10㎜）（多）　骨小片（微）　しまり（良）
2　茶褐色土　ローム粒子（径２～10㎜）（多）　炭化物粒子（微）　骨小片（微）

S K 299
1　黒褐色土　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）

S K 300
1　暗褐色土　ロームブロック含む　炭化物・焼土（少）　骨片含む　一括埋土

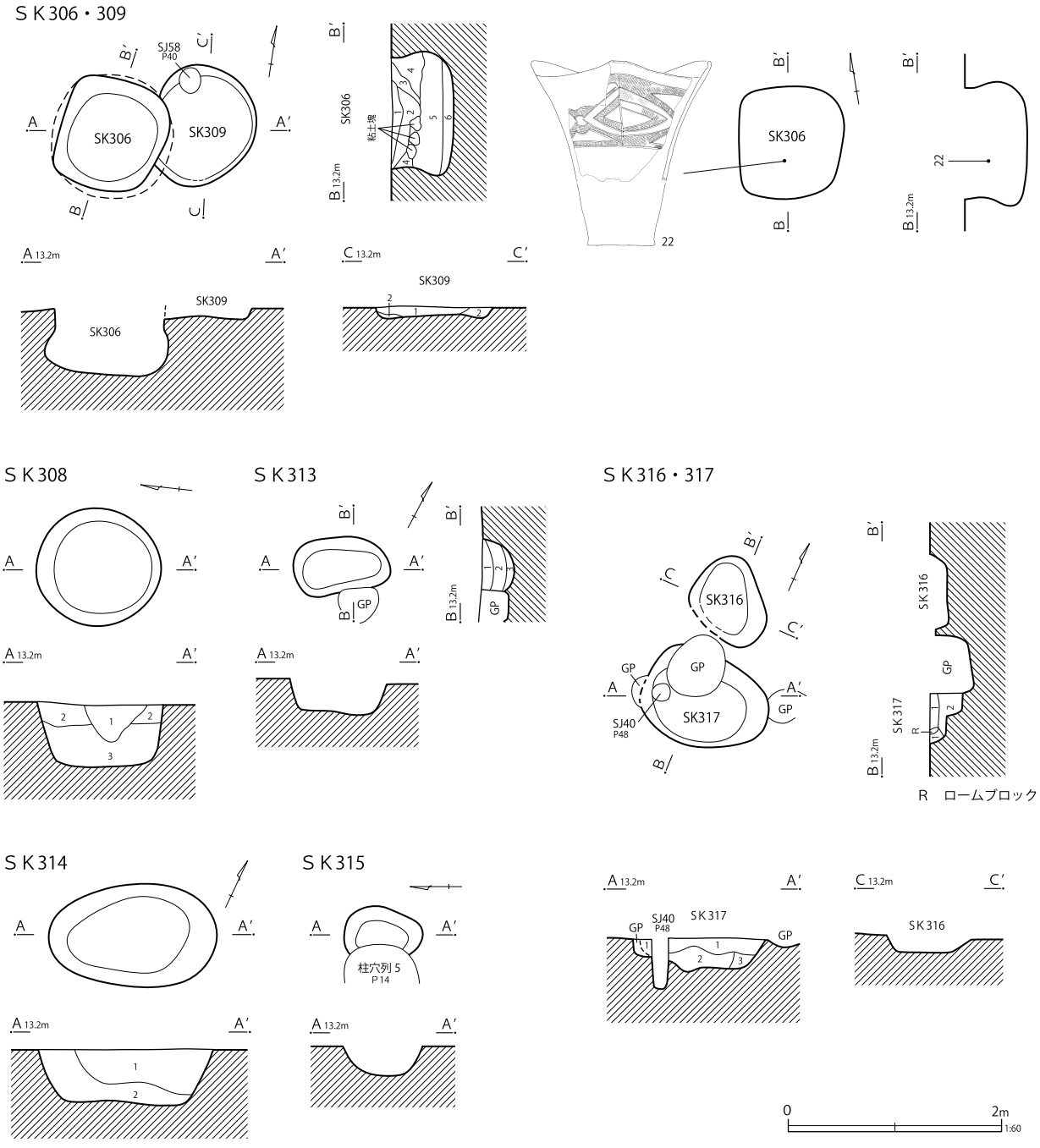
S K 301
1　暗褐色土　ローム粒子（微）　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）

S K 303
1　灰褐色土　ローム粒子（多）炭化物粒子（少）　埋土
2　黄褐色土　ローム粒子（少）　骨小片（微）
ロームとの混土　埋土

S K 305
1　暗褐色土　炭化物粒子・骨片（少）
2　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（欠）
3　暗黄褐色土　ロームブロック（多）
4　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）
5　暗黄褐色土　ロームブロック（多）

S K 307
1　暗褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（少）　しまり（良）

第151図　土壙（５）



S K 306
1　黒褐色土　炭化物粒子・焼土・骨片（多）　しまり（欠）
2　黒褐色土　炭化物粒子・焼土（多）　焼けた粘土塊を含む　しまり（欠）
3　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）
4　暗黄褐色土　ローム小ブロック（多）
5　暗褐色土　暗褐色土小ブロック（少）
6　暗黄褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）

S K 308
1　黒褐色土　ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　遺物含む
2　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）
3　暗褐色土　暗褐色土ブロック（多）　しまり（欠）

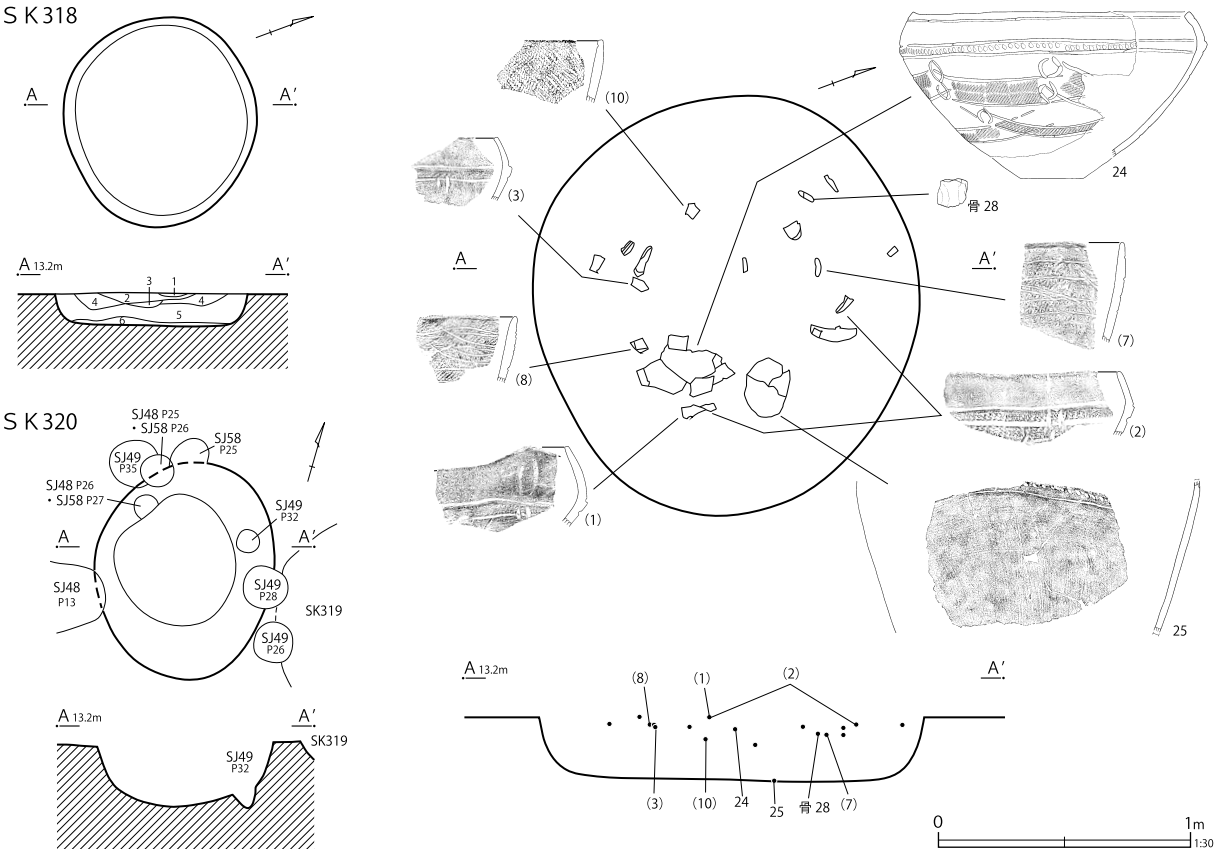
S K 309
1　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）
2　暗褐色土　ロームブロック（多）

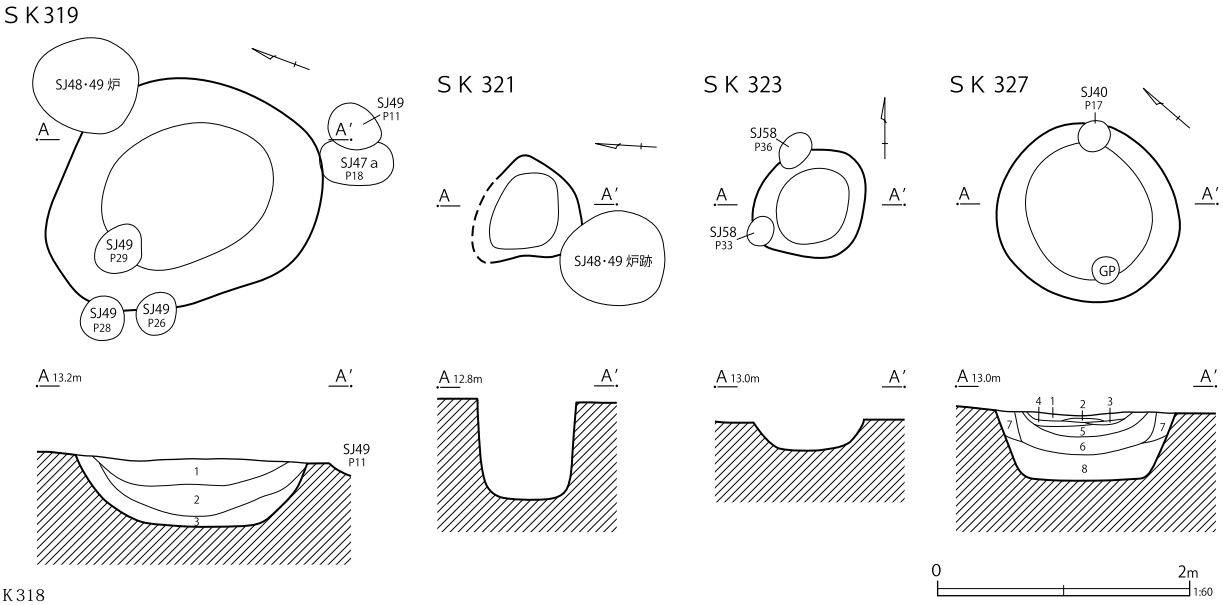
S K 313
1　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（中）　焼土粒子（微）　しまり（良）　埋土
2　暗褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）　埋土
3　黄褐色土　ローム土主体　しまり（良）

S K 314
1　褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・骨片（多）
2　褐色土　ロームブロック（少）　埋土

S K 317
1　灰褐色土　ローム粒子（中）　焼土粒子（微）　しまり（中）
2　暗黄灰色土　ローム土主体　ロームブロック（径２～４㎜）（少）　しまり（良）　埋土
3　暗黄灰色土　ソフトローム土主体　しまり（良）　埋土

第152図　土壙（６）





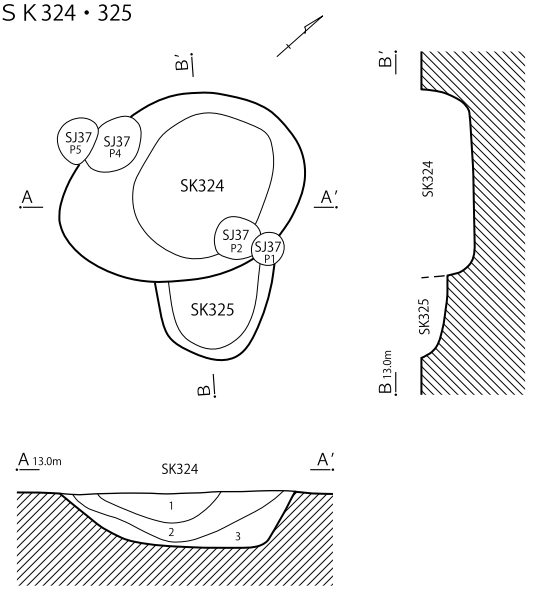
S K318
1　暗赤褐色土　焼土主体　炭化物粒子（少）
2　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　骨片（多）
3　赤褐色土　上面が火床面　炭化物粒子（多）
4　暗褐色土　炭化物（径 10 ～ 30 ㎜）・骨片（多）
5　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ㎜）・炭化物（径 10 ㎜）（少）
6　暗褐色土　粘性（強）

S K319
1　暗褐色土　粘質　焼土粒子（少）　暗褐色土ブロック（多）
2　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土　しまり（欠）
3　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック・ブラックバンド小ブロックとの混土　しまり（欠）

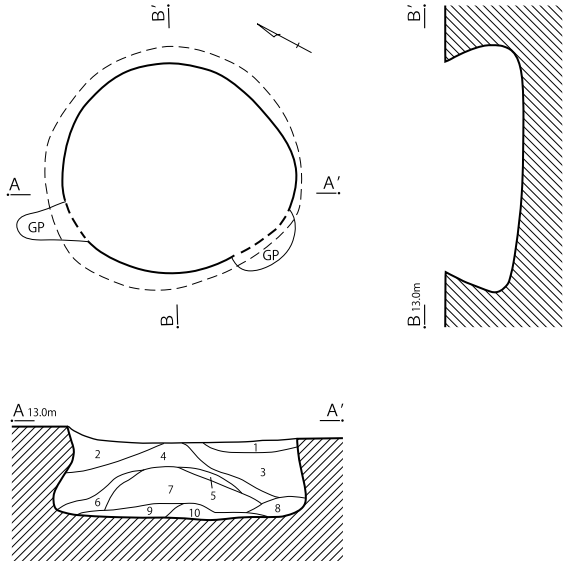
S K327
1　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・灰（少）　SJ43 貼床構築土
2　灰白色土　灰層
3　赤褐色土　焼土層
4　暗赤褐色土　焼土主体炭化物粒子・黒褐色土ブロック（少）　埋土
5　赤褐色土　焼土層　埋土
6　暗褐色土　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子・骨片（少）　しまり（欠）
7　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（良）
8　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）

第153図　土壙（７）

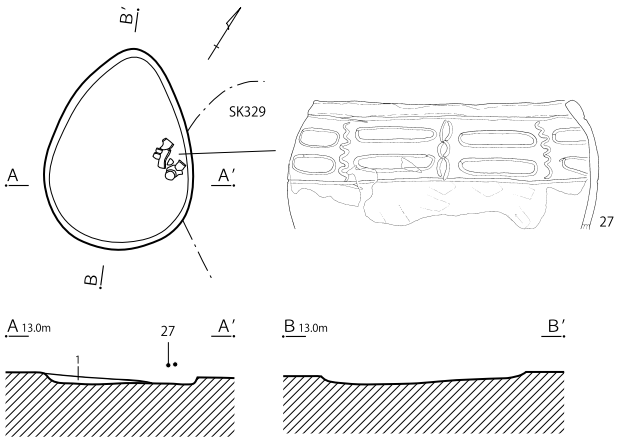
SK324・325



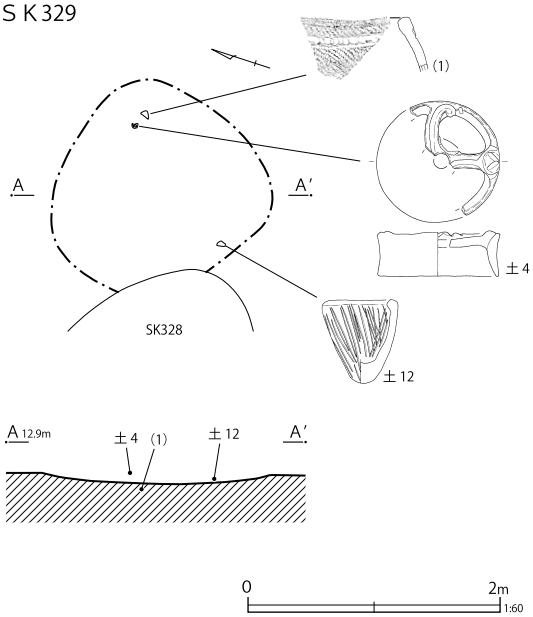
SK326



SK328



SK329



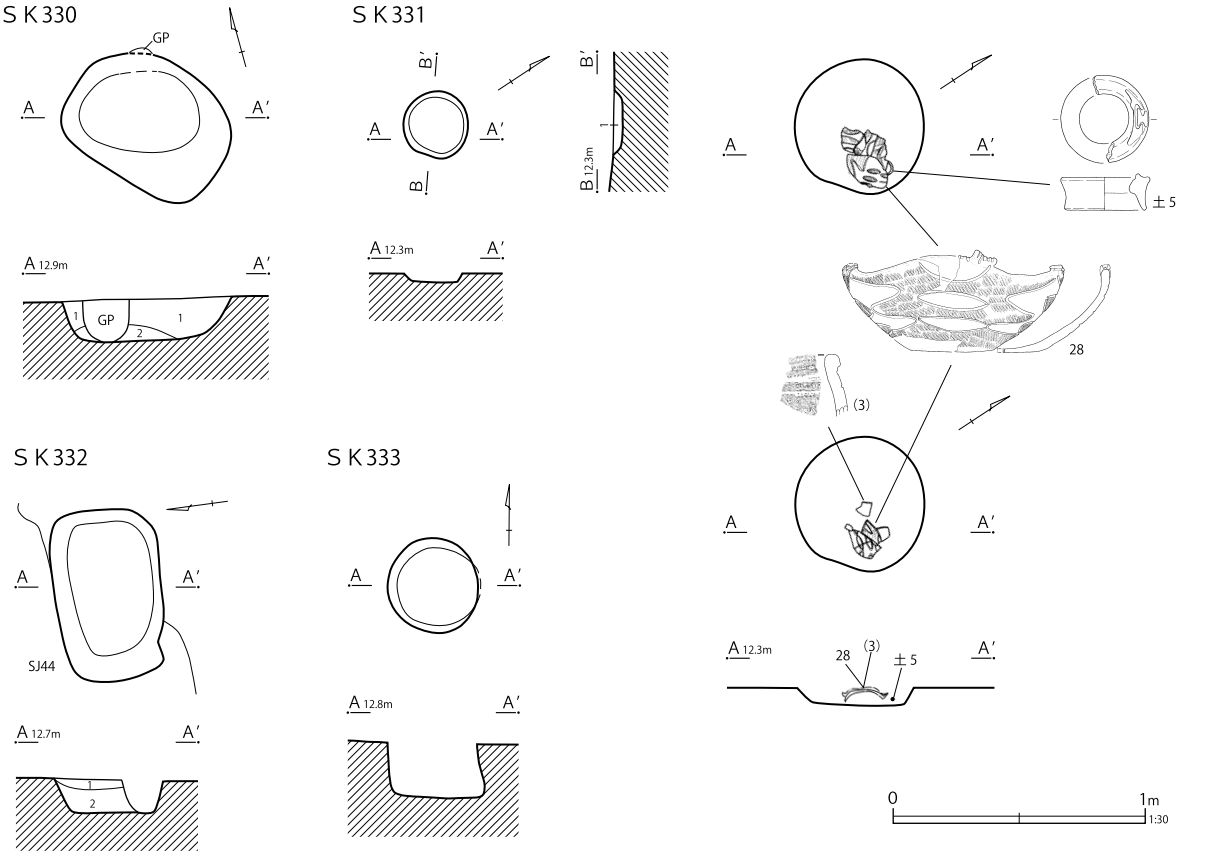
0 2m 1:60

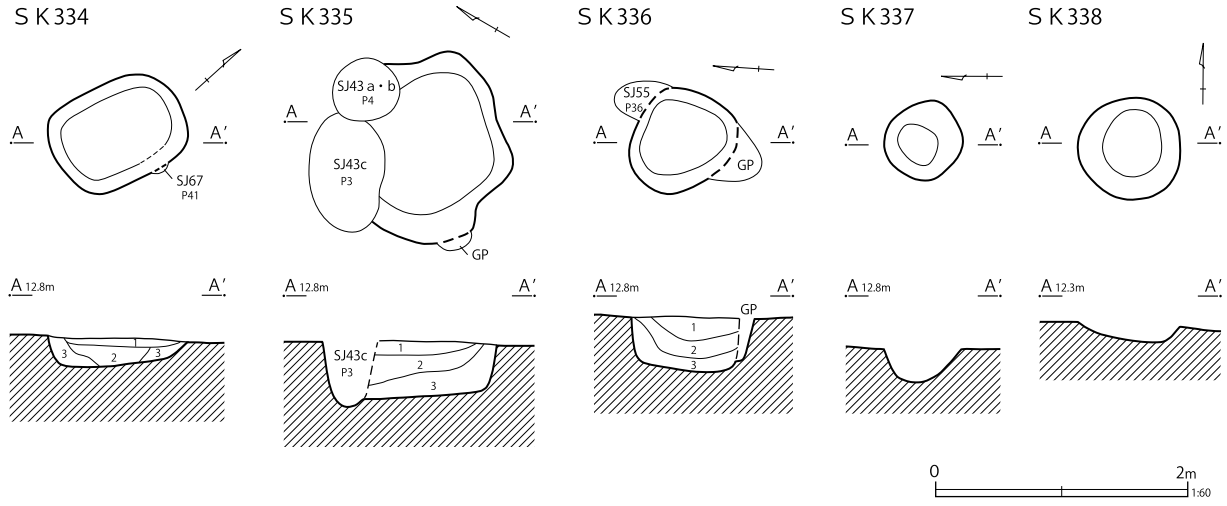
SK324
1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）　しまり（欠）
2　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（良）
3　暗黄褐色土　ロームブロック（多）

SK328
1　黒褐色土　ローム・炭化物粒子・焼土含む　粘性（強）

SK326
1　暗灰褐色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）・炭化物（径 20 ㎜）（少）　しまり（良）　埋土
2　暗灰褐色土　粘質　ローム粒子（径 5 ㎜）（少）　炭化物（無）　しまり（良）　埋土
3　暗灰褐色土　粘質　ローム粒子・炭化物粒子（微）　しまり（欠）　埋土
4　暗灰褐色土　粘質　ロームブロック（径 20 ㎜）（中）　炭化物（径 10 ㎜）（少）　しまり（欠）　埋土
5　暗黄褐色土　焼土ブロック（径 30 ㎜）（少）　しまり（欠）　包含層土
6　暗灰褐色土　暗褐色土ブロック（少）　焼土粒子（径 5 ㎜）（少）　しまり（欠）　包含層土
7　暗黄褐色土　暗黄褐色土ロームブロック・明黄褐色土ロームブロック（径 10 ～ 30 ㎜）　含む　しまり（欠）　開口部からの流入土
8　暗黄褐色土　明黄褐色土ロームブロック（径 10 ～ 30 ㎜）（多）　壁土の崩壊ブロック
9　暗黄褐色土　炭化物（径 10 ㎜）（微）
10　暗黄褐色土　粘質　明黄褐色土ロームブロック・暗黄褐色土ロームブロック（径 10 ～ 30 ㎜）含む

第154図　土壙（８）





S K330
1　暗灰黄色土　粘質　ロームブロック（径 10 ㎜）（少）　しまり（中）
2　暗灰黄色土　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）

S K331
1　暗黄褐色土　粘質　炭化物（少）　鉄分（多）　しまり（欠）

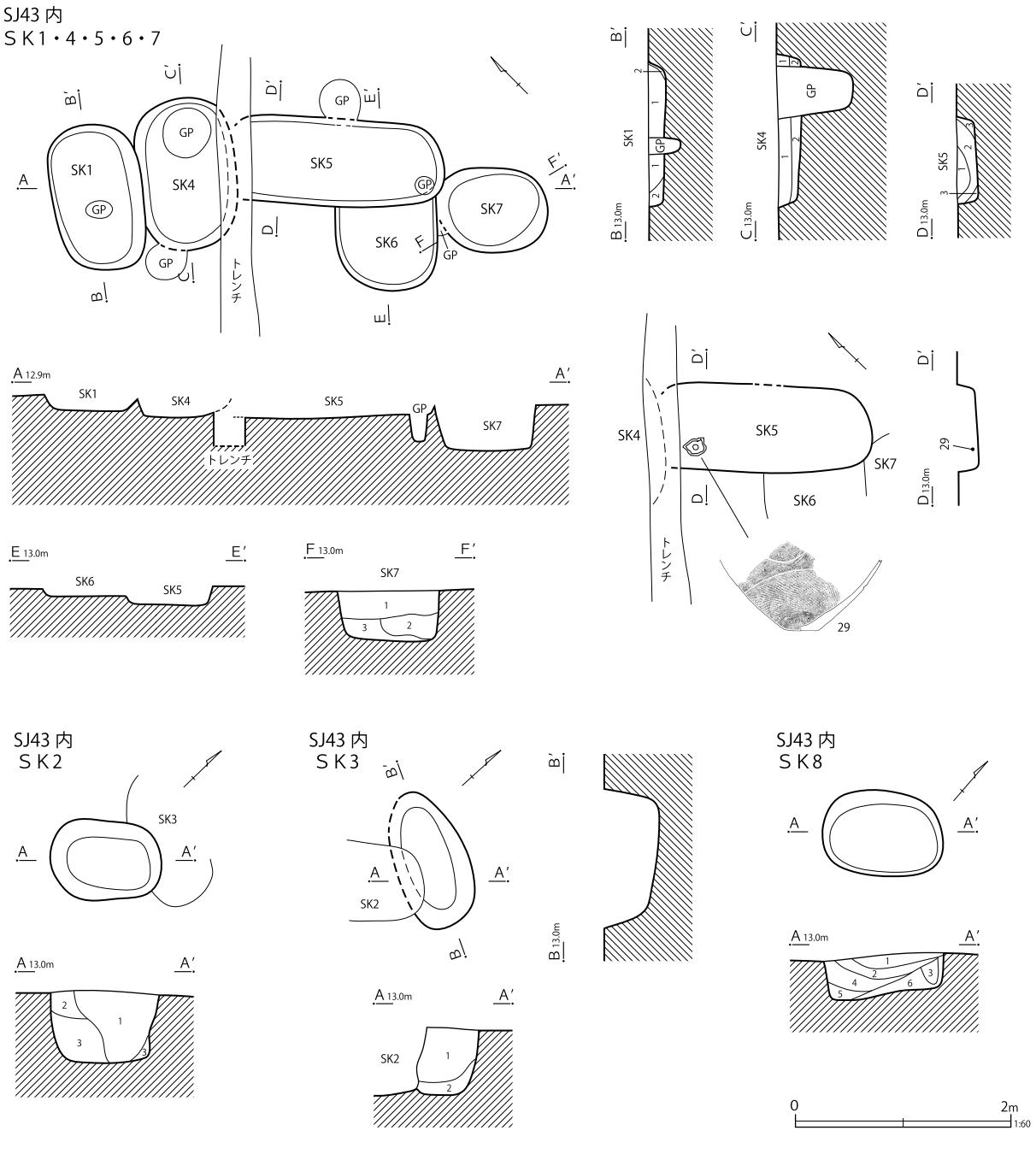
S K332
1　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）
2　暗褐色土　　粘質　ロームブロック・炭化物粒子（少）

S K334
1　黒褐色土　　粘質　炭化物粒子・暗褐色土ブロック（少）
2　暗褐色土　　粘質　ロームブロック（多）
3　暗黄褐色土　粘質　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土

S K335
1　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子・暗褐色土ブロック（少）
2　暗褐色土　　粘質　ローム小ブロック（少）　しまり（欠）
3　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック・暗褐色土との混土

S K336
1　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子（少）　暗褐色土主体　ロームブロック（多）
2　暗褐色土　　粘質　ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土
3　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック（多）

第155図　土壙（９）



ＳＪ43 内　ＳＫ１
1　暗褐色土　　焼土粒子・炭化物粒子含む　しまり（欠）
2　暗褐色土　　暗褐色土ブロック（少）　掘り方

ＳＪ43 内　ＳＫ２
1　黒褐色土　　シルト質　ロームブロック（径 20 ㎜）（多）　炭化物粒子（少）
　　しまり（欠）
2　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）　しまり（欠）
3　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック（多）　掘り方

ＳＪ43 内　ＳＫ３
1　暗褐色土　　シルト質　炭化物粒子（多）　暗褐色土・ロームブロックとの混土
　　しまり（欠）
2　黄褐色土　　粘質　ロームブロック（多）　掘り方

ＳＪ43 内　ＳＫ４
1　暗褐色土　　粘質　ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子（少）
2　暗黄褐色土　粘質　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土

ＳＪ43 内　ＳＫ５
1　暗褐色土　　炭化物粒子・焼土粒子（少）
2　暗褐色土　　暗褐色土小ブロック・ロームブロック（少）
3　暗黄褐色土　暗褐色土ブロック・ロームブロックとの混土

ＳＪ43 内　ＳＫ７
1　暗褐色土　　炭化物粒子（少）　暗褐色土ブロック（多）
2　暗黄褐色土　ロームブロック（少）
3　暗黄褐色土　ロームブロック（多）

ＳＪ43 内　ＳＫ８
1　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（少）　しまり（欠）
2　暗褐色土　　粘質　暗褐色土ブロック（多）
3　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
4　暗褐色土　　粘質　炭化物粒子（微）　しまり（欠）
5　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック含む
6　黄褐色土　　粘質　ロームブロック（多）

第156図　土壙（10）

第３表　土壙墓一覧表(第147図)

番号	グリッド	平面形	長軸方位	長径/m	短径/m	深さ/m	重複遺構		
							古	新	不明
277	H-６・７	長方形	N-79° -E	2.00	0.75	0.05	SJ37･46･50･56		
310	F-５	隅円長方形	N-44° -W	1.20	0.50	0.20			
311	F-５・６	隅円長方形	N-50° -E	[0.75]	0.70	0.30			

第４表　土壙一覧表（１）（第148～156図)

番号	グリッド	平面形	長軸方位	長径/m	短径/m	深さ/m	重複遺構		
							古	新	不明
45	J・K-８	楕円形	N-88° -E	1.40	1.10	0.24			
46	J-８	楕円形	N-60° -E	1.18	0.88	0.23			
47	I・J-８	楕円形	N-24° -W	1.30	1.06	0.22			
280	G-６	不整円形	N-89° -W	1.42	1.32	0.26	SK312		
281	G-５	楕円形	N-55° -E	1.18	0.66	0.42	SK291		
282	G-６	楕円形	N-39° -W	1.75	0.94	0.42	SJ51、SK304、SB2･3		
283	G-６	不整楕円形	N-64° -E	(0.95)	0.50	0.64	GP		
285	G-６	円形	N-78° -E	0.74	0.64	0.33	SB2		SJ51
287	H-６	楕円形	N-33° -W	1.02	[0.56]	0.37	SJ60		
288	I-６	楕円形	N-80° -E	[0.86]	0.78	0.33	SJ59	SK289	
289	I-６	楕円形	N-70° -E	[0.84]	0.48	0.18	SJ59、SK288		
290	I-６	円形	N-32° -W	0.34	[0.22]	0.10			
291	G-５	楕円形	N-35° -W	(1.42)	1.00	0.38		SK281	
292	G-６	楕円形	N-26° -W	0.50	[0.40]	0.70	GP		SJ51、SB4
293	G-５	不整方形	N-70° -E	1.20	1.07	0.22	柱穴列4		柱穴列5
294	H-５	不整形	N-34° -E	[0.73]	0.64	0.30			
295	G-６	楕円形	N-52° -W	0.96	0.70	0.12			SJ50･51
296	G-５	楕円形	N-81° -W	1.30	0.68	0.18			
297	G-５	楕円形	N-54° -E	0.89	0.62	0.65			柱穴列5
298	G-５	不整円形	N-0°	1.08	0.68	0.28			柱穴列4･5
299	H-５・６	円形	N-87° -E	0.67	0.58	0.36			SJ60･62
300	G-５	楕円形	N-43° -E	2.00	0.67	0.21	柱穴列5	柱穴列4、GP	
301	I-６	円形	N- 7° -E	0.90	(0.60)	0.34	SJ59･60･62、SK318		
303	H-６	楕円形	N-60° -W	1.76	0.77	0.07	SJ50	遺物集中18	
304	G-６	方形	N-32° -W	[0.90]	0.84	0.22		SK282	
305	H-６・７	円形	N-15° -W	1.18	1.10	0.38			SJ58
306	H・I-６	方形	N- 9° -E	1.06	0.96	0.64	SK309		SJ39
307	I-６	方形	N-29° -W	1.22	0.93	0.14	SJ59		
308	I-６	円形	不明	1.18	1.10	0.58			
309	H・I-６	円形	不明	1.12	0.97	0.10		SK306	SJ39
312	G-６	楕円形	N-40° -E	1.80	1.30	0.25		SK280	
313	G-６	楕円形	N-52° -E	0.90	0.50	0.30			
314	I-６	楕円形	N-65° -E	1.60	0.96	0.53			
315	G-５	楕円形	N-0°	0.75	[0.35]	0.27		柱穴列5	
316	I-６	不整円形	N-66° -W	0.79	(0.60)	0.14		SJ45	
317	I-６	楕円形	N-90° -W	1.20	0.88	0.30		SJ40、GP	
318	I-６	円形	不明	1.67	1.54	0.26	SJ59･60･62	SK301	
319	I-７	不整円形	N-36° -W	2.26	1.77	0.54		SJ45･48･49･58	
320	I-６・７	楕円形	N-18° -W	1.71	1.44	0.50		SJ48･49･58	

第５表　土壙一覧表（２）（第148～156図）

番号	グリッド	平面形	長軸方位	長径	短径	深さ	重複遺構		
				/m	/m	/m	古	新	不明
321	H・I-7	不整円形	不明	(0.92)	0.80	0.80		SJ48･49	
323	I-6	円形	不明	0.94	0.92	0.23			SJ58
324	H-7	不整楕円形	N-23° -E	2.00	1.46	0.44	SK325	SJ37･57	
325	H-7	楕円形	N-53° -W	[0.63]	0.90	0.20		SJ37･57、SK324	
326	G・H-6	円形	不明	1.84	1.66	0.70		SJ50	
327	J-7	円形	不明	1.46	1.27	0.54	SJ43b･c･67	SJ40･43a	
328	K-7	不整楕円形	N-25° -W	1.60	1.16	0.07	SJ43･44･64、SK329		
329	K-7	不整円形	N-17° -W	(1.75)	(1.68)	－	SJ43･44･64	SK328	
330	H-6	楕円形	N-45° -W	1.30	0.98	0.34		SJ39･59、遺物集中19	
331	K-8	円形	不明	0.55	0.50	0.10			
332	K-7	隅円長方形	N-86° -W	1.36	0.82	0.21	SJ44a		
333	J-7	円形	不明	0.77	0.71	0.42		SJ43	SJ67
334	J-7	隅円長方形	N-14° -E	1.06	0.79	0.22		SJ43	SJ67
335	J-7・8	不整円形	N-79° -E	1.52	(1.20)	0.46		SJ43	
336	J-6	不整円形	N-58° -W	0.85	(0.74)	0.42			SJ55
337	J-7	円形	不明	0.63	0.62	0.26		SJ43	
338	K・L-7	円形	不明	0.82	0.80	0.15		遺物集中16	SJ65
SJ43内SK1	J-7	楕円形	N-38° -E	1.35	0.82	0.16	SJ43･67		
SJ43内SK2	J-7	楕円形	N-43° -E	1.02	0.72	0.67	SJ43内SK3	SJ40･43	
SJ43内SK3	I・J-7	楕円形	N-66° -W	1.30	(0.66)	0.62		SJ40･43、SJ43内SK2	
SJ43内SK4	J-7	楕円形	N-41° -E	1.40	(0.90)	0.22	SJ43･67		
SJ43内SK5	J-7	楕円形	N-43° -W	[1.78]	0.81	0.20	SJ43、SJ43内SK6		
SJ43内SK6	J-7	楕円形	N-42° -E	[0.77]	0.94	0.08	SJ43･67	SJ43内SK5	
SJ43内SK7	J-7・8	楕円形	N-46° -W	1.02	0.78	0.46	SJ43		
SJ43内SK8	J-6・7	楕円形	N-47° -E	1.11	0.80	0.39	SJ43		

３．遺物集中

遺物集中の分布は、盛土やや内縁側に多く検出された。但し、遺物集中16は外縁緩傾斜面で検出された。集中箇所は、土壙の上層及び、周囲で検出され、これらの土壙と有機的な関係が窺われた。また遺物集中19では多量の骨片が出土した。北盛土においても、同様に土壙墓群の上層や周囲から検出された。径１ｍ前後の範囲内で、晩期前葉から中葉にかけての、浅鉢・台付鉢・深鉢形土器等と共に、打製石斧・磨石・石皿等が出土した。

遺物集中９（Ⅰ－第158図）遺物（Ⅱ－第315・316・319図）

Ａ区Ｈ－７グリッドに所在した。第37号住居跡上層で検出された。東側で第324・325号土壙と、西側で第305号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。径0.7ｍの範囲内で晩期の粗製深鉢形土器４個体分の大形破片がつぶれた状態で出土した。この他に晩期前葉から中葉の精製深鉢形土器等が出土した。

遺物集中10（Ⅰ－第158図）遺物（Ⅱ－第316・317・319図）

Ａ区Ｈ－６グリッドに所在した。第50号住居跡の上層で検出された。東側で第277号土壙と、西側で第303号土壙と隣接していた。第277号土壙脚部側壁面から1.3ｍ離れていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

径0.75ｍの範囲内で晩期前葉から中葉にかけての粗製深鉢形土器３個体分の大形破片がつぶれた状態で出土した。周囲から台付鉢・精製深鉢形土器破片が出土した。

遺物集中12（Ⅰ－第159図）遺物（Ⅱ－第317・319・320・368・397図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第59号住居跡上層で検出された。東側で第288・289号土壙と、西側で焼土跡12・粘土塊１と、北側で第301・318号土壙と隣接していた。第288号土壙西脇であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

長径1.90ｍ、短径0.70ｍの範囲内で晩期前葉の鉢・深鉢形土器、土偶・耳飾り、石皿が散乱した状態で出土した。この他に後期中葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器が出土した。

遺物集中16（Ⅰ－第160図）遺物（Ⅱ－第318・320・382・387図）

Ａ区Ｋ・Ｌ－７グリッドに所在した。第65号住居跡と重複していたが重複関係は不明であった。第338号土壙の一部を切っていた。北側で第332号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

長径0.96ｍ、短径0.74ｍの範囲内でわずかな窪みに製塩土器や晩期前葉の浅鉢・台付鉢・深鉢形土器破片が纏まって出土した。

遺物集中18（Ⅰ－第160図）遺物（Ⅱ－第320・386・394図）

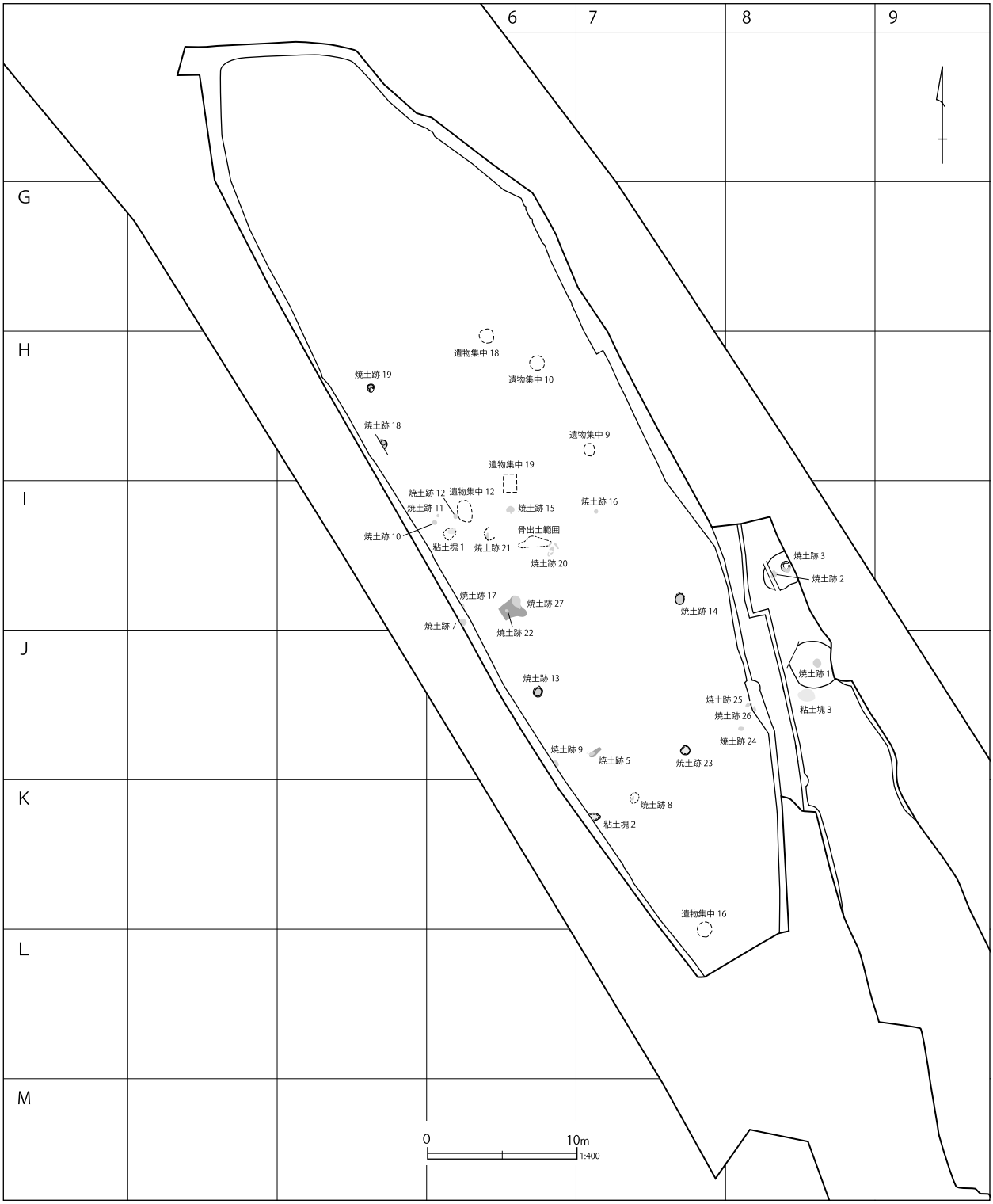
Ａ区Ｇ・Ｈ－６グリッドに所在した。第50号住居跡上層で検出された。第303号土壙中央部上層で検出された。東側で第277・295号土壙と、西側で第326号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

径0.5ｍの範囲内で晩期中葉の深鉢形土器、凹石・石皿が纏まって出土した。

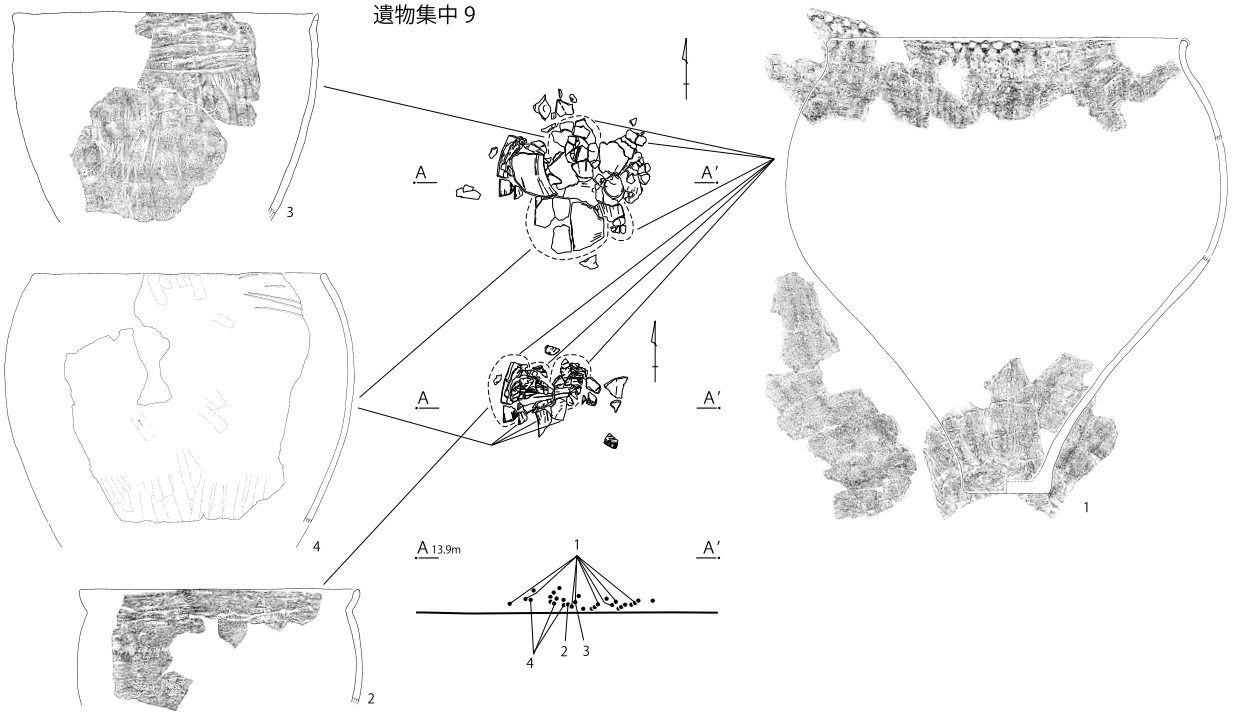
遺物集中19（Ⅰ－第161図）遺物（Ⅱ－第318・320・376・391・405図）

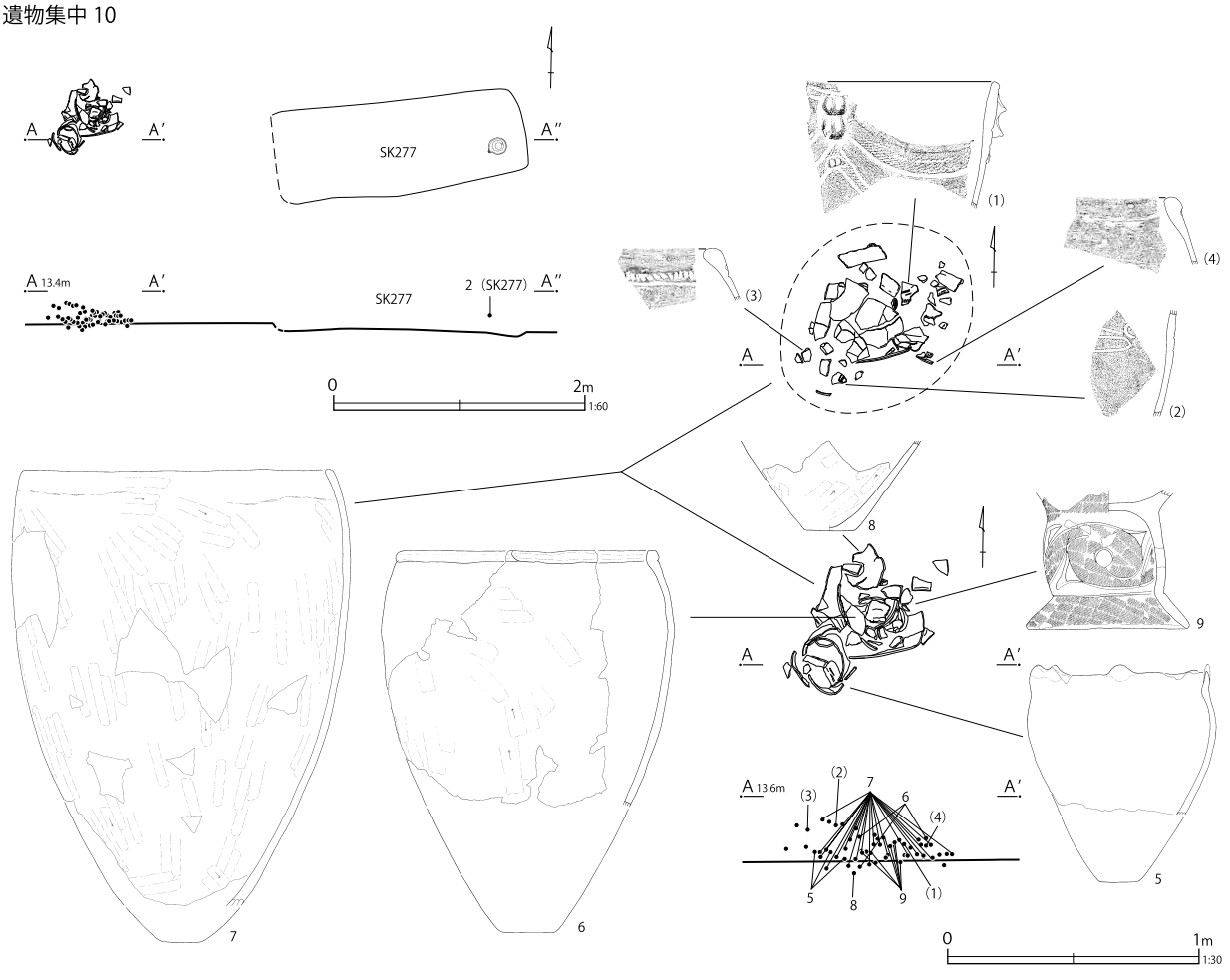
Ａ区Ｈ・Ⅰ－６グリッドに所在した。第39・59号住居跡上層で検出された。第330号土壙南脇上層で検出された。東側で第306・309号土壙と、南側で第307号土壙・焼土跡15と、西側で第301・318号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

0.5ｍ四方の範囲内で、晩期前葉の浅鉢形土器、打製石斧・磨石、鹿角他の大形骨片が散乱して出土した。



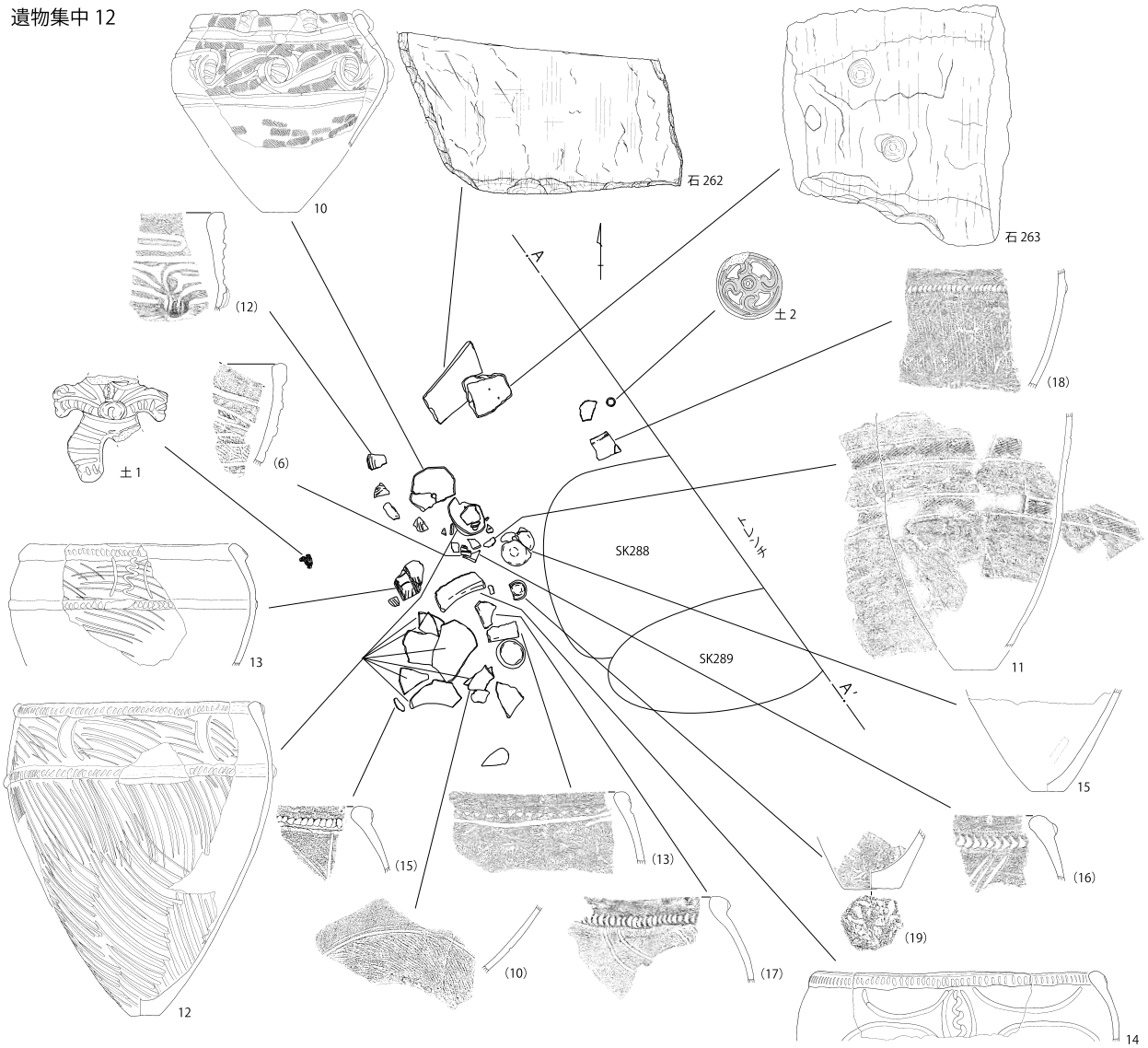
第157図　遺物集中・焼土跡

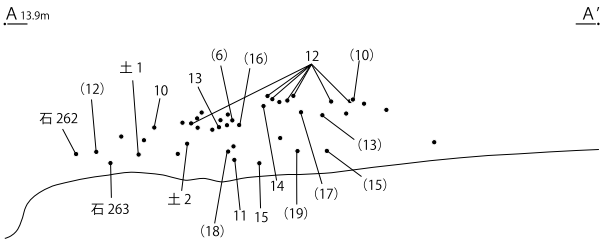

遺物集中 9
A
A′
A 13.9m
1
2
3
4

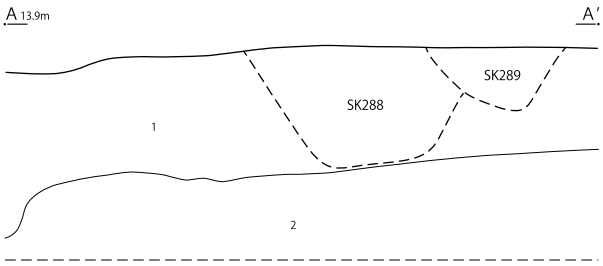

遺物集中 10
SK277
A 13.4m
2 (SK277)
0
2m
1:60
(1)
(2)
(3)
(4)
8
9
A 13.6m
5
1m
1:30

第158図　遺物集中（1）

遺物集中 12





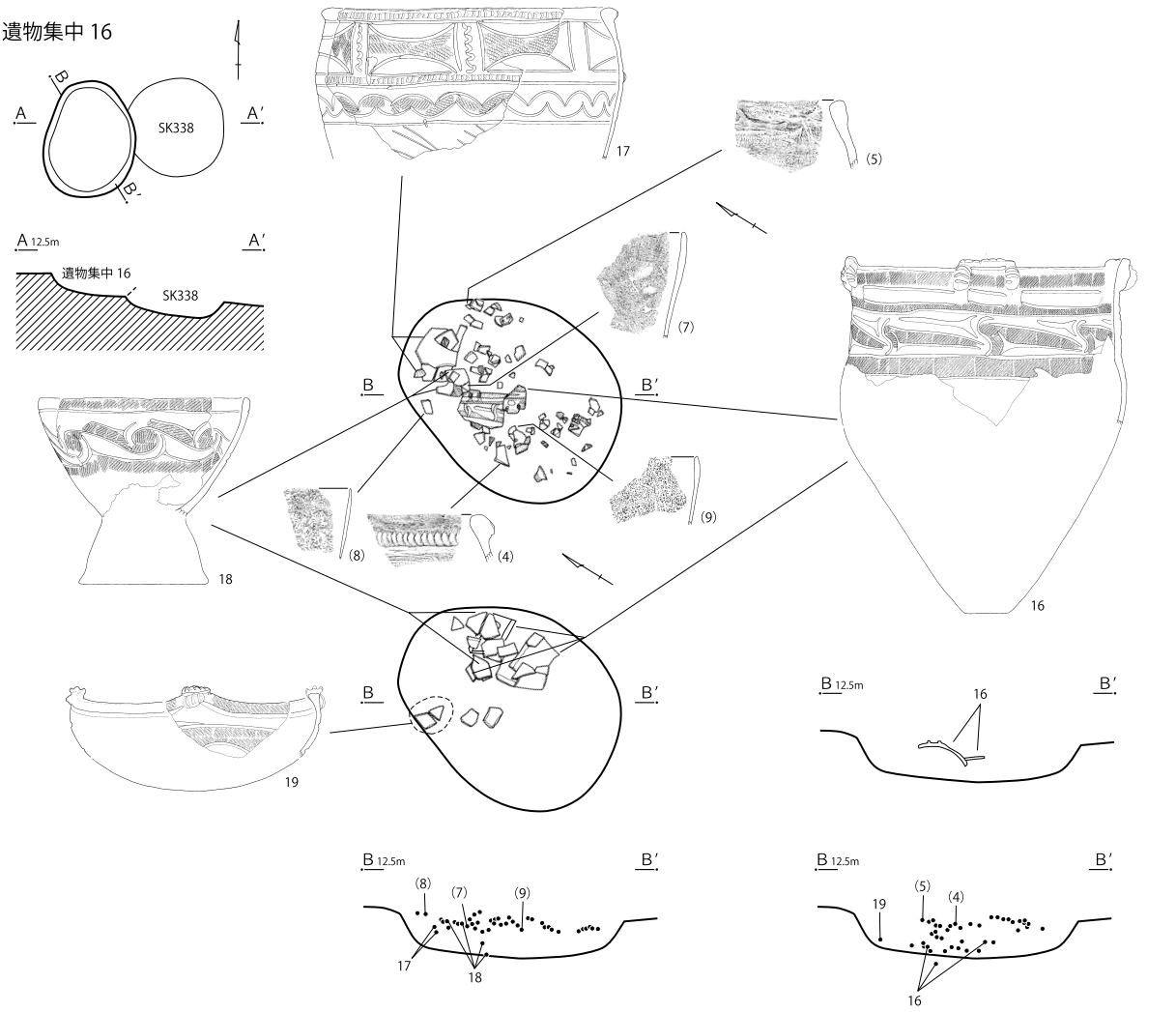


遺物集中 12
1　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径 10 ㎜）（多）
　　焼土粒子・骨片（少）　遺物（多）
　　しまり（中）
2　暗褐色土　粘質　褐色土・暗褐色土との混土
　　炭化物粒子・焼土粒子含む
　　遺物（中）　しまり（良）

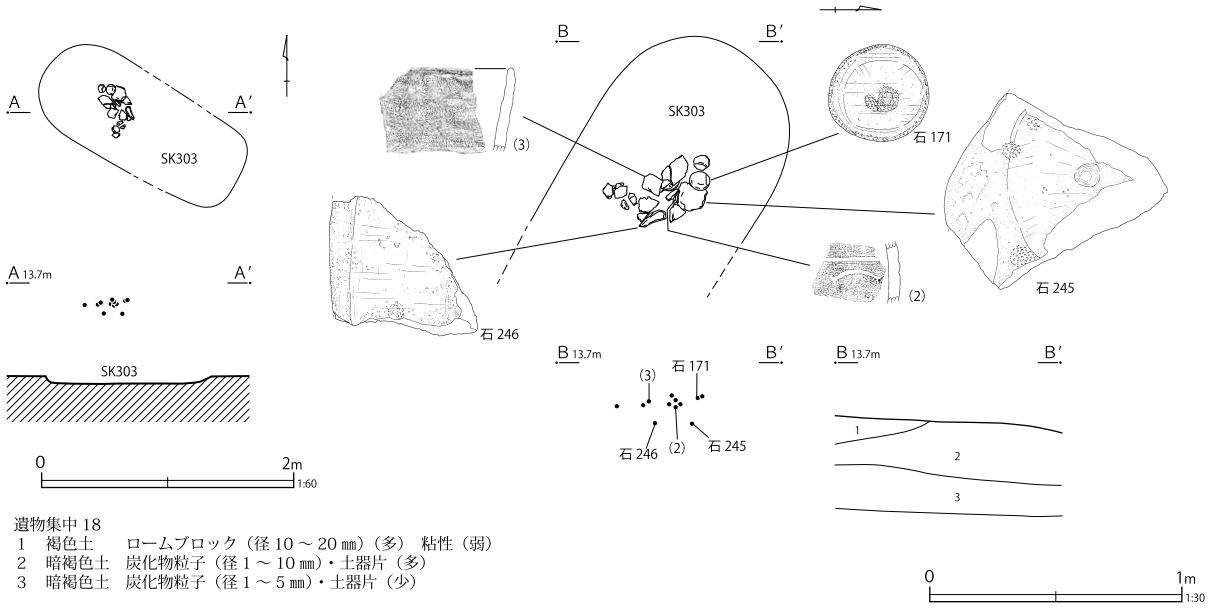
0　1m
1:30

第159図　遺物集中（２）

遺物集中 16



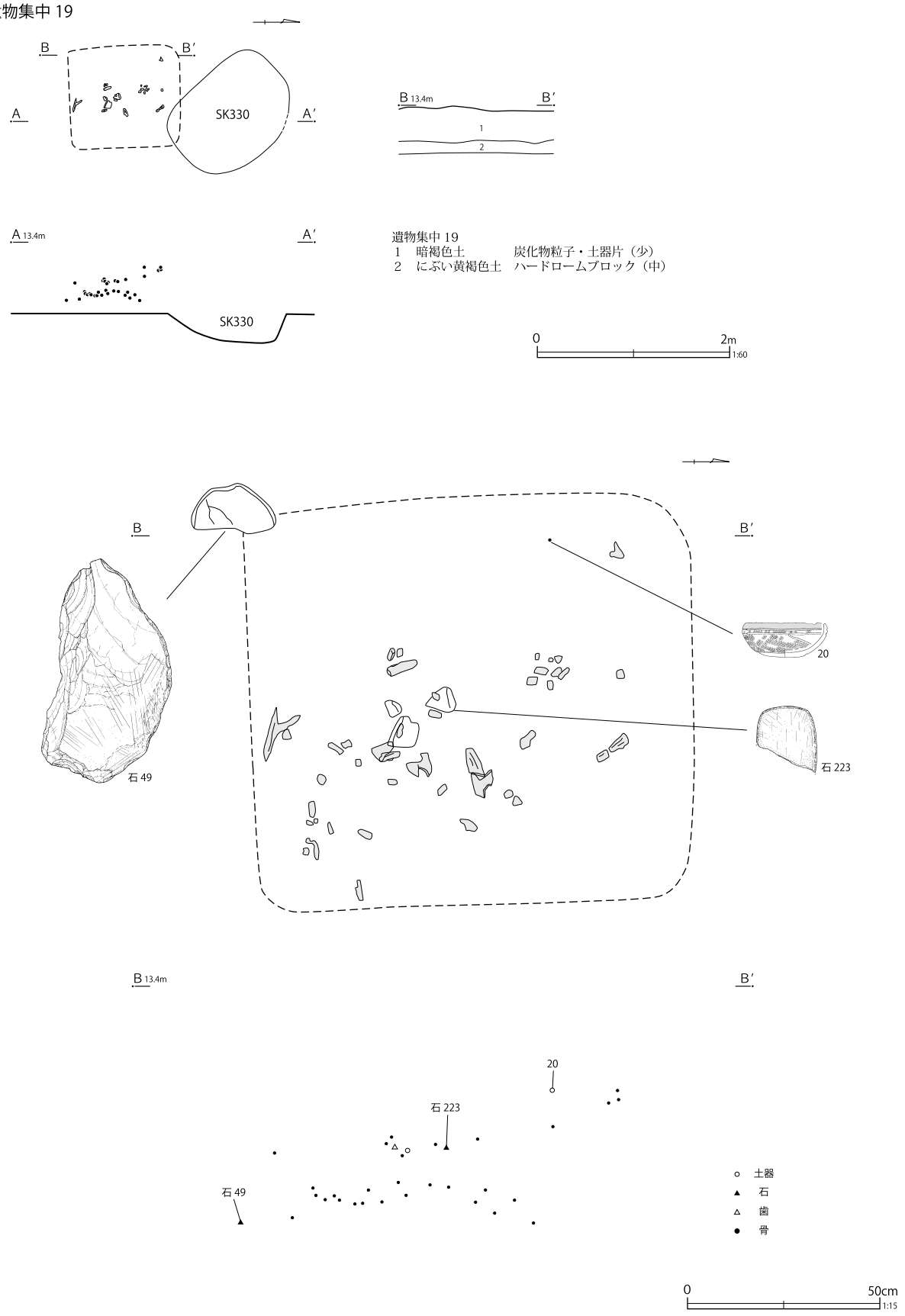
遺物集中 18



遺物集中 18
1　褐色土　　ロームブロック（径 10 ～ 20 ㎜）（多）　粘性（弱）
2　暗褐色土　炭化物粒子（径 1 ～ 10 ㎜）・土器片（多）
3　暗褐色土　炭化物粒子（径 1 ～ 5 ㎜）・土器片（少）

第160図　遺物集中（3）

遺物集中 19



第161図　遺物集中（4）

４．埋甕

埋甕の分布は、調査区西寄りＪ－６グリッドに集中していた。盛土の中央の標高の最も高い部分に位置していた。第１・２号埋甕は盛土包含層内で検出されたが、第３号埋甕は後期後葉の住居跡床面を切っていた。

なお、第２・３号埋甕に関連してＪ－６グリッドＰ53・62から、やや時期は古いながらも同様の状態で後期後葉の瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器が出土した。さらに、Ｉ－７グリッドＰ53とＰ62の中間に位置し、遺物を含まないが、覆土及び形状が同一のＩ－７グリッドＰ40・56が検出された。

これらのグリッドピットを含めて第２・３号埋甕からＪ－６グリッドＰ62までの位置関係は、約４ｍ間隔の直線的な列状配置となった。

第１号埋甕（Ｉ－第162図）遺物（Ⅱ－第321・373・375図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。第43号住居跡上層で検出された。第40号住居跡入り口部南西側約1.5ｍに位置していた。

北側で第40・45号住居跡・第２・３号埋甕と、東側で第67号住居跡・第327号土壙と、南側で第66号住居跡・第43号住居跡内８号土壙・第336号土壙・焼土跡５・９と、西側で第55・61・63号住居跡・焼土跡13と隣接していた。なお、第１号埋甕から約5.5ｍ北西側に第２・３号埋甕が位置していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

長径0.76ｍ、短径0.64ｍ、深さ0.33ｍの略円形の掘り込み中央に晩期の粗製深鉢形土器のほぼ完形１個体が正位で出土した。

埋甕容器内覆土は焼土・炭化物・骨片を含むしまりに欠ける土壌が充填されていた。容器外側覆土は、灰・炭化物・暗褐色土ブロックを含む埋土であった。また、底面には焼土が薄く堆積していた。

遺物は、覆土から石錐１点、二次加工剥片１点も出土した。

所属時期は晩期前葉と考えられる。

第２号埋甕（Ｉ－第162図）遺物（Ⅱ－第321図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。北側で第３号埋甕と隣接していた。第55号住居跡を切っていた。第61・63号住居跡の上層で検出された。

北側で第45号住居跡・焼土跡22・27と、東側で第40号住居跡と、南側で第43・66号住居跡・焼土跡13と、西側で焼土跡７と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

明確な掘り込みは検出されなかったが出土時の覆土の状況から推定範囲を設定した。推定長径1.04ｍ、推定短径0.76ｍで掘り込みの深さは不明であった。

遺物はほぼ中央から、後期後葉の半精製深鉢形土器1個体がつぶれた状態で出土した。また、別個体の深鉢形土器口縁部破片がともに出土した。

所属時期は後期後葉と考えられる。

第３号埋甕（Ｉ－第162図）遺物（Ⅱ－第321図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。南側で第２号埋甕と隣接していた。第61号住居跡と重複していたが、重複関係は不明であった。第55号住居跡柱穴に切られていた。

北側で第45号住居跡・焼土跡22・27と、東側で第40号住居跡と、南側で第43・63・66号住居跡・焼土跡13と、西側で焼土跡７と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第55号住居跡掘り下げに伴い土壙状の落ち込みを検出した。精査した結果、完形深鉢形土器１個体が出土したため埋甕と認定した。

長径0.62ｍ、短径0.58ｍ、深さ0.30ｍの不正円形であった。底面はすり鉢状で、覆土に多量のロームブロックが充填されていた。

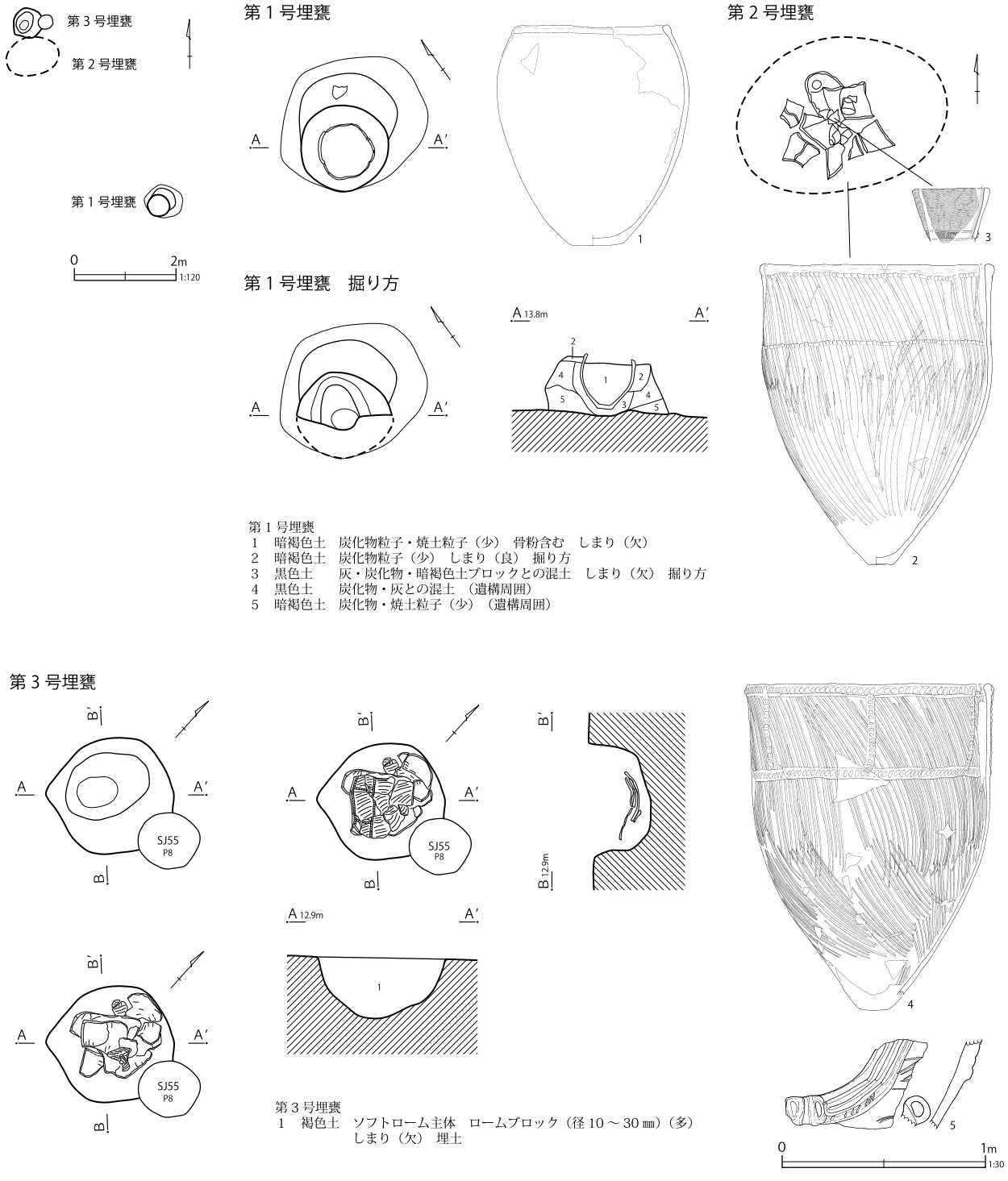
土壙底面東脇から半精製深鉢形土器底部が正位で出土した。底部を起点として口縁部から胴部ま

での１個体分は横転し、つぶれた状態で出土した。

掘り込みの一部が第55号住居跡Ｐ８によって壊されていたことから、第61号住居跡機能時から第55号住居跡に建て替えるまでの間に埋設されたものと考えられる。

この埋甕とともに後期後葉の波状口縁深鉢形土器破片が出土した。

所属時期は後期後葉から末葉と考えられる。



第162図　第１・２・３号埋甕

５．掘立柱建物跡

掘立柱建物跡の分布は、Ａ区北寄りＧ－６グリッドで纏まって検出された。また、Ａ区東壁際であった。盛土の内縁側緩傾斜面に位置していた。

掘立柱建物跡は合計３棟検出されたが、第２号掘立柱建物跡と第３号掘立柱建物跡は柱穴の一部が重複していた。第４号掘立柱建物跡は第２・３号掘立柱建物跡と柱穴の一部が接していた。各掘立柱建物跡の柱穴の掘り込みは他の柱穴と比較して大形で深かった。周囲にはグリッドピットが多数検出されたが、掘立柱建物跡として配列しうる柱穴を認定することはできなかった。

第２号掘立柱建物跡（Ⅰ－第163図）遺物（Ⅱ－第323・369図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。Ｐ１は第282号土壙に、Ｐ４は第285号土壙に切られていた。また、Ｐ３は第４号掘立柱建物跡Ｐ３と接していた。第51号住居跡、第４号掘立柱建物跡と重複していたが、新旧関係は不明であった。

北側で第283・304・313号土壙と、南側で第50号住居跡・第295・303号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

１間×１間であった。規模は南北方向長辺芯々距離が3.70m、東西方向短辺芯々距離が2.75mであった。長軸方位は、Ｎ－15°－Ｗを指す。

各柱穴の規模は、Ｐ1が長軸0.90m、短軸0.80m、深さ0.80mの方形の掘り込みであった。Ｐ２は長径0.80m、短径0.65m、深さ0.80mの不整楕円形の掘り込みであった。Ｐ３は径0.60m、深さ0.80mの円形の掘り込みであった。Ｐ４は長径0.95m、短径0.80m、深さ0.75mの円形の掘り込みであった。

底面は平坦、すり鉢状、中央に小柱穴がつく３種類が検出された。覆土にはロームブロック・焼土・骨片・炭化物を含むしまりに欠けた土壌が充填されていた。

遺物はＰ４から土偶が出土した。この他に覆土から後期中葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉以前と考えられる。

第３号掘立柱建物跡（Ⅰ－第164図）遺物（Ⅱ－第322・323図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。Ｐ１は第282号土壙に切られ、Ｐ２は一部が東側調査区外であった。Ｐ３はグリッドピットに、Ｐ４は第２号掘立柱建物跡Ｐ４に切られていた。また、Ｐ３は第４号掘立柱建物跡Ｐ３と接し、重複していたが新旧関係は不明であった。第51号住居跡を切っていた。

北側で第283・304・313号土壙と、南側で第50号住居跡・第295・303号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

１間×１間であった。規模は南北方向長辺芯々距離が3.50m、東西方向短辺芯々距離が2.50mであった。長軸方位は、Ｎ－６°－Ｗを指す。

各柱穴の規模は、Ｐ1が長径0.40m、短径0.30m、深さ0.65mの不正円形の掘り込みであった。Ｐ２は残存長径0.50m、短径0.45m、深さ0.90mの楕円形の掘り込みであった。Ｐ３は長径1.30m、短径0.70m、深さ0.75mの楕円形の掘り込みであった。Ｐ４は推定長径0.95m、短径0.85m、深さ0.70mの円形の掘り込みであった。

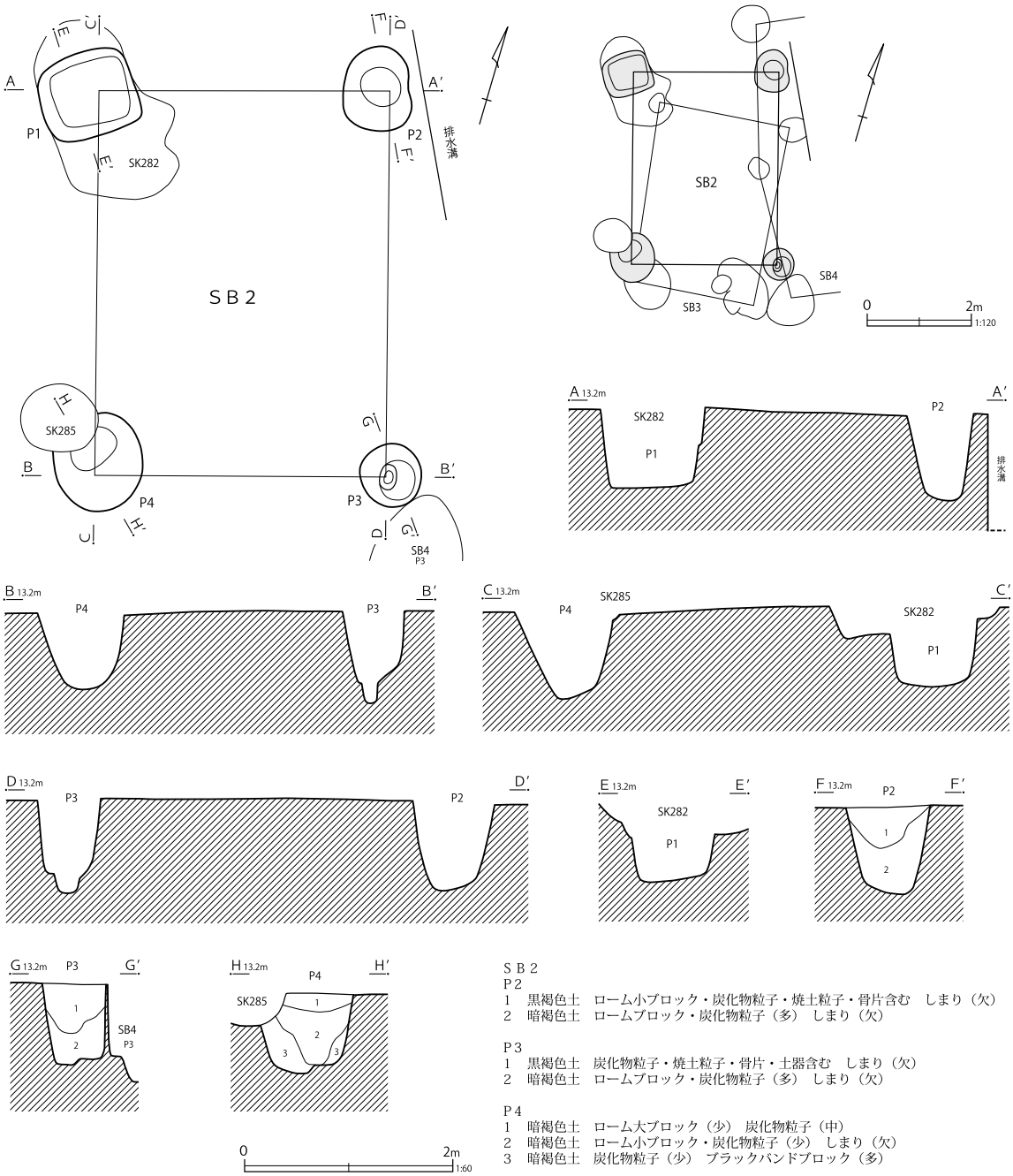
底面はＰ３が２段の掘り込みで、他はすり鉢状であった。覆土はＰ３がロームブロック・焼土・骨片・炭化物を含むしまりに欠けた土壌が充填されていた。Ｐ４は多量のロームブロックと炭化物を含む埋土であった。

遺物はＰ３・４より後期中葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉以前と考えられる。

第４号掘立柱建物跡（Ⅰ－第165図）遺物（Ⅱ－第323・376図）

Ａ区Ｇ－６グリッドに所在した。東側は調査区外であった。Ｐ３は第２・３号掘立柱建物跡Ｐ３と接し、重複していたが新旧関係は不明であった。第51号住居跡と重複していたが、新旧関係は不明であった。また、第292号土壙と重複していたが新旧関係は不明であった。西側で第282・283・285・304・313号土壙と、南側で第50号住居跡・第295号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

東側が調査区外にあるが、規模は１間×２間の亀甲型の掘立柱建物跡が推定される。南北方向長辺芯々距離が5.30m、東西方向短辺芯々距離は不明であった。また、Ｐ１－Ｐ２間芯々距離は2.85m、Ｐ２－Ｐ３間芯々距離は2.60mであった。長軸方

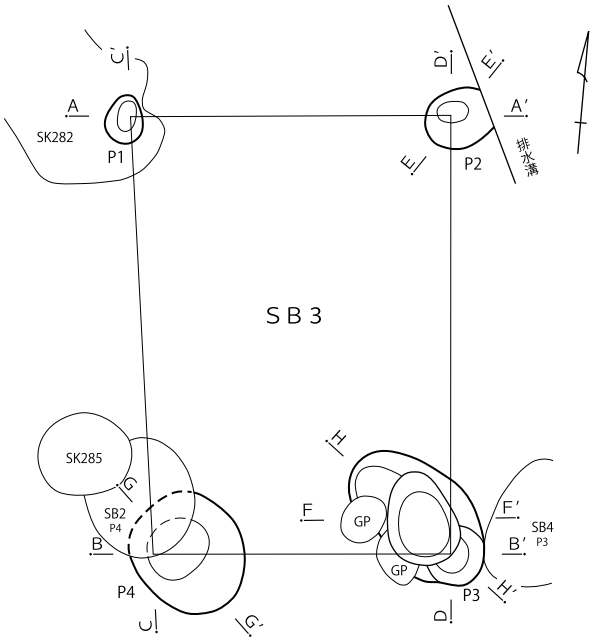


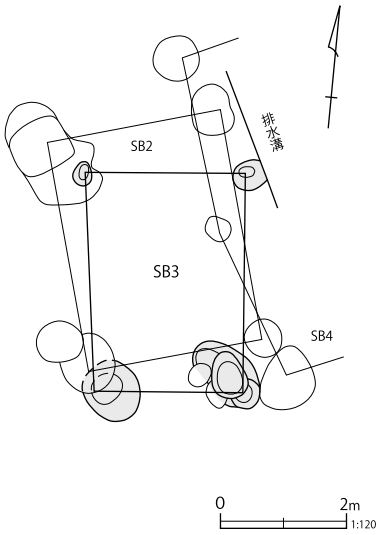
ＳＢ２
Ｐ２
1　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・骨片含む　しまり（欠）
2　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）　しまり（欠）

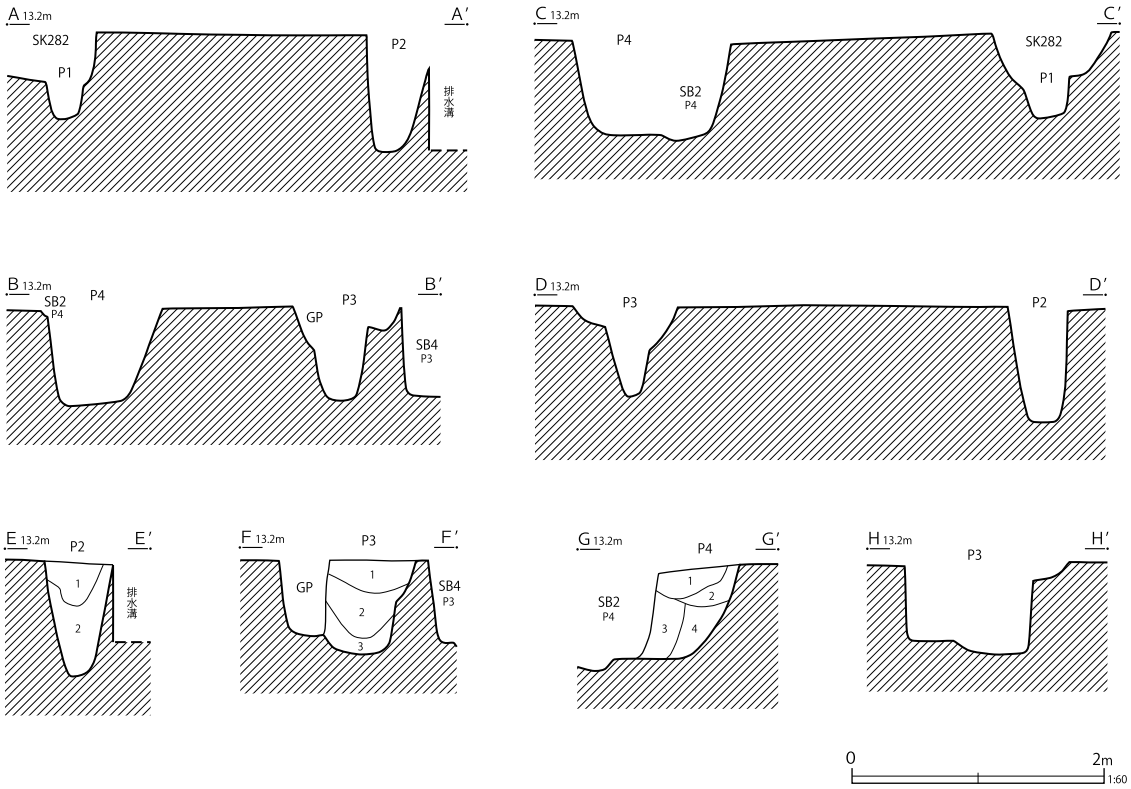
Ｐ３
1　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・骨片・土器含む　しまり（欠）
2　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（多）　しまり（欠）

Ｐ４
1　暗褐色土　ローム大ブロック（少）　炭化物粒子（中）
2　暗褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）
3　暗褐色土　炭化物粒子（少）　ブラックバンドブロック（多）

第163図　第２号掘立柱建物跡







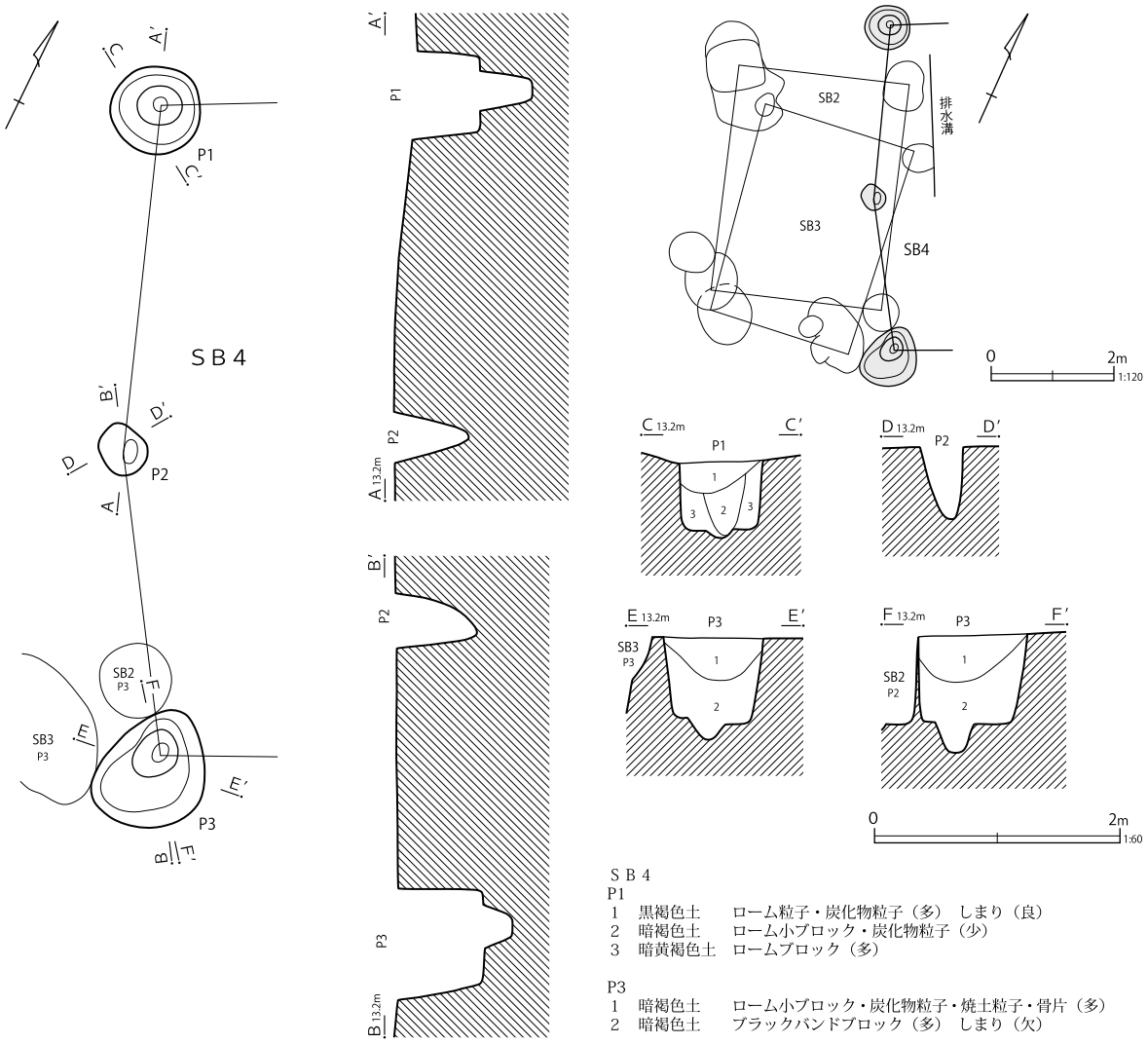
ＳＢ３

P2
1　黒褐色土　ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子含む　しまり（良）
2　暗褐色土　ロームブロック（多）

P3
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子・土器含む　しまり（欠）
2　黒褐色土　炭化物粒子・骨片含む　しまり（欠）
3　黒褐色土　ロームブロック（少）

P4
1　暗褐色土　ロームブロック（中）（多）　埋土
2　黒褐色土　炭化物粒子（少）　ローム粒子（多）
3　暗褐色土　ロームブロック（大）（多）　埋土
4　暗褐色土　ロームブロック・ブラックバンドブロックとの混土　埋土

第164図　第３号掘立柱建物跡



第165図　第４号掘立柱建物跡

第6表　掘立柱建物跡柱穴計測表(第163～165図)

遺構名	番号	長径(cm)	深さ(cm)	備考
SB2	1	90	80	
	2	80	80	
	3	60	80	
	4	95	75	

遺構名	番号	長径(cm)	深さ(cm)	備考
SB3	1	40	65	SJ51P9と共有
	2	[50]	90	
	3	130	75	
	4	(95)	70	

遺構名	番号	長径(cm)	深さ(cm)	備考
SB4	1	75	65	
	2	40	60	
	3	105	72	

位は、Ｎ－10°－Ｗを指す。

各柱穴の規模は、Ｐ1が長径0.75m、短径0.70m、深さ0.65mの円形の掘り込みであった。Ｐ２は長径0.40m、短径0.35m、深さ0.60mの不正円形の掘り込みであった。Ｐ３は長径1.05m、短径0.80m、深さ0.72mの不整楕円形の掘り込みであった。

Ｐ１・３の平坦な底面の中央及びやや北寄りから小柱穴が検出された。Ｐ２は杭状であった。

覆土にはロームブロック・焼土・骨片・炭化物を含むしまりに欠けた土壌が充填されていた。

遺物はＰ１・３から、晩期前葉から中葉にかけての鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期中葉以前と考えられる。

６．柱穴列

柱穴列の分布は、Ｇ・Ｈ－５・６グリッドで円形の柱穴列が２基と、Ｊ・Ｋ－７・８グリッドで直線状の柱穴列１基の合計３基が検出された。いずれも盛土縁辺部緩傾斜面に位置していた。

第３号柱穴列は、周囲にグリッドピットが検出されているが、これより南側で住居跡は検出されず、何らかの区画を示す杭列と推定される。

一方、第４号柱穴列の円形に廻る柱穴は、周囲から検出されたグリッドピットとは異なりやや大形で掘り込みの深い柱穴であった。第５号柱穴列も同様だが、小形の柱穴と大形の柱穴が混在していた。いずれも柱穴列内部に炉跡、入り口部等の施設は検出されなかったので住居跡と認定することはできなかった。また、柱穴列より北側は、傾斜面がややきつくなり土壙・グリッドピットとも希薄であった。

第３号柱穴列（Ⅰ－第166図）遺物（Ⅱ－第374図）

Ａ区Ｊ・Ｋ－７・８グリッドに所在した。北側で第43・67号住居跡・第335・337号土壙と、東側で第45・46号土壙と、南側で第331号土壙と、西側で第44・65号住居跡・第332・338号土壙と隣接していた。

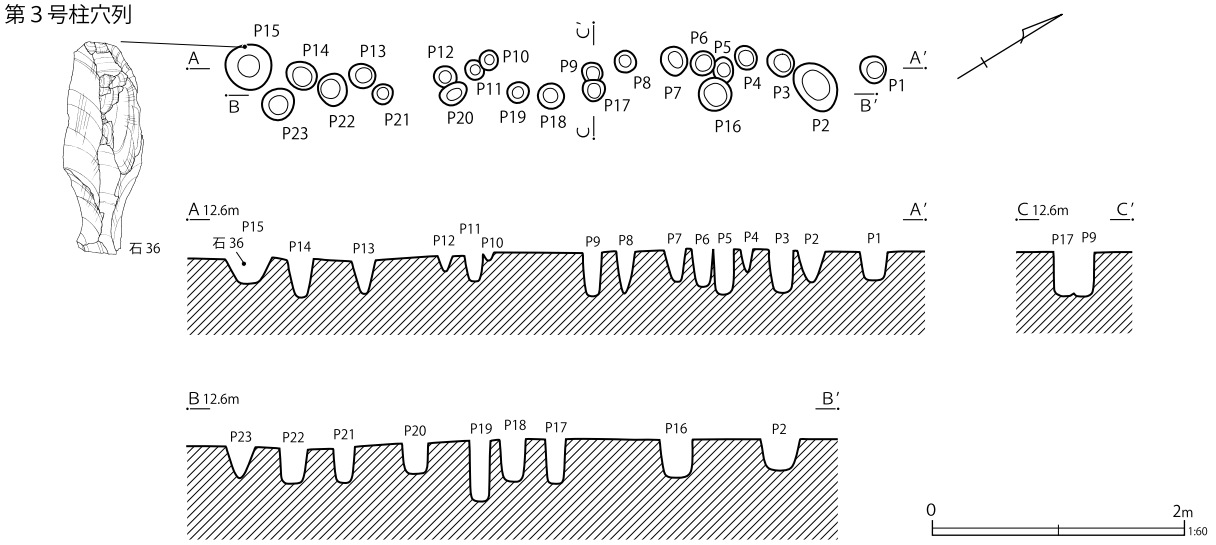
規模は長さ5.20m、幅0.40mで、ほぼ直線の柱穴列であった。長軸方向は、Ｎ－32°－Ｅを指す。各柱穴の規模は、径0.15～0.45m、深さ0.15～0.5mの円形の掘り込みであった。底面は杭状と平坦の２種類が検出された。

遺物はＰ15より二次加工剥片が１点出土した。所属時期は不明であった。

第４号柱穴列（Ⅰ－第167・168図）遺物（Ⅱ－第324・370図）

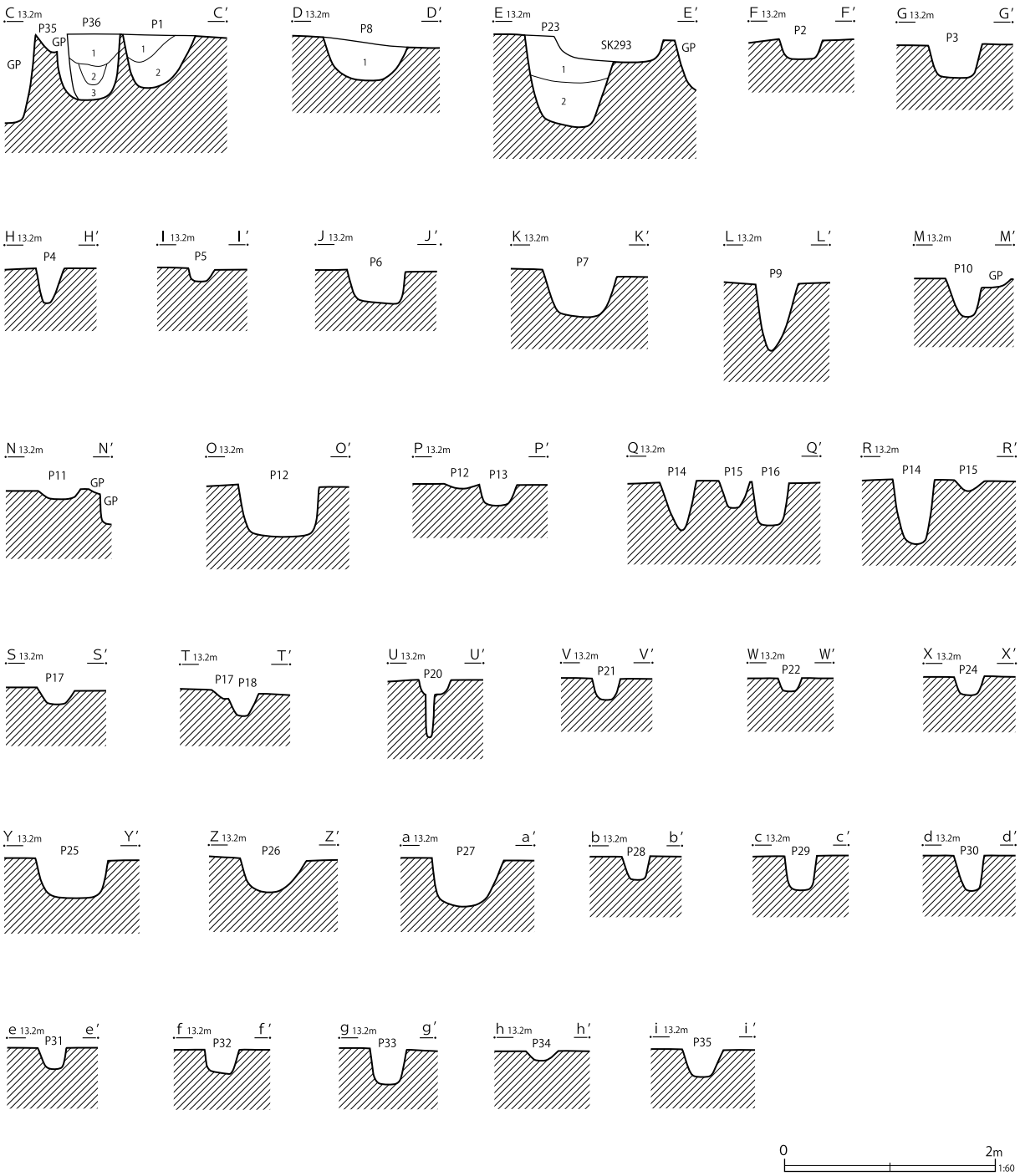
Ａ区Ｇ・Ｈ－５グリッドに所在した。第５号柱穴列と重複していて、Ｐ10とＰ14を共有していた。第300号土壙を切っていたことから、第５号柱穴列を切っていた。第293号土壙に切られていた。また、第298号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。北側で第296号土壙と、東側で第297・315号土壙と、南側で第42号住居跡・第294号土壙・焼土跡19と、西側で第281・291号土壙と隣接していた。

規模は長径6.60m、短径6.50mで、円形の柱穴列であった。長軸方位は不明であった。各柱穴の規模は、径0.03～0.85m、深さ0.1～0.85mの円形の掘り込みであった。底面は杭状と平坦の２種類が



第166図　第３号柱穴列

第167図　第４号柱穴列（１）



第４号柱穴列

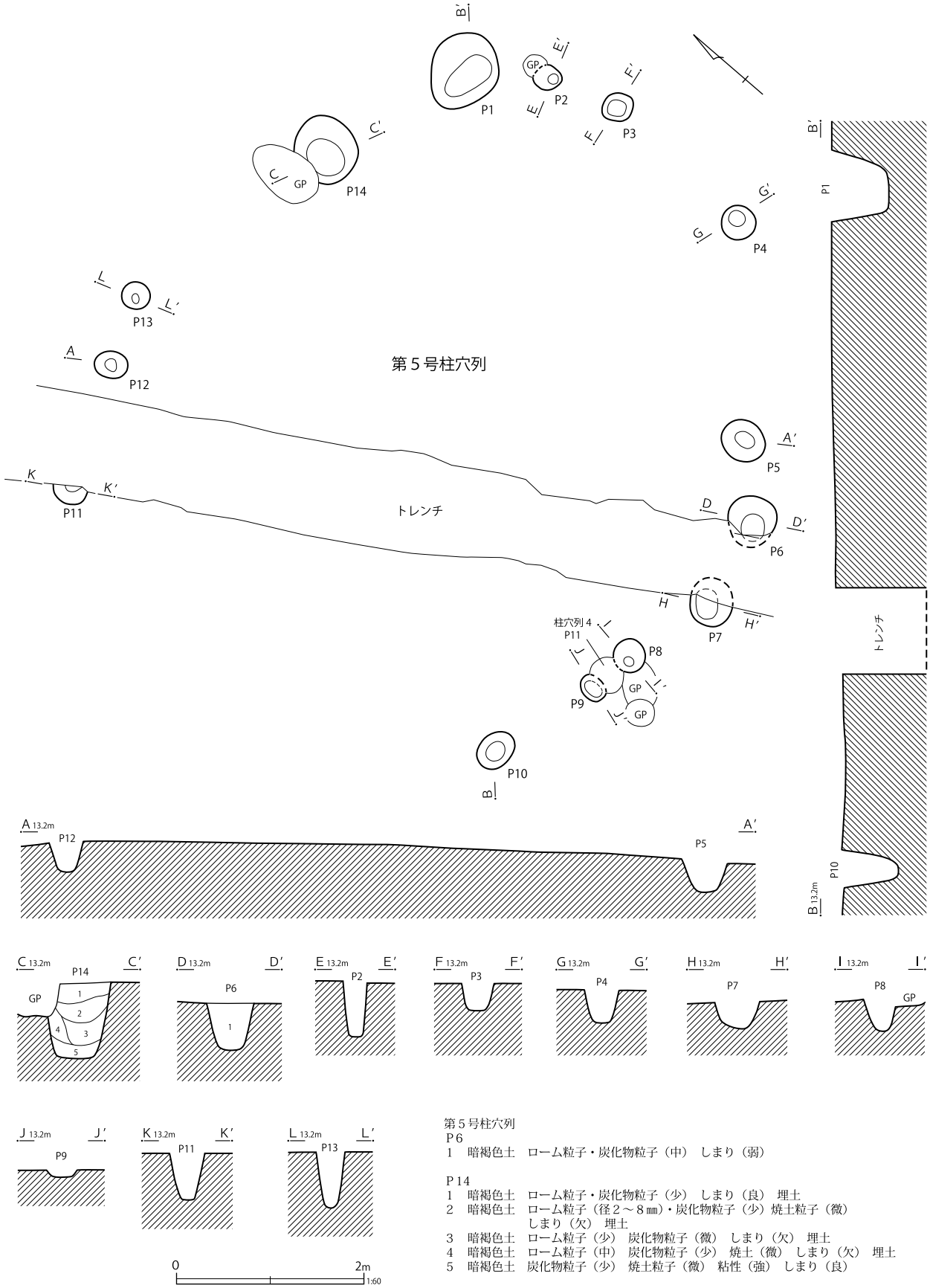
P１
1　黒褐色土　炭化物粒子・焼土（多）　しまり（欠）
2　黒褐色土　炭化物粒子・焼土（多）　しまり（欠）

P８
1　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（多）
　　骨片（微）　しまり（良）

P23
1　暗褐色土　ロームブロック・炭化物粒子（少）
2　暗褐色土　ロームブロック（多）　しまり（欠）

P36
1　黒褐色土　ロームブロック・焼土（少）　炭化物粒子（多）
　　骨片・土器含む　しまり（欠）
2　黒褐色土　黒色帯ブロック（多）　しまり（欠）
3　暗褐色土　ロームブロック（多）

第168図　第４号住穴列（２）



第５号柱穴列
Ｐ６
１　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（中）　しまり（弱）

Ｐ１４
１　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）　しまり（良）　埋土
２　暗褐色土　ローム粒子（径２～８㎜）・炭化物粒子（少）焼土粒子（微）
　　しまり（欠）　埋土
３　暗褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子（微）　しまり（欠）　埋土
４　暗褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　焼土（微）　しまり（欠）　埋土
５　暗褐色土　炭化物粒子（少）　焼土粒子（微）　粘性（強）　しまり（良）

第169図　第５号住穴列

第7表　柱穴列柱穴計測表(第166～169図)

遺構名	番号	長径(cm)	深さ(cm)	備考
柱穴列3	1	22	22	
	2	42	24	
	3	22	33	
	4	20	35	
	5	20	31	
	6	20	30	
	7	23	26	
	8	18	33	
	9	18	34	
	10	16	18	
	11	16	22	
	12	18	24	
	13	22	27	
	14	26	30	
	15	36	20	
	16	27	30	
	17	18	35	
	18	22	33	
	19	18	48	
	20	22	24	
	21	18	21	
	22	16	28	
	23	28	27	
柱穴列4	1	64	51	
	2	66	37	
柱穴列4	3	50	32	
	4	33	33	
	5	29	12	
	6	56	30	
	7	66	40	
	8	79	37	
	9	(37)	62	
	10	36	36	柱穴列5P8と共有
	11	39	10	
	12	74	50	
	13	36	20	
	14	44	60	柱穴列5P10と共有
	15	32	25	
	16	34	40	
	17	(36)	16	
	18	27	22	
	19	65	50	
	20	30	14	
	21	(32)	20	
	22	30	13	
	23	82	85	
	24	26	18	
	25	80	38	
	26	60	32	
	27	75	45	
柱穴列4	28	26	22	
	29	3	32	
	30	28	34	
	31	32	20	
	32	34	24	
	33	36	34	
	34	30	10	
	35	(46)	26	
	36	50	63	
柱穴列5	1	86	61	
	2	(28)	28	
	3	31	30	
	4	37	35	
	5	47	34	
	6	(54)	50	
	7	(50)	28	
	8	36	36	柱穴列4P10と共有
	9	30	8	
	10	44	60	柱穴列4P14と共有
	11	36	51	
	12	36	32	
	13	30	60	
	14	73	80	

検出された。覆土にはロームブロックと炭化物を含む黒褐色土が堆積していた。

遺物はＰ４より晩期の土偶の一部が出土した。この他に、各柱穴より後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。

所属時期は後期後葉以降、晩期中葉以前と考えられる。

第５号柱穴列（Ⅰ－第169図）遺物（Ⅱ－第324図）

Ａ区Ｇ・Ｈ－５・６グリッドに所在した。第４号柱穴列と重複していて、Ｐ８とＰ10は共有していた。第４号柱穴列、第300号土壙に切られていた。第315号土壙を切っていた。また、第293・297・298号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。隣接遺構は第４号柱穴列と同様である。

規模は長径7.30m、短径7.00mで、円形の柱穴列であった。西側一部は開放していた。長軸方位は不明であった。各柱穴の規模は、径0.3～0.9m、深さ0.08～0.8mの円形の掘り込みであった。底面は杭状とすり鉢状の２種類が検出された。覆土にはローム粒子・焼土・炭化物を含む暗褐色土が堆積していた。

遺物は各柱穴より後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期中葉以前と考えられる。

７．焼土跡・粘土塊

焼土跡の分布は、焼土跡18・19を除いて南盛土中央より南側に位置していた。合計25基が検出された。いずれも盛土包含層中で検出された。

焼土跡の分布は大きく４箇所に分かれていた。

第１のグループは焼土跡18・19の２基で環状盛土内縁側緩傾斜面に位置していた。第４・５号柱穴列と第60号住居跡間に位置しており、周囲にグリッドピットが多数検出された。

第２のグループは焼土跡７・10～12・15～17・20～22・27の11基で環状盛土中央に位置していた。第45・50・60号住居跡上層から検出された焼土跡もあるが、各住居跡間の空間部で多数のグリッドピットが検出された範囲に検出された焼土跡もあった。

第３のグループは焼土跡５・９・13・14の４基で環状盛土中央やや外縁側に位置していた。第40・43・55・66号住居跡上層から検出された。焼土跡14・22は、グリッドピットの配列と関連性をもたせて、住居跡炉跡の可能性が推察できる。

第４のグループは焼土跡１～３・８・23～26の８基で環状盛土外縁部緩傾斜面に帯状に位置していた。第43号住居跡上層から検出された焼土跡とＢ区の晩期包含層中から検出された焼土跡があった。焼土跡１・３は周囲から硬化面が検出された。

粘土塊の分布は、南盛土中央やや西壁寄りで１箇所、南側の盛土外縁側緩傾斜面で２箇所、合計３箇所検出された。粘土塊１は周囲から焼土跡が４基検出されており、住居跡が所在しない空間領域にあたっていた。また、下部から土壙は検出されなかった。

粘土塊２・３は外縁部傾斜面に位置し、やや離れて焼土跡が検出された。ともに下部から土壙は検出されなかった。

焼土跡１（Ⅰ－第171図）

Ｂ区Ｊ－８グリッドに所在した。北側で第14号住居跡・第47号土壙と焼土跡２・３、南側で第45・46号土壙・粘土塊３と、西側で焼土跡25・26と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

規模は長径0.60m、短径0.50m、深さ0.15mの円形であった。長軸方位は不明であった。

底面はすり鉢状で、よく焼けていた。覆土には多量の焼土ブロックと炭化物・骨片が堆積していた。焼土跡の周囲1.5～1.8mの範囲で、床面状の硬化面が検出された。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡２（Ⅰ－第171図）

Ｂ区Ⅰ－８グリッドに所在した。第14号住居跡と焼土跡３の上層で検出された。南側で第47号土壙と、西側で第38号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.55m、短径0.30mの不整楕円形であった。長軸方位は不明であった。掘り込みは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡３（Ⅰ－第172図）遺物（Ⅱ－第325・327・371図）

Ｂ区Ｊ－８グリッドに所在した。第14号住居跡の上層から検出された。焼土跡２の下層から検出された。南側で第47号土壙と、西側で第38号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

規模は長径0.80m、短径0.60m、深さ0.21mの円形であった。長軸方位は不明であった。

底面はすり鉢状で、よく焼けていた。覆土最上部から焼土の帯状層と灰白色粘土の帯状層が検出された。覆土中・下層には焼土・炭化物・灰白色

粘土が堆積していた。焼土跡の周囲約2.2ｍの範囲で、床面状の硬化面が検出された。

遺物は、硬化面付近から、晩期前葉の粗製・精製深鉢形土器、耳飾りが出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

焼土跡５（Ⅰ－第171図）遺物（Ⅱ－第327図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43号住居跡の上層で検出された。北側で第55号住居跡・第327・336号土壙・第43号住居跡内８号土壙と、東側で第67号住居跡と、南側で第44号住居跡・焼土跡８・粘土塊２と、西側で第66号住居跡・焼土跡９と隣接していた。環状盛土遺構のやや外縁側に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.40m、短径0.25m、深さ0.15ｍの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－51°－Ｅであった。

焼土範囲の下層及び、周囲から炭化物の薄層が検出された。

遺物は後期後葉の深鉢形土器１点が出土した。所属時期は不明であった。

焼土跡７（Ⅰ－第171図）遺物（Ⅱ－第325･327図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。調査区西壁際で検出された。北側で焼土跡17と、東側で焼土跡22・27と、南側で第55・61・63号住居跡と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。調査区西壁基本土層断面上で覆土が検出された。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は径0.50m、深さ0.10ｍの円形であった。長軸方位は不明であった。

底面はすり鉢状であまり焼けていなかった。覆土に焼土・骨片・炭化物が含まれていた。

遺物は焼土内から後期後葉の深鉢形土器胴部と底部破片が各１個体分纏まって出土した。この他に、後期初頭から後葉にかけての浅鉢・深鉢形土器が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

焼土跡８（Ⅰ－第171図）遺物（Ⅱ－第327図）

Ａ区Ｋ－７グリッドに所在した。第44号住居跡の上層で検出された。第64号住居跡を切っていた。北側で第43号住居跡と、東側で第328・329号土壙と、西側で粘土塊２と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.80m、推定短径0.60m、厚さ0.05ｍの範囲で、炭化物の帯状層の上部に火床面の焼土が堆積していた。長軸方位は不明であった。

遺物は後期前葉から晩期前葉の深鉢形土器が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

焼土跡９（Ⅰ－第171図）遺物（Ⅱ－第325･327図）

Ａ区Ｊ－６グリッドに所在した。第66号住居跡を切っていた。調査区西壁際であった。北側で第55・61・63号住居跡・第327・336号土壙・第43号住居跡内８号土壙と、東側で焼土跡５と、南側で粘土塊２と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長軸0.45m、残存短軸0.25m、深さ0.15ｍの方形であった。長軸方位はＮ－35°－Ｗであった。

火床面は平坦であまり焼けていなかった。覆土には、焼土・骨片・炭化物が含まれていた。

遺物は晩期前葉の深鉢形土器が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

焼土跡10・11・12（Ⅰ－第171図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。径２ｍの範囲内で３基纏まって検出された。焼土跡10・11が、第60・62号住居跡を切っていた。焼土跡12は第59・62号住居跡を切っていた。北側で第301・318号土壙と、東側で第288・289号土壙と、南側で第314号土壙・粘土塊１と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。焼土跡10の規模は径0.30m、焼土跡11の規模

は径0.20m、焼土跡12の規模は径0.30mの円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡13（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第327･402図）

A区Ｊ－６グリッドに所在した。第55号住居跡を切っていた。北側で第２・３号埋甕と、東側で第43号住居跡・第43号住居跡内8号土壙・第１号埋甕と、南側で第336号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.80m、短径0.75m、深さ0.15mの円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面は皿状でよく焼けていた。覆土に、炭化物が含まれていた。

遺物は後期中葉から晩期前葉の深鉢形土器、石剣が出土した。所属時期は後期後葉以降と考えられる。

焼土跡14（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第325･328図）

A区Ⅰ－７グリッドに所在した。第40・43号住居跡の上層で検出された。北側で第38・47号住居跡と、南側で第43号住居跡内１・４号土壙と、西側で第43号住居跡内２・３号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.70m、短径0.60m、深さ0.25mの楕円形であった。長軸方位はＮ－５°－Ｅであった。

火床面はよく焼けていた。覆土には土器・炭化物が含まれていた。

遺物は後期後葉から晩期中葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は晩期前葉以降と考えられる。

焼土跡15（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第328図）

A区Ⅰ－６グリッドに所在した。第59号住居跡を切っていた。北側で第39号住居跡・第306・309･330号土壙と、東側で第307･308･323号土壙と、南側で焼土跡21と、西側で第288・289号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.50m、短径0.35mの不整形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は後期中葉から後葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は不明であった。

焼土跡16（Ⅰ－第173図）

A区Ⅰ－７グリッドに所在した。第48・49・58号住居跡、第319号土壙の上層で検出された。北側で第321号土壙と、東側で第47号住居跡と、南側で第45号住居跡と、西側で第308・320・323号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は径0.25mの円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡17（Ⅰ－第173図）

A区Ⅰ－６グリッドに所在した。調査区西壁際で検出された。西側一部が調査区外であった。北側で第314号土壙と、東側で焼土跡23・27と、南側で第55・61・63号住居跡・焼土跡７と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は推定径0.30mの円形であった。長軸方位は不明であった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡18（Ⅰ－第173図）

A区Ｈ－５グリッドに所在した。調査区西壁際で検出された。北側で焼土跡19と、東側で第60・62号住居跡・第287・299号土壙と隣接していた。

環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は推定径0.60m、深さ0.10mの推定円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡19（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第328･402図）

Ａ区Ｈ－５グリッドに所在した。北側で第４・５号柱穴列と、南側で焼土跡18と、西側で第294号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.55m、短径0.45m、深さ0.20mの円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はよく焼けていた。覆土には炭化物・土器が含まれていた。

遺物は石剣が焼土跡からやや浮いた状態で出土した。この他に、後期後葉から晩期前葉の鉢・深鉢形土器等が出土した。所属時期は不明であった。

焼土跡20（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第328図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第45号住居跡の上層で検出された。北側で第39・59号住居跡・第307・308・323号土壙と、東側で第48・49号住居跡・第319・320号土壙と、南側で第316・317号土壙と、西側で第290号土壙・焼土跡21と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長さ１m、幅0.6mの範囲で、焼土がまばらに検出された。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

西側に接する長さ２m、幅0.75mの範囲で、骨片が多量に出土した。

遺物は後期前葉から後葉にかけての深鉢形土器が出土した。所属時期は不明であった。

焼土跡21（Ⅰ－第173図）遺物（Ⅱ－第325図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。第59号住居跡を切っていた。北側で第288・289号土壙・焼土跡15と、東側で第308号土壙・焼土跡20と、南側で第290号土壙と、西側で第310・314号土壙と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.70m、推定短径0.50m、深さ0.05mの範囲で、焼土がまばらに検出された。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は後期後葉から晩期の深鉢形土器等が出土した。所属時期は不明であった。

焼土跡22（Ⅰ－第173図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。焼土跡27の下層で検出された。北側で第290号土壙と、東側で第45号住居跡・第316・317号土壙と、南側で第55・61・63号住居跡・第２・３号埋甕と、西側で焼土跡７・17と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径0.30m、短径0.15mの不整形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

焼土跡23（Ⅰ－第174図）遺物（Ⅱ－第328･329図）

Ａ区Ｊ－７グリッドに所在した。第43・67号住居跡の上層で検出された。東側で第335・337号土壙・焼土跡24～26と、南側で第44号住居跡・第328・329号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや外縁部に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は径0.60m、深さ0.10mの円形であった。長軸方位は不明であった。

火床面はよく焼けていた。覆土に炭化物が含まれていた。

遺物は後期前葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉以降と考

えられる。

焼土跡24・25・26（Ⅰ－第174図）遺物（Ⅱ－第329・371図）

Ａ区Ｊ－８グリッドに所在した。第43号住居跡の上層で検出された。長さ２ｍ、幅１ｍの範囲で、３基纏まって検出された。東側で焼土跡１・粘土塊３と、南側で第337号土壙・第3号柱穴列と、西側で第67号住居跡・第333・335号土壙・第43号住居跡内７号土壙・焼土跡23と隣接していた。環状盛土遺構の外縁部に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は焼土跡24が長径0.35m、短径0.30m、焼土跡25が長径0.50m、短径0.30m、焼土跡26が長径0.30m、短径0.15ｍの楕円形であった。全ての長軸方位は不明であった。

火床面はあまり焼けていなかった。

遺物は焼土跡26から土製円盤が出土した。この他に、後期後葉から晩期前葉にかけての浅鉢・深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉以降と考えられる。

焼土跡27（Ⅰ－第174図）遺物（Ⅱ－第326・329・330・371図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。焼土跡22の上層で検出された。北側で第290号土壙と、東側で第45号住居跡・第316・317号土壙と、南側で第55・61・63号住居跡・第２・３号埋甕と、西側で焼土跡７・17と隣接していた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層中に焼けて焼土化した範囲を検出した。規模は長径1.00m、短径0.60m、深さ0.10ｍの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－61°－Ｅを指す。

火床面はあまり焼けていなかった。焼土跡下層及び南側で、長さ1.5m、幅1.5ｍの範囲から多量の炭化物と少量の骨片が出土した。

遺物は、土製円盤が11点、後期後葉の深鉢形土器４個体分の破片が出土した。この他に、後期前葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

粘土塊１（Ⅰ－第175図）遺物（Ⅱ－第331･332図）

Ａ区Ⅰ－６グリッドに所在した。北側で第60・62号住居跡・第301・318号土壙・焼土跡10～12と、東側で第59号住居跡・第288・289号土壙・焼土跡21と、南側で第314号土壙と隣接していた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層中に灰白色の粘土が纏まった範囲を検出した。規模は長径0.95m、短径0.70m、厚さ0.05ｍの不整形であった。長軸方位は不明であった。

上層に灰白色粘土が径0.6ｍほど帯状に堆積し、下層に灰白色粘土・焼土・炭化物を含む土壌が堆積していた。

遺物は下層部分から晩期の粗製深鉢形土器の大形破片が２個体分出土した。この他に晩期前葉の浅鉢・深鉢形土器等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

粘土塊２（Ⅰ－第175図）

Ａ区Ｋ－７グリッドに所在した。西側は調査区外であった。第44ａ・ｂ号住居跡の上層から検出された。北側で第43・66号住居跡と、東側で第328・329号土壙・焼土跡８と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。

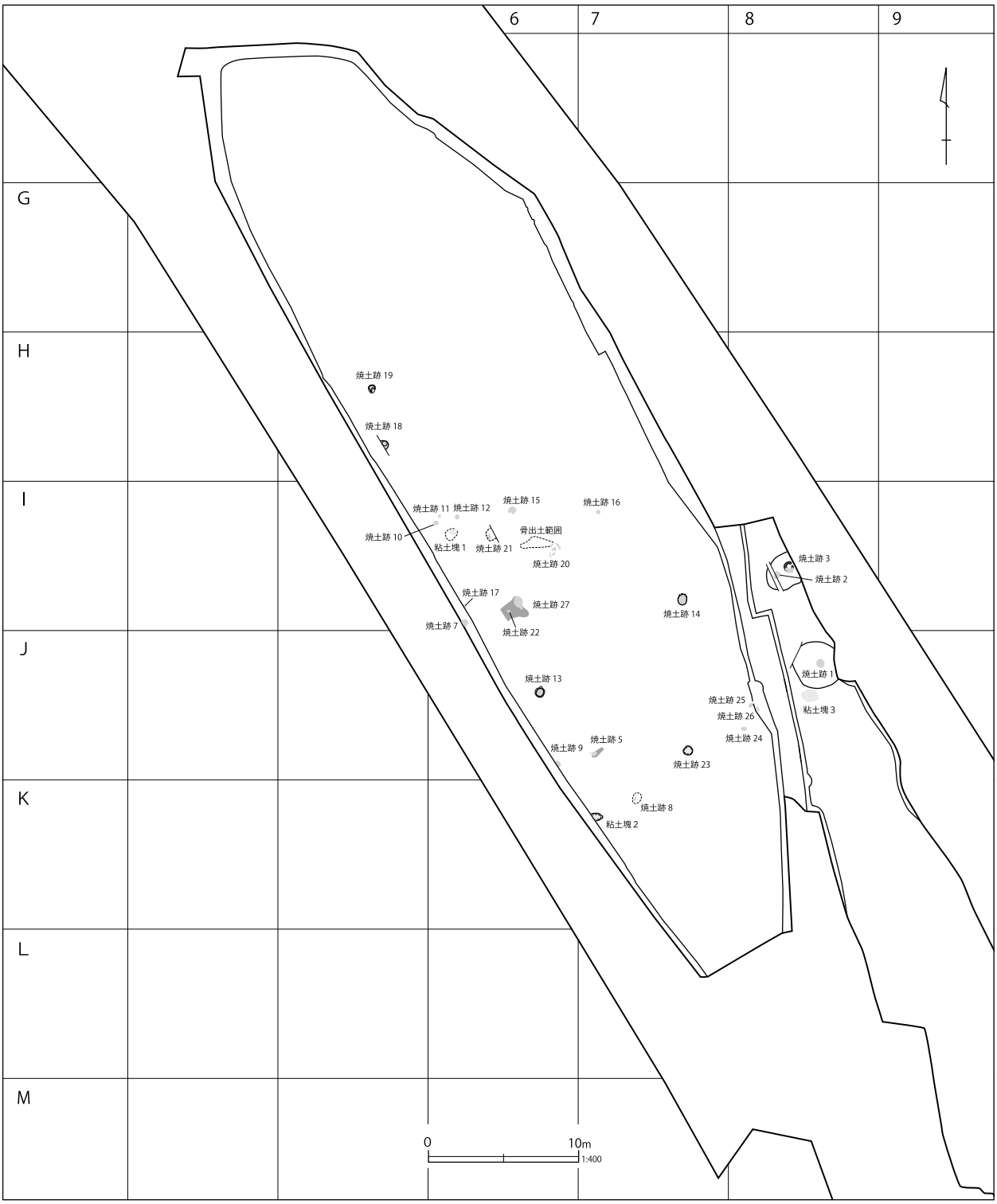
盛土包含層中に灰白色の粘土が纏まった範囲を検出した。規模は残存長径0.65m、短径0.50m、厚さ0.05ｍの不整楕円形であった。長軸方位はＮ－90°－Ｅであった。

上層に灰白色粘土が帯状に堆積し、下層に、灰層を含む土壌が堆積していた。

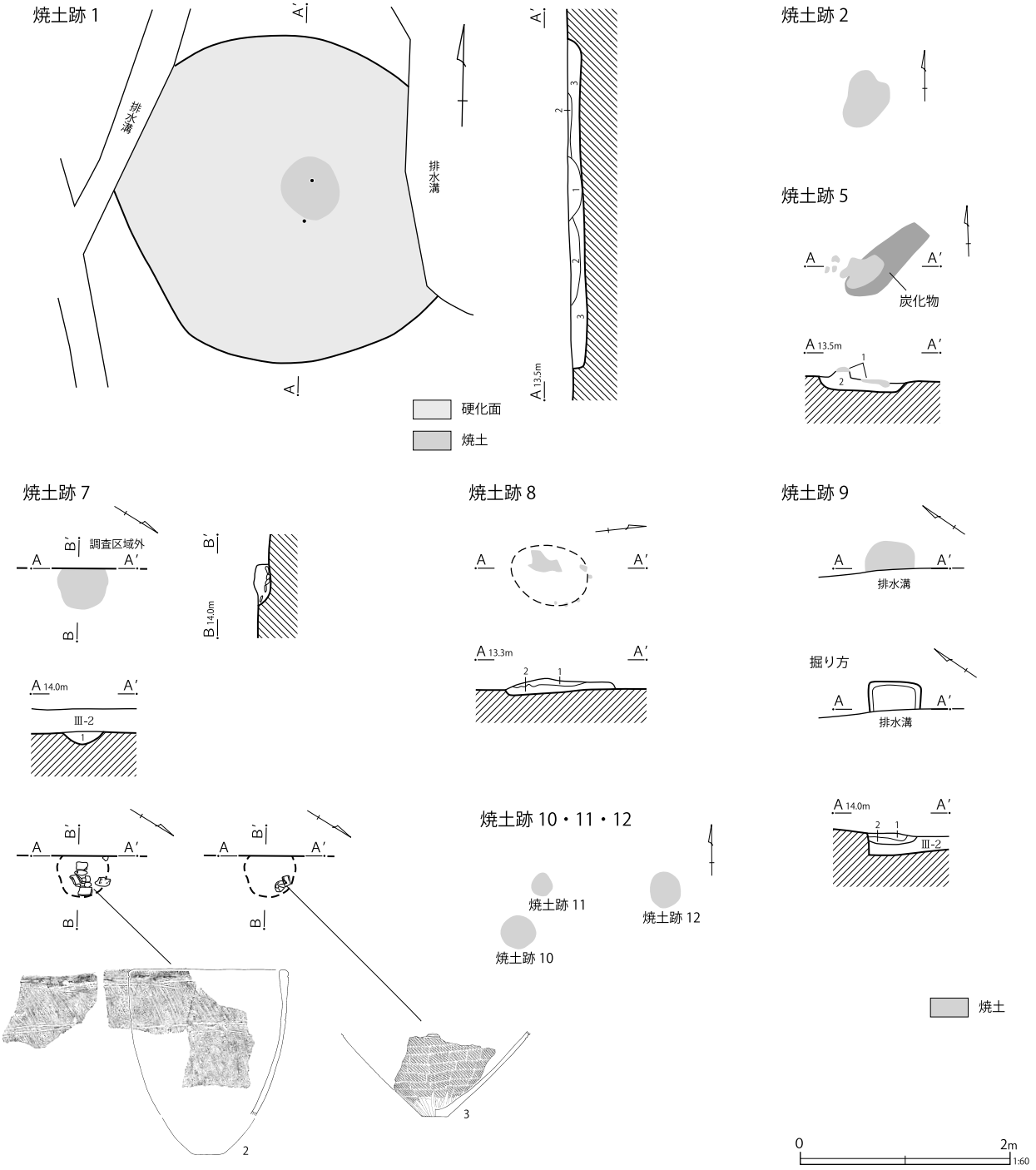
遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。

粘土塊３（Ⅰ－第175図）

Ｂ区Ｊ－８グリッドに所在した。北側で焼土跡１と、南側で第45・46号土壙と、西側で第43号住居跡・焼土跡25・26と隣接していた。環状盛土遺構の外縁側緩傾斜面に位置していた。なお、北側


6
7
8
9
G
H
I
J
K
L
M
焼土跡 19
焼土跡 18
焼土跡 11
焼土跡 12
焼土跡 15
焼土跡 16
焼土跡 10
粘土塊 1
焼土跡 21
骨出土範囲
焼土跡 20
焼土跡 3
焼土跡 2
焼土跡 17
焼土跡 27
焼土跡 14
焼土跡 7
焼土跡 22
焼土跡 1
焼土跡 13
焼土跡 25
粘土塊 3
焼土跡 26
焼土跡 24
焼土跡 5
焼土跡 9
焼土跡 23
焼土跡 8
粘土塊 2
0
10m
1:400

第170図　焼土跡（1）



焼土跡 1
1　明赤褐色土　炭化物粒子（少）　焼土ブロック・焼土粒子（多）
　　骨片・骨粉（少）
2　灰黄褐色土　炭化物粒子（多）　焼土粒子・骨粉（少）　しまり（良）
3　灰黄褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　硬化面

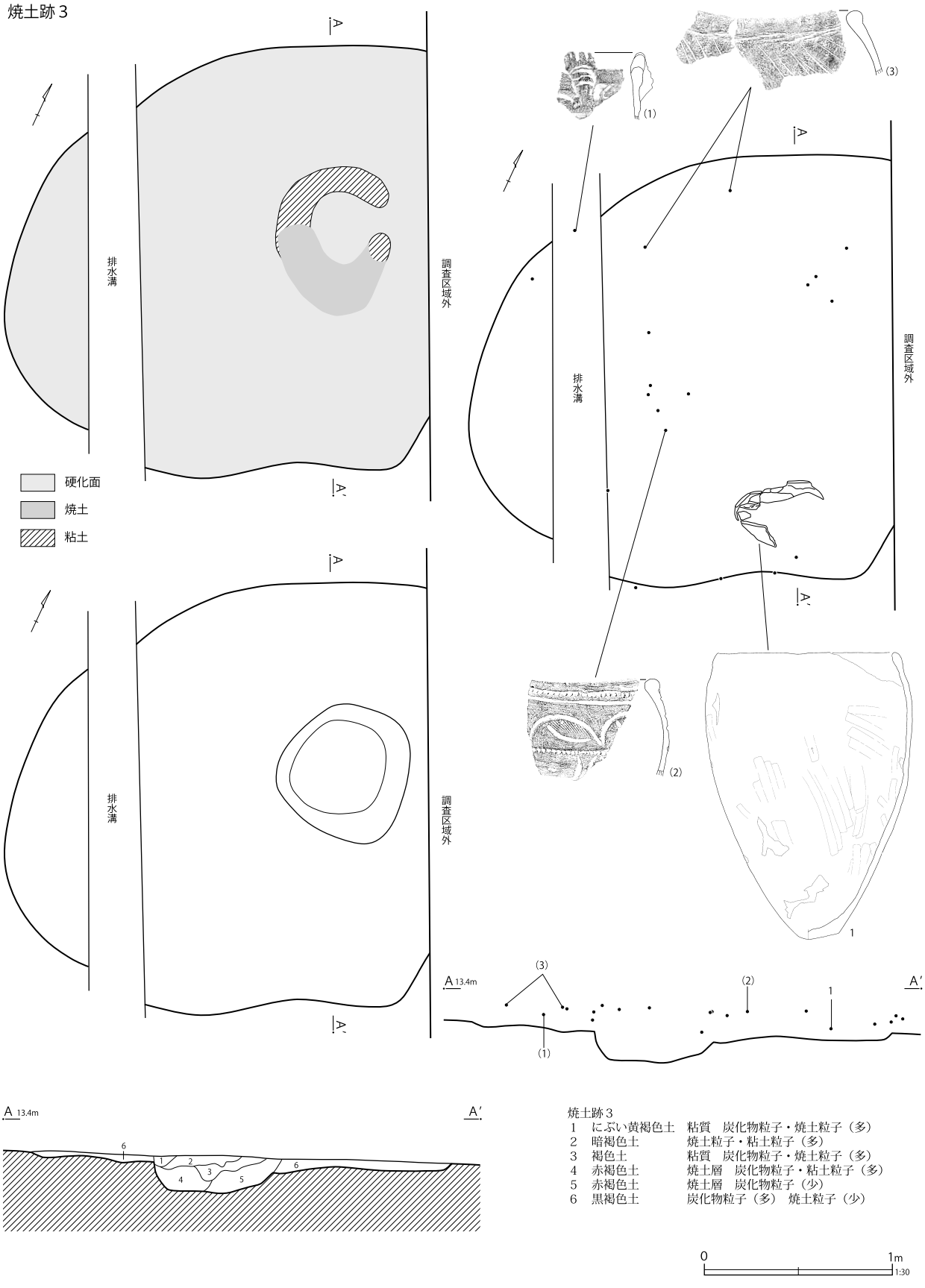
焼土跡 5
1　赤褐色土　焼土層
2　暗褐色土　炭化物帯状堆積

焼土跡 7
Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子・骨片（多）　焼土粒子（少）
　　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
1　にぶい黄褐色土　焼土（多）　炭化物（微）　しまり（良）

焼土跡 8
1　赤褐色土　焼土層
2　暗褐色土　炭化物（多）

焼土跡 9
Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子・骨片（多）　焼土粒子（少）
　　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
1　明赤褐色土　焼土層
2　暗褐色土　焼土（少）　火床面

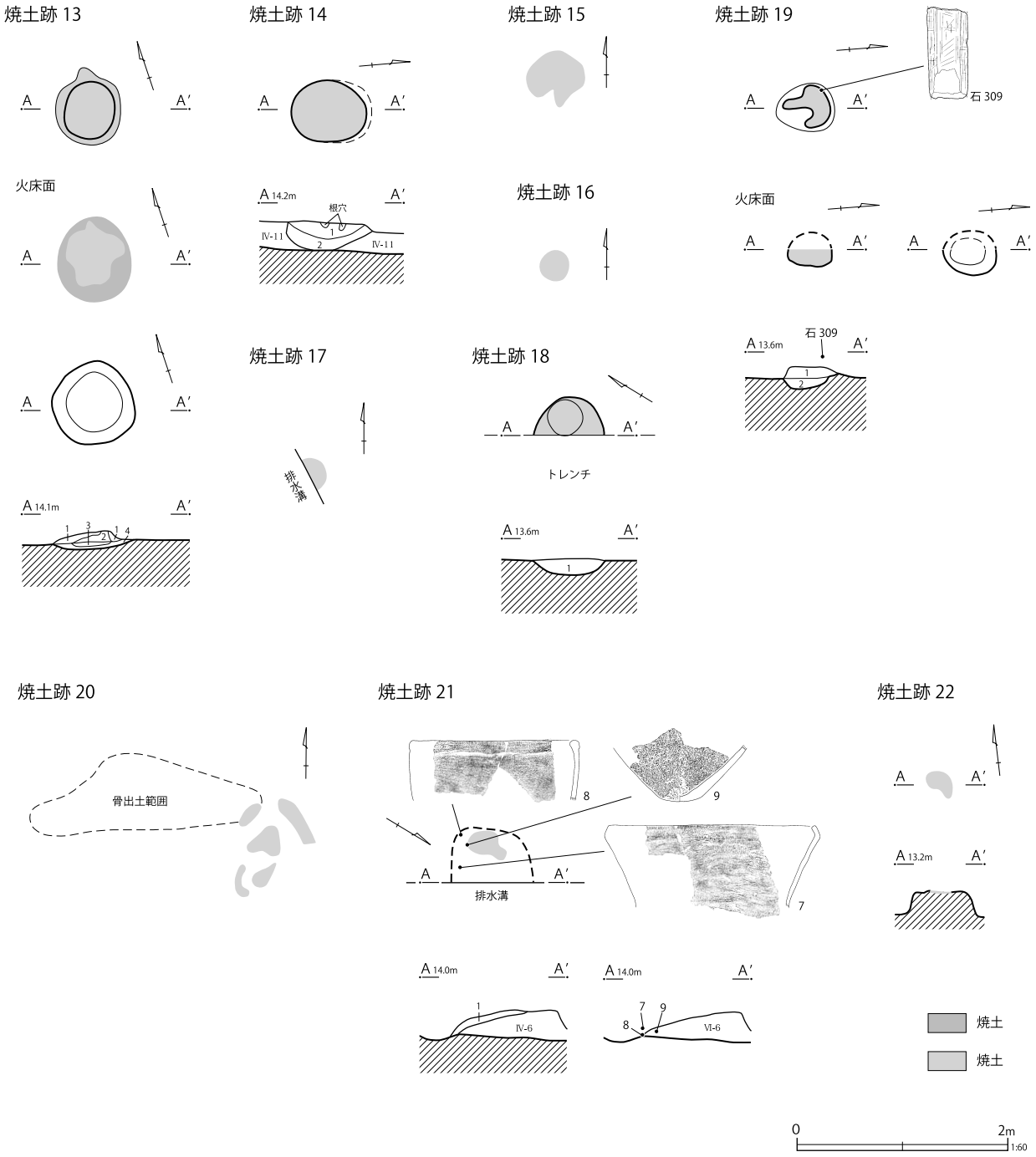
第171図　焼土跡（２）



焼土跡３

1	にぶい黄褐色土	粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）
2	暗褐色土	焼土粒子・粘土粒子（多）
3	褐色土	粘質　炭化物粒子・焼土粒子（多）
4	赤褐色土	焼土層　炭化物粒子・粘土粒子（多）
5	赤褐色土	焼土層　炭化物粒子（少）
6	黒褐色土	炭化物粒子（多）　焼土粒子（少）

第172図　焼土跡（３）



焼土跡 13
1　暗赤褐色土　焼土層　炭化物粒子（少）
2　赤褐色土　焼土層　燃焼部　炭化物粒子（少）
3　赤褐色土　焼土層　炭化物粒子（少）
4　暗赤褐色土　焼土層　炭化物粒子（少）

焼土跡 14
Ⅳ-11　褐色土　粘質　暗褐色土・褐色土ブロックとの混土
粘性（強）　しまり（良）
1　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　土器片含む
2　暗褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（少）　被熱赤化

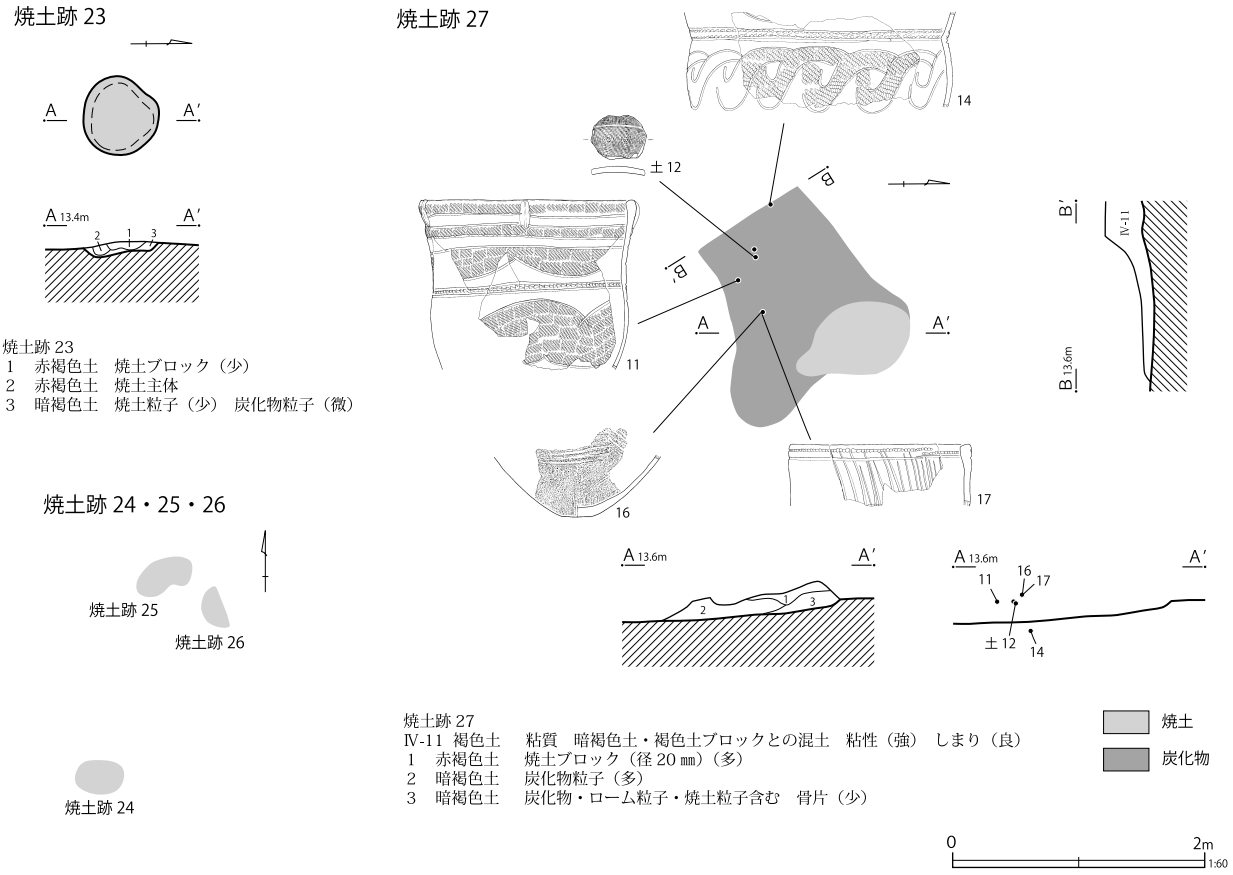
焼土跡 18
1　暗赤褐色土　炭化物粒子（少）　焼土少ブロック粒子（多）　明灰色粘土（少）

焼土跡 19
1　暗赤褐色土　燃焼部　焼土ブロック（径 30 ㎜）含む
炭化物粒子・土器片（少）
2　暗赤褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（多）　しまり（良）　火床面

焼土跡 21
Ⅳ-6　黒褐色土　シルト質　炭化物（径 10 ㎜）（多）　焼土粒子（少）
骨片（少）　遺物（多）　しまり（中）
1　赤褐色土　焼土（多）

焼土跡 22
1　褐色土　白色粘質土・焼土との混土　炭化物粒子（中）　しまり（良）

第173図　焼土跡（４）



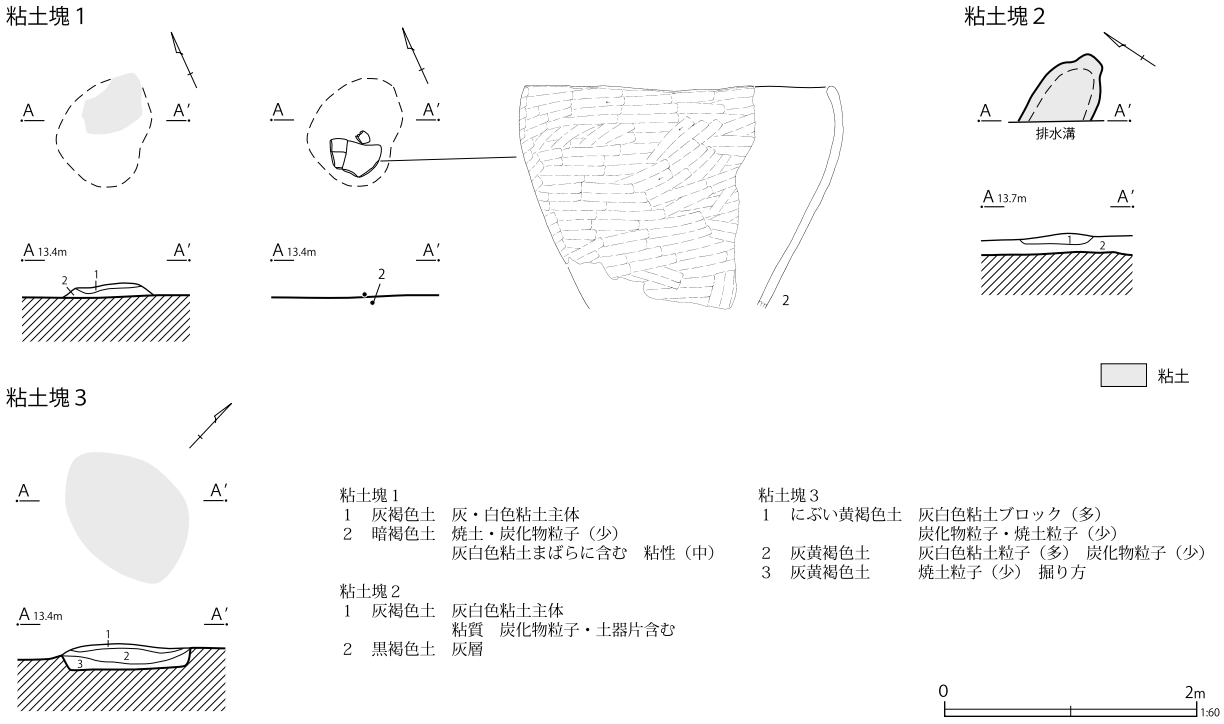
第174図　焼土跡（５）

焼土跡１とほぼ同一レベルでの検出であった。

盛土包含層中に灰白色の粘土が纏まった範囲を検出した。調査の結果浅い窪地状の落ち込みを検出した。規模は推定長径1.10m、短径0.80m、厚さ0.15mの楕円形であった。長軸方位はＮ－90°－Ｗであった。

上層は灰白色粘土ブロックと焼土・炭化物を含む帯状堆積で、中層に灰白色粘土と炭化物、下層に焼土と炭化物を含む土壌が堆積していた。

遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。



第175図　粘土塊

８．グリッドピット

グリッドピットの分布は、Ａ区北側盛土内縁側で密に検出された。特に、緩傾斜面への移行部分で多く、この範囲には、掘立柱建物跡や柱穴列が位置していた。さらに北側の傾斜がきつくなる範囲では､ピットの検出数は減少していたが､各ピットの深さも浅くなっていた。上層から打ち込まれたピットの下面残存部のみを検出した可能性も否定できない。

調査区西壁基本土層断面には、緩傾斜面の晩期盛土包含層から掘り込んだピットが連続していた。緩傾斜面に分布していたピットの配列は、概ね傾斜方向の等高線に沿っていたが、Ｇ－５グリッドから検出された第４・５号柱穴列内部や、Ｇ－６グリッドから検出された第２～４号掘立柱建物跡西側で纏まっていた。また、Ｈ－５グリッドで検出された焼土跡18・19周辺や、Ｈ－６グリッドで検出された第39・42号住居跡の周囲でも纏まって検出された。これらのピットは、住居跡の柱穴や焼土跡関連に帰属する可能性も考えられるが、配列等は不明であった。

Ｉ－６グリッドで纏まって検出されたピットは、盛土中央の最も標高の高い部分に位置していた。周囲には多くの焼土跡が検出され、第40・45･55･59～63号住居跡に挟まれた空間地帯となっていることから、住居跡や焼土跡に関連するピットであった可能性が推察できる。

Ｈ・Ｉ－７グリッドにまたがって検出されたピットはやや大形であったが、配列等は不明であった。

Ｉ－７グリッド南西側でやや大形のピット（P25～41･44～57･62･86）が纏まって検出された。盛土包含層の中央に位置していた。Ｐ40・53・57･62については、埋甕と関連性が推察されるが、そのほかの大形ピットについては不明であった。

Ｉ－７グリッドＰ58～61・64～70・72・73・75・77～83、Ｊ－７グリッドＰ１・３～８・39～51・111・113・128は円形の配列として纏まっていた。配列内北寄りには、焼土跡14が検出されて

いたことから、円形の住居跡の柱穴の残骸であった可能性が推察できる。

Ｊ－７・８グリッドの第43号住居跡内から検出されたピットでは、周囲から焼土跡23～26が検出されたが、焼土跡との関連性については不明であった。同様に、Ｋ－６・７グリッド交点付近に纏まって検出されたピット周囲では、焼土跡５・９が検出されたが、関連性は不明であった。

Ｂ区Ｊ－８グリッド、Ａ区Ｊ－７・８グリッド、Ｋ－７・８グリッドで検出されたピットは盛土外縁側緩傾斜面に位置していた。傾斜方向の等高線にほぼ沿う状態であった。また、第３号柱穴列に対して斜めに接続するピット列が３列検出された。但し、第３号柱穴列と関連性を有するかについては不明であった。これより南側については、ピットの検出は散漫であった。

遺物は、主に後・晩期の瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器、不明土製品・耳飾り、石鏃・磨石・砥石・垂飾品等が出土した。各ピットからの出土遺物はわずかであったが、Ｊ－７グリッドＰ36からは、後期前葉から後葉にかけての深鉢形土器や耳飾り２点、不明土製品１点が出土した。

各ピットの覆土は大きく３分類された。標記の分類は、グリッドピット一覧に掲載してある。

分類Ａ：色調は暗褐色～暗灰褐色土で、基本土層第Ⅵ層上面からの掘り込みであった。主に第Ⅴ層を覆土とし、炭化物を多く含みロームブロックを混入していた。また微量の焼土・骨片を含み粘性が強くしまりに欠けていた。

分類Ｂ：色調は灰褐色で基本土層第Ⅶ層上面からの掘り込みであった。主に第Ⅵ層を覆土とし、炭化物を少量含み焼土・骨片を微量含んでいた。粘性は強くややしまりに欠けていた。

分類Ｃ：色調は暗黄褐色で基本土層第Ⅷ層上面から掘り込んでいた。主に第Ⅶ層を覆土とし、ローム土を多く含み炭化物・骨片を微量含んでいた。粘性はやや強くしまりもやや欠けていた。

遺物の出土状況を示せるピットのみ記述する。

Ｉ－７　Ｐ53（Ｉ－第190図）遺物（Ⅱ－第333図）

P53は第40号住居跡下層から検出された。第45号住居跡と隣接していた。Ｊ－６グリッド第２・３号埋甕、Ｉ－７グリッドＰ40・57・62と関連性をもち、列状配置で検出された。

規模は径0.50m、深さ0.40mの円形のピットであった。底面は平坦で、覆土にはロームブロック・炭化物が含まれていた。

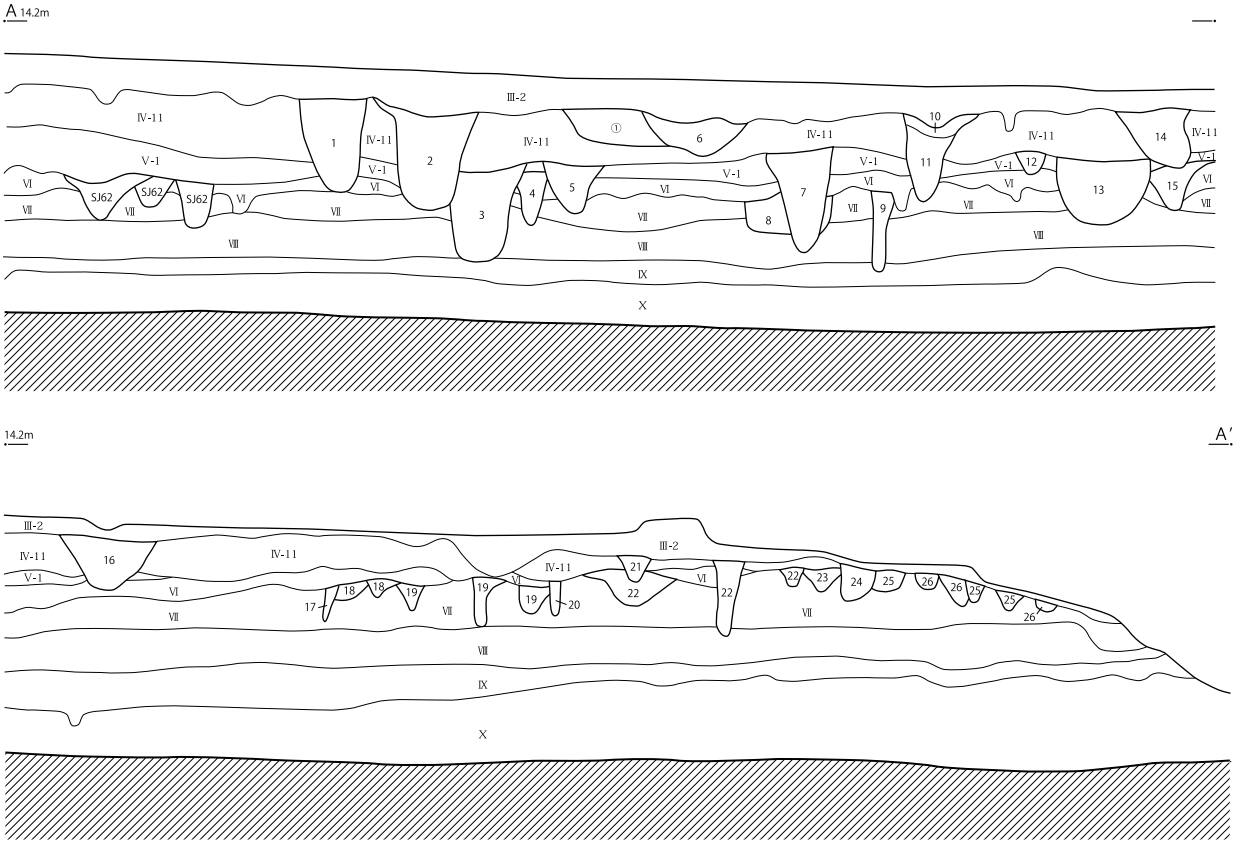
遺物は覆土下層から後期後葉の瓢形土器が口縁部の一部を欠損した状態で横転して出土した。土器内部から遺物は出土しなかった。所属時期は後期後葉と考えられる。

Ｉ－７　Ｐ62（Ｉ－第190図）遺物（Ⅱ－第333図）

P62は第38号住居跡下層から検出された。第43号住居跡と隣接していた。Ｐ53と同様の遺物出土状況、覆土堆積状況を示していた。Ｊ－６グリッド第２・３号埋甕、Ｉ－７グリッドＰ40・53・57と関連性をもち、列状配置で検出された。

規模は径0.50m、深さ0.75mの円形のピットであった。底面は平坦であった。覆土第１層はローム土が含まれていた。第２層は炭化物を含むしまりに欠けた土壌が堆積していた。第３層は第２層と類似し、しまりのある土壌が堆積していた。

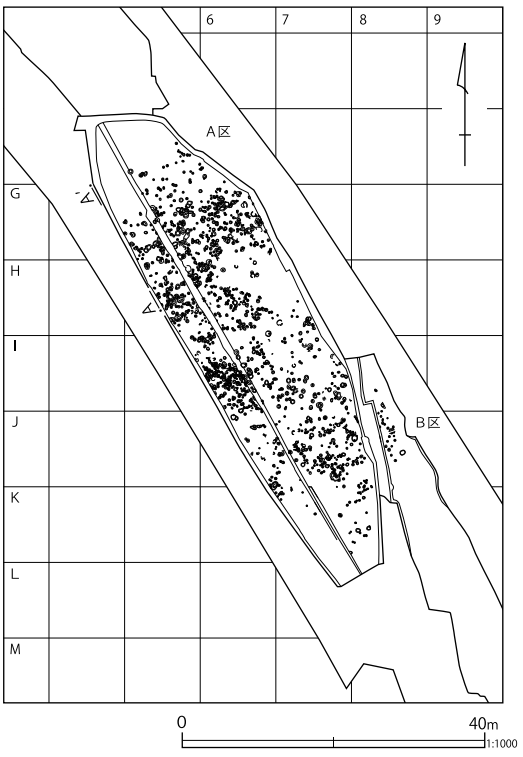
遺物は第２層から後期後葉の注口土器胴下半部１個体が横転して出土した。第３層下部からは鉢形土器１個体が口縁部を上向きにした状態でつぶれて出土した。その上から深鉢形土器１個体が底部を下にして重なるように出土した。遺物の出土状況から、第２層と第３層の遺物の埋置に時間差があったと推察される。所属時期は後期後葉と考えられる。



Ⅲ-2　黒色～黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（径５㎜）・骨片（多）
焼土粒子（少）　遺物（極多）　粘性（中）　しまり（中）
Ⅳ-11　褐色土　粘質　暗褐色土・褐色土ブロックとの混土
粘性（強）　しまり（良）
Ⅴ-1　暗褐色土　シルト質　炭化物粒子・遺物（少）　ローム小ブロック（微）
しまり（中）
Ⅵ　にぶい黄褐色土
Ⅶ　黄褐色土　ハードローム（立川面）
Ⅷ　暗黄褐色土　ブラックバンド
Ⅸ　灰黄褐色土　ハードローム
Ⅹ　灰黄褐色土　武蔵野ローム

焼土跡
①　褐色土　シルト質　焼土粒子（少）　骨粉（微）

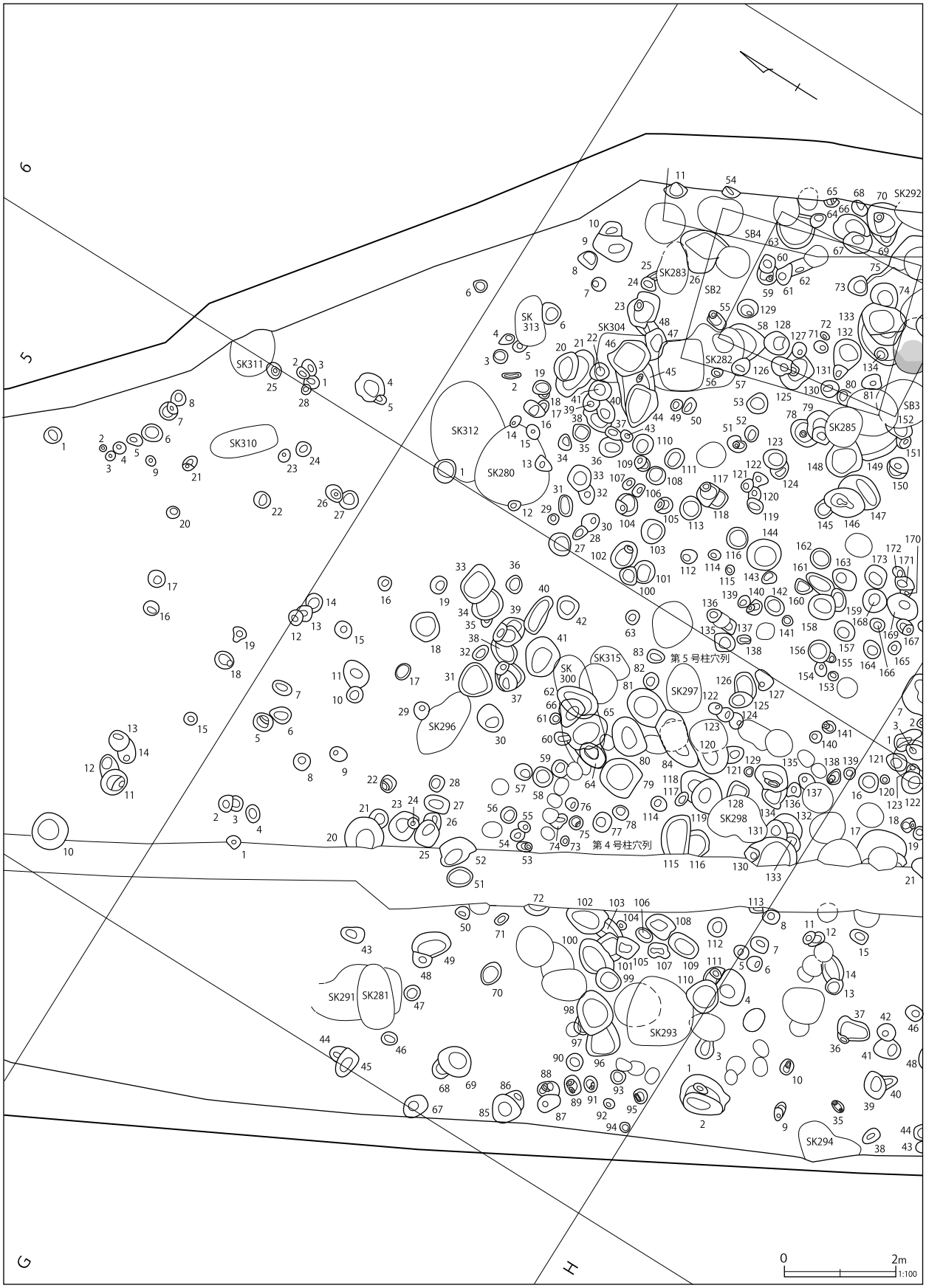
グリッドピット
1　暗褐色土　粘質　炭化物粒子・焼土粒子（微）　しまり（良）
2　黒褐色土　シルト質　炭化物粒子（少）　しまり（中）
3　にぶい黄褐色土　粘質　炭化物・焼土粒子（微）　しまり（良）
4　にぶい黄褐色土　ローム粒子（中）　しまり（良）
5　にぶい黄褐色土　ローム粒子（中）　ロームブロック（少）　しまり（良）
6　暗褐色土　粘質　遺物（少）　しまり（良）
7　にぶい黄褐色土　粘質　ロームブロック（中）　しまり（良）
8　にぶい黄褐色土　しまり（良）
9　黄褐色土　ロームブロック（少）　しまり（欠）
10　暗褐色土　ロームブロック（少）　しまり（良）
11　暗褐色土　ロームブロック（微）　粘性（強）　しまり（良）
12　暗褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）
13　黒褐色土　ローム粒子（少）　炭化物粒子・骨片（微）　しまり（良）
14　暗褐色土　粘質　ローム粒子（微）　しまり（良）
15　にぶい黄褐色土　ロームブロック（中）　炭化物粒子（微）　しまり（良）
16　暗褐色土　粘質　ローム小ブロック（少）　しまり（良）
17　にぶい黄褐色土
18　にぶい黄褐色土　ロームブロック（少）
19　黄褐色土　しまり（欠）
20　にぶい黄褐色土　シルト質
21　にぶい黄褐色土　ローム・焼土粒子（微）
22　にぶい黄褐色土　ロームブロック（中）
23　にぶい黄褐色土　ローム（中）
24　にぶい黄褐色土　ローム粒子（少）
25　にぶい黄褐色土　ローム粒子（少）　焼土粒子（微）
26　にぶい黄褐色土　ロームブロック（少）



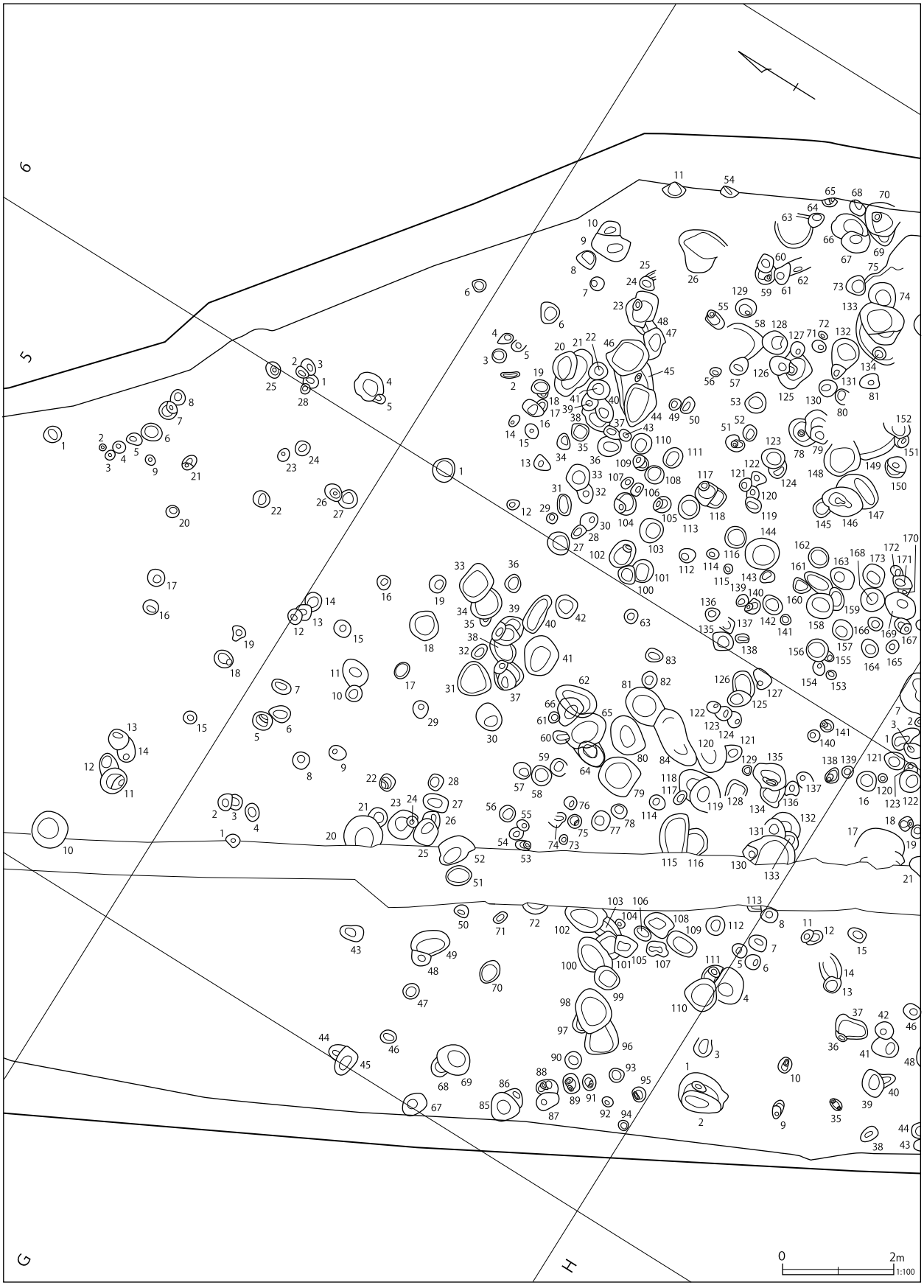
第176図　南盛土西壁基本土層

第177図　南盛土グリッドピット全体図

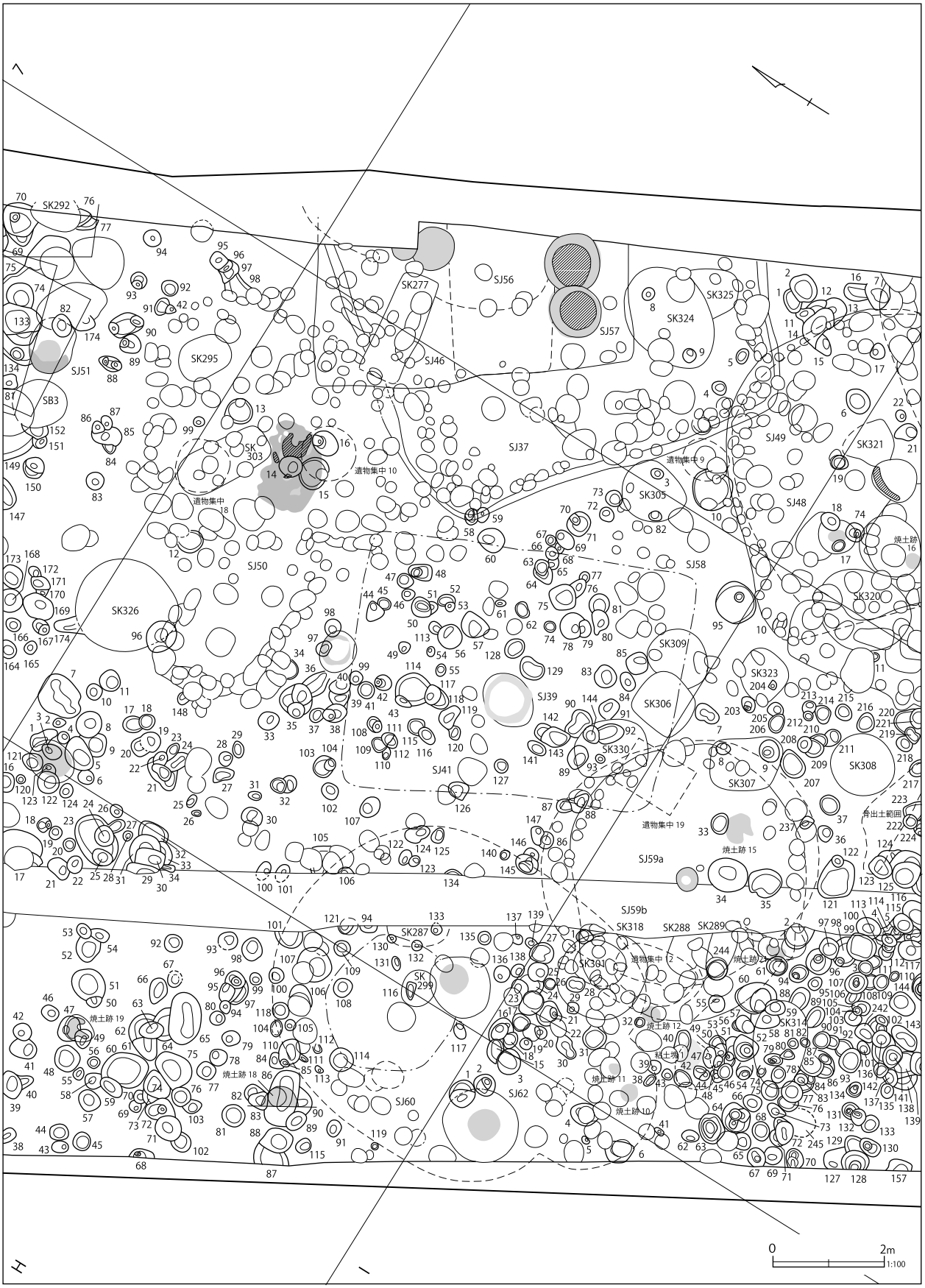
第178図　南盛土グリッドピット分割図



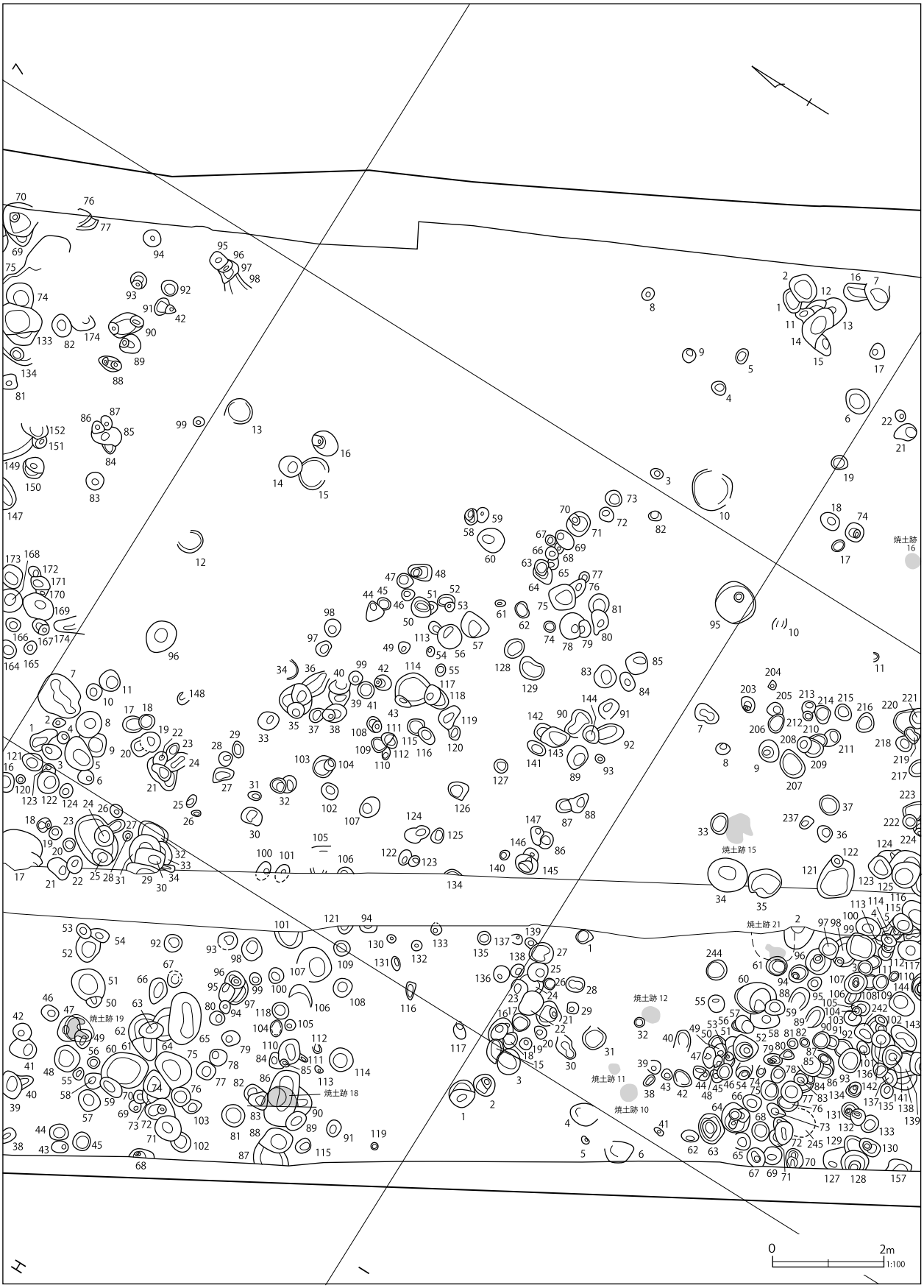
第179図　グリッドピット分布図（１）－１



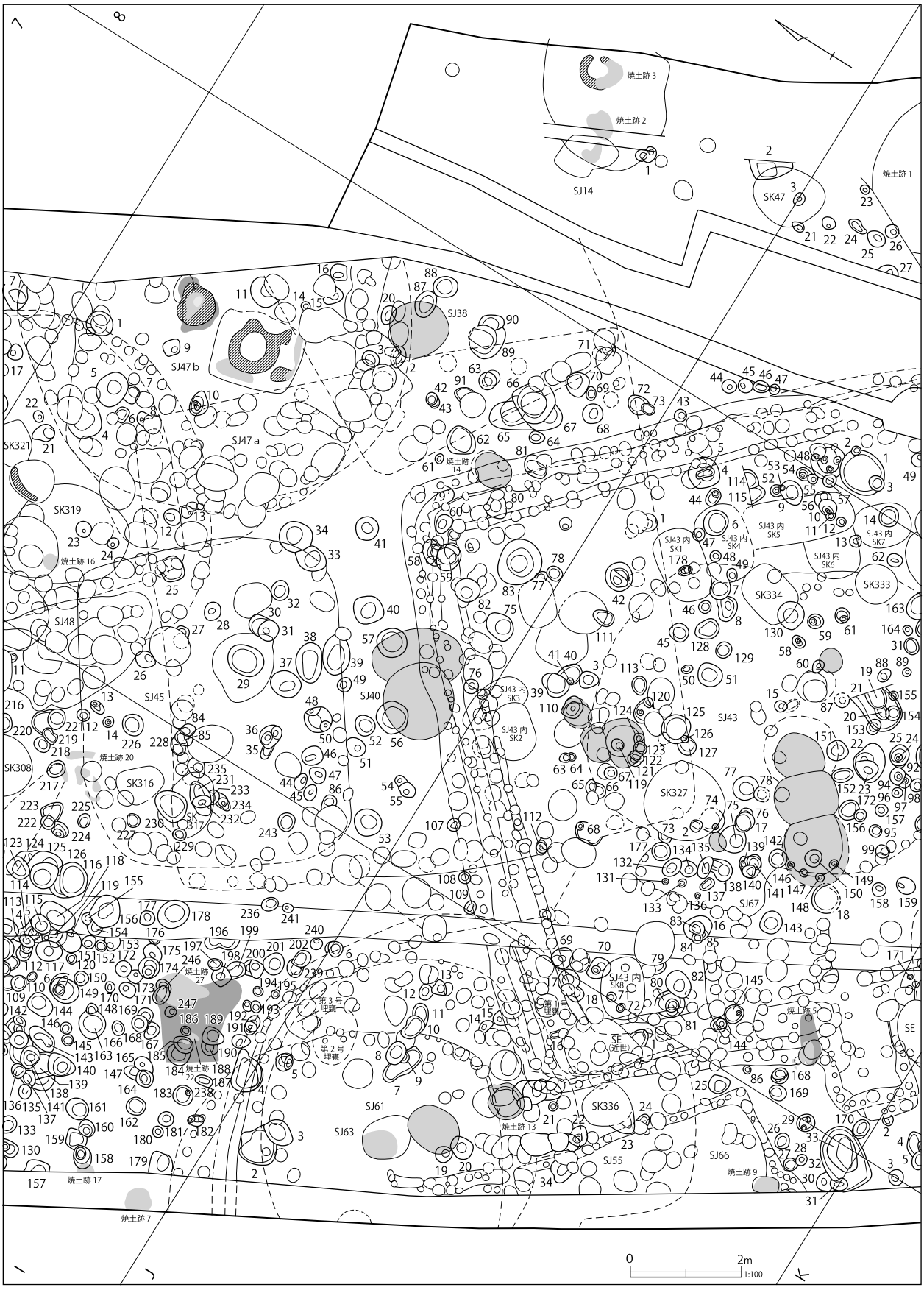
第180図　グリッドピット分布図（1）－2



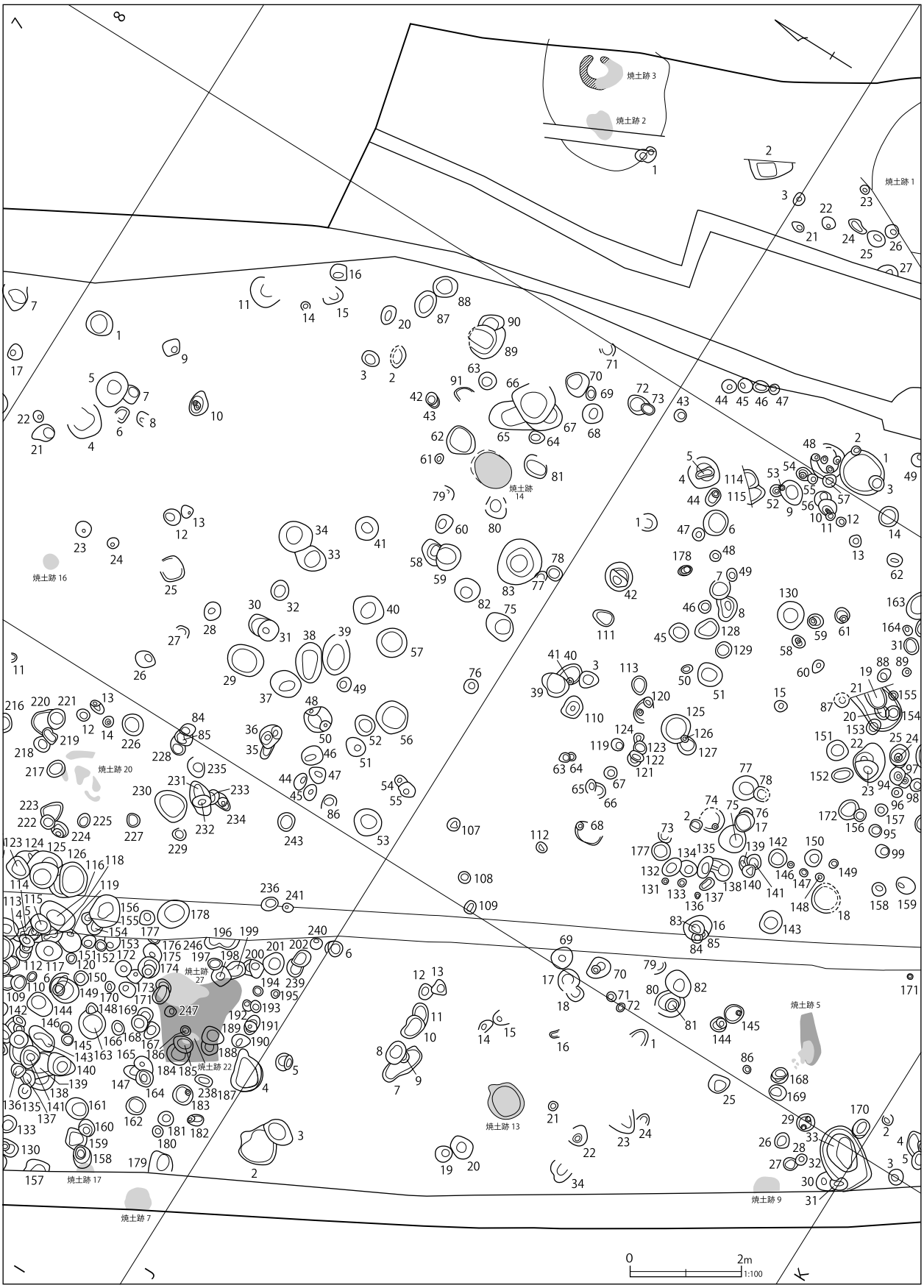
第181図　グリッドピット分布図（２）－１



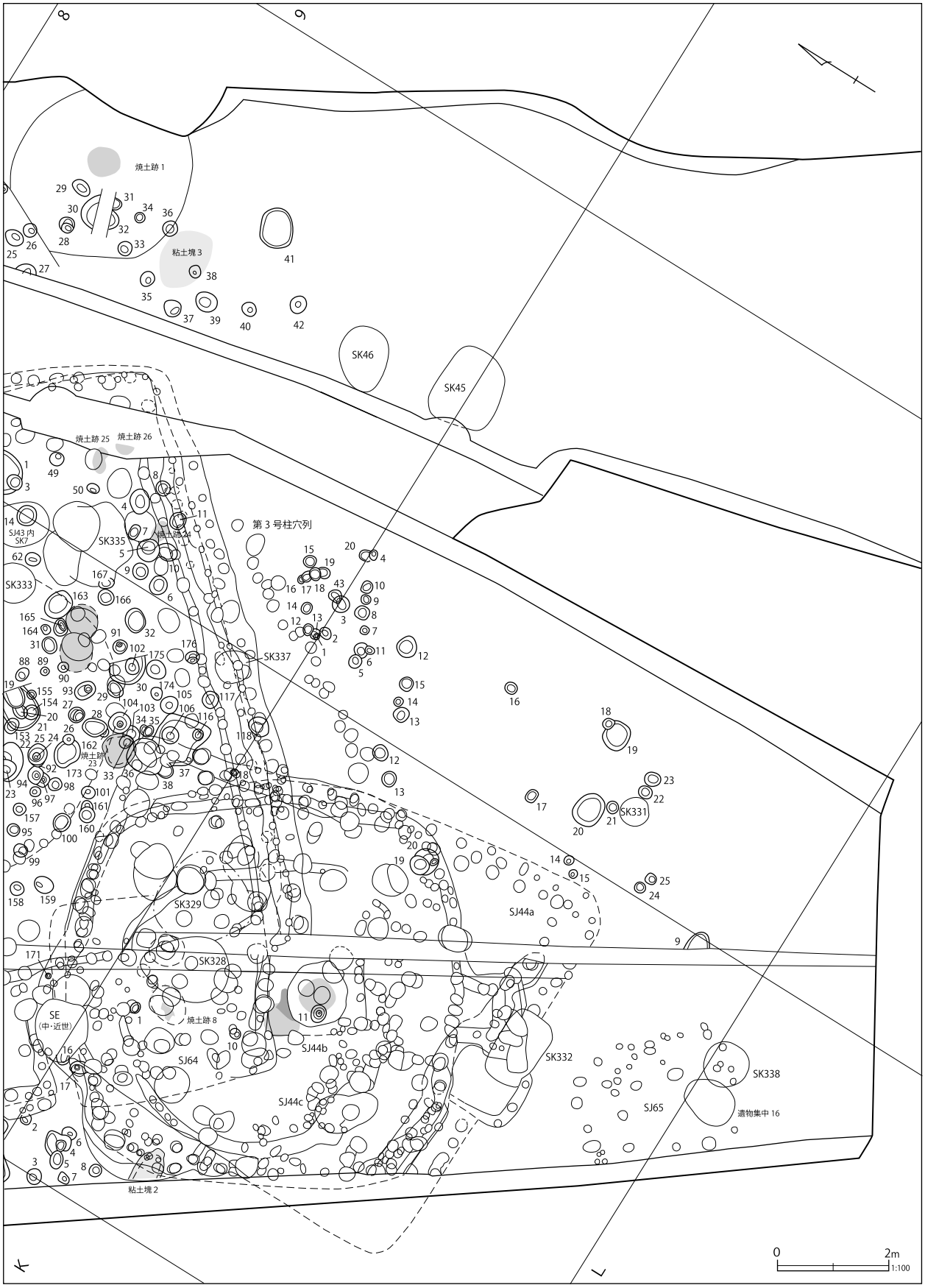
第182図　グリッドピット分布図（２）－２



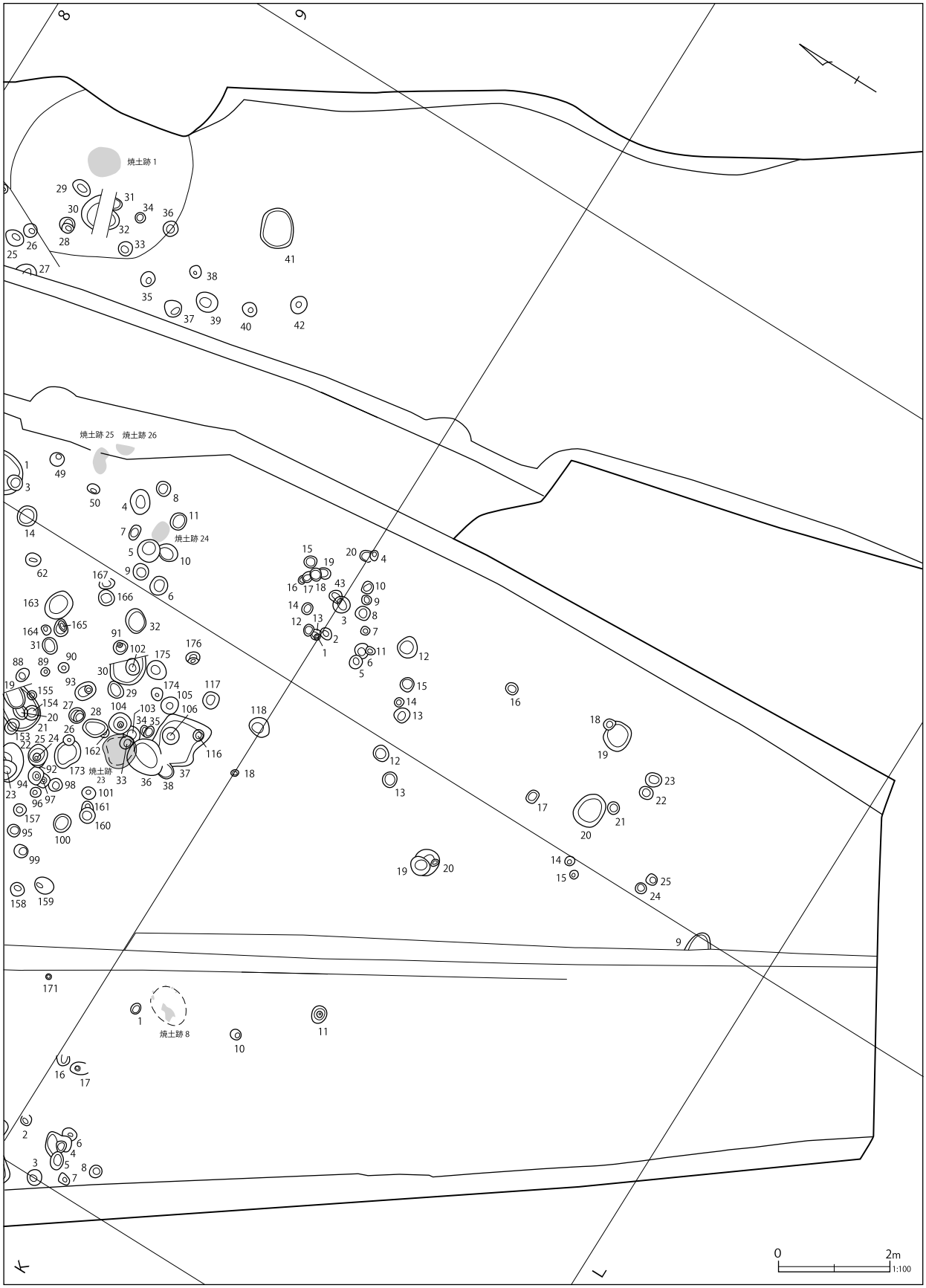
第183図　グリッドピット分布図（3）－1



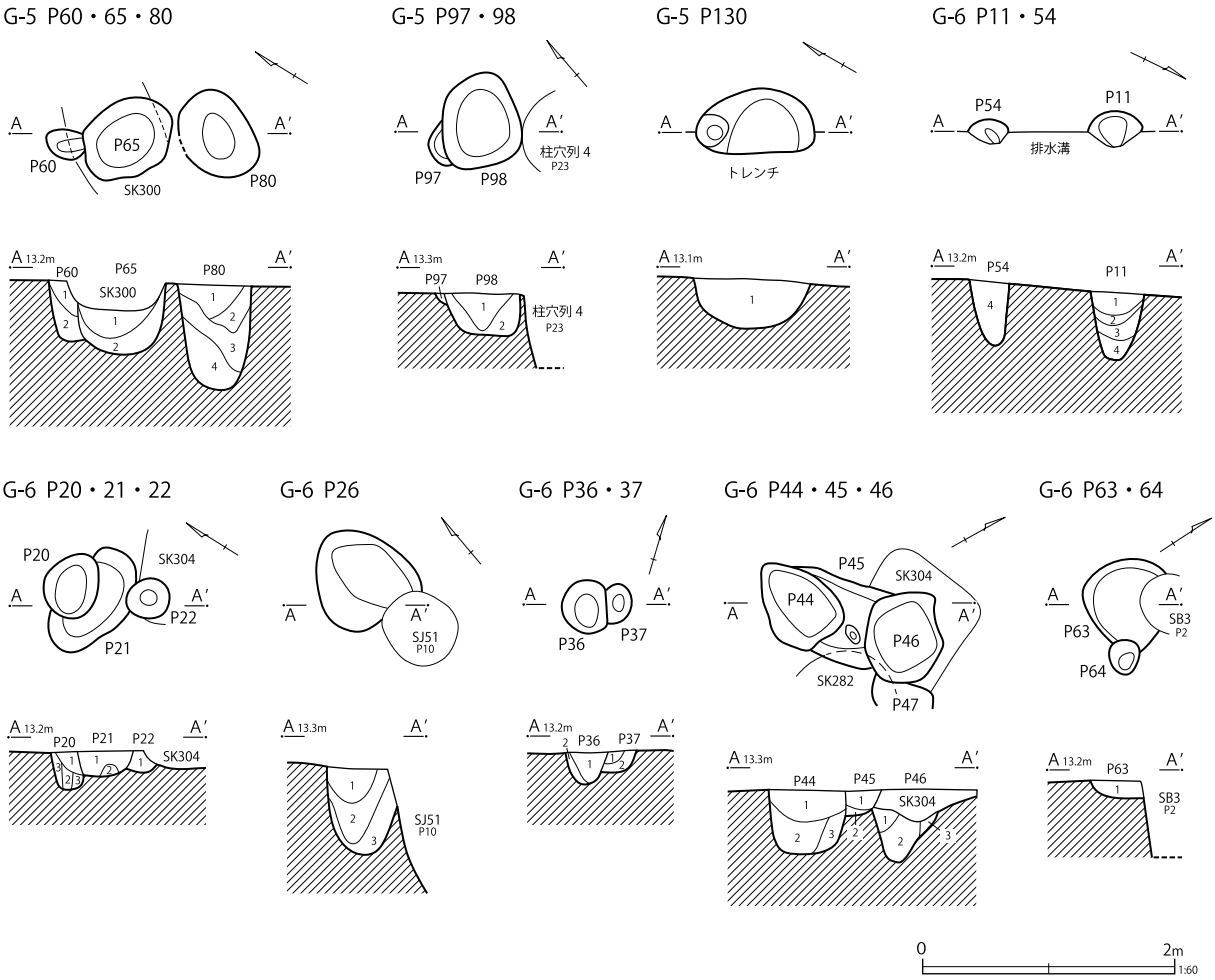
第184図　グリッドピット分布図（３）－２



第185図　グリッドピット分布図（4）－1



第186図　グリッドピット分布図（4）－2



G-5 P60
1 暗褐色土 ロームブロック・炭化物粒子（微） しまり（良）
2 暗褐色土 ブラックバンドブロック（多） しまり（良）

G-5 P65
1 暗褐色土 ロームブロック（多） 炭化物粒子（少）
2 暗褐色土 ローム小ブロック（多） 炭化物粒子（微） しまり（欠）

G-5 P80
1 黒褐色土 炭化物粒子・骨片（多） 土器含む しまり（欠）
2 暗黄褐色土 ロームブロック（多） しまり（欠）
3 暗黄褐色土 ロームブロック（少） 炭化物粒子（多） しまり（欠）
4 暗褐色土 ブラックバンドブロック（多） しまり（欠）

G-5 P98
1 暗褐色土 炭化物粒子（多） 骨片・焼土含む しまり（欠）
2 暗黄褐色土 ロームブロック（多） しまり（欠）

G-5 P130
1 茶褐色土 ローム粒子・炭化物粒子（中） 骨小片（少） しまり（良）

G-6 P11・54
1 黒褐色土 ローム粒子・焼土（多） 炭化物粒子（少） しまり（欠）
2 暗黄褐色土 ローム・炭化物粒子（少） 土器含む しまり（欠）
3 暗黄褐色土 ローム小ブロック（多） しまり（良）
4 暗褐色土 ロームブロック（多） 炭化物粒子（少）

G-6 P20
1 灰褐色土 炭化物粒子（少） ロームとの混土 しまり（良）
2 灰褐色土 ロームとの混土 しまり（中）
3 黄褐色土 ローム土主体 しまり（良） 掘り方埋土

G-6 P21
1 褐色土 ローム粒子（中） しまり（良）
2 黄褐色土 ロームブロック主体 しまり（中）

G-6 P22
1 暗褐色土 ロームブロック（少） しまり（良）

G-6 P26
1 黒褐色土 ロームブロック（少） 炭化物粒子（多） しまり（欠）
2 黒褐色土 ロームブロック（多） 炭化物粒子（少） しまり（欠）
3 暗褐色土 ブラックバンドブロック（少）

G-6 P36
1 灰褐色土 ロームブロック（中） しまり（良）
2 黄褐色土 ロームブロック（多） しまり（良） 掘り方埋土

G-6 P37
1 灰褐色土 ローム粒子（中） 炭化物粒子（少） しまり（良）
2 灰褐色土 ローム土主体・黒色土との混土

G-6 P44
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子（中） 炭化物粒子（多）
骨片（少） しまり（良）
2 暗褐色土 ローム（10㎜）（中） 炭化物粒子（少） しまり（良）
3 灰褐色土 ロームブロック（多） 炭化物小片（微） しまり（良）

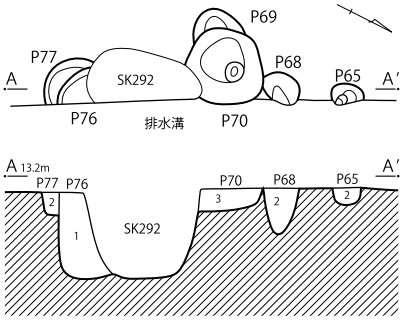
G-6 P45
1 褐色土 ローム粒子（多） 炭化物（小）含む しまり（良）
2 灰褐色土 ロームブロック（多） しまり（良）

G-6 P46
1 黄褐色土 ロームブロック含む
2 褐色土 ローム粒子（少） 炭化物粒子（微） しまり（欠）
3 灰褐色土 炭化物粒子（少） ローム土主体 しまり（良）

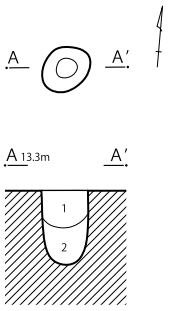
G-6 P63
1 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物粒子（少）

第187図 グリッドピット（1）

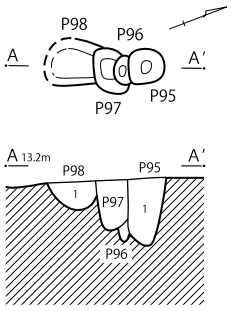
G-6 P65・68・69・70・76・77



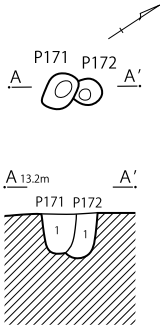
G-6 P82



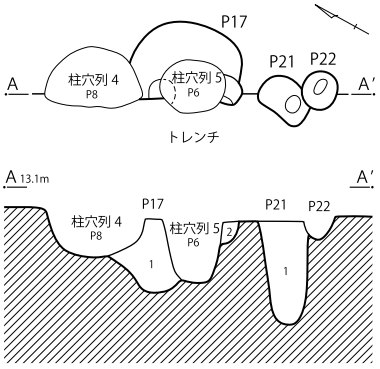
G-6 P95・96・97・98



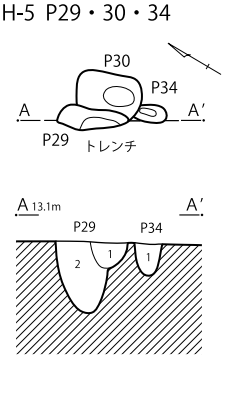
G-6 P171・172



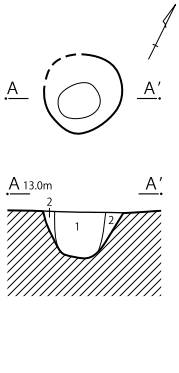
H-5 P17・21・22



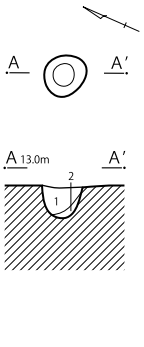
H-5 P29・30・34



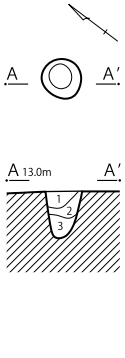
H-5 P107



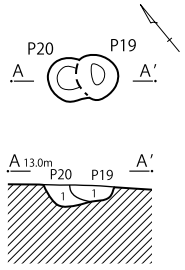
H-5 P108



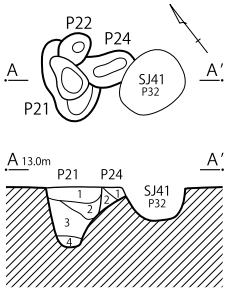
H-5 P118

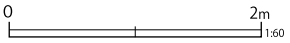


H-6 P19・20



H-6 P21・22・24





G-6　P65・68・70・76・77
1　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（少）
2　暗黄褐色土　ローム小ブロック（多）　しまり（良）
3　暗黄褐色土　ローム・炭化物粒子（少）　土器含む　しまり（欠）

G-6　P82
1　暗褐色土　炭化物粒子・焼土（多）
2　暗褐色土　ロームブロック（多）

G-6　P95
1　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　しまり（良）　埋土

G-6　P98
1　暗褐色土　ロームブロック（多）　炭化物粒子（中）　しまり（良）　埋土

G-6　P171
1　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）
　　ローム・黒色土との混土　しまり（良）

G-6　P172
1　褐色土　ロームブロック（中）　炭化物粒子（少）　しまり（良）

H-5　P17
1　茶褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（5㎜）（微）　しまり（良）
2　茶褐色土　ローム粒子（多）　炭化物粒子（微）　しまり（良）

H-5　P21
1　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（多）　しまり（欠）

H-5　P29
1　茶褐色土　ローム粒子（多）　しまり（良）
2　茶褐色土　ローム粒子（多）　しまり（欠）

H-5　P34
1　茶褐色土　ローム粒子（中）　炭化物粒子（少）　しまり（良）

H-5　P107
1　黒褐色土　骨片（少）
2　黄褐色土　ローム粒子主体

H-5　P108
1　暗褐色土　ローム小ブロック（径 10 ㎜）・焼土粒子（少）　粘性（強）
2　暗褐色土　ロームブロック（径 20 ㎜）（多）　壁崩落土

H-5　P118
1　暗灰黄色土　ローム粒子（少）
2　暗褐色土　焼土粒子（少）
3　暗灰黄色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）

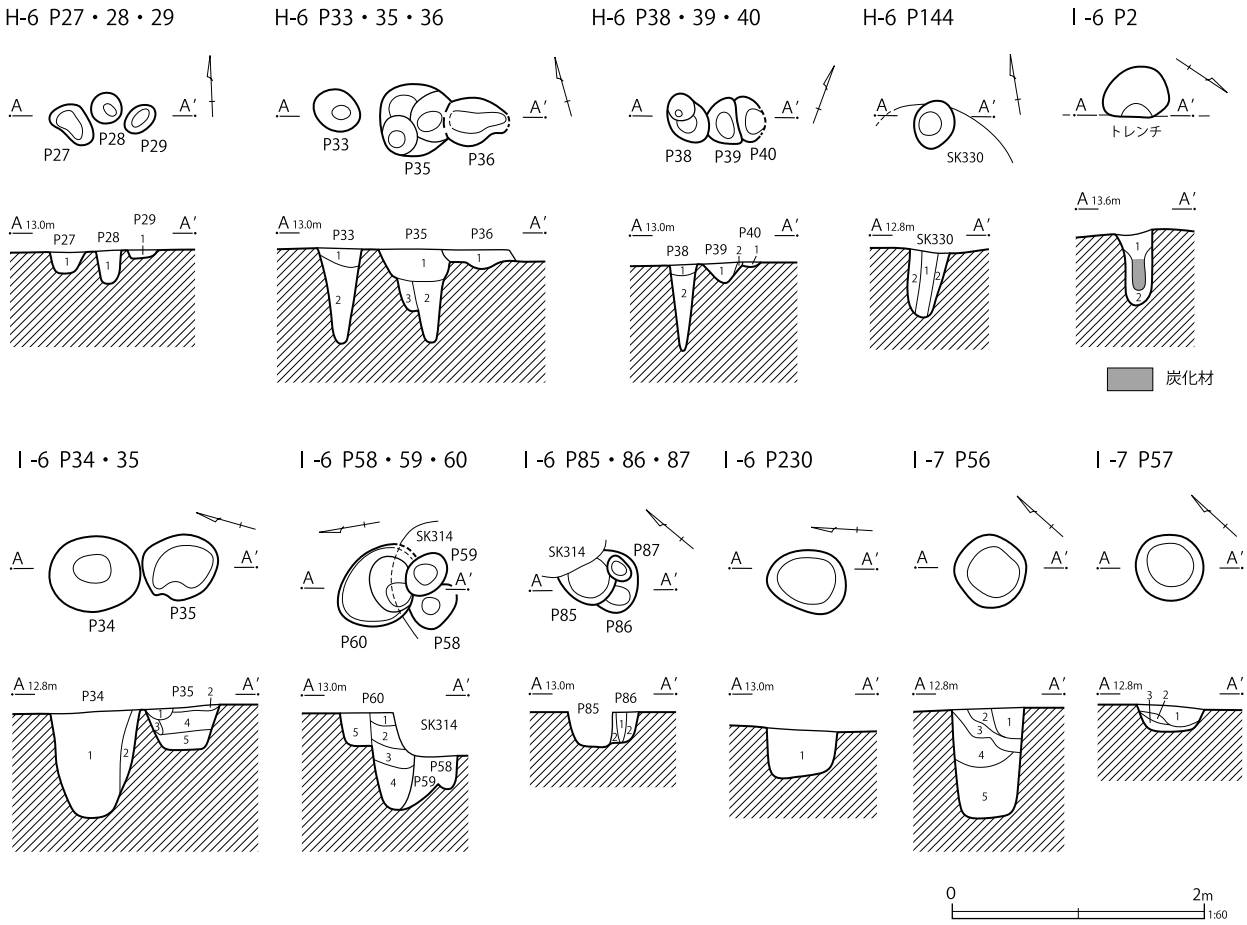
H-6　P19
1　褐色土　ローム粒子（中）　炭化物（少）　しまり（良）

H-6　P20
1　褐色土　ローム粒子（少）　しまり（良）　ローム土との混土

H-6　P21
1　褐色土　焼土粒子（少）　しまり（良）　埋土
2　褐色土　炭化物（中）　しまり（欠）　埋土
3　褐色土　ローム粒子（少）　しまり（欠）
4　茶褐色土　粘性（強）　しまり（欠）

H-6　P24
1　灰褐色土　しまり（良）　埋土
2　黄褐色土　ロームブロック主体　しまり（良）

第188図　グリッドピット（2）



H-6　P27
1　褐色土　　ローム粒子（少）　しまり（良）　埋土

H-6　P28
1　暗褐色土　ローム粒子（少）　ローム土・黒色土との混土　しまり（良）

H-6　P29
1　黄褐色土　ローム土主体　しまり（良）

H-6　P33
1　褐色土　　ローム土主体　しまり（良）
2　褐色土　　ローム土主体　粘性（強）　しまり（欠）

H-6　P35
1　暗褐色土　ローム粒子（少）　ローム土との混土　しまり（良）
2　暗褐色土　炭化物（微）　しまり（欠）
3　黄褐色土

H-6　P36
1　褐色土　　ロームブロック（少）　しまり（良）

H-6　P38
1　褐色土　　ロームブロック（中）　ローム土との混土　しまり（良）
2　褐色土　　ローム土との混土　しまり（良）

H-6　P39
1　褐色土　　ローム土主体　しまり（欠）
2　黄褐色土　ロームブロック（多）

H-6　P40
1　褐色土　　ローム土主体　しまり（良）

H-6　P144
1　灰褐色土　焼土粒子（少）　しまり（欠）
2　褐色土　　焼土粒子（微）　しまり（欠）

I-6　P2
1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む　骨片（少）
　　炭化材検出　しまり（欠）
2　暗黄褐色土　炭化物（多）　ローム粒子・焼土粒子含む　しまり（良）

I-6　P34
1　黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子（径 10 ㎜）（中）
　　骨片（少）　粘性（強）　しまり（欠）
2　黒褐色土　ロームブロック（径 30 ㎜）（少）

I-6　P35
1　暗褐色土　ロームブロック（径 40 ㎜）（多）
2　暗褐色土　粘性（強）　しまり（欠）
3　暗褐色土　粘性（弱）　しまり（欠）
4　黄褐色土　ローム粒子（多）　焼土粒子（径 5 ㎜）（少）
　　粘性（強）　しまり（欠）
5　黄褐色土　ロームブロック（径 50 ㎜）（多）

I-6　P60
1　茶褐色土　ローム土主体　ローム粒子（多）　しまり（良）
2　茶褐色土　ローム土主体　ローム粒子（中）　しまり（良）
3　暗褐色土　暗褐色土・ソフトローム土との混土　しまり（欠）
4　暗褐色土　暗褐色土主体　ローム土含む　しまり（欠）
5　灰褐色土　ロームブロック（多）　黒色土・ロームとの混土
　　しまり（良）

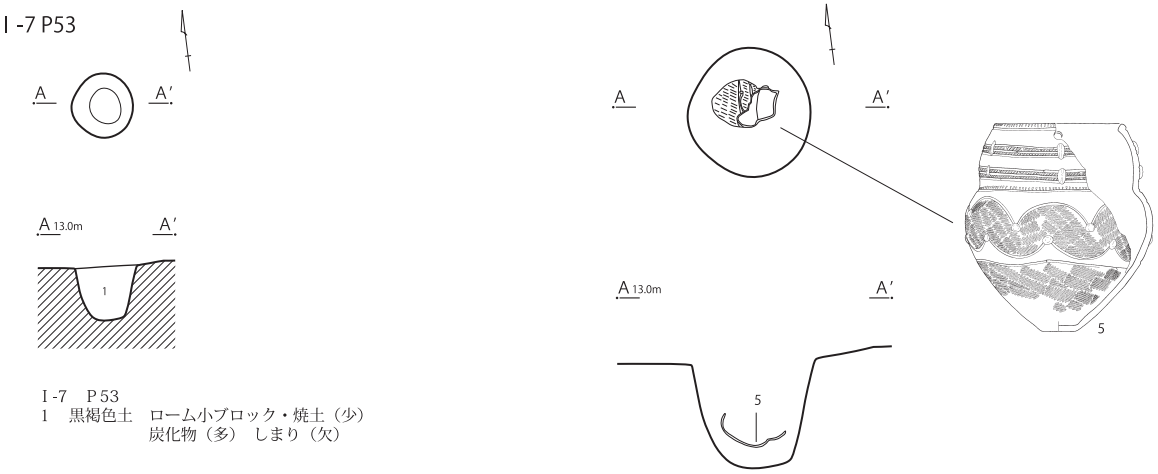
I-6　P86
1　暗褐色土　炭化物粒子（微）　しまり（良）　柱痕
2　灰褐色土　黒色土・ローム土との混土　しまり（良）　掘り方

I-6　P230
1　灰褐色土　暗褐色土主体　ローム粒子（少）　しまり（欠）

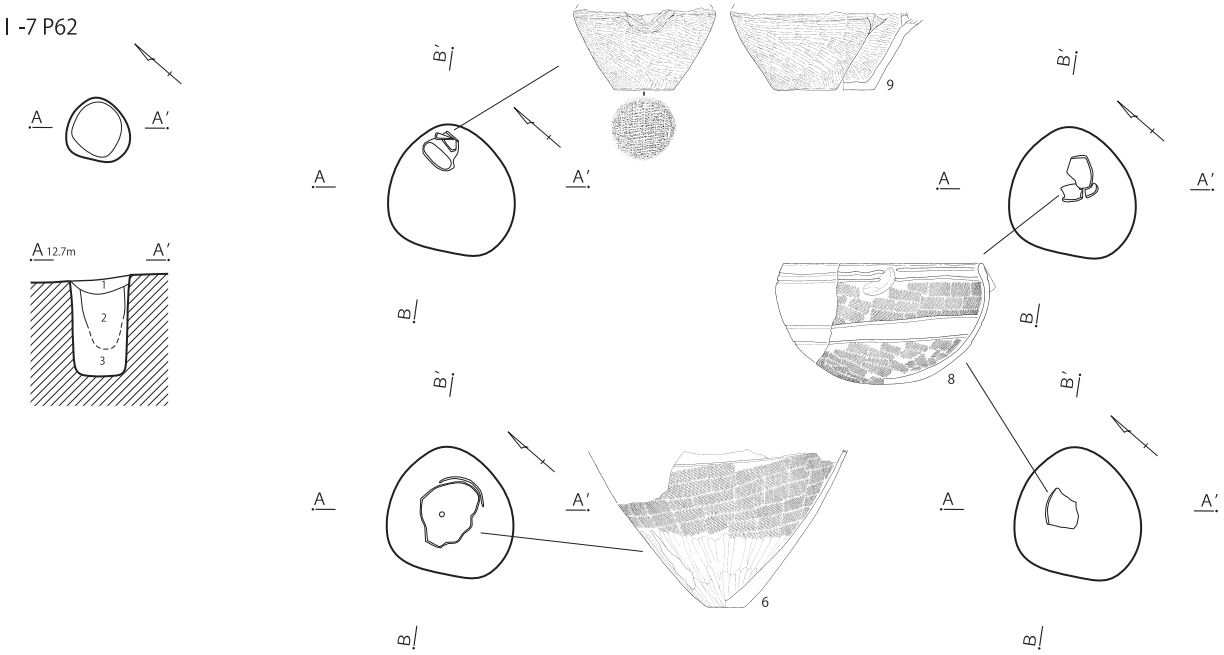
I-7　P56
1　黒褐色土　粘質　ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
2　暗黄褐色土　粘質　ロームブロック（多）
3　黒褐色土　粘質　炭化物粒子（少）　暗褐色土ブロック（多）
4　暗褐色土　粘質　暗褐色土主体　ロームブロック（多）
5　暗褐色土　粘質　ロームブロック・炭化物粒子（少）　しまり（欠）

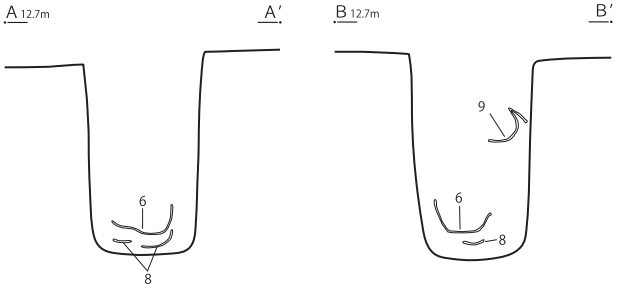
I-7　P57
1　黒褐色土　粘質　ロームブロック（少）　炭化物粒子（多）　しまり（欠）
2　黒褐色土　シルト質　炭化物層
3　暗褐色土　粘質　ロームブロック（多）

第189図　グリッドピット（３）



I -7　P53
1　黒褐色土　ローム小ブロック・焼土（少）
　　炭化物（多）　しまり（欠）





I -7　P62
1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（少）
　　黒色土・ロームとの混土　しまり（良）
2　暗褐色土　炭化物粒子（少）　しまり（欠）
3　暗褐色土　２層類似　しまり（良）

0　2m
1:60

0　1m
1:30

第190図　グリッドピット（４）

第8表　グリッドピット一覧表(1)

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
F-5	1	32	65	—	G-5	14	34	14	C	G-5	61	21	37	—	G-5	108	52	17	C
	2	12	22	C		15	32	56	—		62	78	37	B		109	58	60	C
	3	20	10	C		16	26	26	B		63	22	13	C		110	62	59	—
	4	24	37	B		17	34	32	C		64	(58)	42	B		111	(44)	34	C
	5	28	24	C		18	54	38	C		65	78	57	—		112	35	18	C
	6	36	14	C		19	33	28	B		66	54	27	—		113	(26)	17	C
	7	32	33	C		20	70	61	C		67	48	66	C		114	19	16	—
	8	28	41	C		21	35	21	B		68	(36)	56	—		115	(78)	11	A
	9	18	10	A		22	32	31	—		69	60	100	C		116	(50)	15	C
	10	66	16	A		23	38	16	C		70	45	15	C		117	28	14	C
	11	48	26	A		24	20	50	B		71	26	20	C		118	(54)	31	C
	12	(28)	14	A		25	48	46	C		72	(46)	62	C		119	63	39	B
	13	38	19	B		26	(24)	39	C		73	16	28	C		120	(54)	46	—
	14	(44)	15	B		27	44	29	B		74	32	35	—		121	(38)	28	C
	15	24	24	B		28	30	47	B		75	24	43	C		122	24	15	—
	16	28	21	B		29	30	46	B		76	24	45	C		123	28	18	—
	17	15	22	B		30	52	44	B		77	36	61	C		124	28	16	—
	18	34	26	B		31	62	32	A		78	30	28	C		125	42	17	—
	19	26	15	B		32	34	20	—		79	70	36	B		126	(52)	6	C
	20	24	29	C		33	72	42	B		80	74	84	—		127	38	26	C
	21	30	21	C		34	58	17	C		81	(66)	37	—		128	(40)	8	C
	22	30	25	C		35	(10)	30	C		82	32	31	B		129	18	10	C
	23	24	34	C		36	34	14	C		83	30	21	C		130	(96)	36	C
	24	38	36	C		37	56	57	—		84	112	49	—		131	(44)	48	A
	25	30	20	C		38	(27)	15	C		85	50	46	B		132	(58)	46	A
	26	36	33	C		39	64	44	C		86	(40)	16	—		133	(56)	43	B
	27	36	43	C		40	74	53	C		87	42	48	C		134	(46)	43	C
	28	18	10	C		41	72	27	C		88	40	32	C		135	62	45	A
F-6	1	28	23	C		42	44	31	C		89	36	23	C		136	24	31	C
	2	24	12	C		43	42	35	C		90	32	17	C		137	(28)	34	—
	3	15	11	C		44	(30)	29	C		91	29	31	C		138	30	19	C
	4	56	57	C		45	50	41	C		92	18	55	C		139	20	17	C
	5	20	31	C		46	26	47	B		93	28	11	C		140	22	30	C
	6	24	8	—		47	30	25	C		94	18	14	C		141	24	38	C
G-5	1	26	41	B		48	36	43	C		95	27	24	C	G-6	1	54	41	—
	2	32	20	—		49	68	41	C		96	(68)	18	C		2	92	21	B
	3	28	15	—		50	26	29	C		97	(34)	8	C		3	36	21	C
	4	33	9	C		51	46	19	C		98	82	31	—		4	29	23	C
	5	36	21	C		52	(66)	87	B		99	46	48	A		5	(26)	15	C
	6	42	19	B		53	28	27	B		100	(74)	38	B		6	(38)	32	—
	7	36	74	C		54	26	11	C		101	(50)	21	B		7	24	44	B
	8	32	3	C		55	24	18	C		102	76	31	B		8	34	22	C
	9	30	65	B		56	30	9	C		103	(44)	16	—		9	(70)	43	—
	10	30	29	B		57	32	68	C		104	18	13	—		10	42	15	C
	11	52	40	C		58	40	17	C		105	42	58	—		11	(44)	61	B
	12	28	37	C		59	32	22	C		106	32	20	C		12	22	30	—
	13	30	22	B		60	(32)	46	—		107	40	54	C		13	32	54	B

第9表　グリッドピット一覧表(2)

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
G-6	14	24	39	A	G-6	61	41	44	B	G-6	108	36	10	C	G-6	155	(18)	7	C
	15	26	55	—		62	(40)	17	C		109	30	32	C		156	40	94	B
	16	40	50	C		63	74	11	B		110	39	16	C		157	40	63	A
	17	(22)	10	—		64	30	32	—		111	40	10	C		158	50	38	C
	18	(18)	8	C		65	(26)	32	C		112	30	45	C		159	39	14	C
	19	34	24	C		66	(68)	47	C		113	44	47	—		160	32	7	C
	20	54	41	—		67	50	54	—		114	22	43	C		161	(56)	10	C
	21	92	21	—		68	32	34	C		115	17	20	C		162	41	6	C
	22	36	21	—		69	(40)	13	C		116	40	14	—		163	47	27	C
	23	66	45	C		70	(66)	43	B		117	46	27	A		164	34	18	C
	24	30	22	C		71	28	57	C		118	(38)	12	—		165	26	23	C
	25	(14)	7	C		72	18	67	C		119	34	16	C		166	26	29	C
	26	(92)	75	—		73	36	41	B		120	(20)	68	—		167	30	20	C
	27	44	45	—		74	50	32	—		121	24	12	—		168	43	53	B
	28	28	23	—		75	(140)	15	—		122	(28)	49	—		169	58	51	B
	29	21	36	C		76	(20)	67	B		123	42	34	—		170	(22)	37	C
	30	34	28	C		77	(30)	17	C		124	(36)	36	C		171	36	31	—
	31	40	17	B		78	56	25	—		125	64	46	—		172	(22)	37	—
	32	(36)	46	C		79	(54)	34	—		126	40	69	C		173	44	22	C
	33	46	23	C		80	28	30	C		127	28	64	C		174	(56)	44	—
	34	30	17	—		81	36	39	—		128	46	44	—		175	40	17	C
	35	34	5	C		82	42	49	—		129	38	16	C	H-5	1	90	73	A
	36	52	27	—		83	32	39	B		130	15	36	C		2	72	71	—
	37	34	12	—		84	(36)	13	C		131	26	27	—		3	(39)	25	B
	38	(56)	17	C		85	52	44	C		132	(56)	41	—		4	(62)	53	C
	39	(16)	18	C		86	25	30	—		133	(116)	59	—		5	26	48	B
	40	(42)	20	C		87	24	42	—		134	25	83	—		6	36	28	B
	41	40	23	B		88	42	40	C		135	42	13	—		7	32	37	B
	42	18	48	—		89	40	34	—		136	27	20	B		8	(32)	65	C
	43	24	30	C		90	64	47	C		137	(13)	15	C		9	(32)	41	C
	44	78	52	A		91	32	13	—		138	24	15	C		10	28	39	C
	45	(102)	30	—		92	30	26	—		139	26	14	C		11	25	17	C
	46	78	62	—		93	28	33	B		140	31	27	—		12	(35)	10	—
	47	56	36	C		94	30	90	C		141	20	8	C		13	32	32	—
	48	(42)	25	C		95	32	53	—		142	38	25	B		14	(48)	13	—
	49	21	25	B		96	25	50	—		143	28	59	—		15	30	18	B
	50	32	25	C		97	40	43	—		144	64	58	A		16	38	15	C
	51	36	82	B		98	(28)	20	—		145	(22)	21	B		17	(90)	25	—
	52	30	26	C		99	18	29	—		146	75	45	—		18	26	31	C
	53	40	46	C		100	36	8	C		147	(39)	24	—		19	25	17	B
	54	(33)	49	B		101	40	9	C		148	(72)	45	A		20	24	9	B
	55	36	23	C		102	50	48	C		149	(78)	21	—		21	42	85	C
	56	20	12	—		103	44	32	C		150	40	24	C		22	32	17	C
	57	36	40	C		104	41	25	—		151	(30)	28	—		23	96	19	B
	58	(74)	16	B		105	32	23	C		152	(50)	33	—		24	36	17	B
	59	(40)	31	C		106	24	32	C		153	18	3	C		25	38	41	A
	60	34	74	B		107	24	13	C		154	(26)	15	C		26	26	49	B

第10表　グリッドピット一覧表(3)

グリッド	番号	長径 (cm)	深さ (cm)	分類
H-5	27	(26)	9	C
	28	19	16	C
	29	(56)	54	—
	30	52	59	—
	31	60	48	—
	32	(58)	14	C
	33	(44)	49	—
	34	(23)	47	—
	35	26	11	C
	36	24	46	—
	37	62	17	B
	38	34	44	B
	39	52	19	C
	40	(22)	12	C
	41	50	52	C
	42	34	48	C
	43	28	97	C
	44	33	28	C
	45	34	21	C
	46	30	62	B
	47	46	54	C
	48	46	45	C
	49	34	50	C
	50	28	20	B
	51	66	32	A
	52	(28)	16	B
	53	31	17	B
	54	36	16	B
	55	22	35	C
	56	21	26	C
	57	42	47	C
	58	(30)	39	C
	59	48	63	B
	60	86	42	B
	61	(44)	34	A
	62	(26)	16	A
	63	43	37	—
	64	(60)	28	—
	65	93	38	A
	66	48	27	—
	67	(18)	28	—
	68	(46)	—	A
	69	22	152	C
	70	24	20	—
	71	48	54	A
	72	52	33	C
	73	(28)	9	C
H-5	74	52	45	C
	75	72	42	B
	76	36	20	C
	77	32	87	C
	78	32	86	A
	79	31	21	B
	80	28	14	B
	81	42	16	B
	82	(32)	27	B
	83	(34)	59	—
	84	(32)	25	—
	85	14	49	—
	86	104	57	C
	87	(65)	24	C
	88	60	23	B
	89	40	14	C
	90	(52)	50	C
	91	31	11	B
	92	32	26	—
	93	35	39	—
	94	33	27	—
	95	(32)	58	—
	96	34	43	C
	97	(46)	8	—
	98	42	39	—
	99	23	19	—
	100	28	5	—
	101	(50)	71	—
	102	34	28	—
	103	(34)	19	—
	104	30	5	—
	105	10	31	C
	106	34	5	—
	107	66	41	—
	108	34	30	—
	109	(28)	31	—
	110	46	39	—
	111	(16)	3	—
	112	(18)	21	—
	113	18	14	—
	114	42	67	A
	115	28	11	—
	116	32	12	—
	117	30	48	C
	118	26	39	—
	119	11	7	—
	120	16	41	C
H-5	121	38	17	—
	122	40	15	C
	123	(24)	12	C
	124	28	16	C
H-6	1	110	8	C
	2	12	7	C
	3	38	41	C
	4	22	18	C
	5	64	29	C
	6	28	22	C
	7	86	35	A
	8	49	46	A
	9	46	15	A
	10	30	6	C
	11	38	39	C
	12	46	8	—
	13	50	20	B
	14	41	58	B
	15	60	8	—
	16	50	40	—
	17	(30)	9	A
	18	30	65	C
	19	38	12	—
	20	34	19	C
	21	38	27	—
	22	66	31	—
	23	(36)	13	C
	24	(44)	14	—
	25	24	11	—
	26	16	20	C
	27	40	16	—
	28	36	25	—
	29	18	6	—
	30	39	17	C
	31	24	31	C
	32	46	31	C
	33	40	71	—
	34	(36)	5	C
	35	60	79	C
	36	(42)	10	—
	37	30	15	C
	38	44	69	—
	39	(38)	14	—
	40	37	5	—
	41	28	28	B
	42	30	22	C
	43	32	34	C
H-6	44	34	9	C
	45	24	19	C
	46	24	22	C
	47	30	15	—
	48	46	26	C
	49	22	16	—
	50	39	40	B
	51	(16)	38	C
	52	30	9	C
	53	18	26	C
	54	18	10	—
	55	22	12	C
	56	46	50	B
	57	50	74	C
	58	18	—	C
	59	26	50	C
	60	48	28	B
	61	20	20	C
	62	30	23	C
	63	30	71	C
	64	(36)	53	—
	65	(16)	11	B
	66	25	22	C
	67	18	17	B
	68	(20)	26	B
	69	40	67	C
	70	20	13	—
	71	44	12	B
	72	28	80	C
	73	30	15	C
	74	20	12	C
	75	52	56	A
	76	(26)	18	B
	77	18	14	B
	78	48	64	B
	79	30	30	B
	80	44	33	C
	81	(38)	20	C
	82	23	39	—
	83	41	25	C
	84	37	28	—
	85	42	25	—
	86	32	36	A
	87	(34)	20	—
	88	40	88	B
	89	42	47	—
	90	38	55	—

第11表　グリッドピット一覧表(4)

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
H-6	91	38	32	C
	92	(42)	45	C
	93	16	32	—
	94	(32)	28	—
	95	72	21	—
	96	64	67	—
	97	30	13	C
	98	22	4	C
	99	26	28	C
	100	(24)	23	—
	101	(24)	26	—
	102	21	40	A
	103	40	14	C
	104	22	18	—
	105	(50)	29	—
	106	(37)	21	—
	107	40	57	B
	108	28	61	A
	109	29	14	C
	110	22	21	—
	111	(26)	30	—
	112	26	63	—
	113	20	17	—
	114	60	20	C
	115	33	24	B
	116	36	67	—
	117	35	50	—
	118	(25)	19	C
	119	44	39	A
	120	26	50	B
	121	(36)	37	—
	122	29	19	—
	123	20	25	—
	124	46	53	B
	125	28	19	B
	126	36	17	C
	127	37	10	C
	128	38	24	C
	129	48	16	C
	130	18	22	—
	131	25	26	—
	132	20	25	—
	133	19	15	—
	134	(28)	10	—
	135	25	10	—
	136	32	41	C
	137	21	29	—
H-6	138	30	16	C
	139	26	16	—
	140	18	24	C
	141	36	68	B
	142	(30)	6	B
	143	50	34	B
	144	(54)	19	—
	145	42	50	B
	146	12	20	B
	147	32	29	—
	148	(16)	18	C
H-7	1	45	12	—
	2	53	57	—
	3	24	13	—
	4	28	55	C
	5	29	16	C
	6	48	42	C
	7	(52)	71	—
	8	24	28	—
	9	27	22	—
	10	75	16	—
	11	33	52	C
	12	(30)	42	—
	13	(45)	30	B
	14	71	54	—
	15	(40)	45	—
	16	(50)	68	—
	17	28	50	C
I-5	1	49	68	A
	2	39	21	C
	3	45	35	C
	4	50	9	—
	5	8	5	—
	6	53	54	—
I-6	1	30	11	—
	2	(54)	10	—
	3	26	6	—
	4	26	10	—
	5	(22)	45	—
	6	(44)	31	—
	7	46	36	—
	8	22	9	—
	9	40	34	—
	10	(24)	28	—
	11	16	2	—
	12	22	12	B
	13	28	17	—
I-6	14	22	25	B
	15	46	23	—
	16	47	66	—
	17	32	32	—
	18	(34)	27	—
	19	22	57	C
	20	24	49	C
	21	46	29	C
	22	—	—	—
	23	(32)	17	—
	24	(48)	13	—
	25	38	20	C
	26	20	57	—
	27	43	15	C
	28	32	30	—
	29	24	23	C
	30	(45)	18	C
	31	46	21	C
	32	18	16	—
	33	38	6	—
	34	72	84	—
	35	60	35	—
	36	30	20	C
	37	38	8	C
	38	24	34	C
	39	34	3	—
	40	(32)	11	—
	41	18	34	—
	42	34	21	—
	43	18	36	C
	44	30	24	—
	45	(28)	26	C
	46	30	20	C
	47	36	36	C
	48	(22)	36	—
	49	24	32	—
	50	(31)	15	—
	51	(40)	9	C
	52	48	26	B
	53	(36)	28	—
	54	(30)	30	C
	55	32	36	A
	56	(20)	18	—
	57	(38)	25	C
	58	40	37	B
	59	38	45	B
	60	66	82	—
I-6	61	38	17	C
	62	30	33	C
	63	56	30	A
	64	56	42	—
	65	34	17	C
	66	34	49	C
	67	37	28	—
	68	37	79	—
	69	34	29	C
	70	(34)	27	—
	71	(33)	24	—
	72	52	19	C
	73	34	21	C
	74	(20)	17	C
	75	34	21	C
	76	(36)	12	C
	77	40	57	C
	78	31	18	C
	79	32	20	C
	80	26	23	B
	81	20	12	C
	82	18	17	B
	83	22	25	—
	84	(30)	9	—
	85	(34)	26	—
	86	(34)	25	—
	87	24	26	—
	88	(34)	23	C
	89	(41)	12	C
	90	32	53	—
	91	(28)	50	—
	92	(32)	18	B
	93	44	25	—
	94	34	21	C
	95	26	8	—
	96	(46)	46	A
	97	40	29	C
	98	(44)	46	C
	99	52	54	—
	100	44	45	—
	101	26	40	C
	102	(40)	53	B
	103	(36)	23	B
	104	16	27	—
	105	34	28	C
	106	(30)	30	C
	107	42	51	C

第12表　グリッドピット一覧表(5)

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類	グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
I-6	108	(35)	13	—	I-6	155	(20)	13	C	I-6	202	34	41	B	I-7	2	40	42	—
	109	30	28	—		156	62	38	C		203	30	23	C		3	32	29	—
	110	20	20	—		157	(46)	14	—		204	14	15	—		4	(68)	69	—
	111	(36)	22	—		158	46	25	—		205	30	32	—		5	64	34	—
	112	(26)	12	—		159	(38)	26	C		206	36	19	B		6	28	5	—
	113	22	22	—		160	30	28	A		207	54	12	C		7	(34)	78	—
	114	(50)	26	C		161	42	38	C		208	31	39	C		8	(26)	25	—
	115	40	41	—		162	34	16	B		209	(36)	26	C		9	35	27	—
	116	68	39	—		163	50	47	—		210	(36)	21	—		10	46	42	—
	117	48	56	C		164	30	22	B		211	(36)	21	C		11	56	32	—
	118	(38)	68	—		165	36	33	C		212	18	27	C		12	30	19	—
	119	46	35	C		166	27	39	B		213	(26)	26	C		13	22	39	—
	120	20	15	—		167	32	25	C		214	34	43	C		14	16	87	—
	121	78	23	—		168	28	28	A		215	32	27	—		15	(26)	23	—
	122	23	49	—		169	28	16	—		216	36	51	A		16	32	28	—
	123	44	59	—		170	20	28	C		217	34	24	C		17	26	74	—
	124	(42)	24	—		171	30	24	C		218	30	43	C		18	36	58	—
	125	68	40	—		172	28	30	C		219	32	55	—		19	28	27	—
	126	70	33	—		173	26	35	C		220	(50)	25	A		20	36	28	C
	127	(36)	48	C		174	38	13	—		221	36	54	C		21	42	53	—
	128	(50)	56	B		175	40	24	—		222	26	38	C		22	20	20	—
	129	(28)	13	C		176	(20)	11	B		223	(41)	19	—		23	28	67	—
	130	40	29	C		177	28	37	C		224	(30)	43	C		24	12	53	—
	131	(32)	30	—		178	58	77	B		225	25	35	B		25	44	28	C
	132	28	42	C		179	(40)	27	B		226	38	28	A		26	38	19	—
	133	34	19	C		180	20	30	C		227	26	17	C		27	(37)	13	—
	134	30	28	C		181	26	21	C		228	(34)	—	C		28	34	37	C
	135	24	52	C		182	28	24	C		229	28	15	—		29	66	21	C
	136	28	51	C		183	36	29	C		230	62	37	—		30	(38)	17	—
	137	(32)	52	C		184	40	46	B		231	65	41	—		31	38	61	C
	138	(42)	15	C		185	37	43	C		232	34	27	—		32	36	—	A
	139	(54)	28	C		186	20	15	C		233	(28)	25	—		33	58	31	A
	140	50	51	A		187	76	83	—		234	(36)	30	C		34	60	51	A
	141	43	48	C		188	(32)	74	C		235	38	29	—		35	(18)	12	C
	142	32	46	—		189	40	79	C		236	30	29	B		36	42	49	C
	143	56	50	C		190	32	85	C		237	26	49	—		37	52	42	C
	144	46	40	C		191	36	45	—		238	32	9	—		38	72	13	C
	145	20	33	B		192	22	17	A		239	34	39	—		39	70	11	C
	146	21	28	—		193	22	40	C		240	20	18	—		40	56	24	A
	147	(26)	17	—		194	18	27	C		241	18	11	—		41	44	36	B
	148	20	14	C		195	18	23	—		242	38	30	—		42	21	20	C
	149	52	53	A		196	(64)	19	C		243	34	15	—		43	(24)	19	C
	150	28	42	C		197	26	22	C		244	38	52	C		44	18	41	B
	151	26	49	—		198	36	73	C		245	56	—	A		45	28	21	B
	152	20	47	—		199	32	20	C		246	46	45	B		46	38	46	B
	153	(30)	23	C		200	(34)	46	—		247	18	28	C		47	32	27	B
	154	(26)	24	—		201	40	24	C	I-7	1	48	26	—		48	50	27	C

第13表　グリッドピット一覧表(6)

グリッド	番号	長径 (cm)	深さ (cm)	分類
I-7	49	26	9	C
	50	18	24	—
	51	38	32	—
	52	37	22	C
	53	56	46	—
	54	(18)	32	C
	55	30	51	C
	56	58	87	—
	57	54	21	—
	58	(48)	47	—
	59	50	56	A
	60	36	11	C
	61	18	10	—
	62	54	79	—
	63	32	39	B
	64	24	17	C
	65	(62)	41	—
	66	80	54	—
	67	(64)	52	C
	68	36	36	C
	69	24	15	—
	70	44	15	C
	71	(28)	14	—
	72	40	18	—
	73	23	10	—
	74	36	21	C
	75	56	46	—
	76	31	41	—
	77	21	11	—
	78	29	15	—
	79	(11)	41	—
	80	(46)	49	—
	81	48	46	—
	82	46	49	C
	83	86	72	—
	84	26	—	—
	85	34	—	—
	86	(32)	28	C
	87	50	29	C
	88	44	45	B
	89	70	36	B
	90	46	12	C
	91	(30)	19	—
I-8	1	38	10	—
	2	(54)	24	—
	3	24	15	—
J-6	1	(33)	17	—

グリッド	番号	長径 (cm)	深さ (cm)	分類
J-6	2	70	25	—
	3	47	64	—
	4	31	22	—
	5	27	39	—
	6	27	25	—
	7	81	6	—
	8	43	70	C
	9	(20)	21	—
	10	45	55	—
	11	(41)	43	—
	12	27	62	—
	13	27	61	—
	14	23	9	—
	15	(24)	16	—
	16	(22)	36	—
	17	40	18	—
	18	28	14	—
	19	30	17	—
	20	41	40	—
	21	17	23	—
	22	38	28	—
	23	(49)	37	—
	24	(22)	18	C
	25	39	17	C
	26	26	5	C
	27	25	9	C
	28	20	17	C
	29	33	30	—
	30	(34)	18	C
	31	32	32	C
	32	113	17	C
	33	72	24	C
	34	40	28	—
J-7	1	32	44	—
	2	22	44	—
	3	35	20	—
	4	56	56	—
	5	34	2	—
	6	48	49	—
	7	40	66	—
	8	46	28	—
	9	46	37	—
	10	34	28	—
	11	18	20	—
	12	16	26	—
	13	23	60	—
	14	32	20	—

グリッド	番号	長径 (cm)	深さ (cm)	分類
J-7	15	22	42	—
	16	50	56	—
	17	36	18	—
	18	54	16	—
	19	(41)	11	—
	20	(28)	13	—
	21	(98)	19	—
	22	70	56	—
	23	45	61	—
	24	14	24	—
	25	39	30	—
	26	19	23	—
	27	28	28	—
	28	45	23	—
	29	33	33	—
	30	(73)	16	—
	31	32	21	—
	32	43	30	—
	33	26	16	—
	34	20	18	—
	35	23	36	—
	36	70	26	—
	37	102	20	—
	38	(29)	13	—
	39	51	60	—
	40	(44)	29	—
	41	12	32	—
	42	53	24	—
	43	22	36	—
	44	35	40	—
	45	33	14	—
	46	23	12	—
	47	22	18	—
	48	21	38	—
	49	24	23	—
	50	19	14	—
	51	45	52	—
	52	21	32	—
	53	11	34	—
	54	27	44	—
	55	19	32	—
	56	30	31	—
	57	27	29	—
	58	25	33	—
	59	28	48	—
	60	26	29	—
	61	27	35	—

グリッド	番号	長径 (cm)	深さ (cm)	分類
J-7	62	27	29	—
	63	20	42	—
	64	14	24	—
	65	30	21	—
	66	(29)	21	—
	67	24	28	—
	68	51	25	—
	69	33	51	—
	70	45	27	—
	71	13	14	—
	72	15	12	—
	73	25	14	—
	74	(46)	39	—
	75	50	22	—
	76	28	16	—
	77	47	27	—
	78	28	14	—
	79	(26)	10	—
	80	54	35	—
	81	24	21	—
	82	51	36	—
	83	22	17	—
	84	20	10	—
	85	(20)	7	—
	86	14	22	—
	87	(27)	19	—
	88	27	35	—
	89	15	33	—
	90	20	47	—
	91	26	43	—
	92	39	24	—
	93	39	33	—
	94	32	46	—
	95	22	14	—
	96	18	37	—
	97	27	46	—
	98	26	41	—
	99	25	12	—
	100	34	31	—
	101	25	30	—
	102	27	38	—
	103	40	37	—
	104	32	18	—
	105	32	33	—
	106	31	26	—
	107	23	32	—
	108	22	19	—

第14表　グリッドピット一覧表(7)

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
J-7	109	23	15	—
	110	39	23	C
	111	38	22	C
	112	20	8	—
	113	34	20	—
	114	(38)	15	—
	115	(43)	18	—
	116	21	21	C
	117	32	33	C
	118	38	33	C
	119	24	25	—
	120	49	22	—
	121	25	12	—
	122	26	20	—
	123	26	42	—
	124	21	16	—
	125	54	66	—
	126	13	40	—
	127	33	22	C
	128	45	42	C
	129	30	15	—
	130	49	43	—
	131	11	24	—
	132	38	36	—
	133	15	6	—
	134	30	35	—
	135	42	29	C
	136	12	5	—
	137	30	19	—
	138	(45)	39	B
	139	28	18	—
	140	25	35	—
	141	25	10	—
	142	33	47	—
	143	43	27	—
	144	28	19	—
	145	35	23	—
	146	12	4	—
	147	16	11	—
	148	14	10	—
	149	17	7	—
	150	31	33	—
	151	40	50	—
	152	40	58	—
	153	30	—	C
	154	27	—	C
	155	17	—	—

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
J-7	156	25	50	—
	157	24	33	—
	158	25	37	—
	159	35	61	C
	160	28	45	—
	161	(19)	33	—
	162	18	14	—
	163	55	34	C
	164	20	26	C
	165	33	31	—
	166	27	14	C
	167	28	29	C
	168	31	26	—
	169	30	40	—
	170	36	27	C
	171	10	16	—
	172	41	19	C
	173	57	19	C
	174	23	27	C
	175	37	27	C
	176	25	47	C
	177	32	39	—
	178	26	33	—
J-8	1	88	8	—
	2	18	11	—
	3	28	13	—
	4	44	50	—
	5	41	58	—
	6	35	39	—
	7	28	21	—
	8	25	20	C
	9	28	2	C
	10	26	20	C
	11	31	4	C
	12	23	33	C
	13	16	34	C
	14	24	33	—
	15	23	24	C
	16	15	27	C
	17	20	26	C
	18	24	26	C
	19	22	22	C
	20	22	18	C
	21	24	27	—
	22	26	23	—
	23	16	21	—
	24	37	28	—

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
J-8	25	34	21	—
	26	26	34	—
	27	38	17	—
	28	30	24	—
	29	36	46	—
	30	(61)	99	—
	31	(24)	6	—
	32	(33)	8	—
	33	26	12	—
	34	19	6	—
	35	28	22	—
	36	28	16	—
	37	32	12	—
	38	23	18	—
	39	40	19	—
	40	28	17	—
	41	71	15	—
	42	32	20	—
	43	26	30	—
	44	26	28	—
	45	30	33	—
	46	27	48	—
	47	18	33	—
	48	60	33	—
	49	24	21	—
	50	24	20	—
K-7	1	19	8	—
	2	19	17	C
	3	28	35	B
	4	(48)	37	A
	5	33	26	A
	6	26	51	B
	7	23	38	B
	8	24	36	C
	9	(69)	16	C
	10	18	26	—
	11	21	17	—
	12	29	39	C
	13	29	34	C
	14	18	34	B
	15	16	22	—
	16	(22)	42	—
	17	(34)	21	—
	18	12	20	—
	19	35	32	—
	20	50	49	—
K-8	1	11	34	C

グリッド	番号	長径(cm)	深さ(cm)	分類
K-8	2	23	32	C
	3	31	38	C
	4	20	25	C
	5	25	34	C
	6	30	28	C
	7	15	32	C
	8	26	33	C
	9	29	29	C
	10	23	29	C
	11	14	36	C
	12	38	38	C
	13	27	43	B
	14	15	5	C
	15	25	41	C
	16	23	25	C
	17	25	20	—
	18	22	30	—
	19	53	20	C
	20	52	28	—
	21	24	27	C
	22	24	16	B
	23	30	14	B
	24	20	15	C
	25	21	33	C

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながたけいせき
書名	長竹遺跡Ⅱ
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第440集
編著者名	吉田　稔　渡辺清志
編集機関	公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369-0108　埼玉県熊谷市船木台４丁目４番地１　　TEL　0493-39-3955
発行年月日	西暦2018（平成30）年３月22日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
ながたけいせき 長竹遺跡 （第1･3･4次）	さいたまけんかぞしおお 埼玉県加須市大 あざおおごえあざひのくち 字大越字樋ノ口 620－1・702－1 ほか 他	11210	039	36°11′13″	139°36′50″	20101201～ 20110331 20120406～ 20130331 20130401～ 20131031	3,321	堤防建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長竹遺跡 （第1･3･4次）	集落跡	縄文時代	住居跡　29軒 掘立柱建物跡　3棟 土壙　68基 柱穴列　3基 埋甕　3基 焼土跡　25基 粘土塊　3箇所 ピット　1293基 遺物集中　6箇所	土器 土製品 石器 石製品 骨製品	縄文時代後・晩期に形成された環状盛土南側を調査した。盛土遺構の遺存状況は極めて良好であった。盛土の径は190ｍに及び、関東地方有数の規模である。第43号住居跡は一辺12ｍの「大形竪穴建物址」で床面が焼土で覆われていた。また多くの祭祀遺物が出土した。

要　約

長竹遺跡は利根川沿いの埋没台地上に立地し、縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。本書では縄文時代（第二面）後期から晩期にかけて形成された環状盛土遺構の南側から検出された遺構・遺物に関する報告書である。

盛土外径は想定190ｍにおよび、環の内側から外側に向かって形成されていた。環の内側の窪地は基盤土壌のローム層が削平されたような状況であった。後期前葉から晩期中葉にかけての遺構は、盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。住居跡のうち、開始期にあたる後期前葉では環のやや内側から１軒のみ検出され、後期中葉から後葉にかけては環の外側に拡張し、軒数も増加していた。各住居跡は、同一地点内での拡張建て替えが頻繁に行われ、床面のかさ上げも行われていた。

最大規模を誇る一辺12ｍ級の第43号住居跡は、後期後葉から晩期初頭まで継続して営まれた長期継続型の所謂「大形竪穴建物址」であった。最低２回の拡張建て替えを行っていた。最終段階では複数の炉跡が備えられ、床面が焼土で覆われていた。また、遺物は一般の住居跡とは異なり、装飾品や祭祀用具、狩猟用具等が主に壁寄りから出土した。

晩期に入ると規模が小形化し、軒数も減少していた。住居跡のプランは、後期前葉の円形から後期中葉の「Ｄ」字型へ変化し、さらに後期後葉前半の隅円方形、後葉後半から晩期前葉までの方形へ変化するなかで、晩期ではプランが崩れ、不整形で柱穴や入り口部の配置も規則的配置とならない住居跡が検出された。晩期中葉に入ると住居跡は検出されず、環の内側から検出された掘立柱建物跡や、円形柱穴列等が当該期の遺構として検出された。また、内縁側傾斜面から、多数の小形ピットが晩期包含層から掘り込まれて検出された。

土壙は住居跡が密集する地域よりやや環の内側から検出され、袋状で貯蔵穴が想定される土壙も検出された。また、土壙墓が３基検出された。北盛土で検出された土壙墓群の延長線上に位置していた。第277号土壙は長方形で壮年女性の全身骨格が仰臥伸展葬で検出された。頭位左上からは、晩期の注口土器が完形で置かれていた。

遺物は、縄文時代早期から晩期中葉にかけての膨大な量が出土し、祭祀遺物、狩猟用具、加工具、装身具、日用雑器等に至るまで幅広く出土した。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第440集

長 竹 遺 跡 Ⅱ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
（第１分冊）

平成30年３月14日　印刷
平成30年３月22日　発行

発行／公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108　埼玉県熊谷市船木台４丁目4番地１
電話　0493（39）3955
http://www.saimaibun.or.jp
印刷／巧和工芸印刷株式会社